

JP1 Version 10

JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console
設計・構築ガイド

手引・操作書

3021-3-282

JP1 *Version*
10

前書き

■ 対象製品

●JP1/IT Desktop Management 2 - Manager

P-2642-78A4 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 10-50

製品構成一覧および内訳形名

P-CC2642-7AA4 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 10-50（適用 OS：Windows Server 2012、Windows Server 2008、Windows Server 2003）

P-CC2642-7BA4 JP1/IT Desktop Management 2 - Agent 10-50（適用 OS：Windows 8.1、Windows 8、Windows Server 2012、Windows 7、Windows Server 2008、Windows Vista、Windows Server 2003、Windows XP）

P-CC2642-7CA4 JP1/IT Desktop Management 2 - Network Monitor 10-50（適用 OS：Windows 8.1 Enterprise、Windows 8.1 Pro、Windows 8 Enterprise、Windows 8 Pro、Windows Server 2012、Windows 7 Enterprise、Windows 7 Professional、Windows 7 Ultimate、Windows Server 2008、Windows Server 2003 (x86)）

P-CC2642-7DA4 JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console 10-50（適用 OS：Windows Server 2012、Windows Server 2008、Windows Server 2003）

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

Acrobat は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ActiveX は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe、および Reader は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

AMD Athlon は、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

AMD Opteron は、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

HP-UX は、Hewlett-Packard Development Company, L.P.のオペレーティングシステムの名称です。

HP Tru64 UNIX は、Hewlett-Packard Development Company, L.P.の商標です。

IBM、AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM、PowerPC は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Intel Xeon は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IRIX は、Silicon Graphics, Inc.の登録商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

ITIL(R)は、AXELOS Limited の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft .NET は、お客様、情報、システムおよびデバイスを繋ぐソフトウェアです。

Microsoft Office は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Office および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

MIPS は、米国 MIPS Computer Systems Inc.の会社名です。

MMX は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

NEWS-OS は、ソニー(株)の商品名称です。

Norton AntiVirus は、Symantec Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

ODBC は、米国 Microsoft Corporation が提唱するデータベースアクセス機構です。

OneDrive は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

PA-RISC は、Hewlett-Packard Development Company, L.P.の商標です。

Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

RSA および BSAFE は、米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標がついた製品は、米国 SkyDrive は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Symantec は、Symantec Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

本製品には、一般社団法人 ソフトウェア資産管理評価認定協会が著作権を有している部分が含まれています。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (<http://relaxngcc.sf.net/>).

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).



本製品は、米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE(R)ソフトウェアを搭載しています。



© 株式会社 日立製作所



■ マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

■ 発行

2014 年 12 月 3021-3-282

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2014, Hitachi, Ltd.

Copyright, patent, trademark, and other intellectual property rights related to the "TMEng.dll" file are owned exclusively by Trend Micro Incorporated.

はじめに

このマニュアルは、JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console（以降、Asset Console と略す）の構築に必要な検討事項やインストール・セットアップの手順について説明したものです。

■ 対象読者

このマニュアルは、Asset Console を使用した資産管理システムを構築するシステム管理者の方にお読みいただくことを前提に説明しています。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編、章と付録から構成されています。

第 1 編 設計編

第 1 章 設計の概要

Asset Console を使用した資産管理システムの設計作業の概要をつかむために、設計の流れと各設計工程の中で検討する項目について説明しています。

第 2 章 資産管理システムで実施する業務の検討

資産管理システムを設計するに当たって、資産管理システムでの実施業務の検討に必要な項目について説明しています。

第 3 章 運用方法の検討

資産管理システムを設計するに当たって、資産管理システムの運用方法の検討に必要な項目について説明しています。

第 4 章 システム構成の検討

資産管理システムのプログラム構成およびシステム構成例について説明しています。

第 2 編 構築編

第 5 章 インストールとセットアップ

Asset Console のインストールおよびアンインストールについて説明しています。また、Asset Console を使用するためのセットアップ方法についても説明しています。

第 6 章 他製品と連携した資産管理の実現

JP1/IM などの他製品と連携するための方法について説明しています。

第7章 CSVデータの登録と出力

CSVデータを資産管理データベースに登録する方法、および資産管理データベースの資産情報を出力する方法について説明しています。

第3編 システム定義編

第8章 Asset Console を使用するための基礎知識

Asset Console を使用するための基礎知識として必要な、資産管理データベースの仕組みおよび資産の状態管理について説明しています。

第9章 操作画面およびユーザ権限の変更

操作画面およびユーザ権限の変更方法について説明しています。

第10章 案件の定義

案件を使用した資産管理業務を実行するために、案件を定義する方法について説明しています。

第4編 トラブルシューティング編

第11章 トラブルシューティング

資産管理システムにトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

第12章 資産管理データベースのメンテナンス

資産管理データベースをメンテナンスする方法について説明しています。

第5編 リファレンス編

第13章 連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細

他システムから資産管理データベースに取り込んで業務に利用する情報について示しています。また、Asset Console で発行する JP1 イベントの詳細を一覧表で示しています。

第14章 管理情報の詳細

Asset Console の資産管理データベースで管理する、各クラスのプロパティの詳細について一覧表で示しています。また、業務メニュー「インポート」および「エクスポート」からのインポート、エクスポートの対象となる項目も一覧表で示しています。

付録A フォルダ構成

Asset Console をインストールしたあとの、フォルダ構成を一覧表で示しています。

付録B プロセス一覧

Asset Console のプロセスを一覧表で示しています。

付録 C 性能と見積もり

Asset Console が使用するメモリ所要量、ディスク占有量、および CPU 性能について説明しています。

付録 D 環境設定情報に対応するセクション名およびキー名

アクセス定義ファイルで処理を追加する場合に必要な、環境設定情報に対応するセクション名およびキー名を一覧表で示しています。

付録 E 資産管理サーバのリプレイスと設定変更

資産管理サーバをリプレイスする手順について説明しています。

付録 F 64 ビットの OS で Asset Console を使用する場合の注意事項

64 ビットの OS で Asset Console を使用する場合の注意事項について説明しています。

付録 G 監査ログの出力

監査ログの出力について説明しています。

付録 H このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明しています。

付録 I 用語解説

このマニュアルで使用する用語について説明しています。

目次

前書き	2
はじめに	6

第1編 設計編

1	設計の概要	20
1.1	設計の流れ	21
1.2	検討項目の一覧	22
1.2.1	管理対象の検討	22
1.2.2	運用方法の検討	22
1.2.3	システム構成の検討	23
2	資産管理システムで実施する業務の検討	24
2.1	管理対象の検討	25
2.1.1	機器を管理する	25
2.1.2	ソフトウェアを管理する	27
2.2	他製品と連携した資産管理システムの検討	30
2.2.1	JP1/IM と連携して問題点を管理する	30
2.2.2	EUR と連携して検索結果を PDF 形式で出力する	31
3	運用方法の検討	32
3.1	アクセス制限	33
3.1.1	ユーザ権限の種類	33
3.1.2	利用ユーザに対するアクセス制限の種類	33
3.1.3	組織階層単位でのアクセス制限の設定	34
3.2	資産情報の取得	37
3.2.1	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得する場合	37
3.2.2	CSV ファイルから取得する場合	38
3.2.3	管理情報の引き当て方法の設定	39
3.2.4	ソフトウェア名の割り当て方法の設定	43
3.3	資産管理者へのメール通知	45
3.3.1	期限切れ契約情報通知	45
3.3.2	ライセンス超過通知	47
3.3.3	許可外インストール通知	48
3.3.4	案件の到着通知	49

3.3.5	ハードウェア変更通知	49
3.4	クラスタシステムの導入	51
3.5	Active Directory 連携	53
3.5.1	ログイン認証	53
3.5.2	ユーザ組織情報の取得	55
4	システム構成の検討	56
4.1	プログラム構成	57
4.1.1	前提プログラム	58
4.1.2	関連プログラム	60
4.2	システム構成例	61
4.2.1	基本的なシステム構成	61
4.2.2	JP1/IM - Manager と連携したシステム構成	62
4.2.3	JP1/IM - Service Support と連携したシステム構成	63
4.2.4	EUR と連携したシステム構成	64
4.2.5	Active Directory と連携したシステム構成	65
4.2.6	クラスタシステムでのシステム構成	66

第2編 構築編

5	インストールとセットアップ	68
5.1	Asset Console のセットアップの流れ	69
5.1.1	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報を取得するために必要な作業の流れ	70
5.2	Asset Console のインストールとアンインストール	71
5.2.1	前提プログラムのインストール	71
5.2.2	Asset Console のインストール	71
5.2.3	Asset Console のアンインストール	75
5.3	資産管理サーバの設定	76
5.3.1	[サーバセットアップ] ダイアログでの設定	76
5.3.2	データベース情報の設定	78
5.3.3	セッション情報の設定	79
5.3.4	基本情報の設定	80
5.3.5	メール通知情報の設定	88
5.3.6	ディレクトリサーバ連携の設定	90
5.3.7	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報取得の設定	93
5.4	資産管理データベースの作成	95
5.4.1	資産管理データベースの作成手順	96
5.4.2	データベース容量の概算	99
5.5	データソースの作成	101
5.5.1	データソースの作成	102

5.6	仮想ディレクトリの設定	104
5.7	資産管理サーバで使用するサービスの設定	106
5.8	Microsoft Internet Information Services を使用する場合の設定	107
5.8.1	Web サーバの設定 (Microsoft Internet Information Services 6.0 の場合)	107
5.8.2	Web サーバの設定 (Microsoft Internet Information Services 7.0 以降の場合)	108
5.9	タスクスケジューラに登録されるタスクの設定	115
5.9.1	タスクの種類	115
5.9.2	タスクの設定手順	119
5.9.3	タスク「データメンテナンス (Asset Console)」で実施する作業の指定	121
5.9.4	契約期限を通知するタイミングの指定	129
5.9.5	ライセンスの集計結果を削除するタイミングの指定	129
5.9.6	削除する履歴情報の種類と履歴情報を削除するタイミングの指定	130
5.9.7	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報の取得	131
5.9.8	機器の情報の変更通知	131
5.10	メール通知を使用するための設定	133
5.10.1	SMTP 仮想サーバの実行	133
5.10.2	リモートドメインの追加	134
5.11	資産管理データベース運用上の注意	135
5.11.1	資産管理データベースに入力できる文字	135
5.11.2	データベースのメンテナンスに関する注意	135
5.12	クラスタシステムの環境構築手順	136
5.12.1	クラスタソフトのクラスタアドミニストレータによるグループ・リソース作成	136
5.12.2	Asset Console のフェールオーバー機能使用時の環境作成	136
5.12.3	Web ブラウザの接続先の指定	139
5.12.4	ファイアウォールを使用した環境での設定	139
5.12.5	フェールオーバー発生後の対処	139
5.12.6	クラスタシステムを使用する場合の注意事項	140
5.13	JP1/IT Desktop Management 2 の操作画面からの資産情報の操作を抑止する	142
6	他製品と連携した資産管理の実現	143
6.1	JP1/IM と連携するための設定	144
6.1.1	JP1/IM - Manager での自動アクションの設定	145
6.1.2	JP1 イベントを転送するための設定	148
6.1.3	発行する JP1 イベントの変更	148
6.1.4	JP1/IM からの資産情報の表示	149
6.2	JP1/IM - Service Support と連携するための設定	151
6.2.1	JP1/IM - Service Support からの資産情報の表示	151
6.3	EUR と連携するための設定	153
6.3.1	PDF ファイルの表示および印刷	153

7	CSV データの登録と出力 156
7.1	CSV データの登録（インポート） 157
7.1.1	インポートの流れ 157
7.1.2	インポート時の注意事項 160
7.1.3	jamCsvImport.bat の実行 162
7.1.4	jamimport コマンドでインポートする情報とクラスとの対応 164
7.1.5	jamimport コマンドでインポートするファイルの形式 173
7.1.6	データファイルの作成 175
7.1.7	データファイル名定義ファイルの作成 178
7.1.8	jamimport（インポート）コマンドの実行 180
7.2	CSV データの出力（エクスポート） 184
7.2.1	CSV データの出力方法の選択 184
7.2.2	エクスポートの流れ 185
7.2.3	jamCsvExport.bat の実行 186
7.2.4	データファイルの出力形式 188
7.2.5	データファイル名定義ファイルの作成 189
7.2.6	jamexport（エクスポート）コマンドの実行 191

第3編 システム定義編

8	Asset Console を使用するための基礎知識 195
8.1	資産管理データベース 196
8.1.1	資産管理データベースで管理するクラス 196
8.1.2	資産管理データベースで管理するプロパティ 197
8.1.3	アソシエーションの種類 198
8.2	資産の状態管理 201
9	操作画面およびユーザ権限の変更 203
9.1	ユーザ権限の変更（権限管理） 204
9.1.1	新しくユーザ権限を追加する 204
9.1.2	ユーザ権限の内容を変更する 205
9.1.3	ユーザ権限を削除する 205
9.2	管理項目の変更（管理項目編集） 207
9.2.1	管理対象の項目を変更する 208
9.2.2	管理項目の名称を変更する 208
9.2.3	管理項目を追加する 209
9.2.4	ボタンやタブなどの名称、表示を変更する 213
9.3	ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター） 216
9.3.1	書式を設定する 216
9.3.2	対象権限を設定する 222

9.3.3	使用するボタンを設定する	223
9.3.4	編集項目に表示する項目を設定する	223
9.3.5	検索条件に表示する項目を設定する	225
9.3.6	検索結果リストに表示する項目を設定する	226
9.3.7	書式を追加する	227
9.3.8	書式をコピーする	228
9.3.9	書式の名称を変更する	228
9.3.10	書式を削除する	229
9.4	実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て）	230
9.4.1	実行できる業務を変更する	230
9.4.2	業務メニューの名称を変更する	231
9.4.3	業務カテゴリを追加する	232
9.5	定型業務に合わせた操作画面の追加（ユーザレポート作成）	233
9.5.1	検索方法を選択する	234
9.5.2	検索対象のクラスを指定する	236
9.5.3	検索条件を定義する	236
9.5.4	出力項目を設定する	238
9.5.5	出力項目の並び順と表示幅を設定する	239
9.5.6	重複データを含むかどうかを選択する	240
9.5.7	プレビューで作成結果を確認する	240
9.5.8	作成したユーザレポートを登録する	240
9.5.9	クラスの結合方法の指定	242
9.5.10	ユーザレポートの削除	243
9.5.11	コマンドラインからの検索の実行	243
9.5.12	ユーザレポートの作成例	246
9.5.13	ユーザレポートの実行例	252
9.6	変更履歴として取得する項目の選択（変更履歴取得項目）	254

10 案件の定義 256

10.1	案件定義の概要	257
10.1.1	定義する項目と流れ	257
10.1.2	案件を使用した業務を設計する	260
10.1.3	定義時の注意事項	261
10.2	案件を処理する権限を定義する（職権管理）	262
10.2.1	新しく職権を追加する	262
10.2.2	職権の内容を変更する	263
10.2.3	職権を削除する	265
10.3	ルートを定義する（Flow Designer）	266
10.3.1	Flow Designer の各部の名称と使い方	266

10.3.2	作業や処理を配置する	268
10.3.3	管理ノードに職権を設定する	269
10.4	案件画面を定義する (Form Designer)	271
10.4.1	Form Designer の各部の名称と使い方	271
10.4.2	ウィンドウを定義する	273
10.4.3	オブジェクトを挿入する	275
10.4.4	オブジェクトのスタイルや位置をそろえる	290
10.4.5	テーブルを定義する (Table Designer)	291
10.4.6	案件画面の定義例	296
10.5	各管理ノードの作業を定義する (Activity Designer)	297
10.5.1	Activity Designer の各部の名称と使い方	297
10.5.2	実行タスクを選択する	299
10.5.3	実行タスクの順番を設定する	305
10.5.4	管理項目に引き当てる情報を設定する	306
10.5.5	アクティビティの定義例	310
10.6	案件処理オプションを設定する (Flow Designer)	316
10.6.1	処理期限を設定する	316
10.6.2	メール送信を選択する	316
10.7	登録された案件を変更する	319
10.7.1	案件名を変更する	319
10.7.2	案件を公開または公開停止にする	319
10.7.3	案件の定義内容を変更する	320
10.7.4	案件を削除する	320
10.8	FAQ (案件の定義)	321
10.8.1	[メール編集] ボタンと [処理期限設定] ボタンが非活性のため選択できない	321
10.8.2	Flow Designer で作成するメールの本文を、各ノードで変更したい	321
10.8.3	案件のカテゴリを追加・変更したい	321
10.8.4	案件のルートの途中で中断できるようにしたい	321
10.8.5	処理期限を設定した案件が、期限を過ぎたらどうなるのか	322
10.8.6	通常のアクティビティと完了アクティビティの違いとは	322
10.8.7	Form Designer でオブジェクトの属性を統一したい	322
10.8.8	Form Designer でオブジェクトの位置をきれいにそろえたい	322
10.8.9	Form Designer で [新規案件] ボタンに案件名を指定したが、[新規案件選択] ダイアログに表示されない	322
10.8.10	ルートの途中の管理ノードで追加したテキストフィールドなどのオブジェクトを、その後の管理ノードに表示させたい	323
10.8.11	Form Designer で [新規案件] ボタンを定義したが、指定したい実行案件が表示されない	323
10.8.12	Form Designer で案件画面を編集したが、[登録] ボタンが非活性のため登録できない	323
10.8.13	最後のノードに対してアクティビティを定義しないとどうなるか	323

- 10.8.14 標準で提供されている案件の、「申請」、「承認」、「配布依頼」、「完了」のアクティビティに何も定義されていない 323
- 10.8.15 案件を削除しようとしたが、メッセージが表示されて削除できない 324

第4編 トラブルシューティング編

11 トラブルシューティング 325

- 11.1 トラブルシューティングの流れ 326
- 11.2 トラブル情報の取得 328
- 11.3 トラブル要因の特定 329
 - 11.3.1 トラブル要因の特定方法 329
 - 11.3.2 メッセージの確認 329
 - 11.3.3 メッセージの見方 330
 - 11.3.4 トラブル発生後に制限される機能 332
- 11.4 資産管理システムのトランザクション 335
 - 11.4.1 Web ブラウザ実行時のトランザクション 335
 - 11.4.2 コマンド実行時のトランザクション 335
- 11.5 Asset Console のトラブルの主な要因と対処 336
 - 11.5.1 資産管理サーバ設定時のトラブル 336
 - 11.5.2 資産管理データベース作成時のトラブル 336
 - 11.5.3 Asset Console へのログイン時のトラブル 337
 - 11.5.4 Asset Console 操作時のトラブル 339
 - 11.5.5 Web サービス拡張「jp1asset」の再作成 340
 - 11.5.6 仮想ディレクトリの再設定 342
- 11.6 Web サーバのトラブルの主な要因と対処 343
- 11.7 DBMS のトラブルの主な要因と対処 344
 - 11.7.1 DBMS のトラブル 344
- 11.8 Web ブラウザのトラブルの主な要因と対処 349
 - 11.8.1 Web ブラウザが異常終了しているかまたはハングアップしている 349
 - 11.8.2 通信上のトラブルが発生している 349
 - 11.8.3 GUI が正しく表示されない 350
 - 11.8.4 ログイン画面が表示できない 351
 - 11.8.5 ログインできない 351
 - 11.8.6 ファイルをダウンロードできない 351
 - 11.8.7 検索結果が表示できない 352
 - 11.8.8 アンカーやボタンをクリックすると、空のウィンドウが表示される 352
 - 11.8.9 PDF が出力されない 352
 - 11.8.10 Windows Internet Explorer がタイムアウトする 352
 - 11.8.11 プロセス間でセッションが共有される 352
- 11.9 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager との連携時のトラブルの主な要因と対処 354

11.10	JP1/IM 製品との連携時のトラブルの主な要因と対処	356
11.10.1	JP1/IM との連携時のトラブル	356
11.10.2	JP1/IM - Service Support との連携時のトラブル	356
11.11	トラブルの回復	358
11.11.1	Asset Console のトラブル発生時の回復方法	358
11.11.2	資産管理サーバのトラブル発生時の回復方法	358
11.11.3	DBMS のトラブル発生時の回復方法	358
11.11.4	Web ブラウザのトラブル発生時の回復方法	359
11.11.5	コマンド実行中のトラブル発生時の回復方法	359
12	資産管理データベースのメンテナンス	360
12.1	バックアップおよびリストア	361
12.1.1	CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア	361
12.1.2	資産管理データベースのバックアップとリストア	365
12.1.3	アップロードしたファイルのバックアップおよびリストア	370
12.1.4	レジストリのバックアップおよびリストア	370
12.2	資産管理データベースの再編成	372
12.2.1	[データベースマネージャ] ダイアログからの資産管理データベースの再編成	373
12.2.2	コマンドでの資産管理データベースの再編成	374
12.2.3	データベース再編成の実行監視時間の設定	375
12.3	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のデータベースをリストアするときの注意事項	377

第5編 リファレンス編

13	連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細	378
13.1	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得できる管理情報	379
13.1.1	資産情報として取得できる情報	384
13.1.2	ハードウェア資産情報として取得できる情報	386
13.1.3	IP アドレス管理情報として取得できる情報	388
13.1.4	ネットワーク情報として取得できる情報	388
13.1.5	インストールソフトウェア情報として取得できる情報	390
13.1.6	インストールソフトウェアリストとして取得できる情報	390
13.1.7	パッチ情報として取得できる情報	391
13.1.8	パッチリストとして取得できる情報	392
13.1.9	ウィルス定義情報として取得できる情報	392
13.1.10	部署情報として登録できる情報	393
13.1.11	設置場所情報として登録できる情報	394
13.2	Asset Console から発行する JP1 イベントの詳細	395
13.2.1	各イベントの属性	395
13.2.2	問題点状態変更イベントのユーザ拡張エリアの設定	402

14	管理情報の詳細	403
14.1	クラス構成	404
14.1.1	オブジェクトクラス	404
14.1.2	アソシエーションクラス	406
14.1.3	クラス関連図	407
14.1.4	プロパティの値を表すデータ型	408
14.2	オブジェクトクラスのプロパティ一覧	410
14.2.1	AddressGroup (IP グループ情報)	410
14.2.2	AssetInfo (資産情報)	412
14.2.3	AssetUpdateRecord (移管履歴)	419
14.2.4	Contract (契約情報)	420
14.2.5	ContractAssetHistory (契約資産履歴)	423
14.2.6	ContractCatalog (契約会社カタログ)	423
14.2.7	ContractHistory (契約履歴)	425
14.2.8	DivisionInfo (分掌情報)	426
14.2.9	GroupInfo (部署情報)	427
14.2.10	HardwareInfo (ハードウェア資産情報)	429
14.2.11	InstalledInfo (インストールソフトウェア情報)	438
14.2.12	InstalledList (インストールソフトウェアリスト)	440
14.2.13	InstalledUpdateRecord (ソフトウェア変更履歴)	443
14.2.14	InstalledVirusDefInfo (ウィルス定義情報)	444
14.2.15	IPAddress (IP アドレス管理情報)	445
14.2.16	JobRoleInfo (職権管理情報)	446
14.2.17	LicenseInfo (ライセンス情報)	447
14.2.18	LocationInfo (設置場所情報)	450
14.2.19	MachineCatalog (機器カタログ)	452
14.2.20	Maintenance (保守履歴)	457
14.2.21	NetworkInfo (ネットワーク情報)	460
14.2.22	PatchInfo (パッチ情報)	462
14.2.23	PatchList (パッチリスト)	463
14.2.24	RelationAssetInfo (関連資産情報)	464
14.2.25	RoleInfo (権限管理情報)	465
14.2.26	SoftwareInfo (ソフトウェア資産情報)	466
14.2.27	SoftwareKeyInfo (ソフトウェアキー情報)	467
14.2.28	SoftwareList (ソフトウェアリスト)	469
14.2.29	UpdateRecord (変更履歴)	472
14.2.30	UserInfo (ユーザ管理情報)	473
14.2.31	VolumeContract (ボリューム契約情報)	474
14.3	アソシエーションクラスのプロパティ一覧	478

14.3.1	AuthorityLink (ユーザ情報と権限情報)	478
14.3.2	ContractLeaseLink (リース契約と資産情報)	478
14.3.3	ContractMaintenanceLink (保守契約と資産情報)	478
14.3.4	ContractRentalLink (レンタル契約と資産情報)	479
14.3.5	DivisionLink (分掌情報と部署情報)	479
14.3.6	DivisionUserLink (分掌情報とユーザ情報)	479
14.3.7	IPAddressLink (IP アドレスの状態管理)	480
14.3.8	JobRoleLink (ユーザ情報と職権情報)	480
14.3.9	MachinePermitLink (資産情報とソフトウェアキー情報)	480
14.3.10	MemberLink (ユーザ情報と部署情報)	480
14.3.11	RelationAssetLink (資産情報と関連資産情報)	481
14.3.12	UserPermitLink (ユーザ情報とソフトウェアキー情報)	481
14.3.13	VolumeContractLink (ボリューム契約と資産情報)	481
14.4	業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目	482
14.4.1	資産種別「機器に関する情報」で対象となる項目	484
14.4.2	資産種別「インストールソフトウェア情報」で対象となる項目	490
14.4.3	資産種別「インストールソフトウェアリスト」で対象となる項目	491
14.4.4	資産種別「ソフトウェア情報」で対象となる項目	492
14.4.5	資産種別「ソフトウェアリスト」で対象となる項目	495
14.4.6	資産種別「組織管理情報」で対象となる項目	496
14.4.7	資産種別「ユーザ管理情報」で対象となる項目	497
14.4.8	資産種別「設置場所情報」で対象となる項目	498
14.4.9	資産種別「保守契約情報」で対象となる項目	499
14.4.10	資産種別「レンタル契約情報」で対象となる項目	500
14.4.11	資産種別「リース契約情報」で対象となる項目	501
14.4.12	資産種別「ボリューム契約」で対象となる項目	503
14.4.13	資産種別「IP グループ情報」で対象となる項目	504
14.4.14	資産種別「機器カタログ」で対象となる項目	505
14.4.15	資産種別「問題点管理」で対象となる項目	507
14.4.16	資産種別「ライセンス割り当て」で対象となる項目	508
14.4.17	資産種別「パッチ情報」で対象となる項目	509
14.4.18	資産種別「ウィルス定義情報」で対象となる項目	510
14.4.19	資産種別「関連資産情報」で対象となる項目	510
14.4.20	資産種別「分掌情報」で対象となる項目	510
14.4.21	資産種別「分掌割り当て」で対象となる項目	511

付録 512

付録 A	フォルダ構成	513
付録 A.1	Asset Console のフォルダ構成	513

付録 A.2	資産管理サーバの仮想ディレクトリのフォルダ構成	514
付録 B	プロセス一覧	515
付録 C	性能と見積もり	516
付録 C.1	メモリ所要量	516
付録 C.2	ディスク占有量	516
付録 C.3	CPU 性能	519
付録 D	環境設定情報に対応するセクション名およびキー名	520
付録 E	資産管理サーバのリプレイスと設定変更	525
付録 E.1	資産管理サーバをリプレイスする	525
付録 E.2	データベースのサイズの変更	526
付録 E.3	データベースのホスト名の変更	526
付録 E.4	データベースの開始および停止	527
付録 F	64 ビットの OS で Asset Console を使用する場合の注意事項	530
付録 F.1	64 ビットの OS に Asset Console をインストールする場合の注意事項	530
付録 F.2	64 ビットの OS でコマンドやタスクを実行する場合の注意事項	531
付録 G	監査ログの出力	532
付録 G.1	監査ログに出力される事象の種別	532
付録 G.2	監査ログの保存形式	533
付録 G.3	監査ログの出力形式	533
付録 G.4	監査ログメッセージと関連出力項目	537
付録 G.5	監査ログを出力するための設定	544
付録 H	このマニュアルの参考情報	545
付録 H.1	関連マニュアル	545
付録 H.2	このマニュアルでの表記	546
付録 H.3	このマニュアルで使用する英略語	548
付録 H.4	このマニュアルで使用している書式について	550
付録 H.5	オンラインヘルプについて	551
付録 H.6	KB (キロバイト) などの単位表記について	552
付録 I	用語解説	553

索引| 566

1

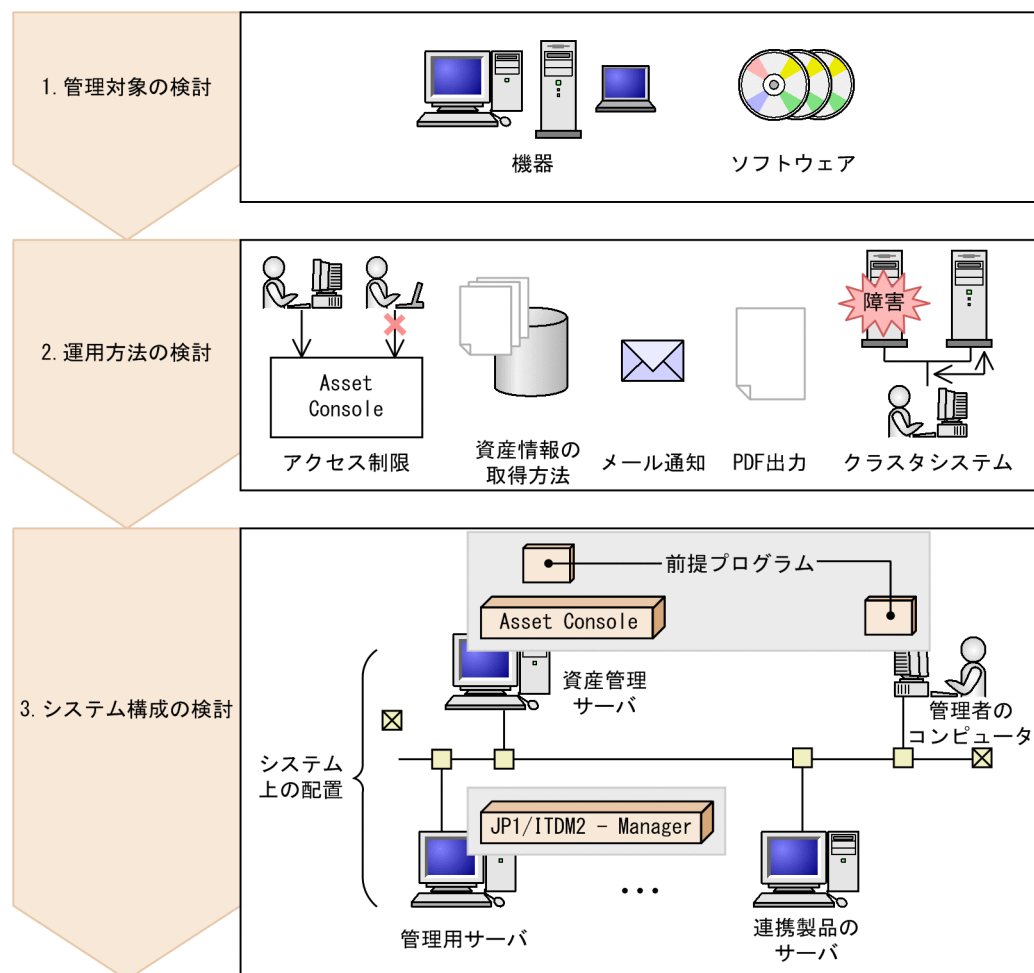
設計の概要

この章では、Asset Console を使用した資産管理システムの設計作業の概要をつかむために、設計の流れと各設計工程の中で検討する項目について説明します。

1.1 設計の流れ

Asset Console を使用した資産管理システムを設計する流れを次の図に示します。

図 1-1 設計の流れ



1. Asset Console を使用してどのような業務を実行したいかを検討する。

管理対象と管理する情報の種類を、業務に合わせて決定します。また、目的の業務を実行するために、他製品との連携が必要かどうかを決定します。

2. 資産管理システムをどのように運用するかを検討する。

アクセス制限、資産情報の取得方法、メール通知の有無など、日々の運用の方法を決定します。

3. システム構成を検討する。

手順 1. と手順 2. で決めた内容を基に、必要なプログラムと、システム上の配置を決定します。

1.2 検討項目の一覧

Asset Console を使用した資産管理システムを設計するために、検討する項目について説明します。設計時に検討する項目の概要を把握するために役立ててください。必要な項目があった場合は、() 内に示した個所の説明を参照して、使用するかどうかを決定してください。

1.2.1 管理対象の検討

管理対象を決定し、各対象のどのような情報を管理するかを検討します。各個条書きの () 内には、詳細説明の参照先を示します。

- 機器を管理する
 - PC、ディスプレイ、プリンタ、HUB など、機器の種別 (→[2.1.1\(1\)](#))
 - 部署、契約、問題点など、機器に関連づけて管理する情報 (→[2.1.1\(2\)](#))
- ソフトウェアを管理する
 - シェアウェア、フリーウェアなど、ソフトウェアの種別 (→[2.1.2\(1\)](#))
 - ライセンス利用数、ライセンス形態の詳細内容、稼働時間など、ソフトウェアに関連づけて管理する情報 (→[2.1.2\(2\)](#))

1.2.2 運用方法の検討

資産管理システムをどのように運用するかを検討します。各個条書きの () 内には、詳細説明の参照先を示します。

- アクセス制限を設定する
 - ユーザ権限の種類 (→[3.1.1](#))
 - ログイン時の制限、組織階層での制限、使用できるメニューの制限など、アクセス制限の種類 (→[3.1.2](#))
- 資産情報の取得方法を選択する
 - JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得する (→[3.2.1](#))
 - CSV ファイルから取得する (→[3.2.2](#))
- メール通知を使用する
期限切れ間近の契約、ライセンス超過など、メールで通知する種類 (→[3.3](#))
- 検索結果を PDF ファイルに出力する
検索結果の帳票出力が必要かどうか (→[2.2.2](#))
- クラスタシステムに導入する

1.2.3 システム構成の検討

使用するプログラムを選択して、システム構成を検討します。各個条書きの () 内には、詳細説明の参照先を示します。

- 資産管理サーバの前提プログラム

必須

- Windows Server 2012、Windows Server 2008、Windows Server 2003 など、使用する OS の種類 (→4.1.1(1))
- 使用する Web サーバ (Microsoft Internet Information Services) のバージョン (→4.1.1(1))

任意

- メール通知を使用するかどうか (→4.1.1(3))
- Active Directory を使用してユーザ認証するかどうか (→4.1.1(5))
- 管理者のコンピュータの前提プログラム
 - 前提とする Web ブラウザ (→4.1.1(2))
- Asset Console のコンポーネント
 - 資産管理サーバの配置 (→4.2.1)
- 他製品と連携する
 - 連携できる製品の種類 (→4.1.1、4.1.2)

2

資産管理システムで実施する業務の検討

この章では、資産管理システムを設計するに当たって、資産管理システムでの実施業務の検討に必要な項目について説明します。

2.1 管理対象の検討

Asset Console を使用した資産管理システムを設計するに当たって、まず資産管理システムでの管理対象を検討します。Asset Console では、機器およびソフトウェアを管理できます。

この節では、各管理対象について、どのような情報を管理できるかを説明します。

管理対象の情報を検討するに当たって

- 管理対象の主な情報は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携することで取得できます。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で収集した情報を資産管理データベースに取り込んで利用する場合は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 側で収集している情報を基に、資産管理データベースで管理する対象を検討してください。JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得できる情報の詳細については、「[13.1 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得できる管理情報](#)」を参照してください。

- JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で収集していない情報、および JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 以外の情報を資産管理データベースに登録して管理するには、次の方法があります。
 - 機器やソフトウェアの情報を一つずつ登録する方法
 - CSV ファイルから情報を取得してインポートする方法

機器やソフトウェアの情報を新規に登録する方法は、マニュアル「運用ガイド」の「[2.1.4 機器情報を登録する（新規機器登録）](#)」、および「[2.4.5 ライセンスを追加する（新規ソフトウェア登録）](#)」を参照してください。

資産情報の取得方法については、「[3.2 資産情報の取得](#)」を参照してください。

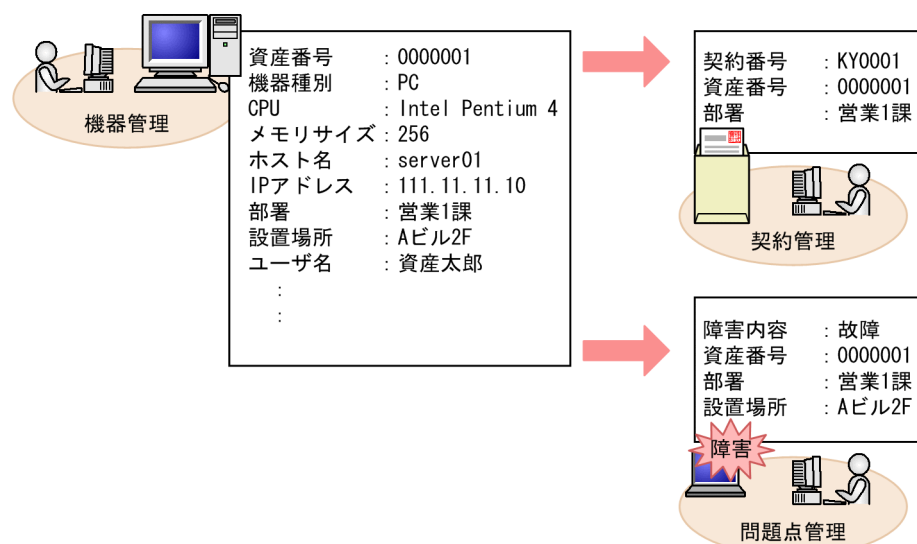
2.1.1 機器を管理する

Asset Console では、ネットワーク上の機器を一括して管理できます。ここでは、管理できる機器の種別と機器と関連づけて管理できる情報の種類について説明します。

機器の種別および関連情報は、機器の属性情報として棚卸に使用するだけでなく、契約情報と併せて管理して、トラブル発生時の対処など、さまざまな業務に利用できます。そのため、どこまで管理するかを検討して、必要な情報を決定してください。

機器の属性情報を契約管理、問題点管理で利用する場合を例に、機器の情報をさまざまな業務で利用する概念を次の図に示します。

図 2-1 機器の情報をさまざまな業務で利用する概念



(1) 機器の種別

機器の種別は、システム装置、拡張装置、ネットワーク装置の三つの種別に分類されて、それぞれさらに詳細に分類できます。デフォルトで用意されている機器の種別を次に示します。

機器種別	詳細分類
システム装置	<ul style="list-style-type: none"> • PC • PC サーバ • UNIX • UNIX サーバ • スマートデバイス • その他システム装置
拡張装置	<ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイ • HD • CD-R • CD-R/W • DVD • DAT • MO • プリンタ • 周辺装置 • USB デバイス • ストレージ
ネットワーク装置	<ul style="list-style-type: none"> • HUB • ルータ • ネットワークプリンタ • ネットワーク装置

機器の種別を詳細に管理することによって、機器管理業務で目的の機器をすばやく検索できるだけでなく、契約管理やライセンス管理でも役立ちます。また、保守履歴情報を予防保守に利用する際、セキュリティ対策を徹底する際にも役立ちます。

機器の種別は、不要な種別を管理対象から削除したり、必要な種別を追加したりできます。デフォルトの種別を変更する方法については、マニュアル「運用ガイド」の「4.8 種別や状態を追加および変更する（コード管理）」を参照してください。

(2) 機器に関連づける情報

Asset Console では、部署および設置場所などの情報を機器と関連づけて管理することで、効率良く機器管理を実行できます。機器と関連づけて管理できる情報を次に示します。

- **部署、利用者、設置場所**

機器を使用している部署、機器の利用者、および機器の設置場所を管理できます。部署、利用者、および設置場所は、機器の棚卸、障害発生時の迅速な対処など、機器管理のすべての業務に利用できます。部署、利用者、設置場所の情報は、操作画面から登録することはもちろん、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得したり、IP アドレスから対応する部署や設置場所を自動的に設定したりすることもできます。

- **契約情報**

機器の保守、リースおよびレンタルの契約内容を管理できます。契約情報を登録することで、契約対象の機器と関連づけて管理できます。

- **問題点**

機器に障害が発生した場合など、障害内容を問題点として登録して管理できます。同機種の問題点に対策内容を役立てたり、機器の購入や交換の業務に利用したりできます。

また、JP1/IM の JP1 イベントを登録して、資産管理システム上の問題点を共有することもできます。JP1/IM との連携については、「[2.2.1 JP1/IM と連携して問題点を管理する](#)」を参照してください。

- **ネットワーク情報**

IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどのネットワーク情報と関連づけて管理できます。

- **関連機器**

機器同士を親子関係として管理できます。関連づけたい機器を検索し、関連機器として登録することで、当該機器に関連する機器を容易に把握できます。

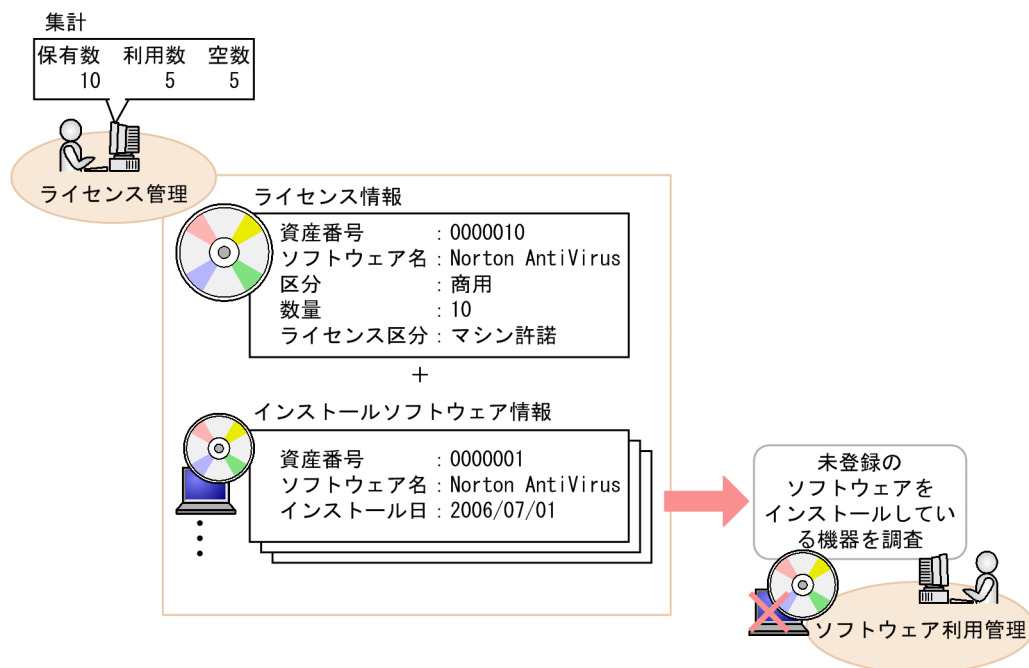
2.1.2 ソフトウェアを管理する

Asset Console では、機器にインストールされているソフトウェアと保有しているライセンスを管理できます。ここでは、管理できるソフトウェアの種別とソフトウェアに関する情報について説明します。機器にインストールされているソフトウェアの情報は、ライセンスの利用数を確認するだけでなく、ウィルス対策の徹底、不正利用の防止など、さまざまな業務に利用できます。また、ライセンス区分に合わせて割

り当て先を管理することもできます。そのため、どこまで管理するかを検討して、必要な情報を決定してください。

機器にインストールされているソフトウェアの情報を、ソフトウェア利用管理で利用する場合を例に、ソフトウェアの情報をさまざまな業務で利用する概念を次の図に示します。

図 2-2 ソフトウェアの情報をさまざまな業務で利用する概念



(1) ソフトウェアの種別

ソフトウェアの種別は、商用、シェアウェア、フリーウェアの三つの種別に分類できます。また、不要な種別を管理対象から削除したり、必要な種別を追加したりもできます。デフォルトの種別を変更する方法については、マニュアル「運用ガイド」の「4.8 種別や状態を追加および変更する（コード管理）」を参照してください。

(2) 管理する情報

ソフトウェアに関する情報には、大きく分けて購入したライセンスに関する情報、機器にインストールされているソフトウェアに関する情報の二つがあります。この二つを組み合わせるとライセンスの保有数と利用数を比較したり、不正インストールを検出したりできます。管理できるソフトウェアに関する情報を次に示します。

• ライセンスに関する情報

• ライセンス保有数

ソフトウェアのライセンス数を管理できます。

• ライセンス情報

ライセンス区分（マシン許諾、ユーザ許諾）、ダウングレードの可否、アップグレード保証の有無など、詳細なオプションの情報まで一括して管理できます。

- **ライセンスキーと割り当て先**

ライセンスキーとライセンスの割り当て先を対応づけて、どのライセンスをどの機器（または利用者）が使用しているかを管理できます。

- **機器にインストールされているソフトウェアに関する情報**

- **ライセンス利用数**

機器にインストールされているソフトウェアの名称、バージョン、ファイル名などを管理できます。

- **パッチ情報**

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のシステム情報を取得して、機器にインストールされているパッチの情報を管理できます。この情報を基に、最新のパッチが適用されているかを確認できます。

- **ウィルス定義情報**

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のウィルス対策製品情報を取得して、機器にインストールされているウィルス定義ファイルの情報を管理できます。この情報を基に、最新のウィルス定義ファイルがインストールされているかを確認できます。

2.2 他製品と連携した資産管理システムの検討

Asset Console は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 以外にもさまざまな製品と連携して、統合的な資産管理システムを構築できます。すでに導入している製品がある場合は、Asset Console と連携させるかどうかを検討してください。また、導入していない製品の場合は、業務目的に合わせて必要かどうかを検討してください。

ここでは、他製品と連携して拡張できる機能について説明します。

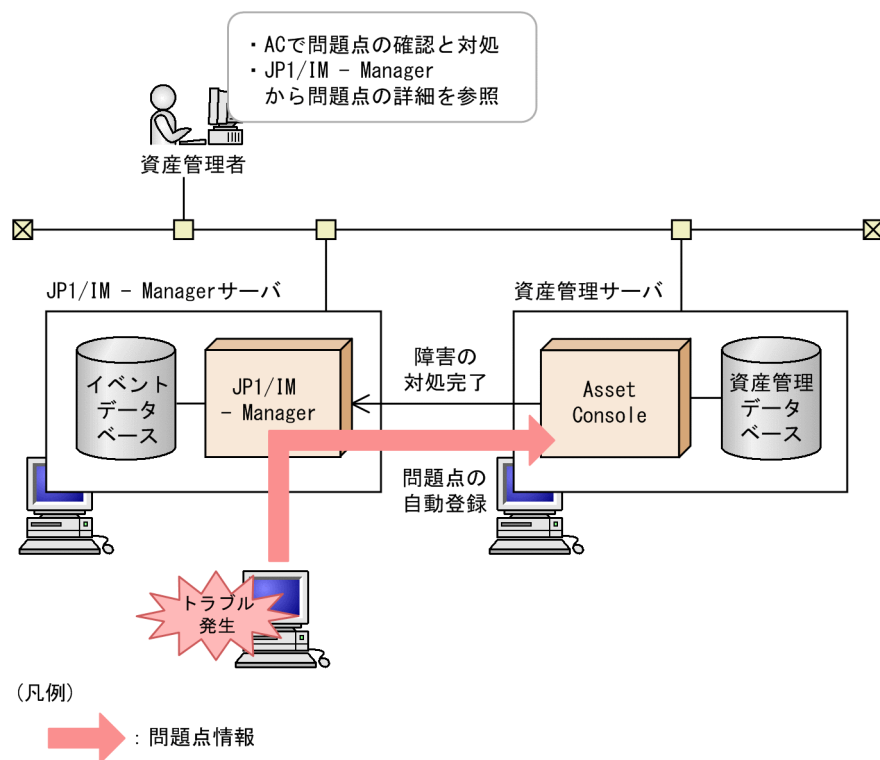
2.2.1 JP1/IM と連携して問題点を管理する

JP1/IM で取得した資産管理システム上の問題点を、資産管理データベースに登録して管理できます。JP1/IM と連携することで実現できる資産管理業務を説明します。

JP1/IM と連携することで、JP1 イベントおよび SNMP トラップの情報を基に、資産管理システム上の問題点を自動登録できます。また、JP1/IM から問題点の確認ができます。問題点の対処内容を管理することで、予防保守に役立ちます。

JP1/IM と連携することで実現できる資産管理業務を次の図に示します。

図 2-3 JP1/IM と連携した資産管理業務



- JP1/IM で取得した JP1 イベントおよび SNMP トラップの情報を基に、資産管理システム上の問題点を確認・対処する

業務メニュー「問題点一覧」で、JP1/IM - Manager で収集した問題点情報を参照できます。また、JP1/IM - Manager に対処が完了したことを通知して、問題点情報の状態を対処済みに変更できます。

- **JP1/IM から問題点の詳細情報を表示する**

JP1/IM - Manager の [イベントコンソール] 画面で、Asset Console で発行した JP1 イベント（問題点に対する対処完了の通知）から、Asset Console で登録した問題点の詳細情報を参照できます。

JP1/IM との連携で発行される Asset Console の JP1 イベントの詳細については、「[13.2 Asset Console から発行する JP1 イベントの詳細](#)」を参照してください。

2.2.2 EUR と連携して検索結果を PDF 形式で出力する

EUR は、表形式のデータを入力して帳票を印刷するプログラムです。難しいプログラム作成をすることなく帳票を設計できるように、さまざまな機能を提供しています。Asset Console では、EUR と連携して、Asset Console で検索したデータを、PDF ファイルの帳票として表示・印刷できます。検索したデータは、バーコードとして表示するように EUR で設定できるため、保有機器一覧で検索した資産番号をバーコードとして棚卸に利用できます。また、バーコードをシールに印刷して、管理対象の機器にはり付けられます。PDF 形式で検索結果を出力できるのは、次の情報です。出力用のボタンは、デフォルトで表示されるように設定されています。

- 保有機器一覧
- 契約一覧
- 問題点詳細
- 保有ライセンス利用機器一覧
- 超過ライセンス利用機器一覧
- 不正利用ライセンス利用機器一覧
- 未登録ソフトウェア利用機器一覧
- 保有ソフトウェア一覧
- ソフトウェア資産詳細
- ボリューム契約一覧
- ボリューム契約詳細
- 保守履歴情報詳細
- ユーザレポート

3

運用方法の検討

この章では、資産管理システムを設計するに当たって、資産管理システムの運用方法の検討に必要な項目について説明します。

3.1 アクセス制限

資産情報には、機器やソフトウェアの種類、名称、登録日などの情報だけではなく、保守契約の情報などの、限られたユーザだけが編集できるように設定したい情報があります。このような場合は、資産情報を使用するユーザに権限を設定することで使用範囲を制限できます。

また、各部署のシステム管理者には、管理する範囲の資産情報だけを扱えるようにするという場合も、ユーザ権限を設定することで、所属する組織階層に応じて使用範囲を制限できます。

この節では、Asset Console で設定できるアクセス制限について説明します。

3.1.1 ユーザ権限の種類

Asset Console のユーザ権限には、「管理者」と「利用者」があります。次にそれぞれについて説明します。

管理者

資産管理部署（情報システム管理部門）の機器管理やネットワーク管理の担当者のことです。

資産管理システム全体にかかわる設定を変更したり、管理する資産情報を取捨選択したりする権限を持っています。

Asset Console をインストールすると作成される資産管理者（ユーザ ID 「admin」）は、この権限を持っています。

利用者

各部署での機器管理担当者やネットワーク管理者、および一般ユーザのことです。利用者は、資産管理システムで管理している情報を利用して、各種の資産管理業務を実行できますが、権限に応じて実行できる業務を割り当てる操作はできません。

なお、ユーザ権限の内容は必要に応じて変更できます。また、新しくユーザ権限を作成することもできます。ユーザ権限の変更方法については、「[9.1 ユーザ権限の変更（権限管理）](#)」を参照してください。

3.1.2 利用ユーザに対するアクセス制限の種類

ここでは、ユーザ権限に応じて、Asset Console を利用するユーザに対して設定できるアクセス制限について説明します。

- **Asset Console へのログインの可否**

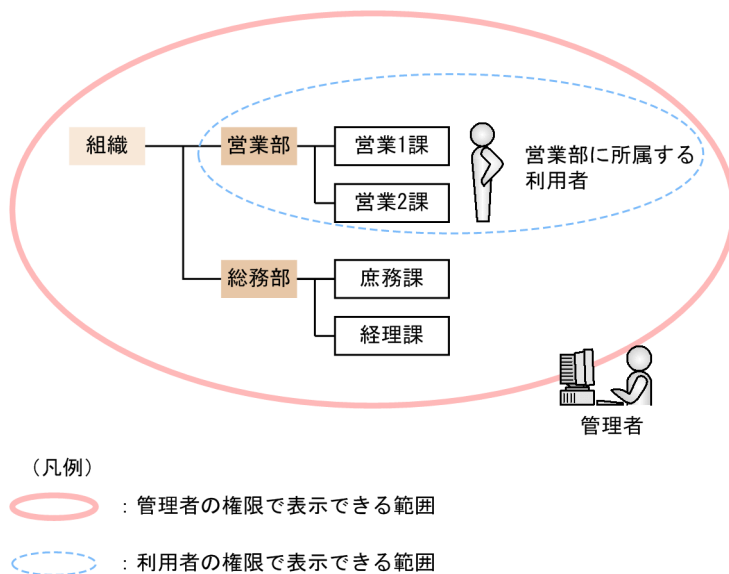
Asset Console を利用できるようにするには、利用するユーザを登録し、各ユーザにユーザ権限を設定します。これによって、Asset Console にログインできるようになります。

資産管理システムの構築時は、管理者用のユーザ（ユーザ ID およびパスワード 「admin」）が登録されています。

- **組織階層単位でのアクセス制限**

ユーザの権限に応じて、ユーザが扱える資産情報を、組織階層単位に制限します。組織階層単位でのアクセス制限の概要を次の図に示します。

図 3-1 組織階層単位でのアクセス制限



組織階層単位でのアクセス制限は、ユーザ権限に、資産情報を扱える範囲の組織階層（管理ラベル）を指定することで行います。

各ユーザ権限に管理ラベルを指定する方法については、「[3.1.3 組織階層単位でのアクセス制限の設定](#)」を参照してください。

• 操作画面から実行できる機能の制限

ユーザ権限ごとに操作画面に表示される項目やボタンを制限して、権限に応じた操作画面に設定できます。

ユーザ権限ごとに、操作画面から実行できる機能を制限する方法については、「[9.3 ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター）](#)」を参照してください。

また、デフォルトでは非表示になっているボタンを表示して、業務フィルターでの設定と併せて利用することもできます。デフォルトでは非表示になっているボタンの種類については、「[9.2.4 ボタンやタブなどの名称、表示を変更する](#)」を参照してください。

• 利用できるメニューの制限

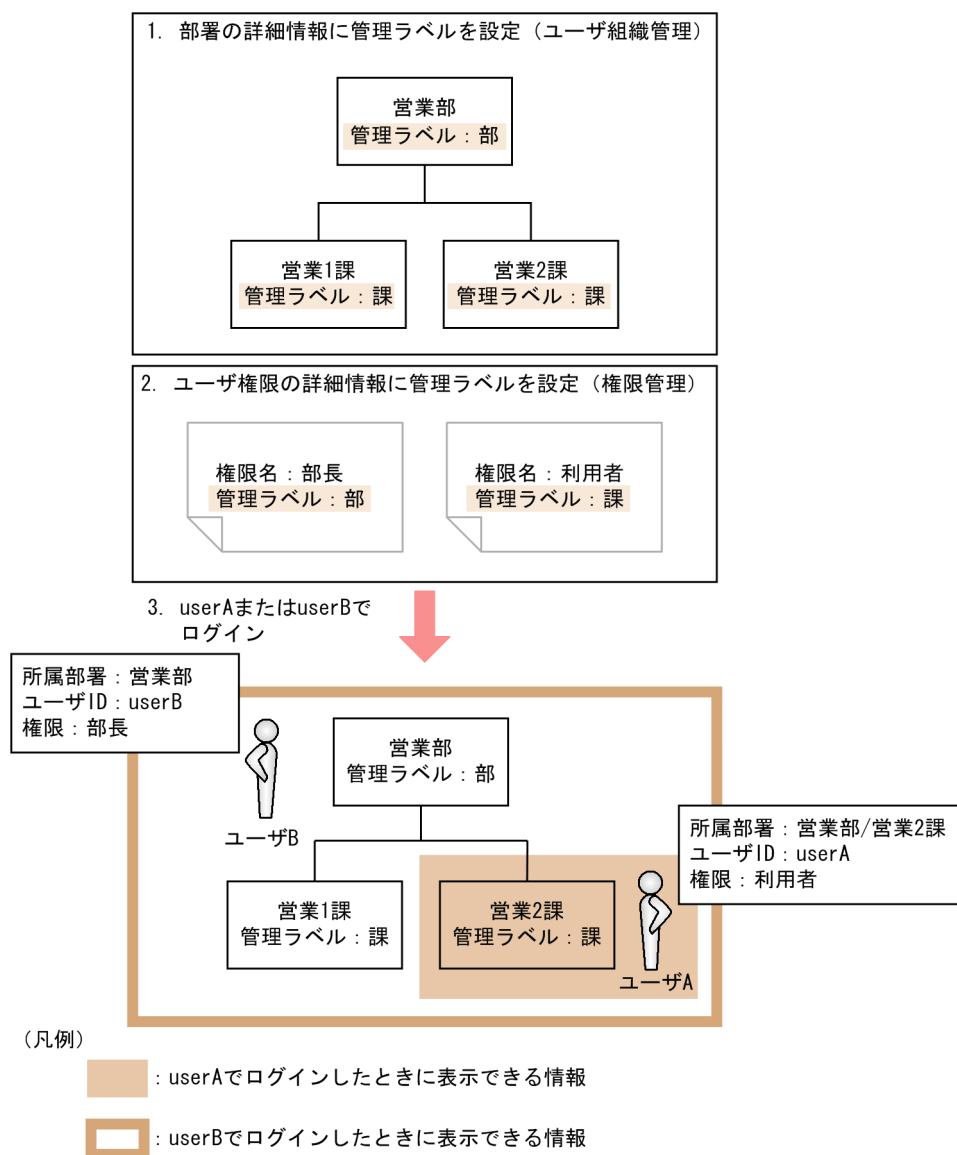
ユーザ権限ごとに利用できる機能を制限して、権限に応じたメニューを表示できます。

ユーザ権限ごとに利用できるメニューを設定する方法については、「[9.4 実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て）](#)」を参照してください。

3.1.3 組織階層単位でのアクセス制限の設定

組織階層単位でアクセス制限をするには、制限したい階層の部署、およびユーザ権限に同じ名称の「管理ラベル」を設定する必要があります。権限が「利用者」、「部長」の各ユーザに、アクセス制限を設定する場合を例に、設定の流れを次に示します。（）内には、設定時に選択する業務メニューを示します。

図 3-2 アクセス制限を設定する流れ



1. アクセスを制限したい階層の部署の詳細情報に、管理ラベルを設定する（ユーザ組織管理）。

営業1課および営業2課に管理ラベル「課」を、営業部に管理ラベル「部」を設定します。管理ラベルを設定する手順の詳細についてはマニュアル「運用ガイド」の「4.1.1 部署を追加する」を参照してください。

2. ユーザ権限の詳細情報に管理ラベルを設定する（権限管理）。

部署に設定した管理ラベル（「課」および「部」）を、アクセス制限したいユーザ権限（「利用者」および「部長」）に設定します。ユーザ権限を設定する手順の詳細については、「[9.1.1 新しくユーザ権限を追加する](#)」を参照してください。

3. アクセス制限を設定したユーザ権限でログインする。

「利用者」の権限を持つユーザAの場合、自分の所属する営業2課の情報だけが表示されます。また、「部長」の権限を持つユーザBの場合、営業部以下の情報が表示されます。

なお、手順 1.および手順 2.は順不同です。

組織階層単位でアクセス制限を設定したユーザに分掌を割り当てた場合、ユーザに設定されたアクセス範囲のほか、分掌に所属する部署の資産情報も参照したり編集したりできます。

注意事項

管理ラベルを変更するときは、必ずユーザ権限に設定した管理ラベルの値も変更するようにしてください。

3.2 資産情報の取得

資産管理データベースで管理する資産情報の取得方法には、主に JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得する方法と、CSV ファイルから取得する方法の 2 種類があります。

大規模なシステムで、さまざまな情報を管理するには、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得することをお勧めします。ただし、初期導入時に既存のデータがある場合や、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager では収集していない情報がある場合などは、CSV ファイルから取得することもできます。初期導入、日々の運用など、使用する時期や目的に合わせて、資産情報の取得方法を選択してください。

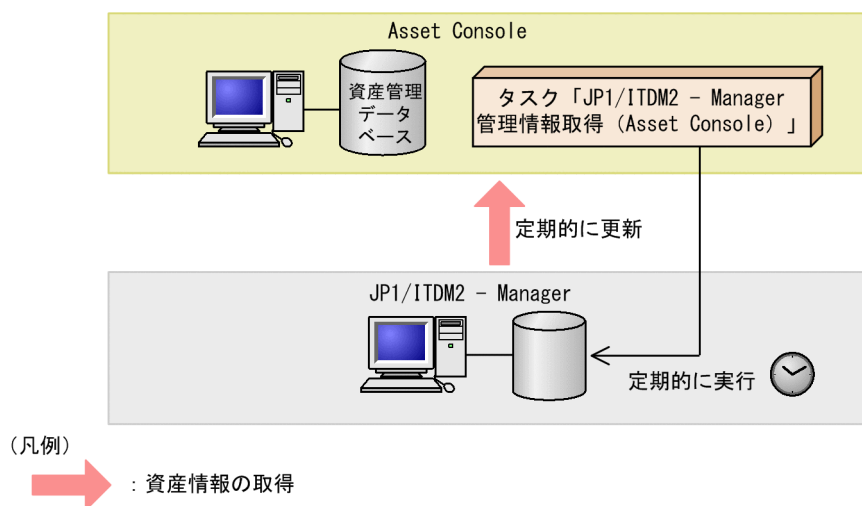
ここでは、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得する場合、CSV ファイルから取得する場合、それぞれの取得方法について説明します。また、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得する場合の管理情報の引き当て方法の設定、およびソフトウェア名の割り当て方法の設定についても説明します。

3.2.1 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得する場合

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報は、Windows のタスクスケジューラのタスクで定期的に取得します。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で収集した管理情報を、資産管理データベースに登録する仕組みを次の図に示します。

図 3-3 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を資産管理データベースに登録する仕組み



Windows のタスクスケジューラでタスクを定期的に行うことで、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を資産管理データベースに反映します。タスク「ITDM2 - Manager 管理情報の取得 (Asset Console)」を実行するタイミングを調整することで、ネットワークや資産管理サーバに負荷を掛けずに運用できます。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報から取得できる情報の詳細については、「[13.1 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得できる管理情報](#)」を参照してください。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報に合わせた資産情報の削除

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を登録することで、資産管理データベースの資産情報が削除されることはありません。ただし、ネットワーク情報およびインストールソフトウェア情報の場合は、新しく取得した JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報に含まれていなかった情報を、ネットワーク上から削除されたか、または機器からアンインストールされたと見なして削除できます。削除するかどうかは機器ごとに「機器詳細」ダイアログの「ITDM2 管理情報取り込み制御」で設定します。「ITDM2 管理情報取り込み制御」の設定の詳細については、マニュアル「運用ガイド」の「[2.6.2 ネットワーク情報を参照および変更する（「ネットワーク」タブ）](#)」または「[2.6.3 インストールされているソフトウェアを参照および変更する（「ソフトウェア」タブ）](#)」を参照してください。

3.2.2 CSV ファイルから取得する場合

Asset Console では、CSV ファイルから資産管理データベースへ、資産情報を一括して取り込めます。これをインポートといいます。

インポートには、次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「インポート」からのインポート
- jamCsvImport.bat でのインポート
- jamimport コマンドでのインポート

それぞれのインポート方法の特長について説明します。インポートする情報に応じて、効率の良い方法を選択してください。

1. 業務メニュー「インポート」からのインポート

登録したい資産情報の CSV ファイルに対して、インポートの条件を作成し、CSV ファイルの資産情報を一括で更新します。条件には、Asset Console の管理項目に、CSV ファイルのどの項目を引き当てるかを設定します。

この方法では、Asset Console にログインできる環境であれば、どこからでもインポートできます。

また、CSV ファイルのフォーマットや、クラスおよびクラス間の関係を意識することなく資産管理データベースの情報を更新できます。

さらに、ユーザレポート、業務フィルターの書式、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の引き当て設定、およびインポート/エクスポートの条件を登録することもできます。

ただし、複数の CSV ファイルをまとめてインポートしたり、登録と削除を同時に実行したりすることはできません。

2. jamCsvImport.bat でのインポート

業務メニュー「インポート」からのインポートと同様の処理を、資産管理サーバ上のコマンドラインから実行します。CSV ファイルのフォーマットや、クラスおよびクラス間の関係などを意識することなく、「機器に関する情報」などのカテゴリで資産情報を更新できるので、運用を自動化するのに便利です。ただし、jamimport コマンドに比べると、処理に時間が掛かります。

この方法では、インポートの条件の変更および保存はできません。

3. jamimport コマンドでのインポート

更新したい資産情報の CSV ファイルをクラスごとに作成し、CSV ファイルの内容を取捨選択することなく一括してインポートします。

この方法では、すべてのオブジェクトクラスをインポートでき、複数の CSV ファイルも一度にインポートできます。また、CSV ファイルの各行に対して、登録、変更、削除の指定ができます。

クラス単位に更新できるため、バックアップ用にエクスポートしたデータの復元や、ピンポイントのデータの更新に利用できます。ただし、データファイルの作成方法に従って CSV ファイルを作成し、関連するクラスがある場合、共通するプロパティの値を同じにして同時にインポートする必要があります。

各インポート方法の手順については、「[7.1 CSV データの登録（インポート）](#)」を参照してください。また、インポートできる情報（クラス）の詳細は、「[14.1 クラス構成](#)」を参照してください。

3.2.3 管理情報の引き当て方法の設定

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager では、ネットワークにある PC やプリンタなどの機器の情報や、PC にインストールされているソフトウェアの情報などを収集できます。この収集した情報（**管理情報**）を資産管理データベースに取り込んで管理するためには、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager での管理対象の機器と、Asset Console での管理対象の機器を一致させて、同一の機器の情報が別の機器の情報として登録されてしまうなどの、誤登録を避ける必要があります。

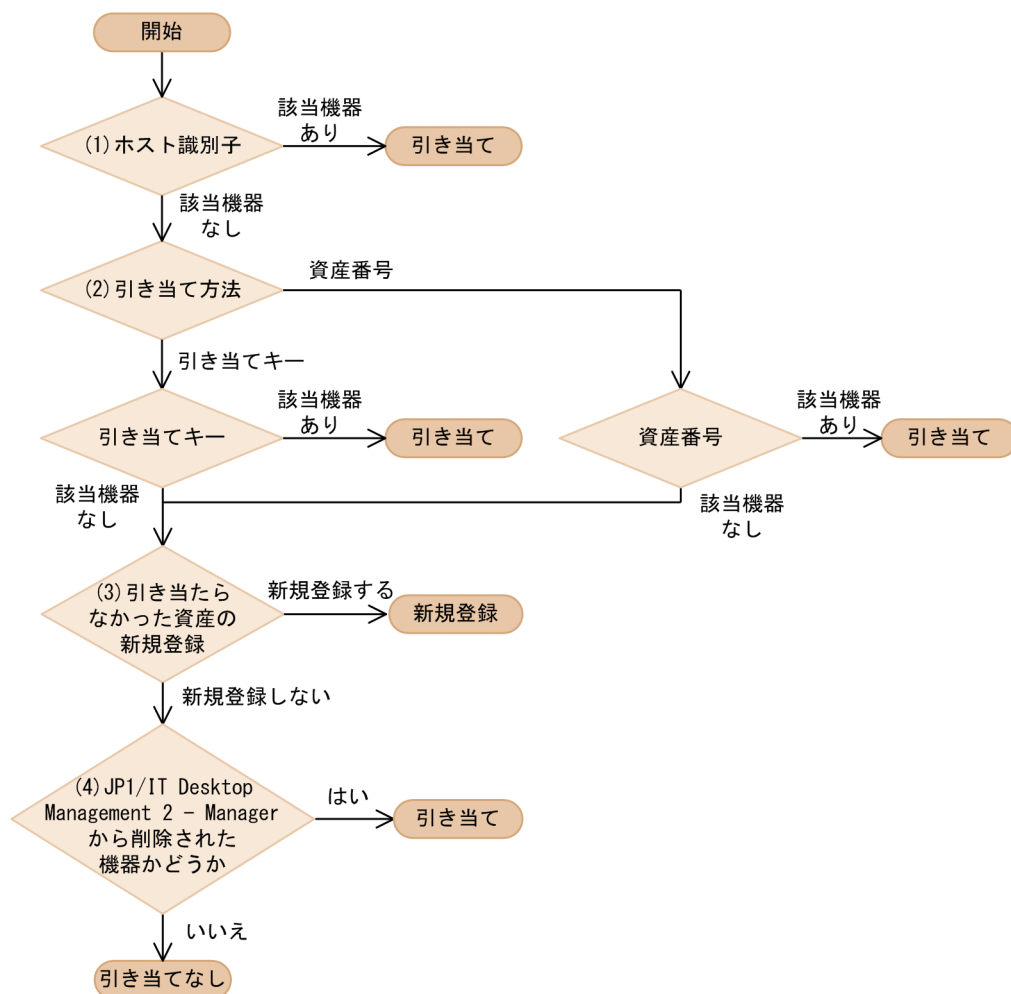
JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で収集した情報を、正確に資産管理データベースの資産情報に引き当てるために、管理情報および資産情報のキーとなる情報を設定します。

また、モバイルカードや無線 LAN カードなどの通信カードを複数の PC で共有している場合、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で収集した情報には、複数の管理対象の機器に同一の MAC アドレスが存在します。このような場合、Asset Console で資産管理データベースの資産情報に引き当てるために MAC アドレスをキーとして設定しているときは、それらの機器が一つの機器として登録されます。このような場合、引き当て除外 MAC リストに MAC アドレスを登録しておくことによって、該当する機器を別々の資産として登録し、管理できます。引き当て除外 MAC リストの定義方法については、「[\(5\) 引き当て除外 MAC リストの定義方法](#)」を参照してください。

ここでは、業務メニュー「ITDM2 管理情報取得」での設定に従って、どのように管理情報が登録されるかについて説明します。

「ITDM2 管理情報取得」での設定と引き当ての流れを次の図に示します。

図 3-4 「ITDM2 管理情報取得」での設定と引き当ての流れ



図中の(1)～(4)の数字は、これ以降の説明の見出しと対応しています。

注意事項

引き当て先となる資産情報の機器種別が「システム装置」（「機器種別」のコードが100～199）ではない場合、資産が新規に登録されます。

(1) ホスト識別子

ホスト識別子とは、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager システム内で一意な値で、各機器を識別するキー情報です。ホスト識別子は JP1/IT Desktop Management 2 - Agent のインストール時に生成され、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager サーバに自動的に通知されます。そのホスト識別子を使用して、Asset Console で機器を引き当てます。

(2) 引き当て方法

引き当てには、資産番号を使用する方法と、引き当てキーを使用する方法があります。

資産番号を使用する場合

資産番号に JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で収集した管理情報を設定し、管理情報を基に引き当てます。

資産番号へ引き当てる設定については、マニュアル「運用ガイド」の「4.14.1 資産番号の引き当て項目を設定する」を参照してください。

引き当てキーを使用する場合

機器種別ごとに引き当てキーを設定します。機器種別の種類および引き当てキーの種類を次の表に示します。

表 3-1 機器種別の種類

機器種別	内容
システム装置	PC、PC サーバ、UNIX、UNIX サーバ、スマートデバイス、その他システム装置
拡張装置	ディスプレイ、HD、CD-R、CD-RW、DVD、DAT、MO、プリンタ、周辺装置、USB デバイス、ストレージ
ネットワーク装置	HUB、ルータ、ネットワークプリンタ、ネットワーク装置

表 3-2 引き当てキーの種類

引き当てキー※1	備考
設定しない	—
マシンシリアルナンバー	—
MAC アドレス※2	引き当ての対象とするクラスは、次のとおりです。 1. 「14.2.10 HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」 2. 「14.2.21 NetworkInfo (ネットワーク情報)」 対象とするクラスで機器を、上記の順番で検索します。
IP アドレス (デフォルト)	
ホスト名	

(凡例)

—：該当なし

注※1

引き当てキーを複数組み合わせで指定できます。

注※2

引き当て除外 MAC アドレスリスト (「(5) 引き当て除外 MAC リストの定義方法」を参照) に登録されている MAC アドレスを除きます。

(3) 引き当たらなかった資産の新規登録

該当する資産情報がない場合は、業務メニュー「ITDM2 管理情報取得」での「情報の新規登録」の指定に従って、登録されるかどうかが決まります。「新規登録する」を指定した場合は、新規に登録されます。「新規登録しない」を指定した場合は、登録されません。

(4) 削除された資産の機器状態

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から資産の機器が削除された場合、Asset Console で削除された資産の機器状態を変更できます。機器状態の変更方法は、マニュアル「運用ガイド」の「4.8 種別や状態を追加および変更する（コード管理）」を参照してください。

(5) 引き当て除外 MAC リストの定義方法

Asset Console で資産管理データベースの資産情報に引き当てるために MAC アドレスをキーとして設定していて、複数の管理対象の機器に同一の MAC アドレスが存在している場合、それらの機器を別々の資産として登録するためには、引き当て除外 MAC リスト（MacListOfOmitMatching.ini）を作成する必要があります。

引き当て除外 MAC リストの格納先、記述方法および記述例を次に示します。

- 引き当て除外 MAC リストの格納先

＜Asset Console のインストール先フォルダ＞¥env

なお、引き当て除外 MAC リストを作成時の参考として、上記格納先に引き当て除外 MAC リストのサンプルファイル（MacListOfOmitMatching.ini.org）を提供しています。サンプルを参考にして、引き当て除外 MAC リストを作成してください。

注意事項

Asset Console は、キーを引き当てる際に上記の格納先のファイルを確認します。この格納先にファイルがない場合は、引き当て除外 MAC アドレスの設定がないと判断します。

- 引き当て除外 MAC リスト（MacListOfOmitMatching.ini）の記述方法

```
; MAC Address List of Omit Matching.  
[OMIT_MAC]  
OMIT_MAC = 00:11:22:33:44:55
```

[OMIT_MAC]

引き当て除外 MAC リストに登録したい、MAC アドレスを指定します。

引き当てを除外する MAC アドレスは、「OMIT_MAC = MAC アドレス」の形式で指定します。

引き当てを除外する MAC アドレスの指定では、次に示す事項に注意してください。

- 省略形で指定しないでください。
 - MAC アドレスの区切り文字は、「:」（コロン）です。
 - 半角 17 文字で指定してください。なお、大文字と小文字を区別しません。
 - 同じ値を複数指定しても、エラーになりません。
 - 指定できる MAC アドレスは、1,000 個です。ただし、コメント、不要なキー名、および値を多数記述すると、1,000 個以下の指定でもエラーとなることがあります。
- 引き当て除外 MAC リストの定義例


```
;
; MAC Address List of Omit Matching.
;
[OMIT_MAC]
OMIT_MAC = 11:22:33:44:55:66
OMIT_MAC = aa:bb:cc:dd:ee:ff
```

上記の例では、「11:22:33:44:55:66」と「aa:bb:cc:dd:ee:ff」が引き当て除外 MAC アドレスとして設定されます。それらの MAC アドレスを持つ機器が複数存在した場合、別々の機器（資産）として資産管理データベースに登録されます。

3.2.4 ソフトウェア名の割り当て方法の設定

ソフトウェアのライセンスを管理するには、各機器にインストールされているソフトウェアの名称（インストールソフトウェア名）と、ライセンスを管理しているソフトウェアの名称（ソフトウェア名）を対応づけて管理する必要があります。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager からインストールソフトウェア情報を取得する設定にしている場合、インストールソフトウェア名を自動的にソフトウェア名に割り当てて、対応づけることができます。

1. 業務メニュー「ITDM2 管理情報取得」の「動作設定」にある「取得情報」の「ソフトウェア情報」のチェックボックスをチェックする。

ソフトウェア名の自動割り当て

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から管理情報を取得する際に、すでに同一のソフトウェアがインストールソフトウェアリストに登録されていたら、同じソフトウェア名への割り当てを追加するかどうかを選択します。

「ソフトウェア名の自動割り当て」で選択できる値は次の 2 種類です。

- ・自動的に割り当てない（デフォルト）
- ・自動的に割り当てる

ソフトウェアの自動登録

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から管理情報を取得する際に、インストールソフトウェア名と同じ名称でソフトウェア名を登録して、対応づけるかどうかを選択します。

「自動的に登録しない」（デフォルト）を選択すると、インストールソフトウェア名だけが登録されて、ソフトウェア名の登録および割り当ては実行されません。取得した管理情報に、資産管理データベースに登録されていないインストールソフトウェア名が含まれていた場合は、業務メニュー「ソフトウェア名称管理」でソフトウェア名を割り当ててください。

「自動的に登録する」を指定すると、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得した管理情報と同じインストールソフトウェア名およびソフトウェア名が登録されて、自動的に割り当てられます。また、ソフトウェア種別は「商用」で登録されます。ソフトウェア種別を変更する手順については、マニュアル「運用ガイド」の「4.6.4 ソフトウェア名および属性を変更する」を参照してください。

2. [設定] ボタンをクリックする。

3.3 資産管理者へのメール通知

Asset Console では、Windows のタスクスケジューラの機能を利用して、期限切れ契約情報、ライセンス超過、許可外インストール、および機器の情報の変更を検知したときに、資産管理者にメールで通知できます。また、案件が次の作業者に送付されたときに、次の作業者にメールで通知できます。

この節では、メール通知を利用するために必要な環境と、通知される内容を説明します。メール通知を利用するかどうか、および利用する場合の業務を検討してください。

メール通知を利用するには、Asset Console と Microsoft Internet Information Services での設定が必要です。

Asset Console での設定

- メールによる通知

[サーバセットアップ] ダイアログで、「メール通知情報」の「メールによる通知」を「通知する」に設定します。

- メールの送信先アドレス

[サーバセットアップ] ダイアログで、「メール通知情報」の「メールの送信先アドレス」に、メールを送信する資産管理者の e-mail アドレスを設定します。

[サーバセットアップ] ダイアログでの設定方法については、「[5.3.5 メール通知情報の設定](#)」を参照してください。

Microsoft Internet Information Services での設定

- SMTP 仮想サーバの実行

SMTP 仮想サーバが実行していることを確認します。

SMTP 仮想サーバの設定方法については、「[5.10.1 SMTP 仮想サーバの実行](#)」を参照してください。

- リモートドメインへの受信メールの中継

SMTP 仮想サーバにリモートドメインを追加して、そのリモートドメインへ受信メールを中継する設定にします。

リモートドメインへ受信メールを中継する設定方法については、「[5.10.2 リモートドメインの追加](#)」を参照してください。

3.3.1 期限切れ契約情報通知

タスク「期限切れ契約情報通知 (Asset Console)」を利用して、契約終了日が迫った保守契約、リース契約およびレンタル契約を定期的にメールで通知できます。

通知されるメールには、次の図に示すように、契約種別、契約終了日および契約番号が一覧で記載されています。

図 3-5 契約終了日の通知メール

From:manager@asset.message

To:user1@system.xxxx.co.jp

Subject:契約期限満了通知(2003/02/01付)

種別

契約終了日

契約番号

リース契約

2003/03/31

LPCP-1234-1234-0001

保守契約

2003/03/31

MTU0-1369-1369-0001

レンタル契約

2003/03/31

RENT-1369-1369-0001

資産管理者のe-mailアドレス

契約終了日が指定した期間以内に迫った契約

また、契約終了日が迫った契約に該当する資産の一覧が、メールの添付ファイルとして CSV ファイルで送付されます。リース契約または保守契約のどちらかに、契約終了日が迫った契約がない場合は、その契約に該当する資産の一覧は添付されません。

添付ファイルのファイル名とファイルの内容を次に示します。

ファイル名	内容
jamexpiration_A.csv	契約終了日が迫ったリース契約に該当する資産の一覧
jamexpiration_B.csv	契約終了日が迫った保守契約に該当する資産の一覧
jamexpiration_C.csv	契約終了日が迫ったレンタル契約に該当する資産の一覧

契約終了日の迫ったリース契約の通知メールの添付ファイルを例に、添付ファイルの内容を次の図に示します。

図 3-6 リース契約終了日の通知メールの添付ファイル

"表示文字列","契約終了日","契約番号","資産番号","部署名","利用者名","設置場所"

"リース契約","2003/07/01","00000006","0000000018","営業部","営業太郎","本社/4F"

"リース契約","2003/07/01","00000236","0000000020","営業部","営業次郎","本社/5F"

タスク「期限切れ契約情報通知（Asset Console）」のデフォルトは、毎月 1 日の午前 6 時 00 分にタスクを実行して、契約期限が 2 か月以内に迫った契約をメールで通知するように設定されています。タスクを実行する日時や頻度を変更する手順については、「5.9.2 タスクの設定手順」を参照してください。

注意事項

タスクは 1 か月に一度実行されるため、1 か月未満の短い契約の場合、事前に通知されないことがあります。例えば、契約期間が 3 月 20 日～3 月 30 日の契約は、3 月 1 日の時点で契約が登録されていない場合、通知されません。

そのため、このような短期間の契約が想定される場合は、メールで通知するスケジュールを追加してください。スケジュールの追加手順については、「5.9.2(2) タスクのスケジュールの変更」を参照してください。

3.3.2 ライセンス超過通知

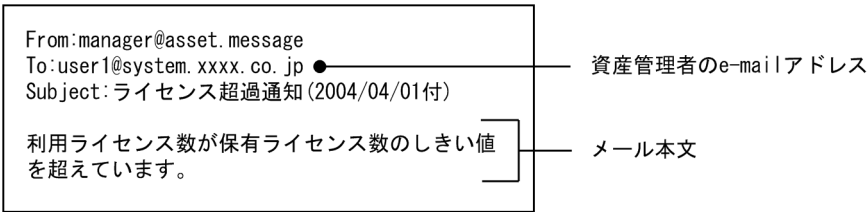
タスク「ライセンス超過通知 (Asset Console)」を利用して、ライセンスの保有数と利用数を定期的に集計できます。この集計結果を基に、ライセンス管理の各業務メニューでライセンスの利用状況を管理できます。

集計の結果、保有数を超過して使用しているライセンスがあれば、一覧をメールで通知できます。メールでの通知が不要な場合は、タスク「ライセンスの集計 (Asset Console)」を使用してください。「ライセンス超過通知 (Asset Console)」と「ライセンスの集計 (Asset Console)」は、集計される内容は同じです。メールでの通知が必要な場合はタスク「ライセンス超過通知 (Asset Console)」、不要な場合は「ライセンスの集計 (Asset Console)」を使用してください。なお、このタスクは実行完了までに時間が掛かるため、「ライセンスの集計 (Asset Console)」との併用はお勧めしません。

このタスクは、Asset Console をインストールすると作成されます。

通知されるメールには、次の図に示すように、保有数のしきい値を超過しているライセンスがあることを通知する説明が記載されています。

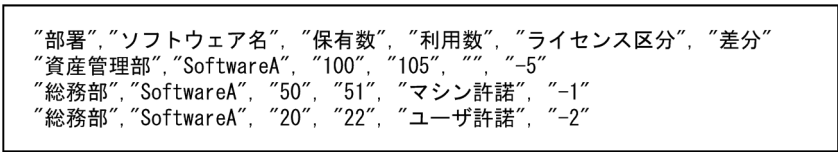
図 3-7 保有数を超過しているライセンスの通知メール



また、保有数を超過して使用しているライセンスの一覧が、メールの添付ファイルとして CSV ファイルで送付されます。

添付ファイルの内容を次の図に示します。

図 3-8 保有数を超過しているライセンスの通知メールの添付ファイル



タスク「ライセンス超過通知 (Asset Console)」のデフォルトは、毎週月曜日の午前 5 時 30 分にタスクを実行するように設定されています。タスクを実行する日時や頻度を変更する手順については、[「5.9.2\(2\) タスクのスケジュールの変更」](#)を参照してください。

注意事項

- このタスクで通知されるのは、資産として登録しているライセンスだけです。登録していないライセンスが利用されていても、通知の対象になりません。

- このタスクでは、タスク実行時に保有数を超過しているライセンスがある場合にメールを通知するので、1 週間以内に保有数を超過し、超過分のライセンスを追加するとメールで通知されません。デフォルトの設定よりも監視する頻度を増やしたい場合、メールで通知するスケジュールの実行間隔を短く変更してください。
- 数千台の大規模システムで集計を多数実行する際に、データベースに大量の古い集計結果のデータが残っていると、データの検索、追加および削除に時間が掛かるため、集計の性能が劣化します。資産管理システムが数千台規模になるときは、古くなった集計結果を定期的に削除してください。
- デフォルトでは 100% に設定されている保有数超過のしきい値を変更することで、保有数を超えそうなライセンスを事前に通知できます。ライセンスごとのしきい値を変更する場合は、ソフトウェア名称管理画面で設定します。しきい値が設定されていない場合は、[サーバセットアップ] ダイアログでの設定に従います。

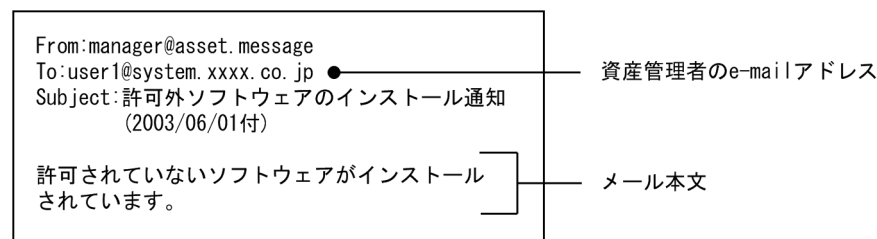
ソフトウェア名称管理画面での変更方法については、マニュアル「運用ガイド」の「4.6 ソフトウェア名を対応づける（ソフトウェア名称管理）」を、[サーバセットアップ] ダイアログでの変更方法については、「[5.3.4 基本情報の設定](#)」を参照してください。

3.3.3 許可外インストール通知

タスク「許可外インストール通知（Asset Console）」を利用して、許可されていないソフトウェアをインストールしている機器を自動的にメールで通知できます。

通知されるメールには、次の図に示すように、許可されていないソフトウェアをインストールしている機器があることを通知した文章が記載されています。

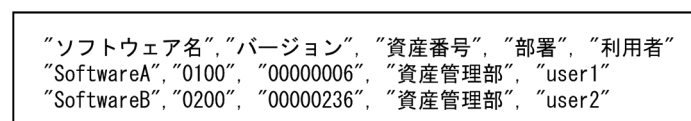
図 3-9 許可されていないソフトウェアの通知メール



また、許可されていないソフトウェアをインストールしている機器の一覧が、メールの添付ファイルとして CSV ファイルで送付されます。

添付ファイルの内容を次の図に示します。

図 3-10 許可されていないソフトウェアの通知メールの添付ファイル



タスク「許可外インストール通知 (Asset Console)」のデフォルトは、毎週火曜日の午前 5 時 30 分にタスクを実行するように設定されています。タスクを実行する日時や頻度を変更する手順については、「5.9.2(2) タスクのスケジュールの変更」を参照してください。

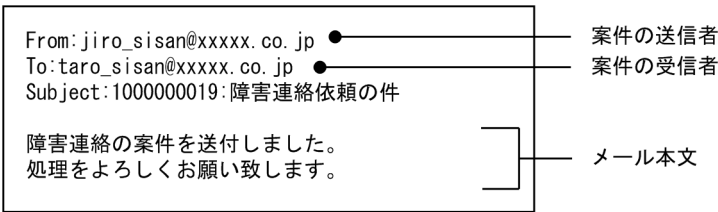
注意事項

このタスクでは、タスク実行時に許可されていないソフトウェアをインストールしている機器がある場合にメールを通知するので、1 週間以内に許可されていないソフトウェアをインストールし、アンインストールするとメールで通知されません。デフォルトの設定よりも監視する頻度を増やしたい場合、メールで通知するスケジュールの実行間隔を短く変更してください。

3.3.4 案件の到着通知

案件を使用して、申請、承認の業務を実行する場合、案件が到着した（申請または却下された）ことを、メールで通知できます。メールの本文は、送信時に編集できます。サンプルで提供されている案件「障害連絡票」を、申請すると送付されるメールを次の図に示します。

図 3-11 案件の到着通知メール



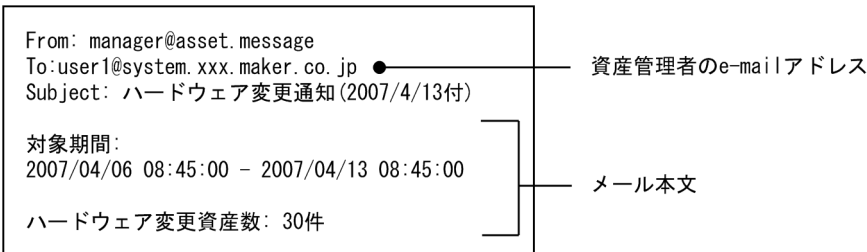
案件の到着通知は、ユーザ管理情報のメールアドレスを基に送付されます。そのため、案件の到着通知を利用する場合は、ユーザ管理情報でメールアドレスを管理する必要があります。

3.3.5 ハードウェア変更通知

機器の情報が更新されたことを、メールで通知できます。

通知されるメールには、次の図に示すように、変更があった機器の台数が記載されています。

図 3-12 ハードウェア変更通知メール



機器の情報が更新されたことをメールで通知するには、Asset Console のインストール後に、タスクを登録する必要があります。タスクの登録手順については、「[5.9.8 機器の情報の変更通知](#)」を参照してください。

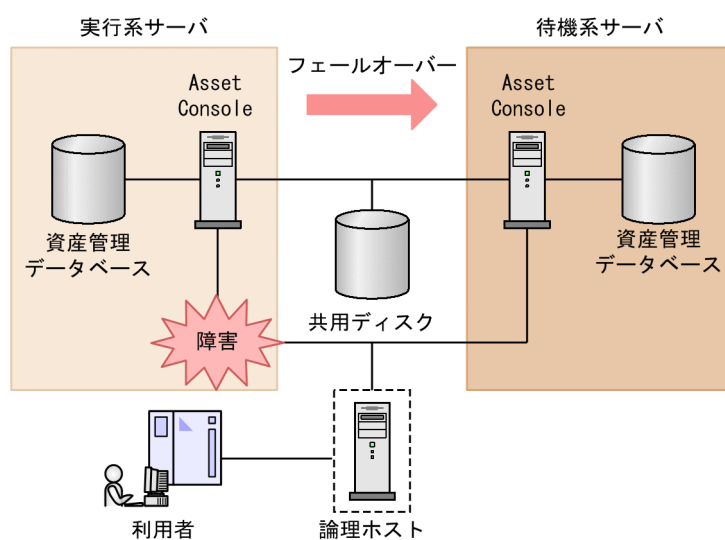
3.4 クラスタシステムの導入

クラスタソフトを使用したクラスタシステムにも、Asset Console を導入できます。クラスタシステムは、複数のサーバを連携させて一つのシステムとして運用することで、一つのシステムでトラブルが発生しても、ほかのサーバに業務を引き継いで続行（フェールオーバー）させるため、システム全体の停止を防止できます。

Asset Console ではクラスタシステムの運用形態のうち、アクティブ・スタンバイ構成に対応しています。アクティブ・スタンバイ構成は、2 ノード・クラスタシステムで、それぞれのサーバを実行系と待機系として設定します。

Asset Console を導入したクラスタシステムの概要を次の図に示します。

図 3-13 Asset Console を導入したクラスタシステムの概要



資産管理サーバの物理的なホスト名および IP アドレスとは別に、論理ホスト名または論理 IP アドレスを使用して論理サーバに接続します。これによって、利用者はどちらのサーバで処理を実行しているかを意識しないで接続できます。

クラスタシステムを構築する場合の資産管理サーバの前提 OS を次に示します。

- Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter
- Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard
- Microsoft Windows Server 2012 Datacenter
- Microsoft Windows Server 2012 Standard
- Microsoft Windows Server 2008 R2 Datacenter
- Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
- Microsoft Windows Server 2008 Enterprise
- Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition

- Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition
- Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition
- Microsoft Windows Server 2003, Enterprise Edition

3.5 Active Directory 連携

Active Directory と連携することによって、Asset Console へのログイン時の認証をしたり、Active Directory が管理するユーザ情報を資産管理データベースに取り込んだりできます。

Active Directory と連携する場合の前提プログラムについては、「[4.1.1\(5\) Active Directory と連携するための前提プログラム](#)」を参照してください。

この節では、Active Directory と連携するために必要な設定や、ユーザ組織情報を取り込むための手順について説明します。

3.5.1 ログイン認証

Active Directory と連携して、Asset Console のログインを認証する場合、[サーバセットアップ] ダイアログの「ディレクトリサーバの使用」で設定する必要があります。[サーバセットアップ] ダイアログでの設定については、「[5.3.6 ディレクトリサーバ連携の設定](#)」を参照してください。

また、[サーバセットアップ] ダイアログでの設定で必要な情報を事前に調査しておく必要があります。

参考

設定に必要な事前情報の調査方法を、次に示します。

1. Active Directory の稼働しているコンピュータに管理者権限でログインする。
2. Active Directory の LDIFDE コマンドを実行し、ログイン可能なユーザの DN 情報を出力する。
実行コマンドを次に示します。

```
ldifde -u -p Subtree -r "objectclass=user" -l dn -f out1.txt
```

out1.txt に次のような情報が出力されます。

```
dn: CN=Administrator,CN=Users,DC=Sample,DC=co,DC=jp
changetype: add
dn: CN=Guest,CN=Users,CN=Users,DC=Sample,DC=co,DC=jp
changetype: add
:
```

出力された情報から、Asset Console の接続に使用するユーザの DN を [サーバセットアップ] ダイアログの「アクセスユーザ」で設定します。

3. Active Directory の LDIFDE コマンドを実行し、Asset Console のログイン認証時にユーザを検索する組織の DN 情報を出力する。
実行コマンドを次に示します。

```
ldifde -u -p SUBTree -r "(objectclass=organizationalUnit)" -l dn -f out2.txt
```

out2.txt に次のような情報が出力されます。

```
dn: OU=Domain Controllers, DC=Sample,DC=co,DC=jp
changetype: add
dn: OU=people, DC=Sample,DC=co,DC=jp
changetype: add
dn: OU=hitachi,OU=people, DC=Sample,DC=co,DC=jp
changetype: add
:
```

出力された情報から、Asset Console のログイン認証時にユーザを検索する組織の DN を [サーバセットアップ] ダイアログの「ユーザ情報 DN」で設定します。

4. Asset Console のログイン時の認証に使用するユーザ情報の属性情報を出力する。

実行コマンドを次に示します。

```
ldifde -u -p Subtree -r "cn=Administrator" -f out3.txt
```

out3.txt に次のような情報が出力されます。

```
dn: CN=user1,OU=設計 3,OU=hitachi,OU=people, DC=Sample,DC=co,DC=jp
changetype: add
objectClass: top
objectClass: person
objectClass: organizationalPerson
objectClass: user
cn: user1
sn: お客様 A
telephoneNumber: 030303
givenName: ユーザ 1
distinguishedName:
CN=user1,OU=設計 3,OU=hitachi,OU=people, DC=Sample,DC=co,DC=jp
instanceType: 4
:
displayName: お客様 A ユーザ 1
uSNCreated: 376915
uSNChanged: 487476
name: user1
uid: user1
mail: a-user1@sample.co.jp
:
```

出力された情報から、Asset Console のログイン認証時のユーザ ID として使用する属性名を、[サーバセットアップ] ダイアログの「ユーザ ID 属性名」で設定します。また、Asset Console でユーザ名として認識するための属性名を、[サーバセットアップ] ダイアログの「ユーザ名属性名」で設定します。

3.5.2 ユーザ組織情報の取得

Active Directory サービスが管理するユーザ情報で資産管理データベース（ユーザ管理情報）を更新するには、Asset Console スクリプトの作成と、定期的な実行が必要です。Asset Console は、このスクリプト作成の参考として、サンプルスクリプトを提供しています。サンプルスクリプトは、次に示す項目を更新します。

- 役職名
- メールアドレス
- 電話番号

サンプルスクリプト（ファイル）の格納先フォルダを次に示します。

<Asset Consoleのインストールフォルダ>%sample%AD%

なお、サンプルスクリプトのほかに、サンプルスクリプトの説明や使用方法をまとめたドキュメントも提供しています。サンプルスクリプトを実行する前に、必ずお読みください。

サンプルスクリプト（ファイル）の説明を次の表に示します。

表 3-3 サンプルスクリプトの説明

ファイル名	説明
ADImport.txt	Active Directory の情報エントリから、Asset Console のユーザ管理情報にプロパティ値を取り込むためのサンプルスクリプトです。
ADImportExtend.txt	ADImport.txt から呼び出され、Active Directory の情報エントリの属性から Asset Console のユーザ管理情報にプロパティ値を取り込むためのサブルーチン群サンプルスクリプトです。カスタマイズする場合は、このファイルを編集します。
ADImportCustomize.txt	ADImport.txt と ADImportExtend.txt の説明と使用方法をまとめたドキュメントです。

4

システム構成の検討

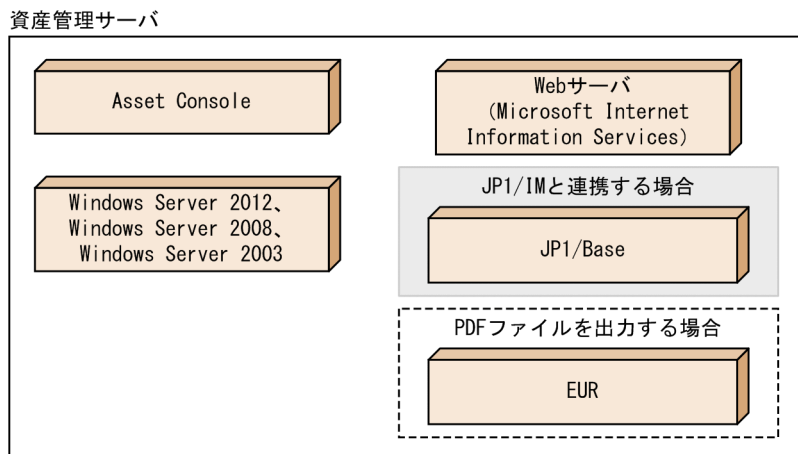
この章では、資産管理システムのプログラム構成およびシステム構成例について説明します。

4.1 プログラム構成

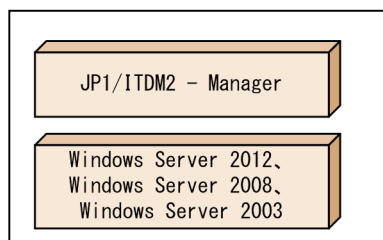
この節では、資産管理システムを構成するプログラムと、資産管理システムの前提プログラムおよび関連プログラムについて説明します。

資産管理システムのプログラム構成を次の図に示します。

図 4-1 資産管理システムのプログラム構成（資産管理サーバ）



管理用サーバ



（凡例）

■ : JP1製品との連携に応じて必要なプログラム

□ : EURとの連携に必要なプログラム

図 4-2 資産管理システムのプログラム構成（ディレクトリサーバ）

ディレクトリサーバ

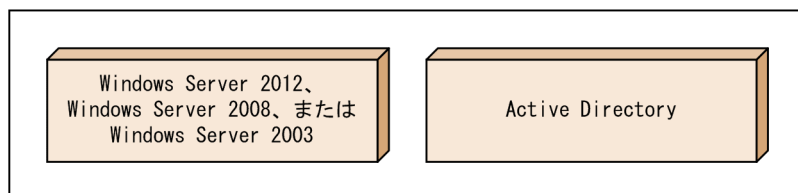
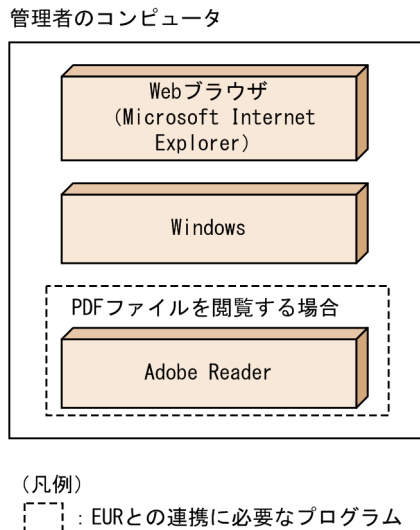


図 4-3 資産管理システムのプログラム構成（エージェント）



4.1.1 前提プログラム

Asset Console を運用するために必要なサーバ側および管理者のコンピュータ側の前提プログラムについて次に示します。

(1) サーバ側の前提プログラム

- OS

Windows Server 2012、Windows Server 2008、または Windows Server 2003 を使用します。ただし、Windows Server 2012 または Windows Server 2008 を使用する場合、Server Core インストールはサポート対象外です。また、Skydrive または Onedrive を使用した環境での動作はサポート対象外です。

64 ビットの OS を使用する場合は、Asset Console のインストール前およびセットアップ時に必要な作業があります。インストール前の作業については「[5.2.2\(2\) インストール前の作業](#)」を、セットアップ時の作業については「[5.5 データソースの作成](#)」を参照してください。また、Asset Console の関連プログラムでも、64 ビットの OS を使用する場合は、大幅に機能が制限されることがあります。関連プログラムのマニュアルなどで、64 ビットの OS を使用する場合は、制限内容を必ず確認してください。

- Web サーバ

Microsoft Internet Information Services 6.0、7.0、7.5、8.0、または 8.5 を使用します。

また、Windows コンポーネントとして WWW（World Wide Web）サービスをインストールする必要があります。

(2) 管理者のコンピュータ側の前提プログラム

- OS

Windows Internet Explorer 7、Windows Internet Explorer 8、Windows Internet Explorer 9、Windows Internet Explorer 10、または Windows Internet Explorer 11 が使用できる OS (Windows) を使用します。

- **Web ブラウザ**

資産管理サーバに対して、資産情報を登録および参照するために使用する管理者のコンピュータです。Windows Internet Explorer 7、Windows Internet Explorer 8、Windows Internet Explorer 9、Windows Internet Explorer 10、または Windows Internet Explorer 11 を使用します。ただし、metro 版の Windows Internet Explorer には対応していません。

(3) メール通知を使用するための前提プログラム

契約終了日が迫った契約や保有数を超過して使用しているライセンスなどの情報をタスクスケジューラで自動的にメール通知する機能を使用する場合は、Microsoft Windows Script Host Version 5.1 以降と Microsoft Internet Information Services 6.0 以降がインストールされた環境が必要です。

また、Windows コンポーネントのインターネットインフォメーションサービス (IIS) のサブコンポーネントである SMTP Service も、インストールする必要があります。

メール通知の設定方法については、「[5.10 メール通知を使用するための設定](#)」を参照してください。

(4) PDF ファイルを表示するための前提プログラム

Asset Console で検索した資産情報を、PDF ファイルの帳票として表示・印刷するためには、EUR (uCosminexus EUR Server Enterprise 09-00 以降) と連携する必要があります。

EUR の機能概要については、マニュアル「uCosminexus EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編」を参照してください。

(5) Active Directory と連携するための前提プログラム

連携可能な Active Directory が稼働する OS を、次に示します。

- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2008
- Windows Server 2003 R2
- Windows Server 2003

なお、資産管理サーバとディレクトリサーバは別のマシンで運用することをお勧めします。

4.1.2 関連プログラム

前提プログラムで示した連携製品以外に、資産管理システムの運用時に連携できるプログラムを次に示します。

- **JP1/IM - Manager**

JP1/IM - Manager 10-00 以降と連携できます。

JP1/IM - Manager は、企業情報システム全体を統合管理する製品です。

システムをさまざまな角度で運用管理する JP1 シリーズと連携し、システムで発生した事象を JP1 イベントによって一元管理します。また、問題が発生すると迅速に管理者へ通知するとともに、問題個所を把握し調査を行うための運用操作の基盤を提供します。

Asset Console では、JP1/IM - Manager で管理する JP1 イベントの情報を共有して、資産管理システムで発生した事象を管理できます。

JP1/IM - Manager の機能概要については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。

- **JP1/Base**

JP1/Base 10-00 以降と連携できます。

JP1/Base は、JP1/IM - Manager の基盤となる機能を提供している製品です。

JP1/Base の機能を利用することで、システムで何らかの事象が発生したときに通知される事象（JP1 イベント）を管理したり、ほかのホストと JP1 イベントを送受信したりできます。

Asset Console は、JP1/Base の機能を利用して、JP1/IM - Manager で管理する JP1 イベントを送受信します。

JP1/Base の機能については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

- **JP1/IM - Service Support**

JP1/IM - Service Support 09-00 以降と連携できます。

JP1/IM - Service Support は、問い合わせやシステム障害など、解決が必要な案件が発生した場合に、速やかに案件の内容を調査して対処するための機能を提供しています。

Asset Console と連携することで、JP1/IM - Service Support の画面から、案件に該当する機器の情報を参照できます。

JP1/IM - Service Support の機能については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Service Support 構築・運用ガイド」を参照してください。

4.2 システム構成例

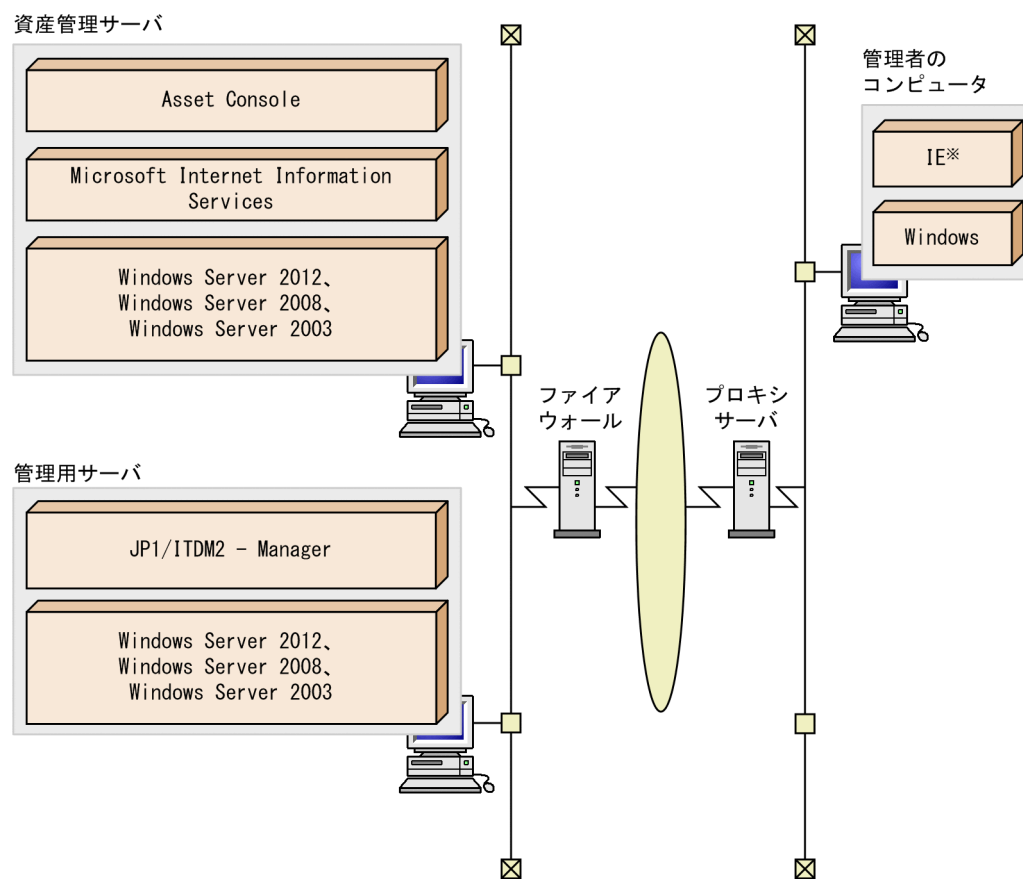
この節では、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携した、資産管理システムを運用する上でのシステム構成例を、連携する製品別に示します。

なお、Asset Console は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携して資産管理業務を実行することで、より効率良く、企業内の IT 資産を網羅した一元管理が実現できます。そのため、これ以降では、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携したシステム構成を基本的な構成として説明します。

4.2.1 基本的なシステム構成

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携した資産管理システムの基本的なシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は、資産管理サーバが JP1/IT Desktop Management 2 - Manager サーバと接続して、管理対象のコンピュータの資産情報を取得する場合の基本的な構成を示しています。なお、4.2.2～4.2.6 の構成例もこのシステム構成を前提としています。

図 4-4 資産管理システムの基本的なシステム構成例



注※ IE:Windows Internet Explorer

システムを構成する上で次のことに注意してください。

資産管理サーバ

- Asset Console は、JP1/NETM/Asset Information Manager、JP1/Asset Manager、および JP1/NETM/Asset Manager と同一のマシンにはインストールできません。
- 資産管理サーバと JP1/IT Desktop Management 2 - Manager は、互いにホスト名および IP アドレスを直接参照できるネットワーク構成である必要があります。
- 1 台の JP1/IT Desktop Management 2 - Manager に対して、複数の資産管理サーバを接続する構成はできません。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager サーバ

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager サーバは、Asset Console と同一のマシンに配置することもできます。ただし、管理対象となる機器が多数あり、管理者のコンピュータから高い頻度でアクセスされる運用が想定される場合は、資産管理サーバと資産管理データベースサーバを分散する構成をお勧めします。

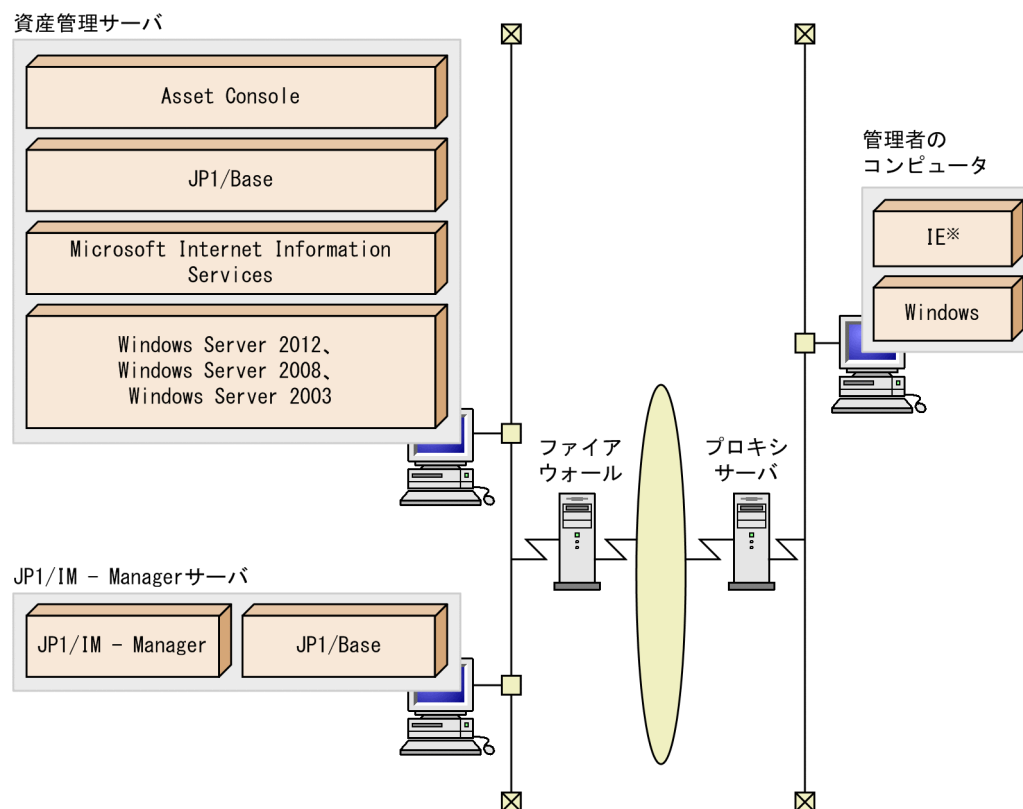
管理者のコンピュータ

Windows Internet Explorer 7、Windows Internet Explorer 8、Windows Internet Explorer 9、Windows Internet Explorer 10、または Windows Internet Explorer 11 を使用できる環境であれば、特別なプログラムは必要ありません。

4.2.2 JP1/IM - Manager と連携したシステム構成

JP1/IM - Manager と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は、資産管理サーバが JP1/IM - Manager サーバと接続して、管理対象のコンピュータの問題点情報を取得する場合の構成を示しています。

図 4-5 JP1/IM - Manager と連携したシステム構成例

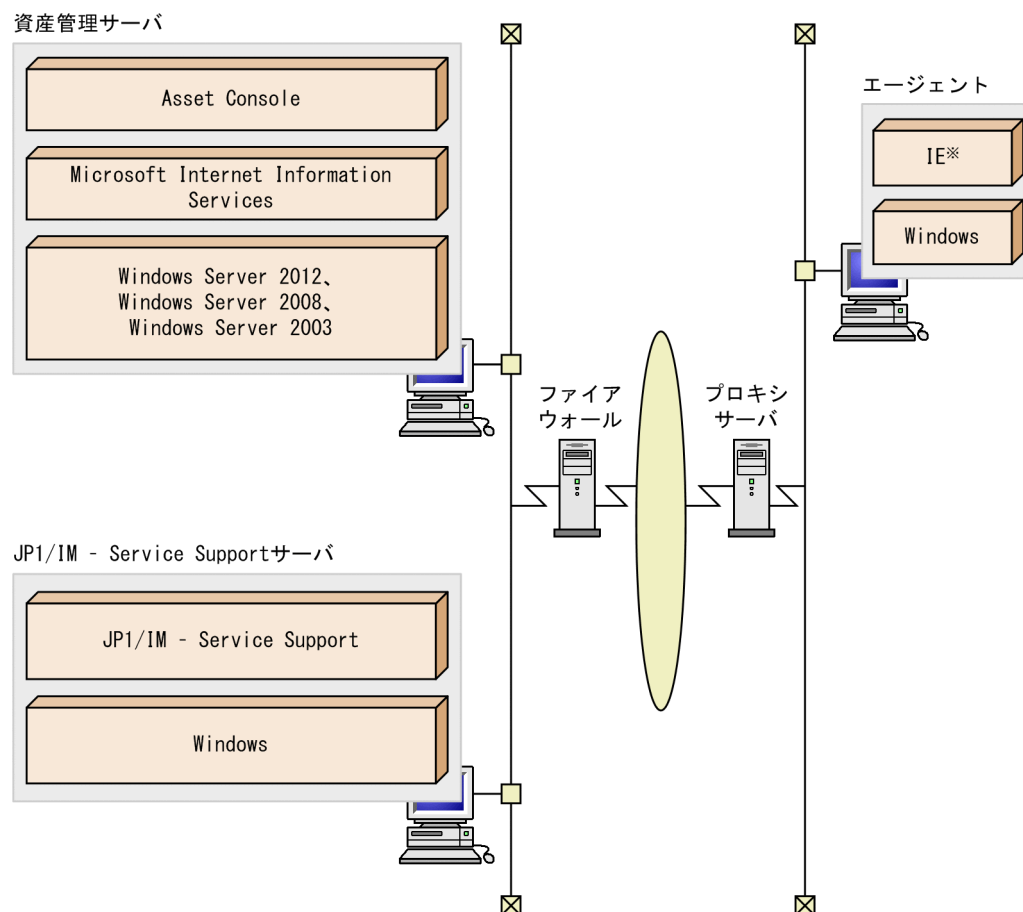


注※ IE:Windows Internet Explorer

4.2.3 JP1/IM - Service Support と連携したシステム構成

JP1/IM - Service Support と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は、資産管理サーバが JP1/IM - Service Support サーバと接続して、Asset Console で管理する機器の情報を JP1/IM - Service Support から参照する場合の構成を示しています。

図 4-6 JP1/IM - Service Support と連携したシステム構成例

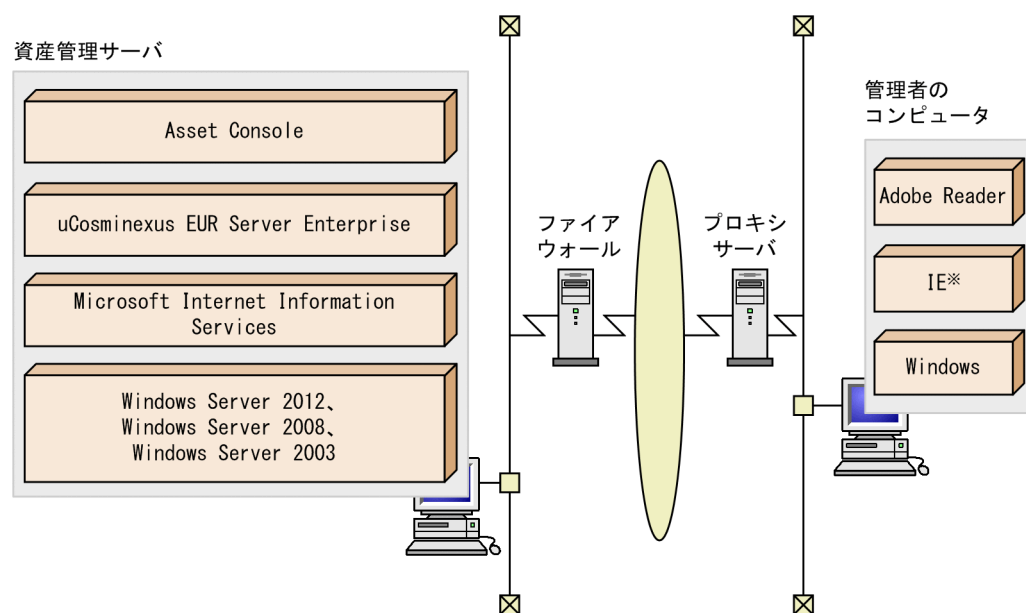


注※ IE:Windows Internet Explorer

4.2.4 EUR と連携したシステム構成

EUR と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は、Asset Console での検索結果を PDF ファイルとして出力し、表示・印刷する場合の構成を示しています。

図 4-7 EUR と連携したシステム構成例



注※ IE:Windows Internet Explorer

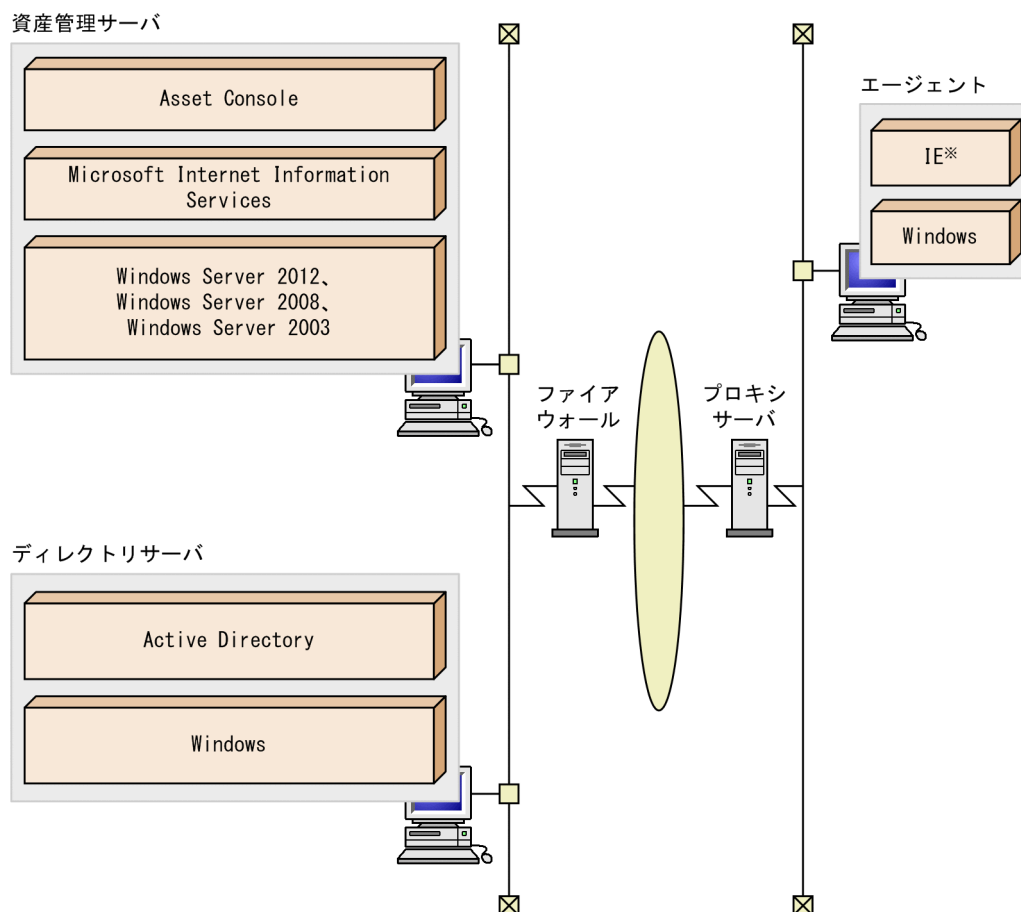
ユーザレポートとして作成した操作画面で、PDF ファイルの帳票を出力するには、帳票を作成するための uCosminexus EUR Server Enterprise が必要になります。

また、管理者のコンピュータには Adobe Reader 7.0（日本語版）以降をインストールする必要があります。

4.2.5 Active Directory と連携したシステム構成

Active Directory と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は、資産管理サーバがディレクトリサーバと接続して、Asset Console へのログイン時の認証をしたり、Active Directory が管理するユーザ情報を資産管理データベースに取り込んだりする場合の構成を示しています。

図 4-8 Active Directory と連携したシステム構成例



注※ IE:Windows Internet Explorer

4.2.6 クラスタシステムでのシステム構成

Asset Console をフェールオーバーさせる場合のクラスタシステムの構成例を次に示します。

Asset Console のプログラムのセットアップ時に、上位接続先を次のように設定してください。

<http://論理ホスト名、または論理 IP アドレス/jplasset/login.htm>

また、共用ディスクには、次のファイルを格納してください。

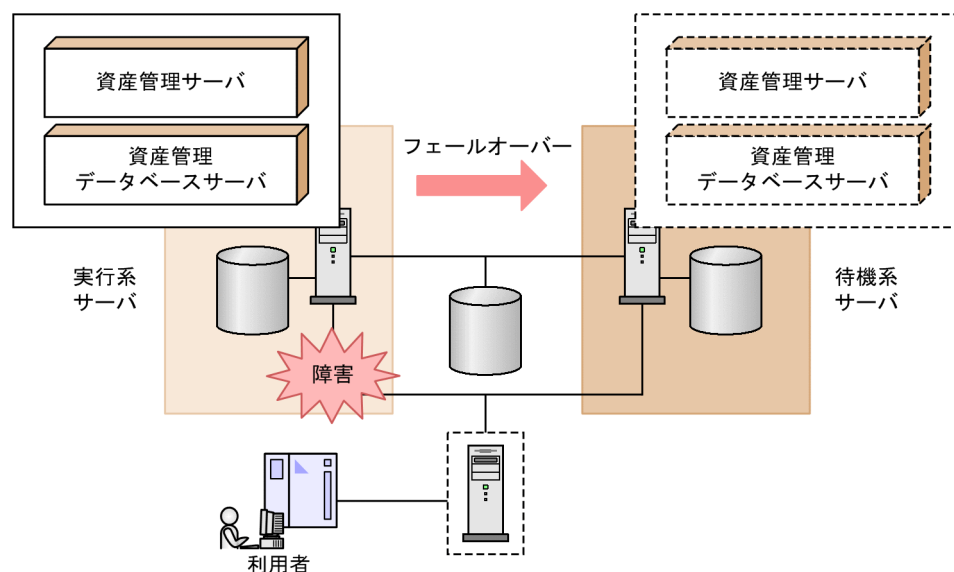
- DBMS のデータベースファイル
- トランザクションログファイル
- 資産管理サーバの仮想ディレクトリ以下のファイル

クラスタソフトのクラスタ環境上に、Asset Console のサービスを、フェールオーバー機能を使用する設定にすると、ハードウェアのトラブルや Asset Console のサービスのトラブルが自動的に検出され、実行系サーバから待機系サーバへ自動的に切り替えられます。

資産管理データベースサーバは、同一クラスタグループに設定することもできます。また、異なるクラスタグループに設定されている資産管理データベースサーバを使用することもできます。

クラスタシステムでのシステム構成例を次の図に示します。

図 4-9 クラスタシステムでのシステム構成例



5

インストールとセットアップ

この章では、Asset Console のインストールおよびアンインストールについて説明します。また、Asset Console を使用するためのセットアップ方法についても説明します。

5.1 Asset Console のセットアップの流れ

この節では、資産管理システムの環境をセットアップする流れについて説明します。資産管理システムの環境をセットアップする流れを、次の図に示します。

図 5-1 セットアップの流れ

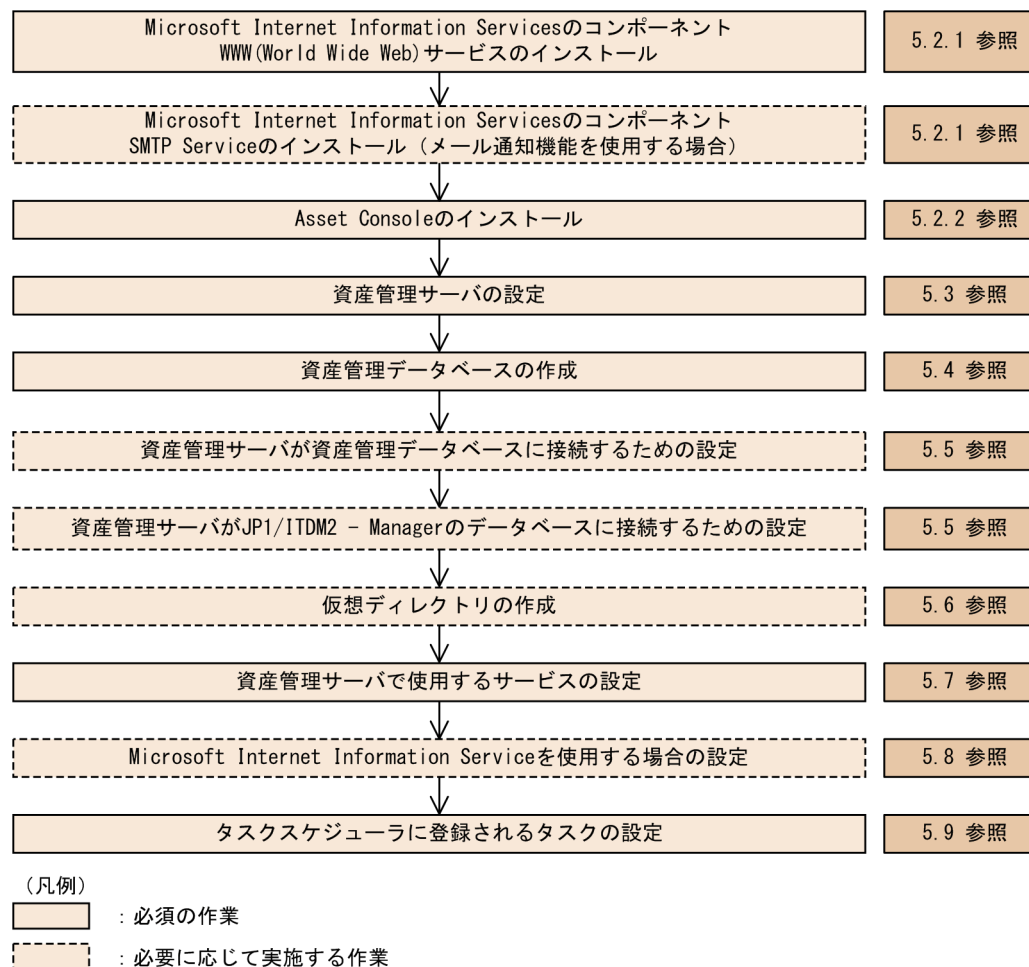


図 5-1 に示したセットアップの流れに従って、次の節以降でセットアップ方法を説明します。

注意事項

資産管理サーバの設定後、Windows のタスクスケジューラに作成されるタスク「データメンテナンス (Asset Console)」を有効にする必要があります。タスクの詳細および設定方法については、「[5.9 タスクスケジューラに登録されるタスクの設定](#)」を参照してください。

ポイント

テスト環境で登録したデータやシステム定義での設定を移行するには、業務メニュー「エクスポート」で資産管理データベースに登録した情報と設定情報を CSV ファイルに出力して、業務メニュー「インポート」で移行後の環境にインポートします。業務メニュー「エクスポート」および「インポート」の操作手順については、マニュアル「運用ガイド」の「4.11 資産情報

を CSV 形式で出力する（エクスポート）」および「4.10 資産情報を一括で更新する（インポート）」を参照してください。

5.1.1 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報を取得するために必要な作業の流れ

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携するためには、Asset Console のインストール時から、必要な設定があります。そのため、Asset Console のセットアップと併せて、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携するために必要な作業についても、確認しておいてください。

1. JP1/IT Desktop Management 2 - Manager との連携に必要な各種設定

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のデータベースに接続するためのログイン ID およびサービス名などを [サーバセットアップ] ダイアログで設定します。

設定項目の詳細については、「[5.3.7 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報取得の設定](#)」を参照してください。

また、管理情報の引き当て方法の設定、ソフトウェア名称の割り当て方法などは [ITDM2 管理情報取得] 画面で設定します。

2. データソースの作成

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のデータベースに接続するため、セットアップ時に、データソースを作成します。データソースの作成方法については「[5.5 データソースの作成](#)」を参照してください。

3. 資産番号、利用者名、部署、および設置場所の情報を取り込む設定

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報を資産番号に設定する場合、および管理情報から利用者名、部署、設置場所を取り込む場合は、各項目に引き当てる JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報を設定する必要があります。

また、これ以外にも、引き当て項目を変更したり、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報から取得する情報を追加したりすることもできます。

管理項目への JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報の引き当て方法については、マニュアル「運用ガイド」の「[4.14 引き当て項目の設定 \(ITDM2 管理情報取得\)](#)」を参照してください。

4. タスクの設定

Windows のタスクスケジューラに登録されているタスクを利用して定期的に JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報を取得する場合は、タスク「ITDM2 - Manager 管理情報の取得 (Asset Console)」を有効にします。デフォルトでは、無効になっています。

タスクの設定については、「[5.9 タスクスケジューラに登録されるタスクの設定](#)」を参照してください。

5.2 Asset Console のインストールとアンインストール

この節では、資産管理システムを運用するときに利用するプログラムのインストール方法について説明します。また、Asset Console のアンインストール方法についても説明します。

5.2.1 前提プログラムのインストール

資産管理サーバおよび管理者のコンピュータに必要な前提プログラムのインストール方法について説明します。

(1) 資産管理サーバに必要な前提プログラムのインストール

- Windows Server 2012、Windows Server 2008、または Windows Server 2003
Windows Server 2012、Windows Server 2008、および Windows Server 2003 のインストールについては、それぞれのインストールに関するマニュアルおよびオンラインヘルプの記述を参照してください。
- Microsoft Internet Information Services
Microsoft Internet Information Services のインストールについては、Windows のマニュアルで Microsoft Internet Information Services のインストール方法に関する記述を参照してください。
- Simple Mail Transport Protocol (SMTP)
Windows のタスクスケジューラに登録されたタスクの実行結果を、資産管理者にメールで通知する場合、または案件を送付したことを次の作業者にメールで通知する場合にインストールします。Simple Mail Transport Protocol (SMTP) のインストールについては、Windows のマニュアルを参照してください。

(2) 管理者のコンピュータに必要な前提プログラムのインストール

- Windows Internet Explorer 7、Windows Internet Explorer 8、Windows Internet Explorer 9、Windows Internet Explorer 10、または Windows Internet Explorer 11
Windows Internet Explorer のインストールについては、Windows Internet Explorer のインストールに関する説明内容を参照してください。
Asset Console は、日本語環境だけに対応しているため、ブラウザの言語設定は、日本語[ja]が最上位となるように設定してください。それ以外を設定したときの画面動作は保証の対象外となります。

5.2.2 Asset Console のインストール

Asset Console のインストール方法について説明します。

(1) インストール時の注意事項

Asset Console をインストールする際の注意事項を次に示します。

- 次の製品がインストールされているマシンにはインストールできません。
 - JP1/NETM/Asset Information Manager
 - JP1/Asset Manager および JP1/NETM/Asset Manager
 - JP1/NETM/Asset Information Manager Smart Edition
 - JP1/NETM/Asset Information Manager for Blade PC
 - JP1/NETM/DM Asset Information Manager Limited
- Asset Console のインストール先のフォルダを指定する際、インストール先のパスには、全角文字が含まれないようにしてください。
- Asset Console のインストール先フォルダとして、ドライブ直下や他アプリケーションのフォルダを指定しないでください。Asset Console のファイルによって上書きされるおそれがあるため、Asset Console 専用のフォルダを作成し、そのフォルダにインストールすることをお勧めします。
- すでにインストールされているコンポーネントを再インストールする場合は、メンテナンスの画面で「修正」を選択します。
- 再インストール時は、次の設定は変更できません。
 - プログラムフォルダ
 - 資産管理サーバの仮想ディレクトリ
- コンポーネントの追加および削除をする場合に、インストール中に [キャンセル] ボタンをクリックしてインストールを中断したときは、必ず再度 Asset Console をインストールしてください。
- インストール先のドライブの直下に「tmp」フォルダが作成されます。「tmp」フォルダは、削除しないでください。
- インストールしたあとに、データベースのバックアップをリストアするときに、使用するドライブ名が違ったり、インストール先フォルダが違ったりすると、リストアできません。別のマシンなどでバックアップしたデータベースを利用する場合は、バックアップを取得したときと同一のパスになるようにインストールしてください。
- 再起動が必要な場合は再起動要求のダイアログが表示されるので、使用する前に必ず再起動してください。再起動しない状態では、動作に必要な環境情報が設定されていないため、資産管理サーバを起動するとエラーが発生します。
- 64 ビットの Microsoft Internet Information Service を前提とするソフトウェアがインストールされているマシンには、Asset Console を構築できません。

(2) インストール前の作業

Asset Console をインストールする前に、次の作業を実施してください。また、64 ビットの OS に Asset Console をインストールする場合は、32 ビットのアプリケーションを動作させるための設定が必要です。

設定方法については、「[付録 F.1 64 ビットの OS に Asset Console をインストールする場合の注意事項](#)」を参照してください。

- Administrators 権限を持つユーザで Windows Server 2012、Windows Server 2008、または Windows Server 2003 にログオンする。
- すべての Windows アプリケーションを終了する。
- タスクスケジューラのサービスを起動する。
Asset Console が提供するタスクを Windows のタスクスケジューラに登録するには、サービス「Task Scheduler」を起動させておく必要があります。

- サービス、コマンド、およびタスクを停止する。
コンポーネントを再インストールする場合、Asset Console のサービス、コマンド、および、タスクをすべて停止してください。

新規インストールの場合、World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing を停止してください。

上書きインストールの場合は次に示す順番で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Console のコマンドおよびタスク

また、上書きインストールしたあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

なお、ODBC データソースで接続プールが設定されている場合、Asset Console の業務を停止してから、接続プールで設定されているタイムアウトの時間が経過するまで接続状態になります。そのため、接続状態の解除を待ってから、Asset Console をインストールしてください。

- Microsoft Internet Information Services 7.0、7.5、8.0、または 8.5 を使用する場合、仮想ディレクトリが自動作成されるよう、Asset Console をインストールする前に必要な役割サービスをインストールしておくことをお勧めします。Asset Console をインストールしたあとに必要な役割サービスをインストールしても、仮想ディレクトリが自動作成されないので注意してください。役割サービスのインストール方法については、「[5.8.2\(1\) 役割サービスのインストール](#)」を参照してください。

(3) インストール手順

Asset Console のインストール手順を次に示します。

1. 提供媒体を CD/DVD ドライブにセットする。

起動したインストーラの指示に従ってインストールを進めます。インストール時には、インストール先フォルダを設定します。

インストーラを起動すると、インストールする対象を選択するダイアログが表示されるので、Asset Console を選択します。

2. [インストール実行] ボタンをクリックする。

インストールの開始を確認するダイアログが表示されます。

3. [OK] ボタンをクリックする。

Asset Console のインストールを開始するダイアログが表示されます。

4. [次へ] ボタンをクリックする。

ユーザ情報を入力するダイアログが表示されます。

5. ユーザ名、会社名を入力する。

6. [次へ] ボタンをクリックする。

インストール先のフォルダを指定するダイアログが表示されます。

7. インストール先のフォルダを指定する。

指定したフォルダにインストールされます。デフォルトのインストール先を次に示します。

x86 環境の場合

C:\Program Files\Hitachi\jplasset

x64 環境の場合

C:\Program Files (x86)\Hitachi\jplasset

C:は、OS がインストールされているドライブ名です。

8. [次へ] ボタンをクリックする。

資産管理サーバの仮想ディレクトリを設定するダイアログが表示されます。

ファイルを大量にアップロードする場合や、クラスタ構成で仮想ディレクトリを共有フォルダにする必要がある場合など、仮想ディレクトリを変更する場合は仮想ディレクトリに設定するフォルダを指定してください。

9. [次へ] ボタンをクリックする。

プログラムフォルダを確認するためのダイアログが表示されます。プログラムアイコンを追加するフォルダを確認してください。デフォルトのフォルダ名は「JP1_IT Desktop Management 2 - Asset Console」です。

10. [次へ] ボタンをクリックする。

現在の設定内容を確認するためのダイアログが表示されます。設定内容を確認してください。

11. [次へ] ボタンをクリックする。

インストールが始まります。

インストールが終了すると、インストールが終了したことを通知するダイアログが表示されます。

また、コンピュータを再起動するかどうかを確認するダイアログが表示された場合は、使用する前にコンピュータを再起動してください。再起動しない状態では、動作に必要な環境情報が設定されていないため、資産管理サーバが正しく動作しません。

5.2.3 Asset Console のアンインストール

Asset Console のアンインストール方法について説明します。

アンインストールする前に、次のサービス、コマンド、およびタスクを下記の順番で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Console のコマンドおよびタスク

注意事項

- アンインストールしても、インストール先フォルダやファイル、Microsoft Internet Information Services の仮想ディレクトリが削除されないで残ることがあります。再インストールする場合は、残ったフォルダを削除してください。
- アンインストールすると資産管理データベース内のテーブルも削除されます。アンインストール後に使用する場合は、あらかじめバックアップを取得しておいてください。

データベースのバックアップの取得方法については、「[12.1.2\(1\) \[データベースマネージャ\] ダイアログからの資産管理データベースのバックアップ](#)」を参照してください。

Asset Console をアンインストールする手順を次に示します。

1. コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を開いて「JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console」を選択し、「アンインストール」ボタンをクリックする。

プログラムの削除を確認するダイアログが表示されます。

2. [はい] ボタンをクリックする。

Asset Console がアンインストールされます。ただし、インストール後に作成したファイルまたはフォルダは削除されません。

アンインストールが終了すると、アンインストールが終了したことを通知するダイアログが表示されます。

5.3 資産管理サーバの設定

Asset Console では、セットアップに必要な情報を [サーバセットアップ] ダイアログで設定します。この節では、[サーバセットアップ] ダイアログでの設定内容と手順について説明します。

[サーバセットアップ] ダイアログでは、次に示す項目を設定します。

- データベース情報

資産管理データベースに接続するためのログイン ID やサービス名などを設定します。

- セッション情報

強制ログアウトさせる時間および同時にログインできるユーザ数を設定します。

- 基本情報

操作画面の表示項目、操作時の上限値などを設定します。

- メール通知情報

メール通知するための送信先アドレスなどを設定します。

- ディレクトリサーバ連携

ディレクトリサーバで使用する文字コードの種別や、ディレクトリサーバとの連携に必要なサーバ名やポート番号などを設定します。この設定は、ディレクトリサーバを使用しない場合は不要です。

- ITDM2 連携

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携して、管理情報を収集するためのログイン ID やサービス名などを設定します。この設定は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携する場合にだけ必要です。

5.3.1 [サーバセットアップ] ダイアログでの設定

ここでは、[サーバセットアップ] ダイアログの各項目を設定する手順について説明します。

1. [スタート] ボタンをクリックして [プログラム] - [JP1_IT Desktop Management 2 - Asset Console] をポイントし、次に [セットアップ] を選択する。

[セットアップ] ダイアログが表示されます。

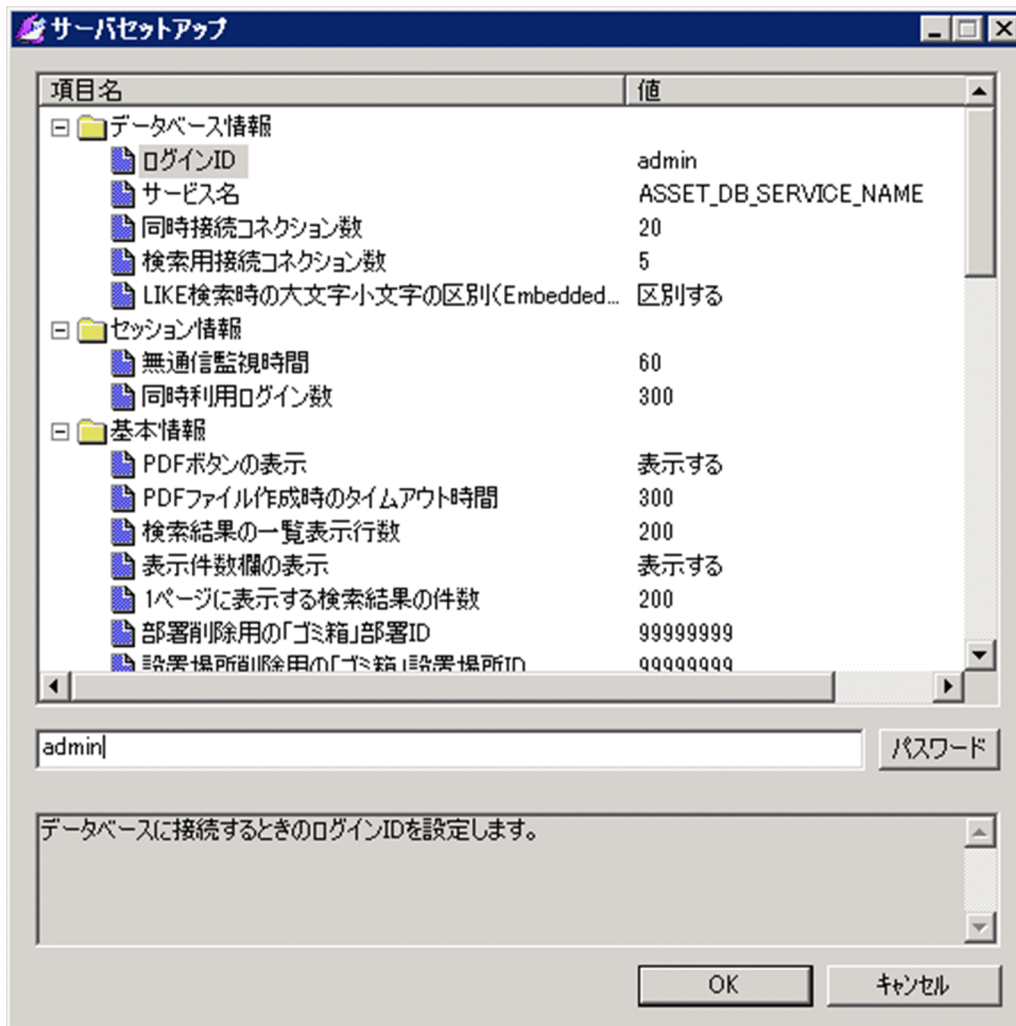
2. [サーバセットアップ] のアイコンをクリックする。

[サーバセットアップ] ダイアログが表示されます。

3. 一覧から設定したい項目を選択する。

選択した項目の値を設定する入力領域やプルダウンメニューが、一覧の下に表示されます。

図 5-2 「サーバセットアップ」 ダイアログ



4. 使用する環境に合わせて値を設定する。

なお、次に示す項目を設定する場合は、[パスワード] ボタンをクリックすると表示される [パスワード設定] ダイアログで、パスワードを設定してください。

- 「データベース情報」の「ログイン ID」
- 「ディレクトリサーバ連携」の「アクセスユーザ」
- 「JP1/ITDM2 連携」の「JP1/ITDM2-Manager データベースログイン ID」

5. [OK] ボタンをクリックする。

指定した内容で資産管理サーバの環境が設定されて、[サーバセットアップ] ダイアログが閉じます。環境設定をしないで [サーバセットアップ] ダイアログを閉じるには、[キャンセル] ボタンをクリックします。

5.3.2 データベース情報の設定

「データベース情報」では、資産管理データベースに接続するためのログイン ID やサービス名などを設定します。

「データベース情報」で設定する項目を次に示します。

(1) ログイン ID

「ログイン ID」では、データベース接続ユーザのログイン ID を設定します。データベースの作成方法については、「[5.4 資産管理データベースの作成](#)」を参照してください。

また、「パスワード設定」ダイアログでパスワードを設定します。

この項目は必ず設定してください。

- 指定できる値

「ログイン ID」およびパスワードには、1～8 バイトの文字を指定してください。デフォルトは、「ログイン ID」およびパスワードのどちらも「admin」です。

「ログイン ID」およびパスワードに指定する値には、次に示す文字以外は指定できません。

- 半角英字 (A～Z、a～z)
- 半角数字 (0～9)

また、先頭の文字には、必ず半角英字を指定してください。

ここで設定した値は、次に示すダイアログの「接続ユーザ ID」に反映されます。ただし、資産管理データベースの新規作成後に値を変更した場合は、データソースを再作成してください。

- データベースの基本設定のダイアログ
- データソースを作成するダイアログ

(2) サービス名

「サービス名」では、資産管理用のサービス名を設定します。

この項目は、必ず設定してください。

- 指定できる値

1～63 バイトの半角英数字および記号です。デフォルトは「ASSET_DB_SERVICE_NAME」です。

「サービス名」に指定する値には、「!」、「(」、「)」、「*」、「,」、「;」、「=」、「?」、「@」、「[」、「】」、「{」、「}」、および半角スペースは指定できません。

ここで設定した値は、次に示すダイアログの「ODBC データソース名」に反映されます。ただし、資産管理データベースの新規作成後に値を変更した場合は、データソースを再作成してください。

- データベースの基本設定のダイアログ
- データソースを作成するダイアログ

(3) 同時接続コネクション数

「同時接続コネクション数」では、データベースに同時に接続するコネクション数を設定します。

なお、この項目は設定を省略できます。

- 指定できる値
1～64 です。デフォルトは 20 です。この項目では、「データベース情報」の「検索用接続コネクション数」よりも大きい値を指定してください。

(4) 検索用接続コネクション数

「検索用接続コネクション数」では、データベースに長時間接続する必要のあるトランザクションが同時に接続できるコネクション数を設定します。この設定をすることで、検索要求といった、長時間のトランザクションによるデータベース接続の占有を防げます。

なお、この項目は設定を省略できます。

- 指定できる値
1～64 です。デフォルトは 5 です。この項目では、「データベース情報」の「同時接続コネクション数」よりも小さい値を指定してください。

(5) LIKE 検索時の大文字小文字の区別

「LIKE 検索時の大文字小文字の区別」では、前方一致および後方一致を含む部分一致で検索するときに、大文字と小文字を区別するかどうかを設定します。

- 指定できる値
 - 「区別する」(デフォルト)
大文字と小文字を区別します。
 - 「区別しない」
大文字と小文字を区別しません。

5.3.3 セッション情報の設定

「セッション情報」では、強制ログアウトさせる時間、および同時にログインできるユーザ数を設定します。

「セッション情報」で設定する項目を次に示します。

(1) 無通信監視時間

「無通信監視時間」では、Web ブラウザから一定時間操作しない場合に、強制ログアウトするまでの時間を設定します。

なお、この項目は設定を省略できます。

- 指定できる値
5～2,880 分です。デフォルトは 60 分です。

(2) 同時利用ログイン数

「同時利用ログイン数」では、Asset Console を同時に利用できるログインユーザ数を設定します。

この項目は、必ず設定してください。

- 指定できる値
1～100,000 です。デフォルトは 300 です。

5.3.4 基本情報の設定

「基本情報」では、操作画面に表示される項目、操作を実行する際の上限值などを設定します。

「基本情報」で設定する項目を次に示します。

(1) PDF ボタンの表示

「PDF ボタンの表示」では、EUR と連携して、[PDF] ボタンから PDF ファイルを表示するかどうかを選択します。

EUR と連携する場合、「表示する」を指定してください。

- 指定できる値
 - 「表示する」(デフォルト)
[PDF] ボタンを表示します。
 - 「表示しない」
[PDF] ボタンを表示しません。

(2) PDF ファイル作成時のタイムアウト時間

「PDF ファイル作成時のタイムアウト時間」では、EUR と連携して、PDF ファイルを作成する際の終了時間を設定します。ここで設定した時間を超過した場合は、PDF ファイルの作成処理がキャンセルされます。

この項目に 0 を設定した場合、PDF ファイルの作成処理を終了するまで待ちます。ただし、Web ブラウザの応答待ち時間のタイムアウトよりも PDF ファイルの作成に時間が掛かる場合、Web ブラウザとの接続が中断され、PDF ファイルの作成が中断されることがあります。

なお、この項目は設定を省略できます。

- 指定できる値

0～99,999 秒です。デフォルトは 300 秒です。

(3) 検索結果の一覧表示行数

「検索結果の一覧表示行数」では、操作画面で検索した結果の一覧の表示件数を設定します。この設定は、検索結果がページで区切られていない画面に適用されます。検索結果がページで区切られている画面名は、<Asset Console のインストール先フォルダ>¥help¥ScreenWithPage.pdf を参照してください。ScreenWithPage.pdf に記載されていない画面に、この設定が適用されます。

なお、この項目は設定を省略できます。

- 指定できる値

1～1,000 件です。デフォルトは 200 件です。

(4) 表示件数欄の表示

「表示件数欄の表示」では、1 ページに表示する検索結果の件数を指定する「表示件数」の欄を、操作画面上に表示するかどうかを選択します。この設定は、検索結果がページで区切られて表示される画面のうち、検索を実行する画面に適用されます。検索結果がページで区切られている画面名は、<Asset Console のインストール先フォルダ>¥help¥ScreenWithPage.pdf を参照してください。

- 指定できる値

- 「表示する」(デフォルト)

「表示件数」の欄を表示します。

- 「表示しない」

「表示件数」の欄を表示しません。1 ページあたりに表示される検索結果の件数は、[サーバセットアップ] ダイアログの「基本情報」の「1 ページに表示する検索結果の件数」で設定した値で固定となります。

(5) 1 ページに表示する検索結果の件数

「1 ページに表示する検索結果の件数」では、操作画面で検索した結果の、1 ページに表示する件数を設定します。この設定は、検索結果がページで区切られて表示される画面に適用されます。検索結果がページで区切られている画面名は、<Asset Console のインストール先フォルダ>¥help¥ScreenWithPage.pdf を参照してください。

なお、この項目は設定を省略できます。

- 指定できる値

1～1,000 件です。デフォルトは 200 件です。

(6) 部署削除用の「ゴミ箱」部署 ID

部署を削除した場合に、削除した部署に登録されていたユーザ情報を一時退避するために「ゴミ箱」という部署が自動的に作成されます。「部署削除用の「ゴミ箱」部署 ID」では、「ゴミ箱」の部署 ID を設定します。

なお、この項目は設定を省略できます。

- 指定できる値

0～64 文字の英数字です。デフォルトは、「99999999」です。

(7) 設置場所削除用の「ゴミ箱」設置場所 ID

設置場所を削除した場合に、削除した設置場所を一時退避するために「ゴミ箱」という設置場所が自動的に作成されます。「設置場所削除用の「ゴミ箱」設置場所 ID」では、「ゴミ箱」の設置場所 ID を設定します。

なお、この項目は設定を省略できます。

- 指定できる値

0～64 文字の英数字です。デフォルトは、「99999999」です。

(8) ライセンス超過のしきい値

「ライセンス超過のしきい値」では、ソフトウェアのライセンスを超過して使用した場合に送信される警告のしきい値を設定します。しきい値は、%（パーセント）で設定します。保有数を超過して使用しているライセンスの通知方法については、「[5.9.1 タスクの種類](#)」を参照してください。

タスクスケジューラを使用して、ライセンス超過のメールを通知する場合、この項目は必ず設定してください。

- 指定できる値

0～100%です。デフォルトは 100%です。

(9) 自動ログインの設定

「自動ログインの設定」では、次に示す連携製品から Asset Console の情報を参照するときのログイン画面に、「次回以降は自動的にログインする」というチェックボックスを表示するかどうかを選択します。

- JP1/IM
- JP1/IM - Service Support

「次回以降は自動的にログインする」にチェックしてログインすると、Cookieの有効期限内は、ログイン画面での「ユーザID」と「パスワード」の指定を省略できます。

- 指定できる値
 - 「表示する」(デフォルト)
「次回以降は自動的にログインする」というチェックボックスを表示します。
 - 「表示しない」
「次回以降は自動的にログインする」というチェックボックスを表示しません。

(10) Cookie 有効期限日数

「Cookie 有効期限日数」では、次に示す連携製品から Asset Console の資産情報を参照する際、ログイン時の「ユーザID」と「パスワード」を保存して、次回から自動的にログインできる期限を日数で指定します。

- JP1/IM
- JP1/IM - Service Support

なお、この項目は設定を省略できます。

- 指定できる値
1～365 日です。デフォルトは 14 日です。

(11) 部署別 IP グループを使用した部署の設定

「部署別 IP グループを使用した部署の設定」では、IP アドレスに合わせて、機器を使用している部署を設定するかどうかを選択します。IP アドレスに対応する部署は、業務メニュー「IP グループ管理」で登録します。また、「部署」は、ハードウェア資産情報の「IP アドレス」に合わせて設定されます。

この設定は、タスク「データメンテナンス (Asset Console)」の実行時に有効になります。ただし、タスク「データメンテナンス (Asset Console)」の実行時に有効にするには、設定ファイル (taskopt.ini) を変更する必要があります。設定ファイルの変更方法については、「[5.9.3\(3\) 実施する作業の変更](#)」を参照してください。

- 指定できる値
 - 「設定しない」(デフォルト)
IP アドレスに対応した機器の「部署」は設定されません。
 - 「設定する」
IP アドレスに対応する部署が、機器の「部署」として設定されます。すでに値が設定されていても、対応する IP グループの部署の値で上書きされます。
業務メニュー「IP グループ管理」での設定に合わせて「部署」を更新する場合は、この値を指定してください。

- 「部署が未設定のときのみ設定する」

機器の「部署」が登録されていないときだけ、IP アドレスに対応する部署が設定されます。
主に、新規登録の機器に「部署」を設定したい場合などに、指定してください。

注意事項

「設定する」を選択した場合でも、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報から取得した値、または新規機器登録画面や「機器詳細」ダイアログで入力した値が設定されている場合は、上書きされません。そのため、すべての機器に対応する IP グループの部署の値を設定したい場合は、業務メニュー「一括変更」で、一度すべての「部署」の値を削除してください。また、業務メニュー「ITDM2 管理情報取得」で、「資産情報.部署」の「上書き設定」が「上書きする（データがない場合は上書きしない）」に設定されていることを確認してください。

参考

タスク「データメンテナンス (Asset Console)」を使用することで、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報から取得した値、または新規機器登録画面や「機器詳細」ダイアログで入力した値が設定されている場合でも、業務メニュー「IP グループ管理」での設定に合わせて部署を更新できます。タスク「データメンテナンス (Asset Console)」での設定方法については、「[5.9.3 タスク「データメンテナンス \(Asset Console\)」で実施する作業の指定](#)」を参照してください。

(12) 設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定

「設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定」では、IP アドレスに対応する設置場所を機器の「設置場所」に設定するかどうかを選択します。IP アドレスに対応する設置場所は、業務メニュー「IP グループ管理」で登録します。また、「設置場所」は、ハードウェア資産情報の「IP アドレス」に合わせて設定されます。

この設定は、タスク「データメンテナンス (Asset Console)」の実行時に有効になります。ただし、タスク「データメンテナンス (Asset Console)」の実行時に有効にするには、設定ファイル (taskopt.ini) を変更する必要があります。設定ファイルの変更方法については、「[5.9.3\(3\) 実施する作業の変更](#)」を参照してください。

- 指定できる値

- 「設定しない」(デフォルト)

IP アドレスに対応した機器の「設置場所」は設定されません。

- 「設定する」

IP アドレスに対応する設置場所が、機器の「設置場所」として設定されます。すでに値が設定されていても、対応する IP グループの設置場所の値で上書きされます。

業務メニュー「IP グループ管理」での設定に合わせて「設置場所」を更新する場合は、この値を指定してください。

- 「設置場所が未設定のときのみ設定する」

機器の「設置場所」が登録されていないときだけ、IP アドレスに対応する設置場所が設定されます。主に、新規登録の機器に「設置場所」を設定したい場合などに、指定してください。

注意事項

「設定する」を選択した場合でも、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報から取得した値、または新規機器登録画面や【機器詳細】ダイアログで入力した値が設定されている場合は、上書きされません。そのため、すべての機器に対応する IP グループの設置場所の値を設定したい場合は、業務メニュー「一括変更」で、一度すべての「設置場所」の値を削除してください。また、業務メニュー「ITDM2 管理情報取得」で、「資産情報.設置場所」の「上書き設定」が「上書きする（データがない場合は上書きしない）」に設定されていることを確認してください。

参考

タスク「データメンテナンス (Asset Console)」を使用することで、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報から取得した値、または新規機器登録画面や【機器詳細】ダイアログで入力した値が設定されている場合でも、業務メニュー「IP グループ管理」での設定に合わせて設置場所を更新できます。タスク「データメンテナンス (Asset Console)」での設定方法については、[「5.9.3 タスク「データメンテナンス \(Asset Console\)」で実施する作業の指定」](#)を参照してください。

(13) DHCP アドレスの変更履歴の取得

「DHCP アドレスの変更履歴の取得」では、機器の IP アドレスを変更した際に取得する変更履歴のうち、DHCP で割り当てられた IP アドレスの変更履歴を取得するかどうかを選択します。

- 指定できる値

- 「取得する」

機器の IP アドレスの変更を、すべて変更履歴として取得します。

- 「取得しない」(デフォルト)

機器の IP アドレスの変更のうち、DHCP で割り当てた IP アドレスの変更は、変更履歴として取得しません。ただし、ネットワークカードの追加・削除による MAC アドレス追加・削除時には、このオプションを選択しても、変更履歴を取得します。

DHCP サーバを使用している機器と判定されるのは、次のうちどれかに該当する場合です。

- 該当する機器に割り当てたネットワーク情報に、「DHCP サーバ名」が設定されている。
- IP アドレスが、業務メニュー「IP グループ管理」で DHCP 運用のグループとして定義された IP アドレスの範囲に含まれている。
- JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得した管理情報で、DHCP が有効になっている機器の MAC アドレスに割り当てられた IP アドレス。

(14) 部署ツリー表示のソートキー

「部署ツリー表示のソートキー」では、部署ツリーや部署の一覧に表示される部署名のソートキーを、部署情報（GroupInfo）のプロパティから選択します。このソートキーが適用される画面およびダイアログを次に示します。

- 各操作画面（簡易検索条件）
- [部署参照] ダイアログ
- [部署参照] ダイアログの分掌部署（一覧）
- [ユーザ参照] ダイアログ
- [代行者の設定] ダイアログ
- [分掌登録] ダイアログ
- [分掌更新] ダイアログ
- [分掌割り当て] ダイアログ
- [送信先の選択] ダイアログ
- 指定できる値
 - 「部署 ID」
 - 「部署名」
 - 「部署名（英名）」
 - 「部署」（デフォルト）
 - 「固有情報 Field128-1」
 - 「固有情報 Field128-2」
 - 「固有情報 Field255-1」
 - 「固有情報 Field255-2」

(15) 契約履歴の取得

「契約履歴の取得」では、契約情報の登録内容を契約履歴として管理するかどうかを選択します。

- 指定できる値
 - 「取得する」

新規契約登録画面での登録時、および [契約詳細] ダイアログで契約情報を更新する際に、契約履歴が登録されるようになります。[契約詳細] ダイアログで契約情報を更新する際は、契約履歴として登録するかどうかを選択できます。また、[契約詳細] ダイアログに [履歴情報] ボタンが表示されて、履歴情報を参照できるようになります。
 - 「取得しない」（デフォルト）

契約情報を登録および更新しても、履歴を取得しません。また、[契約詳細] ダイアログに [履歴情報] ボタンは表示されません。

(16) 代行案件のデフォルト表示

「代行案件のデフォルト表示」では、受信トレイ画面の「代行案件も表示する」チェックボックスにデフォルトでチェックして、代行案件を表示するかどうかを選択します。

- 指定できる値
 - 「表示する」
受信トレイ画面を表示する際、デフォルトで代行案件を表示します。
 - 「表示しない」(デフォルト)
受信トレイ画面を表示する際、デフォルトで代行案件を表示しません。

(17) 案件送信トレイからの新規作成

「案件送信トレイからの新規作成」では、案件を複写して新規に作成できるようにするか如何选择します。

- 指定できる値
 - 「作成する」
業務メニュー「送信トレイ」の送信トレイ画面、および「送信トレイ」の「案件名」のアンカーをクリックして表示される案件画面に [複写して新規] ボタンが表示されます。これによって、案件を複写して新規作成できるようになります。
 - 「作成しない」(デフォルト)
[複写して新規] ボタンが表示されません。

(18) 保有機器検索画面の機器状態

「保有機器検索画面の機器状態」では、保有機器集計画面、保有機器一覧画面および関連機器登録画面の検索条件「機器状態」に表示する機器の状態を選択します。

- 指定できる値
 - 「運用コード範囲の表示」(デフォルト)
機器状態のコードの範囲が 0~499 のものを表示します。デフォルトでは、「運用」および「在庫」を表示します。
 - 「すべてのコード範囲を表示」
機器状態のコードの範囲が 0~999 のものを表示します。デフォルトでは、「運用」、「在庫」、「返却」、「廃棄」、「仮廃棄」、および「抹消」を表示します。

(19) 変更履歴情報管理

「変更履歴情報管理」では、管理対象とする機器の初回の変更履歴を管理するかどうかを選択します。JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から管理情報を取り込む性能を向上させたい場合は、「管理しない」を選択することをお勧めします。

- 指定できる値
 - 「管理する」
タスク「履歴情報の削除 (Asset Console)」を実行する際、初回の変更履歴は削除されないで残ります。
 - 「管理しない」(デフォルト)
タスク「履歴情報の削除 (Asset Console)」を実行する際、初回の変更履歴も残さないで削除されます。

(20) 監査ログ出力

「監査ログ出力」では、監査ログを出力するかどうかを選択します。

- 指定できる値
 - 「監査ログを出力しない」(デフォルト)
監査ログを出力しません。
 - 「監査ログを出力する」
「監査ログ出力先フォルダ名」で指定したフォルダに、監査ログを出力します。

(21) 監査ログ出力先フォルダ名

「監査ログ出力先フォルダ名」では、監査ログを出力するフォルダを指定します。

- 指定できる値
3～240 バイトです。次に示す記号は使用できません。
「#」、「/」、「,」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」
また、フルパスで指定してください。
デフォルトは、<Asset Console のインストール先フォルダ>%auditlog です。

5.3.5 メール通知情報の設定

「メール通知情報」では、タスクスケジューラを使用して資産の運用状況をメールで通知するかどうか、および通知する場合のメール送信先のアドレスを設定します。タスクスケジューラに登録されたタスクの設定方法については、「[5.9 タスクスケジューラに登録されるタスクの設定](#)」を参照してください。

また、案件の代行受信が設定されているユーザに、案件実行時にメールで通知するかどうかを設定します。案件の代行受信の設定については、マニュアル「運用ガイド」の「3.2.2 代行者を設定する」を参照してください。

「メール通知情報」で設定する項目を次に示します。

(1) メールによる通知

「メールによる通知」では、タスクスケジューラを使用して、自動的にメールで通知するかどうかを設定します。

メールで通知する場合は、「通知する」を指定してください。

- 指定できる値
 - 「通知する」
メールで通知します。
 - 「通知しない」（デフォルト）
メールで通知しません。

(2) 案件代行者へのメール通知

「案件代行者へのメール通知」では、案件の代行者を設定している場合、代行者にメールで通知するかどうかを設定します。

メールで通知する場合は、「通知する」を設定してください。この場合、案件の代行者に設定されたユーザには、カーボンコピー（CC）で通知されます。

- 指定できる値
 - 「通知する」
案件の代行者にも、メールで通知します。
 - 「通知しない」（デフォルト）
案件の代行者には、メールで通知しません。

(3) メールの送信先アドレス

「メールの送信先アドレス」では、タスクスケジューラに登録されたタスクの実行結果を、メールで通知する場合の送信先アドレスを設定します。複数の送信先アドレスを設定する場合、アドレス間は「,」（コンマ）で区切ってください。

メールで通知する場合、この項目は必ず設定してください。

- 指定できる値

5～160 文字の「@」（単価記号）で区切られた英数字および「_」（アンダーバー）、「-」（ハイフン）、「.」（ピリオド）です。デフォルトは空白です。

(4) メールの送信元アドレス

「メールの送信元アドレス」では、タスクスケジューラに登録されたタスクの実行結果を、メールで通知する場合の送信元アドレスを設定します。複数の送信元アドレスを設定する場合、アドレス間は「,」（コンマ）で区切ってください。

- 指定できる値

5～160 文字の「@」（単価記号）で区切られた英数字および「_」（アンダーバー）、「-」（ハイフン）、「.」（ピリオド）です。デフォルトは、「manager@asset.message」です。

5.3.6 ディレクトリサーバ連携の設定

「ディレクトリサーバ連携」では、ディレクトリサーバと連携してログイン認証する場合に必要なサーバ名やポート番号などを設定します。また、アクセス定義ファイルを作成してディレクトリサーバと連携する場合にディレクトリサーバが使用している文字コードの種別を設定します。

「ディレクトリサーバ連携」で設定する項目を次に示します。

(1) ディレクトリサーバの使用

「ディレクトリサーバの使用」では、ディレクトリサーバを使用して、ログイン認証するかどうかを選択します。

ディレクトリサーバを使用してログイン認証をする場合は、「認証に使用する」を選択してください。

- 指定できる値

- 「認証に使用する」

ディレクトリサーバをログイン認証に使用します。

- 「使用しない」（デフォルト）

ログイン認証にディレクトリサーバを使用しません。

(2) コードセット

「コードセット」では、使用する文字コードの種別を選択します。アクセス定義ファイルを作成してディレクトリサーバと連携する場合は、必ず設定してください。

- 指定できる値

- 「SHIFT-JIS」

シフト JIS コードが設定されます。

- 「UTF-8」(デフォルト)
UTF-8 が設定されます。

(3) サーバ名

「サーバ名」では、ディレクトリサーバのホスト名または IP アドレスを設定します。ディレクトリサーバと連携してログイン認証する場合は、必ず設定してください。

- 指定できる値
1～255 バイトの半角英数字および記号です。デフォルトは「AssetHost」です。

(4) ポート番号

「ポート番号」では、ディレクトリサーバのポート番号を設定します。ディレクトリサーバと連携してログイン認証する場合は、必ず設定してください。

- 指定できる値
1～65535 です。デフォルトは「389」です。

(5) アクセスユーザ

「アクセスユーザ」では、ディレクトリサーバの情報エントリにアクセスするユーザの DN を設定します。ディレクトリサーバと連携してログイン認証する場合は、必ず設定してください。

なお、事前に Active Directory の LDIFDE コマンドでユーザ情報の一覧を出力し、アクセスユーザとして利用したいユーザの DN を調査する必要があります。調査方法については、「[3.5.1 ログイン認証](#)」を参照してください。

また、[パスワード設定] ダイアログでパスワードを設定します。

- 指定できる値
アクセスユーザに指定できる値は、1～255 バイトの半角英数字、記号、半角のカタカナ、および漢字です。デフォルトは空白です。
パスワードに指定できる値は、1～255 バイトの半角英数字、記号、および半角のカタカナです。デフォルトは空白です。

(6) 応答監視時間

「応答監視時間」では、ディレクトリサーバが、検索要求に応答するまでの監視時間を秒単位で設定します。監視時間を超えて、ディレクトリサーバからの応答が得られない場合、通信障害として処理を打ち切ります。ディレクトリサーバサービスの利用プロセスが多く、ログイン認証で通信障害が多発する場合には、応答監視時間を長く設定してください。ディレクトリサーバと連携してログイン認証する場合は、必ず設定してください。

- 指定できる値

1～65,535 秒です。デフォルトは 60 秒です。

(7) ユーザ情報 DN

「ユーザ情報 DN」では、ユーザ情報検索時のベースとなる DN を設定します。ディレクトリサーバと連携してログイン認証する場合は、必ず設定してください。

なお、事前に Active Directory の LDIFDE コマンドでユーザ情報の一覧を出力し、Asset Console のログイン認証時にユーザを検索する組織の DN を調査する必要があります。調査方法については、「[3.5.1 ログイン認証](#)」を参照してください。

- 指定できる値

1～255 バイトの半角英数字、記号、半角のカタカナ、および漢字です。デフォルトは「ou=people,o=xxxxxxx.co.jp」です。

(8) ユーザ ID 属性名

「ユーザ ID 属性名」では、Asset Console へのログイン時のユーザ ID として使用する、ユーザ情報の属性名を設定します。ディレクトリサーバと連携してログイン認証する場合は、必ず設定してください。

なお、事前に Active Directory の LDIFDE コマンドでユーザ情報の一覧を出力し、Asset Console のログイン認証時のユーザ ID として使用する属性名を調査する必要があります。調査方法については、「[3.5.1 ログイン認証](#)」を参照してください。

- 指定できる値

ユーザ ID 属性名に指定できる値は、1～255 バイトの半角英数字、記号、半角のカタカナ、および漢字です。デフォルトは「uid」です。

なお、ディレクトリサーバのユーザオブジェクトの標準では、「uid」という属性は用意されていません。必要に応じて、ディレクトリサーバのユーザオブジェクトに「uid」属性を追加し、ログイン認証に使用する半角のユーザ ID を設定してください。または、「uid」に代わる、Asset Console のログイン認証に使用する半角のユーザ ID が格納された属性名を指定してください。

(9) ユーザ名属性名

「ユーザ名属性名」では、Asset Console のユーザ名として使用するユーザ情報の属性名を設定します。

なお、事前に Active Directory の LDIFDE コマンドでユーザ情報の一覧を出力し、Asset Console のユーザ名として使用する属性名を調査する必要があります。調査方法については、「[3.5.1 ログイン認証](#)」を参照してください。

- 指定できる値

1～255 バイトの半角英数字、記号、半角のカタカナ、および漢字です。デフォルトは「cn;lang-ja」です。

5.3.7 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報取得の設定

「ITDM2 連携」では、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携して管理情報を収集するためのログイン ID やサービス名などを設定します。この設定は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携する場合にだけ必要です。「ITDM2 連携」の項目に入力する値は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager セットアップ画面で設定した値を入力してください。

「ITDM2 連携」で設定する項目を次に示します。

(1) JP1/ITDM2-Manager データベースログイン ID

「JP1/ITDM2-Manager データベースログイン ID」では、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のデータベースに接続するためのログイン ID を設定します。

また、[パスワード設定] ダイアログでパスワードを設定します。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携する場合、この項目は必ず設定してください。JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携しない場合でも、値を空白にすることはできません。

- 指定できる値

1～28 バイトの文字です（「JP1/ITDM2-Manager データベースログイン ID」およびパスワード）。デフォルトは、「JP1/ITDM2-Manager データベースログイン ID」が「itdm2m」、パスワードが「itdm2m」です。

「JP1/ITDM2-Manager データベースログイン ID」およびパスワードに指定する値の先頭の文字には、必ず半角英字を指定してください。

ここで設定した値は、データソースを作成するダイアログの「接続ユーザ ID」に反映されます。

(2) JP1/ITDM2-Manager データベース接続サービス名

「JP1/ITDM2-Manager データベース接続サービス名」では、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のデータベースに接続するためのサービス名を設定します。この項目では、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のデータベース接続のセットアップで設定する ODBC データソース名を指定します。データベース接続のセットアップについては、「[5.5 データソースの作成](#)」を参照してください。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携する場合、この項目は必ず設定してください。

- 指定できる値

1～63 バイトの半角英数字および記号です。デフォルトは「ITDM2_DB_SERVICE_NAME」です。

「JP1/ITDM2-Manager データベース接続サービス名」に指定する値には、「!」、「(」、「)」、「*」、「,」、「;」、「=」、「?」、「@」、「[」、「]」、「{」、「}」および半角スペースは指定できません。

ここで設定した値は、次に示すダイアログの「ODBC データソース名」に反映されます。

- データソースを作成するダイアログ

(3) 多重度

取得処理の多重度（スレッド数）を指定します。

- 指定できる値

1～16 です。デフォルトは 4 です。

5.4 資産管理データベースの作成

この節では、資産管理データベースの環境を作成する方法について説明します。

資産管理データベースの環境は、[データベースマネージャ] ダイアログで作成します。資産管理データベースを作成すると、次の作業を実行します。

- ODBC データソース名の作成
- データベースの作成
- データベースアクセス用ユーザの作成
- データベースの初期化

データベース接続上のトラブルを少なくするため、ローカルに接続確認をした上で資産管理サーバの環境を構築することをお勧めします。

データベースマネージャを起動中は、他のプログラムを実行しないようにしてください。

資産管理データベースを作成する手順を次に示します。

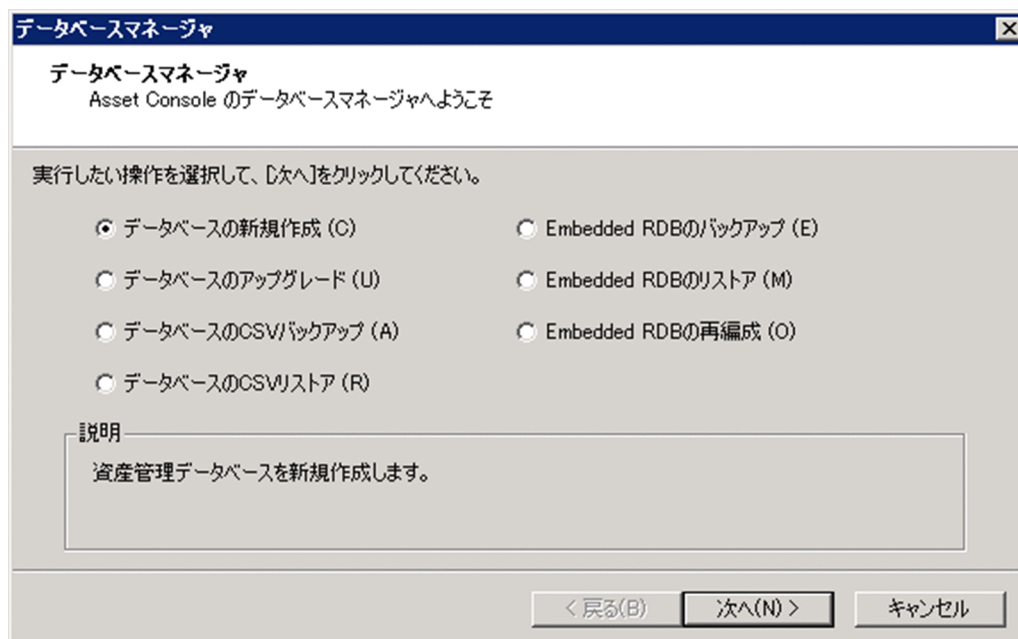
1. [スタート] ボタンをクリックして [プログラム] – [JP1_IT Desktop Management 2 - Asset Console] をポイントし、次に [セットアップ] を選択する。

[セットアップ] ダイアログが表示されます。

2. 「データベースマネージャ」のアイコンをクリックする。

次の図に示す [データベースマネージャ] ダイアログが表示されます。

図 5-3 「データベースマネージャ」 ダイアログ



3. 「データベースの新規作成」を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。

クラスタシステムの情報を設定するダイアログが表示されます。

4. クラスタシステムの情報を設定する。

5. データベースの接続情報およびデータベースの領域を設定する。

6. データベースを作成する。

手順 4.のクラスタシステムの情報の設定、手順 5.のデータベースの接続情報およびデータベース領域の設定について、5.4.1 で説明します。

5.4.1 資産管理データベースの作成手順

資産管理データベースを作成する手順を次に示します。

1. クラスタシステムの情報を設定するダイアログで、必要な情報を設定する。

必要な情報は、次の図に示すクラスタシステムの情報を設定するダイアログで設定します。

図 5-4 クラスタシステムの情報を設定するダイアログ

Asset Console をクラスタシステム環境で使しない場合は、何も指定しないで手順 2.に進みます。

Asset Console をクラスタシステム環境で使用する場合は、「クラスタシステム環境で使用する」チェックボックスをチェックします。指定する各項目について、実行系のデータベースと待機系のデータベースでそれぞれ説明します。

実行系のデータベースの場合

- 「実行系/待機系」

「実行系」を選択します。デフォルトでは、この項目が指定されています。

- 「論理ホスト名」

クラスタシステムに作成した論理ホスト名を指定します。指定できる値は、1～64 バイトの半角英数字、全角文字、「%」、「-」および「_」です。

待機系のデータベースの場合

- 「実行系/待機系」
「待機系」を選択します。
- 「論理ホスト名」
クラスタシステムに作成した論理ホスト名を指定します。指定できる値は、1～64 バイトの半角英数字、全角文字、「%」、「-」および「_」です。
- 「実行系ホスト名」
クラスタシステムに作成した実行系ホスト名を指定します。指定できる値は、1～64 バイトの半角英数字、全角文字、「%」、「-」および「_」です。

論理ホスト名を変更する手順については、「[付録 E.3 データベースのホスト名の変更](#)」を参照してください。また、実行系ホスト名を変更する手順については、「[5.12.6\(1\)\(b\) 実行系ホスト名を変更する手順](#)」を参照してください。

2. [次へ] ボタンをクリックする。

次の図に示すデータベースの基本設定のダイアログが表示されます。

図 5-5 データベースの基本設定のダイアログ

データベースマネージャ

データベースの基本設定
作成するデータベースの情報を設定してください。

作成するデータベースのポート番号を指定してください。
ODBCデータソース名および接続ユーザを変更したい場合は、サーバセットアップで設定を変更してから、データベースマネージャを再起動してください。

データベース

ポート番号 (P):
31022

接続

ODBCデータソース名:
ASSET_DB_SERVICE_NAME

接続ユーザID:
admin

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

3. データベースの基本設定のダイアログで、「ポート番号」を指定する。

ダイアログの各項目について説明します。

- 「ポート番号」
接続するデータベースサーバのポート番号を指定します。使用されていないポート番号を 5001～65535 の整数で指定してください。デフォルトでは、「31022」が指定されます。
- 「ODBC データソース名」

[サーバセットアップ] ダイアログの「サービス名」に指定した値が表示されます。この項目は変更できません。

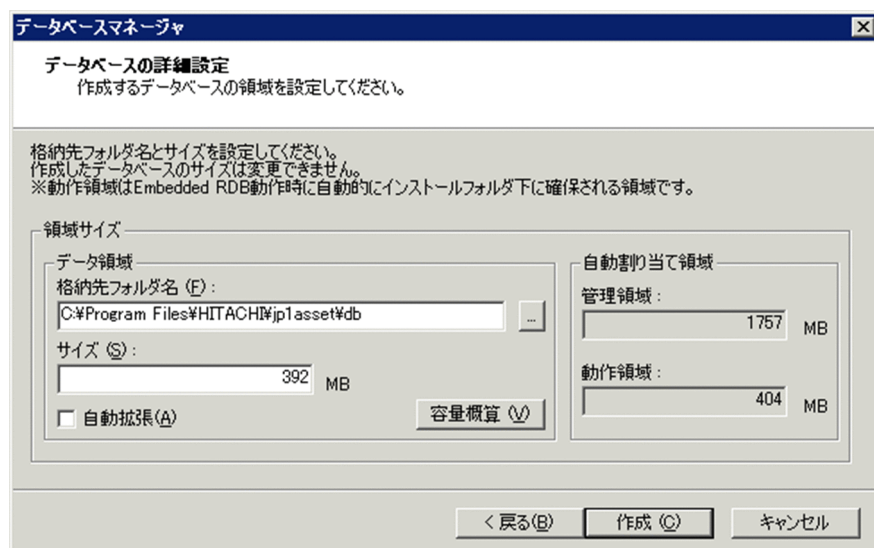
- 「接続ユーザID」

[サーバセットアップ] ダイアログの「ログイン ID」に指定した値が表示されます。この項目は変更できません。

4. [次へ] ボタンをクリックする。

次の図に示すデータベースの詳細設定のダイアログが表示されます。

図 5-6 データベースの詳細設定のダイアログ



5. 「格納先フォルダ名」および「サイズ」を指定する。

ダイアログの各項目について説明します。

- 「格納先フォルダ名」

「格納先フォルダ名」に、データベースを格納するフォルダ名を指定します。[...] ボタンをクリックすると、フォルダを参照するダイアログからフォルダ名を指定できます。指定できる値は、1～125 バイトの英数字、「_」、「¥」、「:」、「.」、「(」、「)」および空白です。デフォルトでは、<Asset Console のインストール先フォルダ>¥db が指定されています。

なお、データベースマネージャでパスを指定する場合、CON や NUL などのデバイス名は指定しないでください。

- 「サイズ」

データベースの最大サイズを指定します。デフォルトでは、[容量概算] ダイアログでの概算値が指定されています。100 以上の整数を指定してください。

「自動拡張」チェックボックスをチェックした場合は、データベースのサイズの初期値になります。100～65535 の整数を指定してください。

- 「容量概算」 ボタン

データベース容量の概算値を計算できます。算出した概算値は「サイズ」に反映されます。データベース容量の概算値の計算方法については、「5.4.2 データベース容量の概算」を参照してください。

- 「自動拡張」

データベースのサイズを自動拡張させたい場合に、チェックボックスをチェックします。デフォルトではチェックされていません。このチェックボックスにチェックした場合、データベースのサイズは、最大で 65,535MB まで自動拡張されます。

- 「管理領域」

管理領域に必要なサイズが表示されます。この項目は変更できません。

- 「動作領域」

データベースの動作時に、Asset Console のインストール先フォルダ以下に自動的に確保されるサイズが表示されます。この項目は変更できません。

6. [作成] ボタンをクリックする。

資産管理データベースが作成されます。作成が完了すると、セットアップが完了したことを示すメッセージが表示されて、[データベースマネージャ] ダイアログが閉じます。作成に失敗した場合は、メッセージが表示されるので、メッセージの内容に従って対処してください。

データベースの一時領域にはデータ領域とは別の領域を使用してください。同一のテーブル領域を指定すると、テーブル領域が不足した場合に検索や削除などもできなくなります。

5.4.2 データベース容量の概算

データベースの詳細設定のダイアログで、[容量概算] ボタンをクリックすると表示される [容量概算] ダイアログから、データベース容量の概算値を算出できます。[容量概算] ダイアログを次の図に示します。

図 5-7 「容量概算」 ダイアログ

登録情報	登録数 [件]
ハードウェア資産情報	1000
ソフトウェア資産情報	300
機器カタログ	100
保守契約情報	200

デフォルト (D)

概算項目	概算容量 [MB]
データファイル 初期サイズ	110
データファイル 最大サイズ	218

保存 (S) 適用 (A) 閉じる (C)

データベース容量の概算値を算出して、データベースの詳細設定のダイアログに算出した値を適用する手順を次に示します。

1. 「運用規模」の「登録数 [件]」に、使用する情報ごとの登録数を指定する。

「運用規模」の一覧から情報を選択して、登録数を指定してください。「概算値」の「概算容量 [MB]」に、各容量の概算値がメガバイト単位で算出されます。概算の計算式については、「[付録 C.2\(1\) 資産管理データベースで使用するディスク容量](#)」を参照してください。各情報をデフォルトに戻したい場合は、「デフォルト」ボタンをクリックします。

2. 「適用」ボタンをクリックする。

概算値が、データベースの詳細設定のダイアログに反映されます。「運用規模」の使用する情報および登録数の一覧をテキストファイルとして保存するには、「保存」ボタンをクリックします。

3. 「閉じる」ボタンをクリックする。

「容量概算」ダイアログが閉じます。

5.5 データソースの作成

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と連携する場合は、各プログラムで使用しているデータベースに接続するために、データソースを作成します。また、資産管理データベースの作成後に、[サーバセットアップ] ダイアログの「ログイン ID」または「サービス名」を変更した場合も、データソースを再作成する必要があります。

データソースの作成時に必要な設定値は、Asset Console の [サーバセットアップ] ダイアログで設定しておきます。[サーバセットアップ] ダイアログで設定する項目については、[\[5.3 資産管理サーバの設定\]](#) を参照してください。

64 ビットの OS を使用する場合の注意事項

64 ビットの OS に Asset Console をインストールした場合は、次の方法でデータベース接続の設定をしてください。

Windows のスタートメニューから「ファイル指定して実行」を選択して、「%windir%
%syswow64%odbcad32.exe」を指定して実行します。

注意事項

- Asset Console のサービス、コマンド、およびタスクを次に示す順番ですべて停止したあとで、データソースの作成を実行してください。
 - World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
 - Asset Console のコマンドおよびタスクまた、データソースを作成したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。
- ODBC データソースで接続プールが設定されている場合、Asset Console の業務を停止させてから、接続プールで設定されているタイムアウトの時間が経過するまで接続状態になります。そのため、接続状態の解除を待ってから、データソースを作成してください。

資産管理データベースおよび連携している製品のデータベースに接続するための手順を次に示します。

- [スタート] ボタンをクリックして [プログラム] - [JP1_IT Desktop Management 2 - Asset Console] をポイントし、次に [セットアップ] を選択する。
[セットアップ] ダイアログが表示されます。
- [データソースの作成] のアイコンをクリックする。
[データソースの作成] ダイアログが表示されます。
- [接続先一覧] から接続するデータベースの製品名を選択して [次へ] ボタンをクリックする。
データソースを作成するダイアログが表示されます。
- 必要な項目を指定して、[OK] ボタンをクリックする。
データソースの作成時の設定については、5.5.1 で説明します。

データソースが作成されて、資産管理データベースおよび連携している製品のデータベースに接続できるようになります。

5.5.1 データソースの作成

接続するデータベースの情報を指定して、データソースを作成します。

データソースを作成するダイアログを次の図に示します。

図 5-8 データソースを作成するダイアログ

接続先一覧に戻るには、[戻る] ボタンをクリックします。

データソースの作成手順を次に示します。

1. データソースを作成するダイアログで、「サーバ」および「ポート番号」を指定する。

ダイアログの各項目について説明します。

• 「サーバ」

接続するデータベースのホスト名を指定します。指定できる値は、1～63 バイトの半角英数字、全角文字、「%」、「~」、「-」、「_」、「.」、「/」 および「¥」です。接続先が Asset Console の場合、デフォルトには「localhost」が指定されています。また、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の場合、デフォルトには空白が指定されています。

• 「ポート番号」

接続するデータベースサーバのポート番号を指定します。5001～65535 の整数を指定してください。デフォルトでは、接続先が Asset Console の場合「31022」が、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の場合「31010」が指定されています。

- 「ODBC データソース名」

「サーバセットアップ」ダイアログで指定した値が表示されます。この項目は変更できません。表示される値は、「接続先一覧」で選択した製品によって異なります。選択した製品に対応する「サーバセットアップ」ダイアログの項目を次の表に示します。

表 5-1 選択した製品に対応する「サーバセットアップ」ダイアログの項目（ODBC データソース名）

選択した製品	「サーバセットアップ」ダイアログの項目
JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console	サービス名
JP1/IT Desktop Management 2 - Manager	ITDM2-Manager データベース接続サービス名

- 「接続ユーザ ID」

「サーバセットアップ」ダイアログで指定した値が表示されます。この項目は変更できません。表示される値は、「接続先一覧」で選択した製品によって異なります。選択した製品に対応する「サーバセットアップ」ダイアログの項目を次の表に示します。

表 5-2 選択した製品に対応する「サーバセットアップ」ダイアログの項目（接続ユーザ ID）

選択した製品	「サーバセットアップ」ダイアログの項目
JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console	ログイン ID
JP1/IT Desktop Management 2 - Manager	ITDM2-Manager データベースログイン ID

2. [OK] ボタンをクリックする。

設定した内容でデータソースが作成されます。作成が完了すると、データソースの作成が完了したことを示すメッセージが表示されます。

3. [OK] ボタンをクリックする。

データソースを作成するダイアログが閉じて、接続先一覧に戻ります。

5.6 仮想ディレクトリの設定

Microsoft Internet Information Services に、Asset Console の仮想ディレクトリを設定します。Asset Console のインストール時に Microsoft Internet Information Services に設定される「既定の Web サイト」以外にも、Web サイトを指定できます。また、アプリケーションプールも作成および変更できます。

Asset Console の仮想ディレクトリの変更、およびアプリケーションプールの作成・変更を実施する手順を次に示します。

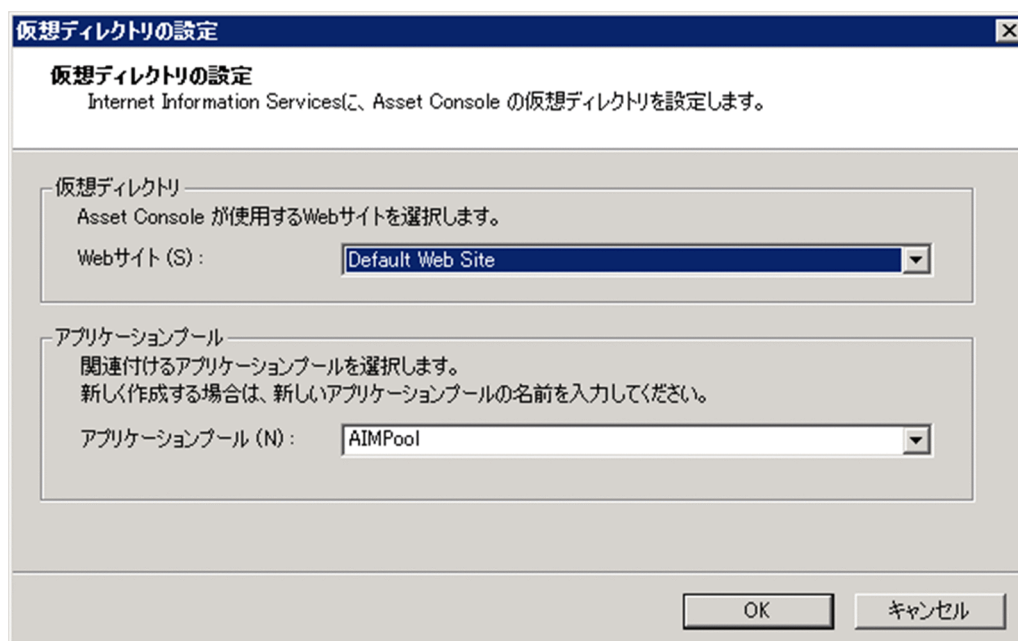
1. [スタート] ボタンをクリックして [プログラム] - [JP1_IT Desktop Management 2 - Asset Console] をポイントし、次に [セットアップ] を選択する。

[セットアップ] ダイアログが表示されます。

2. 「仮想ディレクトリの設定」のアイコンをクリックする。

次の図に示す [仮想ディレクトリの設定] ダイアログが表示されます。

図 5-9 「仮想ディレクトリの設定」 ダイアログ



3. 「仮想ディレクトリの設定」ダイアログで、必要な情報を設定する。

各項目について説明します。

- 「Web サイト」

資産管理サーバの仮想ディレクトリを登録する Web サイトを指定します。プルダウンメニューから Web サイトを選択してください。デフォルトでは、Asset Console の仮想ディレクトリが表示されている Web サイトが指定されています。仮想ディレクトリが登録されていない場合は、「既定の Web サイト」が指定されます。ただし、Web サイトが登録されていない場合は、空白が指定されます。

- 「アプリケーションプール」

資産管理サーバの仮想ディレクトリと関連づけるアプリケーションプールを指定します。コンボボックスからアプリケーションプールを選択してください。新しくアプリケーションプールを作成する場合は、入力領域にアプリケーションプールの名前を入力してください。指定できる値は、1～255 バイトの文字です。ただし、「/」、「¥」、「=」、「:」 および 「,」 は指定できません。デフォルトでは、Asset Console の仮想ディレクトリと関連づけられているアプリケーションプールが表示されます。なお、インターネットインフォメーションサービスマネージャで、「=」、「:」 および 「,」 を含んだ名称のアプリケーションプールを登録していた場合、コンボボックスには表示されません。

4. [OK] ボタンをクリックする。

指定した内容で、仮想ディレクトリの変更およびアプリケーションプールの作成・変更が実行されます。完了すると、仮想ディレクトリの設定が完了したことを示すメッセージが表示されます。

ここで作成したアプリケーションプールは、Microsoft Internet Information Services から作成した場合と同じ内容です。そのため、Microsoft Internet Information Services から再作成する必要はありません。

アプリケーションプールの作成時に実行される内容については、次に示す説明箇所を参照してください。

- Microsoft Internet Information Services 6.0 を使用する場合
[5.8.1(2) アプリケーションプールの作成]
- Microsoft Internet Information Services 7.0、7.5、8.0、または 8.5 を使用する場合
[5.8.2(3) アプリケーションプールの作成]

5. [OK] ボタンをクリックする。

[仮想ディレクトリの設定] ダイアログが閉じます。

5.7 資産管理サーバで使用するサービスの設定

資産管理サーバでは、次のサービスを使用します。

- IIS Admin Services
- World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
- Simple Mail Transport Protocol (SMTP)

Windows のタスクスケジューラに登録されたタスクの実行結果を、資産管理者にメールで通知する場合、または案件を送付したことを次の作業者にメールで通知する場合に必要です。

資産管理サーバで使用するサービスは、自動的に開始する設定にしておきます。次の手順で自動的に開始するように設定してください。

1. [サービス] ウィンドウで、資産管理サーバで使用するサービスを選択する。
2. メニューから「操作」－「プロパティ」を選択する。
[プロパティ] ダイアログが表示されます。
3. 「全般」タブで、「スタートアップの種類」を「自動」に変更する。
4. [OK] ボタンをクリックする。
[プロパティ] ダイアログが閉じて、サービスが自動的に開始する設定になります。
5. サービスを開始する。

5.8 Microsoft Internet Information Services を使用する場合の設定

ここでは、Microsoft Internet Information Services を使用している場合、Asset Console をインストールしたときに必要な設定および注意について説明します。

5.8.1 Web サーバの設定 (Microsoft Internet Information Services 6.0 の場合)

Microsoft Internet Information Services 6.0 を使用している場合、Asset Console をインストールしたときに必要な設定および注意について説明します。

(1) アップロードするファイルの拡張子の登録

各操作画面または案件で、添付ファイルとしてアップロードするファイルの拡張子に関する情報を、インターネットインフォメーションサービスマネージャに登録してください。

ファイルの拡張子に関する情報を登録する手順を次に示します。

1. インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。
2. 資産管理サーバの「Web サイト」から、「既定の Web サイト」－「jp1asset」を選択して、プロパティを表示する。
3. 「HTTP ヘッダー」タブの「MIME の種類」ボタンをクリックする。
4. 使用する拡張子と MIME の種類を登録して「OK」ボタンをクリックする。
MIME の種類については、インターネットインフォメーションサービスマネージャのヘルプを参照してください。

(2) アプリケーションプールの作成

インターネットインフォメーションサービスマネージャでのアプリケーションプールの設定が必要です。

アプリケーションプールの作成手順を次に示します。

1. インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。
2. 資産管理サーバの「アプリケーションプール」を選択する。
3. メニューから「操作」－「新規作成」－「アプリケーションプール」を選択する。
[新しいアプリケーションプールの追加] ダイアログが表示されます。
4. 「アプリケーションプール ID」に、任意のアプリケーションプール名を入力して、「OK」ボタンをクリックする。

アプリケーションプール名には、「=」、「:」および「,」を指定しないでください。[仮想ディレクトリ
の設定] ダイアログのコンボボックスに表示されなくなります。

5. 作成したアプリケーションプールのプロパティを表示する。
6. 「リサイクル」タブ、「パフォーマンス」タブ、「状態」タブで、オプションのチェックをすべて外す。
7. 「識別」タブで、「アプリケーションプール ID」に「定義済み」－「Local System」を選択する。
8. 資産管理サーバの「Web サイト」から、「既定の Web サイト」－「jp1asset」を選択し、プロパティを表示する。
9. 手順 4. で作成したアプリケーションプールを選択して、[OK] ボタンをクリックする。
10. World Wide Web Publishing Service を再起動する。

(3) Asset Console のサイトの追加

Microsoft Internet Information Services 6.0 を使用している場合、Windows Internet Explorer から Asset Console を使用するためには、Asset Console のサイトの追加が必要です。また、JP1/IM などの他製品から Asset Console の情報を参照する場合も同じ設定が必要です。

Asset Console のサイトを追加する手順を次に示します。

1. Windows Internet Explorer の「ツール」－「インターネットオプション」を選択する。
[インターネットオプション] ダイアログが表示されます。
2. 「セキュリティ」タブの「イントラネット」アイコンを選択して、[サイト] ボタンをクリックする。
3. 表示されたダイアログから Asset Console のサイトを追加して、[閉じる] ボタンをクリックする。

(4) サイトを作成する場合の注意

Microsoft Internet Information Services 6.0 の場合、Asset Console をインストールしたときは、[仮想ディレクトリの設定] ダイアログの「Web サイト」に指定した仮想ディレクトリに、ワーカースペースをリサイクルするサイトを作成しないでください。「Web サイト」には、デフォルトでは「既定の Web サイト」が指定されています。

5.8.2 Web サーバの設定 (Microsoft Internet Information Services 7.0 以降の場合)

Microsoft Internet Information Services 7.0、7.5、8.0、または 8.5 を使用している場合、Asset Console をインストールしたときに必要な設定および注意について説明します。

(1) 役割サービスのインストール

Microsoft Internet Information Services 7.0、7.5、8.0、または 8.5 を使用している場合、用途に応じた役割サービスをインストールする必要があります。

Microsoft Internet Information Services 7.0、7.5、8.0、または 8.5 の役割サービスをインストールする手順を次に示します。

1. [サーバーマネージャ] ウィンドウの「役割」を選択し、「役割サービスの追加」を選択する。

役割サービスを選択するダイアログが表示されます。

2. 用途に応じた役割サービスを選択し、[次へ] ボタンをクリックする。

インストールオプションを確認するダイアログが表示されます。

資産管理サーバの構築時に選択する役割サービスを次の表に示します。

表 5-3 資産管理サーバの構築時に選択する役割サービス

項目	役割サービス	資産管理サーバ
HTTP 基本機能	静的なコンテンツ	○
	既定のドキュメント	○
	ディレクトリの参照	○
	HTTP エラー	○
アプリケーション開発	ASP.NET	—
	ISAPI 拡張	○
	ISAPI フィルタ	○
パフォーマンス	静的なコンテンツの圧縮	○
IIS 管理コンソール	IIS 管理コンソール	○
IIS6 管理互換	IIS6 メタベース互換	○
	IIS 管理コンソール	○※

(凡例)

- ：選択が必要な役割サービス
- ：該当なし

注※ メール通知機能を利用する場合だけ。

3. 手順 2.で選択した役割サービスが表示されていることを確認し、[インストール] ボタンをクリックする。

インストールが完了すると、インストールの結果を示すダイアログが表示されます。

4. [閉じる] ボタンをクリックする。

(2) アップロードするファイルの拡張子の登録

各操作画面または案件で、添付ファイルとしてアップロードするファイルの拡張子に関する情報を、インターネットインフォメーションサービスマネージャに登録してください。

ファイルの拡張子に関する情報を登録する手順を次に示します。

1. インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。
2. 資産管理サーバの「サイト」から、「Default Web Site」－「jp1asset」を選択して、「MIME の種類」を選択する。
3. 「操作」メニューから「追加」を選択する。
[MIME の種類の追加] ダイアログが表示されます。
4. 使用する拡張子と MIME の種類を登録して [OK] ボタンをクリックする。
MIME の種類については、インターネットインフォメーションサービスマネージャのヘルプを参照してください。

(3) アプリケーションプールの作成

インターネットインフォメーションサービスマネージャでのアプリケーションプールの設定が必要です。

アプリケーションプールの作成手順を次に示します。

1. インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。
2. 資産管理サーバの「アプリケーションプール」を選択する。
3. 「操作」メニューから「アプリケーションプールの追加」を選択する。
[アプリケーションプールの追加] ダイアログが表示されます。
4. 「名前」に、任意のアプリケーションプール名を入力し、「マネージパイプラインモード」を「クラシック」にして [OK] ボタンをクリックする。
アプリケーションプール名には、「=」、「:」および「,」を指定しないでください。[仮想ディレクトリの設定] ダイアログのコンボボックスに表示されなくなります。
5. 作成したアプリケーションプールを選択し、「操作」メニューから「詳細設定」を選択する。
[詳細設定] ダイアログが表示されます。
6. 必要な項目を指定し、[OK] ボタンをクリックする。
[詳細設定] ダイアログの各項目に、次のように指定してください。ほかの項目はデフォルトの設定でかまいません。

(全般)

キューの長さ:「4000」

32 ビットアプリケーションの有効化：「True」（64 ビット版の Windows Server 2008 の場合だけ）

プロセスモデル

ID：「LocalSystem」

Ping の有効化：「False」

アイドル状態のタイムアウト（分）：「0」

ラピッドフェール保護

有効：「False」

リサイクル

異常が報告された ISAPI：「True」

手動リサイクル：「True」

特定の時間：「True」

変更されたアプリケーションプール構成：「True」

要求制限の超過：「True」

構成の変更時のリサイクルを無効にする：「True」

定期的な間隔（分）：「0」

7. 「操作」メニューから「リサイクルの設定」を選択する。

「アプリケーションプールのリサイクル設定の編集」ダイアログが表示されます。

8. リサイクル条件のチェックボックスのチェックをすべて外し、[次へ] ボタンをクリックする。

9. ログを記録するリサイクルイベントのうち、アプリケーションプールのリサイクル時にログを記録するリサイクルイベントのチェックボックスをチェックして、[終了] ボタンをクリックする。

活性化されているチェックボックスをすべてチェックすることをお勧めします。アプリケーションプールのリサイクル時にログを記録したくないリサイクルイベントがある場合は、チェックボックスのチェックを外してから [終了] ボタンをクリックしてください。

10. World Wide Web Publishing Service を再起動する。

(4) アプリケーション（仮想ディレクトリ）の設定

役割サービスの「IIS6 メタベース互換」を、Asset Console をインストールしたあとで追加した場合は、インターネットインフォメーションサービスマネージャでのアプリケーション（仮想ディレクトリ）の設定が必要です。

アプリケーション（仮想ディレクトリ）を新規で作成する手順を次に示します。

1. 資産管理サーバの「サイト」から、「Default Web Site」を選択して右クリックし、「アプリケーションの追加」を選択する。

「アプリケーションの追加」ダイアログが表示されます。

2. [選択] ボタンをクリックして、「アプリケーションプール」に作成したアプリケーションプールを指定する。
3. 「物理パス」に資産管理サーバの仮想ディレクトリを指定し、[OK] ボタンをクリックする。
資産管理サーバの仮想ディレクトリは、デフォルトでは<Asset Console のインストール先フォルダ>¥wwwroot です。

また、すでにアプリケーション（仮想ディレクトリ）がある場合の、設定の変更手順を次に示します。

1. 資産管理サーバの「サイト」から、「Default Web Site」－「jp1asset」を選択して、操作メニューから「詳細設定」を選択する。
[詳細設定] ダイアログが表示されます。
2. 「アプリケーションプール」に作成したアプリケーションプール、「物理パス」に資産管理サーバの仮想ディレクトリを指定し、[OK] ボタンをクリックする。
資産管理サーバの仮想ディレクトリは、デフォルトでは<Asset Console のインストール先フォルダ>¥wwwroot です。

(5) ISAPI の制限の設定

役割サービスの、「IIS6 メタベース互換」および「ISAPI 拡張」を、Asset Console をインストールしたあとで追加した場合は、インターネットインフォメーションサービスマネージャでの ISAPI の制限の設定が必要です。

ISAPI の制限の設定手順を次に示します。

1. 資産管理サーバを選択して、「ISAPI および CGI の制限」を選択する。
2. 「操作」メニューから「追加」を選択する。
[ISAPI または CGI の制限の追加] ダイアログが表示されます。
3. 「ISAPI または CGI パス」にファイルのパスを指定し、「拡張パスの実行を許可する」チェックボックスをチェックして、[OK] ボタンをクリックする。
「ISAPI または CGI パス」には、資産管理サーバの仮想ディレクトリに格納された次のファイルのパスを指定します。
 - jamwscript.dll
 - bin¥jamlogin.dll
 - jamentter.dll
 - jamfile.dll
 - jamhtmlfile.dll

手順 1.～手順 3.を繰り返して、これらのファイルをすべて追加してください。

資産管理サーバの仮想ディレクトリは、デフォルトでは<Asset Console のインストール先フォルダ>
¥wwwroot です。

(6) ISAPI フィルタの設定

役割サービスの、「IIS6 メタベース互換」および「ISAPI フィルタ」を、Asset Console をインストールしたあとで追加した場合は、インターネットインフォメーションサービスマネージャでの ISAP フィルタの設定が必要です。

ISAPI フィルタの設定手順を次に示します。

1. 資産管理サーバの「サイト」から、「Default Web Site」を選択して、「ISAPI フィルタ」を選択する。
2. 「操作」メニューから「追加」を選択する。
[ISAPI フィルタの追加] ダイアログが表示されます。
3. 「実行可能ファイル」にファイルのパスを指定し、[OK] ボタンをクリックする。
「実行可能ファイル」には、Asset Console のインストール先フォルダに格納された「bin
¥jamsessionfilter.dll」のパスを指定します。
「フィルタ名」は変更する必要はありません。

(7) ハンドラマッピングの設定

役割サービスの「IIS6 メタベース互換」を、Asset Console をインストールしたあとで追加した場合は、インターネットインフォメーションサービスマネージャでのハンドラマッピングの設定が必要です。

ハンドラマッピングの設定手順を次に示します。

1. 資産管理サーバの「サイト」から、「Default Web Site」－「jp1asset」を選択して、「ハンドラマッピング」を選択する。
2. 「操作」メニューから「機能のアクセス許可の編集」を選択する。
[機能のアクセス許可の編集] ダイアログが表示されます。
3. すべてのチェックボックス（「読み取り」、「スクリプト」および「実行」）をチェックし、[OK] ボタンをクリックする。

(8) ディレクトリの参照の設定

役割サービスの、「IIS6 メタベース互換」および「ディレクトリの参照」を、Asset Console をインストールしたあとで追加した場合は、インターネットインフォメーションサービスマネージャでのディレクトリの参照の設定が必要です。

ディレクトリの参照の設定手順を次に示します。

1. 資産管理サーバの「サイト」から、「Default Web Site」－「jp1asset」－「log」を選択して、「ディレクトリの参照」を選択する。
2. 「操作」メニューから「有効にする」を選択する。

(9) Asset Console のサイトの追加

Microsoft Internet Information Services 7.0、7.5、8.0、または 8.5 を使用している場合、Windows Internet Explorer から Asset Console を使用するためには、Asset Console のサイトの追加が必要です。また、JP1/IM などの他製品から Asset Console の情報を参照する場合も同じ設定が必要です。

Asset Console のサイトを追加する手順を次に示します。

1. Windows Internet Explorer の「ツール」－「インターネットオプション」を選択する。
[インターネットオプション] ダイアログが表示されます。
2. 「セキュリティ」タブの「ローカルイントラネット」アイコンを選択して、[サイト] ボタンをクリックする。
3. 表示されたダイアログから Asset Console のサイトを追加して、[閉じる] ボタンをクリックする。

(10) サイトを作成する場合の注意

64 ビットの OS に Asset Console をインストールする場合の注意事項については、「[付録 F.1 64 ビットの OS に Asset Console をインストールする場合の注意事項](#)」を参照してください。

- Microsoft Internet Information Services 7.0 または 7.5 の場合、Asset Console をインストールしたときは、[仮想ディレクトリの設定] ダイアログの「Web サイト」に指定した仮想ディレクトリに、ワーカースペースをリサイクルするサイトを作成しないでください。「Web サイト」には、デフォルトでは「Default Web Site」が指定されています。

5.9 タスクスケジューラに登録されるタスクの設定

Asset Console では、日々の資産管理業務で発生する資産情報のメンテナンスおよび監視作業を Windows のタスクスケジューラの機能を使用して自動的に実行できます。

Asset Console をインストールすると、Windows のタスクスケジューラに、各作業を実行するためのタスクが作成されます。このタスクのスケジュールや、タスクの有効と無効の設定を、資産情報の運用に合わせて変更します。

なお、Asset Console のインストール時は、すべてのタスクは無効になっています。

ここでは、各タスクの内容や設定手順について説明します。

注意事項

- Administrators 権限を持つユーザでタスクのスケジュールを実行してください。
- 64 ビットの OS で Asset Console のタスクを実行する場合は、32 ビット用のコマンドプロンプトで実行する必要があります。実行手順については、[「付録 F.2 64 ビットの OS でコマンドやタスクを実行する場合の注意事項」](#)を参照してください。

参考

Asset Console をインストールすると作成されるタスクのほかに、独自の処理を実行するタスクを作成することもできます。タスクで実行させる内容は、**アクセス定義ファイル**（Asset Console が提供しているスクリプトで処理を定義したファイル）に定義します。アクセス定義ファイルの作成方法およびタスクの追加方法については、HTML ヘルプ「アクセス定義ファイル作成ガイド」（assetscr.chm）を参照してください。

assetscr.chm は、次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>\help

5.9.1 タスクの種類

Windows のタスクスケジューラに設定された、タスクの種類、各タスクの内容、および各タスクを有効にした場合のデフォルトの設定について説明します。

(1) タスクの名称と内容

各タスクの名称と内容について次に示します。各タスクで使用しているファイルは変更しないでください。

- データメンテナンス（Asset Console）

資産管理データベースのデータの整合性を保つために、更新された情報に合わせて、関連するほかの情報を更新します。また、不要な情報を削除します。

このタスクは資産管理サーバを設定したあと、必ず有効にしてください。

データメンテナンスで実施する作業の指定方法については、「[5.9.3 タスク「データメンテナンス \(Asset Console\)」で実施する作業の指定](#)」を参照してください。

タスク「データメンテナンス (Asset Console)」の戻り値と説明を、次の表に示します。

表 5-4 タスク「データメンテナンス (Asset Console)」の戻り値と説明

戻り値	説明
0x0	正常終了しました。
0x1	該当するデータがありませんでした。
0x2 以上	そのほかのエラーで終了しました。

- **期限切れ契約情報通知 (Asset Console)**

契約期限が迫った保守契約およびリース契約の情報を、資産管理者にメールで通知します。デフォルトでは、2 か月以内に迫った契約を通知する設定になっています。メールで通知するタイミングの指定方法については、「[5.9.4 契約期限を通知するタイミングの指定](#)」を参照してください。

また、自動的にメールを通知させるためには、Asset Console と Microsoft Internet Information Services で設定が必要です。メール通知するための設定手順については、「[5.10 メール通知を使用するための設定](#)」を参照してください。

タスク「期限切れ契約情報通知 (Asset Console)」の戻り値と説明を、次の表に示します。

表 5-5 タスク「期限切れ契約情報通知 (Asset Console)」の戻り値と説明

戻り値	説明
0x0	正常終了しました。
0x1	該当するデータがありませんでした。
0x2 以上	そのほかのエラーで終了しました。

- **ライセンス超過通知 (Asset Console)**

部署ごとにライセンス保有数とライセンス利用数を集計して、保有数を超過してライセンスを使用している場合に、ライセンス超過の情報をメールで通知します。メールでの通知が不要な場合は、タスク「ライセンスの集計 (Asset Console)」を使用してください。集計結果を削除するタイミングの指定方法については、「[5.9.5 ライセンスの集計結果を削除するタイミングの指定](#)」を参照してください。

また、自動的にメールを通知させるためには、Asset Console と Microsoft Internet Information Services で設定が必要です。メール通知するための設定手順については、「[5.10 メール通知を使用するための設定](#)」を参照してください。

注意事項

数千台の大規模システムで集計を多数実行する際に、データベースに大量の古い集計結果のデータが残っていると、データの検索、追加および削除に時間が掛かるため、集計の性能が劣化します。資産管理システムが数千台規模になるときは、古くなった集計結果を定期的に削除してください。

タスク「ライセンス超過通知 (Asset Console)」の戻り値と説明を、次の表に示します。

表 5-6 タスク「ライセンス超過通知 (Asset Console)」の戻り値と説明

戻り値	説明
0x0	正常終了しました。
0x1	該当するデータがありませんでした。
0x2 以上	そのほかのエラーで終了しました。

- **ライセンスの集計 (Asset Console)**

部署ごとにライセンス保有数とライセンス利用数を集計します。保有数を超過して使用しているライセンスがあった場合でも、メールでの通知はしません。

ライセンス超過の情報をメールで通知してほしい場合は、タスク「ライセンス超過通知 (Asset Console)」を使用してください。なお、このタスクは実行完了までに時間が掛かるため、「ライセンス超過通知 (Asset Console)」との併用はお勧めしません。

集計結果を削除するタイミングの指定方法については、「[5.9.5 ライセンスの集計結果を削除するタイミングの指定](#)」を参照してください。

注意事項

数千台の大規模システムで集計を多数実行する際に、データベースに大量の古い集計結果のデータが残っていると、データの検索、追加および削除に時間が掛かるため、集計の性能が劣化します。

資産管理システムが数千台規模になるときは、古くなった集計結果を定期的に削除してください。

タスク「ライセンスの集計 (Asset Console)」の戻り値と説明を、次の表に示します。

表 5-7 タスク「ライセンスの集計 (Asset Console)」の戻り値と説明

戻り値	説明
0x0	正常終了しました。
0x1	該当するデータがありませんでした。
0x2 以上	そのほかのエラーで終了しました。

- **許可外インストール通知 (Asset Console)**

許可されていないソフトウェアをインストールしている機器の情報を、資産管理者にメールで通知します。

また、自動的にメールを通知させるためには、Asset Console と Microsoft Internet Information Services で設定が必要です。メール通知するための設定手順については、「[5.10 メール通知を使用するための設定](#)」を参照してください。

タスク「許可外インストール通知 (Asset Console)」の戻り値と説明を、次の表に示します。

表 5-8 タスク「許可外インストール通知 (Asset Console)」の戻り値と説明

戻り値	説明
0x0	正常終了しました。

戻り値	説明
0x1	該当するデータがありませんでした。
0x2 以上	そのほかのエラーで終了しました。

- 履歴情報の削除 (Asset Console)

保守履歴、資産情報の履歴および変更履歴を、指定した期間の情報を残して削除します。

デフォルトでは、6 か月以上経った履歴情報が削除される設定になっています。削除する履歴情報の指定方法については、「5.9.6 削除する履歴情報の種類と履歴情報を削除するタイミングの指定」を参照してください。

タスク「履歴情報の削除 (Asset Console)」の戻り値と説明を、次の表に示します。

表 5-9 タスク「履歴情報の削除 (Asset Console)」の戻り値と説明

戻り値	説明
0x0	正常終了しました。
0x1	該当するデータがありませんでした。
0x2 以上	そのほかのエラーで終了しました。

- ITDM2 - Manager 管理情報の取得 (Asset Console)

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を、資産管理データベースに取り込みます。管理情報として取得できる情報の詳細については、「13.1 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得できる管理情報」を参照してください。

タスク「ITDM2 - Manager 管理情報の取得 (Asset Console)」の戻り値と説明を、次の表に示します。

表 5-10 タスク「ITDM2 - Manager 管理情報の取得 (Asset Console)」の戻り値と説明

戻り値	説明
0x0	正常終了しました。
0x1	該当するデータがありませんでした。
0xA	ユーザ指示によって中止しました。
0x1F 以上	そのほかのエラーで終了しました。

なお、エラーの場合は JP1/IT Desktop Management 2 - Manager との連携のメッセージログ (ASTINVn.LOG) を参照して、原因と対処方法を確認してください。

(2) 各タスクのデフォルトの設定

各タスクを有効にした場合に、実行されるデフォルトのスケジュールの設定について、次の表に示します。

表 5-11 各タスクを有効にした場合のデフォルトの設定

タスクの名称	デフォルトのスケジュールの設定
データメンテナンス (Asset Console)	毎日、午前 5 時 00 分

タスクの名称	デフォルトのスケジュールの設定
期限切れ契約情報通知 (Asset Console)	毎月 1 日の午前 6 時 00 分
ライセンス超過通知 (Asset Console)	毎週月曜日の午前 5 時 30 分
ライセンスの集計 (Asset Console)	毎週月曜日の午前 5 時 30 分
許可外インストール通知 (Asset Console)	毎週火曜日の午前 5 時 30 分
履歴情報の削除 (Asset Console)	毎月 1 日の午前 6 時 00 分
ITDM2 - Manager 管理情報の取得 (Asset Console)	毎日、午前 0 時 00 分

なお、同時に複数のタスクが実行されないように、スケジュールを調整してください。

5.9.2 タスクの設定手順

Windows のタスクスケジューラでの、タスクの有効と無効の切り換え、タスクの実行スケジュールの変更、およびタスクの削除の手順について次に示します。

(1) タスクを有効にする

Windows のタスクスケジューラに作成された Asset Console のタスクは、デフォルトでは無効になっているので、使用するには、タスクを有効にする必要があります。使用しないタスクは無効にできます。

また、64 ビットの OS でタスクを使用する場合は、「[付録 F.2 64 ビットの OS でコマンドやタスクを実行する場合の注意事項](#)」を参照してください。

Windows Server 2003 の場合を例に、タスクスケジューラに登録されているタスクの有効、無効を切り換える手順を次に示します。

1. Windows のコントロールパネルで、「タスク」アイコンをダブルクリックする。
タスクスケジューラの画面が表示されます。
2. 有効（または無効）にしたいタスクを選択して、プロパティを表示する。
選択したタスクのプロパティダイアログが表示されます。
3. 「タスク」タブの「実行する（スケジュールされたタスクは指定の時間に実行されます）」チェックボックスをチェックする。
無効にしたい場合は、このチェックボックスのチェックを外します。
4. [OK] ボタンをクリックする。
タスクが有効（または無効）になって、タスクのプロパティダイアログが閉じます。
タスクの実行結果は、Windows のコントロールパネルで、「タスク」アイコンをダブルクリックすると表示される、タスクスケジューラの画面で確認します。

タスクスケジューラの画面を詳細表示に切り換えて、「前回の結果」に表示される戻り値を確認してください。なお、内容の詳細は ASTMESn.log を参照してください。

各タスクの「実行するファイル名」の指定内容を次の表に示します。

なお、表中の「<WINDOWS>」および「<INSTALL>」はそれぞれ次のフォルダを示しています。

- <INSTALL>：Asset Console のインストール先フォルダ
- <WINDOWS>：Windows のインストール先フォルダ

表 5-12 各タスクの「実行するファイル名」の指定内容

タスクの名称	「実行するファイル名」の指定内容
データメンテナンス (Asset Console)	"<INSTALL>%exe%jamscrip.exe" -f "<INSTALL>%scriptbatch%DataMaintenance.txt"
期限切れ契約情報通知 (Asset Console)	"<WINDOWS>%system32%cscrip.exe" "<INSTALL>%exe%jamexpiration.vbs"
ライセンス超過通知 (Asset Console)	"<WINDOWS>%system32%cscrip.exe" "<INSTALL>%exe%jamLicenseOver.vbs"
ライセンスの集計 (Asset Console)	"<WINDOWS>%system32%cscrip.exe" "<INSTALL>%exe%jamSoftwareAddUp.vbs"
許可外インストール通知 (Asset Console)	"<WINDOWS>%system32%cscrip.exe" "<INSTALL>%exe%jamPermitInstall.vbs"
履歴情報の削除 (Asset Console)	"<INSTALL>%exe%jamscrip.exe" -f "<INSTALL>%scriptbatch%RemoveRecord.txt" -s TARGET=A -s MONTH=6
ITDM2 - Manager 管理情報の取得 (Asset Console)	"<INSTALL>%exe%jamTakeITDM2Info.exe"

(2) タスクのスケジュールの変更

タスクを実行する日時を変更できます。また、スケジュールを追加することもできます。

• 実行日時の変更

タスクが実行される日時を変更する手順を次に示します。

1. Windows のコントロールパネルで、「タスク」アイコンをダブルクリックする。

タスクスケジューラの画面が表示されます。

2. 実行日時を変更したいタスクを選択して、プロパティを表示する。

選択したタスクのプロパティダイアログが表示されます。

3. 「スケジュール」タブの「タスクのスケジュール」および「開始時刻」を変更する。

4. [OK] ボタンをクリックする。

指定したスケジュールでタスクが変更されて、タスクのプロパティダイアログが閉じます。

- **実行スケジュールの追加**

タスクが実行されるスケジュールを追加する手順を次に示します。

1. Windows のコントロールパネルで、「タスク」アイコンをダブルクリックする。
タスクスケジューラの画面が表示されます。
2. スケジュールを追加したいタスクを選択して、プロパティを表示する。
選択したタスクのプロパティダイアログが表示されます。
3. 「スケジュール」タブの「複数のスケジュールを表示する」チェックボックスをチェックする。
「スケジュール」タブの上部に、スケジュールのプルダウンメニューと、[新規] ボタン、[削除] ボタンが表示されます。
4. [新規] ボタンをクリックする。
プルダウンメニューに、スケジュールが追加されます。
5. 追加されたスケジュールの「タスクのスケジュール」および「開始時刻」を設定する。
6. [OK] ボタンをクリックする。
タスクにスケジュールが追加されて、タスクのプロパティダイアログが閉じます。

(3) タスクの削除

不要なタスクを削除する手順を次に示します。

1. Windows のコントロールパネルで、「タスク」アイコンをダブルクリックする。
タスクスケジューラの画面が表示されます。
2. 削除したいタスクを選択して、「ファイル」－「削除」を選択する。
選択したタスクが削除されます。

(4) タスクの実行結果

タスクの実行結果は、Windows のコントロールパネルで、「タスク」アイコンをダブルクリックすると表示される、タスクスケジューラの画面で確認します。

タスクスケジューラの画面を詳細表示に切り換えて、「前回の結果」に表示される戻り値を確認してください。なお、内容の詳細は [ASTMESn.log](#) を参照してください。

戻り値および戻り値の説明については、「[5.9.1\(1\) タスクの名称と内容](#)」の各タスクの説明を参照してください。

5.9.3 タスク「データメンテナンス (Asset Console)」で実施する作業の指定

このタスクは資産管理サーバを設定したあと、必ず有効にしてください。

タスク「データメンテナンス (Asset Console)」は、資産管理データベースのデータの整合性を保つために、更新された情報に合わせて、関連するほかの情報を更新したり、不要な情報を削除したりします。実施できる作業の中から、必要な作業だけを選択して実施することもできます。実施する作業を選択する方法については、「(3) 実施する作業の変更」を参照してください。

なお、タスク「データメンテナンス」を実行する際は、Asset Console のサービス、コマンド、およびタスクをすべて停止することをお勧めします。

Asset Console のサービスは次に示す順番で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Console のコマンドおよびタスク

また、タスク「データメンテナンス」を実行したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

(1) タスク「データメンテナンス (Asset Console)」で実施する作業

タスク「データメンテナンス」を利用して実施できる作業を次に示します。

- 「抹消」状態の資産情報、契約情報、ボリューム契約情報を削除する作業

資産情報の削除に伴って、関連づけられている次の情報も削除されます。

ハードウェア資産情報、ソフトウェア資産情報、ネットワーク情報、インストールソフトウェア情報、パッチ情報、ウィルス定義情報、移管履歴、関連資産情報、資産情報とソフトウェアキー情報、ユーザ情報とソフトウェアキー情報

また、契約情報の削除に伴って、関連づけられている次の情報も削除されます。

保守契約情報、リース契約情報、レンタル契約情報、ボリューム契約情報、契約履歴、契約資産履歴

- 「返却」、「廃棄」または「仮廃棄」状態の資産情報に関連づけられている情報を削除する作業

次の情報が削除されます。

インストールソフトウェア情報、パッチ情報、ウィルス定義情報、ネットワーク情報※

また、資産に割り当てられているライセンスキーが解除されます。

注※ ネットワーク情報で削除されるのは、IP アドレスだけです。

- 操作画面で変更した部署、設置場所およびユーザ名に合わせて既存の資産情報に登録されている部署、設置場所、ユーザ名を変更する作業

操作画面で変更した部署、設置場所およびユーザ名は、このタスクによって資産情報、契約情報に反映され、変更した履歴が移管履歴に取得されます。

- ID に対応する部署、設置場所およびユーザ名を、資産情報に設定する作業

資産情報に、部署 ID、設置場所 ID、ユーザ ID、管理者 ID および管理部署 ID が設定されていて、対応する部署、設置場所、ユーザ名、管理者および管理部署が設定されていない場合、対応する名称が設定されます。

- 不要な IP アドレス管理情報を削除する作業

IP グループ情報の範囲外で、利用されていない IP アドレスの IP アドレス管理情報が削除されます。

- インストールソフトウェア名が登録されていないインストールソフトウェア情報を削除する作業
- ライセンス区分が「ユーザ許諾」ではないライセンスの、ユーザとソフトウェアキー情報との関連を解除する作業
- ライセンス区分が「マシン許諾」ではないライセンスの、ハードウェア資産情報とソフトウェアキー情報との関連を解除する作業
- 移管したライセンスと同一の「部署 ID」および「資産番号」のライセンスがあった場合、ライセンス数とライセンスキーをそれぞれ統合する作業
対象となるのは、ソフトウェア状態が「運用」のソフトウェアです。
- 管理レベルを「管理対象外」に設定したソフトウェアのインストールソフトウェア情報を削除する作業
- 部署または設置場所別の IP グループで、対応する部署または設置場所が削除された IP グループを削除する作業
- ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に対応する部署を、資産情報の「部署」に登録する作業
IP アドレスと部署との対応は、業務メニュー「IP グループ管理」で作成した IP グループの設定に従います。この作業は、デフォルトでは実施しない設定になっています。
- ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に対応する設置場所を、資産情報の「設置場所」に登録する作業
IP アドレスと設置場所との対応は、業務メニュー「IP グループ管理」で作成した IP グループの設定に従います。この作業は、デフォルトでは実施しない設定になっています。
- 対応する情報（ハードウェア資産情報、機器カタログ、契約情報、契約履歴、ボリューム契約、ソフトウェア資産情報または保守履歴）が存在しない添付ファイルを削除する作業
- 対象の資産情報が存在しない関連資産情報を削除する作業
- すでに存在していない部署に設定されている分掌情報を削除する作業

(2) オプションの指定

タスク「データメンテナンス (Asset Console)」では、設定ファイル (taskopt.ini) に記載した [MAINTEN_n] セクションの処理を、オプションで指定して実行できます。

オプションは、タスクのプロパティを表示して、「タスク」タブの「実行するファイル名」で、ファイル名のあとに指定します。

形式

-s OPT=実行するセクション

実行するセクションには、taskopt.ini に記述した [MAINTEN_n] セクションのうち、実行したいセクションを半角英数字 (0~9 または a~z) の 1 文字で指定します。大文字と小文字は区別されません。

指定例

"C:¥jplasset¥exe¥jamscript.exe"

```
-f "C:¥jplasset¥scriptbatch¥DataMaintenance.txt" -dp
```

```
-s OPT=1
```

「C:¥jplasset」は Asset Console のインストール先フォルダを示しています。

(3) 実施する作業の変更

タスク「データメンテナンス (Asset Console)」で実施する作業を変更する場合は、設定ファイル (taskopt.ini) に変更したい作業を記述します。通常実施する作業と、オプションを指定したときに実施する作業は、セクションを分けて指定できます。

設定ファイルの格納先および記述方法を次に示します。

- 設定ファイルの格納先

<Asset Console のインストール先フォルダ>¥env

なお、設定ファイル作成時の参考として、上記格納先に設定ファイルのサンプルファイル (taskopt.org) を提供しています。サンプルを参考にして、設定ファイルを変更してください。

- 設定ファイル (taskopt.ini) の設定方法

図 5-10 taskopt.ini の記述方法

[DATAMAINTENANCE]	通常実行されるセクション
ASSET_ERASE_DEL = YES	
ASSET_ASSOC_DEL = YES	
SOFTINFO_ERASE_DEL = YES	
SOFTINFO_ASSOC_DEL = YES	
[MAINTE_1]	オプションで「1」を指定したときだけ実行されるセクション
ASSET_ERASE_DEL = YES	
ASSET_ASSOC_DEL = YES	
SOFTINFO_ERASE_DEL = NO	
SOFTINFO_ASSOC_DEL = NO	
[MAINTE_2]	オプションで「2」を指定したときだけ実行されるセクション
ASSET_ASSOC_DEL = NO	
SOFTINFO_ASSOC_DEL = NO	

[DATAMAINTENANCE]

変更したい作業に対応した変数名と指定値を記述します。

タスク「データメンテナンス (Asset Console)」の基本的な実行内容を変更する場合は、このセクションに記述します。ここに記述した内容は、オプションを指定しない場合でも有効になります。また、オプションを指定した場合も、指定したセクションでの処理と重複しないときは有効になります。

このセクションに記述しない作業は、デフォルトの設定で実行されます。

[MAINTE_n]

変更したい作業に対応した変数名と指定値を記述します。

目的に応じてタスク「データメンテナンス (Asset Console)」の実行内容を変更する場合は、目的別にセクションを分けて記述します。セクション名は、[MAINTEN_n]の形式で指定します。nに半角英数字(0～9またはa～z)を1文字指定します。大文字と小文字は区別されません。オプション指定時にこのnの文字を指定することで、実行内容を選択できます。

このセクションに記述しない作業は、[DATAMAINTEENANCE]セクションの設定で実行されます。

各セクションに記述する変数名、処理内容、指定値およびデフォルトを次の表に示します。なお、変数名とデフォルトの指定値は、taskopt.iniと同じフォルダに格納されているtaskopt.orgに記載されています。

表 5-13 taskopt.ini に指定する変数名

処理内容	変数名	指定値	デフォルト
「抹消」状態の機器の資産情報と関連情報を削除する。	ASSET_ERASE_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
「返却」、「廃棄」および「仮廃棄」状態の機器の関連情報を削除する。	ASSET_ASSOC_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
「抹消」状態のソフトウェアの資産情報と関連情報を削除する。	SOFTINFO_ERASE_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
「返却」および「廃棄」状態のソフトウェアの関連情報を削除する。	SOFTINFO_ASSOC_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
「抹消」状態の契約情報を削除する。	CONTRACT_ERASE_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
「抹消」状態のボリューム契約情報を削除する。	VOLUME_ERASE_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
操作画面で変更したユーザ名に合わせて既存の資産情報に登録されているユーザ名を変更する。 また、IDに対応するユーザ名を、資産情報に設定する。	USER_ASSOC_UPD	<ul style="list-style-type: none"> • YES 更新する。 • NO 更新しない。 	YES

処理内容	変数名	指定値	デフォルト
操作画面で変更した部署に合わせて既存の資産情報に登録されている部署を変更する。 また、ID に対応する部署を、資産情報に設定する。	GROUP_ASSOC_UPD	<ul style="list-style-type: none"> • YES 更新する。 • NO 更新しない。 	YES
操作画面で変更した設置場所に合わせて既存の資産情報に登録されている設置場所を変更する。 また、ID に対応する設置場所を、資産情報に設定する。	LOCATION_ASSOC_UPD	<ul style="list-style-type: none"> • YES 更新する。 • NO 更新しない。 	YES
不要な IP アドレス管理情報を削除する。	IP_UNNECESSARY_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
インストールソフトウェア名が登録されていないインストールソフトウェア情報を削除する。	INSTINFO_NOLIST_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
ライセンス区分が「ユーザ許諾」ではないライセンスの、ユーザとソフトウェアキー情報との関連を解除する。 また、ライセンス区分が「マシン許諾」ではないライセンスの、ハードウェア資産情報とソフトウェアキー情報との関連を解除する。	LICENSELINK_UNNECESSARY_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
移管したライセンスと同一の「部署 ID」および「資産番号」のライセンスがあった場合、ライセンス数とライセンスキーをそれぞれ統合する。	SOFTINFO_CONSOLIDATE	<ul style="list-style-type: none"> • YES 結合する。 • NO 結合しない。 	YES
管理レベルを「管理対象外」に設定したソフトウェアのインストールソフトウェア情報を削除する。	INSTINFO_UNMANAGED_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
部署別 IP グループに対応する部署が存在しない場合、または設置場所別 IP グループに対応する設置場所が存在しない IP グループを削除する。	IPGROUP_NOOBJECT_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES

処理内容	変数名	指定値	デフォルト
ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に対応する部署を、資産情報の「部署」に登録する。	IP_GROUP_ASSOC	<ul style="list-style-type: none"> • NO 設定しない。 • OVERWRITE※ 常に IP アドレスから引き当てた部署で上書きする。 • YES [サーバセットアップ] ダイアログの「部署別 IP グループを使用した部署の設定」の設定に従う。 	NO
ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に対応する設置場所を、資産情報の「設置場所」に登録する。	IP_LOCATION_ASSOC	<ul style="list-style-type: none"> • NO 設定しない。 • OVERWRITE※ 常に IP アドレスから引き当てた設置場所で上書きする。 • YES [サーバセットアップ] ダイアログの「設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定」の設定に従う。 	NO
対応する情報が存在しない添付ファイルを削除する。	ATTACHFILE_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
関連資産情報の「子資産 ID」と一致する資産情報の「資産 ID」がない場合、該当する関連資産情報を削除する。	RELATION_NOOBJECT_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES
すでに存在していない部署に設定されている分掌情報を削除する。	DIVISIONINFO_NOOBJECT_DEL	<ul style="list-style-type: none"> • YES 削除する。 • NO 削除しない。 	YES

注※

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報から取得した値、または新規機器登録画面や[機器詳細] ダイアログで入力した値が設定されている場合でも上書きされます。すべての資産の「部署」と「設置場所」を、業務メニュー「IP グループ管理」での設定に合わせて更新する場合に指定します。

(4) タスク「データメンテナンス (Asset Console)」で実施する作業の指定例

必要な作業だけを実施して、それぞれの作業内容に合わせてタスクの実行間隔を変える場合の例を説明します。

タスク「データメンテナンス (Asset Console)」で実行したい作業と、実行間隔は次のとおりです。

- 「抹消」状態の機器を削除する作業、「抹消」状態のソフトウェアを削除する作業、および「返却」、「廃棄」状態のソフトウェアの関連情報を削除する作業だけ毎日実行する。
- 不要な IP アドレスを削除する作業だけを週に一度実行する。

taskopt.ini の指定：

```
[DATAMAINTEANCE]
ASSET_ERASE_DEL           = NO
ASSET_ASSOC_DEL           = NO
SOFTINFO_ERASE_DEL        = NO
SOFTINFO_ASSOC_DEL        = NO
CONTRACT_ERASE_DEL        = NO
VOLUME_ERASE_DEL          = NO
IP_UNNECESSARY_DEL        = NO
INSTINFO_NOLIST_DEL       = NO
LICENSELINK_UNNECESSARY_DEL = NO
INSTINFO_UNMANAGED_DEL    = NO
USER_ASSOC_UPD            = NO
GROUP_ASSOC_UPD           = NO
LOCATION_ASSOC_UPD          = NO
SOFTINFO_CONSOLIDATE      = NO

[MAINT_1]
ASSET_ERASE_DEL           = YES
SOFTINFO_ERASE_DEL        = YES
SOFTINFO_ASSOC_DEL        = YES

[MAINT_2]
IP_UNNECESSARY_DEL        = YES
```

オプションの指定：

タスク「データメンテナンス (Asset Console)」のオプションを、次のように指定します。「C:¥jplasset」は Asset Console のインストール先フォルダを示しています。

```
"C:¥jplasset¥exe¥javascript.exe"
```

```
-f "C:¥jplasset¥scriptbatch¥DataMaintenance.txt" -dp
```

```
-s OPT=1
```

次に、タスク「データメンテナンス (Asset Console)」をコピーして、オプションを次のように指定します。

```
"C:¥jplasset¥exe¥javascript.exe"
```

```
-f "C:¥jplasset¥scriptbatch¥DataMaintenance.txt" -dp
```


-s OPT=2

追加したタスクは週に一度実行するように変更します。タスクを実行する日時や頻度を変更する手順については、「[5.9.2 タスクの設定手順](#)」を参照してください。

5.9.4 契約期限を通知するタイミングの指定

タスク「期限切れ契約情報通知 (Asset Console)」で、契約終了日が迫った保守契約、リース契約およびレンタル契約をメールで通知するタイミングを指定できます。

通知するタイミングは、「タスク」タブの「実行するファイル名」で、ファイル名のあとに、次の形式で指定します (△は半角スペースを意味します)。

△MONTH= (契約期限までの期間)

契約期限までの期間は、月単位で 1～24 の範囲で指定します。

なお、何も指定しない場合、2 か月以内に契約期限が迫っている契約があると、メールで通知されます。

指定例

12 か月 (1 年) 以内に迫った契約をメールで通知する場合の指定例を次に示します。

"C:¥WINDOWS¥system32¥cscript.exe" "C:¥jplasset¥exe¥jamexpiration.vbs" MONTH=12

「C:¥WINDOWS」は、Windows のインストール先フォルダを示しています。また、「C:¥jplasset」は Asset Console のインストール先フォルダを示しています。

5.9.5 ライセンスの集計結果を削除するタイミングの指定

タスク「ライセンス超過通知 (Asset Console)」およびタスク「ライセンスの集計 (Asset Console)」で集計した結果は、指定した回数分を保存します。それ以前のデータは自動的に削除されます。この保存しておく回数 (デフォルトでは 10 回分) を、任意の回数に変更できます。

集計結果を保存しておく回数は、「タスク」タブの「実行するファイル名」で、ファイル名のあとに、次の形式で指定します (△は半角スペースを意味します)。

△GENERATION= (集計結果を残す数)

集計結果を残す数は、0～120 の範囲で指定します。0 を指定すると削除されません。

なお、何も指定しないと、最新の集計結果 10 回分を残して削除されます。

指定例

常に最新の集計結果だけを残してほかを削除する場合の指定例を次に示します。

"C:¥WINDOWS¥system32¥cscript.exe" "C:¥jplasset¥exe¥jamSoftwareAddUp.vbs"
GENERATION=1

「C:*WINDOWS」は、Windows のインストール先フォルダを示しています。また、「C:*jplasset」は Asset Console のインストール先フォルダを示しています。

5.9.6 削除する履歴情報の種類と履歴情報を削除するタイミングの指定

削除する履歴情報の種類と履歴情報を削除するタイミングの指定方法について説明します。

(1) 削除する履歴情報の指定

「タスク」タブの「実行するファイル名」で、ファイル名のあとに「-s TARGET=（削除する履歴情報のコード）」の形式で指定します。削除する履歴情報のコードは複数指定できます。

なお、何も指定しないと、資産情報の履歴情報だけが削除されます。

削除する履歴情報のコードを次に示します。

- A
資産情報の履歴です。対応するクラスは AssetUpdateRecord です。
- M
保守履歴です。対応するクラスは Maintenance です。
- U
変更履歴です。対応するクラスは UpdateRecord と InstalledUpdateRecord です。

複数指定する場合は、「-s TARGET=AMU」のように続けて指定してください。

(2) 履歴情報を残す期間の指定

「タスク」タブの「実行するファイル名」で、ファイル名のあとに、次の形式で指定します。

- 資産情報の履歴、保守履歴
-s TARGET=A（または M） -s MONTH=（履歴情報を残す期間）
履歴情報を残す期間は、月単位で 0～120 の範囲で指定します。0 を指定するとすべての履歴情報が削除されます。
なお、何も指定しないと、6 か月以上経過した履歴情報が削除されます。
- 変更履歴
-s TARGET=U -s UMONTH=（履歴情報を残す期間）
履歴情報を残す期間は、月単位で 0～120 の範囲で指定します。0 を指定するとすべての履歴情報が削除されます。
なお、何も指定しないと、すべての履歴情報が削除されます。

指定例

3 か月以上経過した、資産情報の履歴と保守履歴を削除する場合の指定例を次に示します。

```
"C:¥jplasset¥exe¥javascript.exe"
```

```
-f "C:¥jplasset¥scriptbatch¥RemoveRecord.txt"
```

```
-s TARGET=AM -s MONTH=3
```

「C:¥jplasset」は Asset Console のインストール先フォルダを示しています。

5.9.7 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報の取得

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を取得します。オプションを指定しないで実行した場合は、更新された情報だけを取得します。

なお、「タスク」タブの「実行するファイル名」で、ファイル名のあとに「-ALL」を指定すると、更新の有無に関係なく、すべての JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を取得します。引き当て項目の設定を変更した場合など、すべての情報を再取得したい場合にだけ指定してください。

指定例

```
"C:¥jplasset¥exe¥jamTakeITDM2Info.exe" -ALL
```

「C:¥jplasset」は Asset Console のインストール先フォルダを示しています。

5.9.8 機器の情報の変更通知

機器の情報が更新されたことを、資産管理者にメールで通知します。このタスクは Windows のタスクスケジューラに登録されていないので、使用する場合はタスクを登録する必要があります。

Windows Server 2003 で作成する場合を例に、Windows のタスクスケジューラにタスク「ハードウェア変更通知」を登録する手順を次に示します。

1. Windows のタスクスケジューラで、「スケジュールされたタスクの追加」をダブルクリックする。
2. 表示されたタスクウィザードに従って、各項目を指定する。
 - タスクの名称には「ハードウェア変更通知」と指定してください。
 - 実行するプログラムには、javascript.exe を指定してください。
javascript.exe の格納先を次に示します。
<Asset Console のインストール先フォルダ>¥exe
 - ユーザ名には、Administrators 権限を持つユーザ名を指定してください。
3. 「[完了] をクリックしたときに詳細プロパティを開く」チェックボックスをチェックして、[完了] ボタンをクリックする。

- 表示されたダイアログで、「タスク」タブを選択する。
- 「実行するファイル名」に、「-f <Asset Console のインストール先フォルダ>*scriptbatch
*NoticeUpdateRecord.txt」を追加する。
- [OK] ボタンをクリックする。
ダイアログが閉じて、タスク「ハードウェア変更通知」が登録されます。

タスク「ハードウェア変更通知」を実行すると、前回のタスク実行時から変更があった機器の台数が通知されます。そのため、初回タスク実行時や、前回タスクを実行してから間隔を開けて実行する場合などは、通知に時間が掛かることがあります。

また、自動的にメールを通知させるためには、Asset Console と Microsoft Internet Information Services で設定が必要です。メール通知するための設定手順については、「[5.10 メール通知を使用するための設定](#)」を参照してください。

タスク「ハードウェア変更通知」の戻り値と説明を、次の表に示します。

表 5-14 タスク「ハードウェア変更通知」の戻り値と説明

戻り値	説明
0x0	正常終了しました。
0x1	該当するデータがありませんでした。
0x2	メール通知が設定されていません。
0x3 以上	そのほかのエラーで終了しました。

5.10 メール通知を使用するための設定

ここでは、Windows のタスクスケジューラに登録されるタスクの実行結果のメール通知、および案件送付のメール通知を使用するために必要な、Microsoft Internet Information Services での設定方法について説明します。

タスクの実行結果や案件送付のメール通知を使用するためには、[サーバセットアップ] ダイアログでの設定も必要です。[サーバセットアップ] ダイアログでの設定方法については、「[5.3.5 メール通知情報の設定](#)」を参照してください。

また、SMTP Service の不正メールディレクトリを、定期的にメンテナンスしてください。詳細については、Microsoft Internet Information Services のマニュアルを参照してください。

5.10.1 SMTP 仮想サーバの実行

Windows Server 2003 の場合を例に、Microsoft Internet Information Services で、SMTP 仮想サーバを実行する手順を次に示します。

1. インターネットインフォメーションサービス (IIS) 6.0 マネージャを起動する。

2. 資産管理サーバを展開して、既定の SMTP 仮想サーバを選択する。

3. メニューから「操作」－「開始」を選択する。

既定の SMTP 仮想サーバの状態が「実行中」になります。

SMTP 認証を使用している場合の注意事項

資産管理システムが送信するメールは、Microsoft Internet Information Services の SMTP 仮想サーバにいったん登録され、SMTP 仮想サーバによる SMTP リレーによって、送信先のメールアカウントが存在するメールサーバへ転送されます。

Microsoft Internet Information Services の SMTP 仮想サーバは SMTP 認証 (SMTP AUTH) をサポートしていません。そのため、Microsoft Internet Information Services の SMTP 仮想サーバから最初にメール転送を受け付ける SMTP サーバ側では、資産管理サーバの PC に対して SMTP AUTH が無効になるように設定してください。

また、資産管理システムの SMTP 仮想サーバが直接外部のネットワークと接続できるような環境の場合、SMTP 仮想サーバがオープンリレー SMTP サーバとして利用される可能性があります。

オープンリレー SMTP サーバとして利用されないようにするためには、既定の SMTP 仮想サーバのプロパティで、「アクセス」タブの接続制御の設定で「以下のリストに含まれるコンピュータのみ」を選択して、リストには何も指定しないようにします。

なお、「オープンリレー SMTP サーバ」とは、サーバ設置者の意思に関係なく、スパムメールに代表される種々の迷惑メールの送信元として利用される SMTP サーバのことです。

5.10.2 リモートドメインの追加

Microsoft Internet Information Services で、SMTP 仮想サーバにリモートドメインを追加して、受信メールを中継する手順を次に示します。

1. インターネットインフォメーションサービス (IIS) 6.0 マネージャを起動する。
2. 資産管理サーバの既定の SMTP 仮想サーバを展開して、「ドメイン」を選択する。
3. メニューから「操作」－「新規作成」－「ドメイン」を選択する。
「SMTP ドメイン作成ウィザード」が表示されます。
4. 「リモートドメイン」を選択して「次へ」ボタンをクリックする。
5. 資産管理者メールアカウントを持つサーバ名を入力して「完了」ボタンをクリックする。
リモートドメインが作成されます。

案件送付の通知メールを送信する場合

送信先のメールアカウントを持つメールサーバ名を入力します。複数のメールサーバを使用する場合は、それぞれに対応したリモートドメインを追加します。ただし、メールサーバのドメイン名が共通している場合は、まとめてリモートドメインを作成できます。

例えば、リモートドメインを追加するメールサーバが「msrv01.abc.def.com」、
「msrv02.abc.def.com」、
「msrv03.abc.def.com」の場合、「*.abc.def.com」と指定することで、
三つのメールサーバに対応するリモートドメインを作成できます。

6. 作成したリモートドメインを選択して、「操作」－「プロパティ」を選択する。
リモートドメインのプロパティダイアログが表示されます。
7. 「全般」タブで、「このドメインへ受信メールを中継する」チェックボックスをチェックする。
8. 「OK」ボタンをクリックする。
リモートドメインへの受信メール中継が設定されて、リモートドメインのプロパティダイアログが閉じます。

5.11 資産管理データベース運用上の注意

この節では、資産管理データベース運用時に注意する必要がある次の項目について説明します。

- 資産管理データベースに表示される画面に入力できる文字
- データベースのメンテナンスに関する注意

5.11.1 資産管理データベースに入力できる文字

資産管理データベースでは、異なる長さの文字列の場合でも長さをそろえて比較するため、短い文字列の右側にスペースが埋められて検索されます。したがって、機器管理番号などの文字列を入力する場合は、短い文字列は長いけた数に合わせて前ゼロを追加し、けた数をそろえて入力してください。

5.11.2 データベースのメンテナンスに関する注意

トラブルが発生し、環境を再構築する場合などに備えて、定期的に資産管理データベースのバックアップを取得することをお勧めします。

データベースのメンテナンスやチューニングについては、「[12. 資産管理データベースのメンテナンス](#)」を参照してください。

5.12 クラスタシステムの環境構築手順

Asset Console のクラスタシステムを構築する場合の環境構築手順および注意事項を説明します。

なお、クラスタシステムを構築する場合の資産管理サーバの前提 OS については、「[3.4 クラスタシステムの導入](#)」を参照してください。

Asset Console をフェールオーバーさせる場合の環境構築手順を次に示します。

5.12.1 クラスタソフトのクラスタアドミニストレータによるグループ・リソース作成

IP アドレスリソース、ネットワーク名リソース、および共用ディスクリソースを同一グループに作成します。クラスタソフト初期導入時には、あらかじめ「クラスタグループ」というグループが作成されますが、これとは別に作成してください。また、実行系として動作させるサーバを優先サーバに設定します。

作成方法の詳細については、クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

5.12.2 Asset Console のフェールオーバー機能使用時の環境作成

Asset Console のフェールオーバー機能を使用する場合の、クラスタ環境の作成方法について説明します。

1. 実行系サーバに Asset Console をインストールする。

設定内容を次の表に示します。表に示した順に設定してください。

表に記載されていない項目については、通常どおりに設定してください。

インストールの手順については「[5.2.2 Asset Console のインストール](#)」を、セットアップの手順については「[5.3 資産管理サーバの設定](#)」を参照してください。

表 5-15 Asset Console の設定内容

プログラム	設定項目	設定内容
Asset Console のインストールウィザード	インストール先の選択	ローカルディスクを指定します。
	資産管理サーバの仮想ディレクトリ（デフォルトは、<Asset Console のインストール先フォルダ>¥wwwroot）	共有ディスクを指定します。
Asset Console の [サーバセットアップ] ダイアログ	サービス名	ODBC データソース名を指定します。
	ログイン ID、パスワード	実行系と待機系で同一のログイン ID およびパスワードを指定します。
[データベースマネージャ] ダイアログの	－	実行系および待機系で実行します。

プログラム	設定項目	設定内容
「データベースの新規作成」	—	実行系および待機系で実行します。
データベースの基本設定のダイアログ	ポート番号	実行系と待機系で同一のポート番号を指定します。
データベースの詳細設定のダイアログ	格納先フォルダ名	共有ディスクを指定します。 実行系と待機系で同一のパスになるようにしてください。
データベースの詳細設定のダイアログ	サイズ、自動拡張	実行系と待機系で同一のサイズおよび自動拡張を指定します。
「データソースの作成」ダイアログ	データソースの作成	データベースの新規作成時に、セットアップの内容に従ってデータソースが自動的に作成されます。実行系のサーバではデータベースの新規作成が完了してからデータソースの接続先を論理ホスト名（ネットワーク名）に変更してください（データベースの新規作成直後は、データソースの接続先はlocalhost です）。 待機系では、インストール後にデータベースを作成したあと、データソースの接続先を実行系と同一の論理ホスト名（ネットワーク名）に変更してください。

（凡例）

—：該当なし

2. 実行系サーバで動作を確認する。

データベースのサービスが共有ディスクのファイルを参照していることがあるため、動作確認が終了したら次の作業を実行してください。

- World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing を停止する。
- Administrators 権限を持つユーザで jamemb_dbstop.bat を実行して、資産管理データベースを停止する。

jamemb_dbstop.bat は次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%exe

3. クラスタアドミニストレータでグループを移動する。

これによって所有者が待機系サーバになります。

4. 待機系サーバで環境構築手順 1.を設定する。

各設定内容も同一とします。ただし、資産管理データベースの作成は不要です。

5. クラスタアドミニストレータで、Microsoft Internet Information Services のリソースを新規作成する。

使用する OS 別に、設定内容を次の表に示します。

表 5-16 Microsoft Internet Information Services のリソース設定内容 (Windows Server 2003 の場合)

設定項目	設定内容
名前	任意に設定します。
リソースの種類	「汎用スクリプト」を選択します。
グループ	Microsoft Cluster Service のクラスタドミニストレータによって作成したグループ名を設定します。
実行可能な所有者	2 台のノード (クラスタサーバ) を「実行可能な所有者」として追加します。
依存関係	「IP アドレス」のリソースを設定します。
スクリプトのファイルパス	%systemroot%\System32\Inetsrv\Clusweb.vbs

表 5-17 Microsoft Internet Information Services のリソース設定内容 (Windows Server 2012 および Windows Server 2008 の場合)

リソースの種類	スクリプトファイルパスへの 入力内容	依存関係
汎用スクリプト	%systemroot%\System32\Inetsrv\Clusweb.vbs	「共有ディスク」と「クライアントアクセスポイント」のリソースを設定します。

注

Windows Server 2012 および Windows Server 2008 のクラスタ環境でリソースを設定するためのスクリプトファイル (Clusweb.vbs) は、標準でインストールされていません。Microsoft Internet Information Services 7.0 の役割サービスの追加で「IIS 6 管理互換」の「IIS スクリプトツール」をインストールすると、スクリプトファイルが所定のパス (%systemroot%\System32\Inetsrv) に格納されます。

したがって、クラスタ環境でリソースを設定する場合は、事前に「IIS スクリプトツール」をインストールしておいてください。インストール方法の詳細については、Microsoft Internet Information Services のマニュアルを参照してください。

なお、Microsoft Internet Information Services 7.5、8.0、または 8.5 を利用する場合、役割サービスの追加で「IIS 6 管理互換」の「IIS スクリプトツール」をインストールしても、Clusweb.vbs は作成されません。Microsoft が公開している技術情報 (KB970759) を参照し、汎用スクリプトのサンプルをダウンロードしてご利用ください。

クラスタドミニストレータで、「IIS Server Instance」をオンラインにすると、サービスが開始します。以降、World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing を停止または開始するときは、クラスタドミニストレータを使用して状態をオフラインまたはオンラインにしてください。

6. クラスタドミニストレータで、DBMS のサービスのリソースを作成する。

次の表に示す設定内容でリソースを作成してください。状態をオンラインにすると、資産管理データベースが開始します。

使用する OS 別に、設定内容を次の表に示します。

表 5-18 データベースのサービスのリソース設定内容 (Windows Server 2003 の場合)

設定項目	設定内容
名前	任意に設定します。

設定項目	設定内容
リソースの種類	「汎用サービス」を選択します。
グループ	Microsoft Cluster Service のクラスタアドミニストレータによって作成したグループ名を設定します。
実行可能な所有者	2 台のノード（クラスタサーバ）を「実行可能な所有者」として追加します。
依存関係	「ネットワーク名」に、Asset Console のインストール先フォルダのフォルダ名を含んだ「物理ディスク」の各リソースを追加します。 RDB サーバを同一グループに設定している場合は、「RDB サーバ」のリソースも追加します。
汎用サービスパラメーター	HiRDBClusterService_AM1
レジストリの複製	指定しません。

表 5-19 データベースのサービスのリソース設定内容（Windows Server 2012 および Windows Server 2008 の場合）

リソースの種類	選択するサービス名	依存関係
汎用サービス	HiRDBClusterService_AM1	「共有ディスク」と「クライアントアクセスポイント」のリソースを設定します。

5.12.3 Web ブラウザの接続先の指定

Web ブラウザの接続先を次のように指定します。

http://論理ホスト名、または論理 IP アドレス/jplasset/login.htm

5.12.4 ファイアウォールを使用した環境での設定

Asset Console をクラスタシステム構成でファイアウォールを使用した構成にする場合、通過アドレスには物理アドレスを設定してください。

5.12.5 フェールオーバー発生後の対処

フェールオーバーが発生した場合のユーザの対処方法を次の表に示します。

表 5-20 フェールオーバー後のユーザの対処内容

フェールオーバー発生時に実行中の処理	フェールオーバー後の対処内容
ログイン待ちの状態	Web ブラウザでリロードを実施して、再度ログイン画面を表示してください。
ログイン中（操作なし）	一度ログアウトして、再度ログインしてください。

フェールオーバー発生時に実行中の処理	フェールオーバー後の対処内容
情報の新規登録中	一度ログアウトして、新規登録した情報を検索してください。登録が完了していない場合は、再度情報を登録してください。
情報の参照中	一度ログアウトして、再度ログインしてから検索してください。
集計中	集計処理中に停止した場合、集計結果はリストに表示されません。ログインを実行して、再度【集計実行】ボタンをクリックするか、またはタスク「ライセンス超過通知」を再度実行してください。
タスク「データメンテナンス (Asset Console)」の実行中	タスクは途中で停止した状態になります。該当するタスクを再度実行してください。

5.12.6 クラスタシステムを使用する場合の注意事項

クラスタシステムを使用する場合の注意事項を次に示します。

- ワトソンログの取得を OS で設定している場合は、フェールオーバーされません。クラスタシステムで Asset Console を運用する場合は、ワトソンログを取得しない設定にしてください。
- Asset Console をインストールまたはアンインストールする場合、クラスタアドミニストレータを使用して、World Wide Web Publishing Service のサービスリソースをオフラインにしてください。そのあと、「コントロールパネル」の「管理ツール」－「サービス」から World Wide Web Publishing Service を停止してください。オンラインのときにインストーラやアンインストーラを起動すると、リソースの設定によってフェールオーバーが発生したり、インストーラやアンインストーラがハングアップまたは異常終了したりするおそれがあります。
- サーバセットアップによって設定を変更する場合、サービスリソースのオンラインおよびオフラインに関係なく、実行系での設定内容は待機系に反映されないため、サーバセットアップの内容はそれぞれのサーバですべて同じ設定にしてください。
- IIS6.0 以降の場合、待機系の World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing は停止している必要があります。
- クラスタシステム環境に対応したセットアップを実施したあとは、「論理ホスト名」および「実行系ホスト名」を変更しないでください。Asset Console でのクラスタの機能が正常に動作しなくなります。論理ホスト名および実行系ホスト名を変更する場合は、資産管理データベースを再作成する必要があります。論理ホスト名を変更する手順については、「[付録 E.3 データベースのホスト名の変更](#)」を参照してください。また、実行系ホスト名を変更する手順については、「[\(1\)\(b\) 実行系ホスト名を変更する手順](#)」を参照してください。
- フェールオーバー発生時、待機系の World Wide Web Publishing Service（または World Wide Web Publishing）は停止状態から起動される必要があります。そのため、待機系の World Wide Web Publishing Service はフェールオーバー発生前に停止しておく必要があります。例えば、Clusweb.vbs（または Clusweb7.vbs）の Offline 関数に、次のような記述を追加することで、待機系の Microsoft Internet Information Services のオフライン時に World Wide Web Publishing Service を停止させることができ、World Wide Web Publishing Service の停止を自動化できます。

<記述例>

```
...
Function Offline( )
    Dim objWmiProvider
    Dim objService
    set objWmiProvider = GetObject("winmgmts:/root/cimv2")
    set objService = objWmiProvider.get("win32_service='w3svc'")
    StopWebSite()
    Offline = true
    objService.StopService()
End Function
...
```

(1) 論理ホスト名および実行系ホスト名を変更する手順

論理ホスト名および実行系ホスト名を変更する手順をそれぞれ次に示します。

(a) 論理ホスト名を変更する手順

論理ホスト名を変更する手順については、「[付録 E.3 データベースのホスト名の変更](#)」を参照してください。

(b) 実行系ホスト名を変更する手順

実行系ホスト名を変更する前に、資産管理サーバで、Asset Console のサービス、コマンド、およびタスクをすべて停止してください。

Asset Console のサービスは次に示す順番で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Console のコマンドおよびタスク

また、実行系ホスト名を変更したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

実行系ホスト名を変更する手順を次に示します。

1. データベースを停止する。
データベースを停止する方法については、「[付録 E.4\(2\) データベースの停止](#)」を参照してください。
2. <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%conf に格納されている pdutsys ファイルをテキストエディタで開く。
3. pdutsys ファイルの「set pd_hostname=ホスト名」の「ホスト名」を変更する。
4. OS のホスト名を変更する。
5. OS を再起動する。

5.13 JP1/IT Desktop Management 2 の操作画面からの資産情報の操作を抑止する

Asset Console を使用した資産管理と JP1/IT Desktop Management 2 の操作画面を使用した資産管理は併用できません。

資産情報の整合性を保持するため、JP1/IT Desktop Management 2 のシステム構築時に、資産管理に Asset Console を使用するかどうかを選択してください。Asset Console を使用した資産管理をする場合は、JP1/IT Desktop Management 2 の操作画面からの資産情報の操作を抑止する必要があります。抑止手順については、マニュアル「JP1 Version 10 JP1/IT Desktop Management 2 構築ガイド」の「3.9 資産情報の登録と編集を抑止する手順」を参照してください。

6

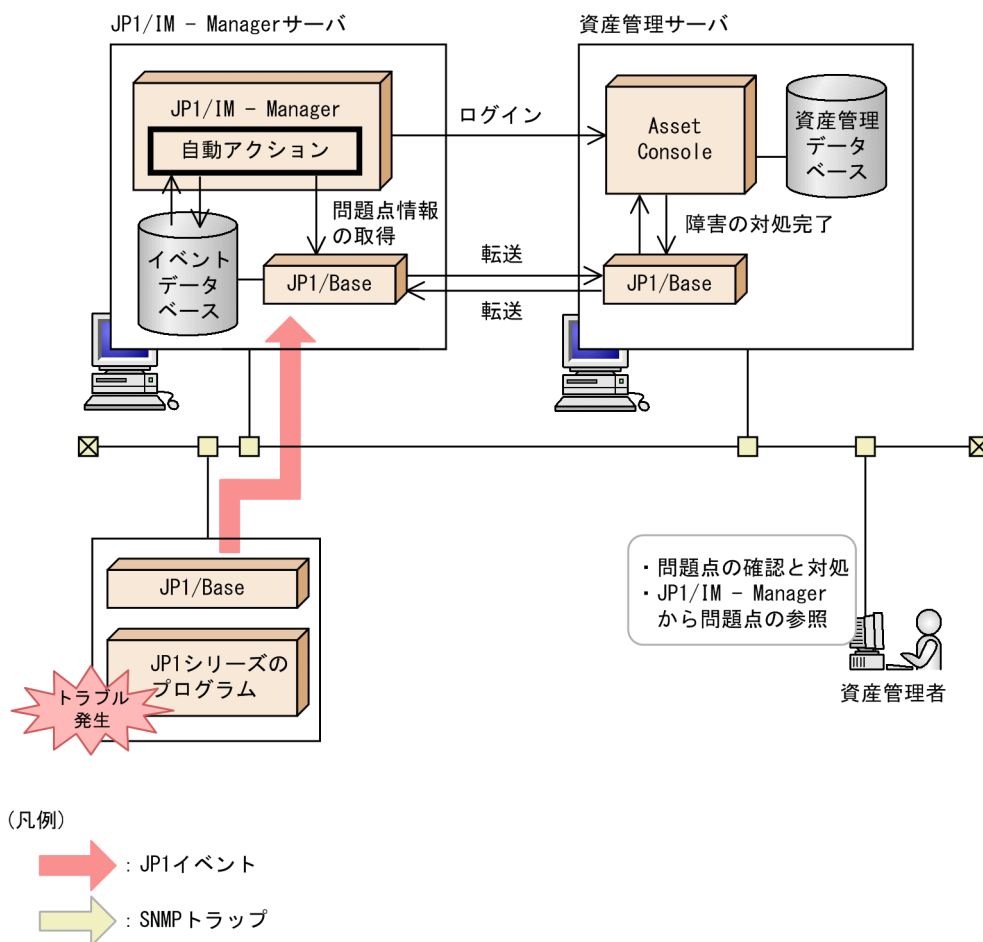
他製品と連携した資産管理の実現

この章では、他製品と連携することで実現できる資産管理業務と、実現するための方法について説明します。

6.1 JP1/IM と連携するための設定

JP1/IM と連携して、Asset Console から JP1 イベントおよび SNMP トラップの情報を基に問題点を確認するために必要な作業の流れを次の図に示します。必要なプログラムについては、「[4.2.2 JP1/IM - Manager と連携したシステム構成](#)」を参照してください。

図 6-1 Asset Console から問題点を確認するために必要な作業の流れ



1. JP1/IM - Manager の自動アクションの設定で、JP1 イベントの自動取得および対処完了通知を設定

JP1/IM - Manager のサーバで問題点情報を取得すると、自動アクション機能によって、JP1/Base を経由して資産管理サーバに通知されます (JP1 イベントの自動取得)。また、Asset Console で問題点の対処完了を登録すると、対処完了を通知する JP1 イベントが JP1/Base を経由して JP1/IM - Manager のサーバに送付されて、自動アクション機能によって JP1/IM - Manager の問題点情報の状態に反映されます (対処完了通知)。

JP1 イベントの自動取得の設定方法については、「[6.1.1\(1\) JP1 イベントの自動取得の設定](#)」を参照してください。また、対処完了通知の設定方法については、「[6.1.1\(2\) 障害の対処完了通知の設定](#)」を参照してください。

自動アクション機能の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。

2. JP1 イベントを転送するための設定

Asset Console からの JP1 イベントを転送するために、JP1/Base で、ほかのイベントサーバに JP1 イベントを自動転送するための環境設定が必要です。JP1 イベントの自動転送の設定については、「[6.1.2 JP1 イベントを転送するための設定](#)」を参照してください。

3. 発行する JP1 イベントの変更

イベント発行定義ファイルに、Asset Console から発行する JP1 イベントの種類を定義できます。デフォルトでは、すべての JP1 イベントを発行する設定になっています。イベント発行定義ファイルの定義方法については、「[6.1.3 発行する JP1 イベントの変更](#)」を参照してください。

4. 自動ログインの設定

Asset Console の業務メニュー「ユーザ組織管理」で、連携用に用意されているユーザのパスワードをあらかじめ設定しておく、[イベントコンソール] 画面から、Asset Console の「問題点詳細」ダイアログを参照する際に、ユーザ ID およびパスワードの指定を省略して自動的にログインできます。JP1/IM との連携用には、ユーザ ID 「JP1_IM」、ユーザ名「イベント管理者」が用意されています。パスワードの設定方法については、マニュアル「運用ガイド」の「4.1 ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理）」を参照してください。

自動ログインの設定を取り消すには

いったんパスワードを設定したあとに、自動ログインの設定を取り消すには、設定したユーザを削除するか、または jamimport（インポート）コマンドでのインポートで、パスワードを空白に更新してください。

jamimport コマンドでのインポートの詳細については、「[7.1.1\(3\) jamimport コマンドでのインポートの流れ](#)」を参照してください。

6.1.1 JP1/IM - Manager での自動アクションの設定

ここでは、Asset Console が発行した JP1 イベントを、JP1/IM - Manager で自動取得するための設定、および Asset Console での障害の対処完了を、JP1/IM - Manager に通知するための設定について説明します。

(1) JP1 イベントの自動取得の設定

ここでは JP1/IM 側に表示される情報のうち、「緊急」と「警告」だけを Asset Console に通知する場合の指定例を示します。

JP1/IM - Manager の「アクション詳細設定」画面で指定する値を次に示します。

図 6-2 「アクション詳細設定」画面（JP1 イベントの自動取得の設定）

アクション詳細設定

パラメーターグループ: 0

アクション名: AC_アクション11

コメント: ACとIM-Mの連携

アクション条件 | 実行監視

実行条件

イベントID: ☒ 指定 ☐ すべて

選択イベント条件入力

属性名	属性値	条件
重大度	緊急, 警告	と一致する

追加 削除 上へ移動 下へ移動

イベント条件

登録ホスト名: 重大度

オブジェクトタイプ: 登録名タイプ

登録名: 事象種別

直接指定

☒ 緊急 ☐ 警戒 ☐ 致命的 ☐ エラー

☒ 警告 ☐ 通知 ☐ 情報 ☐ デバッグ

正規表現指定

適用

実行内容

実行ユーザー名: jpladmin

実行ホスト名: asset08

アクション: jamTakeIMEvent.bat \"\$EVDATE\" \"\$EVTIME\" \"\$EVUSR\" \"\$EVHOST\" \"\$EVIPADDR\" \"\$EVSEQNO\" \"\$EVMSG\"

環境変数ファイル:

OK キャンセル ヘルプ

- ・「パラメーターグループ」の設定は変更しない。
- ・「アクション名」に任意の名称を指定する。
- ・「コメント」は必要に応じて指定する。
- ・「アクション条件」タブ（実行条件）
 - ・「イベントID」に「すべて」を選択する。
 - ・「イベント条件」で、[追加] ボタンをクリックして「重大度」を選択し、「直接指定」の「緊急」および「警告」のチェックボックスをチェックして [適用] ボタンをクリックする。
- ・「アクション条件」タブ（実行内容）
 - ・「実行ユーザー名」にアクションを実行するユーザ名を指定する。
 - ・「実行ホスト名」にアクションを実行するホスト名を指定する。

- 「アクション」に「jamTakeIMEvent.bat "\$EVDATE" "\$EVTIME" "\$EVUSR" "\$EVHOST" "\$EVIPADDR" "\$EVSEQNO" "\$EVMSG" "\$EVSEV" "\$ACTHOST" "\$EV"OBJECT_TYPE" "\$EV"SNMP_SOURCE"」を指定する。
ファイル名は、パスで指定しないでください。
- 「環境変数ファイル」を空白にする。
- 「実行監視」タブ
必要に応じて指定してください。

(2) 障害の対処完了通知の設定

Asset Console で対策を登録する際に、障害の対処が完了したことを JP1/IM - Manager に通知するには、JP1/IM - Manager の jcochstat コマンドを自動アクションに設定します。

JP1/IM - Manager の「アクション詳細設定」画面で指定する値を次に示します。

図 6-3 「アクション詳細設定」画面（障害の対処完了通知の設定）

- 「パラメーターグループ」に、(1)での設定とは異なるパラメーターグループを指定する。

- 「アクション名」に任意の名称を指定する。
- 「コメント」は必要に応じて指定する。
- 「アクション条件」タブ（実行条件）
 - 「イベント ID」に「指定」を選択して、「00005581」を指定する。
 - 「イベント条件」に何も指定しない。
- 「アクション条件」タブ（実行内容）
 - 「実行ユーザー名」にアクションを実行するユーザ名を指定する。
 - 「実行ホスト名」にアクションを実行するホスト名を指定する。
 - 「アクション」に jcochstat コマンドのフルパスと、「-n "\$EV"EVENT_SEQNO"" -k PROCESSED」を指定する。
 - 「環境変数ファイル」を空白にする。
- 「実行監視」タブ
必要に応じて指定してください。

Asset Console で更新した JP1 イベントまたは SNMP トラップの対処状況を反映するには、JP1/IM - Manager の「システム環境設定」画面の「通信」タブで、「jcochstat コマンド」の「対処状況の変更を許可」のチェックボックスをチェックします。

6.1.2 JP1 イベントを転送するための設定

Asset Console からの JP1 イベントを転送するために、JP1/Base で、ほかのイベントサーバに JP1 イベントを自動転送するための環境設定が必要です。

JP1 イベントの転送設定および定義情報の配布については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

6.1.3 発行する JP1 イベントの変更

Asset Console から発行する JP1 イベントは、イベント発行設定ファイル（acevent.conf）に定義します。デフォルトでは、すべての JP1 イベントを発行する定義になっています。

acevent.conf の格納場所を次に示します。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%conf%event

acevent.conf の内容と、発行する JP1 イベントの定義方法を次に示します。

```
[EventID]
00005531=1
```

```
00005532=1
00005533=1
00005541=1
00005542=1
00005543=1
00005581=1
00005582=0
00005583=0
```

[EventID]セクションに、「(イベント ID) =1 (または 0)」の形式で定義します。

各イベント ID に対して、JP1 イベントを発行する場合は 1 を、発行しない場合は 0 を指定します。各 JP1 イベントのイベント ID は、「[13.2 Asset Console から発行する JP1 イベントの詳細](#)」を参照してください。

6.1.4 JP1/IM からの資産情報の表示

JP1/IM - Manager の [イベントコンソール] 画面から、選択した JP1 イベントに該当する [問題点詳細] ダイアログを表示して、詳細情報を参照できます。

[問題点詳細] ダイアログを表示する手順を次に示します。

1. JP1/IM - Manager の [イベントコンソール] 画面で、Asset Console の発行した JP1 イベントを選択する。
2. イベント詳細表示画面を表示する。
3. [モニター起動] ボタンをクリックする。
[問題点詳細] ダイアログが表示されます。

[イベントコンソール] 画面から [問題点詳細] ダイアログを表示する流れを次の図に示します。

図 6-4 「問題点詳細」 ダイアログを表示する流れ

The workflow consists of three steps:

- JP1 Central Console (jp1admin@vm-manager-m)**: The main interface showing a list of events. A red arrow points to an event with ID 00005582 and message 'KDAMS15-1 問題点の状態が変更されました。'.
- イベント詳細 - イベントコンソール**: A dialog showing the details of the selected event. The 'メッセージ' (Message) field contains the text 'KDAMS15-1 問題点の状態が変更されました。'.
- 問題点詳細 - Windows Internet Explorer**: A dialog showing the details of the problem point. The '登録日' (Registration Date) is 2014/10/23 12:27:00, and the '管理番号' (Management Number) is 1000000008. The '障害内容' (Incident Content) is '機器が故障しました。'.

「イベントコンソール」画面の操作方法については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス」を参照してください。

6.2 JP1/IM - Service Support と連携するための設定

JP1/IM - Service Support から、Asset Console で管理する機器の情報を参照するときは、Asset Console にログインします。

Asset Console の業務メニュー「ユーザ組織管理」で、連携用に用意されているユーザのパスワードをあらかじめ設定しておく、ログイン時のユーザ ID およびパスワードの指定を省略して、自動的にログインできます。

JP1/IM - Service Support との連携用には、ユーザ ID 「JP1_IM_SS」、ユーザ名「サービスサポート管理者」が用意されています。

各製品と連携するために用意されているユーザおよびパスワードの設定方法については、マニュアル「運用ガイド」の「4.1 ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理）」を参照してください。

自動ログインの設定を取り消すには

いったんパスワードを設定したあとに、自動ログインの設定を取り消すには、設定したユーザを削除するか、または jamimport（インポート）コマンドでのインポートで、パスワードを空白に更新してください。

jamimport コマンドでのインポートの詳細については、「[7.1.1\(3\) jamimport コマンドでのインポートの流れ](#)」を参照してください。

6.2.1 JP1/IM - Service Support からの資産情報の表示

JP1/IM - Service Support で案件の情報を参照するときに、Asset Console の管理する機器の情報を参照できます。

[案件参照] 画面から [機器詳細] ダイアログを表示して、機器の情報を参照する手順を次に示します。

1. [メイン] 画面（案件一覧）から、詳細情報を表示したい案件をダブルクリックする。

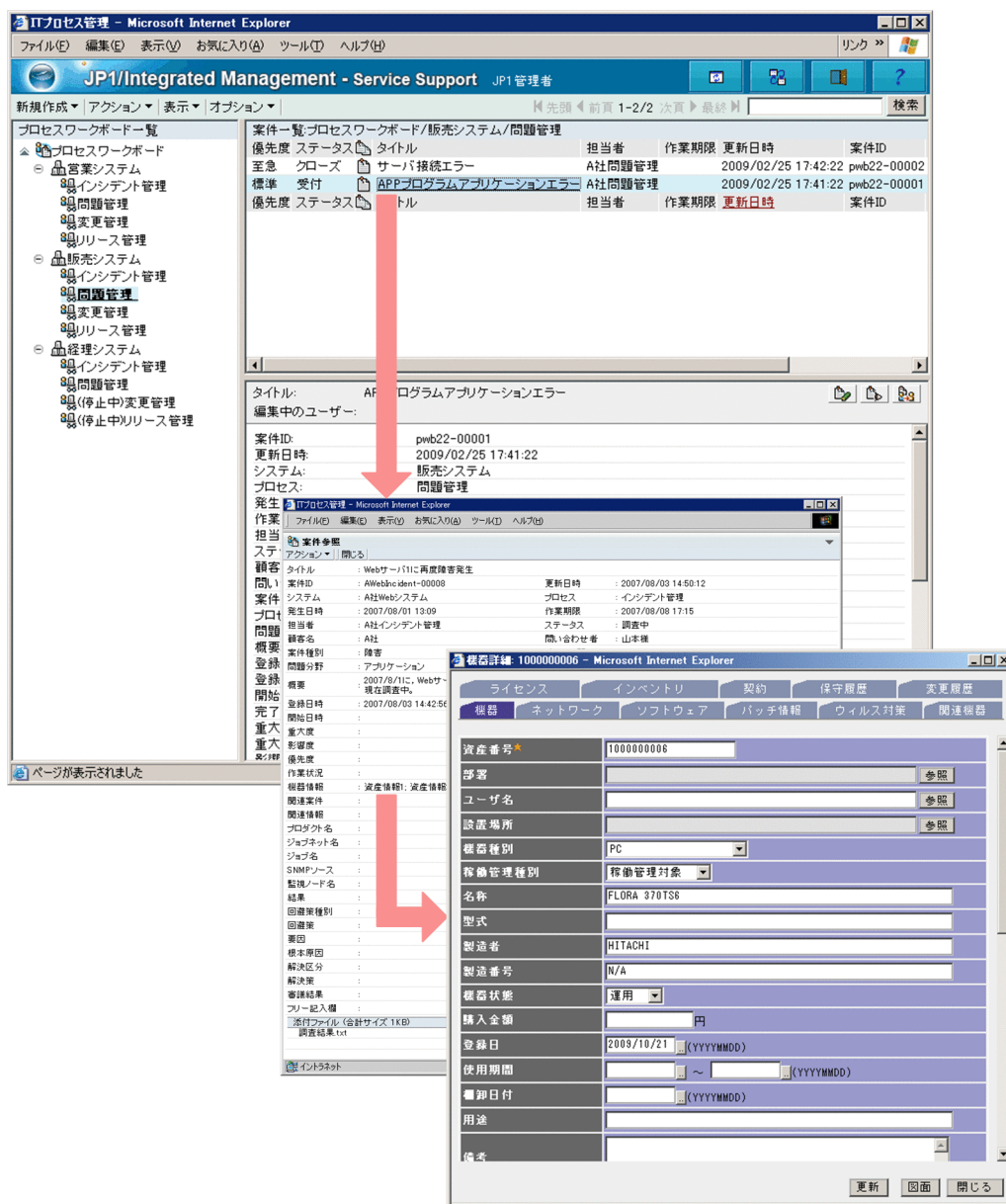
[案件参照] 画面が表示されます。なお、案件プレビューの [案件参照] 画面を呼び出すアイコンからも、[案件参照] 画面を表示できます。

2. 「機器情報」に登録した情報のアンカーをクリックする。

Asset Console の [機器詳細] ダイアログが表示されます。機器の種類、利用者、部署、保守履歴などを参照できます。

[案件参照] 画面から、[機器詳細] ダイアログを表示する流れを次の図に示します。

図 6-5 「案件参照」画面から「機器詳細」ダイアログを表示する流れ



6.3 EUR と連携するための設定

EUR と連携して、PDF ファイルに帳票を出力し、Web ブラウザで表示・印刷するための設定手順について次に示します。必要なプログラムについては、「4.2.4 EUR と連携したシステム構成」を参照してください。

1. ボタンの表示の設定

[サーバセットアップ] ダイアログの「基本情報」の「PDF ボタンの表示」項目で、「表示する」を選択します。

[サーバセットアップ] ダイアログでの設定方法については、「5.3.4 基本情報の設定」を参照してください。

6.3.1 PDF ファイルの表示および印刷

Asset Console から、PDF ファイルを表示および印刷する手順について次に示します。

1. 操作画面の [PDF] ボタンをクリックする。

Adobe Reader を使用して、PDF ファイルが表示されます。


2. PDF ファイルを印刷する場合は、Adobe Reader の印刷機能を使用して実行する。

表示した PDF ファイルが印刷されます。

表示される PDF ファイルの例を次の図に示します。

図 6-6 PDF ファイルを表示した画面

2003/ 5/27

資産番号	名称	登録日	部署	資産番号
1000000030	FLORA 330W DG3	2003/05/14	本社/総務部/経理課	 * 1 0 0 0 0 0 0 0 3 0 *
G08462	FLORA 350 DV5	2003/05/13	本社/総務部/庶務課	 * G 0 8 4 6 2 *
G08463	FLORA 350 DV5	2003/05/13	本社/総務部	 * G 0 8 4 6 3 *
R13089	FLORA 370TS6	2003/05/13	本社/総務部	 * R 1 3 0 8 9 *

(1) 管理項目編集および業務フィルターで設定を変更した場合の注意事項

帳票に出力される項目に対して、管理項目編集で表示名を変更したり、業務フィルターで表示・非表示を変更したりすると、帳票上の対応する項目がヘッダ行だけとなり、データ行が空欄のまま出力されます。また、変更した表示名や表示順序は反映されません。

管理項目編集および業務フィルターでの変更内容を帳票に反映させるためには、EUR での帳票フォームの編集と CSV ファイルの編集が必要です。

帳票フォームと CSV ファイルの編集手順を次に示します。

1. 帳票フォームに対応する CSV ファイルを EUR のフォルダにコピーする。

EUR での帳票フォーム編集時には、マッピングデータまたはユーザ定義データとしての CSV ファイルが必要です。

帳票フォームを編集する前に、各帳票フォームに対応する CSV ファイルを、所定のフォルダにコピーします。CSV ファイルの格納先を次に示します。

コピー元

<Asset Console のインストール先フォルダ>%eur

コピー先

<EUR のインストール先フォルダ>%SAMPLE%Reports

2. 管理項目編集および業務フィルターでの変更に合わせて CSV ファイルを変更する。

手順 1. で格納した CSV ファイルを、管理項目編集および業務フィルターでの設定に合わせて変更します。

管理項目編集で表示名を変更した場合、ヘッダ行を変更した表示名に合わせて変更します。

業務フィルターで表示・非表示を変更した場合、CSV ファイルの対応するカラムを追加・削除します。

3. 管理項目編集および業務フィルターでの変更に合わせて、帳票フォームを変更する。

該当する帳票フォームの表示名を、管理項目編集での設定に合わせて変更します。このとき、該当する項目が、業務フィルターで表示する設定になっている必要があります。

また、業務フィルターでの設定に合わせて、帳票フォームの項目を追加・削除します。

帳票フォームの格納先を次に示します。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%eur

各画面で使用している帳票フォームのファイル名と、対応する CSV ファイルのファイル名を次の表に示します。

表 6-1 帳票フォーム・CSV ファイルのファイル名

画面	帳票フォームファイル名	CSV ファイル名
保有機器一覧	PossessionApparatusList.fms	PossessionApparatusList.csv
契約一覧	ContractInformationList.fms	ContractInformationList.csv
問題点詳細	MaintenancePDFList.fms	MaintenancePDFList.csv
保有ライセンス利用機器一覧	MachineDetailPossLic.fms	MachineDetailPossLic.csv MachineDetailPossLic2.csv
超過ライセンス利用機器一覧	MachineDetailExcessLic.fms	MachineDetailExcessLic.csv MachineDetailExcessLic2.csv

画面	帳票フォームファイル名	CSV ファイル名
不正利用ライセンス利用機器一覧	MachineDetailUnPossLic.fms	MachineDetailUnPossLic.csv MachineDetailUnPossLic2.csv
未登録ソフトウェア利用機器一覧	MachineDetailUnRegSoft.fms	MachineDetailUnRegSoft.csv MachineDetailUnRegSoft2.csv
保有ソフトウェア一覧	KeepSoftwareList.fms	KeepSoftwareList.csv
ソフトウェア資産詳細	SoftwareDetail.fms	SoftwareDetail.csv SoftwareKeyInfo.csv
ボリューム契約一覧	VolumeContractInformationList.fms	VolumeContractInformationList.csv
ボリューム契約詳細	VolumeContractInformation.fms	VolumeContractInformation.csv VolumeContractInformation2.csv
保守履歴情報詳細	MaintenancePDFList.fms	MaintenancePDFList.csv

7

CSV データの登録と出力

この章では、CSV データを資産管理データベースに登録する方法、および資産管理データベースの資産情報を出力する方法について説明します。

なお、64 ビットの OS で Asset Console のコマンドを実行する場合は、32 ビット用のコマンドプロンプトで実行する必要があります。実行手順については、「付録 F.2 64 ビットの OS でコマンドやタスクを実行する場合の注意事項」を参照してください。

7.1 CSV データの登録（インポート）

この節では、インポート（CSV ファイルの資産情報を一括して取り込む方法）について説明します。

インポートには、次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「インポート」からのインポート
- jamCsvImport.bat でのインポート
- jamimport コマンドでのインポート

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で収集していない情報を登録する場合に、大量の情報を一括して資産管理データベースに登録できます。また、資産管理データベースの登録内容を一括して更新および削除する場合にも利用できます。

7.1.1 インポートの流れ

インポートするときの作業の流れを方法別に説明します。

(1) 業務メニュー「インポート」からのインポートの流れ

業務メニュー「インポート」からインポートするときの作業の流れを次に示します。

1. インポートする CSV ファイルを作成する。

資産管理データベースにインポートする情報を記述した CSV ファイルを作成します。CSV ファイルの 1 行目は、各項目のタイトル行とします。なお、エクスポートした CSV ファイルを使用して作成する場合は、必ず同一バージョンの Asset Console でエクスポートしたデータを使用してください。

インポートの対象となる項目については、「[14.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目](#)」を参照してください。

2. 業務メニュー「インポート」を選択する。

インポート画面が表示されます。

3. インポートの条件を作成する。

インポートする情報の種類（例えば「機器に関する情報」など）を選択したあと、Asset Console の管理項目に対して、CSV ファイルの各項目を引き当てたり、固定値を設定したりして、条件を作成します。

4. インポートの条件を登録する。

任意の名前を付けて、条件を登録します。

5. 登録した条件を指定して、インポートを実行する。

条件の作成方法に誤りがあった場合は、警告のメッセージが表示されます。必要に応じて条件を見直して、修正してください。

業務メニュー「インポート」からインポートする際の各作業方法は、マニュアル「運用ガイド」の「4.10 資産情報を一括で更新する（インポート）」を参照してください。

(2) jamCsvImport.bat でのインポートの流れ

jamCsvImport.bat を実行してインポートするときの作業の流れを次に示します。

1. インポートする CSV ファイルを作成する。

資産管理データベースにインポートする情報を記述した CSV ファイルを作成します。CSV ファイルの 1 行目は、各項目のタイトル行とします。インポートの対象となる項目は、業務メニュー「インポート」からのインポートと同じです。インポートの対象となる項目については「[14.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目](#)」を参照してください。

2. 資産管理サーバ上のコマンドラインから、jamCsvImport.bat を実行する。

指定した条件に従って、インポートが実行されます。エラーとなった場合は、エラーメッセージが表示されます。

jamCsvImport.bat の実行方法については、「[7.1.3 jamCsvImport.bat の実行](#)」を参照してください。

注意事項

- カスタマイズの資産種別を指定してインポートする場合は、必ず同一バージョンの Asset Console でエクスポートしたデータを使用してください。
- Asset Console のバージョンアップに伴って、資産管理データベースで管理する項目が増えた場合に、インポートおよびエクスポートの対象となる項目が増えることがあります。それによって、バージョンアップ前にエクスポートしたデータを、指定した条件でインポートできない場合があります。バージョンアップ前にエクスポートしたデータをインポートするときは、CSV ファイルに、バージョンアップ後に追加されたプロパティ項目を記述してください。

(3) jamimport コマンドでのインポートの流れ

注意事項

Asset Console のサービス、コマンド、およびタスクを次に示す順番ですべて停止したあとで、jamimport コマンドを実行してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Console のコマンドおよびタスク

また、jamimport コマンドを実行したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

jamimport コマンドを実行してインポートするときの作業の流れを次に示します。

1. インポートする情報と対応するクラスを確認する。

資産管理データベースにインポートする情報が、どのクラスに該当するかを確認します。また、インポートするクラスに応じて、同時にインポートが必要なクラスがあるかどうかを確認します。

インポートする情報に該当するクラスと、クラスの関連については「[7.1.4 jamimport コマンドでインポートする情報とクラスとの対応](#)」を参照してください。

2. インポートする CSV ファイルを作成する。

資産管理データベースにインポートする情報をフォーマットに従って記述したファイル（データファイル）を CSV ファイルで作成します。データファイルはインポートするクラスにつき一つ作成します。データファイルを作成する際は、新規に情報を登録する場合も含めて、該当するクラスをエクスポートした CSV ファイルを利用すると便利です。

エクスポートの手順については「[7.2 CSV データの出力（エクスポート）](#)」を、データファイルの作成方法については「[7.1.6 データファイルの作成](#)」を参照してください。

3. データファイル名定義ファイルを作成する。

複数のデータファイルを一括してインポートする場合、インポートするデータファイル名を定義したファイル（データファイル名定義ファイル）を作成します。インポートするデータファイルが一つだけの場合は不要です。

データファイル名定義ファイルの作成方法については「[7.1.7 データファイル名定義ファイルの作成](#)」を参照してください。

4. jamimport コマンドを実行する。

資産管理サーバ上のコマンドラインから、jamimport コマンドを実行します。

jamimport コマンドについては、「[7.1.8 jamimport（インポート）コマンドの実行](#)」を参照してください。

jamimport コマンドを実行すると、CSV ファイルに記述した資産情報が資産管理データベースに登録されます。複数のデータファイルがある場合は、データファイル名定義ファイルに記述した順序で取り込まれます。

なお、アソシエーションクラスをインポートする場合は、関連づけるオブジェクトクラスを先にインポートしておく必要があります。

データに誤りがあった場合

データファイルが取り込まれると、項目タイトル行がチェックされます。項目タイトル行が資産管理データベースのテーブルと不整合であるなどの誤りがあった場合は、その時点でインポート処理は終了されます。

項目タイトル行に誤りがなければ、データ行に記述したオペレーションコードの内容に従って、データ行が1行ずつインポートされます。データに誤りがあった場合は、インポート処理は継続しますが、誤りのあった行はインポートされません。

7.1.2 インポート時の注意事項

CSV ファイルを作成するとき、またはインポートの条件を指定するときの注意事項について説明します。

(1) 編集不可のプロパティ

管理項目「更新識別」(プロパティ「UpdateInd」)は、資産管理システムで使用する情報のため、編集しないでください。JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取り込んだ情報を jamimport コマンドによるインポートで更新する場合、「更新識別」に指定する値を誤ると、次回 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から管理情報を取り込んだときに削除されることがあります。

このような状況を避けるために、インポートを実行したあとに JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から管理情報を取り込む際は、更新日付に関係なくすべての情報を取り込むことをお勧めします。

(2) ID を伴うクラスのインポート

エクスポートしたデータ以外をインポートする場合、「資産 ID」、「契約 ID」などの ID を伴うクラスをインポートする際には、ID を 10001~10000000000 の範囲で指定します。ID はユニークとなるように指定してください。また、この範囲外の ID を指定すると、Asset Console によって自動的に採番される ID と重複してエラーとなるので注意してください。

10001~10000000000 の範囲内で ID を指定するプロパティを次に示します。

- AddressGroup (IP グループ情報) クラスの IPGroupID (IP グループ ID)
- AssetInfo (資産情報) クラスの AssetID (資産 ID)
- AssetInfo (資産情報) クラスの AssetBranchNo (資産番号枝番)
- Contract (契約情報) クラスの ContractID (契約 ID)
- DivisionInfo (分掌情報) クラスの DivisionID (分掌 ID)
- InstalledList (インストールソフトウェアリスト) クラスの InstalledID (インストール ID)
- LicenseInfo (ライセンス情報) クラスの LicenseID (ライセンス ID)
- MachineCatalog (機器カタログ) クラスの CatalogID (カタログ ID)
- Maintenance (保守履歴) クラスの MaintenanceID (保守履歴 ID)
- NetworkInfo (ネットワーク情報) クラスの NetworkID (ネットワーク情報 ID)
- PatchConditionInfo (パッチ対象機器情報) クラスの PatchConditionID (パッチ ID)
- RelationAssetInfo (関連資産情報) クラスの ParentAssetID (親資産 ID)
- RelationAssetInfo (関連資産情報) クラスの ChildAssetID (子資産 ID)
- SoftwareKeyInfo (ソフトウェアキー情報) クラスの KeyID (キー ID)
- SoftwareList (ソフトウェアリスト) クラスの SoftwareListID (ソフトウェアリスト ID)
- VolumeContract (ボリューム契約情報) クラスの VolumeID (ボリューム契約 ID)

(3) 半角英数字だけが使用できるプロパティのインポート

次のプロパティは、必ず半角英数字で値を指定してインポートしてください。

- DivisionInfo（分掌情報）クラスの DivisionID（分掌 ID）
- GroupInfo（部署情報）クラスの GroupID（部署 ID）
- GroupInfo（部署情報）クラスの UpperLinkID（上位部署 ID）
- LocationInfo（設置場所情報）クラスの LocationID（設置場所 ID）
- LocationInfo（設置場所情報）クラスの UpperLinkID（上位設置場所 ID）
- RoleInfo（権限管理情報）クラスの RoleID（権限 ID）
- JobRoleInfo（職権管理情報）クラスの JobRoleID（職権 ID）
- UserInfo（ユーザ管理情報）クラスの UserID（ユーザ ID）

(4) ユーザ拡張用の管理項目（プロパティ）の指定

管理項目には、必要に応じて追加するための項目が用意されているものがあります。「固有情報」または「UserProperty」が名称に含まれる項目（プロパティ）がそれに当たります。

このユーザ拡張用の項目には、管理項目編集画面で管理項目を追加してから、管理対象となる値を指定してください。

管理項目の追加方法については、「[9.2 管理項目の変更（管理項目編集）](#)」を参照してください。

(5) 同一のキーとなるプロパティで関連づいているオブジェクトクラスのインポート

jamimport コマンドでのインポートの場合、同一のキーとなるプロパティで関連づいているオブジェクトクラスをインポートする際は、必ずキーとなるプロパティの値を同じにしてください。

また、ハードウェア資産情報のように、必ず資産情報とセットで管理されるオブジェクトクラスは、ハードウェア資産情報と資産情報をペアでインポートしてください。

(6) インポート時の更新制御

クラスのプロパティには、同一の情報に対して複数の更新が行われようとした場合に、更新の可否を決定する情報（更新制御情報）が用意されています。

エクスポートしたデータを利用してインポートする際、エクスポート後に同一の情報が更新されていた場合、この「更新制御情報」の値が変わっているため、エクスポート時の値を指定した状態ではインポートされません。

エクスポート後に変更があったかどうかに関係なく、インポートするデータを上書きする場合は、「更新制御情報（UpdateTime）」の列を削除してインポートしてください。

(7) CreationClassName の指定

jamimport コマンドでのインポートの場合、各オブジェクトクラスのプロパティ「CreationClassName」には、必ずオブジェクトクラス名を指定します。

(8) Microsoft Excel での CSV ファイルの編集方法

Asset Console に登録する CSV ファイルを編集する場合、Microsoft Excel を使用して直接ファイルを開くと、コード、ID など先頭に 0 が付く数値は、先頭の 0 が自動的に削除されてしまうため、元の情報とは異なる値で更新されてしまうことがあります。そのため、Microsoft Excel を使用するときは、「テキストファイルのインポート」機能を使用して、列のデータ形式を「文字列」に設定したあと、ファイルを読み込んで編集してください。

7.1.3 jamCsvImport.bat の実行

業務メニュー「インポート」と同等のインポートをコマンドラインから実行する jamCsvImport.bat の機能、形式、オプション、戻り値、コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

なお、jamCsvImport.bat は次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%exe

(1) 機能

CSV ファイルのデータを資産管理データベースに登録、更新および削除します。CSV ファイルの情報は、条件に従って一括して資産管理データベースに登録されます。条件の作成方法については、マニュアル「運用ガイド」の「4.10.2 インポートの条件を作成する」を参照してください。

また、資産種別を指定すると、デフォルトの設定で一括して資産管理データベースに登録されます。デフォルトの設定でインポートされる項目については、「[14.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目](#)」を参照してください。

(2) 形式

```
jamCsvImport.bat "CSVファイルのパス" " { -c 条件名 [-o 処理方式] | -a 資産種別 -o 処理方式 } "
```

(3) オプション

CSV ファイルのパス

インポートする CSV ファイルをフルパスで指定します。このオプションは、必ず指定してください。

-c 条件名

インポート画面で保存した、インポートの条件名を指定します。

-o 処理方式

インポートの処理方式を次の表に示すコードで指定します。このオプションは、条件名を指定した場合は省略できます。資産種別を指定した場合は、必ず指定してください。

処理方式	内容
001	追加
002	更新
003	追加更新
004	削除

-a 資産種別

インポートする資産情報の種類を、次の表に示すコードで指定します。このオプションを指定した場合、デフォルトの設定でインポートされます。

表 7-1 資産種別のコード

コード	内容
001	機器に関する情報
002	インストールソフトウェア情報
003	インストールソフトウェアリスト
004	ソフトウェア情報
005	ソフトウェアリスト
006	組織管理情報
007	ユーザ管理情報
008	設置場所情報
009	保守契約情報
010	レンタル契約情報
011	リース契約情報
012	ボリューム契約
013	IP グループ情報
014	機器カタログ
015	カスタマイズ（ユーザレポート）
016	カスタマイズ（書式）
017	カスタマイズ（ITDM2 管理情報取得）
018	カスタマイズ（インポート/エクスポート定義）
019	問題点管理

コード	内容
020	ライセンス割り当て
021	パッチ情報
022	ウィルス定義情報
023	カスタマイズ（案件定義）
024	カスタマイズ（契約履歴）
025	関連資産情報
026	分掌情報
027	分掌割り当て

(4) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	該当するデータがありませんでした。
2 以上	処理中にエラーが発生しました。

(5) コマンド実行時の注意事項

Administrators 権限を持つユーザで jamCsvImport.bat を実行してください。

(6) 実行例

```
jamCsvImport.bat "c:¥temp¥Hardware.csv" -a 001 -o 001
```

コマンドを実行する際にファイルパスを省略すると、<Asset Console のインストール先フォルダ> ¥scriptwork がカレントディレクトリになります。

7.1.4 jamimport コマンドでインポートする情報とクラスとの対応

jamimport コマンドでインポートする CSV ファイルは、クラス単位に作成します。そのため、CSV ファイルを作成する前にクラス間の関連を調べて、目的の情報を登録するには、どのクラスをインポートするかを確認してください。

ハードウェア資産情報のように、複数のクラスをインポートしなければ、登録内容を資産管理業務に利用できない場合があります。

資産管理データベースで管理されているクラスの関連については、「14.1.3 クラス関連図」を参照してください。

アソシエーションクラスのインポートが必要な場合

異なるキープロパティで関連づけられているオブジェクトクラスをインポートする場合は、オブジェクトクラス同士を関連づけるアソシエーションクラスもインポートする必要があります。

Weak アソシエーションの関係にある場合

インポートするオブジェクトクラスが、「AssetInfo」に対して Weak アソシエーションの関係にある場合、「AssetInfo」の情報が先に登録されている必要があります。また、「AssetInfo」を削除すると、Weak アソシエーションの関係にあるオブジェクトクラスも削除されます。

なお、オブジェクトクラス「SoftwareInfo」、「InstalledInfo」、「SoftwareList」、「Contract」、「ContractHistory」に対して Weak アソシエーションの関係にある場合も同様です。

これ以降で、jamimport コマンドでインポートするときに複数のクラスをインポートする必要がある情報と、CSV ファイル作成時の注意事項について説明します。

(1) 機器および機器に関する情報のインポート

機器の情報を追加、更新、削除するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-2 機器の情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
AssetInfo	GroupInfo※	部署に関する情報を指定する場合は、オブジェクトクラス「GroupInfo」の対応するプロパティと同じ値を指定します。
	LocationInfo※	設置場所に関する情報を指定する場合は、オブジェクトクラス「LocationInfo」の対応するプロパティと同じ値を指定します。
	UserInfo※	ユーザに関する情報を指定する場合は、オブジェクトクラス「UserInfo」の対応するプロパティと同じ値を指定します。
HardwareInfo	AssetInfo	「AssetID」には、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。

注※
部署、設置場所およびユーザ名は、「GroupID」、「LocationID」、「UserID」を正しく指定すれば、データメンテナンスのタスクによって、対応する名称が設定されます。
ただし、「GroupID」および「LocationID」に指定した ID がそれぞれの対応するクラスにないと、名称が操作画面に表示されません。

注意事項

- 機器の情報を削除するときは、「AssetInfo」のプロパティ「AssetStatus」の値を「999（抹消）」に変更して、データメンテナンスのタスクで削除することをお勧めします。インポートで削除する場合は、必ず「AssetInfo」を削除して、「HardwareInfo」だけを削除しないようにしてください。

- 「HardwareInfo」の「IPAddress」は、IP アドレス管理情報を利用した IP アドレス管理の対象外です。

(a) 機器のインストールソフトウェア情報のインポート

機器にインストールされているソフトウェアの情報を追加、更新、削除するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

なお、インストールソフトウェア情報は、機器種別がシステム装置（コード：100～198）の機器に登録できます。

表 7-3 インストールソフトウェア情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
InstalledInfo	AssetInfo	「AssetID」には、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
	InstalledList	「InstalledID」には、対応するオブジェクトクラス「InstalledList」と同じ ID を指定します。

(b) 機器のネットワーク情報のインポート

機器のネットワーク情報を追加、更新、削除するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

なお、ネットワーク情報は、機器種別がシステム装置（コード：100～198）またはネットワーク装置（コード：300～398）の機器に登録できます。

表 7-4 ネットワーク情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
NetworkInfo	AssetInfo	「AssetID」には、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
	IPAddress	「IPAddress」を指定する場合は、指定する IP アドレスが、オブジェクトクラス「IPAddress」に登録されている必要があります。 ただし、DHCP サーバを使用する場合は、「IPAddress」をインポートしないでください。
	IPAddressLink	「DHCP サーバ名」を設定しない場合は、該当する IP アドレスのオブジェクトクラス「IPAddress」との関連づけを登録する必要があります。

注意事項

- 「NetworkInfo」のプロパティ「IPAddress」の値を更新または削除する場合は、「IPAddressLink」も併せて更新または削除してください。「IPAddress」の値だけを更新または削除して「IPAddressLink」を削除しないと、削除した IP アドレスが使用中のままと認識されます。

- IP アドレスを使用していた機器が削除された場合は、「IPAddressLink」だけを削除します。
オブジェクトクラス「AddressGroup」に定義されている範囲外の IP アドレスは、機器で使用されていないかぎり、データメンテナンスのタスクによって削除されます。

(2) ソフトウェアおよびライセンスに関する情報のインポート

ソフトウェアの情報を追加、更新、削除するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-5 ソフトウェアの情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
AssetInfo	GroupInfo [※]	部署に関する情報を指定する場合は、オブジェクトクラス「GroupInfo」の対応するプロパティと同じ値を指定します。
SoftwareInfo	AssetInfo	「AssetID」には、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
	SoftwareList	「SoftwareListID」には、オブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ ID を指定します。

注※

部署およびユーザ名は、「GroupID」を正しく指定すれば、データメンテナンスのタスクによって、対応する名称が設定されます。

ただし、「GroupID」に指定した ID がそれぞれの対応するクラスにないと、名称が操作画面に表示されません。

注意事項

- 無制限ライセンスの場合、「NumberOfLicense」には何も指定しないでください。指定すると、指定した数のライセンスを保有するソフトウェアとして登録されます。
- ソフトウェアの情報を削除するときは、「AssetInfo」のプロパティ「SoftwareStatus」の値を「999 (抹消)」に変更して、データメンテナンスのタスクで削除することをお勧めします。
インポートで削除する場合は必ず「AssetInfo」を削除し「SoftwareInfo」だけを削除しないようにしてください。

(a) ソフトウェアキー情報のインポート

ソフトウェアキー情報を追加、更新、削除するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-6 ソフトウェアキー情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
SoftwareKeyInfo	AssetInfo	「AssetID」には、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
	SoftwareList	「SoftwareListID」には、オブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ ID を指定します。

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
SoftwareKeyInfo	MachinePermitLink	マシン許諾のライセンスの割り当て先を登録する場合は、対象のオブジェクトクラス「AssetInfo」との関連を登録する必要があります。
	UserPermitLink	ユーザ許諾のライセンスの割り当て先を登録する場合は、対象のオブジェクトクラス「UserInfo」との関連を登録する必要があります。

(b) ライセンス情報のインポート

ライセンスの情報を追加、更新、削除するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-7 ライセンス情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
LicenseInfo	SoftwareList	「SoftwareListID」には、オブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ ID を指定します。

(c) ボリューム契約情報のインポート

ボリューム契約情報を追加、更新、削除するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-8 ボリューム契約情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
VolumeContract	VolumeContractLink	ボリュームライセンスの対象となる資産を登録する場合は、対象のオブジェクトクラス「AssetInfo」との関連を登録する必要があります。

注意事項

ボリューム契約情報を削除するときは、「VolumeContract」のプロパティ「ContractStatus」の値を「999（抹消）」に変更して、データメンテナンスのタスクで削除することをお勧めします。

(3) 契約情報のインポート

契約情報を追加、更新、削除するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-9 契約の情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
Contract	ContractLeaseLink	リース契約の対象となる資産を登録する場合は、契約対象のオブジェクトクラス「AssetInfo」との関連を登録する必要があります。

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
Contract	ContractMaintenanceLink	保守契約の対象となる資産を登録する場合は、契約対象のオブジェクトクラス「AssetInfo」との関連を登録する必要があります。
	ContractRentalLink	レンタル契約の対象となる資産を登録する場合は、契約対象のオブジェクトクラス「AssetInfo」との関連を登録する必要があります。

注意事項

契約の情報を削除するときは、「Contract」のプロパティ「ContractStatus」の値を「999（抹消）」に変更して、データメンテナンスのタスクで削除することをお勧めします。

(4) IP グループ情報のインポート

IP グループ情報を追加、更新、削除するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-10 IP グループ情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
AddressGroup	IPAddress	新しいグループの定義および範囲の変更をする場合、グループとして定義した範囲の IP アドレスを、すべてオブジェクトクラス「IPAddress」に登録する必要があります。

注意事項

インポートでは、IP グループの情報は削除しないでください。インポートで削除すると利用している IP アドレスが正しく管理できなくなります。

(5) 部署情報のインポート

部署情報を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-11 部署情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
GroupInfo	UserInfo	部署に所属するユーザを登録する場合は、オブジェクトクラス「UserInfo」をインポートします。
	MemberLink	各部署に所属するユーザを登録する場合は、オブジェクトクラス「UserInfo」との関連を登録する必要があります。

(6) ユーザ管理情報のインポート

ユーザ管理情報を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-12 ユーザ管理情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
UserInfo	GroupInfo	ユーザの所属する部署を追加する場合は、オブジェクトクラス「GroupInfo」をインポートします。
	MemberLink	新規にユーザを登録する場合、またはユーザの所属する部署を変更する場合、オブジェクトクラス「GroupInfo」との関連を登録する必要があります。 部署と関連づいていないと、インポートしたユーザは、操作画面に表示されません。
	RoleInfo	ユーザに権限を設定する場合は、オブジェクトクラス「RoleInfo」をインポートします。 権限の設定されていないユーザは Asset Console にログインできません。
	AuthorityLink	ユーザに権限を設定する場合は、オブジェクトクラス「RoleInfo」との関連を登録する必要があります。

注意事項

「UserID」が「admin」のユーザ、およびオブジェクトクラス「AssetInfo」で使用しているユーザは削除しないでください。

(7) 権限管理情報のインポート

権限管理情報を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-13 権限管理情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
RoleInfo	UserInfo	ユーザに権限を設定する場合は、オブジェクトクラス「UserInfo」をインポートします。 権限の設定されていないユーザは Asset Console にログインできません。
	AuthorityLink	ユーザに権限を設定する場合は、オブジェクトクラス「UserInfo」との関連を登録する必要があります。

注意事項

- ユーザに設定した権限を解除するには、アソシエーションクラス「AuthorityLink」を削除してください。
- 「RoleID」が「administrator」の権限は削除しないでください。

(8) パッチ情報のインポート

パッチ情報の検索条件を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-14 パッチ情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポート するクラス	関連するクラス	説明
PatchInfo	AssetInfo	「AssetID」には、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
	PatchList	「PatchID」には、対応するパッチリストと同じ ID を指定します。

(9) ウィルス定義情報のインポート

ウィルス定義情報の検索条件を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-15 ウィルス定義情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポート するクラス	関連するクラス	説明
InstalledVirusDefInfo	AssetInfo	「AssetID」には、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。

(10) 保守履歴のインポート

保守履歴を登録するために、関連してインポートするクラスを次の表に示します。

表 7-16 保守履歴に関連してインポートするクラス

必ずインポート するクラス	関連するクラス	説明
Maintenance	AssetInfo	保守履歴を資産と関連づけて登録する場合は、「AssetID」に対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。 保守履歴と資産を関連づけない場合は、不要です。

(11) 移管履歴のインポート

移管履歴を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-17 移管履歴を登録するためにインポートするクラス

必ずインポート するクラス	関連するクラス	説明
AssetUpdateRecord	AssetInfo	「AssetID」には、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。

注意事項

部署名、設置場所名およびユーザ名は、オブジェクトクラス「GroupInfo」、「LocationInfo」、「UserInfo」に存在するかどうかに関係なく、指定した値が登録されます。

(12) 契約履歴のインポート

契約履歴を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-18 契約履歴を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
ContractHistory	Contract	「ContractID」には、対応するオブジェクトクラス「Contract」と同じ ID を指定します。

(13) 契約資産履歴のインポート

契約資産履歴を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-19 契約資産履歴を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
ContractAssetHistory	ContractHistory	「ContractID」には、対応するオブジェクトクラス「ContractHistory」と同じ ID を指定します。
	AssetInfo	「AssetID」には、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。

(14) 職権管理情報のインポート

職権管理情報を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-20 職権管理情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
JobRoleInfo	UserInfo	職権の対象ユーザを登録する場合は、オブジェクトクラス「UserInfo」をインポートします。
	JobRoleLink	職権の対象ユーザを登録する場合は、オブジェクトクラス「UserInfo」との関連を登録する必要があります。

注意事項

職権管理情報を削除する場合は、該当する職権を使用している案件がないことを確認してください。

(15) 関連資産情報のインポート

関連資産情報を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-21 関連資産情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
RelationAssetInfo	AssetInfo	「ParentAssetID」 および 「ChildAssetID」 には、対応するオブジェクトクラス 「AssetInfo」 と同じ ID を指定します。

注意事項

処理方式は「追加」または「削除」のどちらかを指定してください。「更新」および「追加更新」は指定できません。

(16) 分掌情報のインポート

分掌情報を登録するために、インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-22 分掌情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
DivisionInfo	GroupInfo	「DivisionID」 には、対応するオブジェクトクラス 「GroupInfo」 と同じ ID を指定します。
	DivisionLink	「DivisionID」 には、対応するオブジェクトクラス 「DivisionInfo」 と同じ ID を指定します。 「GroupID」 には、対応するオブジェクトクラス 「GroupInfo」 と同じ ID を指定します。
	DivisionUserLink	「DivisionID」 には、対応するオブジェクトクラス 「DivisionInfo」 と同じ ID を指定します。 「UserID」 には、対応するオブジェクトクラス 「UserInfo」 と同じ ID を指定します。

注意事項

処理方式は「追加」または「削除」のどちらかを指定してください。「更新」および「追加更新」は指定できません。

7.1.5 jamimport コマンドでインポートするファイルの形式

ここでは、データファイルおよびデータファイル名定義ファイルのファイル形式について説明します。

(1) データファイル

jamimport コマンドでインポートするには、資産管理データベースに取り込むための資産情報を記述したデータファイルを準備します。データファイルのファイル形式、使用する文字コードおよび区切り文字と区切り位置を次に示します。

- **ファイル形式**

データファイルは、CSV 形式で作成します。

- **使用する文字コード**

シフト JIS コードで記述します。

- **区切り文字と区切り位置**

クラスのデータ 1 件ごとに改行コード (CRLF または LF) で区切ります。また、クラスのプロパティごとに「,」(コンマ) で区切ります。なお、データファイルに記述するクラス、プロパティの数に制限はありません。

(2) データファイル名定義ファイル

複数のデータファイルを一括してインポートしたいときには、データファイル名定義ファイルを作成します。データファイル名定義ファイルのファイル形式、使用する文字コードおよび区切り文字と区切り位置を次に示します。

- **ファイル形式**

データファイル名定義ファイルは、テキスト形式で作成します。

- **使用する文字コード**

シフト JIS コードで記述します。

- **区切り文字と区切り位置**

- **オブジェクトクラスをインポートする場合**

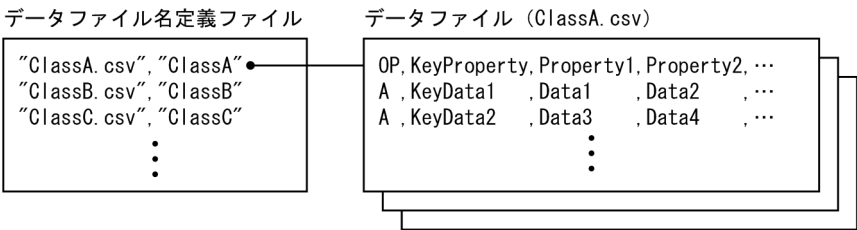
インポートするデータファイル名と、対応するオブジェクトクラス名を一組として改行コード (CRLF または LF) で区切ります。データファイル名とオブジェクトクラス名は、それぞれを「"」(ダブルクォーテーション) で囲み、「,」(コンマ) で区切ります。

- **アソシエーションクラスをインポートする場合**

インポートするデータファイル名、対応するアソシエーションクラス名、および関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を一組として改行コード (CRLF または LF) で区切ります。データファイル名、アソシエーションクラス名、オブジェクトクラス名は、それぞれを「"」(ダブルクォーテーション) で囲み、「,」(コンマ) で区切ります。

区切り文字と区切り位置の指定方法を次の図に示します。

図 7-1 区切り文字と区切り位置の指定方法



7.1.6 データファイルの作成

ここでは、jamimport コマンドでインポートする場合に作成する CSV ファイル（データファイル）の記述形式および記述例について説明します。

データファイルを作成する際には、関連情報や ID などの制御情報の、データの整合性に注意してください。

(1) データファイルの作成単位

データファイルは、インポートするクラスにつき一つ作成します。

アソシエーションクラスの場合は、異なるキー情報でオブジェクトクラス同士を関連づける場合にだけ、データファイルの作成が必要です。同一のキー情報でオブジェクトクラス同士を関連づける場合は、アソシエーションクラスをインポートする必要はありません。

オブジェクトクラス同士の関連づけの詳細については「[8.1.3 アソシエーションの種類](#)」を参照してください。

(2) データファイルの記述形式

データファイルの記述形式を次の図に示します。

図 7-2 データファイルの記述形式

●オブジェクトクラス

```
OP, キーとなるプロパティ, プロパティ1, プロパティ2, ...  
オペレーションコード, キーとなるデータ, データ1, データ2, ...  
⋮
```

●アソシエーションクラス

```
OP, オブジェクトクラス名1. プロパティ1, オブジェクトクラス名2. プロパティ2  
オペレーションコード, データ1, データ2  
⋮
```

(凡例)

 : 項目タイトル行

次の項目に記述する内容について説明します。

- 項目タイトル行
- オペレーションコード
- キーとなるデータ
- データ

(a) 項目タイトル行

項目タイトル行の最初は、必ず「OP」（オペレーションコード）を記述します。

そのあとに、各項目のタイトルとして、プロパティ名を記述します。項目タイトル行には、インポートするクラスのキーとなるプロパティを必ず記述してください。

アソシエーションクラスの場合は「クラス名.プロパティ名」の形式で記述します。オブジェクトクラス名とプロパティ名の間には、必ず「.」（ピリオド）を記述してください。クラス名およびプロパティ名については、「[14. 管理情報の詳細](#)」を参照してください。

インポートするクラスで項目タイトル行に記述しなかったプロパティがある場合、そのプロパティの値には NULL データが設定されます。

(b) オペレーションコード

テーブルに対する変更種別（追加・変更・削除・変更なし）を表す 1 文字を記述します。2 文字以上記述しても、最初の文字だけで判断されます。

オペレーションコードとして使用する文字とその意味を次の表に示します。

表 7-23 オペレーションコードとして使用する文字

オペレーションコード	意味	説明
A	追加	データファイルに記述した行の内容が追加されます。 クラスのプロパティに値を記述していない場合、そのプロパティには NULL データが追加されます。
C	変更	データファイルに記述した行の内容に変更されます。項目タイトル行に記述したすべてのプロパティが変更の対象となります。 クラスのプロパティに値を記述していない場合、そのプロパティには NULL データが追加されます。
D	削除	データファイルに記述したクラスと、そのクラスに関連するプロパティの値が削除されます。
N	変更なし	オペレーションコードが「N」の行は変更なしとして扱い、インポートしません。
R	コメント	コメント行として扱い、インポートしません。

アソシエーションクラスのインポートの場合は、「追加 (A)」と「削除 (D)」だけが使用できます。変更したいときは、データファイルに削除の行を記述し、そのあとに追加の行を記述してください。

(c) キーとなるデータ

処理対象とするクラスを決定するためのキーとなるデータを記述します。必ず値を記述してください。

オブジェクトクラスの場合は「プロパティ名」、アソシエーションクラスの場合は「オブジェクトクラス名.プロパティ名」の形式で記述します。

データを変更または削除する行は、キーとなるデータを基に決定されます。したがって、エクスポートしたデータを修正してインポートする場合は、キーとなるデータを変更しないでください。

(d) データ

インポートするクラスのプロパティの値を記述します。

オブジェクトクラスの場合は「プロパティ名」、アソシエーションクラスの場合は「オブジェクトクラス名.プロパティ名」の形式で記述します。

データには、オブジェクトクラス内のすべてのプロパティを記述する必要はありません。資産データとして必要な項目だけを記述してください。また、各プロパティの値は、記述形式および制限値に従って正しく記述してください。各プロパティの記述形式および制限値については、「[14. 管理情報の詳細](#)」を参照してください。

なお、あるプロパティの値以降に値を設定しない場合は、値を設定したプロパティの直後で改行することで、値の設定を省略できます。このとき、改行後のプロパティの値には NULL データがインポートされます。

プロパティの値を記述する際の注意事項

プロパティの値には、資産情報の「資産種別」のように、コードで記述するものがあります。コードで記述する必要があるプロパティとコードの詳細については、「[14.2 オブジェクトクラスのプロパティ一覧](#)」を参照してください。

(3) データファイルの記述例（オブジェクトクラス）

オブジェクトクラスをインポートする場合のデータファイルの記述例について説明します。

オブジェクトクラス「AssetInfo（資産情報）」のデータをインポートする記述例を次の図に示します。「AssetInfo」のキーは「AssetID（資産 ID）」です。

図 7-3 データファイルの記述例（オブジェクトクラス）

OP, AssetID, AssetNo, AssetKind, GroupName, LocationName, ...	
A, 1, 10001, 1, 総務部／経理課, 本館／4階, ...	← 資産ID「1」の資産を追加
C, 2, 10002, 1, 総務部／庶務課, 本館／4階, ...	← 資産ID「2」のプロパティを変更
D, 3, 10003, 1, 総務部／庶務課, 本館／4階, ...	← 資産ID「3」の資産を削除
⋮	

この記述例では、次のように資産管理データベースが更新されます。

- ・ 資産 ID「1」の機器が、記述した項目タイトル行に記述したプロパティの値で追加されます。
 - ・ 資産 ID「2」の機器の情報が、項目タイトル行に記述したプロパティの値ですべて変更されます。
 - ・ 資産 ID「3」の機器の情報がすべて削除されます。
- また、資産 ID「3」の機器と Weak アソシエーションの関係にあるハードウェア資産情報、ネットワーク情報などの情報もすべて削除されます。

(4) データファイルの記述例（アソシエーションクラス）

アソシエーションクラスの追加、削除は、データファイルのオペレーションコード「追加（A）」と「削除（D）」を使用して記述してください。「変更（C）」は使用できません。

アソシエーションクラス「ContractMaintenanceLink（保守契約と資産情報）」のデータをインポートする場合の、データファイルの記述例を次の図に示します。「ContractMaintenanceLink」のキーは「AssetID（資産 ID）」と「ContractID（契約 ID）」です。

図 7-4 データファイルの記述例（アソシエーションクラス）

OP, AssetInfo. AssetID, Contract. ContractID	
A, 1, 123456	← 資産 ID「1」の資産を契約 ID「123456」の対象に追加
D, 2, 000123	← 資産 ID「2」の資産を契約 ID「000123」の対象から削除
A, 2, 123456	← 資産 ID「2」の資産を契約 ID「123456」の対象に追加
⋮	

関係を持つオブジェクトクラス「AssetInfo（資産情報）」のキーとなるデータ「AssetID」を記述します。同じ行に、関係を持つもう一方のオブジェクトクラス「Contract（契約情報）」のキーとなるデータ「ContractID」を記述します。

この記述例では、次のように資産情報が更新されます。

- ・ 資産 ID が「1」の資産が契約 ID「123456」の対象に追加されます。
- ・ 資産 ID が「2」の資産が契約 ID「000123」から契約 ID「123456」の対象に変更されます。

7.1.7 データファイル名定義ファイルの作成

ここでは、jamimport コマンドで複数のデータファイルを一度にインポートする場合に作成する、データファイル名定義ファイルの記述形式および記述例について説明します。

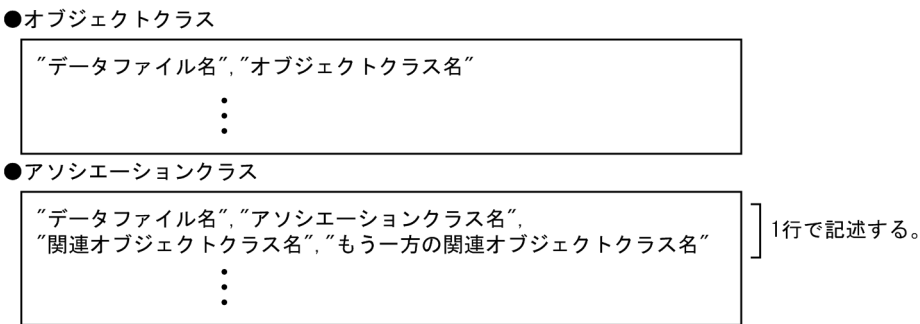
(1) データファイル名定義ファイルの記述形式

データファイル名定義ファイルには、インポートするデータファイル名と、対応するオブジェクトクラス名を記述します。

アソシエーションクラスをインポートする場合は、インポートするデータファイル名、対応するアソシエーションクラス名、および関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を記述します。

データファイル名定義ファイルの記述形式を次の図に示します。

図 7-5 データファイル名定義ファイルの記述形式



データファイル名定義ファイルに記述する各項目について説明します。

データファイル名

インポートするデータファイル名をパスで記述します。フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。なお、相対パスは、データファイル名定義ファイルの存在するパスを基点とします。また、「.¥」や「..¥」などは指定できません。

オブジェクトクラス名およびアソシエーションクラス名

記述したデータファイルに対応するクラス名またはクラス名を記述します。

関連オブジェクトクラス名、もう一方の関連オブジェクトクラス名

アソシエーションクラスをインポートする場合にだけ記述します。

アソシエーションクラスとして関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を記述します。

なお、関連オブジェクトクラス名、もう一方の関連オブジェクトクラス名は省略することもできます。

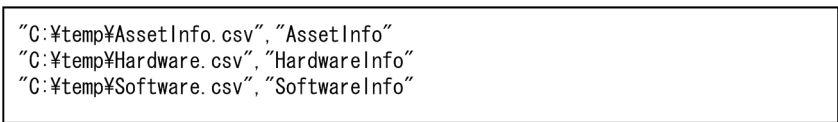
クラス名については、「14.1 クラス構成」を参照してください。

(2) データファイル名定義ファイルの記述例（オブジェクトクラス）

オブジェクトクラスをインポートする場合のデータファイル名定義ファイルの記述例について説明します。

データファイル名定義ファイルの記述例を次の図に示します。

図 7-6 データファイル名定義ファイルの記述例（オブジェクトクラス）



1 行目は、データファイル名が「C:¥temp¥AssetInfo.csv」、オブジェクトクラス名が「AssetInfo（資産情報）」であることを示しています。

jamimport コマンドを実行することで、「C:¥temp¥AssetInfo.csv」の内容を、オブジェクトクラス「AssetInfo」にインポートします。

2 行目以降も、1 行目と同様に処理されます。

(3) データファイル名定義ファイルの作成（アソシエーションクラス）

アソシエーションクラスをインポートする場合のデータファイル名定義ファイルの記述例について説明します。

データファイル名定義ファイルの記述例を次の図に示します。

図 7-7 データファイル名定義ファイルの記述例（アソシエーションクラス）

```
"C:¥temp¥ContMLink.csv", "ContractMaintenanceLink", "AssetInfo", "Contract"  
"C:¥temp¥ContLLink.csv", "ContractLeaseLink", "AssetInfo", "Contract"
```

1 行目は、データファイル名が「C:¥temp¥ContMLink.csv」、アソシエーションクラス名が「ContractMaintenanceLink（保守契約と資産情報）」、関係を持つオブジェクトクラス名が「AssetInfo（資産情報）」と「Contract（契約情報）」であることを示しています。

jamimport コマンドを実行することで、「C:¥temp¥ContMLink.csv」の内容を、アソシエーションクラス「ContractMaintenanceLink」にインポートします。

2 行目以降も、1 行目と同様に処理されます。

7.1.8 jamimport（インポート）コマンドの実行

インポートを実行する jamimport コマンドの機能、形式、オプション、戻り値、コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

なお、コマンドの実行ファイルは次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>¥exe

(1) 機能

CSV ファイルのデータを資産管理データベースに登録、更新します。CSV ファイルの情報は、取捨選択されることなく、一括して資産管理データベースに登録されます。また、登録するための CSV ファイルは、クラスごとに作成します。

複数クラスの情報を一度に登録する場合は、データファイル名定義ファイルが必要です。

(2) 形式

```
jamimport
{ {-f データファイル名
  -gc オブジェクトクラス名またはアソシエーションクラス名}
| -dc データファイル名定義ファイル}
[-e ログファイル名 [-s] ]
[-l メッセージ種別]
```

(3) オプション

-f データファイル名

インポートするデータファイルが一つだけの場合に、データファイル名を指定します。データファイル名は、フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。

このオプションは、必ず-gc オプションと同時に指定してください。また、-dc オプションとは同時に指定できません。

-gc オブジェクトクラス名またはアソシエーションクラス名

インポートするデータファイルが一つだけの場合に、そのデータファイルに対応するクラス名を指定します。

オブジェクトクラスをインポートするときはオブジェクトクラス名を指定し、アソシエーションクラスをインポートするときはアソシエーションクラス名を指定します。クラス名については、「[14.1 クラス構成](#)」を参照してください。

このオプションは、必ず-f オプションと同時に指定してください。また、-dc オプションとは同時に指定できません。

-dc データファイル名定義ファイル

複数のデータファイルを一括してインポートする場合に指定します。このオプションは、-f および-gc オプションと同時に指定できません。

データファイル名定義ファイルは、フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。

-e ログファイル名

通常はコンソールに出力されるメッセージをファイルに出力させるときに指定します。メッセージを出力させるファイル名をログファイル名として指定します。

このオプションは省略できます。省略した場合は、メッセージが jamimport コマンドを実行したコンソール上に出力されます。

ログファイルの出力フォーマットについては、「[11. トラブルシューティング](#)」を参照してください。

-s

インポートの処理件数が進ちよく状況としてコンソール上に出力されます。このオプションは、-e オプション使用時にだけ指定できます。省略した場合は、処理件数が出力されません。

進ちよく状況は、50 件処理するごとに出力されます。

4.1 メッセージ種別

ログファイルに出力されるメッセージの種別を指定します。このオプションは省略できます。省略した場合は、「E」が設定されます。

指定できるメッセージの種別と出力される情報を次に示します。

E

プログラムを終了させなければならない、重度のトラブルが発生したことを通知するメッセージだけが出力されます。

W

次の2種類のメッセージが出力されます。

- 「E」のメッセージ
- プログラムを終了させる必要はありませんが、一部機能が使えないなどのトラブルが発生したことを通知するメッセージ

I

「E」、「W」のメッセージおよび情報を通知するメッセージが出力されます。

(4) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	警告要因は発生しましたが、処理は正常に終了しました。
11	コマンドオプションの書式に誤りがあります。
21	インポートファイルにアクセスできないかまたは内容に誤りがあります。
52	ユーザによってキャンセルされました。
101 以上	そのほかのエラーでコマンドが終了しました。

(5) コマンド実行時の注意事項

- Administrators 権限を持つユーザで jamimport コマンドを実行してください。
- 操作画面からの操作中や、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報の登録が実行されているときにインポートを実行すると、ほかの処理でのデータ更新と重複して、データが正しく登録および更新されない場合があります。インポートを実行する際には、操作画面からの処理や、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報の登録などが実行されていないことを確認してください。
- インポート実行中に [Ctrl] + [C] または [Ctrl] + [Break] で停止した場合、コマンドプロンプトを閉じた場合、またはシステムエラー（データベースエラーやファイル I/O エラーなど）が発生して処理が中断された場合は、停止した旨のエラーメッセージが出力され、処理が終了されます。このと

き、資産管理データベースには、停止または閉じた時点で処理されていたデータまでがインポートされています。

ただし、停止または中断した時点でインポートが終了されるため、資産管理データベースの内容に不整合が生じるおそれがあります。このような場合に備えて、資産管理データベースのバックアップを取得しておくことをお勧めします。

- 中断またはエラー発生後に、オペレーションコードが「追加 (A)」のままで同一のデータファイルを再度インポートすると、資産管理データベースにすでに登録されているデータに対しては警告エラーとなります。
- jamimport コマンドのオプションに誤りがあった場合は、画面にエラーメッセージとコマンド書式が出力されます。ログファイルには出力されません。
- コマンドのオプションの引数で、スペースを含む文字列を指定する場合、「"」（ダブルクォーテーション）で囲む必要があります。

(6) 実行例

```
jamimport -f "c:¥temp¥Hardware.csv" -gc HardwareInfo
```

7.2 CSV データの出力（エクスポート）

この節では、資産管理データベース内の資産情報を、CSV ファイルへ出力する方法について説明します。

Asset Console では、資産管理データベース内の資産情報を、CSV ファイルへ一括して出力できます。これをエクスポートといいます。

エクスポートには、次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート
- jamCsvExport.bat でのエクスポート
- jamexport コマンドでのエクスポート

エクスポートは、資産情報を一括して CSV ファイルに出力します。データのバックアップをするといった場合に有効です。また、エクスポートした CSV ファイルを修正し、そのファイルをインポートすることで、資産管理データベース内の資産情報を変更、削除するといった運用もできます。

7.2.1 CSV データの出力方法の選択

それぞれのエクスポート方法の特長について説明します。エクスポートする情報に応じて、効率の良い方法を選択してください。

- 業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート

出力したい資産情報を選択してエクスポートの条件を作成し、一括で CSV ファイルに出力します。条件には、出力したい Asset Console の管理項目を設定します。

この方法では、Asset Console にログインできる環境であれば、どこからでもエクスポートできます。また、検索条件を指定して絞り込んで、必要な情報だけを出力できます。

さらに、バックアップや別のマシンの資産管理システムに移行することを目的として、ユーザレポート、業務フィルターの書式、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の引き当て設定、およびインポート/エクスポートの条件を出力することもできます。

- jamCsvExport.bat でのエクスポート

業務メニュー「エクスポート」からのエクスポートと同様の処理を、資産管理サーバ上のコマンドラインから実行します。CSV ファイルのフォーマットや、クラスおよびクラス間の関係などを意識することなく、「機器に関する情報」などのカテゴリで資産情報を出力できるので、運用を自動化するのに便利です。

この方法では、エクスポートの条件の変更および保存はできません。

- jamexport コマンドでのエクスポート

出力したいクラス単位にエクスポートを実行します。複数のクラスを一度にエクスポートすることもできますが、エクスポートする内容はクラス単位での選択となります。バックアップなどの目的で、資産管理データベースの情報を取捨選択することなく、一括して出力する場合に利用できます。

共通してエクスポートできる情報（クラス）の詳細については、「[14.1 クラス構成](#)」を参照してください。

7.2.2 エクスポートの流れ

エクスポートするときの作業の流れを方法別に説明します。

(1) 業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート

業務メニュー「エクスポート」から資産情報をエクスポートするときの作業の流れを次に示します。

1. 業務メニュー「エクスポート」を選択する。

エクスポート画面が表示されます。

2. エクスポートの条件を作成する。

エクスポートする情報の種類（例えば「機器に関する情報」など）を選択したあと、Asset Console の管理項目から出力する項目を選択して、条件を作成します。エクスポートの対象となる項目については「[14.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目](#)」を参照してください。エクスポート画面の操作方法については、マニュアル「運用ガイド」の「[4.11 資産情報を CSV 形式で出力する（エクスポート）](#)」を参照してください。

3. エクスポートの条件を保存する。

任意の名前を付けて、条件を保存します。

4. 保存した条件を検索して、エクスポートを実行する。

条件を検索してエクスポートを実行する手順については、マニュアル「運用ガイド」の「[4.11.2 エクスポートを実行する](#)」を参照してください。

(2) jamCsvExport.bat でのエクスポート

jamCsvExport.bat でエクスポートするときの作業の流れを次に示します。

1. 資産管理サーバ上のコマンドラインから、jamCsvExport.bat を実行する。

指定した条件に従って、エクスポートが実行されます。

jamCsvExport.bat の実行方法については、「[7.2.3 jamCsvExport.bat の実行](#)」を参照してください。エクスポートの対象となる項目については「[14.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目](#)」を参照してください。

(3) jamexport コマンドでのエクスポート

注意事項

Asset Console のサービス、コマンド、およびタスクを次に示す順番ですべて停止したあとで、jamexport コマンドを実行してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing

2. Asset Console のコマンドおよびタスク

また、jamexport コマンドを実行したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

jamexport コマンドで資産情報をエクスポートするときの作業の流れを次に示します。

1. データファイル名定義ファイルを作成する。

複数のオブジェクトクラスに関する情報を一括してエクスポートする場合、エクスポートするデータファイル名を定義したファイル（データファイル名定義ファイル）を作成します。エクスポートするオブジェクトクラスが一つだけの場合は不要です。

データファイル名定義ファイルの作成方法については「[7.2.5 データファイル名定義ファイルの作成](#)」を参照してください。

2. 資産管理サーバ上のコマンドラインから、jamexport（エクスポート）コマンドを実行する。

jamexport コマンドについては、「[7.2.6 jamexport（エクスポート）コマンドの実行](#)」を参照してください。

オブジェクトクラス単位またはアソシエーションクラス単位に、資産情報がデータファイルに出力されます。

記述したオブジェクトクラスまたはアソシエーションクラスに資産情報がない場合にも、データファイルが作成され、項目タイトル行だけが出力されます。

7.2.3 jamCsvExport.bat の実行

業務メニュー「エクスポート」と同等のエクスポートをコマンドラインから実行する jamCsvExport.bat の機能、形式、オプション、戻り値、コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

なお、jamCsvExport.bat は次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%exe

(1) 機能

資産管理データベースの情報を、CSV ファイルに出力します。CSV ファイルの情報は、条件に従って一括して出力されます。条件の作成方法については、マニュアル「運用ガイド」の「[4.11.1 エクスポートの条件を作成する](#)」を参照してください。

また、資産種別を指定すると、デフォルトの設定で一括して CSV ファイルに出力されます。デフォルトの設定でエクスポートされる項目については、「[14.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目](#)」を参照してください。

(2) 形式

```
jamCsvExport.bat "CSVファイルのパス" " -c 条件名 | -a 資産種別 "
```

(3) オプション

CSV ファイルのパス

エクスポートする CSV ファイルをフルパスで指定します。このオプションは、必ず指定してください。

-c 条件名

エクスポート画面で保存した、エクスポートの条件名を指定します。

-a 資産種別

エクスポートする資産情報の種類を、次の表に示すコードで指定します。このオプションを指定した場合、業務メニュー「管理項目編集」で表示する設定になっている中から、該当するクラスの全プロパティが出力されます。

表 7-24 資産種別のコード

コード	内容
001	機器に関する情報
002	インストールソフトウェア情報
003	インストールソフトウェアリスト
004	ソフトウェア情報
005	ソフトウェアリスト
006	組織管理情報
007	ユーザ管理情報
008	設置場所情報
009	保守契約情報
010	レンタル契約情報
011	リース契約情報
012	ボリューム契約
013	IP グループ情報
014	機器カタログ
015	カスタマイズ（ユーザレポート）
016	カスタマイズ（書式）
017	カスタマイズ（ITDM2 管理情報取得）
018	カスタマイズ（インポート/エクスポート定義）

コード	内容
019	問題点管理
020	ライセンス割り当て
021	パッチ情報
022	ウィルス定義情報
023	カスタマイズ（案件定義）
024	カスタマイズ（契約履歴）
025	関連資産情報
026	分掌情報
027	分掌割り当て

(4) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	該当するデータがありませんでした。
2 以上	処理中にエラーが発生しました。

(5) コマンド実行時の注意事項

Administrators 権限を持つユーザで jamCsvExport.bat を実行してください。

(6) 実行例

```
jamCsvExport.bat "c:¥temp¥Hardware.csv" -a 001
```

7.2.4 データファイルの出力形式

ここでは、jamexport コマンドでオブジェクトクラスまたはアソシエーションクラスをエクスポートする場合の、データファイルの出力形式について説明します。

データファイルは、指定したデータファイル名を付けて、CSV ファイルで作成されます。作成されるデータファイルは、オブジェクトクラスまたはアソシエーションクラス単位です。

各データファイルには、指定されたオブジェクトクラスまたはアソシエーションクラスの全プロパティがオペレーションコードに従って出力されます。データファイルのオペレーションコードの指定がない場合は、すべて「変更なし (N)」で出力されます。

オペレーションコードの次の列には、キーとなるプロパティが出力されます。数値はそのまま出力され、文字列は「"」（ダブルクォーテーション）で囲んで出力されます。

なお、指定したオブジェクトクラスまたはアソシエーションクラスのプロパティにエクスポートする値（データ）がない場合でも、データファイルは作成されます。この場合は、項目タイトル行だけが出力されます。

7.2.5 データファイル名定義ファイルの作成

ここでは、オブジェクトクラスを jamexport コマンドでエクスポートする場合に作成するデータファイル名定義ファイルのファイル形式、記述形式および記述例について説明します。

(1) データファイル名定義ファイルのファイル形式

複数の資産データを一括してエクスポートするには、データファイル名定義ファイルを作成します。データファイル名定義ファイルのファイル形式、使用する文字コードおよび区切り文字と区切り位置を次に示します。

- ファイル形式

データファイル名定義ファイルは、テキスト形式で作成します。

- 使用する文字コード

シフト JIS コードで記述します。

- 区切り文字と区切り位置

- オブジェクトクラスをエクスポートする場合

エクスポートするデータファイル名と、対応するオブジェクトクラス名を一組として改行コード（CRLF または LF）で区切ります。データファイル名とオブジェクトクラス名は、それぞれを「"」（ダブルクォーテーション）で囲み、「,」（コンマ）で区切ります。

- アソシエーションクラスをエクスポートする場合

エクスポートするデータファイル名、対応するアソシエーションクラス名、および関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を一組として改行コード（CRLF または LF）で区切ります。データファイル名、アソシエーションクラス名、オブジェクトクラス名は、それぞれを「"」（ダブルクォーテーション）で囲み、「,」（コンマ）で区切ります。

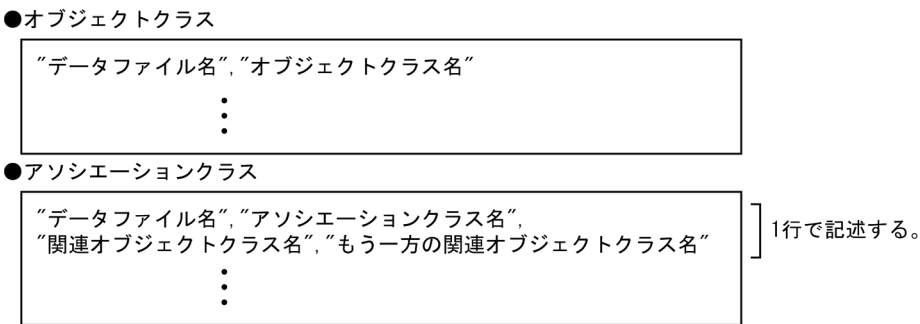
(2) データファイル名定義ファイルの記述形式

データファイル名定義ファイルは、テキストファイルとして作成します。エクスポート先のデータファイル名と、対応するオブジェクトクラス名を記述します。

アソシエーションクラスをエクスポートする場合は、エクスポート先のデータファイル名、対応するアソシエーションクラス名、および関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を記述します。

データファイル名定義ファイルの記述形式を次の図に示します。

図 7-8 データファイル名定義ファイルの記述形式



データファイル名定義ファイルに記述する各項目について説明します。

データファイル名

資産データが書き込まれるデータファイル名を記述します。フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。なお、相対パスは、データファイル名定義ファイルの存在するパスを基点とします。また、[.¥] や [..¥] などの指定はできません。

オブジェクトクラス名およびアソシエーションクラス名

エクスポートする資産データのクラス名を記述します。

関連オブジェクトクラス名、もう一方の関連オブジェクトクラス名

アソシエーションクラスをインポートする場合にだけ記述します。

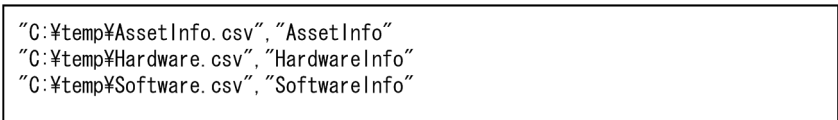
アソシエーションクラスとして関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を記述します。

(3) データファイル名定義ファイルの記述例（オブジェクトクラス）

オブジェクトクラスを jamexport コマンドでエクスポートする場合のデータファイル名定義ファイルの記述例について説明します。

データファイル名定義ファイルの記述例を次の図に示します。

図 7-9 データファイル名定義ファイルの記述例（オブジェクトクラス）



1 行目は、データファイル名が「C:¥temp¥AssetInfo.csv」、オブジェクトクラス名が「AssetInfo」であることを示しています。

jamexport コマンドを実行することで、オブジェクトクラス「AssetInfo」のすべての内容を、「C:¥temp¥AssetInfo.csv」にエクスポートします。

2 行目以降も、1 行目と同様に処理されます。

(4) データファイル名定義ファイルの記述例（アソシエーションクラス）

アソシエーションクラスを jamexport コマンドでエクスポートする場合のデータファイル名定義ファイルの記述例について説明します。

データファイル名定義ファイルの記述例を次の図に示します。

図 7-10 データファイル名定義ファイルの記述例（アソシエーションクラス）

```
"C:¥temp¥ContMLink.csv", "ContractMaintenanceLink", "AssetInfo", "Contract"  
"C:¥temp¥ContLLink.csv", "ContractLeaseLink", "AssetInfo", "Contract"
```

1 行目は、データファイル名が「C:¥temp¥ContMLink.csv」、アソシエーションクラス名が「ContractMaintenanceLink」、関係を持つオブジェクトクラス名が「AssetInfo」と「Contract」であることを示しています。

jamexport コマンドを実行することで、アソシエーションクラス「ContractMaintenanceLink」のすべての内容を、「C:¥temp¥ContMLink.csv」にエクスポートします。

2 行目以降も、1 行目と同様に処理されます。

注意事項

Weak アソシエーションクラスはエクスポートできますが、インポートできません。Weak アソシエーションクラスの詳細については、「[8.1.3 アソシエーションの種類](#)」を参照してください。

7.2.6 jamexport（エクスポート）コマンドの実行

エクスポートを実行する jamexport コマンドの機能、形式、オプション、戻り値、コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

なお、コマンドの実行ファイルは次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>¥exe

(1) 機能

資産管理データベースの情報を、クラスごとに CSV ファイルに出力します。指定したクラスの情報、取捨選択されることなく、すべてのプロパティ値が CSV ファイルに出力されます。

複数クラスの情報を一度に出力する場合は、出力するクラスと CSV ファイル名の対応を定義したデータファイル名定義ファイルが必要です。

(2) 形式

オブジェクトクラスの場合

```
jamexport  
{-f データファイル名  
-gc オブジェクトクラス名}  
| -dc データファイル名定義ファイル}  
[-e ログファイル名 [-s]]  
[-l メッセージ種別]  
[-op オペレーションコード]
```

アソシエーションクラスの場合

```
jamexport  
{-f データファイル名  
-ac アソシエーションクラス名  
-c1 関連オブジェクトクラス名  
-c2 もう一方の関連オブジェクトクラス名}  
| -dc データファイル名定義ファイル}  
[-e ログファイル名 [-s]]  
[-l メッセージ種別]  
[-op オペレーションコード]
```

(3) オプション

-f データファイル名

エクスポートする資産データが一つのオブジェクトクラスまたは一つのアソシエーションの場合に、データファイル名を指定します。

データファイル名は、フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。

このオプションは、必ず-gc（または-ac、-c1、-c2）オプションと同時に指定してください。また、-dc オプションとは同時に指定できません。

-gc オブジェクトクラス名

エクスポートする資産データが一つのオブジェクトクラスの場合に、そのオブジェクトクラス名を指定します。

このオプションは、必ず-f オプションと同時に指定してください。また、-dc オプションとは同時に指定できません。

クラス名については、「[14.1 クラス構成](#)」を参照してください。

-ac アソシエーションクラス名

エクスポートする資産データが一つのアソシエーションクラスの場合に、そのアソシエーションクラス名を指定します。

このオプションは、必ず-f、-c1、-c2 オプションと同時に指定してください。また、-dc オプションとは同時に指定できません。

-c1 関連オブジェクトクラス名

エクスポートする資産データが一つのアソシエーションクラスの場合に、そのアソシエーションクラスに関連するオブジェクトクラス名を指定します。

-c2 もう一方の関連オブジェクトクラス名

エクスポートする資産データが一つのアソシエーションクラスの場合に、そのアソシエーションクラスに関連するもう一方のオブジェクトクラス名を指定します。

-dc データファイル名定義ファイル

複数の資産データを一括してエクスポートする場合で、データファイル名定義ファイルに、エクスポートするクラス名を使用したときに指定します。このオプションは、-f、-gc、-ac、-c1、-c2 オプションと同時に指定できません。

データファイル名定義ファイルは、フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。

-e ログファイル名

通常はコンソールに出力されるメッセージをファイルに出力させるときに指定します。メッセージを出力させるファイル名をログファイル名として指定します。

このオプションは省略できます。省略した場合は、メッセージが jamexport コマンドを実行したコンソール上に表示されます。

ログファイルの出力フォーマットについては、「[11. トラブルシューティング](#)」を参照してください。

-s

エクスポートの処理件数が進ちょく状況としてコンソール上に出力されます。このオプションは、-e オプション使用時にだけ指定できます。省略した場合は、処理件数が出力されません。

-l メッセージ種別

ログファイルに出力されるメッセージの種別を指定します。このオプションは省略できます。省略した場合は、「E」が設定されます。

指定できるメッセージの種別と出力される情報を次に示します。

E

プログラムを終了させなければならない、重度のトラブルが発生したことを通知するメッセージだけが出力されます。

W

次の 2 種類のメッセージが出力されます。

- 「E」のメッセージ

- プログラムを終了させる必要はありませんが、一部機能が使えないなどのトラブルが発生したことを通知するメッセージ

I

「E」、「W」のメッセージおよび情報を通知するメッセージが出力されます。

-op オペレーションコード

エクスポートファイル中の各行に出力するオペレーションコード（インポート時にテーブルに対する変更種別を表す1文字）をA（追加）、C（変更）、D（削除）、N（変更なし）またはR（コメント）のどれかで指定します。省略した場合は、Nが設定されます。

オペレーションコードの詳細については、「[7.1.6\(2\) データファイルの記述形式](#)」を参照してください。

(4) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	警告要因は発生しましたが、処理は正常に終了しました。
11	コマンドオプションの書式に誤りがあります。
21	エクスポートファイルにアクセスできないかまたは内容に誤りがあります。
52	ユーザによってキャンセルされました。
101 以上	そのほかのエラーでコマンドが終了しました。

(5) コマンド実行時の注意事項

- Administrators 権限を持つユーザで jamexport コマンドを実行してください。
- jamexport コマンドのオプションに誤りがあった場合は、画面にエラーメッセージとコマンド書式が出力されます。ログファイルには出力されません。
- エクスポート実行中に [Ctrl] + [C] または [Ctrl] + [Break] で停止した場合や、コマンドプロンプトを閉じた場合は、停止した旨のエラーメッセージが出力され、処理が終了されます。
- エクスポート実行中にエラーが発生した場合は、その時点でエクスポートが終了されます。再度、jamexport コマンドを実行してください。この場合、データは最初から取得し直します。
- Weak アソシエーションのクラスはエクスポートできますが、インポートできません。Weak アソシエーションの詳細については、「[8.1.3 アソシエーションの種類](#)」を参照してください。

(6) 実行例

```
jamexport -f "c:¥temp¥Hardware.csv" -gc HardwareInfo
```

8

Asset Console を使用するための基礎知識

この章では、Asset Console を使用するための基礎知識として必要な、資産管理データベースの仕組みおよび資産の状態管理について説明します。

8.1 資産管理データベース

この節では、Asset Console を運用するために必要な知識として、資産管理データベースの仕組みについて説明します。

資産管理データベースの仕組みに関する基礎知識は、主に、次の作業を実行するときに必要なになります。

- jamimport コマンドによる資産管理データベースへの CSV データの登録（インポート）
- jamexport コマンドによる資産管理データベースからの CSV データの出力（エクスポート）
- 操作画面の管理項目の変更（管理項目編集）
- 操作画面の変更（業務フィルター）
- 業務メニューの追加（ユーザレポート作成）
- 管理項目と ITDM2 管理情報の引き当て（ITDM2 管理情報の引き当て）

資産管理データベースでは、オブジェクト指向型のデータ管理モデルを採用しています。そのため、扱うクラスおよびプロパティに対応させて資産情報を管理します。

資産管理データベースで管理するクラスおよびプロパティの概要を次に説明します。

8.1.1 資産管理データベースで管理するクラス

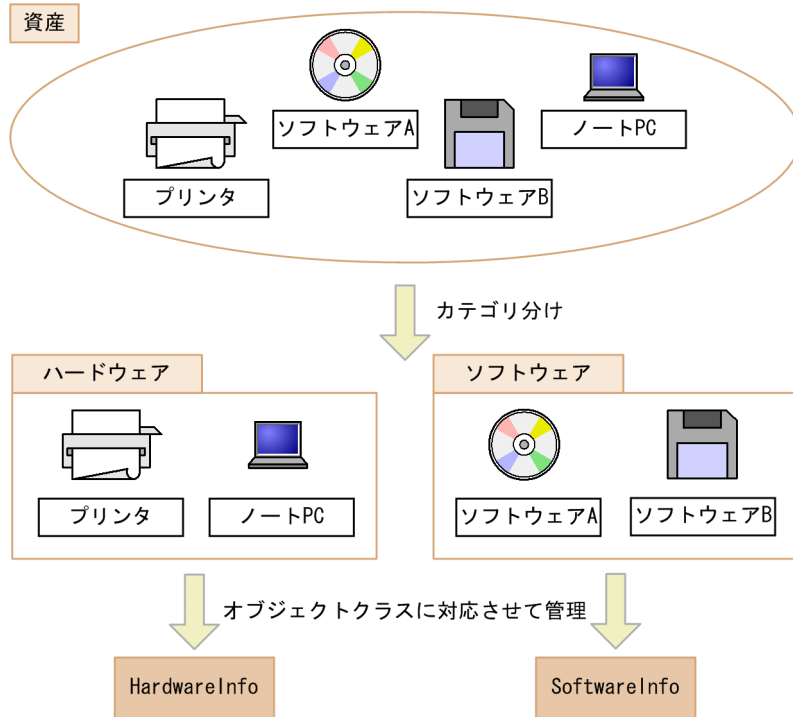
資産管理データベースで管理するクラスには、オブジェクトクラスとアソシエーションクラスの 2 種類があります。

- オブジェクトクラス

オブジェクトクラスとは、Asset Console で管理する各項目をカテゴリごとにまとめた情報の集合で、資産管理データベースに対する入出力単位となります。

例えば、「HardwareInfo」、「SoftwareInfo」などのクラスは、資産情報として管理する項目を「資産種別」のカテゴリでまとめたものです。それぞれハードウェアとソフトウェアの情報の集合を表します。オブジェクトクラス概念を次の図に示します。

図 8-1 オブジェクトクラス概念

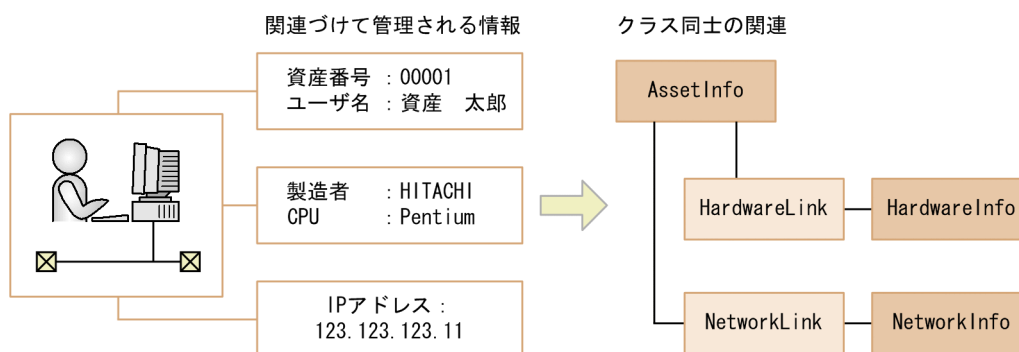


• アソシエーションクラス

オブジェクトクラス同士の関連（アソシエーション）を表します。

例えば PC の情報は、その PC の資産番号やユーザ名（「AssetInfo」クラス）、製造者やスペック（「HardwareInfo」クラス）、IP アドレス（「NetworkInfo」クラス）などが関連づけて管理されます。このときに、それぞれの情報の関連を表す「HardwareLink」および「NetworkLink」がアソシエーションクラスです。アソシエーションクラス概念を次の図に示します。

図 8-2 アソシエーションクラス概念



クラス同士の関連については、「[14.1.3 クラス関連図](#)」を参照してください。

8.1.2 資産管理データベースで管理するプロパティ

資産管理データベースで管理するクラスは、プロパティと呼ばれる属性を持っています。このプロパティにクラスの詳細情報を設定することで、資産管理項目をきめ細かく管理できます。

クラスの属性であるプロパティとして、例えば、資産の情報を定義するオブジェクトクラス「AssetInfo」には、「AssetKind」、「GroupName」といったプロパティがあります。これらのプロパティには、それぞれ資産種別と部署が定義されます。

資産管理システムで扱うクラスのプロパティの詳細については、「[14. 管理情報の詳細](#)」を参照してください。

8.1.3 アソシエーションの種類

アソシエーションクラスが表すオブジェクトクラスの関連には、同一のキープロパティでの関連と、異なるキープロパティでの関連の 2 種類があります。

また、アソシエーションクラスの属性として、主従関係（Weak アソシエーション）になるものがあります。

アソシエーションが表すオブジェクトクラスの関連、および Weak アソシエーションについて説明します。

- 同一のキープロパティでの関連

例えば、「HardwareLink」というアソシエーションクラスは、資産情報「AssetInfo」とハードウェア資産情報「HardwareInfo」の関連を表しますが、どちらのオブジェクトクラスでも、キーとなるプロパティは「AssetID」です。

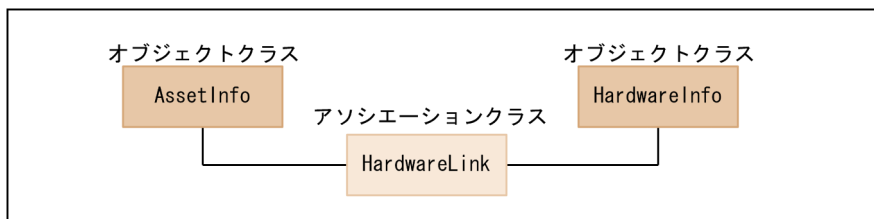
「AssetInfo」と「HardwareInfo」は常に 1 対 1 で関連づけられるため、二つのオブジェクトクラスは、「AssetID」によって関連を表すことができます。

そのため、資産管理データベース上には、「AssetInfo」と「HardwareInfo」の関連を定義した情報（アソシエーションクラスとしての情報）は作成されません。

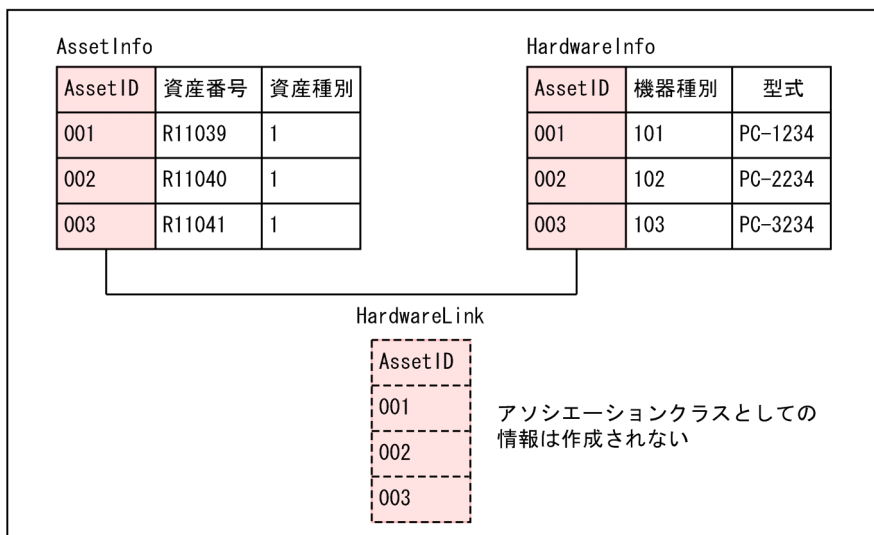
「HardwareLink」の表すオブジェクトクラスの関連を次の図に示します。

図 8-3 同一のキープロパティでの関連

<クラスの関連>



<データベース上のデータ>



異なるキープロパティでの関連

例えば、「ContractLeaseLink」というアソシエーションクラスは、契約情報「Contract」と資産情報「AssetInfo」の関連を表しますが、キーとなるプロパティは、それぞれ「ContractID」と「AssetID」で異なります。

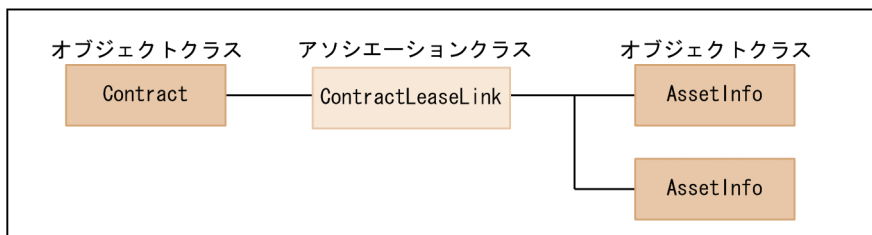
これは、複数の機器をまとめて契約する場合、一つの「Contract」に複数の「AssetInfo」が関連づけられるためです。

そのため、資産管理データベース上には、異なるキープロパティを対応させて二つのオブジェクトクラスの関連を定義した情報（アソシエーションクラスとしての情報）が作成されます。

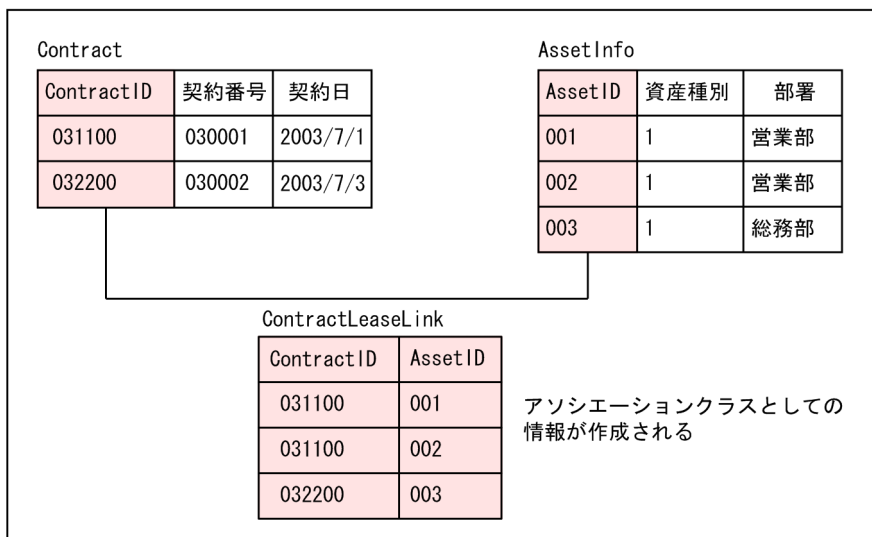
「ContractLeaseLink」の表すオブジェクトクラスの関連を次の図に示します。

図 8-4 異なるキープロパティでの関連

<クラスの関連>



<データベース上のデータ>



• 主従関係 (Weak アソシエーション)

あるクラスともう一方のクラスを、主従関係で表します。この関係では、主となるクラスを削除すると、従属するクラス (Weak クラス) も自動的に削除されます。

主従関係を表すアソシエーションクラスには、例えば「HardwareLink」クラスがあります。これは、資産としての情報「AssetInfo」クラスと、その資産がハードウェアであるとき、ハードウェア資産としての「HardwareInfo」クラスを関連づけています。つまり、まず資産がありその付加情報としてハードウェア資産情報があります。したがって、「AssetInfo」クラスが主となり、「HardwareInfo」クラスが従となる Weak アソシエーションの関係となります。

オブジェクトクラス同士の主従関係については、「[14.1.3 クラス関連図](#)」を参照してください。

8.2 資産の状態管理

Asset Console では、機器、契約、ソフトウェアおよび障害の状態が管理されます。状態は登録時に設定でき、運用中は操作画面から随時変更できます。

機器、契約およびソフトウェアの状態には、あらかじめ次の種類が用意されていますが、これ以外にも業務に合わせて状態を追加できます。

- 機器状態
運用、在庫、返却、廃棄、仮廃棄、抹消
- 契約状態
契約中、満了、抹消
- ソフトウェア状態
運用、返却、廃棄、抹消
- 保守状態
障害中、連絡済、修理中、対策済

状態は、資産管理データベース上で、コードと対応づけて管理されています。

機器、契約およびソフトウェアの状態のコードは、運用、廃棄、抹消のカテゴリに分かれていて、カテゴリによって、どの業務の対象となるかが異なります。状態を追加する場合は、追加するコードの範囲に注意してください。

また、「抹消」状態の資産情報は、Windows のタスクスケジューラに登録されたタスク「データメンテナンス」によって削除されるので、状態を変更する際は注意してください。

機器、契約、ソフトウェアの各状態のカテゴリと、検索対象とされる業務との対応を次の表に示します。

• 機器状態

カテゴリ		コード範囲	デフォルトの状態	対象業務
運用	—	000～499	—	業務カテゴリ「機器管理」以下の業務
	使用	000～299	002：運用	
	未使用	300～499	301：在庫	業務カテゴリ「機器管理」以下の業務（「不稼働機器一覧」以外）
廃棄	—	500～719	—	• 保有機器集計※ • 保有機器一覧※ • 一括変更 • 関連機器登録※
	返却	500～599	501：返却	
	廃棄	600～699	601：廃棄	
	仮廃棄	700～719	701：仮廃棄	
抹消		999	999：抹消	• 保有機器集計※

カテゴリ	コード範囲	デフォルトの状態	対象業務
抹消	999	999：抹消	<ul style="list-style-type: none"> 保有機器一覧※ 一括変更 関連機器登録※

(凡例)

－：該当しない

注※

[サーバセットアップ] ダイアログの「基本情報」の「保有機器検索画面の機器状態」で「すべてのコード範囲を表示」を設定した場合だけ検索対象とされます。

• 契約状態

カテゴリ	コード範囲	デフォルトの状態	対象業務
運用	000～499	001：契約中	契約一覧
満了	500～998	501：満了	契約一覧※ ¹
抹消	999	999：抹消	契約一覧※ ²

注※1

対象機器の追加はできません。

注※2

Windows のタスクスケジューラに登録されたタスク「データメンテナンス」が実行されると削除されます。

• ソフトウェア状態

カテゴリ	コード範囲	デフォルトの状態	対象業務
運用	000～499	001：運用	業務カテゴリ「ライセンス管理」以下の業務
廃棄	500～998	501：返却 601：廃棄	保有ソフトウェア一覧※ ¹
抹消	999	999：抹消	保有ソフトウェア一覧※ ²

注※1

検索条件に「返却」または「廃棄」を指定すると検索されます。

注※2

検索条件に「抹消」を指定すると検索されます。

また、Windows のタスクスケジューラに登録されたタスク「データメンテナンス」が実行されると削除されます。

状態を追加する方法については、マニュアル「運用ガイド」の「4.8 種別や状態を追加および変更する(コード管理)」を参照してください。

9

操作画面およびユーザ権限の変更

この章では、業務カテゴリ「システム定義」で実行できる、操作画面およびユーザ権限の変更方法について説明します。

なお、操作画面およびユーザ権限の変更は、管理者だけが実行できます。

9.1 ユーザ権限の変更（権限管理）

ユーザ権限に応じて参照できる範囲を変更したり、新しくユーザ権限を追加したりして、利用者の業務内容に合わせて使用できる機能や情報の範囲を設定します。

ユーザ権限の変更は、業務メニュー「権限管理」をクリックすると表示される権限管理画面から実行します。権限管理画面を次の図に示します。

図 9-1 権限管理画面



現在登録されているユーザ権限が一覧で表示されます。

9.1.1 新しくユーザ権限を追加する

新しくユーザ権限を追加する手順を次に示します。

1. 権限管理画面で「新規権限の作成」ボタンをクリックする。

「新規権限登録」ダイアログが表示されます。

- 「権限 ID」
各権限にユニークな ID を指定します。この項目は必ず指定してください。
- 「権限名」
権限名を指定します。同じ名前の権限は作成できません。この項目を省略すると、「権限 ID」と同じ名称が設定されます。
- 「管理ラベル」
組織階層単位でアクセス制限を行う場合に設定します。

例えば、追加する権限のユーザが所属する「課」以下の情報だけを扱うように設定したい場合は、各課と同じ管理ラベルを設定します。各課に管理ラベルが設定されていない場合は、ユーザ組織管理画面で管理ラベルを設定します。

組織階層単位でのアクセス制限を設定する方法については、「[3.1.3 組織階層単位でのアクセス制限の設定](#)」を参照してください。

キャンセルする場合は、[閉じる] ボタンをクリックしてください。

2. [登録] ボタンをクリックする。

指定した内容で、権限が追加されます。

追加した権限は、すべての業務メニューを使用できる設定になっています。使用できる業務メニューを制限したい場合は、利用可能業務割り当て画面で設定します。

利用可能業務割り当て画面での操作方法については、「[9.4 実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て）](#)」を参照してください。

登録したい内容を指定した状態の「新規権限登録」ダイアログを次の図に示します。

図 9-2 「新規権限登録」ダイアログ

9.1.2 ユーザ権限の内容を変更する

ユーザ権限の内容を変更するには、権限管理画面で変更したい「権限 ID」のアンカーをクリックします。[権限詳細] ダイアログが表示されて、内容を変更できます。

「権限名」の入力を省略すると、「権限 ID」と同じ名称が設定されます。各項目の設定方法については、「[9.1.1 新しくユーザ権限を追加する](#)」を参照してください。

[権限詳細] ダイアログで [削除] ボタンをクリックすると、権限を削除できます。なお、複数の権限を一度に削除するには、権限管理画面で削除したい権限のチェックボックスをチェックして、[権限削除] ボタンをクリックします。

9.1.3 ユーザ権限を削除する

ユーザ権限を削除するには、権限管理画面で削除したい「権限 ID」のチェックボックスをチェックして、[権限削除] ボタンをクリックします。

ただし、管理者の権限は削除できません。また、その権限を持つユーザが存在する場合にも削除できません。

9.2 管理項目の変更（管理項目編集）

操作画面に表示される項目の表示・非表示の設定や、名称を変更します。使用しない項目を非表示にしたり、項目名を管理しやすい名称に変更したりして、作業の効率を向上できます。

管理項目の変更は、ユーザ権限に関係なく全体に共通して反映されます。

管理項目は、業務メニュー「管理項目編集」をクリックすると表示される管理項目編集画面から変更できます。管理項目編集画面を次の図に示します。

図 9-3 管理項目編集画面



管理クラス	管理情報名
AddressGroup	IPグループ情報
AssetInfo	資産情報
AssetUpdateRecord	移管履歴
ComponentInfo	コンポーネント情報
Contract	契約情報
ContractAssetHistory	契約資産履歴
ContractCatalog	契約会社カタログ
ContractHistory	契約履歴
DivisionInfo	分掌情報
GroupInfo	部署情報
HardwareInfo	ハードウェア資産情報
IPAddress	IPアドレス管理情報
InstalledInfo	インストールソフトウェア情報
InstalledList	インストールソフトウェアリスト
InstalledUpdateRecord	ソフトウェア変更履歴
InstalledVirusDefInfo	ウィルス定義情報
JobRoleInfo	職権管理情報
LicenseAddUpRecord	ライセンス集計履歴
LicenseInfo	ライセンス情報
LicenseUseRecord	ライセンス利用履歴
LocationInfo	設置場所情報
MachineCatalog	機器カタログ
Maintenance	保守履歴
NetworkInfo	ネットワーク情報
PatchInfo	パッチ情報

管理項目は、資産管理データベース上では、クラスのプロパティとして管理されています。そのため、管理項目を変更するには、該当するクラスのプロパティを変更します。

管理項目編集画面では、管理クラスと対応する管理情報名が一覧で表示されます。「管理クラス」の中から変更したいクラス名のアンカーをクリックすると、プロパティの一覧が表示されて、表示・非表示の設定、名称の変更ができます。

各プロパティを編集することで、どの操作画面に影響があるかについては、操作画面ごとに管理項目を示した資料（ScreenItemList.pdf）を参照してください。ScreenItemList.pdf の格納場所を次に示します。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%help

9.2.1 管理対象の項目を変更する

各操作画面で、検索条件に指定したり、検索結果や集計結果に表示された項目を非表示にして管理対象から外したりできます。また、必要な項目を追加することもできます。なお、管理対象から外しても、資産管理データベースでは、引き続き情報は管理されます。

管理項目の表示・非表示は、各プロパティの「表示」チェックボックスで設定します。ただし、業務上必要不可欠な管理項目は、非表示にはできません。

機器の構成種別（デスクトップかノートか）を管理対象から外す場合を例に、管理項目を非表示にする手順を次に示します。

1. ハードウェア資産情報のクラス名「HardwareInfo」のアンカーをクリックする。

次の図に示す、ハードウェア資産情報のプロパティ一覧が表示されます。

図 9-4 ハードウェア資産情報のプロパティ一覧



2. 構成種別のプロパティ名「ModelKind」の「表示」チェックボックスのチェックを外す。

3. [更新] ボタンをクリックする。

機器の構成種別が管理対象から外され、操作画面に表示されなくなります。

表示名に「固有情報」という名称が付いているプロパティについては、「9.2.3 管理項目を追加する」を参照してください。

9.2.2 管理項目の名称を変更する

各操作画面で、検索条件に指定したり、検索結果や集計結果に表示されたりする項目の名称を変更できます。

「製造者」の名称を「メーカー」に変更する場合を例に、管理項目の名称を変更する手順を次に示します。

1. ハードウェア資産情報のクラス名「HardwareInfo」のアンカーをクリックする。

ハードウェア資産情報のプロパティ一覧が表示されます。

2. 製造者のプロパティ名「Developer」のアンカーをクリックする。

次の図に示す、プロパティの編集ダイアログが表示されます。

図 9-5 プロパティの編集ダイアログ (Developer)

プロパティ	Developer
表示名	製造者
表示名	製造者
<div>決定 キャンセル</div>	

3. 「表示名」に変更する名称「メーカー」を指定する。

4. [決定] ボタンをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが閉じて、プロパティ一覧の「製造者」の名称が「メーカー」に変更されます。

注意事項

この時点では、変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり、Web ブラウザを終了したりすると、変更内容は破棄されます。

5. [更新] ボタンをクリックする。

資産管理データベースに変更内容が反映されます。

注意事項

管理項目の名称を変更した場合、業務メニュー「インポート」のサンプルで提供されている条件が使用できなくなります。そのため、業務メニュー「インポート」のインポートの条件は新規に作成する必要があります。

9.2.3 管理項目を追加する

独自の管理項目を追加して、操作画面から実行する資産管理業務を拡張できます。

管理項目を追加する場合は、拡張するために用意されたプロパティ「固有情報」を利用します。このプロパティ「固有情報」には、管理できる情報のタイプによって次の 5 種類があります。追加したい情報に合わせて選択してください。

- 固有情報 Fieldxxx

xxx の部分に示されたバイトまでの情報を管理できる項目です。値には、半角英数字、全角文字、および記号を指定できます。

- 固有情報 Area

255 バイトまでの情報を管理できる項目です。操作画面では、値を入力する欄が複数行で表示されます。値には、半角英数字、全角文字、および記号を指定できます。

- 固有情報 Code

64 バイトまでのコード情報を管理できる項目です。状態や種別など、分類したい情報をコードに対応づけて管理します。値には、半角英数字を指定できます。

また、この項目は検索条件にはプルダウンとして表示されます。指定する値と表示文字列は、コード管理画面で設定します。コード管理画面での操作方法については、マニュアル「運用ガイド」の「4.8 種別や状態を追加および変更する（コード管理）」を参照してください。

- 固有情報 Uint

10 バイトまでの数値情報を管理できる項目です。値には、半角数字を指定できます。

- 固有情報 Date

8 バイトまでの日付情報を管理できる項目です。値には、半角英数字を指定できます。

(1)以降で、「固有情報 Fieldxxx」、「固有情報 Area」、「固有情報 Code」、「固有情報 Uint」、「固有情報 Date」のそれぞれについて、管理項目の追加例を示します。

(1) 管理項目の追加例（固有情報 Fieldxxx の場合）

資産をグループに分けて管理するために、資産情報に「グループ」という項目を追加する場合を例に、管理項目を追加する手順を次に示します。

1. 「管理クラス」の「AssetInfo」のアンカーをクリックする。

「AssetInfo」のプロパティの一覧が表示されます。

2. 「プロパティ」の「UserPropertyField128_1」のアンカーをクリックする。

次の図に示す、プロパティの編集ダイアログが表示されます。

図 9-6 プロパティの編集ダイアログ（UserPropertyField128_1）

プロパティ	UserPropertyField128_1
表示名	固有情報Field128-1
表示名	固有情報Field128-1
<div>決定 キャンセル</div>	

3. 「表示名」の欄に、「グループ」と入力して、「決定」ボタンをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが閉じて、プロパティの一覧の「固有情報 Field128-1」が「グループ」に変更されます。

注意事項

この時点では、変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり、Web ブラウザを終了したりすると、変更内容は破棄されます。

4. 「UserPropertyField128_1」の「表示」チェックボックスをチェックする。

操作画面に追加した管理項目「グループ」が表示されるようになります。

5. [更新] ボタンをクリックする。

変更内容が資産管理データベースに反映されます。

(2) 管理項目の追加例（固有情報 Area の場合）

保守履歴で詳細な内容を管理できるように、保守履歴に「詳細」という項目を追加する場合を例に、管理項目を追加する手順を次に示します。

1. 「管理クラス」の「Maintenance」のアンカーをクリックする。

「Maintenance」のプロパティの一覧が表示されます。

2. 「プロパティ」の「UserPropertyArea_1」のアンカーをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが表示されます。

3. 「表示名」の欄に、「詳細」を入力して、[決定] ボタンをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが閉じて、プロパティの一覧の「固有情報 Area-1」が「詳細」に変更されます。

注意事項

この時点では、変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり、Web ブラウザを終了したりすると、変更内容は破棄されます。

4. 「UserPropertyArea_1」の「表示」チェックボックスをチェックする。

操作画面に追加した管理項目「詳細」が表示されるようになります。

5. [更新] ボタンをクリックする。

変更内容が資産管理データベースに反映されます。

(3) 管理項目の追加例（固有情報 Code の場合）

リプレースが決まっている機器を管理するために、ハードウェア資産情報に「リプレース対象」という項目を追加する場合を例に、管理項目を追加する手順を次に示します。

1. 「管理クラス」の「HardwareInfo」のアンカーをクリックする。

「HardwareInfo」のプロパティの一覧が表示されます。

2. 「プロパティ」の「UserPropertyCode_1」のアンカーをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが表示されます。

3. 「表示名」の欄に、「リプレース対象」を入力して、[決定] ボタンをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが閉じて、プロパティの一覧の「固有情報 Code-1」が「リプレース対象」に変更されます。

注意事項

この時点では、変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり、Web ブラウザを終了したりすると、変更内容は破棄されます。

4. 「UserPropertyCode_1」の「表示」チェックボックスをチェックする。

操作画面に追加した管理項目「リプレース対象」が表示されるようになります。

5. [更新] ボタンをクリックする。

変更内容が資産管理データベースに反映されます。

このあと、業務メニュー「コード管理」を選択すると表示されるコード管理画面から、追加した管理項目「リプレース対象」の値（「はい」、「いいえ」）を追加してください。

「はい」、「いいえ」に対応づけるコードの追加方法については、マニュアル「運用ガイド」の「4.8.1 コードを追加する」を参照してください。

(4) 管理項目の追加例（固有情報 Uint の場合）

資産情報で詳細な内容を管理できるように、資産情報に「レンタル料」という項目を追加する場合を例に、管理項目を追加する手順を次に示します。

1. 「管理クラス」の「AssetInfo」のアンカーをクリックする。

「AssetInfo」のプロパティの一覧が表示されます。

2. 「プロパティ」の「UserPropertyUint_1」のアンカーをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが表示されます。

3. 「表示名」の欄に、「レンタル料」を入力して、[決定] ボタンをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが閉じて、プロパティの一覧の「固有情報 Uint-1」が「レンタル料」に変更されます。

注意事項

この時点では、変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり、Web ブラウザを終了したりすると、変更内容は破棄されます。

4. 「UserPropertyUint_1」の「表示」チェックボックスをチェックする。

操作画面に追加した管理項目「レンタル料」が表示されるようになります。

5. [更新] ボタンをクリックする。

変更内容が資産管理データベースに反映されます。

(5) 管理項目の追加例（固有情報 Date の場合）

資産情報で詳細な内容を管理できるように、資産情報に「レンタル開始日」という項目を追加する場合を例に、管理項目を追加する手順を次に示します。

1. 「管理クラス」の「AssetInfo」のアンカーをクリックする。

「AssetInfo」のプロパティの一覧が表示されます。

2. 「プロパティ」の「UserPropertyDate_1」のアンカーをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが表示されます。

3. 「表示名」の欄に、「レンタル開始日」を入力して、「決定」ボタンをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが閉じて、プロパティの一覧の「固有情報 Date-1」が「レンタル開始日」に変更されます。

注意事項

この時点では、変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり、Web ブラウザを終了したりすると、変更内容は破棄されます。

4. 「UserPropertyDate_1」の「表示」チェックボックスをチェックする。

操作画面に追加した管理項目「レンタル開始日」が表示されるようになります。

5. 「更新」ボタンをクリックする。

変更内容が資産管理データベースに反映されます。

9.2.4 ボタンやタブなどの名称、表示を変更する

操作画面に表示されるボタンやタブの名称、表示・非表示を変更できます。

ボタンおよびタブの名称、表示・非表示は、クラスのプロパティに対応しない検索条件、リストヘッダとともに、「VariousInfo」として管理されています。

「VariousInfo」に含まれる項目を次に示します。

- Button (ボタン表示情報)

操作画面に表示されるボタン（「検索」ボタンなど）の表示情報です。

- ConditionText (検索条件表示情報)

クラスのプロパティに対応しない検索条件（「集計単位」など）の表示情報です。

- Text_ListHDR (リストヘッダ表示情報)

クラスのプロパティに対応しないリストヘッダ（「アドレス範囲」など）の表示情報です。

- Text_TAB (タブ表示情報)

操作画面に表示されるタブ（「部署」、「設置場所」など）の表示情報です。

- Text_Title (ダイアログタイトル表示情報)

操作画面の画面名（「受信トレイ 案件一覧」など）の表示情報です。

注意事項

- この項目での画面名の変更は、業務メニュー「利用可能業務割り当て」での業務メニューの名称変更と関連づいていません。
- この項目から画面名を変更しても、業務フィルター画面の「画面名」には反映されません。
- ValueText（その他表示情報）
上記以外のクラスのプロパティに対応しない表示情報です。

[PDF] ボタンの名称を「帳票印刷」に変更する場合を例に、ボタンの名称を変更する手順を次に示します。

1. 管理クラス「VariousInfo」のアンカーをクリックする。

「VariousInfo」に含まれる操作画面の要素の一覧が表示されます。

2. 管理クラス「Button」のアンカーをクリックする。

ボタンの一覧が表示されます。

3. プロパティ「PDF」のアンカーをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが表示されます。

4. 「表示名」に変更する名称「帳票印刷」を指定する。

5. [決定] ボタンをクリックする。

プロパティの編集ダイアログが閉じて、プロパティ一覧の「PDF」の名称が「帳票印刷」に変更されます。

注意事項

この時点では、変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり、Web ブラウザを終了したりすると、変更内容は破棄されます。

6. [更新] ボタンをクリックする。

資産管理データベースに変更内容が反映されます。

変更した内容は、すべてのユーザ権限の操作画面に共通して反映されます。

非表示がデフォルトのボタンを表示する

管理項目編集では、デフォルトでは非表示となっているボタンを表示できます。

デフォルトが非表示の設定で用意されているボタン「Deletion2」または「Deletion3」を表示する設定にすると、次に示す操作画面にボタンが表示されます。

「Deletion2」

- [機器詳細] ダイアログ
[削除（機器、契約）] ボタン
- 契約一覧画面
[削除（機器、契約）] ボタン
- [契約詳細] ダイアログ
[削除（機器、契約）] ボタン

- ボリューム契約一覧画面
[削除（機器、契約）] ボタン
- [ボリューム契約詳細] ダイアログ
[削除（機器、契約）] ボタン

[Deletion3]

- [契約履歴] ダイアログ
[削除（履歴情報）] ボタン

管理項目編集で表示する設定にすると、すべてのユーザ権限の操作画面に表示されます。特定の権限のユーザだけが利用できるようにするには、管理項目編集で表示する設定にしたあと、業務フィルターで設定してください。業務フィルターでの操作画面の変更方法については、「[9.3 ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター）](#)」を参照してください。

9.3 ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター）

各操作画面の構成要素（ボタン、検索条件、編集項目など）を、ユーザ権限に応じて変更します。

例えば、利用者権限のユーザには契約情報を更新させないように、[契約詳細] ダイアログの[更新] ボタンを非表示にしたり、編集項目を変更できないようにしたりできます。また、検索条件や編集項目などの表示順序を変更することもできます。

業務フィルターでは、このようなユーザ権限に応じた業務内容の切り分けを、操作画面ごとに簡単に実現できます。なお、管理対象となっている項目は、管理項目編集画面の設定と連動して設定されます。

ユーザ権限に応じた操作画面の変更は、業務メニュー「業務フィルター」をクリックすると表示される業務フィルター画面から実行します。業務フィルター画面を次の図に示します。

図 9-7 業務フィルター画面



業務フィルター画面では、業務メニューに表示されている業務名と、各業務で使用する操作画面、さらに各操作画面に設定されている書式（各操作画面をカスタマイズした設定）が一覧で表示されます。

「画面名」の一覧から、書式を変更したい操作画面のアンカーをクリックすると、書式編集画面が表示されて、操作画面から実行する内容を変更できます。

これ以降の項で、書式の設定（ボタンや検索条件などの表示・非表示の設定など）について説明します。また、新しい書式の追加や書式名を変更、削除する方法についても説明します。

9.3.1 書式を設定する

業務フィルターでは、各操作画面の書式に変更したい内容を設定します。

書式の設定方法、および設定時の注意事項を次に示します。

- 書式は操作画面ごとに設定します。操作画面はそれぞれ構成が異なるため、同じ書式を複数の操作画面で共有することはありません。
- 書式の名称は任意に設定できます。
- 書式を作成するときは、同時に複数の書式編集画面を表示して作成しないようにしてください。同時に複数の書式編集画面で書式を作成すると、書式を保存するタイミングによっては、同じ操作画面に対して同じ名称の書式が作成されることがあります。
- 書式は一つの操作画面に複数設定できます。例えば、管理者用と利用者用に二つ設定することができます。
- 一つの書式は複数のユーザ権限で共有できます。
- 一つの操作画面に対して、特定のユーザ権限を複数の書式で適用することはできません。例えば、同じ操作画面に設定した「書式 1」と「書式 2」の両方に、管理者権限を適用することはできません。

書式編集画面は、書式を設定する操作画面の種類によって、設定する項目が異なります。次に、操作画面の種類別に、書式の設定手順を示します。

(1) 登録、編集画面の書式設定手順

登録または編集をする画面（例えば、新規機器登録画面）の書式編集画面では、次の項目を設定します。手順 1.～手順 3.は順不同です。

1.「対象権限」を設定する。

書式を適用するユーザ権限を設定します。設定方法は「[9.3.2 対象権限を設定する](#)」を参照してください。

2.「ボタン」を設定する。

ボタンの表示・非表示を設定します。設定方法は「[9.3.3 使用するボタンを設定する](#)」を参照してください。

3.「編集項目」を設定する。

操作画面上に表示する項目、編集できる項目、さらに各項目の並び順を設定します。設定方法は「[9.3.4 編集項目に表示する項目を設定する](#)」を参照してください。

4. すべての項目を設定し終わったら、[決定] ボタンをクリックする。

設定した内容が、書式を設定した操作画面に反映されて、書式編集画面が閉じます。

登録または編集画面の書式編集画面を次の図に示します。

図 9-8 登録または編集画面の書式編集画面

(2) 検索、集計画面の書式設定手順

検索または集計をする画面（例えば、保有機器一覧画面）の書式編集画面では、次の項目を設定します。
手順 1.～手順 4.は順不同です。

1. 「対象権限」を設定する。

書式を適用するユーザ権限を設定します。設定方法は「[9.3.2 対象権限を設定する](#)」を参照してください。

2. 「ボタン」を設定する。

ボタンの表示・非表示を設定します。設定方法は「[9.3.3 使用するボタンを設定する](#)」を参照してください。

3. 「検索条件」を設定する。

検索条件の表示・非表示および並び順を設定します。設定方法は「[9.3.5 検索条件に表示する項目を設定する](#)」を参照してください。

4. 「検索結果リスト」を設定する。

検索結果リストに表示する項目、並び順および各項目の表示幅を設定します。

集計結果リストに表示する項目の並び順や表示・非表示の設定を変更しても、集計のキーとなる項目は変更されません。

設定方法は「[9.3.6 検索結果リストに表示する項目を設定する](#)」を参照してください。

5. すべての項目を設定し終わったら、[決定] ボタンをクリックする。

設定した内容が書式を設定した操作画面に反映されて、書式編集画面が閉じます。

検索または集計画面の書式編集画面を次の図に示します。

図 9-9 検索または集計画面の書式編集画面

保有機器一覧の編集 - Windows Internet Explorer

決定 書式の追加 書式のコピー 書式名の変更 書式の削除 キャンセル

書式1

対象権限

非適用		適用
管理者	適用 >	
利用者	全て適用 >>	
	< 非適用	
	<< 全て非適用	

ボタン

非表示ボタン		表示ボタン
	表示 >	検索
	全て表示 >>	CSV
	< 非表示	PDF
	<< 全て非表示	

検索条件

非表示項目		表示項目
	表示 >	資産番号(資産情報)
	全て表示 >>	機器種別(ハードウェア資産情報)
	< 非表示	部署(部署情報)
	<< 全て非表示	設置場所(設置場所情報)
		ユーザ名(資産情報)
		登録日(資産情報)
		使用開始日(資産情報)
		使用終了日(資産情報)
		名称(ハードウェア資産情報)
		機器状態(資産情報)
		CPUクロック数(ハードウェア資産情報)
		モニタ種別(ハードウェア資産情報)
		モニタサイズ(ハードウェア資産情報)
		メモリサイズ(ハードウェア資産情報)
		ディスク容量(ハードウェア資産情報)
		仕様(ハードウェア資産情報)
		上へ 下へ

検索結果リスト

非表示項目		表示項目
	表示 >	資産番号(資産情報)
	全て表示 >>	機器種別(ハードウェア資産情報)
	< 非表示	名称(ハードウェア資産情報)
	<< 全て非表示	ユーザ名(資産情報)
		登録日(資産情報)
		機器状態(資産情報)
		部署(部署情報)
		設置場所(設置場所情報)
		使用開始日(資産情報)
		使用終了日(資産情報)
		CPUクロック数(ハードウェア資産情報)
		モニタ種別(ハードウェア資産情報)
		モニタサイズ(ハードウェア資産情報)
		メモリサイズ(ハードウェア資産情報)
		ディスク容量(ハードウェア資産情報)
		仕様(ハードウェア資産情報)
		上へ 下へ 幅 [] ピクセル

資産番号	機器種別	名称	ユーザ名	登録日	機

(3) 集計結果から表示する内訳画面の書式設定手順

集計結果から表示する内訳画面（例えば、保有機器集計画面の集計結果から表示する部署や設置場所ごとの機器種別の内訳が表示される操作画面）の書式編集画面では、次の項目を設定します。手順 1.～手順 3. は順不同です。

1. 「対象権限」を設定する。

書式を適用するユーザ権限を設定します。設定方法は「[9.3.2 対象権限を設定する](#)」を参照してください。

2. 「ボタン」を設定する。

ボタンの表示・非表示を設定します。設定方法は「[9.3.3 使用するボタンを設定する](#)」を参照してください。

3. 「検索結果リスト」を設定する。

検索結果リストに表示する項目、並び順および各項目の表示幅を設定します。

集計結果リストに表示する項目の並び順や表示・非表示の設定を変更しても、集計のキーとなる項目は変更されません。

設定方法は「[9.3.6 検索結果リストに表示する項目を設定する](#)」を参照してください。

4. すべての項目を設定し終わったら、[決定] ボタンをクリックする。

設定した内容が書式を設定した操作画面に反映されて、書式編集画面が閉じます。

集計結果から表示する内訳画面の書式編集画面を次の図に示します。

図 9-10 集計結果から表示する内訳画面の書式編集画面

保有機器集計 機器一覧の編集 - Microsoft Internet Explorer

決定書式の追加書式のコピー書式名の変更書式の削除キャンセル

書式1

対象権限

非適用

管理者
利用者

適用

適用 >

全て適用 >>

< 非適用

<< 全て非適用

ボタン

非表示ボタン

表示

閉じる
CSV

全て表示 >>

< 非表示

<< 全て非表示

検索結果リスト

非表示項目

表示

資産番号(資産情報)
名称(ハードウェア資産情報)
機器種別(ハードウェア資産情報)
登録日(資産情報)
ユーザ名(資産情報)
機器状態(資産情報)
部署(部署情報)
設置場所(設置場所情報)
使用開始日(資産情報)
使用終了日(資産情報)

全て表示 >>

< 非表示

<< 全て非表示

上へ

下へ

幅

ピクセル

資産番号

名称

機器種別

登録日

ユーザ名

9.3.2 対象権限を設定する

書式を適用するユーザ権限は、書式編集画面の「対象権限」で設定します。

書式編集画面の「対象権限」を次の図に示します。

図 9-11 書式編集画面の「対象権限」

対象権限

非適用

利用者[利用者用]

適用

管理者

適用 >

全て適用 >>

< 非適用

<< 全て非適用

対象権限を設定するには、適用したいユーザ権限を「非適用」の一覧から選択して、[適用] ボタンをクリックします。すべてのユーザ権限を適用するには、[全て適用] ボタンをクリックします。

「適用」の一覧に、選択したユーザ権限が移動して対象権限が設定されます。

なお、対象権限から外す場合は、該当するユーザ権限を「適用」の一覧から選択して、[非適用] ボタンをクリックします。すべてのユーザ権限を非適用にするには、[全て非適用] ボタンをクリックします。

一つの操作画面に複数の書式を設定する場合

各操作画面で、一つのユーザ権限に適用できる書式は一つだけです。ほかの書式の対象権限に設定されているユーザ権限は、権限名のあとに [] で囲んで適用されている書式名が表示されます。

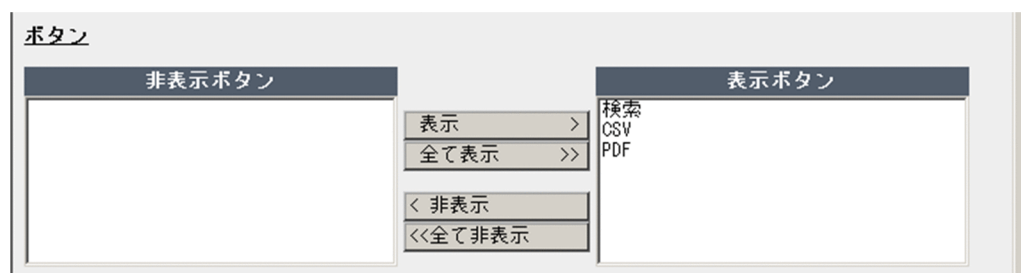
すでに対象権限に設定されているユーザ権限を、ほかの書式で適用することもできますが、元の書式の対象権限からは自動的に外されるので注意してください。

9.3.3 使用するボタンを設定する

操作画面で使用するボタンは、書式編集画面の「ボタン」で設定します。

書式編集画面の「ボタン」を次の図に示します。

図 9-12 書式編集画面の「ボタン」



操作画面で使用するボタンを設定するには、使用したいボタンを「非表示ボタン」の一覧から選択して、[表示] ボタンをクリックします。すべてのボタンを使用するには、[全て表示] ボタンをクリックします。

「表示ボタン」の一覧に選択したボタンが移動して、使用できるようになります。

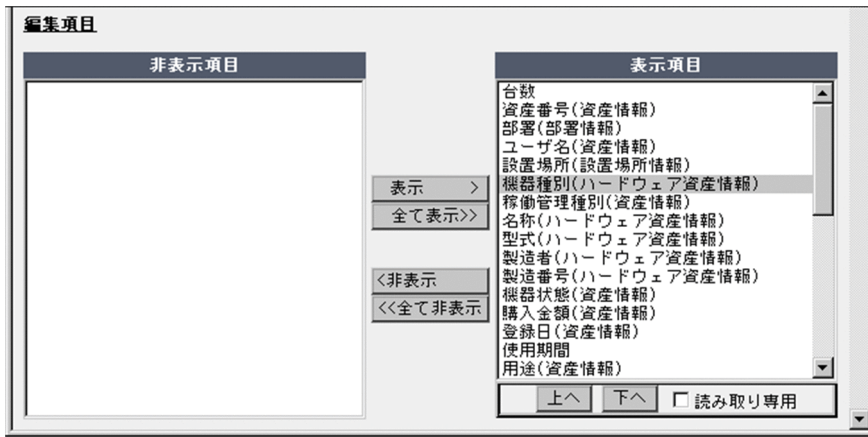
なお、非表示にする場合は、該当するボタンを「表示ボタン」の一覧から選択して、[非表示] ボタンをクリックします。すべてのボタンを非表示にするには、[全て非表示] ボタンをクリックします。

9.3.4 編集項目に表示する項目を設定する

新規に資産情報を登録する画面や、編集可能なダイアログに、項目を表示するかどうか、および編集可能にするかどうかを設定します。編集項目に関する設定は、書式編集画面の「編集項目」で設定します。

書式編集画面の「編集項目」を次の図に示します。

図 9-13 書式編集画面の「編集項目」



「非表示項目」の一覧には、「項目名（クラス名）」の形式でそれぞれの操作画面で編集項目に設定できる項目が表示されています。

「表示項目」の一覧の中で、背景がグレー表示されている項目は、システム規定項目のため、非表示および読み取り専用に変更できません。

(1) 編集項目の表示・非表示を設定する

ユーザ権限に応じて、公開したくない情報や業務に関係ない項目を非表示にできます。

編集項目に表示する項目を設定するには、表示したい編集項目を「非表示項目」の一覧から選択して、[表示] ボタンをクリックします。すべての項目を表示するには、[全て表示] ボタンをクリックします。

「表示項目」の一覧に選択した項目が移動して、表示されるようになります。

なお、非表示にする場合は、該当する項目を「表示項目」の一覧から選択して、[非表示] ボタンをクリックします。すべての項目を非表示にするには、[全て非表示] ボタンをクリックします。

注意事項

「編集項目」で設定できるのは、管理項目編集で利用する設定になっている項目だけです。「編集項目」で設定する項目を追加したい場合は、管理項目編集画面での設定を見直してください。

管理対象の項目を変更する方法については、「[9.2.1 管理対象の項目を変更する](#)」を参照してください。

(2) 編集項目の並び順を設定する

編集項目は「表示項目」の一覧に表示されている順番で、画面に表示されます。この並び順を、必ず指定する項目を上にするなど、使い方に合わせて変更できます。

編集項目の並び順を変更するには、変更したい編集項目を「表示項目」の一覧から選択して、[上へ] または [下へ] ボタンをクリックします。

複数の編集項目を選択して、一度に並び順を変更することはできません。一つずつ変更してください。

(3) 編集項目を読み取り専用に設定する

「表示項目」の一覧に表示されている編集項目は、読み取り専用（編集不可）に設定できます。利用者権限のユーザに更新させたくない項目や、更新する必要のない項目を編集できないようにして、誤操作を防げます。

編集項目を読み取り専用に設定するには、設定したい編集項目を「表示項目」の一覧から選択して、「読み取り専用」のチェックボックスをチェックします。

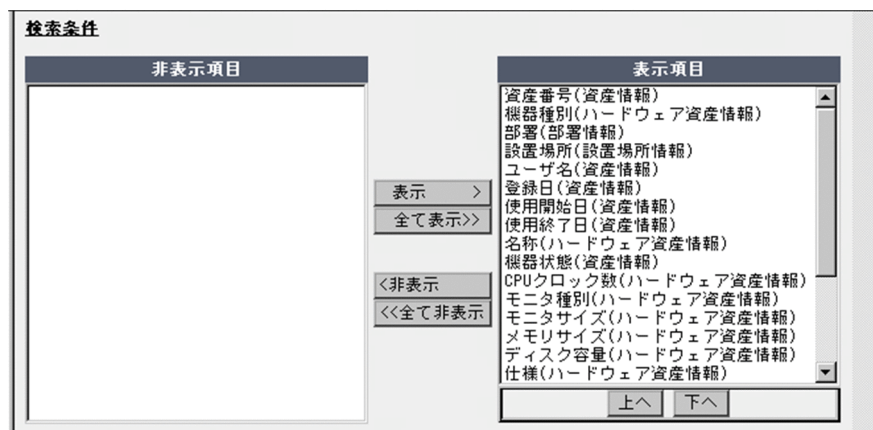
読み取り専用に設定された編集項目は、赤文字で表示されます。

9.3.5 検索条件に表示する項目を設定する

資産情報を検索または集計する画面に表示する、検索条件を設定します。検索条件に関する設定は、書式編集画面の「検索条件」で設定します。

書式編集画面の「検索条件」を次の図に示します。

図 9-14 書式編集画面の「検索条件」



「表示項目」の一覧の中で、背景がグレー表示されている項目は、非表示に変更できません。

(1) 検索条件の表示・非表示を設定する

検索条件に表示する項目を設定するには、表示したい検索条件を「非表示項目」の一覧から選択して、[表示] ボタンをクリックします。すべての項目を表示するには、[全て表示] ボタンをクリックします。

「表示項目」の一覧に選択した項目が移動して、表示されるようになります。

なお、非表示にする場合は、該当する項目を「表示項目」の一覧から選択して、[非表示] ボタンをクリックします。すべての項目を非表示にするには、[全て非表示] ボタンをクリックします。

注意事項

「検索条件」で設定できるのは、管理項目編集で利用する設定になっている項目だけです。「検索条件」で設定する項目を追加したい場合は、管理項目編集画面での設定を見直してください。

管理対象の項目を変更する方法については、「[9.2.1 管理対象の項目を変更する](#)」を参照してください。

(2) 検索条件の並び順を設定する

検索条件は「表示項目」の一覧に表示されている順番で、画面に表示されます。この並び順を、よく使用する項目を上にするなど、使い方に合わせて変更できます。

検索条件の並び順を変更するには、変更したい検索条件を「表示項目」の一覧から選択して、[上へ] または [下へ] ボタンをクリックします。

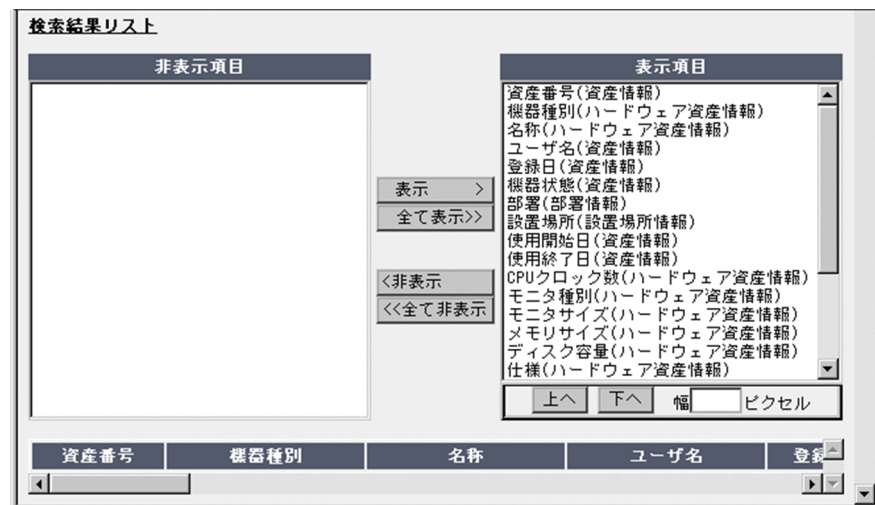
複数の検索条件を選択して、一度に並び順を変更することはできません。一つずつ変更してください。

9.3.6 検索結果リストに表示する項目を設定する

資産情報を検索または集計した結果のリストに表示する項目、項目の並び順、および表示幅を設定します。検索結果リストに関する設定は、書式編集画面の「検索結果リスト」で設定します。

書式編集画面の「検索結果リスト」を次の図に示します。

図 9-15 書式編集画面の「検索結果リスト」



(1) 検索結果リストの表示・非表示を設定する

検索結果リストに表示する項目を設定するには、表示したい項目を「非表示項目」の一覧から選択して、[表示] ボタンをクリックします。すべての項目を表示するには、[全て表示] ボタンをクリックします。

「表示項目」の一覧に選択した項目が移動して、表示されるようになります。

なお、非表示にする場合は、該当する項目を「表示項目」の一覧から選択して、[非表示] ボタンをクリックします。すべての項目を非表示にするには、[全て非表示] ボタンをクリックします。

注意事項

「検索結果リスト」で設定できるのは、管理項目編集で利用する設定になっている項目だけです。「検索結果リスト」で設定する項目を追加したい場合は、管理項目編集画面での設定を見直してください。

管理対象の項目を変更する方法については、「[9.2.1 管理対象の項目を変更する](#)」を参照してください。

(2) 検索結果リストの並び順を設定する

検索結果リストは、「表示項目」の一覧に表示されている順で、画面の左から右に表示されます。この並び順を、重要な項目をいちばん左に表示するなど、使い方に合わせて変更できます。

検索結果リストの並び順を変更するには、変更したい項目を「表示項目」の一覧から選択して、[上へ] または [下へ] ボタンをクリックします。左に表示させたい場合は上、右に表示させたい場合は下に移動させます。

複数の項目を選択して、一度に並び順を変更することはできません。一つずつ変更してください。

(3) 検索結果リストの項目の幅を設定する

「検索結果リスト」の一覧に表示されている項目は、表示幅を設定できます。デフォルトの表示幅が広過ぎる場合に表示幅を狭めたり、折り返して表示されないようにしたりできます。

検索結果リストの表示幅を設定するには、設定したい項目を「表示項目」の一覧から選択して、0～999 の数値（ピクセル）を入力します。0 または数値を何も入力しないと、画面のサイズに合わせて自動的に調整されます。

なお、保有機器集計画面の集計結果で、「集計観点」で選択した項目の表示幅を変更したい場合、「表示項目」の「機器種別（ハードウェア資産情報）」の表示幅を設定してください。「集計観点」で「機器種別」以外を選択した場合も、この幅で表示されます。

9.3.7 書式を追加する

書式は、一つの操作画面に複数設定できます。例えば、管理者用と利用者用に二つ設定することができます。

一つの操作画面に対して、特定のユーザ権限を複数の書式で適用することはできません。例えば、同じ操作画面に設定した「書式 1」と「書式 2」の両方に、管理者権限を適用することはできません。

新しく書式を追加する手順を次に示します。

1. 書式編集画面の「書式の追加」ボタンをクリックする。

書式名を指定するダイアログが表示されます。

書式名は任意に設定できます。ただし、同じ操作画面に対して、同じ名称は設定できません。

キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2. 書式名を指定して、[OK] ボタンをクリックする。

指定した名称で、新しい書式を設定するタブが追加されます。

書式編集画面の各項目で、書式を設定してください。

9.3.8 書式をコピーする

すでに設定してある書式をコピーして、書式を追加します。既存の書式を基に、さらに制限を加えたい場合などに使用すると便利です。

既存の書式をコピーする手順を次に示します。

1. 書式編集画面で、コピーしたい書式を選択する。

2. [書式のコピー] ボタンをクリックする。

書式名を指定するダイアログが表示されます。

書式名は任意に設定できます。ただし、同じ操作画面に対して、同じ名称は設定できません。

キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

3. 書式名を指定して、[OK] ボタンをクリックする。

指定した名称で、選択した書式がコピーされます。ただし、「対象権限」だけは、設定がリセットされます。

書式編集画面の各項目で、書式を設定してください。

9.3.9 書式の名称を変更する

既存の書式の名称を変更する手順を次に示します。

1. 書式編集画面の[書式名の変更] ボタンをクリックする。

書式名を変更するためのダイアログが表示されます。

書式名は任意に設定できます。ただし、同じ操作画面に対して、同じ名称は設定できません。

キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2. 変更する書式名を指定して、[OK] ボタンをクリックする。

指定した名称で、書式名が変更されます。

キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

3. [決定] ボタンをクリックする。

変更した内容が、操作画面に反映されます。

9.3.10 書式を削除する

作成したすべての書式を一括して削除する方法と、特定の書式を指定して削除する方法について説明します。

(1) 書式を一括削除する

作成したすべての書式を削除して画面の設定を初期化するには、業務フィルター画面で、[書式を初期化] ボタンをクリックします。

(2) 指定した書式を削除する

指定した書式を削除する手順を次に示します。

1. 書式編集画面で、削除したい書式を選択する。

2. [書式の削除] ボタンをクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

3. [OK] ボタンをクリックする。

選択した書式が削除されます。

すべての書式が削除された場合でも、次回この画面を表示すると、初期設定の「書式 1」が表示された状態に戻ります。

キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

4. [決定] ボタンをクリックする。

書式の削除が、操作画面に反映されます。

9.4 実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て）

業務メニューの表示・非表示を設定することによって、ユーザ権限に応じて実行できる業務を変更できます。また、業務メニューの名称を変更したり、新しく業務カテゴリを追加したりすることもできます。

ユーザ権限に応じた業務の割り当ては、業務メニュー「利用可能業務割り当て」をクリックすると表示される利用可能業務割り当て画面から変更できます。利用可能業務割り当て画面を次の図に示します。

図 9-16 利用可能業務割り当て画面



ユーザ権限別にタブで分かれて、利用できる業務メニューと設定内容が表示されます。

9.4.1 実行できる業務を変更する

ユーザ権限に対して割り当てられている業務を変更できます。ただし、この利用可能業務を割り当てる作業を、管理者以外の権限に割り当てることはできません。

「新規ソフトウェア登録」を管理者だけが実行できるように変更する場合を例に、ユーザ権限に応じて業務を割り当てる手順を次に示します。

1. 「利用者」タブをクリックする。

利用者の業務を割り当てる画面が表示されます。

2. 「新規ソフトウェア登録」の「表示」チェックボックスのチェックを外す。

左側のプレビュー領域から、「新規ソフトウェア登録」が消えます。

注意事項

この時点では、変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり、Web ブラウザを終了したりすると、変更内容は破棄されます。

3. [更新] ボタンをクリックする。

利用者の権限を持つユーザの操作画面には、業務メニュー「新規ソフトウェア登録」が表示されなくなります。

再度、業務メニュー「新規ソフトウェア登録」を利用したい場合は、「表示」チェックボックスをチェックすれば、利用できるようになります。

「機器管理」など、業務カテゴリの「表示」チェックボックスのチェックを外すと、その下位の業務メニューもすべて表示されなくなります。

業務カテゴリ「案件」の表示/非表示

業務カテゴリ「案件」以下の業務メニュー「受信トレイ」および「送信トレイ」は、業務カテゴリ「案件」を表示すると、必ず表示されます。

9.4.2 業務メニューの名称を変更する

「機器管理」を「ハードウェア管理」に変更する場合を例に、業務メニューの名称を変更する手順を次に示します。

1. 「業務名」の「機器管理」のアンカーをクリックする。

次の図に示す、業務名の変更ダイアログが表示されます。

図 9-17 業務名の変更ダイアログ

業務名	機器管理
業務名	機器管理

決定 キャンセル

2. 「業務名」に「ハードウェア管理」と入力して、[決定] ボタンをクリックする。

左側のプレビュー領域の業務名が「機器管理」から「ハードウェア管理」に変更されます。

注意事項

この時点では、変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり、Web ブラウザを終了したりすると、変更内容は破棄されます。

3. [更新] ボタンをクリックする。

変更内容が資産管理データベースに反映されて、業務メニューが変更されます。

なお、業務メニューの名称を変更すると、ほかのユーザ権限でも同様に変更されます。

注意事項

業務メニューの名称を変更しても、各業務で使用する操作画面の画面名は変更されません。画面名を変更したい場合は、業務メニュー「管理項目編集」から画面名を変更してください。変更方法については、「[9.2.4 ボタンやタブなどの名称、表示を変更する](#)」を参照してください。

9.4.3 業務カテゴリを追加する

業務メニューは「機器管理」、「契約管理」などの業務カテゴリで分かれています。既存の業務カテゴリに加えて、ユーザ拡張用の業務カテゴリ「ユーザ業務 1」～「ユーザ業務 8」を利用できます。

これらの新しい業務カテゴリは、作成したユーザレポートを「ユーザ業務 1」～「ユーザ業務 8」の業務カテゴリに登録することで表示されます。既存の業務メニューと別の業務カテゴリで管理したい場合に便利です。

ユーザレポートの登録手順については、「[9.5.8 作成したユーザレポートを登録する](#)」を参照してください。

また、ユーザ拡張用カテゴリの業務名は、既存の業務カテゴリと同様に変更できます。

9.5 定型業務に合わせた操作画面の追加（ユーザレポート作成）

Asset Console で提供されている操作画面のほかに、独自の情報を検索するための操作画面（ユーザレポート）を追加できます。

ユーザレポートとして作成できるのは、資産管理データベースで管理している資産情報を検索して、一覧を出力する操作画面です。データを登録したり、集計したりする操作画面は作成できません。

追加した操作画面は、ほかの操作画面と同じように、業務メニューに追加されたメニューから表示します。また、利用可能業務割り当て画面で、ユーザ権限に応じて割り当てすることもできます。

操作画面は、業務メニュー「ユーザレポート作成」をクリックすると表示されるユーザレポート作成画面から追加できます。

ユーザレポート作成画面を次の図に示します。

図 9-18 ユーザレポート作成画面



この画面からユーザレポートの作成を開始します。新規に作成する場合は、[新規登録] ボタンをクリックします。

既存のユーザレポートを編集する場合は、業務メニューのツリーから、編集したいユーザレポートを選択して [編集] ボタンをクリックします。既存のユーザレポートを削除する場合は、業務メニューのツリーから、削除したいユーザレポートを選択して [削除] ボタンをクリックします。

作成したユーザレポートは、コマンドラインから実行することもできます。コマンドラインからユーザレポートを実行する場合は、検索条件を定義するときに、引数に使用する変数名をわかりやすい名称にすると便利です。

これ以降の項で、ユーザレポートを作成するための各手順について説明します。

ユーザレポートを作成するための手順を次の図に示します。

図 9-19 ユーザレポートを作成するための手順



作成例に沿ってユーザレポートを作成する場合は、「9.5.12 ユーザレポートの作成例」を参照してください。

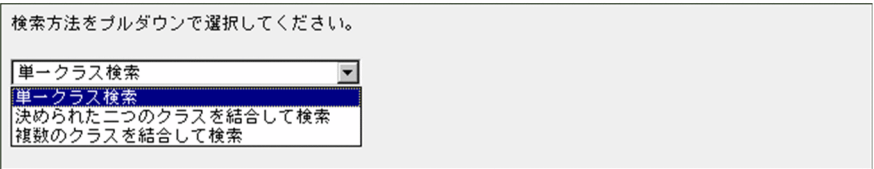
9.5.1 検索方法を選択する

ユーザレポート作成画面で、[新規登録] ボタンをクリックすると表示される画面で、操作画面でどのような情報を検索したいかによって、検索方法を選択します。

検索方法の指定欄に表示される項目の中から、検索方法を選択して [次へ] ボタンをクリックします。

検索方法の指定欄を次の図に示します。

図 9-20 検索方法の指定欄



(1) 検索方法の種類

資産管理データベースの資産情報を検索する方法には、次の3種類があります。

- 単一クラス検索

一つのクラスの情報だけを検索する方法です。

- 決められた二つのクラスを結合して検索

アソシエーションクラスで関連づけられているクラスの情報を検索する方法です。

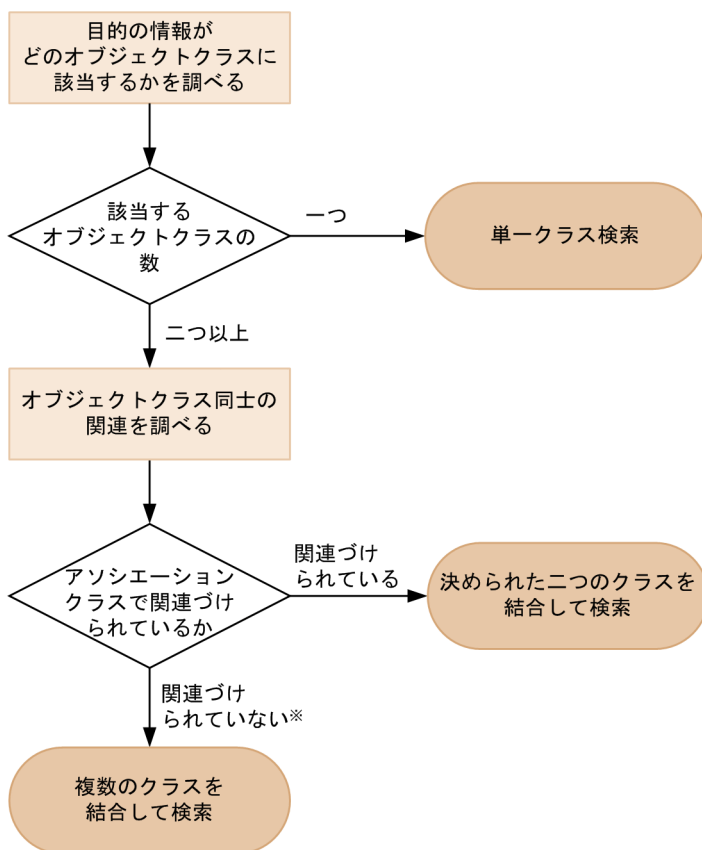
- 複数のクラスを結合して検索

アソシエーションクラスで関連づけられていないクラスの情報を検索する方法です。新しいクラス同士の関連づけを定義して検索したり、三つ以上のクラスを関連づけて検索したりする場合は、この方法を選択します。

(2) 検索方法を決定する手順

検索方法の決定手順を次の図に示します。

図 9-21 検索方法の決定手順



注※ 該当するオブジェクトクラスが三つ以上の場合も含まれます。

クラスの詳細およびクラス間の関連については、「[14. 管理情報の詳細](#)」を参照してください。

9.5.2 検索対象のクラスを指定する

検索方法を選択したら、次に目的の情報が含まれるクラスを指定します。

- 検索方法で「単一クラス検索」を選択した場合

検索対象となるオブジェクトクラスの指定欄から、目的の情報が含まれるクラスを選択します。

検索対象となるオブジェクトクラスの指定欄を次の図に示します。

図 9-22 検索対象となるオブジェクトクラスの指定欄

検索対象となるオブジェクトクラスをプルダウンで選択し、出力するプロパティをチェックボックスで選択してください。

IPグループ情報

- 検索方法で「決められた二つのクラスを結合して検索」を選択した場合

検索対象となるアソシエーションクラスの指定欄から、目的の情報が含まれるクラスを選択します。

検索対象となるアソシエーションクラスの指定欄を次の図に示します。

図 9-23 検索対象となるアソシエーションクラスの指定欄

検索対象となるアソシエーションクラスをプルダウンで選択し、出力するプロパティをチェックボックスで選択してください。

移管履歴情報リスト

- 検索方法で「複数のクラスを結合して検索」を選択した場合

クラス結合方法の指定欄で、「アソシエーションクラス」または「クラス指定」を選択してから、目的の情報が含まれるクラスを指定します。

クラス結合方法の指定欄を次の図に示します。

図 9-24 クラス結合方法の指定欄

クラス結合方法を選択してください。
複数結合する場合は「追加」ボタンより行ってください。

アソシエーション 移管履歴情報リスト 順序

結合元クラス	資産情報	キープロパティ	資産ID
結合先クラス	移管履歴	キープロパティ	資産ID
結合タイプ	INNER	追加	削除

「複数のクラスを結合して検索」を選択した場合のクラスの指定方法については、「[9.5.9 クラスの結合方法の指定](#)」を参照してください。

9.5.3 検索条件を定義する

検索条件は、「画面」タブの各項目で定義します。

「画面」タブを次の図に示します。

図 9-25 検索条件の定義項目（「画面」タブ）

検索条件 画面 コマンド引数

条件欄表示	カラム	条件式	値	条件
<input checked="" type="checkbox"/>	(部署情報. 部署コード)	=		OR
<input checked="" type="checkbox"/>	部署情報. 原価コード	=		AND
<input checked="" type="checkbox"/>	部署情報. 部署名	=		追加

1. 「条件欄表示」

検索条件を操作画面に表示するかどうかを設定します。チェックボックスにチェックすると、操作画面で検索条件を指定できるようになります。

また、チェックボックスにチェックすると、「値」の指定欄が非活性になります。

2. 「カラム」

検索したい情報を指定します。プルダウンには、「クラス名.プロパティ名」で表示されます。

3. 「条件式」

「カラム」に指定したプロパティと「値」の関係を、次の表に示す条件式の中から指定します。

条件式の一覧を次の表に示します。

表 9-1 条件式の一覧

条件式	「カラム」に指定したプロパティのデータ型の種類	ユーザレポートで表示される文字列またはプルダウンメニュー一覧
=	—	「と等しい」
!=	—	「と等しくない」
<	—	「より小さい」
<=	—	「以下」
>	—	「より大きい」
>=	—	「以上」
LIKE	—	「を含む」
NOT LIKE	—	「を含まない」
OPTIONS	日付	<div>• 「以前」</div> <div>• 「以降」</div>
	数値	<div>• 「以下」</div> <div>• 「以上」</div>
	文字列	<div>• 「完全一致」</div> <div>• 「部分一致」</div> <div>• 「前方一致」</div> <div>• 「後方一致」</div>

（凡例）

—：該当しない

部署または設置場所を検索条件に指定する場合は、常に前方一致で検索されます。

4. 「値」

「カラム」で指定した情報に対して、値が決まっている場合に指定します。

「条件欄表示」のチェックボックスにチェックして、操作画面で指定する場合は、この指定欄は非活性になります。

コードで定義されているプロパティの値は、コードで指定してください。

5. 「条件」

複数の検索項目を設定する場合に、各検索項目をつなぐ条件を「AND」または「OR」から指定します。

6. 括弧

複数の検索項目を括弧で囲む場合に指定します。ただし、二重括弧は指定できません。

7. 「追加」ボタン

クリックすると、検索項目の指定欄を追加できます。

引数に使用する変数名の定義

作成したユーザレポートと同じ検索をコマンドラインから実行する場合は、操作画面上で指定する条件を、引数として指定します。その際、各検索条件を変数名で表します。

「コマンド引数」タブでは、引数を指定するときに使用する変数名をわかりやすい名称に変更できます。

「コマンド引数」タブを次の図に示します。

図 9-26 検索条件の定義項目（「コマンド引数」タブ）

検索条件	画面	コマンド引数
カラム	条件式	変数名
(部署情報. 部署コード	=	GroupCode
部署情報. 原価コード	=	CostGroupCode
部署情報. 部署名	=	GroupName
) AND

「画面」タブで定義した検索条件のうち、「条件欄表示」のチェックボックスにチェックされた条件に対応する変数名を定義します。デフォルトでは、「Variant*n*」（*n* は 1 から順番に採番されます）が設定されています。

変数名に指定できるのは、1～32 バイトの半角英数字で、大文字と小文字は区別されます。なお、同じ変数名は複数指定できません。

「画面」タブの「条件式」に「OPTIONS」を指定した場合、「コマンド引数」タブの「条件式」には「=」が表示されます。

9.5.4 出力項目を設定する

出力項目の指定欄で、検索結果の一覧に出力したい項目を設定します。

出力項目の指定欄を次の図に示します。

図 9-27 出力項目の指定欄

検索対象に指定したクラスに応じて、「出力項目」に指定できる情報が表示されます。検索結果の一覧に出力したい項目のチェックボックスをチェックします。

検索結果の一覧から詳細情報を表示する設定

保有機器一覧の検索結果のように、検索結果の一覧から詳細情報をダイアログで表示するかどうかを設定できます。

検索結果の一覧から表示できるのは、[機器詳細] ダイアログ、[ソフトウェア詳細] ダイアログおよび [契約詳細] ダイアログです。

資産情報の「資産番号」および契約情報の「契約 ID」を出力項目に指定する際に、「詳細表示する」または「詳細表示しない」を選択します。

コードで定義されているプロパティの表示方法

コードで定義されているプロパティの値は、通常の表示方法に加えて、コードの表示名、値、またはその両方を表示するかどうかを選択できます。例えば、「機器状態」の場合、「在庫」や「運用」が「表示名」、「1」や「2」が「値」となります。

9.5.5 出力項目の並び順と表示幅を設定する

「画面表示情報」欄で、検索結果の一覧に表示する項目の並び順と表示幅を設定します。

「画面表示情報」欄を次の図に示します。

図 9-28 「画面表示情報」欄

項目の並び順は、「表示項目」の一覧の順に左から並びます。並び順を変更する場合は、「表示項目」の一覧で変更したい項目を選択して、[上へ] ボタンまたは [下へ] ボタンをクリックします。

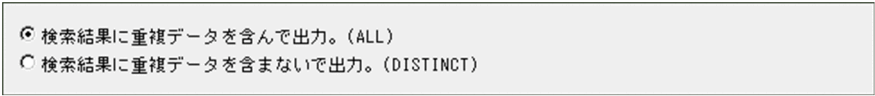
表示幅を変更する場合は、「表示項目」の一覧で変更したい項目を選択して、「幅」に 0～999 の数値を指定します。デフォルトは 150 ピクセルです。

9.5.6 重複データを含むかどうかを選択する

検索結果に重複したデータが含まれる場合、重複結果を含んだまま出力するかどうかを選択します。この項目は、検索方法で「複数のクラスを結合して検索」を選択したときだけ設定します。

重複データを含むかどうかの指定欄を次の図に示します。

図 9-29 重複データを含むかどうかの指定欄

- 
- ☒ 検索結果に重複データを含んで出力。(ALL)
 - ☐ 検索結果に重複データを含まないで出力。(DISTINCT)

「検索結果に重複データを含んで出力」または「検索結果に重複データを含まないで出力」のどちらかを選択してください。デフォルトでは、「検索結果に重複データを含んで出力」が選択されています。

9.5.7 プレビューで作成結果を確認する

検索方法、対象とするクラス、検索条件、出力項目、および重複データを含むかどうかの設定が、正しくできているかどうかをプレビューで確認します。

[プレビュー] ボタンをクリックすると、作成した操作画面が表示されて、実際に検索を実行して検索結果を確認できます。

「複数のクラスを結合して検索」を選択してレポートを作成する場合は、結合方法によって「スクリプトの実行中にエラーが発生しました。」や「データベースのアクセスで障害が発生したため処理を継続できません。」と画面に表示されることがあります。ユーザレポートを登録する前に、あらかじめプレビュー画面で検索を実行して、正しく検索結果が得られることを確認してください。

また、「登録するデータサイズが最大長を超えています。」というメッセージが表示された場合は、指定した検索条件や出力項目のデータサイズが使用しているデータベースの最大長を超えています。指定する検索条件や出力項目を減らしてください。

9.5.8 作成したユーザレポートを登録する

作成したユーザレポートを登録します。登録すると、ほかの業務と同じように、業務メニューから選択して表示できるようになります。

ユーザレポートは、検索条件を定義する画面で「次へ」ボタンをクリックすると表示される画面で登録します。ユーザレポート登録画面を次の図に示します。

図 9-30 ユーザレポート登録画面

レポートを登録します。
レポートを追加するカテゴリを選択してください。

レポート名:

帳票ファイル名:

権限: administrator ☐

権限: user ☐

戻る 登録

ユーザレポートの登録手順を次に示します。

1. 業務のカテゴリを選択する。

ユーザレポートを追加する業務メニューのカテゴリを、ツリーから選択します。何も選択しないと、カテゴリと同じ階層に追加されます。

2. 「レポート名」、「帳票ファイル名」 および利用できる権限を設定する。

ユーザレポートの名称、PDF 形式の帳票を出力するかどうか、および利用できるユーザ権限を設定します。

・ レポート名

任意の名称を指定します。指定を省略すると、自動的に付けられた ID が名称として設定されます。作成したユーザレポートをコマンドラインから実行する場合は、重複しない名称を指定してください。同一の名称が複数あるユーザレポートは、コマンドラインから実行できないので、注意してください。

・ 帳票ファイル名

検索結果を PDF ファイルの帳票として出力する場合、EUR で作成した帳票ファイル（拡張子「.fms」）を指定します。ここで指定した帳票ファイルは、必ず「Asset Console のインストール先フォルダ」\eur に格納してください。

帳票ファイルの作成方法については、EUR のマニュアルを参照してください。また、PDF ファイルの帳票を出力するために必要な設定については、「5.3 資産管理サーバの設定」を参照してください。

- 権限

作成したユーザレポートを使用するユーザ権限のチェックボックスをチェックします。指定を省略すると、業務メニューには追加されません。

一度登録したユーザレポートの「レポート名」、「帳票ファイル名」および権限の設定内容は、ユーザレポート作成画面または利用可能業務割り当て画面で変更できます。

3. [登録] ボタンをクリックする。

作成したユーザレポートが登録されます。

注意事項

「複数のクラスを結合して検索」を選択してレポートを作成した場合は、結合方法によって「スクリプトの実行中にエラーが発生しました。」や「データベースのアクセスで障害が発生したため処理を継続できません。」と画面に表示されることがあります。レポートを登録する前に、あらかじめプレビュー画面で検索を実行して、正しく検索結果が得られることを確認してください。

9.5.9 クラスの結合方法の指定

クラスの結合方法は、検索方法で「複数のクラスを結合して検索」を選択した場合にだけ指定します。クラスの結合方法を新しく定義して、独自の検索条件の操作画面を作成できます。検索方法で「複数のクラスを結合して検索」を選択した場合の、クラスの結合方法の指定欄を次の図に示します。

図 9-31 クラスの結合方法の指定欄

クラス結合方法を選択してください。
複数結合する場合は「追加」ボタンより行ってください。

アソシエーション ▼ 移管履歴情報リスト ▼ 順序 ▼

結合元クラス 資産情報 ▼ キープロパティ 資産ID ▼

結合先クラス 移管履歴 ▼ キープロパティ 資産ID ▼

結合タイプ INNER ▼ 削除

クラス指定 ▼ 移管履歴情報リスト ▼

結合元クラス 資産情報 ▼ キープロパティ 資産ID ▼

結合先クラス 移管履歴 ▼ キープロパティ 資産ID ▼

結合タイプ INNER ▼ 追加 削除

キー追加 キー削除
キー追加 キー削除

クラスの結合方法は、次の 2 種類から選択します。

- アソシエーション

アソシエーションクラスとして関連づけられているオブジェクトクラスを検索する場合に選択します。この結合方法を選択すると、アソシエーションクラスとして関連づけられているオブジェクトクラスの内容で、「結合元クラス」、「結合先クラス」およびそれぞれの「キープロパティ」の値が指定されます。

- クラス指定

アソシエーションクラスとして関連づけられていないオブジェクトクラス同士を結合して検索する場合に選択します。

この結合方法を選択すると、「結合元クラス」、「結合先クラス」およびそれぞれの「キープロパティ」を指定するプルダウンが活性化されます。

結合元クラスと結合先クラスの順序

三つ以上のクラスを結合する場合は、結合元クラスと結合先クラスの順序を正しく指定する必要があります。クラス A とクラス B を結合させ、さらにクラス B とクラス C を結合させる場合、次のように指定します。

- クラス A とクラス B の結合
クラス A を結合元クラスに指定します。
- クラス B とクラス C の結合
クラス B を結合元クラスに指定します。

クラスの結合方法で「アソシエーション」を選択した場合は、[順序] ボタンで結合元クラスと結合先クラスの順序を入れ替えてください。

キープロパティの追加と削除

複数の項目で検索対象を特定する必要があるときには、キープロパティを追加します。キープロパティの追加は、クラスの結合方法で「アソシエーション」を選択した場合には必要ありません。

[キー追加] ボタンをクリックすると、キープロパティの指定欄が表示されて、キープロパティを追加できます。

キープロパティを削除する場合は、[キー削除] ボタンをクリックしてください。

内部結合と外部結合

クラス同士の関連づけとは別に、クラス同士の**結合タイプ**を選択します。

結合元と結合先のキーの値が存在した機器の情報だけを出力する場合は **INNER (内部結合)** を選択します。

結合元のキーの値が結合先に存在しなくても、その項目を空白情報として出力する場合は **OUTER (外部結合)** を選択します。

9.5.10 ユーザレポートの削除

作成したユーザレポートは、業務メニュー「ユーザレポート作成」をクリックすると表示されるユーザレポート作成画面で削除します。

作成したユーザレポートが表示されているツリービューから、削除したいユーザレポートを選択して、[削除] ボタンをクリックすると削除されます。

9.5.11 コマンドラインからの検索の実行

作成したユーザレポートでの検索を実行する、jamUserReport コマンドの機能、形式、オプション、戻り値、コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

なお、コマンドの実行ファイルは次のフォルダに格納されています。

(1) 機能

業務メニュー「ユーザレポート作成」で作成したユーザレポートでの検索を実行します。検索結果は CSV 形式で標準出力に出力されます。

(2) 形式

```
jamUserReport
-n "レポート名"
{ [ -cv "変数名=条件値" [ -cv "変数名=条件値" ] ] |
  [ -cf "条件値定義ファイル名" ] }
[ -pf "出力ファイル名" ]
```

(3) オプション

-n "レポート名"

検索を実行するレポート名を指定します。ただし、同一の名称で複数作成されているレポート名は指定できません。このオプションは、必ず指定してください。

-cv "変数名=条件値"

検索条件を指定します。-cv オプションで指定できるのは、ユーザレポートで検索時に指定できる条件と同じです。-cf オプションとは同時に指定できません。定義されていない変数名を指定した場合、および条件値を指定しない場合は、無視されます。

変数名

ユーザレポート作成時に「検索条件」の「コマンド引数」タブで定義した変数名を指定します。

条件値

変数に合わせて指定します。検索条件に指定するプロパティに応じた指定方法を次に示します。

- コードに対応づけて管理されているプロパティの場合、条件値には数値ではなく表示名を指定してください。
- 日付の場合、「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd△hh:mm:ss」（△は半角スペース）の形式で指定します。
- 数値の場合、「1,000」のように「,」（コンマ）で区切らないで「1000」のように指定します。
- ハードウェア資産情報の「ディスク容量」、「空ディスク容量」および機器カタログ情報の「ディスク容量」の場合、単位はギガバイトで指定してください。ただし、検索結果にはメガバイトで出力されます。
- 部署情報の場合、操作画面のようなログインユーザによるアクセス制限はありません。
- IP アドレスのようにけた数が決まっている数値の場合でも、「11.111.111.1」のように指定できます（0 でけた数を調整する必要はありません）。

-cf "条件値定義ファイル名"

条件値を定義したファイル（条件値定義ファイル）の名称を指定します。-cv オプションとは同時に指定できません。

よく使用する検索条件や複数の検索条件を組み合わせる場合に、この条件値定義ファイルを利用すると便利です。

条件値定義ファイルの記述形式を次に示します。

```
変数名, 条件値  
変数名, 条件値  
:
```

1 カラム目に変数名、2 カラム目に条件値を「,」（コンマ）で区切って記述します。ファイルは CSV 形式で作成してください。

-pf "出力ファイル名"

検索結果の出力ファイル名を指定します。パスを指定すると、指定したフォルダに出力されます。ファイル名だけを指定した場合、標準出力ではなく、コマンドの実行ファイルと同じフォルダに出力されます。

指定した出力ファイル名と同じファイルがあった場合は、そのファイルに上書きされます。コマンドがエラーで終了した場合は、既存のファイルの内容がクリアされます。

(4) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	検索結果が 0 件です。
11	コマンドオプションの指定に誤りがあるため、処理を中断しました。
21	レポート名に誤りがあるため、処理を中断しました。
22	変数名に誤りがあるため、処理を中断しました。
23	条件値に誤りがあるため、処理を中断しました。
24	条件変数値定義ファイルに誤りがあるため、処理を中断しました。
25	出力ファイルに誤りがあるため、処理を中断しました。
31	メモリが不足しています。
52	ユーザによってキャンセルされました。
101 以上	その他のエラーでコマンドが終了しました。

(5) コマンド実行時の注意事項

- Administrators 権限を持つユーザで jamUserReport コマンドを実行してください。

- コマンドのオプションの引数で、スペースを含む文字列を指定する場合、「"」（ダブルクォーテーション）で囲む必要があります。

(6) 実行例

```
jamUserReport -n "機器の一覧" -cv "Variant1=本社/資産管理部" -pf "C:¥kiki.csv"
```

また、バッチファイル（.bat 形式のファイル）を作成すると、EUR のコマンドを使用して、検索結果をプリンタに出力できます。プリンタに出力する場合の、バッチファイルの作成例を次に示します。

```
jamUserReport -n "機器の一覧" -cv "Variant1=本社/資産管理部" -pf "C:¥kiki.csv"
IF errorlevel 1 then goto error
eurps C:¥kiki.fms,C:¥kiki.csv
IF errorlevel 1 then goto error
goto end
error:
echo プリンタ出力に失敗しました。
end:
```

eurps コマンドの詳細については、帳票システム構築支援 uCosminexus EUR バージョン 8 対応のマニュアル「uCosminexus EUR サーバ帳票出力」を参照してください。

9.5.12 ユーザレポートの作成例

利用 IP アドレスを検索して、IP アドレスの利用状況を確認するためのユーザレポートを作成する場合を例に、作成手順を説明します。

(1) 検索したい情報の検討

まず、利用 IP アドレスを検索するためには、どのクラスを対象に検索すればよいのかを検討します。

検索結果の一覧に出力する項目は、「IP アドレス」、「資産番号」、「名称」、「機器種別」、「ユーザ名」、「部署」および「設置場所」とします。

次に、上記の各項目をプロパティに持つクラスを探します。項目とクラスの対応は次のようになります。

検索結果の一覧に出力する項目	クラス
IP アドレス	NetworkInfo
資産番号	AssetInfo
名称	HardwareInfo
機器種別	HardwareInfo
ユーザ名	UserInfo
部署	GroupInfo

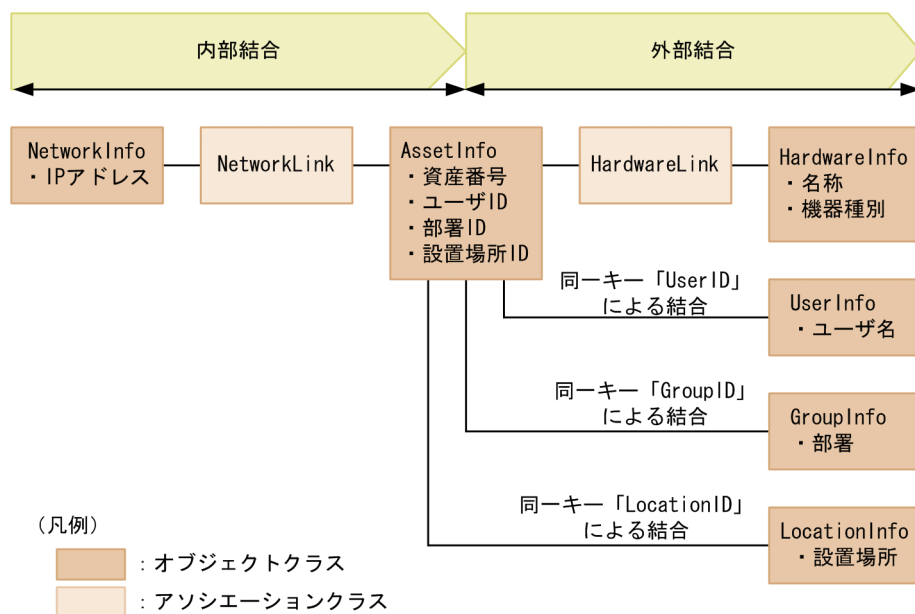
検索結果の一覧に出力する項目	クラス
設置場所	LocationInfo

(2) クラス結合方法の検討

検索したい情報とそのクラスが決定したら、次にクラスの結合方法を検討します。

クラス結合方法の検討例を次の図に示します。

図 9-32 クラス結合方法の検討例



クラス同士の関連

- 「NetworkInfo」と「AssetInfo」は、アソシエーションクラス「NetworkLink」によって結合されています。
- 「AssetInfo」と「HardwareInfo」は、アソシエーションクラス「HardwareLink」によって結合されています。
- 「AssetInfo」と「UserInfo」、「GroupInfo」、「LocationInfo」は、アソシエーションクラスで結合されていないので、同一キーによって結合します。

内部結合と外部結合

- 利用されている IP アドレスから、それを利用している機器を特定するため、IP アドレスを持たない機器は検索結果から外します。そのため、「NetworkInfo」と「AssetInfo」は INNER（内部結合）の関係になります。
- 「名称」、「ユーザ名」、「部署」、「設置場所」は値がない場合でも、機器の情報を検索結果に出力します。そのため、「AssetInfo」と「HardwareInfo」、「UserInfo」、「GroupInfo」、「LocationInfo」はそれぞれ OUTER（外部結合）の関係になります。

操作画面でクラス結合を定義する際は、内部結合、外部結合の順番で定義していきます。

また、結合元クラスと結合先クラスの順序は、この例のようにすべてのクラスが一つのクラス (AssetInfo) を中心に結合している場合は、すべての結合元クラスに「AssetInfo」を指定してください。

(3) 操作画面で指定する検索条件の検討

検索結果として出力する項目とは別に、操作画面で検索条件に指定する項目と検索方法を検討します。

機器の管理部署または設置場所で利用 IP アドレスを絞り込みたいので、この二つの項目を検索条件として定義します。また、IP アドレスの範囲を指定して絞り込めるように、IP アドレスを検索条件として定義します。

(4) 操作画面でのユーザレポートの作成手順

決定した各クラスの結合方法および検索条件を操作画面で定義して、利用 IP アドレスを検索するユーザレポートを作成します。

操作画面での作成手順を次に示します。

1. 業務メニューで「ユーザレポート作成」を選択する。

ユーザレポート作成画面が表示されます。

2. [新規登録] ボタンをクリックする。

検索方法を選択する画面に切り換わります。

3. [複数のクラスを結合して検索] を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。

検索条件を定義する画面に切り換わります。

4. 各クラスの結合方法を定義する。

クラス同士の結合方法を一つずつ定義していきます。クラスの結合方法の指定領域を追加する場合は、[追加] ボタンをクリックします。

クラス結合方法の定義例を次の図に示します。

図 9-33 クラス結合方法の定義例

クラス結合方法を選択してください。
複数結合する場合は「追加」ボタンより行ってください。

アソシエーション		資産情報とネットワーク情報		順序
結合元クラス	資産情報	キープロパティ	資産ID	
結合先クラス	ネットワーク情報	キープロパティ	資産ID	
結合タイプ	INNER	削除		
アソシエーション		資産情報とハードウェア資産情報		順序
結合元クラス	資産情報	キープロパティ	資産ID	
結合先クラス	ハードウェア資産情報	キープロパティ	資産ID	
結合タイプ	OUTER	削除		
クラス指定		移管履歴情報リスト		
結合元クラス	資産情報	キープロパティ	ユーザID	キー追加 キー削除
結合先クラス	ユーザ管理情報	キープロパティ	ユーザID	キー追加 キー削除
結合タイプ	OUTER	削除		
クラス指定		移管履歴情報リスト		
結合元クラス	資産情報	キープロパティ	部署ID	キー追加 キー削除
結合先クラス	部署情報	キープロパティ	部署ID	キー追加 キー削除
結合タイプ	OUTER	削除		
クラス指定		移管履歴情報リスト		
結合元クラス	資産情報	キープロパティ	設置場所ID	キー追加 キー削除
結合先クラス	設置場所情報	キープロパティ	設置場所ID	キー追加 キー削除
結合タイプ	OUTER	追加 削除		

「NetworkInfo」と「AssetInfo」のクラス結合方法を定義する

クラス結合方法で「アソシエーションクラス」を選択したあと、「資産情報とネットワーク情報」を選択します。「結合タイプ」は「INNER」を選択します。

「AssetInfo」と「HardwareInfo」のクラス結合方法を定義する

クラス結合方法で「アソシエーションクラス」を選択したあと、「資産情報とハードウェア資産情報」を選択します。「結合タイプ」は「OUTER」を選択します。

「AssetInfo」と「UserInfo」のクラス結合方法を定義する

クラス結合方法で「クラス指定」を選択して、次のように指定します。

結合元クラス：「資産情報」、キープロパティ：「ユーザID」

結合先クラス：「ユーザ管理情報」、キープロパティ：「ユーザID」

結合タイプ：「OUTER」

「AssetInfo」と「GroupInfo」のクラス結合方法を定義する

クラス結合方法で「クラス指定」を選択して、次のように指定します。

結合元クラス：「資産情報」、キープロパティ：「部署ID」

結合先クラス：「部署情報」、キープロパティ：「部署ID」

結合タイプ：「OUTER」

「AssetInfo」と「LocationInfo」のクラス結合方法を定義する

クラス結合方法で「クラス指定」を選択して、次のように指定します。

結合元クラス：「資産情報」、キープロパティ：「設置場所ID」

結合先クラス：「設置場所情報」、キープロパティ：「設置場所ID」

結合タイプ：「OUTER」

5. 検索条件を定義する。

「画面」タブでの指定方法を次の図に示します。

図 9-34 「画面」タブでの指定方法

条件欄表示	カラム	条件式	値	条件
<input checked="" type="checkbox"/>	部署情報.部署	LIKE		AND
<input checked="" type="checkbox"/>	設置場所情報.設置場所	LIKE		AND
<input checked="" type="checkbox"/>	ネットワーク情報.IPアドレス	>=		AND
<input checked="" type="checkbox"/>	ネットワーク情報.IPアドレス	<=		AND

操作画面に表示する検索条件は、チェックボックスをチェックします。

検索条件に「部署」または「設置場所」を定義する場合は、「条件式」は指定する必要はありません。必ず前方一致で検索されます。

「コマンド引数」タブでの指定方法を次の図に示します。

図 9-35 「コマンド引数」タブでの指定方法

カラム	条件式	変数名	条件
部署情報.部署	LIKE	Group	AND
設置場所情報.設置場所	LIKE	Location	AND
ネットワーク情報.IPアドレス	>=	StartIPAddress	AND
ネットワーク情報.IPアドレス	<=	EndIPAddress	AND

6. 出力項目を指定する。

次の出力項目を指定します。

- 「ネットワーク情報」の「IP アドレス」
- 「資産情報」の「資産番号」

検索結果の一覧から詳細情報をダイアログで表示するかどうかを、「詳細表示する」または「詳細表示しない」から選択します。

- 「ハードウェア資産情報」の「名称」
- 「ハードウェア資産情報」の「機器種別」

種別を表すコード（値）と表示名を表示するかどうかを、「機器種別 [表示名]」、「機器種別 [値]」および「機器種別 [両方]」の中から選択します。

- 「ユーザ管理情報」の「ユーザ名」
- 「部署情報」の「部署」
- 「設置場所情報」の「設置場所」

7. 出力項目の並び順と表示幅を指定する。

「画面表示情報」欄で、出力項目の並び順と表示幅を指定します。

出力項目の並び順の例を次の図に示します。

図 9-36 出力項目の並び順の例

IPアドレス	資産番号	名称	機器種別	ユーザ名	部署	設置場所
--------	------	----	------	------	----	------

8. 「検索結果に重複データを含まないで出力」を選択する。

9. [プレビュー] ボタンをクリックする。

指定した内容を確認して、プレビュー画面を閉じます。

10. [次へ] ボタンをクリックする。

ユーザレポートの登録画面に切り換わります。

11. ユーザレポートを追加するカテゴリを選択する。

ツリーから「機器管理」を選択します。

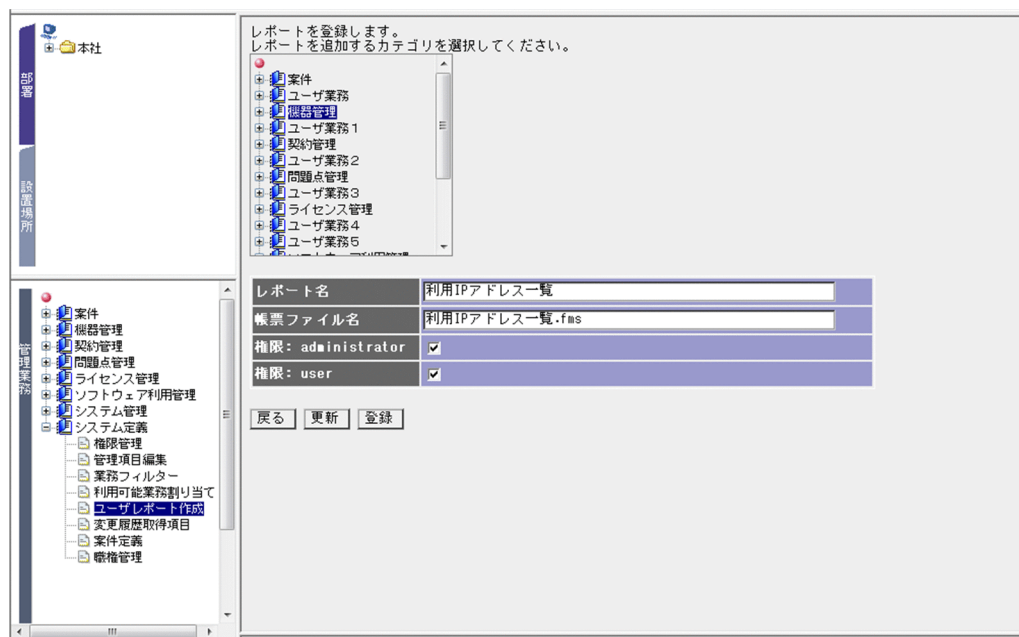
12. ユーザレポートの「レポート名」、「帳票ファイル名」およびユーザレポートを使用できるユーザ権限を設定する。

各項目を次のように指定してください。

- レポート名：「利用 IP アドレス一覧」を指定する。
- 帳票ファイル名：EUR で作成した帳票ファイル名（拡張子「.fms」）を指定する。
ここで指定する帳票ファイルは、必ず<Asset Console のインストール先フォルダ>\%eur に格納してください。
- 権限：「権限：administrator」および「権限：user」の両方のチェックボックスにチェックする。

項目を指定したユーザレポートの登録画面を次の図に示します。

図 9-37 ユーザレポートの登録画面



13. [登録] ボタンをクリックする。

利用 IP アドレスを検索するユーザレポートが作成されます。

9.5.13 ユーザレポートの実行例

「9.5.12 ユーザレポートの作成例」で作成したユーザレポートを、操作画面およびコマンドラインから実行する方法を説明します。

(1) 操作画面からの実行例

「機器管理」以下の業務メニュー「利用 IP アドレス一覧」を選択して、作成したユーザレポートの画面を表示します。

作成したユーザレポートの画面を次の図に示します。

図 9-38 利用 IP アドレスを検索するユーザレポート画面

必要に応じて検索条件を指定して、[検索] ボタンをクリックすると、利用されている IP アドレスの一覧が表示されます。ここでは、営業 1 課の 10.XXX.XX.200～10.XXX.XX.210 の IP アドレスを利用している機器の検索結果が表示されています。

検索結果の各項目のタイトルをクリックすると、一覧を昇順または降順にソートできます。

検索結果のダウンロード

[CSV] ボタンをクリックすると、検索結果の一覧に表示された情報を CSV ファイルとしてダウンロードできます。

検索結果の出力

[PDF] ボタンをクリックすると、検索結果の一覧に表示された情報を PDF 形式の帳票として出力できます。ただし、PDF 形式で帳票を出力するには、EUR と連携している必要があります。EUR との連携に必要な設定については、「5.3 資産管理サーバの設定」を参照してください。

詳細情報の表示および編集

「資産番号」のアンカーをクリックすると、[機器詳細] ダイアログが表示されて、機器の詳細情報を参照および編集できます。

(2) コマンドラインからの実行例

ユーザレポート「利用 IP アドレス一覧」の検索を、Administrators 権限を持つユーザでコマンドラインから実行して、C:¥Machine.csv に出力する例を次に示します。

- 検索条件を指定しない場合

```
jamUserReport -n "利用IPアドレス一覧" -pf "C:¥Machine.csv"
```

- 検索条件に、部署と IP アドレスの範囲「10.XXX.XX.200～10.XXX.XX.210」を指定する場合

```
jamUserReport -n "利用IPアドレス一覧" -cv "Group=本社/営業部/営業1課"  
-cv "StartIPAddress=10.XXX.XX.200" -cv "EndIPAddress=10.XXX.XX.210"  
-pf "C:¥Machine.csv"
```


9.6 変更履歴として取得する項目の選択（変更履歴取得項目）

管理する目的に合わせて、機器の変更履歴として取得する項目を選択できます。

機器の変更履歴は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を登録する際に取得されます。そのため、機器の変更履歴を管理するには、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager との連携が必要です。

変更履歴として取得する項目の選択は、業務メニュー「変更履歴取得項目」をクリックすると表示される変更履歴取得項目画面から変更できます。変更履歴取得項目画面を次の図に示します。

図 9-39 変更履歴取得項目画面



機器の変更履歴として取得できる項目が一覧で表示されます。ハードウェア資産情報の固有情報を使用して機器の情報を管理している場合、固有情報の変更履歴も取得できます。ここでの設定に合わせて取得された変更履歴は、「機器管理」以下の業務メニュー「変更履歴」、および【機器詳細】ダイアログの「変更履歴」タブで参照できます。

変更履歴を取得したい項目は、「取得」のチェックボックスをチェックして【更新】ボタンをクリックしてください。

変更履歴として取得しない項目は、「取得」のチェックボックスのチェックを外して【更新】ボタンをクリックしてください。

機器の変更履歴のメール通知

変更履歴を取得した場合、変更があった機器の台数を資産管理者にメールで通知させることができます。変更があった機器の台数をメールで通知する方法については、「[5.9.8 機器の情報の変更通知](#)」を参照してください。

注意事項

- 業務メニュー「管理項目編集」で、変更履歴として取得できる項目を非表示に設定すると、変更履歴は取得されません。また、この画面にも表示されなくなります。
- 「ネットワーク情報.IP アドレス」または「ネットワーク情報.MAC アドレス」の項目の変更履歴を取得する場合、DHCP 運用の機器の変更履歴が大量に取得されるおそれがあります。DHCP 運用時に IP アドレスおよび MAC アドレスの変更履歴を取得するかどうかは、[サーバセットアップ] ダイアログで選択できます。IP アドレスおよび MAC アドレスの変更履歴を取得する設定については、「[5.3.4\(13\) DHCP アドレスの変更履歴の取得](#)」を参照してください。
- 「ネットワーク情報.IP アドレス」または「ネットワーク情報.MAC アドレス」の項目の変更履歴を取得する場合、IP アドレスおよび MAC アドレスの変更履歴は、MAC アドレスの値をキーにして取得されます。そのため、変更履歴として MAC アドレスを取得しない設定にすると、IP アドレスに変更がないときも変更履歴が取得されることがあります。

10

案件の定義

この章では、案件を使用した資産管理業務を実行するために、案件を定義する方法について説明します。まず、案件定義の作業の概要を示したあと、職権および案件のそれぞれの定義方法について説明します。

また、案件を定義する際のポイントを FAQ で示します。

10.1 案件定義の概要

案件を使用して資産管理業務を実行するために、業務内容に合わせて案件を定義します。

案件の定義は、業務メニュー「案件定義」をクリックすると表示される案件定義画面から実行します。案件定義画面を次の図に示します。

図 10-1 案件定義画面



案件定義画面には、定義済みで運用中の案件、または作成途中で保存されている案件の一覧が表示されます。

ここから、新規に案件を定義したり、登録されている案件を変更したりします。

デフォルトでは、Asset Console がサンプルで提供している案件が登録されています。「案件名」のアンカーをクリックすると、各案件の定義内容を変更できます。

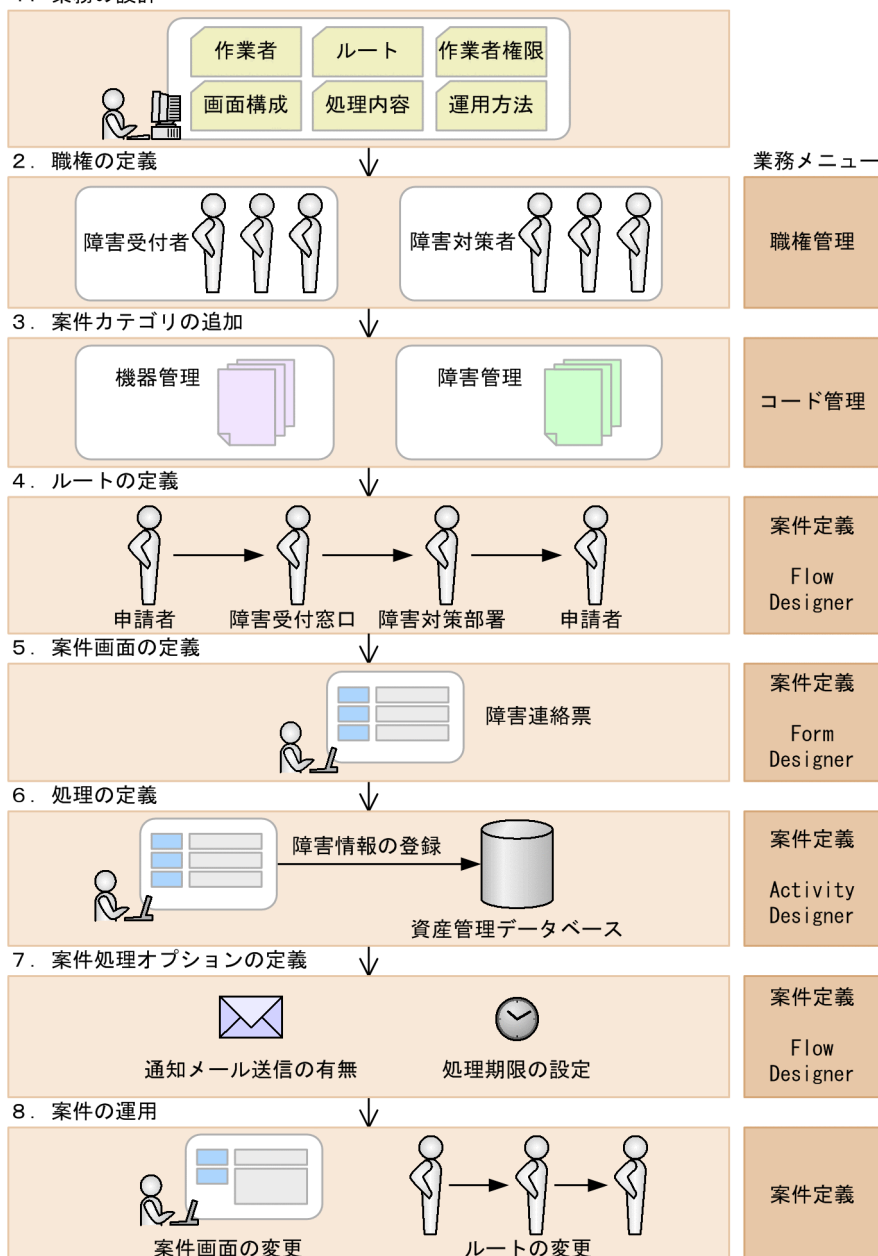
類似する案件を新規に定義する場合は、サンプルの案件をコピーすると、効率良く作業できます。既存の案件を利用して案件を定義する手順については、「[10.7 登録された案件を変更する](#)」を参照してください。

10.1.1 定義する項目と流れ

案件を定義するために必要な作業の項目とその流れについて説明します。

図 10-2 案件定義の流れ

1. 業務の設計



1. 業務の設計

案件を使用してどのような業務を実行するかを、詳細に検討します。業務を設計する際に必要な検討内容としては、関係する部署または人（これを作業者と呼びます）、それぞれの資産管理作業の範囲、ルート、作業者の権限、申請・通知情報、画面構成、資産管理データベースへの情報を反映するタイミングと処理内容、および既存業務からの移行や周知徹底を含めたスケジュールです。

業務の設計時に検討する内容の詳細については、「[10.1.2 案件を使用した業務を設計する](#)」を参照してください。

2. 職権の定義

承認などの処理権限を持ったユーザが実行する作業に、その作業を実行する権限を定義して、対象となるユーザを登録します。また、実行する権限のほかに、最新の案件内容を参照できる権限を定義して、

対象となるユーザを登録します。職権は、案件を定義する前に業務メニュー「職権管理」で定義しておきます。職権を定義する方法は、「[10.2 案件を処理する権限を定義する（職権管理）](#)」を参照してください。

3. 案件カテゴリの追加

案件は任意のカテゴリに属していて、新規案件を選択する画面（新規案件画面）では、案件は案件カテゴリごとのタブに分かれて表示されます。

新たに案件カテゴリを追加する必要がある場合、案件を定義する前に業務メニュー「コード管理」でカテゴリを追加しておきます。案件カテゴリを追加する方法は、マニュアル「運用ガイド」の「[4.8.1 コードを追加する](#)」を参照してください。

4. ルートの定義

作業者と処理を配置して、案件のルートを定義します。案件の定義では、ルートを定義してから、ルート上の作業者と処理に対して詳細を設定していきます。

案件のルートは、案件定義画面から表示する Flow Designer で定義します。ルートの定義方法については、「[10.3 ルートを定義する（Flow Designer）](#)」を参照してください。

5. 案件画面の定義

作業者が操作する案件の画面を定義します。案件画面は、ルート上の作業者ごとに、扱う入力情報や処理内容に応じて定義します。

案件画面は、Flow Designer から表示する Form Designer で定義します。案件画面の定義方法については、「[10.4 案件画面を定義する（Form Designer）](#)」を参照してください。

6. 処理の定義

案件画面の内容を、資産管理データベースに反映する方法を定義します。案件を次の作業者に送信するだけであれば、定義は必要ありません。処理の定義が必要となるのは、案件を次の作業者に送信するタイミングで、資産管理データベースのデータを登録・更新する場合だけです。例えば、申請内容を承認依頼して、最終承認のあとに登録するような案件の場合は、処理の定義が必要となるのは、最終承認の処理だけです。

処理は、Flow Designer から表示する Activity Designer で定義します。処理の定義方法については、「[10.5 各管理ノードの作業を定義する（Activity Designer）](#)」を参照してください。

7. 案件処理オプションの定義

ルート上の作業者や処理の詳細を定義したら、最後に、案件に対するオプションを定義します。案件処理オプションには、案件を次の作業者に送信する際に、次の作業者にメールで通知するかどうかと、案件に処理期限を設定するかどうかを定義します。この案件処理オプションは、必要に応じて定義してください。

案件処理オプションは、Flow Designer で定義します。案件処理オプションの定義方法については、「[10.6 案件処理オプションを設定する（Flow Designer）](#)」を参照してください。

8. 案件の運用

案件を実際に運用していくうちに、業務内容に変更が発生し、最初に定義した内容を変更する必要があることがあります。

一度公開した案件の定義内容を変更するには、該当する案件をコピーして、新たに案件を登録し直します。

新しい案件を公開し、それまで運用していた案件を公開停止にすることで、案件のバージョンを移行できます。

登録した案件を変更する方法については、「[10.7 登録された案件を変更する](#)」を参照してください。

10.1.2 案件を使用した業務を設計する

案件を使用して、どのような業務を実行するかを設計します。業務を設計する際に必要な項目を次に示します。

- **関係する部署または人（作業）と資産管理作業の範囲**

業務に関係する部署または人（作業）を決定します。また、関係する各作業に対して、作業の範囲を明確にします。

- **ルート**

業務内容を決めたら、その業務を実行するために必要な作業とその順番を決めて、案件のルートを検討します。

- **作業者の権限**

ルートの中で、「承認」のように処理を実行する作業者を限定したいものがあるかどうかを検討します。

- **申請・通知情報**

案件を使用して申請する内容や、通知する情報を検討します。ただし、案件から実行できる処理は、あらかじめ決まっています。案件から実行できる処理の種類については、「[10.5.2 実行タスクを選択する](#)」を参照してください。

- **画面構成**

ルートが決定したら、ルート上の各作業者が処理する画面の構成を検討します。画面上に配置する設定項目やボタンを決定し、画面から実行できる処理を明確にします。

- **資産管理データベースへの情報を反映するタイミングと処理内容**

画面の構成と併せて、処理内容を検討します。案件からの処理は、あらかじめ選択できる種類が決まっています。処理の内容と併せて、処理を複数の対象に実行するかどうか、複数の対象に実行する場合はどの値を基に実行するか、なども検討します。

また、案件のルートの中で、どのタイミングで情報を登録または更新するかについても検討します。

- **既存業務からの移行や周知徹底を含めたスケジュール**

運用を開始したあとで、ルートや作業者に変更が生じた場合など、いったん運用を開始した案件業務を移行するに当たって、移行期間の見積もりや、利用者への周知徹底方法などを検討します。

10.1.3 定義時の注意事項

案件を定義する際は、次の点に注意してください。

- 案件のルートは、ある作業者から特定の条件で送信先が分かれるようなルート（分岐）は定義できません。
- 案件画面を編集したら、タスクを定義したアクティビティを、必ず登録し直してください。タスクを変更する必要がない場合でも、そのままの内容で登録してください。これは、Activity Designer で定義している項目が、Form Designer で変更されることで、案件が正しく実行されなくなることを防ぐためです。
- 同一のユーザで複数のブラウザから Asset Console に対してログインした上で同一の案件を編集すると、案件に不具合が発生することがあります。案件の作成・編集は必ず単一のブラウザで実施してください。

10.2 案件を処理する権限を定義する（職権管理）

資産管理システムにログインするユーザ権限とは別に、案件を実行する権限（職権）を定義します。案件を定義する際は、あらかじめ登録されている職権の中から割り当てるため、案件を定義する前に職権を定義しておく必要があります。

職権は、案件の定義とは別に、独立した権限グループとして定義します。したがって、同じ職権を複数の案件の管理ノードに割り当てることができます。また、人事異動などで職権の対象ユーザが変更になっても、案件の定義内容には影響しません。

職権は、業務メニュー「職権管理」を選択すると表示される職権管理画面で定義します。

職権管理画面を次の図に示します。

図 10-3 職権管理画面



定義されている職権が一覧で表示されます。「職権 ID」のアンカーをクリックすると、各職権の詳細を表示できます。

10.2.1 新しく職権を追加する

新しく職権を追加する手順を次に示します。

1. 職権管理画面で、[新規作成] ボタンをクリックする。

[新規職権登録] ダイアログが表示されます。

• 職権 ID

各職権にユニークな ID を指定します。この項目は必ず指定してください。

- 職権名

職権の名称を指定します。省略すると、「職権 ID」と同じ名称になります。

- 説明

必要に応じて、登録する職権に対する説明を入力します。

キャンセルする場合は［閉じる］ボタンをクリックしてください。

2. [登録] ボタンをクリックする。

指定した内容で職権が登録されて、[新規職権登録] ダイアログが閉じます。

各項目を指定した状態の [新規職権登録] ダイアログを次の図に示します。

図 10-4 [新規職権登録] ダイアログ

10.2.2 職権の内容を変更する

すでに登録してある職権の名称や対象ユーザを登録、変更して、職権の内容を変更する手順を説明します。

(1) 職権名を変更する

職権名を変更する手順を次に示します。

1. 職権管理画面で、変更したい職権の「職権 ID」のアンカーをクリックする。

［職権詳細］ダイアログが表示されます。

キャンセルするには、［閉じる］ボタンをクリックしてください。

2. 「職権」タブで「職権名」を変更して、［更新］ボタンをクリックする。

指定した内容で職権名が変更されます。

(2) 対象ユーザを登録および変更する

職権の対象ユーザを登録および変更する手順を次に示します。

1. 職権管理画面で、該当する職権の「職権 ID」のアンカーをクリックする。

［職権詳細］ダイアログが表示されます。

2. 「対象ユーザ」 タブをクリックする。

対象に登録されているユーザが表示されます。

- 対象から解除する場合

解除したいユーザのチェックボックスをチェックして、[削除] ボタンをクリックします。

キャンセルするには、[閉じる] ボタンをクリックしてください。

3. [追加] ボタンをクリックする。

[ユーザ検索] ダイアログが表示されます。

4. 必要に応じて検索条件を指定して、[検索] ボタンをクリックする。

一覧に、条件に一致するユーザが検索されます。

「職権保有ユーザ」の項目では、すでにほかの職権の対象となっているユーザを検索対象に含めるかどうかを指定します。デフォルトでは、「職権保有ユーザを含める」が指定されています。

5. 対象に追加したいユーザのチェックボックスをチェックして、[決定] ボタンをクリックする。

デフォルトで作成されるユーザ ID 「admin」、「JP1_IM」、「JP1_IM_SS」のユーザは、職権の対象には追加できません。

6. [閉じる] ボタンをクリックする。

[ユーザ検索] ダイアログが閉じて、対象ユーザが追加されます。

[職権詳細] ダイアログで、対象ユーザを追加する流れを次の図に示します。

図 10-5 対象ユーザを追加する流れ

職権詳細 RecognitionPerson -- Web ページ ダイアログ

タブ: 職権 | 対象ユーザ

ユーザID	ユーザ名	部署	役職名	権限名
<input type="checkbox"/> user5	営業太郎	本社/営業部/営業 1 課	担当	利用者

追加 削除 全選択 全解除 閉じる

http://asset01/jp1asset/70009300.htm イン트라ネット

ユーザ検索 -- Web ページ ダイアログ

検索

表示件数: 10

部署: 本社/資産管理部 参照

ユーザID:

ユーザ名: を含む

役職名: を含む

権限名: 管理者

電話番号: を含む

メールアドレス: を含む

説明: を含む

職権保有ユーザ: 職権保有ユーザを含める

1件中 1~1件目

ユーザID	ユーザ名	部署	役職名
<input type="checkbox"/> user1	資産太郎	本社/資産管理部	部長

決定 全選択 全解除 閉じる

http://asset01/jp1asset/70009400.htm イン트라ネット

10.2.3 職権を削除する

職権を削除するには、職権管理画面で削除したい職権のチェックボックスをチェックして、[削除] ボタンをクリックします。ただし、対象ユーザが登録されている場合、または公開の案件で使用されている場合は削除できません。

また、職権「案件監査者」(Incident_Auditor) を削除することはできません。

10.3 ルートを定義する (Flow Designer)

この節では、案件のルートを定義する方法について説明します。

案件のルートは、案件定義画面から表示する Flow Designer で定義します。Flow Designer でのルートの定義は、案件を定義するためのベースとなります。

Flow Designer の表示方法には、次の 2 種類の方法があります。

- **【新規】 ボタンをクリックする。**

何もない状態から新たに定義する方法です。案件名を指定するダイアログで案件名を指定すると、管理ノードが一つだけ定義された状態の Flow Designer が表示されます。

- **「案件名」のアンカーをクリックする。**

定義途中の案件を編集するか、または定義済み案件の設定内容を参照する方法です。

定義済みの案件を流用して定義するには、コピーを作成してから「案件名」のアンカーをクリックします。

Flow Designer は、案件の状態によって、編集可能な状態で表示されるかどうか異なります。状態が「作成中」の案件は編集可能な状態で表示されますが、状態が「公開」または「公開停止」の案件は、定義内容を参照するだけで編集はできません。

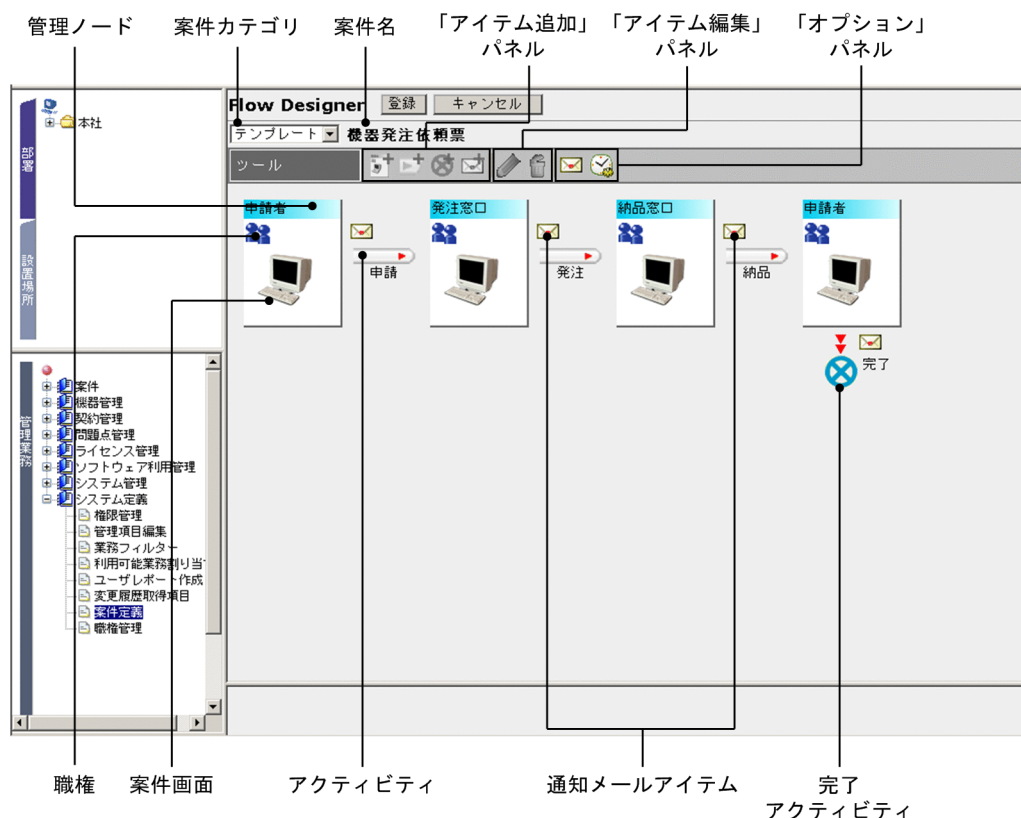
また、ほかのユーザが編集中の案件は、Flow Designer を表示できません。

10.3.1 Flow Designer の各部の名称と使い方

ここでは、Flow Designer の各部の名称および使い方について説明します。

Flow Designer を次の図に示します。

図 10-6 Flow Designer



Flow Designer に配置する管理ノードやアクティビティは、「ツール」のボタンを使用して追加します。ボタンは、Flow Designer 上で選択している対象に応じて、使用できるときだけ活性化します。

「ツール」の各ボタンについて、パネルごとに説明します。

「アイテム追加」パネル

: 管理ノード追加

Flow Designer で選択している管理ノードの右側に、管理ノードを追加します。案件のルート上に定義できる管理ノードは、20 個までです。

: アクティビティ追加

Flow Designer で選択している管理ノードに、アクティビティを追加します。

: 完了アクティビティ追加

Flow Designer で選択している管理ノードに、案件を完了させる完了アクティビティを追加します。

: 通知メール追加

Flow Designer で選択しているアクティビティに、各作業者に案件が到着したことを通知する通知メールを追加します。

「アイテム編集」パネル

: 編集

Flow Designer で選択しているアクティビティ、案件画面アイコン、職権アイコン、通知メールの定義内容を編集します。

また、管理ノードの名称も変更できます。

: 削除

Flow Designer で選択している管理ノードおよびアクティビティを削除します。ただし、左端の管理ノードは削除できません。

Flow Designer で選択した管理ノードにアクティビティが定義してある場合、管理ノードを削除すると、アクティビティも一緒に削除されます。

「オプション」パネル

: メール編集

定義中の案件で、各作業者に案件が到着したことを通知するメールの、タイトルや文面を定義します。通知メールは、必要に応じて設定してください。

このボタンは、Flow Designer で何も選択していないときに選択できます。

: 処理期限設定

案件を最初の作業者が送信してから完了するまでの処理期限を設定します。処理期限は必要に応じて設定してください。処理期限を設定すると、期限を過ぎた案件は、受信トレイおよび送信トレイに赤字で表示されます。このボタンは、Flow Designer で何も選択していないときに選択できます。

10.3.2 作業や処理を配置する

ここでは、Flow Designer で案件の作業や処理を配置して、ルートを定義する方法について説明します。

案件の定義は、Flow Designer で定義した作業や処理の配置を基に、画面や資産管理データベースへの処理内容などを定義していきます。そのため、詳細な定義をしない状態で、まずは案件のルートを確定させると、案件の定義をスムーズに進められます。

ここでは、[新規] ボタンをクリックして表示される Flow Designer から、サンプルで提供している「機器導入依頼票」と同じルートを定義する場合を例に、作業や処理を配置する手順を次に示します。

1. 案件カテゴリを選択する。

デフォルトでは、「テンプレート」というカテゴリだけが用意されています。追加する場合は、コード編集画面で「Others (いずれにも所属しないコード)」の「MatterCategory」にコードを追加します。コードの追加方法については、マニュアル「運用ガイド」の「4.8.1 コードを追加する」を参照してください。

2. 「申請者」の管理ノードの管理ノード名の欄を選択して、[管理ノード追加] ボタンをクリックする。
管理ノードの名称を指定するダイアログが表示されます。
3. 管理ノード名に「承認者」と指定して、[OK] ボタンをクリックする。
ダイアログが閉じて、「申請者」の管理ノードの右側に、「承認者」の管理ノードが追加されます。
続けて、追加された管理ノードの管理ノード名の欄を選択して手順 2.と手順 3.を繰り返し、「受付窓口」、「配布管理部署」、「申請者」の管理ノードを追加します。
4. 左端の「申請者」の管理ノードを選択して、[アクティビティ追加] ボタンをクリックする。
アクティビティの名称を指定するダイアログが表示されます。
5. アクティビティ名に「申請」と指定して、[OK] ボタンをクリックする。
ダイアログが閉じて、「申請者」の管理ノードの右側に、「申請」のアクティビティが追加されます。
続けて、「承認者」、「受付窓口」、「配布管理部署」の管理ノードを選択して手順 4.と手順 5.を繰り返し、「承認」、「配布依頼」、「配布」のアクティビティを追加します。
6. 右端の「申請者」の管理ノードを選択して、[完了アクティビティ追加] ボタンをクリックする。
完了アクティビティの名称を指定するダイアログが表示されます。
7. 完了アクティビティ名に「完了」と指定して、[OK] ボタンをクリックする。
ダイアログが閉じて、右端の「申請者」の管理ノードの下に、完了アクティビティが追加されます。
完了アクティビティは、案件を終了するためのアクティビティです。ルートの途中で終了させる場合は、ルートの途中に追加できます。

以上で、案件のルートが定義できました。ここまでの定義内容を保存する場合は、[登録] ボタンをクリックしてください。

各管理ノードの処理を実行するユーザの職権、案件画面およびアクティビティの詳細を設定するには、設定したいアイコンを選択して、「ツール」の[編集] ボタンをクリックします。

職権の設定方法については「[10.3.3 管理ノードに職権を設定する](#)」、案件画面の定義方法については「[10.4 案件画面を定義する \(Form Designer\)](#)」、アクティビティの定義方法については「[10.5 各管理ノードの作業を定義する \(Activity Designer\)](#)」を参照してください。

10.3.3 管理ノードに職権を設定する


ここでは、「承認者」や「受付窓口」など、作業を実行する権限を持ったユーザだけが作業を実行できるように、管理ノードに対して職権を設定する方法について説明します。

職権は、あらかじめ定義しておいた中から選択します。職権を定義する方法については、「[10.2 案件を処理する権限を定義する \(職権管理\)](#)」を参照してください。

注意事項

職権「案件監査者」(Incident_Auditor) は、案件の管理ノードに割り当てられません。

Flow Designer で、管理ノードに職権を設定する手順を次に示します。

1. 職権を設定する管理ノードの「職権」アイコン () を選択して、[編集] ボタンをクリックする。
[対象職権の定義] ダイアログが表示されます。
2. 「職権保有者」のラジオボタンを選択状態にして、対象とする職権のチェックボックスをチェックする。
3. [決定] ボタンをクリックする。
[対象職権の定義] ダイアログが閉じて、指定した職権が管理ノードに設定されます。

[対象職権の定義] ダイアログを次の図に示します。

図 10-7 「対象職権の定義」ダイアログ



最初に案件を投入したユーザに戻して案件を完了させる場合

「機器導入依頼票」のように、最初に案件を投入したユーザが結果を確認して案件を完了するルートの場合、案件の最後の管理ノードに対して「案件投入者」を設定します。

この項目を選択すると、その前の作業者が処理を終了する際に、[送信先の選択] ダイアログは表示されなくて、自動的に案件が投入者に送信されます。


なお、「案件投入者」のラジオボタンを選択状態にすると、「職権」のチェックボックスの指定は無効となります。

職権の設定を解除する場合

[対象職権の定義] ダイアログで、「職権保有者」のラジオボタンを選択状態にして、「職権」のチェックボックスのチェックをすべて外します。

10.4 案件画面を定義する (Form Designer)

この節では、案件を処理する際の各作業者の画面（案件画面）を、定義する方法について説明します。

案件を処理する際の各作業者の画面は、Form Designer で定義します。Form Designer は、Flow Designer で定義された管理ノードの「案件画面」アイコン（）を選択して、[編集] ボタンをクリックすると表示されます。

状態が「公開」または「公開停止」の案件を Flow Designer から表示した場合は、定義内容を編集できません。

案件画面を定義する順番

案件画面は、Flow Designer で定義した左端の管理ノードから定義します。左端の管理ノードの案件画面は、案件を作成する作業者の画面で、それ以外の管理ノードの案件画面を定義する際のテンプレートとなります。これによって、効率良く案件画面を定義できます。

左端の管理ノードの案件画面に定義した項目は、それ以降すべての管理ノードの案件画面に引き継がれますが、途中の管理ノードで項目を追加した場合は、それ以降の管理ノードには引き継がれません。

そのため、基本的に、左端の管理ノードの案件画面には、その案件で使用する項目をすべて定義しておきます。作業者によって必要ない場合は、その項目を非表示に設定しておくことができます。

注意事項

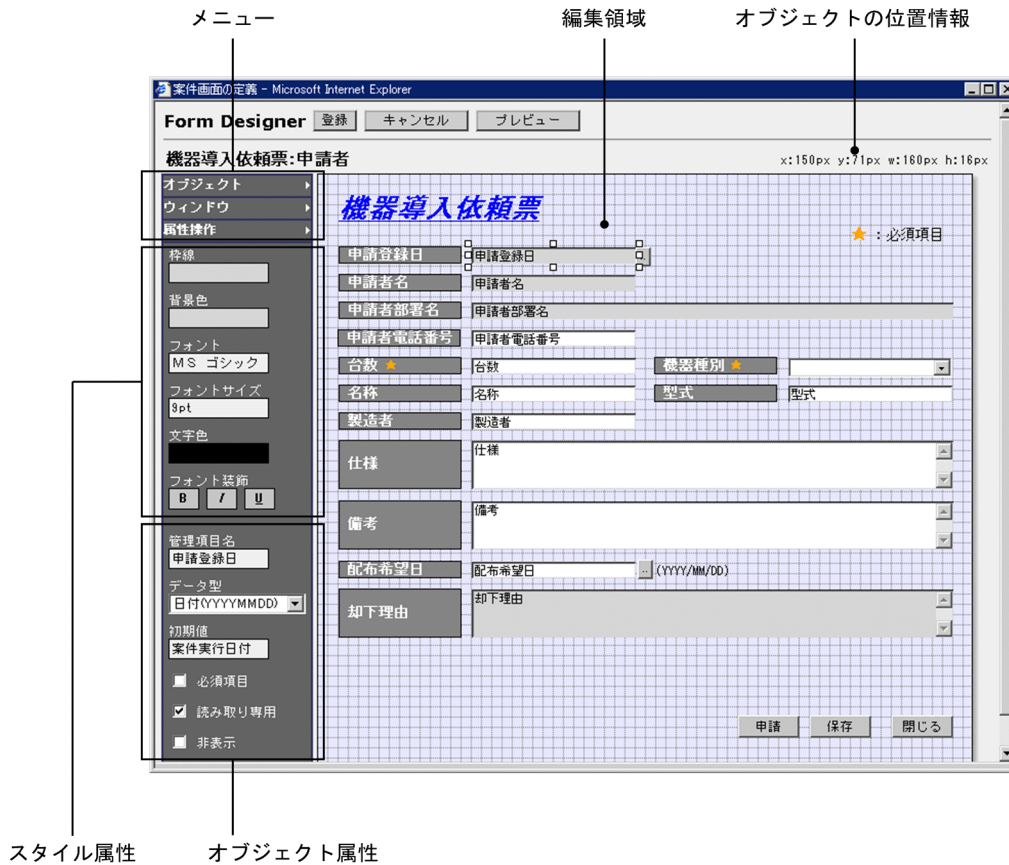
Form Designer を編集可能な状態で表示している間は、セッションは切断されません（[サーバセットアップ] ダイアログの「セッション情報」の「無通信監視時間」での設定が適用されません）。そのため、使用していない場合は、Form Designer を閉じてください。

10.4.1 Form Designer の各部の名称と使い方

ここでは、Form Designer の各部の名称および使い方について説明します。

Form Designer を次の図に示します。

図 10-8 Form Designer



Form Designer では、案件画面を構成する項目（オブジェクト）と案件画面（ウィンドウ）の属性を設定します。

・メニュー

「オブジェクト」メニューをクリックすると、オブジェクトの種類がカスケードメニューに表示されます。挿入したいオブジェクトを選択すると、オブジェクトが編集領域に挿入されます。

オブジェクトは、「オブジェクト」メニューでだけ挿入できます。Windows Internet Explorer のメニューでの貼り付けはできません。

「ウィンドウ」メニューをクリックすると、ウィンドウの属性を設定する項目がカスケードメニューに表示されます。

「属性操作」メニューをクリックすると、オブジェクトのスタイル属性をコピーおよび貼り付けするためのメニューが表示されます。編集領域で選択しているオブジェクトのスタイルをコピーし、別のオブジェクトにはり付けます。

・編集領域

実際に案件を使用するとき、案件画面として表示される領域です。大きさや背景色を「ウィンドウ」メニューで設定し、「オブジェクト」メニューから追加した各オブジェクトを配置して、スタイル属性やオブジェクト属性を設定します。

・オブジェクトの位置情報

編集領域で選択しているオブジェクトの位置情報が、ピクセル単位で表示されます。この位置情報を使用して、オブジェクトの位置をそろえることができます。

- **スタイル属性**

オブジェクトの色やフォントなどのスタイルを設定します。編集領域で選択しているオブジェクトに対して、設定できる項目だけが表示されます。

- **オブジェクト属性**

実際に案件を使用するときに、各オブジェクトに指定される内容に合わせて、データ型、最大値、最小値、初期値などを設定します。また、各作業者の処理内容に合わせて、必須項目や、画面上に表示するかどうかなども設定します。

編集領域で選択しているオブジェクトに対して、設定できる項目だけが表示されます。

10.4.2 ウィンドウを定義する

ここでは、Form Designer でウィンドウの属性を定義する方法について説明します。

案件画面のサイズ、背景色および背景画像を設定して、ウィンドウを定義します。各設定項目は、Form Designer の「ウィンドウ」メニューをクリックすると表示されます。

「ウィンドウ」メニューを次の図に示します。

図 10-9 「ウィンドウ」メニュー



(1) サイズ

幅と高さをそれぞれ次の値から選択します。単位はピクセルです。

- 「幅」

480、640、800、1,024、1,280

デフォルトは「640」です。

- 「高さ」

480、600、768、1,024

デフォルトは「480」です。

(2) 背景色

「背景色」に表示されている中から、設定したい色をクリックします。また、グラデーションを設定したい場合は、グラデーションのパターンをクリックします。

(3) 画像

背景に画像を設定する手順を次に示します。

1. 「画像設定」の「参照」ボタンをクリックする。

「ユーザライブラリ参照」ダイアログが表示されます。

設定する前にファイルの内容を参照するには、「表示」ボタンをクリックします。

キャンセルする場合は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

2. 設定したい画像ファイルの「名前」のアンカーをクリックして、「決定」ボタンをクリックする。

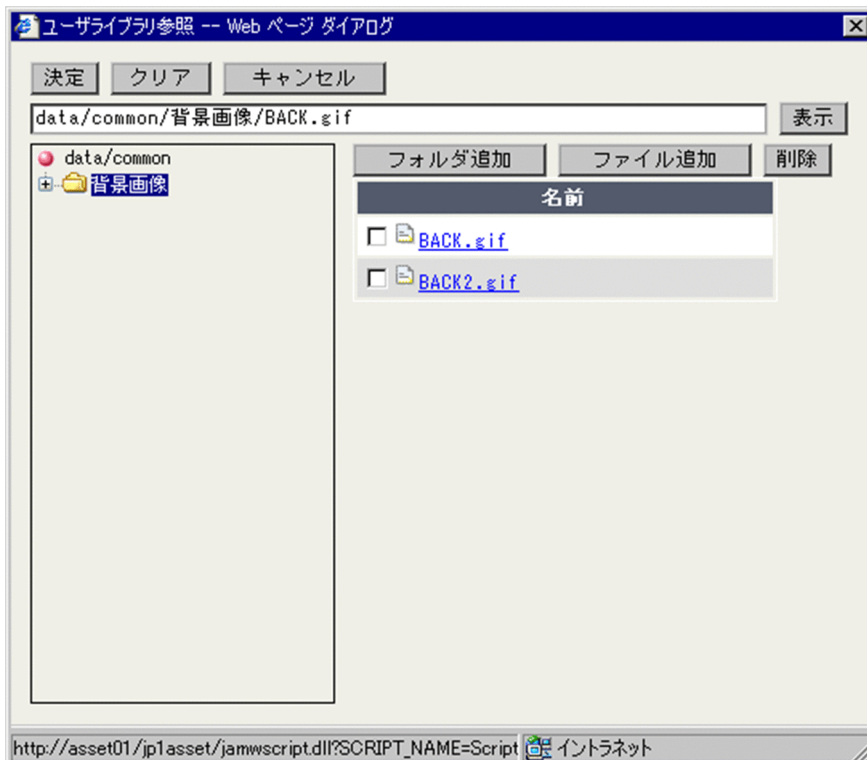
「ユーザライブラリ参照」ダイアログが閉じて、指定した画像が背景に設定されます。指定したファイルは、ウィンドウ全体に並べて表示されます。

一度指定した画像をクリアするには

一度指定した画像を、何も指定しない状態に戻すには、もう一度「画像設定」の「参照」ボタンをクリックして、表示された「ユーザライブラリ参照」ダイアログで、「クリア」ボタンをクリックします。

「ユーザライブラリ参照」ダイアログを次の図に示します。

図 10-10 「ユーザライブラリ参照」ダイアログ



ユーザライブラリは、案件で使用する画像を資産管理サーバにアップロードして、共通して使用するためのものです。Form Designer で案件画面に挿入したい画像は、ユーザライブラリに登録する必要があります。

ユーザライブラリにファイルを追加する手順を次に示します。

1. [ファイル追加] ボタンをクリックする。

[ファイル登録] ダイアログが表示されます。

- 「保存ファイル名」
ユーザライブラリに登録する際のファイル名を指定します。
- 「アップロードファイル名」
登録するファイルを指定します。

2. [決定] ボタンをクリックする。

[ファイル登録] ダイアログが閉じて、指定したファイルが追加されます。

なお、ユーザライブラリにフォルダを追加する場合は、[フォルダ追加] ボタンをクリックして、追加したいフォルダ名を指定します。

ユーザライブラリのフォルダおよびファイルを削除する場合は、削除したいフォルダまたはファイルのチェックボックスをチェックして、[削除] ボタンをクリックします。

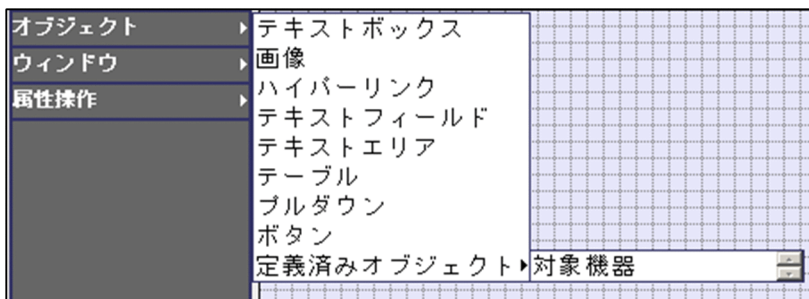
10.4.3 オブジェクトを挿入する

ここでは、Form Designer で案件画面を構成する項目（オブジェクト）を定義する方法について説明します。

オブジェクトは、Form Designer の「オブジェクト」メニューから選択して挿入します。

「オブジェクト」メニューを次の図に示します。

図 10-11 「オブジェクト」メニュー



挿入したオブジェクトを削除するには、編集領域で削除したいオブジェクトを選択して、[Delete] キーを押してください。

(1) 挿入できるオブジェクトの種類

挿入できるオブジェクトの種類を、次に示します。

- テキストボックス
- 画像
- ハイパーリンク
- テキストフィールド
- テキストエリア
- テーブル
- プルダウン
- ボタン
- 定義済みオブジェクト

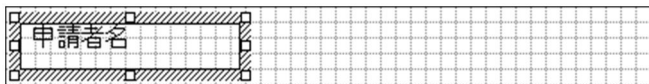
これ以降で、各オブジェクトの定義方法を説明します。

(a) テキストボックス

指定する項目の名称など、画面上に文字列を挿入します。

テキストボックスの例を次の図に示します。

図 10-12 テキストボックスの例



「オブジェクト」メニューから「テキストボックス」を選択すると、テキストボックスが編集領域に挿入されます。編集領域で、挿入されたテキストボックスに任意の文字列を指定します。

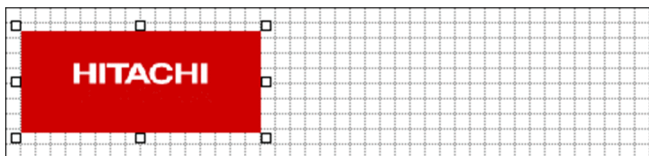
文字のスタイル（色やフォントの種類など）の設定方法については、「[\(2\) オブジェクトのスタイルを設定する](#)」を参照してください。

(b) 画像

会社のロゴやアイキャッチなど、画面上に画像を挿入します。

画像の例を次の図に示します。

図 10-13 画像の例



画像を挿入する手順を次に示します。

1. 「オブジェクト」メニューから「画像」を選択する。

[ユーザライブラリ参照] ダイアログが表示されます。

2. 「名前」のアンカーをクリックして、挿入したいファイルを選択し、[決定] ボタンをクリックする。

[ユーザライブラリ参照] ダイアログが閉じて、指定した画像が編集領域に挿入されます。挿入された画像に対して、位置や大きさを調整してください。

挿入した画像の順序の設定方法については、「(2) オブジェクトのスタイルを設定する」を参照してください。

また、[ユーザライブラリ参照] ダイアログでの操作方法については、「10.4.2(3) 画像」を参照してください。

(c) ハイパーリンク

ファイルを登録して、案件に添付ファイルを設定したり、特定のサイトを参照させたりできます。

ハイパーリンクの例を次の図に示します。

図 10-14 ハイパーリンクの例



「オブジェクト」メニューから「ハイパーリンク」を選択すると、ハイパーリンクが編集領域に挿入されます。編集領域で、挿入されたハイパーリンクに任意の文字列を指定します。文字のスタイル（色やフォントの種類など）の設定方法については、「(2) オブジェクトのスタイルを設定する」を参照してください。

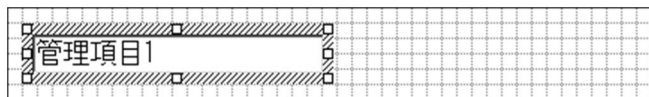
また、リンク先の URL の設定方法については、「(3)(g) URL」を参照してください。

(d) テキストフィールド、テキストエリア

案件画面で各作業者が入力する領域を挿入します。

テキストフィールドの例を次の図に示します。

図 10-15 テキストフィールドの例



「オブジェクト」メニューから「テキストフィールド」または「テキストエリア」を選択すると、編集領域にテキストフィールドまたはテキストエリアが挿入されます。編集領域で、必要に応じて大きさを変更してください。

テキストフィールドおよびテキストエリアに入力された値は、資産管理データベースに登録するため、併せてオブジェクト属性を設定する必要があります。

テキストフィールドおよびテキストエリアを挿入する際に必要なオブジェクト属性とその設定方法については、「(3) オブジェクト属性を設定する」を参照してください。

(e) テーブル

案件画面で各作業者が、複数の項目を入力する領域を挿入します。

テーブルの例を次に示します。

図 10-16 テーブルの例

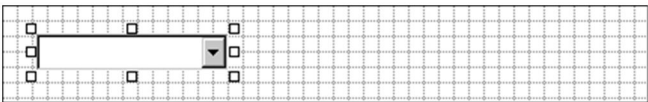
項目	項目	項目	項目	項目

(f) プルダウン

案件画面で各作業者が項目を選択する領域（プルダウン）を挿入します。

プルダウンの例を次の図に示します。

図 10-17 プルダウンの例



「オブジェクト」メニューから「プルダウン」を選択すると、編集領域にプルダウンが挿入されます。編集領域で、必要に応じて大きさを変更してください。

プルダウンで選択した値は、資産管理データベースに登録されるため、併せてオブジェクト属性を設定する必要があります。

「プルダウン」を挿入する際に必要なオブジェクト属性とその設定方法については、「(3) オブジェクト属性を設定する」を参照してください。

(g) ボタン

案件画面で処理を実行またはキャンセルするためのボタンを挿入します。

ボタンの例を次の図に示します。

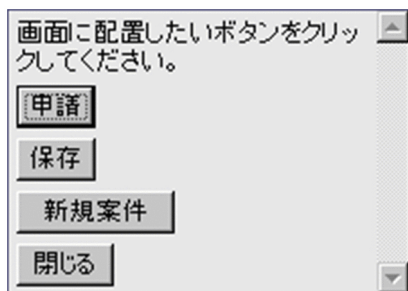
図 10-18 ボタンの例



「オブジェクト」メニューから「ボタン」を選択すると、挿入するボタンを選択する領域が表示されます。表示された中からボタンを選択すると、編集領域にボタンが挿入されます。

ボタンの選択領域を次の図に示します。

図 10-19 ボタンの選択領域



案件画面に挿入するボタンは、Flow Designer で定義したアクティビティを実行するためのボタンと、共通で使用できるボタン [完了]、[保存]、[却下]、[新規案件] および [閉じる] の 5 種類です。ただし、[完了] ボタンは完了アクティビティの直前の管理ノードでだけ使用できます。

アクティビティを実行するためのボタンは、クリックしたタイミングで資産管理データベースのデータを更新する処理を実行する場合、処理内容（アクティビティ）を Activity Designer で定義する必要があります。

内容を確認して次の作業者に送信するだけの場合や、共通で使用できるボタンは、アクティビティを定義する必要はありません。

挿入できるボタンの種類を次に示します。

- **アクティビティを実行するためのボタン**

Flow Designer で定義したアクティビティ名のボタンです。アクティビティ名とは別のボタン名にしたい場合は、編集領域に挿入したあとで変更できます。

- **[完了]**

案件を完了させます。

- **[保存]**

案件を次の作業者に送付しないで、送信トレイに保存します。

- **[却下]**

案件を却下して、一つ前の作業者、または最初の作業者に送付します。

- **[新規案件]**

別の案件を新規に作成するための案件画面を表示します。

- [閉じる]

案件画面を閉じます。

(h) 定義済みオブジェクト

同じ案件のほかの管理ノードで定義したオブジェクトを挿入します。Flow Designer で定義した案件のルートで、途中に位置する管理ノードの案件画面で定義した項目を、それ以降の管理ノードの案件画面に引き継ぐ場合に使用します。

例えば、途中の作業者が [参照] ボタンから機器を指定して次の作業者に送付した場合、次の作業者がどの機器を指定したのかを参照するためには、この「定義済みオブジェクト」でオブジェクトを挿入します。

「オブジェクト」メニューから「定義済みオブジェクト」を選択して、さらに挿入したいオブジェクトの管理項目名を選択すると、編集領域に選択したオブジェクトが挿入されます。挿入したオブジェクトに対しては、ほかのオブジェクトと同様に、スタイルやオブジェクトの属性を設定できます。

(2) オブジェクトのスタイルを設定する

「オブジェクト」メニューから挿入した各オブジェクトには、枠線や背景の色、フォントの種類などのスタイルを設定できます。

編集領域でオブジェクトを選択すると、選択したオブジェクトに対して設定できるスタイルが、スタイル属性の表示欄に表示されます。

スタイル属性の表示欄を次の図に示します。

図 10-20 スタイル属性の表示欄



設定したいスタイルの項目をクリックすると、設定できる色や値が表示されるので、該当するものを選択します。必要に応じて設定してください。

設定できるスタイルの種類とその値を次に示します。

- 「枠線」

設定されている色の領域をクリックして、「枠なし」または色をカラーパレットから選択します。

- 「背景色」

設定されている色の領域をクリックして、「透明」または色をカラーパレットから選択します。また、グラデーションを設定したい場合は、グラデーションのパターンをクリックします。

また、「プルダウン」のオブジェクトに対しては、グラデーションは設定できません。

- 「フォント」

設定されているフォントの領域をクリックして、フォントの種類を選択します。

- 「フォントサイズ」

設定されているフォントサイズの領域をクリックして、フォントサイズを選択します。指定できるサイズは、5～72pt です。

- 「文字色」

設定されている色の領域をクリックして、「Default」または色をカラーパレットから選択します。「Default」を選択すると、Web ブラウザの設定に従います。

- 「フォント装飾」

「B」（太字）、「I」（斜体）、「U」（下線）の中から選択します。

(a) スタイル属性のコピー

一つのオブジェクトに設定したスタイルの組み合わせを、ほかのオブジェクトにコピーできます。画面上の項目を同じスタイルで統一する場合、一つのオブジェクトに背景色やフォントを設定してスタイル属性をコピーし、ほかのオブジェクトにはり付けると、項目ごとにスタイルを設定する手間を省けます。

スタイルをコピーしてはり付ける手順を次に示します。

1. 編集領域でスタイルをコピーしたいオブジェクトを選択して、「属性操作」メニューから「属性コピー」をクリックする。
2. 編集領域でスタイルをはり付けたいオブジェクトを選択して、「属性操作」メニューから「属性貼り付け」をクリックする。

コピーしたスタイル属性とサイズが、編集領域で選択したオブジェクトにはり付けられます。

スタイルをはり付けたいオブジェクトは、複数選択できます。

(b) 表示順序の設定

編集領域に挿入したオブジェクトの表示順序を設定する手順を次に示します。

1. 編集領域で順序を変更したいオブジェクトを選択して、「属性操作」メニューから「最前面に移動」または「最背面に移動」をクリックする。

選択したオブジェクトが、最前面または最背面に移動します。

順序を変更したいオブジェクトは、複数選択できます。

なお、「プルダウン」のオブジェクトには、表示順序の設定はできません。

(3) オブジェクト属性を設定する

各オブジェクトに指定される内容に合わせたデータ型や、必須項目、画面上に表示するかどうかなどを定義します。

編集領域でオブジェクトを選択すると、選択したオブジェクトに対して設定できる属性が、オブジェクト属性の表示欄に表示されます。

設定したい属性の項目をクリックすると、設定できる値や設定値を入力するダイアログが表示されます。

また、「テーブル」オブジェクトの場合、[Table Designer] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、選択した「テーブル」オブジェクトの定義画面（Table Designer）が表示されます。Table Designer については、「[10.4.5 テーブルを定義する \(Table Designer\)](#)」を参照してください。

オブジェクトの種類と設定するオブジェクト属性の対応を、次の表に示します。

表 10-1 オブジェクトの種類とオブジェクト属性の対応

オブジェクトの種類	オブジェクト属性													
	管理項目名	データ型	データ最大長	最大値	最小値	初期値	参照範囲	コード	URL	必須項目	読み取り専用	非表示	実行案件	主題項目
テキストボックス	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
画像	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ハイパーリンク	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×
テキストフィールド	◎	◎	◎※1	◎※1	◎※1	○	○※1	×	×	○	○	○	×	○※1
テキストエリア	◎	◎	◎	×	×	○	×	×	×	○	○	○	×	○
テーブル	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×
プルダウン	◎	×	×	×	×	○	×	◎	×	○	○	○	×	×
ボタン	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○※2	×

(凡例)

- ◎：必ず設定する。
- ：設定できる。
- ×

注※1

指定するデータ型によっては、設定できない場合があります。詳細は、「[\(b\) データ型](#)」を参照してください。

注※2

〔新規案件〕 ボタンにだけ設定できます。

(a) 管理項目名

値を入力する項目（例えば、テキストフィールドなど）を案件画面に定義する場合、入力された値の管理項目名を設定します。

ここで設定する管理項目名は、案件を定義するために使用する情報で、ほかの業務メニューの管理項目とは異なります。そのため、クラスやプロパティを意識することなく、任意の名称を設定できます。

管理項目名を設定するには、編集領域でテキストフィールド、テキストエリア、またはプルダウンのオブジェクトを選択して、「管理項目名」の指定領域をクリックすると表示されるダイアログで、管理項目名を入力して [OK] ボタンをクリックします。

なお、テキストフィールドとテキストエリアの場合は、オブジェクトを選択して、編集領域で管理項目名を入力することもできます。

ここで指定した管理項目名を基に、Activity Designer で案件画面の処理を定義します。

注意事項

- 案件作成者の案件画面から引き継がれているオブジェクト、および「定義済みオブジェクト」で挿入したオブジェクト以外は、同一案件の案件画面で同一の管理項目名は指定できません。
- 同じ管理項目名のオブジェクトは、必ず同じオブジェクト属性を設定してください。

(b) データ型

資産管理データベースに登録する際のデータ型、または項目の指定方法を設定します。

データ型を設定できるオブジェクトは、「テキストフィールド」、「テキストエリア」および「プルダウン」の3種類です。

データ型の種類と設定できるオブジェクトの種類の対応を、次の表に示します。

表 10-2 データ型の種類とオブジェクトの種類の対応

データ型の種類	オブジェクトの種類		
	テキストフィールド※1	テキストエリア	プルダウン
全角任意文字列	○	○	×
半角任意文字列	○	○	×
英字	○	○	×
英数字	○	○	×
部署参照	○	×	×
設置場所参照	○	×	×
ユーザ参照	○	×	×
コード参照	×	×	○

データ型の種類	オブジェクトの種類		
	テキストフィールド※1	テキストエリア	プルダウン
ファイル参照	○	×	×
機器参照	○	×	×
ソフトウェア参照	○	×	×
ソフトウェア資産参照	○	×	×
数値※2	○	×	×
日付 (YYYYMMDD)	○	×	×
日付 (YYYYMM)	○	×	×
日付 (MMDD)	○	×	×
時刻 (HHMMSS)	○	×	×
時刻 (HHMM)	○	×	×

(凡例)

○：設定できる。

×：設定できない。

注※1

オブジェクト属性が「主題項目」の場合、設定できるデータ型を次に示します。

- ・全角任意文字列
- ・半角任意文字列
- ・英字
- ・英数字
- ・日付 (YYYYMMDD)
- ・日付 (YYYYMM)
- ・日付 (MMDD)

注※2

案件業務の Form Designer で定義する数値フィールドは整数を扱います。そのため、案件を遷移する際、小数点以下は切り捨てられます。

直接入力で指定するテキストフィールドおよびテキストエリアには、入力できるデータ型を設定します。

また、部署、設置場所、ユーザ、ファイル、機器、ソフトウェア名およびソフトウェア資産を指定するテキストフィールドは、それぞれの情報を「参照」ボタンを使って指定するためのデータ型を設定します。

「参照」ボタンを使って指定するためのデータ型について、次に示します。

「部署参照」、「設置場所参照」、「ユーザ参照」、「ファイル参照」

このデータ型を設定すると、テキストフィールドの横に「参照」ボタンが表示されます。実際の案件画面では、クリックすると表示されるダイアログから、それぞれの内容を指定できます。

「機器参照」

このデータ型を設定すると、テキストフィールドの横に「参照」ボタンが表示されます。実際の案件画面では、クリックすると表示されるダイアログから、Asset Console で管理する機器を検索して指定できます。

「参照」ボタンをクリックすると表示される「機器参照」ダイアログから、機器を追加する流れを次の図に示します。

図 10-21 「機器参照」ダイアログから機器を追加する流れ



「機器選択」ダイアログの検索結果一覧から、機器を選択して「決定」ボタンをクリックすると、「機器参照」ダイアログに機器が追加されます。

「ソフトウェア参照」

このデータ型を設定すると、テキストフィールドの横に「参照」ボタンが表示されます。実際の案件画面では、クリックすると表示されるダイアログから、ソフトウェア名を指定できます。

「参照」ボタンをクリックすると表示される「ソフトウェア参照」ダイアログを次の図に示します。

図 10-22 「ソフトウェア参照」 ダイアログ

ソフトウェア参照 -- Web ページ ダイアログ

検索

表示件数 200

ソフトウェア名 Microsoft Office を含む

ソフトウェア種別

製造者

インストールソフトウェア名

ファイル名

12件中 1~12件目

ソフトウェア名	ソフトウェア種別	製造者
Microsoft Office 2000 Developer Tools (日本語)	商用	Microsoft社
Microsoft Office 2000 Personal	商用	Microsoft社

決定 新規登録 閉じる

http://asset3a/jp1asset/jamwscript.dll?SCRIPT_NAME=Script/80020000.ams&TITLE イン트라ネット

「ソフトウェア資産参照」

このデータ型を設定すると、テキストフィールドの横に「参照」ボタンが表示されます。実際の案件画面では、クリックすると表示されるダイアログから、ソフトウェア資産を指定できます。

「参照」ボタンをクリックすると表示される「ソフトウェア資産参照」ダイアログを次の図に示します。

図 10-23 「ソフトウェア資産参照」 ダイアログ

ソフトウェア資産参照 -- Web ページ ダイアログ

検索

表示件数 200

資産番号 完全一致

ソフトウェア名 Microsoft Office を含む

ソフトウェア種別 商用

部署 本社/営業部 参照

登録日 ~ (YYYYMMDD)

使用開始日 (YYYYMMDD) 以前

使用終了日 (YYYYMMDD) 以前

ソフトウェア状態 運用

ライセンス名

ライセンス形態

ライセンス取得方法

ライセンス区分

2件中 1~2件目

資産番号	ソフトウェア名	ソフトウェア種別	数量	単位
1000000016	Microsoft Office 2000 Professional	商用	10	本
1000000017	Microsoft Office 2000 Developer Tools (日本語)	商用	3	本

決定 閉じる

http://asset3a/jp1asset/jamwscript.dll?SCRIPT_NAME=Script/80020000.ams&TITLE イン트라ネット

案件画面でソフトウェア資産を指定すると、指定領域には「選択済み」と表示されます。指定した内容を確認するには、[参照] ボタンをクリックして、[ソフトウェア資産参照] ダイアログの [検索] ボタンの右側に表示される資産番号のアンカーをクリックしてください。[ソフトウェア資産詳細] ダイアログが表示されて、指定したソフトウェア資産を確認できます。

また、案件画面で、前の作業者が指定したソフトウェア資産を確認する場合（指定内容の変更はしない場合）は、[参照] ボタンをクリックすると [ソフトウェア資産詳細] ダイアログが表示されて、指定したソフトウェア資産を確認できます。

「日付 (YYYYMMDD)」、 「日付 (YYYYMM)」、 「日付 (MMDD)」

このデータ型を設定すると、テキストフィールドの横にカレンダーを表示するボタンが表示されます。また、入力された数値も日付として扱います。年月日の形式を 3 種類から選択します。

(c) データ最大長、最大値および最小値

文字列で指定する項目の最大長、数値で指定する項目の最大値および最小値を設定します。

「最大長」に指定できるのは、1,024 バイトまでです。また、「最大値」および「最小値」に指定できるのは-2,147,483,648～2,147,483,647 です。

(d) 初期値

案件画面を表示したときの初期値を設定します。データ型の種類によって、指定できる初期値が異なります。

データ型が「部署参照」、「ユーザ参照」、「日付」および「時刻」の場合は、案件画面を表示したときの情報によって、案件実行時のユーザの部署名、ユーザ名、日付および時刻を初期値に設定できます。

また、「コード参照」を設定した場合は、選択肢の中から初期値を設定します。それ以外は、固定の文字列を設定します。

テキストエリアの場合、初期値として表示する文字列の中に「&n」を指定すると、指定した個所が改行されて表示されます。

(e) 参照範囲

部署およびユーザを参照する際の参照範囲を「フィルタリング範囲」または「全範囲」から選択します。

組織階層単位でのアクセス制限をしている場合、制限の範囲内で指定できるようにするか（フィルタリング範囲）、すべての組織階層の中から指定できるようにするか（全範囲）を選択します。

この属性は、データ型で「部署参照」または「ユーザ参照」を設定したテキストフィールドに対してだけ設定できます。

(f) コード

案件画面にプルダウンで表示する項目の、選択肢（プルダウンの内容）を定義します。プルダウンの選択肢は、資産管理データベースで管理されているコードから選択します。コードそのものを追加する方法は、マニュアル「運用ガイド」の「4.8.1 コードを追加する」を参照してください。

プルダウンに表示する選択肢を定義する手順を次に示します。

1. 「コード」の指定欄の[編集] ボタンをクリックする。

[コード編集] ダイアログが表示されます。

2. [追加] ボタンをクリックする。

[コード選択] ダイアログが表示されます。

3. 「管理クラス」で、表示させたいコードが含まれるクラスのアンカーをクリックする。

コードの一覧が表示されます。

4. 追加したいコードのチェックボックスをチェックして、[決定] ボタンをクリックする。

[コード選択] ダイアログが閉じて、[コード編集] ダイアログに、指定したコードが表示されます。

コードを削除する場合は、削除したいコードのチェックボックスをチェックして、[削除] ボタンをクリックします。

5. [閉じる] ボタンをクリックする。

[コード編集] ダイアログが閉じて、「コード」のプルダウンに、指定したコードが表示されます。

コードを追加した状態の[コード編集] ダイアログを次の図に示します。

図 10-24 「コード編集」ダイアログ



(g) URL

ハイパーリンクのオブジェクトのリンク先を設定します。

リンク先には、次の 2 種類が設定できます。

- 「固定ジャンプ」

リンク先の URL を指定します。

- 「ファイルジャンプ」

リンク先のファイルの管理項目名を指定します。管理項目名は、前の作業者の案件画面で定義した、テキストフィールドに対して「ファイル参照」のデータ型を指定した項目の中から選択します。

なお、「ファイル参照」のデータ型を指定した場合、参照できるファイルは一つだけです。

(h) 必須項目

案件画面で必ず指定する項目を設定します。

必須項目を設定するには、オブジェクトを選択してチェックボックスにチェックします。

(i) 読み取り専用

案件画面に読み取り専用で表示します。前の作業者が入力した内容を変更させたくない場合などに設定します。

読み取り専用を設定するには、オブジェクトを選択してチェックボックスにチェックします。

(j) 非表示

案件の情報としては必要であっても、案件画面に表示したくない項目を非表示にします。例えば、案件が実行された日付を資産管理データベースに登録する場合、日付を入力するテキストフィールドを挿入し、初期値に実行日付を設定して非表示にすることで、案件を処理する作業者が意識することなく実行日を登録できます。

非表示にするには、オブジェクトを選択してチェックボックスにチェックします。

(k) 実行案件

〔新規案件〕 ボタンで表示する案件を設定します。設定できるのは、案件の状態が「公開」の案件だけです。

この設定を省略した場合は、〔新規案件〕 ボタンをクリックすると、実行する案件を選択する〔新規案件選択〕 ダイアログが表示されます。また、設定した案件が公開ではなくなった場合にも、同様に〔新規案件選択〕 ダイアログが表示されます。

(l) 主題項目

案件の主題として、受信トレイ画面、送信トレイ画面および実行案件管理画面に表示する項目を設定します。同じ案件名の案件が複数あるときに、主題で案件を識別できるので便利です。

主題項目に設定するには、オブジェクトを選択してチェックボックスにチェックします。

また、案件の主題を受信トレイ画面、送信トレイ画面および実行案件管理画面に表示するには、管理項目編集で次の設定が必要です。

1. 業務メニュー「管理項目編集」をクリックすると表示される画面で、管理クラス「VariousInfo」のアンカーをクリックする。
2. 表示された画面で管理クラス「ValueText」のアンカーをクリックする。
3. 表示された画面でプロパティ「Incident_Subject」の「表示」チェックボックスをチェックする。
4. 〔更新〕 ボタンをクリックする。

主題項目は、案件の申請者だけが設定できます。申請者以外が主題項目の内容を変更しても、受信トレイ画面、送信トレイ画面および実行案件管理画面の主題には反映されないので、注意してください。

10.4.4 オブジェクトのスタイルや位置をそろえる

挿入したオブジェクトに対して、スタイル属性のコピーとはり付け、表示順序の変更、および位置合わせができます。

(1) 属性のコピーとはり付け

編集領域で選択している属性をコピーして、ほかのオブジェクトにはり付けます。

- 「属性コピー」

編集領域で選択しているオブジェクトの色やフォントなどのスタイル属性と、大きさをコピーします。編集領域では、属性をコピーしたいオブジェクトを一つだけ選択してください。

- 「属性貼り付け」

「属性コピー」でコピーした属性を、編集領域で選択しているオブジェクトにはり付けます。ただし、選択したオブジェクトに設定できない属性があった場合は、その属性は適用されません。

(2) 表示順序を最前面または最背面に移動

編集領域で選択しているオブジェクトの表示順序を、最前面または最背面に移動します。ただし、オブジェクトの種類が「プルダウン」の場合は、表示順序を移動できません。

(3) 位置を上下左右にそろえる

編集領域で選択しているオブジェクトの位置を上下左右にそろえます。選択しているオブジェクトのうち、いちばん上（下、左または右）のオブジェクトに合わせて位置がそろえられます。

10.4.5 テーブルを定義する (Table Designer)

ここでは、Form Designer で挿入した「テーブル」オブジェクトを定義する方法について説明します。

Form Designer の「オブジェクト」メニューから選択して挿入した「テーブル」オブジェクトに対して、Table Designer で定義します。Table Designer は、編集領域の「テーブル」オブジェクトを選択し、オブジェクト属性に表示される [Table Designer] ボタンをクリックすると表示されます。

(1) Table Designer の各部の名称と使い方

Table Designer を次の図に示します。

図 10-25 Table Designer

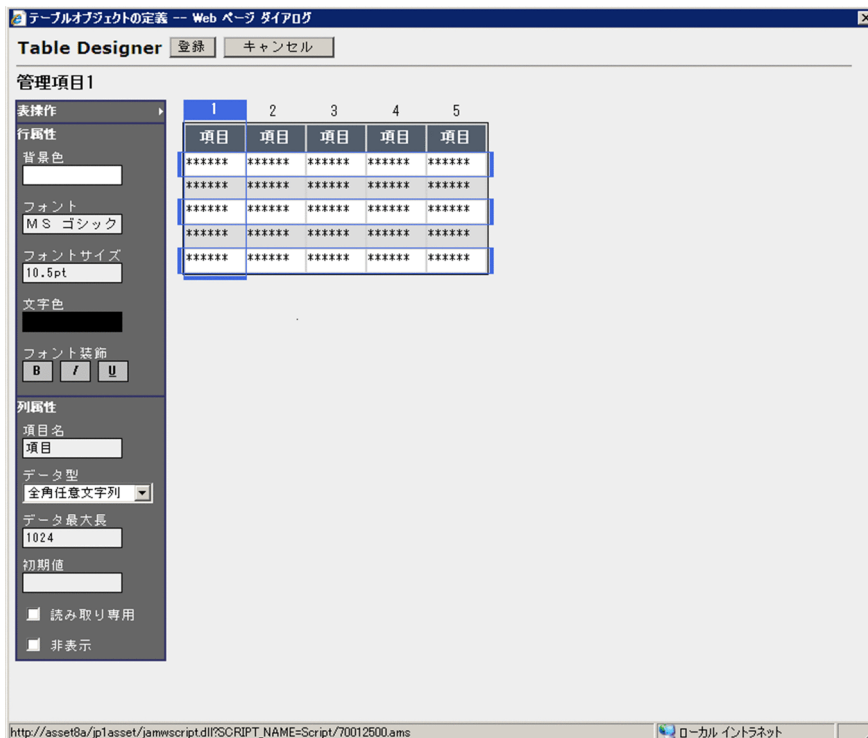


Table Designer では、テーブルを構成する項目の属性を設定します。

- 表操作
表操作のメニューが表示されます。行や列の追加や削除ができます。
- 行属性
選択した行のスタイルを設定します。
- 列属性
選択した列のオブジェクト属性を設定します。

[登録] ボタンをクリックすると、編集中の「テーブル」オブジェクトを保存し、Table Designer を閉じます。[キャンセル] ボタンをクリックすると、編集中の「テーブル」オブジェクトを破棄し、Table Designer を閉じます。

(2) テーブルの行や列を定義する（表操作）

「表操作」をクリックすると、メニューが表示されます。操作したいメニューをクリックして、テーブルの行や列を定義します。表示されるメニューおよび説明を、次に示します。

- 「行の追加」
1 行追加します。なお、定義できる行数は 10 行までです。
- 「行の削除」
1 行削除します。なお、行が 1 行だけの場合は、削除できません。

- 「列の追加」

最終列に 1 列追加します。なお、定義できる列数は 10 列までです。

- 「列の削除」

選択した列を削除します。選択できる列は 1 列です。なお、列が 1 列だけの場合は、削除できません。

(3) 行のスタイルを設定する（行属性）

行のスタイルは、「行属性」で定義します。「行属性」は、行または列を選択すると表示されます。定義できるスタイルと説明を次に示します。

- 「背景色」

選択した行の背景色を設定します。設定されている色の領域をクリックして表示される、カラーパレットから選択します。また、グラデーションを設定したい場合は、グラデーションのパターンをクリックします。

- 「フォント」

選択した行のフォントを設定します。設定されているフォントの領域をクリックして表示される、フォントリストから選択します。

- 「フォントサイズ」

選択した行のフォントサイズを設定します。設定されているフォントサイズの領域をクリックして表示される、フォントサイズリストから選択します。

- 「文字色」

選択した行の文字色を設定します。設定されている色の領域をクリックして表示される、カラーパレットから選択します。

- 「フォント装飾」

選択した行のフォント装飾を設定します。「B」（太字）、「I」（斜体）、「U」（下線）の中から選択します。

(4) 列のオブジェクト属性を設定する（列属性）

各列に対するオブジェクト属性は、「列属性」で定義します。「列属性」は、行または列を選択すると表示されます。定義できるオブジェクト属性と説明を次に示します。

- 「項目名」

選択した列の項目名を設定します。1～32 バイトの全角または半角の文字列で設定してください。デフォルトは「項目」です。

- 「データ型」

列のデータ型を設定します。設定するデータ型をプルダウンから選択します。選択できるデータ型を次に示します。デフォルトは、「全角任意文字列」です。

- 全角任意文字列
- 半角任意文字列

- 英字
- 英数字
- 部署参照
- 設置場所参照
- ユーザ参照
- 数値
- 日付（YYYYMMDD）
- 日付（YYYYMM）
- 日付（MMDD）
- 時刻（HHMMSS）
- 時刻（HHMM）

• 「データ最大長」

列の項目に入力できるデータの最大長を設定します。1,024 バイトまで設定できます。デフォルトは、1,024 バイトです。

• 「初期値」

列の項目の初期値を設定します。初期値は、データ型の設定によって、設定できる値が異なります。設定できる初期値をデータ型別に次の表に示します。

表 10-3 設定できる初期値

データ型	設定できる初期値
部署参照	案件実行ユーザ所属部署
ユーザ参照	案件実行ユーザ名
日付	案件実行日付
時刻	案件実行時刻
上記以外のデータ型	任意

• 「参照範囲」

列の項目の参照できる範囲を設定します。「フィルタリング範囲」または「全範囲」のどちらかを選択します。デフォルトは「フィルタリング範囲」です。

この項目は、次に示すデータ型を設定した場合に表示されます。

- 部署参照
- ユーザ参照
- 「最大値」、「最小値」

列の項目に指定できる数値の最大値および最小値を設定します。2,147,483,647～-2,147,483,648 の範囲で設定できます。「最大値」のデフォルトは、2,147,483,647 です。「最小値」のデフォルトは、-2,147,483,648 です。

この項目は、データ型に「数値」を設定した場合に表示されます。

• 読み取り専用

このチェックボックスをチェックした場合、案件画面を表示した際に設定した列が読み取り専用で表示されます。

• 非表示

このチェックボックスをチェックした場合、案件画面を表示した際に設定した列が表示されなくなります。

なお、データ型によっては設定できない（表示されない）オブジェクト属性があります。データ型とオブジェクト属性の対応を、次の表に示します。

表 10-4 データ型とオブジェクト属性の対応

データ型	オブジェクトの属性				
	データ最大長	初期値	参照範囲	最大値	最小値
全角任意文字列	○	○	×	×	×
半角任意文字列	○	○	×	×	×
英字	○	○	×	×	×
英数字	○	○	×	×	×
部署参照	×	○	○	×	×
設置場所参照	×	×	×	×	×
ユーザ参照	×	○	○	×	×
数値	×	○	×	○	○
日付 (YYYYMMDD)	×	○	×	×	×
日付 (YYYYMM)	×	○	×	×	×
日付 (MMDD)	×	○	×	×	×
時刻 (HHMMSS)	×	○	×	×	×
時刻 (HHMM)	×	○	×	×	×

(凡例)

○：設定できる。

×

注意事項

表操作や列の表示または非表示によって、行および列の表示数を変更した場合、現在の行および列のサイズを基に、表全体のサイズが変更されます。

10.4.6 案件画面の定義例

Asset Console がサンプルで提供している案件「機器導入依頼票」を例に、Form Designer で案件画面を定義する手順を説明します。

1. ウィンドウの属性を定義する。

「ウィンドウ」メニューから、サイズ、背景色を設定します。

ウィンドウの属性は、オブジェクトを定義しながら、随時変更できます。

2. オブジェクトを挿入する。

「オブジェクト」メニューから、案件画面に配置するオブジェクトを必要な数だけ挿入します。

3. オブジェクトのスタイルを定義する。

挿入したオブジェクトの一つを選択して、色、大きさ、フォントなどのスタイル属性を設定します。

このオブジェクトのスタイル属性をコピーして、同じスタイル属性を設定したいほかのオブジェクトにはり付けます。スタイル属性をコピーすると、色やフォントに加えて大きさも同じになるため、案件画面のレイアウトを整えるのに便利です。

なお、スタイル属性は、複数のオブジェクトを選択した状態で、一括して変更できます。

4. オブジェクトの属性を定義する。

オブジェクトの属性を一つずつ定義します。オブジェクトの属性は、スタイル属性のようにコピーしたり、複数のオブジェクトに対して一括で指定したりできません。

案件の登録日、申請者名、申請者部署名などを、案件を表示したときの日時やログインユーザの情報から自動的に設定すると、案件作成者の作業を軽減できます。

5. オブジェクトの属性に応じて、スタイルや補足を追加する。

必須項目に指定した項目は、項目名の色を変えると、入力時にわかりやすくなります。

また、日付のオブジェクト属性を設定した場合、年月日を区切る/（スラッシュ）を含めて「2004/12/25」のように入力することを、入力領域の横に補足として示すと、入力ミスを防げます。

なお、記述例は、入力領域内に初期値として表示することもできます。

6. プレビューで確認する。

実際に表示される形式で、案件画面の内容を確認します。

7. 登録する。

案件定義画面に「作成中」の状態が表示されます。


実際に運用する場合は、状態を「公開」に変更します。

10.5 各管理ノードの作業を定義する (Activity Designer)

この節では、各管理ノードでの作業内容（アクティビティ）を、定義する方法について説明します。

各管理ノードでの作業内容は、Activity Designer で定義します。Activity Designer では、各作業者が案件画面で指定した内容を基に、どのように資産管理データベースの内容を更新（追加、変更、削除）するかを定義します。

アクティビティは、例えば「機器情報登録」のような、資産管理データベースに対する単一の処理（タスク）を組み合わせで定義します。タスクを組み合わせることで、案件の管理ノードとして、さまざまな処理を実現できます。ここでの「タスク」は、Windows のタスクスケジューラに登録されているタスクとは異なります。

Activity Designer は、Flow Designer から表示します。Flow Designer で定義したアクティビティ（) を選択して、[編集] ボタンをクリックすると表示されます。定義途中で登録したアクティビティは、状態が「公開」または「公開停止」の案件を Flow Designer から表示した場合は、定義内容を編集できません。

10.5.1 Activity Designer の各部の名称と使い方

ここでは、Activity Designer の各部の名称および使い方について説明します。

Activity Designer を次の図に示します。

図 10-26 Activity Designer

Activity Designer 登録 戻る

アクティビティ名 配布

アクティビティ実行後の案件状態 配布済み

タスクリスト

利用可能タスク	実行タスク
機器情報登録	*繰り返し開始
機器情報更新	機器情報更新
ソフトウェア情報登録	*繰り返し終了
ライセンスキー追加	
ライセンスキー割り当て	
ライセンスキー自動割り当て	
ライセンスキー解除	
ライセンス移管	
ライセンスキー移管	
ネットワーク情報登録	

追加 削除

上へ 下へ 編集

タスクの設定

管理項目	引き当て項目	
対象となる資産番号★	機器参照から取得	参照
資産情報.資産番号		参照
資産情報.部署	申請者部署名	参照
資産情報.ユーザID		参照
資産情報.ユーザ名	申請者名	参照
資産情報.設置場所		参照
資産情報.移動管理種別	移動管理対象	参照
資産情報.機器状態	運用	参照
資産情報.購入金額		参照
資産情報.登録日		参照
資産情報.用途		参照
資産情報.備考	備考	参照
資産情報.ITDM2 Agent導入状態		参照

案件画面から実行する処理を、タスクと各管理項目に対する引き当て情報を設定することで定義します。

- 「アクティビティ名」

Flow Designer でアクティビティを追加する際に指定した名称が表示されます。必要に応じて変更してください。

- 「アクティビティ実行後の案件状態」

ここで定義するアクティビティを実行したあとの、案件の状態を指定します。省略すると、「(Flow Designer で定義したアクティビティ名) 済み」になります。

- 「タスクリスト」

「利用可能タスク」には、定義できる処理が表示されています。この中から実行するタスクを選択して、「実行タスク」に追加します。追加した各タスクは、タスクリストに表示された順に実行されます。同じ処理を繰り返す範囲は、「*繰り返し開始」および「*繰り返し終了」のタスクを追加して指定します。タスクの種類と各タスクの内容については「10.5.2 実行タスクを選択する」を、タスクの順番を設定する方法については「10.5.3 実行タスクの順番を設定する」を参照してください。

- 「タスクの設定」

「実行タスク」に追加したタスクの詳細を設定します。

各タスクの対象となる「管理項目」に対して、「引き当て項目」を設定します。

「管理項目」には、次の3種類の項目が一覧で表示されます。

- **資産管理データベースで管理する情報（クラスのプロパティ）**

案件を実行することで、資産管理データベースで管理する情報（クラスのプロパティ）の更新方法を設定します。

例えば、案件の実行日を資産の登録日として登録する場合は、管理項目「資産情報.登録日」の「参照」ボタンから、案件の実行日を示す値を設定します。

- **処理の対象を特定するための項目**

選択したタスクの処理（例えば更新など）の対象を特定するための項目を設定します。

例えば、機器情報を更新する場合は、管理項目「対象となる資産番号」の「参照」ボタンから、対象の「資産番号」を示す値を設定します。

- **繰り返し処理の範囲を設定するための項目**

「*繰り返し開始」および「*繰り返し終了」のタスクを追加した場合、繰り返し処理の範囲を設定します。

各管理項目に対する引き当て項目の設定方法については、「[10.5.4 管理項目に引き当てる情報を設定する](#)」を参照してください。

引き当て項目の整合性が取れていない場合、または必須項目で引き当て項目が設定されていない管理項目が一つでもある場合、定義の途中で登録したアクティビティを表示すると、「戻る」ボタンの横に、「編集
中」と表示されます。

10.5.2 実行タスクを選択する

ここでは、Activity Designer で選択できるタスクの種類と、各タスクの内容について説明します。

アクティビティを定義するには、案件画面で実行する処理を「利用可能タスク」から選択して、「実行タスク」に追加します。

Activity Designer で選択できるタスクを次に示します。

項番	Activity Designer で選択できるタスク	項番	Activity Designer で選択できるタスク
1	*繰り返し開始、*繰り返し終了	2	機器情報登録
3	機器情報更新	4	ソフトウェア情報登録
5	ライセンスキー追加	6	ライセンスキー割り当て
7	ライセンスキー自動割り当て	8	ライセンスキー解除
9	ライセンス移管	10	ライセンスキー移管
11	ネットワーク情報登録	12	ネットワーク情報削除
13	契約登録	14	ボリューム契約登録

項番	Activity Designer で選択できるタスク	項番	Activity Designer で選択できるタスク
15	契約更新	16	ボリューム契約更新
17	契約資産割り当て	18	ボリューム契約資産割り当て
19	契約資産解除	20	ボリューム契約資産解除
21	ユーザ情報登録	22	ユーザ情報更新
23	ユーザ情報削除	24	問題点登録
25	問題点更新	26	JP1 イベント通知

(凡例)

－：該当しない

各実行タスクの内容について説明します。

1. 「*繰り返し開始」、「*繰り返し終了」

同じ処理を繰り返す範囲を指定する際に使用します。

一組の「*繰り返し開始」と「*繰り返し終了」の中に、さらに「*繰り返し開始」と「*繰り返し終了」を追加することもできます。使用回数に制限はありません。

繰り返し処理を選択した場合は、処理の繰り返し対象を設定します。選択できる繰り返し対象を、次に示します。

- 画面で設定した対象の数
- アップロードファイルの行数
- 表の行数

繰り返し対象の設定方法については、「[10.5.4\(2\) 繰り返し処理の内容を設定する](#)」を参照してください。

2. 「機器情報登録」

機器を新規に登録する場合に使用します。案件画面で項目に指定された値をそのまま資産管理データベースに登録して 1 台分の機器を登録する方法と、共通項目は案件画面で指定された値から、機器ごとに変わる項目は CSV ファイルから情報を取得して、複数の機器を登録する方法があります。

ネットワーク関連のタスクと組み合わせることで、機器導入などの業務を実現できます。

このタスクの引き当て項目の設定では、次の点を注意してください。

- 「ユーザ ID」と「ユーザ名」、「管理者 ID」と「管理者」は、ID と名称の両方が設定されている場合、該当するユーザの引き当てには ID の値が優先されます。
- ID が設定されていない場合は、名称をキーに該当するユーザが引き当てられます。
- ID で情報を引き当てた場合、指定された名称は無視されます。
- ID を設定しないで名称だけを引き当て項目に設定した場合、名称でユーザ情報が検索されます。該当する名称が存在する場合は、対応する ID が登録されます。該当する名称が存在しない場合は、指定された名称がそのままユーザ名に登録されます。該当する名称が複数存在する場合は、エラーとなります。

- ID で該当する情報がない場合はエラーとなります。
- 「資産情報.機器状態」、「資産情報.稼働管理種別」、「ITDM2 Agent 導入状態」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなります。

3. 「機器情報更新」

機器の情報を変更する場合に使用します。

機器情報登録と同様に、1 台分の機器を更新する方法と、複数の機器を更新する方法があります。

このタスクの引き当て項目の設定では、次の点を注意してください。

- 「対象となる資産番号」に指定した「資産番号」をキーに、更新する情報が引き当てられます。
- 「ユーザ ID」と「ユーザ名」、「管理者 ID」と「管理者」は、ID と名称の両方が設定されている場合、該当するユーザの引き当てには ID の値が優先されます。
- ID が設定されていない場合は、名称をキーに該当するユーザが引き当てられます。
- ID で情報を引き当てた場合、指定された名称は無視されます。
- ID を設定しないで名称だけを引き当て項目に設定した場合、名称でユーザ情報が検索されます。該当する名称が存在する場合は、対応する ID が登録されます。該当する名称が存在しない場合は、指定された名称がそのままユーザ名に登録されます。該当する名称が複数存在する場合は、エラーとなります。
- ID で該当する情報がない場合はエラーとなります。

4. 「ソフトウェア情報登録」

ソフトウェアを新規に登録する場合に使用します。ソフトウェア資産情報およびライセンス情報を登録します。

ライセンス関連のタスクと組み合わせることで、ソフトウェア導入などの業務を実現できます。

案件で指定した「ソフトウェア名」が、ソフトウェアリストに登録されていない場合、新規に登録されます。指定した「ライセンス名」がライセンス情報に登録されていない場合も追加されます。

「資産情報.ソフトウェア状態」、「ソフトウェアリスト.ソフトウェア名」、「ソフトウェアリスト.ソフトウェア種別」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなるので注意してください。

5. 「ライセンスキー追加」

ソフトウェアにライセンスキーを登録する場合に使用します。登録されているソフトウェア資産にライセンスキーを追加します。

対象となるソフトウェア資産を特定するには、ソフトウェア資産の「資産番号」と保有する部署の情報がが必要です。

6. 「ライセンスキー割り当て」

ライセンスキーを指定して、ライセンスの利用を申請する場合に使用します。登録されているソフトウェア資産のライセンスを、指定されたキーで、機器またはユーザに割り当てます。

対象となるソフトウェア資産を特定するには、ソフトウェア資産の「資産番号」と保有する部署の情報がが必要です。

このタスクの引き当て項目の設定では、次の点を注意してください。

- ・ ライセンス区分が「マシン許諾」の場合、「資産番号」で対象となる機器が割り当てられます。ライセンス区分が「ユーザ許諾」の場合、「ユーザ名」で対象となるユーザが割り当てられます。
- ・ 指定したライセンスキー（ライセンスキー、プロダクト ID、シリアル No.）と同一の値が複数登録されている場合、登録されている中から一つが割り当てられます。同一の値が登録されていて、すでに空きがない場合はエラーになります。

7. 「ライセンスキー自動割り当て」

ライセンスキーを指定しないで、ライセンスの利用を申請する場合に使用します。すでに登録されているソフトウェア資産のライセンスを、空いているキーから自動的に選択して、機器またはユーザに割り当てます。

タスク「ライセンスキー追加」と組み合わせることで、オンデマンドのライセンス追加・割り当てを実現できます。

なお、対象となるソフトウェア資産を特定するには、ソフトウェア資産の「資産番号」と保有する部署の情報がが必要です。

自動割り当てをする場合には、あらかじめライセンスを割り当てたいソフトウェア資産に、ライセンスキーを登録しておく必要があります。

8. 「ライセンスキー解除」

利用しているライセンスを返却する場合に使用します。登録されているソフトウェア資産のライセンスの割り当てを解除します。

対象となるソフトウェア資産を特定するには、ソフトウェア資産の「資産番号」と保有する部署の情報がが必要です。

また、特定のライセンスキーを解除するときは、「ライセンスキー」、「プロダクト ID」、「シリアル No.」の指定が必要です。このとき、同一の機器またはユーザに、同一のソフトウェア資産のライセンスキーが複数割り当てられている場合、該当するライセンスキーはすべて解除されます。

9. 「ライセンス移管」

職制変更などによって、ライセンスの分割および部署変更が発生した場合に使用します。ライセンスを他部署に移管する場合、ソフトウェア資産情報のコピーが作成され、ライセンス数が振り分けられます。このタスクを選択した場合は、次の点に注意してください。

- ・ 移管元に同一の「資産番号」が複数登録されている場合はエラーとなります。
- ・ 状態が「運用」である同一のソフトウェア資産情報がすでに移管先の部署に存在した場合は、ソフトウェア資産情報が統合されます。複数登録されている場合は、どれか一つと統合されます。
- ・ 同一の「資産番号」でも、移管先のソフトウェア状態が「運用」でない場合は、異なる資産としてソフトウェア資産が新規登録されます。
- ・ 一度に複数の部署にライセンスキーを移管することはできません。複数の部署に移管する場合は、移管する部署ごとに申請する必要があります。
- ・ フリーウェアのソフトウェアを移管する場合、移管元のソフトウェアは削除されません。
- ・ 移管元のライセンス数が無制限またはフリーウェアで、移管ライセンス数が指定されている場合は移管できません。移管元のライセンス数が無制限（フリーウェア）でないときは、移管ライセンス数の指定を省略すると移管できません。

10. 「ライセンスキー移管」

職制変更などによって、ライセンスキーを移管する場合に使用します。一度に複数の部署にライセンスキーを移管することはできません。複数の部署に移管する場合は、移管する部署ごとに申請する必要があります。

ライセンスキーの移管は、ライセンスの移管と同じアクティビティで実行するように定義してください。移管するソフトウェアと同じ「資産番号」のソフトウェアが、移管先に存在しない場合はエラーとなります。

対象となるソフトウェア資産を特定するには、ソフトウェア資産の「資産番号」と保有する部署の情報がが必要です。

11. 「ネットワーク情報登録」

機器にネットワーク情報（ノード名、コンピュータ名、IP アドレス）を割り当てる場合に使用します。IP アドレスの割り当てには、自動割り当てと指定割り当ての 2 種類の方法があります。

なお、IP アドレスを指定して登録する場合は、すでに同じ IP アドレスがほかの機器で使用されていても、同じ IP アドレスで登録されます（同じ IP アドレスの機器が二つ存在することになります）。

このタスクの引き当て項目の設定では、次の点に注意してください。

- 自動割り当ての場合は、IP グループ名を設定します。IP アドレスも設定した場合は、自動割り当てではなく、設定した IP アドレスで割り当てられます。
- ネットワーク情報を更新する場合は、対象となる IP アドレスを指定します。このとき、更新後の IP アドレスを指定することで、IP アドレスを変更できます。
- 「対象となる資産 ID」は、前のタスクで機器を登録した場合など、登録した資産の資産 ID を引き継いで利用したい場合に設定します。

12. 「ネットワーク情報削除」

機器に割り当てたネットワーク情報（ノード名、コンピュータ名、IP アドレス）を削除する場合に使用します。指定した「資産 ID」（または「資産番号」と IP アドレスで、該当するネットワーク情報を引き当てて削除します。指定した機器に複数の IP アドレスが割り当てられていた場合は、すべて削除されます。

このタスクの引き当て項目の設定では、次の点に注意してください。

- 「対象となる資産 ID」は、前のタスクで機器を登録した場合など、登録した資産の資産 ID を引き継いで利用したい場合に設定します。

13. 「契約登録」

新規に契約を登録する場合に使用します。リース、レンタル、保守契約はこのタスクで登録します。

「契約情報.契約種別」、「契約情報.契約番号」、「契約情報.契約対象」、「契約情報.契約日」、「契約情報.契約開始日」、「契約情報.契約終了日」、「契約情報.契約会社」、「契約情報.契約状態」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなります。

14. 「ボリューム契約登録」

新規にボリューム契約を登録する場合に使用します。

「ボリューム契約情報.契約番号」、「ボリューム契約情報.契約状態」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなります。

15. 「契約更新」

契約更改に伴って、契約情報を更新する場合に使用します。

案件で契約を登録する場合、契約を特定する情報は「契約番号」だけとなります。そのため、契約を案件で更新する場合は、「契約番号」がユニークになるように管理しておく必要があります。

16. 「ボリューム契約更新」

契約更改に伴って、ボリューム契約情報を更新する場合に使用します。

案件で契約を登録する場合、契約を特定する情報は「契約番号」だけとなります。そのため、契約を案件で更新する場合は、「契約番号」がユニークになるように管理しておく必要があります。

17. 「契約資産割り当て」

契約の新規登録または更改に伴って、契約の対象となる機器またはソフトウェアの割り当てを変更する場合に、タスク「契約資産解除」と組み合わせて使用します。

割り当てられるのは、状態が「契約中」の契約だけです。

また、対象となる契約が複数あった場合、および対象となる資産がほかの同一種別の契約に割り当てられていた場合はエラーとなります。

18. 「ボリューム契約割り当て」

契約の新規登録または更改に伴って、ボリューム契約の対象となるソフトウェアの割り当てを変更する場合に、タスク「ボリューム契約資産解除」と組み合わせて使用します。

割り当てられるのは、状態が「契約中」の契約だけです。

また、対象となる契約が複数あった場合、および対象となるソフトウェア資産がほかの契約に割り当てられていた場合はエラーとなります。

19. 「契約資産解除」

契約の更改に伴って、契約の対象となる機器またはソフトウェアの割り当てを解除する場合に使用します。

「資産情報.資産 ID」は前のタスクで機器の状態を変更したときなど、対象となる機器が特定できる場合に、前のタスクの「資産 ID」を引き継ぐために指定してください。

20. 「ボリューム契約資産解除」

契約の更改に伴って、ボリューム契約の対象となるソフトウェアの割り当てを解除する場合に使用します。

「資産情報.資産 ID」は前のタスクで機器の状態を変更したときなど、対象となる機器が特定できる場合に、前のタスクの「資産 ID」を引き継ぐために指定してください。

21. 「ユーザ情報登録」

人員の追加などで、新規にユーザを登録する場合に使用します。ユーザ管理情報の登録と各ユーザにユーザ権限を割り当てます。パスワードは設定されません。パスワードを入力しないで、登録した「ユーザ ID」で Asset Console にログインして、操作画面から設定してください。

「ユーザ管理情報.ユーザ ID」、「ユーザ管理情報.ユーザ名」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなります。

22. 「ユーザ情報更新」

氏名、電話番号、メールアドレスなどの情報の変更や、職制変更によるユーザ権限の変更など、ユーザ情報を変更する場合に使用します。

対象となるユーザは「ユーザ ID」または「ユーザ名」で引き当てられます。「ユーザ ID」が指定されていない場合、ユーザ名をキーに資産情報を検索しますが、同姓同名が複数登録されていた場合はエラーとなります。

23. 「ユーザ情報削除」

職制変更などによって、登録しているユーザの情報が不要になった場合に使用します。

対象となるユーザは「ユーザ ID」または「ユーザ名」で引き当てられます。「ユーザ ID」が指定されていない場合、「ユーザ名」をキーに検索しますが、同姓同名のユーザが複数登録されていた場合はエラーとなります。

24. 「問題点登録」

案件を使用して問題点を管理する場合、資産管理システムで発生した問題点を登録するために使用します。

「保守履歴.管理番号」、「保守履歴.保守状態」、「保守履歴.障害内容」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなります。

25. 「問題点更新」

案件を使用して問題点を管理する場合、問題が解決するまでの情報を追加・更新し、その問題点の担当者へ送付するために使用します。

「資産情報.資産 ID」は、前のタスクで、障害対策で機器の情報を変更したときなど、情報を更新した機器資産の「資産 ID」を引き継ぐ場合に指定してください。

26. 「JP1 イベント通知」

「案件遷移イベント」を発行して、連携するほかの製品に、案件の遷移を通知する場合に使用します。案件のすべてのアクティビティにこのタスクを定義することで、案件の状態を監視できます。また、JP1/IM の自動アクション機能を利用して任意のコマンドを実行することで、連携するほかの製品は、案件の遷移を契機に処理を実行できます。

「案件遷移イベント」は、案件が正常に遷移した場合（このタスクを含むアクティビティが正常に処理された場合）に発行されます。いったん正常に遷移した案件が引き戻し、却下または削除されたときは、自動的に「案件状態変更イベント」または「案件削除イベント」が発行されます。

案件の遷移に伴って発行される JP1 イベントの詳細については、[「13.2 Asset Console から発行する JP1 イベントの詳細」](#)を参照してください。

10.5.3 実行タスクの順番を設定する

ここでは、Activity Designer の「実行タスク」に追加したタスクの、順番を設定する方法について説明します。

「実行タスク」に追加した各タスクは、一覧に表示された順に実行されます。順番を変更するには、「実行タスク」の一覧で変更したいタスクを選択して、[上へ] または [下へ] ボタンをクリックします。

「実行タスク」の順番を設定する際は、情報の論理的な順番に注意してください。例えば、「機器情報登録」と「ネットワーク情報登録」のタスクを実行する場合は、先に「機器情報登録」を実行して、ネットワーク情報を割り当てる機器の情報を登録しておく必要があります。

また、繰り返し処理を追加した場合は、「*繰り返し開始」と「*繰り返し終了」が1対1で対応するように並び順を指定してください。

ソフトウェアの導入申請、ライセンスの利用申請、および機器の移管申請を実行する場合の、「実行タスク」欄の設定例を次に示します。

- **ソフトウェアの導入申請の設定例**

```
*繰り返し開始  
ソフトウェア情報登録  
*繰り返し終了  
*繰り返し開始  
ライセンスキー追加  
*繰り返し終了
```

この例では、「タスクの設定」の「管理項目」で「アップロードファイルの行数」を選択し、案件に添付された CSV ファイルの行数分、ソフトウェア資産情報を登録したあと、登録したソフトウェアのライセンスキーを追加する処理を示しています。

- **ライセンスの利用申請の設定例**

```
*繰り返し開始  
ライセンスキー割り当て  
*繰り返し終了
```

この例では、「タスクの設定」の「管理項目」で「アップロードファイルの行数」を選択し、案件に添付された CSV ファイルの行数分、すでに登録されているソフトウェアに、指定したキーでライセンスを割り当てる処理を示しています。「ライセンスキー割り当て」を、「ライセンスキー自動割り当て」に置き換えると、空いているキー情報が自動的に割り当てられます。

- **機器の移管申請の設定例**

```
*繰り返し開始  
機器情報更新  
*繰り返し終了
```

この例では、「タスクの設定」の「管理項目」で「画面で選択した対象の数」を選択し、案件画面で選択した機器の台数分、または案件に添付された CSV ファイルの行数分、機器情報を更新する処理を示しています。

10.5.4 管理項目に引き当てる情報を設定する

ここでは、Activity Designer の「タスクの設定」で、管理項目に引き当てる情報を設定する方法について説明します。管理項目に引き当てる情報を設定することで、「実行タスク」に追加したタスクで更新する情報、処理対象の特定方法、繰り返し処理の範囲を設定します。

「タスクの設定」は、「実行タスク」で設定したいタスクを選択して、[編集] ボタンをクリックすると表示されます。「管理項目」の一覧から、処理の対象とする項目を選択して、引き当て項目を設定します。

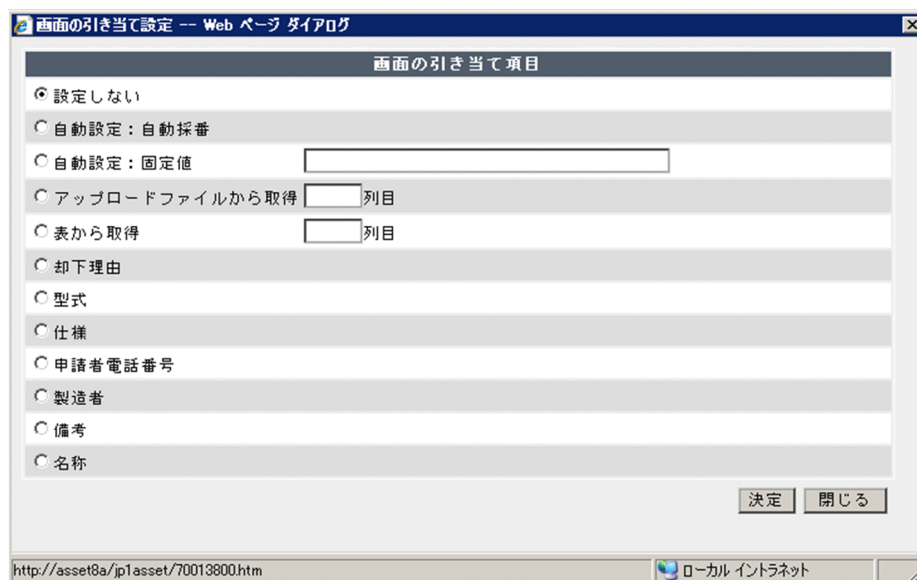
「管理項目」には、資産管理データベースで管理する情報（「クラス.プロパティ」の形式）、選択したタスクの処理の対象を特定するための項目、および繰り返し処理の範囲を設定するための項目が表示されます。表示されている「管理項目」の中から、必要に応じて引き当て項目を設定します。ただし、「管理項目」の欄に「★」が付いている項目は、必ず設定してください。

実行タスクで「*繰り返し開始」を選択した場合は、引き当て項目を設定する前に、「繰り返し対象」を選択します。実行タスクで「*繰り返し開始」を選択した場合の設定方法については「(2) 繰り返し処理の内容を設定する」を参照してください。

(1) タスクの引き当て項目を設定する

各引き当て項目の[参照] ボタンをクリックすると、[画面の引き当て設定] ダイアログが表示されます。[画面の引き当て設定] ダイアログの例を次の図に示します。

図 10-27 [画面の引き当て設定] ダイアログの例



ダイアログには、自動設定の項目と案件画面で定義した管理項目名が一覧で表示されています。一覧の中から、それぞれの管理項目に引き当てたい情報を選択します。

[画面の引き当て設定] ダイアログに表示される次の項目の中から、引き当て項目を選択します。

- 「設定しない」
選択した管理項目に対して、引き当て項目は設定されません。
- 「自動設定：自動採番」
資産管理システムで自動採番された値が設定されます。
- 「自動設定：固定値」
指定した値が、常に設定されます。この項目を選択した場合は、固定値の値を必ず指定してください。

- 「自動設定：実行した日付」

案件の実行された日付が設定されます。すでに同じ管理項目に対して日付が登録されていた場合も、上書きされます。

- 「自動設定：実行した日付（値が無ければ登録）」

案件の実行された日付が設定されます。すでに同じ管理項目に対して日付が登録されていた場合、上書きされません。

- 「アップロードファイルから取得」

案件の添付ファイルとしてアップロードした、CSV ファイルの値が引き当てられます。値を引き当てられるファイルは、CSV ファイルだけです。この項目を選択した場合は、取得する値がファイルの何列目の値かを必ず指定してください。

また、選択しているタスクの前後に「*繰り返し開始」および「*繰り返し終了」を追加し、「*繰り返し開始」の「タスクの設定」で、「繰り返し対象」に「アップロードファイルの行数」を指定してください。

- 「表から取得」

案件画面で「テーブル」オブジェクトとして定義した値が引き当てられます。この項目を選択した場合は、取得する値がテーブルの何列目の値かを必ず指定してください。

また、選択しているタスクの前後に「*繰り返し返し」および「*繰り返し終了」を追加し、「*繰り返し開始」の「タスクの設定」で、「繰り返し対象」に「表の行数」を指定してください。

- 「機器参照から取得」

案件画面で「参照」ボタンから指定した機器の値が引き当てられます。この項目を選択した場合は、選択しているタスクの前後に「*繰り返し開始」および「*繰り返し終了」を追加し、「*繰り返し開始」の「タスクの設定」で、「繰り返し対象」に「画面で選択した対象の数」を指定してください。

- 「ソフトウェア資産参照から取得」

案件画面で「参照」ボタンから指定したソフトウェア資産の値が引き当てられます。この項目を選択した場合は、選択しているタスクの前後に「*繰り返し開始」および「*繰り返し終了」を追加し、「*繰り返し開始」の「タスクの設定」で、「繰り返し対象」に「画面で選択した対象の数」を指定してください。

- 「直前に実行したタスクから取得」

「実行タスク」に定義された順番で、直前に定義されているタスクから情報を取得して、引き当てることができます。例えば、「ユーザ情報登録」の直後に「機器情報登録」を実行するように定義した場合、「機器情報登録」の「資産情報.ユーザ ID」に、「ユーザ情報登録」で登録したユーザ ID を引き当てられます。

この項目が設定できるタスクと管理項目を次に示します。

- 機器情報登録：

- 「資産情報.ユーザ名」、「資産情報.ユーザ ID」、「資産情報.管理ユーザ名」、「資産情報.管理ユーザ ID」

- ライセンス割り当て：

- 対象となる機器の「資産情報.資産番号」または「資産情報.ユーザ名」、対象となるソフトウェアの「資産情報.資産番号」

- ライセンス自動割り当て：
対象となる機器の「資産情報.資産番号」または「資産情報.ユーザ名」、対象となるソフトウェアの「資産情報.資産番号」
- ネットワーク情報の登録：
「ネットワーク情報.資産 ID」
- 契約資産割り当て：
「資産情報.資産 ID」
- ボリューム契約資産割り当て：
「資産情報.資産 ID」
- 問題点更新：
「保守履歴.資産 ID」
- (Form Designer で定義した管理項目名)
Form Designer で定義した管理項目の中から、データ型が一致する項目が表示されます。案件画面で、選択した項目に入力した値が引き当てられます。

注意事項

実際に案件が処理される際に、引き当てた値が NULL だった場合、NULL で更新されます。ただし、必須の管理項目に引き当てた値が NULL だった場合、エラーとなります。

(2) 繰り返し処理の内容を設定する

ここでは、Activity Designer の「実行タスク」に「*繰り返し開始」および「*繰り返し終了」のタスクを追加した場合の、引き当て項目の設定方法について説明します。

複数の機器の登録や削除など、一つのタスクを複数回繰り返す場合、「*繰り返し開始」および「*繰り返し終了」を使用して、繰り返すタスクの範囲を設定します。さらに、一つのタスクを繰り返す回数を「タスクの設定」で設定します。

繰り返し処理の回数は、「実行タスク」の一覧から「*繰り返し開始」を選択して、[編集] ボタンをクリックすると表示される、「タスクの設定」で設定します。

「繰り返し対象」で、繰り返して処理を実行する対象を選択したあと、引き当て項目を [参照] ボタンから指定します。

「繰り返し対象」で選択する値と、引き当て項目の設定方法を次に示します。

- 「画面で選択した対象の数」

案件画面で、[参照] ボタンから選択した機器またはソフトウェア資産の数だけ、繰り返し処理を実行します。

「引き当て項目」には、Form Designer で「機器参照」または「ソフトウェア資産参照」のデータ型を設定したオブジェクトの管理項目名を設定します。

- 「アップロードファイルの行数」

案件画面で添付した CSV ファイルの行数分、繰り返し処理を実行します。

「引き当て項目」には、Form Designer で「ファイル参照」のデータ型を設定したオブジェクトの管理項目名を設定します。

- 「表の行数」

案件画面で「テーブル」オブジェクトとして定義した行数分、繰り返し処理を実行します。「引き当て項目」には、テーブルオブジェクトの管理項目名を設定します。

(3) 値を引き当てられなかった管理項目に設定される内容

引き当て項目が設定されていないか、または値が取得できなかった場合は、自動的に値が設定される項目があります。設定される項目と値を次に示します。

タスク	管理項目	設定される値
機器情報登録	資産情報.登録日	案件の実行日付
	ハードウェア資産情報.機器種別	「PC」
ソフトウェア情報登録	資産情報.登録日	案件の実行日付
ユーザ情報登録	ユーザ管理情報.ユーザ名（英名）	ユーザ ID
問題点管理	保守履歴.登録日	案件の実行日付
	保守履歴.登録者名	ログインユーザ名
	保守履歴.重大度	「緊急」
	保守履歴.障害種別	「ユーザ登録」

なお、次の管理項目に引き当て項目が設定されていないか、または値が取得できなかった場合は、案件の処理がエラーになります。

- 「契約登録」

契約情報.契約日、契約情報.契約開始日、契約情報.契約終了日、契約情報.契約会社

- 「問題点管理」

保守履歴.登録日、保守履歴.障害内容

10.5.5 アクティビティの定義例

ここでは、ソフトウェア導入申請業務を例に、Activity Designer でアクティビティを定義する一連の作業を説明します。

ソフトウェア導入申請のアクティビティには、次の二つのパターンが考えられます。

- 一つのソフトウェア資産と、複数のライセンスキーを登録する（登録するソフトウェア資産が一つの場合）
- 複数のソフトウェア資産と、それぞれのソフトウェア資産に複数のライセンスキーを登録する（登録するソフトウェア資産が複数の場合）

これ以降で、それぞれの定義例を説明します。

(1) アクティビティ定義例（登録するソフトウェア資産が一つの場合）

このアクティビティでは、申請されたソフトウェア資産とライセンスキーを登録します。案件画面では、次の項目を指定および添付するように、定義してあることとします。

申請者名、申請者部署名、申請者電話番号、ソフトウェア名（必須）、ライセンス数（必須）、ライセンスキー（必須）（添付ファイル）、備考、却下理由

ライセンスキーの添付ファイルの内容を次に示します。ファイルには、「ライセンスキー」、「プロダクトID」、「シリアル No.」を記載します。

```
Key101, aaa-aaa-aaa, 123456789
Key102, bbb-bbb-bbb, 123456789
Key103, ccc-ccc-ccc, 123456789
Key104, ddd-ddd-ddd, 123456789
Key105, eee-eee-eee, 123456789
```

「実行タスク」の設定

選択するタスクとタスクの順番を次に示します。

```
ソフトウェア情報登録
*繰り返し開始
ライセンスキー追加
*繰り返し終了
```

「ソフトウェア情報登録」の「タスクの設定」での設定

「ソフトウェア情報登録」の引き当て項目の設定例を次の図に示します。

図 10-28 「ソフトウェア情報登録」の引き当て項目の設定例（登録するソフトウェア資産が一つの場合）

管理項目	引き当て項目
資産情報.資産番号★	資産番号 参照
資産情報.部署	申請者部署名 参照
資産情報.ソフトウェア状態★	運用 参照
資産情報.購入金額	参照
資産情報.登録日	自動設定：実行した日付 参照
資産情報.用途	参照
資産情報.備考	備考 参照
資産情報.棚卸日付	参照
ソフトウェア資産情報.数量	ライセンス数 参照
ソフトウェア資産情報.購入ポイント数	参照
ソフトウェアリスト.ソフトウェア名★	ソフトウェア名称 参照
ソフトウェアリスト.製造者	参照
ソフトウェアリスト.ソフトウェア種別★	商用 参照
ライセンス情報.ライセンス名	ソフトウェア名称 参照
ライセンス情報.ライセンス形態	マシン許諾ライセンス 参照
ライセンス情報.アップグレード保証	なし 参照
ライセンス情報.ダウングレード可否	不可 参照
ライセンス情報.ライセンス取得方法	パッケージ 参照
ライセンス情報.ライセンス区分	マシン許諾 参照

登録するソフトウェア資産は一つのため、「資産番号」には、「資産番号」を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。そのほかの必要な項目は、固定値を設定してください。

「*繰り返し開始」の「タスクの設定」での設定

CSV ファイルに記載したライセンスキーを登録するため、「繰り返し対象」には「アップロードファイルの行数」を、「引き当て項目」には、「ライセンスキー」を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。

「ライセンスキー追加」の「タスクの設定」での設定

「ライセンスキー追加」の引き当て項目の設定例を次の図に示します。

図 10-29 「ライセンスキー追加」の引き当て項目の設定例（登録するソフトウェア資産が一つの場合）

管理項目	引き当て項目
対象となるソフトウェアの資産番号★	資産番号 参照
対象となる部署名★	申請者部署名 参照
ソフトウェアキー情報.プロダクトID	2 参照
ソフトウェアキー情報.ライセンスキー	1 参照
ソフトウェアキー情報.シリアルNo.	3 参照
ソフトウェアキー情報.備考	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field128-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field128-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field255-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field255-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Area-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Area-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Code-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Code-2	参照

「対象となるソフトウェアの資産番号」および「対象となる部署名」は、それぞれの値を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。なお、「対象となる部署名」には、オブジェクトの属性「データ型」で、「部署参照」を選択したオブジェクトだけが指定できます。

また、「プロダクト ID」、「ライセンスキー」および「シリアル No.」には、CSV ファイルの列番号を設定します。

(2) アクティビティ定義例（登録するソフトウェア資産が複数の場合）

このアクティビティでは、申請された複数のソフトウェア資産と、それぞれのソフトウェア資産に複数のライセンスキーを登録します。案件画面では、次の項目を指定および添付するように、定義してあることとします。

申請者名、申請者部署名、申請者電話番号、ソフトウェア（必須）（添付ファイル）、ライセンスキー（必須）（添付ファイル）、備考、却下理由

ソフトウェアの添付ファイルの内容を次に示します。ファイルには、「資産番号」、「ソフトウェア名」、「ライセンス数」、「ライセンス名」を記載します。

```
Asset000001,Software001,2,License001
Asset000002,Software002,2,License002
Asset000003,Software003,2,License003
```

ライセンスキーの添付ファイルの内容を次に示します。ファイルには、「資産番号」、「ライセンスキー」、「プロダクト ID」、「シリアル No.」を記載します。

```
Asset000001,Key101,aaa-aaa-aaa,123456789
Asset000001,Key102,bbb-bbb-bbb,123456789
Asset000002,Key103,ccc-ccc-ccc,123456789
Asset000002,Key104,ddd-ddd-ddd,123456789
Asset000003,Key105,eee-eee-eee,123456789
Asset000003,Key106,fff-fff-fff,123456789
```

複数のソフトウェア資産を登録する場合は、該当するソフトウェア資産を特定するために「資産番号」を記載します。

「実行タスク」の設定

選択するタスクとタスクの順番を次に示します。

```
*繰り返し開始
ソフトウェア情報登録
*繰り返し終了
*繰り返し開始
ライセンスキー追加
*繰り返し終了
```

繰り返しの処理自体は階層にすることもできますが、登録するライセンスキーがソフトウェア資産ごとに異なる場合、階層では目的の処理を実現できないため、上記のように階層化しない方法で定義します。

この場合、「ソフトウェア情報登録」のタスクの CSV ファイルと、「ライセンスキー追加」のタスクの CSV ファイルとの間で情報の引き当てが必要になるため、引き当てキーを両方の CSV ファイルに記述しておく必要があります。上記の例では「資産番号」が引き当てキーとなっています。

「タスクの設定」での設定（「*繰り返し開始」）

CSV ファイルに記載した情報を登録するため、「繰り返し対象」には「アップロードファイルの行数」を設定します。「引き当て項目」には、「ソフトウェア」または「ライセンスキー」を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。

「タスクの設定」での設定（「ソフトウェア情報登録」）

「ソフトウェア情報登録」の引き当て項目の設定例を次の図に示します。

図 10-30 「ソフトウェア情報登録」の引き当て項目の設定例（登録するソフトウェア資産が複数の場合）

管理項目	引き当て項目
資産情報.資産番号★	1 参照
資産情報.部署	申請者部署名 参照
資産情報.ソフトウェア状態★	運用 参照
資産情報.購入金額	参照
資産情報.登録日	自動設定：実行した日付 参照
資産情報.用途	参照
資産情報.備考	備考 参照
資産情報.棚卸日付	参照
ソフトウェア資産情報.数量	3 参照
ソフトウェア資産情報.購入ポイント数	参照
ソフトウェアリスト.ソフトウェア名★	2 参照
ソフトウェアリスト.製造者	参照
ソフトウェアリスト.ソフトウェア種別★	商用 参照
ライセンス情報.ライセンス名	4 参照
ライセンス情報.ライセンス形態	マシン許諾ライセンス 参照
ライセンス情報.アップグレード保証	なし 参照
ライセンス情報.ダウングレード可否	不可 参照
ライセンス情報.ライセンス取得方法	パッケージ 参照
ライセンス情報.ライセンス区分	マシン許諾 参照

「資産番号」、「ソフトウェア名」、「数量」、「ライセンス名」には、CSV ファイルの列番号を設定します。「部署」および「備考」は、それぞれの値を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。そのほかの必要な項目は、固定値を設定してください。

「タスクの設定」での設定（「ライセンスキー追加」）

「ライセンスキー追加」の引き当て項目の設定例を次の図に示します。

図 10-31 「ライセンスキー追加」の引き当て項目の設定例（登録するソフトウェア資産が複数の場合）

管理項目	引き当て項目
対象となるソフトウェアの資産番号★	1 参照
対象となる部署名★	申請者部署名 参照
ソフトウェアキー情報.プロダクトID	2 参照
ソフトウェアキー情報.ライセンスキー	1 参照
ソフトウェアキー情報.シリアルNo.	3 参照
ソフトウェアキー情報.備考	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field128-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field128-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field255-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field255-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Area-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Area-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Code-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Code-2	参照

「対象となるソフトウェアの資産番号」および「対象となる部署名」は、「資産番号」と「部署」を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。また、「プロダクト ID」、「ライセンスキー」および「シリアル No.」には、CSV ファイルの列番号を設定します。

10.6 案件処理オプションを設定する (Flow Designer)

この節では、案件に対するオプションの設定方法について説明します。

案件には、実際に案件を作成して送信する際、完了までの処理期限を設定するかどうか、および次の作業者にメールを送信するかどうかを設定できます。

案件処理オプションは、Flow Designer で設定します。

10.6.1 処理期限を設定する

新規に案件を作成して送信してから、その案件が完了するまでの処理期限を設定します。この設定は任意です。処理期限を設定すると、期限を過ぎた案件は、受信トレイおよび送信トレイに赤字で表示されます。

案件の処理期限の設定手順を次に示します。

1. Flow Designer で「ツール」から [処理期限設定] ボタンをクリックする。

処理期限の日数を指定するダイアログが表示されます。

指定できる日数は、999 日までです。

2. 処理期限を日数で指定して、[OK] ボタンをクリックする。

処理期限の日数を指定するダイアログが閉じて、指定した日数が処理期限に設定されます。

処理期限が設定された案件は、受信トレイ画面および送信トレイ画面の「満了日」で期限を確認できます。

設定した処理期限を解除するには

処理期限を設定する手順で、処理期限の日数を「0」または空白にします。

10.6.2 メール送信を選択する

各作業者が案件を処理して次の作業者に送付する際に、次の作業者に案件が送付されたことを通知するメールを送信できます。この設定は任意です。なお、メールを送信するかどうかは案件単位またはアクティビティ単位で設定します。

メールを送信するための設定手順を次に示します。

1. Flow Designer で [メール編集] ボタンをクリックする。

Mail Designer が表示されます。


2. 「メール主題」、「メール本文」にデフォルトで表示する内容を指定する。

「メール主題」には 64 バイト、「メール本文」には 1,000 バイトまで指定できます。

ここで設定した内容は、各作業者がメールを送信する際に編集できます。

なお、何も指定しないと、メール送信の設定は有効になりません。


3. [登録] ボタンをクリックする。


Mail Designer が閉じて、指定した内容でメール送信の設定が有効になります。設定が有効になると、案件のすべてのアクティビティに通知メールアイテム（）が追加されます。

なお、メールを送信するかどうかは、実際に案件を送信するときにも選択できます。

4. メール送信の設定を変更したい通知メールアイテム（）を選択して、[編集] ボタンまたは [削除] ボタンをクリックする。

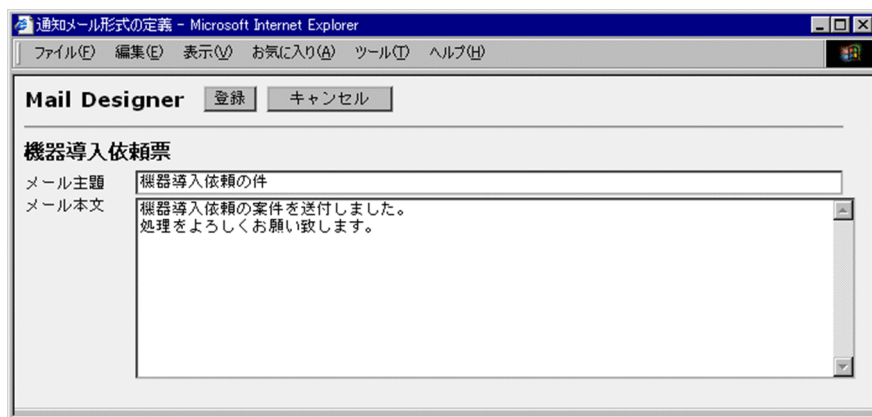
アクティビティごとにメール送信の設定を編集できます。

[編集] ボタンをクリックした場合は Mail Designer が表示されるので、任意の内容を指定します。[登録] ボタンをクリックすると、指定した内容でメール送信の設定が有効になり、通知メールアイテムがアクティビティ単位のもの（）に変更されます。[削除] ボタンをクリックした場合は、通知メールアイテムを削除してよいかどうかを確認するダイアログが表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。アクティビティ単位でメール送信の設定をしないとき、手順 4.は不要です。

なお、削除した通知メールアイテムを再度追加する場合は、対象となるアクティビティを選択して [通知メール追加] ボタン（）をクリックしてください。

Mail Designer を次の図に示します。

図 10-32 Mail Designer



メール送信の設定をアクティビティ単位から案件単位に変更するには

メール送信をするための設定手順で、「メール主題」および「メール本文」に指定した文字列をすべて削除します。[登録] ボタンをクリックすると、案件単位のメール送信の設定に変更してよいかどうかを確認するダイアログが表示されるので、[はい] ボタンをクリックします。

案件単位のメール送信の設定を解除するには

メール送信をするための設定手順で、「メール主題」および「メール本文」に指定した文字列をすべて削除します。

[登録] ボタンをクリックすると、案件単位のメール送信の設定が有効になっている通知メールアイテムがすべて削除されます。

注意事項

案件を送付したことを通知するメールは、ユーザ管理情報に登録されたメールアドレスを基に送信されます。そのため、メール送信先のユーザのメールアドレスが登録されていない場合は、メール送信を設定してもメールは送信されません。案件の作業員（メール送信元）のメールアドレスが登録されていない場合は、[サーバセットアップ] ダイアログの「メールの送信元アドレス」に設定したメールアドレスが送信元のメールアドレスになります。

- **Microsoft Internet Information Services での設定**

案件を送付したことを通知するメールを送信するには、Flow Designer での設定のほかに、Microsoft Internet Information Services で次の設定が必要です。

- **SMTP 仮想サーバの実行**

SMTP 仮想サーバが実行していることを確認します。SMTP 仮想サーバの設定方法については、[「5.10.1 SMTP 仮想サーバの実行」](#)を参照してください。

- **リモートドメインへの受信メールの中継**

SMTP 仮想サーバにリモートドメインを追加して、そのリモートドメインへ受信メールを中継する設定にします。リモートドメインへ受信メールを中継する設定方法については、[「5.10.2 リモートドメインの追加」](#)を参照してください。

10.7 登録された案件を変更する

この節では、作成途中で保存した案件や、Asset Console がサンプルで提供している案件を変更する方法について説明します。

案件を定義する際、すでに登録されている案件を流用したり、サンプルで登録されている案件を編集したりすることで、効率良く案件を定義できます。

登録された案件は、業務メニュー「案件定義」を選択すると表示される案件定義画面から変更します。

10.7.1 案件名を変更する

案件名は、状態が「作成中」の案件に対してだけ変更できます。

案件名を変更する手順を次に示します。

1. 案件定義画面で、名前を変更したい案件のチェックボックスをチェックして、[名前変更] ボタンをクリックする。
名称を指定するダイアログが表示されます。
2. 案件名を指定する。
案件名は同じ名前で複数登録できます。
キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
3. [OK] ボタンをクリックする。
名前を指定するダイアログが閉じて、指定した文字列で案件名が変更されます。また、「更新者」の欄に、変更したユーザの名前が表示されます。

10.7.2 案件を公開または公開停止にする

状態が「作成中」の案件を「公開」に変更して、新規案件を作成できるようにします。また、状態が「公開」の案件を「公開停止」に変更して、新規案件を作成できないようにします。

案件の状態を「公開」（または「公開停止」）に変更する手順を次に示します。

1. 案件定義画面で、状態を変更したい案件のチェックボックスをチェックして、[公開]（または [公開停止]）ボタンをクリックする。
2. 確認のダイアログが表示されるので、[OK] ボタンをクリックする。
キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。
選択した案件の状態が変更されます。また、「更新者」の欄に、変更したユーザの名前が表示されます。
なお、いったん「公開停止」に変更した案件も、再度「公開」に戻すことができます。

10.7.3 案件の定義内容を変更する

すでに登録されている案件は、状態が「作成中」の場合だけ定義内容を変更できます。状態が「公開」または「公開停止」の案件の場合は、コピーを作成して定義内容を変更します。

状態が「作成中」の場合は、定義内容を変更したい案件の「案件名」のアンカーをクリックすると、Flow Designer が表示されて、定義内容を変更できます。

状態が「公開」または「公開停止」の案件のコピーを作成する手順を次に示します。

1. 案件定義画面で、定義内容を変更したい案件の「案件名」のチェックボックスをチェックして、[コピー] ボタンをクリックする。

案件名を指定するダイアログが表示されます。案件名は同じ名前で複数登録できます。

キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2. 案件名を指定して、[OK] ボタンをクリックする。

ダイアログが閉じます。

3. 案件定義画面でコピーした案件の「案件名」をクリックする。

編集可能な状態で Flow Designer が表示されます。

10.7.4 案件を削除する

削除できる案件は、状態が「作成中」と「公開停止」の案件です。ただし、状態が「公開停止」の案件は、実行中の案件がある場合は削除できません。

実行中の案件は、業務メニュー「実行案件管理」をクリックすると表示される画面から削除できます。実行中の案件の削除方法については、マニュアル「運用ガイド」の「3.4 案件の管理（実行案件管理）」を参照してください。

不要な案件を削除する手順を次に示します。

1. 案件定義画面で、削除したい案件の「案件名」のチェックボックスをチェックして、[削除] ボタンをクリックする。

キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2. 確認のダイアログが表示されるので、[OK] ボタンをクリックする。

ダイアログが閉じて、選択した案件が削除されます。

10.8 FAQ（案件の定義）

この節では、案件を定義するに当たり、発生した問題に対して考えられる原因や対処方法について、FAQで説明します。

10.8.1 【メール編集】 ボタンと【処理期限設定】 ボタンが非活性のため選択できない

管理ノードやアクティビティを選択していると、【メール編集】 ボタンおよび【処理期限設定】 ボタンは選択できません。管理ノードやアクティビティ以外の部分（背景など）を一度選択してください。

Flow Designer での操作方法については、「[10.3.1 Flow Designer の各部の名称と使い方](#)」を参照してください。

10.8.2 Flow Designer で作成するメールの本文を、各ノードで変更したい

案件の実行時に、【送信先の選択】 ダイアログで本文を変更してください。

送信時のメールの編集方法については、マニュアル「運用ガイド」の「[3.1.1 新規に案件を作成する](#)」を参照してください。

10.8.3 案件のカテゴリを追加・変更したい

コード管理画面で、管理クラス「(Others)」をクリックしたあと、コード ID「MatterCategory」をクリックし、表示された画面でカテゴリを追加してください。

コードを追加する手順については、マニュアル「運用ガイド」の「[4.8.1 コードを追加する](#)」を参照してください。

10.8.4 案件のルートの途中で中断できるようにしたい

ルートの途中で中断できるようにしたい管理ノードに、完了アクティビティを追加します。

完了アクティビティを追加する手順については、「[10.3.2 作業業者や処理を配置する](#)」を参照してください。

10.8.5 処理期限を設定した案件が、期限を過ぎたらどうなるのか

送信トレイに、処理期限超過のアイコンで表示されます。また、案件名以外が赤く表示されます。案件の処理は、処理期限を過ぎても実行できます。

送信トレイに表示される案件については、マニュアル「運用ガイド」の「3.3.1 送信した案件の状況を確認する」を参照してください。

10.8.6 通常のアクティビティと完了アクティビティの違いとは

通常のアクティビティは、次の作業者に送付する処理のため、次の管理ノードを追加できます。完了アクティビティは、案件を完了させる処理のため、次の管理ノードを追加できません。

Flow Designer でのアクティビティの追加方法については、「[10.3.2 作業者や処理を配置する](#)」を参照してください。

10.8.7 Form Designer でオブジェクトの属性を統一したい

Form Designer の「属性操作」メニューを使用して、各オブジェクトの色、サイズなどを統一できます。

オブジェクトの属性を統一する方法については、「[10.4.4 オブジェクトのスタイルや位置をそろえる](#)」を参照してください。

10.8.8 Form Designer でオブジェクトの位置をきれいにそろえたい

Form Designer の「属性操作」メニューを使用して、オブジェクトの上下左右の位置をそろえられます。

オブジェクトの位置をそろえる方法については、「[10.4.4 オブジェクトのスタイルや位置をそろえる](#)」を参照してください。

10.8.9 Form Designer で【新規案件】ボタンに案件名を指定したが、【新規案件選択】ダイアログに表示されない

指定した案件の状態が「公開停止」になっている場合は表示されません。

10.8.10 ルートの途中の管理ノードで追加したテキストフィールドなどのオブジェクトを、その後の管理ノードに表示させたい

ルートの途中に配置された管理ノードの Form Designer で、新たにオブジェクトを定義した場合、それ以降の管理ノードに同じオブジェクトを引き継ぐには、Form Designer のメニュー「オブジェクト」－「定義済みオブジェクト」から表示させたいオブジェクトを選択します。

Form Designer で定義済みオブジェクトを追加する手順については、「[10.4.3\(1\)\(h\) 定義済みオブジェクト](#)」を参照してください。

10.8.11 Form Designer で【新規案件】 ボタンを定義したが、指定したい実行案件が表示されない

実行案件に指定できるのは、案件の状態が「公開」の案件だけです。それ以外は、案件実行時に作業者が選択するか、カテゴリを指定するだけとなります。

Form Designer で【新規案件】 ボタンを定義する方法については、「[10.4.3\(3\)\(k\) 実行案件](#)」を参照してください。

10.8.12 Form Designer で案件画面を編集したが、【登録】 ボタンが非活性のため登録できない

公開されている案件を編集している可能性があります。状態が「公開」の案件は編集できません。なお、メールの編集ができない、有効期限が設定できない、または追加できない場合も同様です。

すでに登録されている案件は、状態が「作成中」の場合だけ定義内容を変更できます。状態が「公開」または「公開停止」の案件の場合は、コピーを作成して定義内容を変更します。

案件のコピーの作成方法については、「[10.7.3 案件の定義内容を変更する](#)」を参照してください。

10.8.13 最後のノードに対してアクティビティを定義しないとどうなるか

案件実行時に、最後のノードでは確認をするだけとなります。

10.8.14 標準で提供されている案件の、「申請」、「承認」、「配布依頼」、「完了」のアクティビティに何も定義されていない

資産管理データベースを更新しないためです。

アクティビティの定義が必要となるのは、案件を次の作業者に送信するタイミングで、資産管理データベースのデータを登録・更新する場合だけです。案件を次の作業者に送信するだけであれば、定義は必要ありません。

10.8.15 案件を削除しようとしたが、メッセージが表示されて削除できない

案件の状態が「公開」の場合、削除できません。

案件を削除する手順については、「[10.7.4 案件を削除する](#)」を参照してください。

11

トラブルシューティング

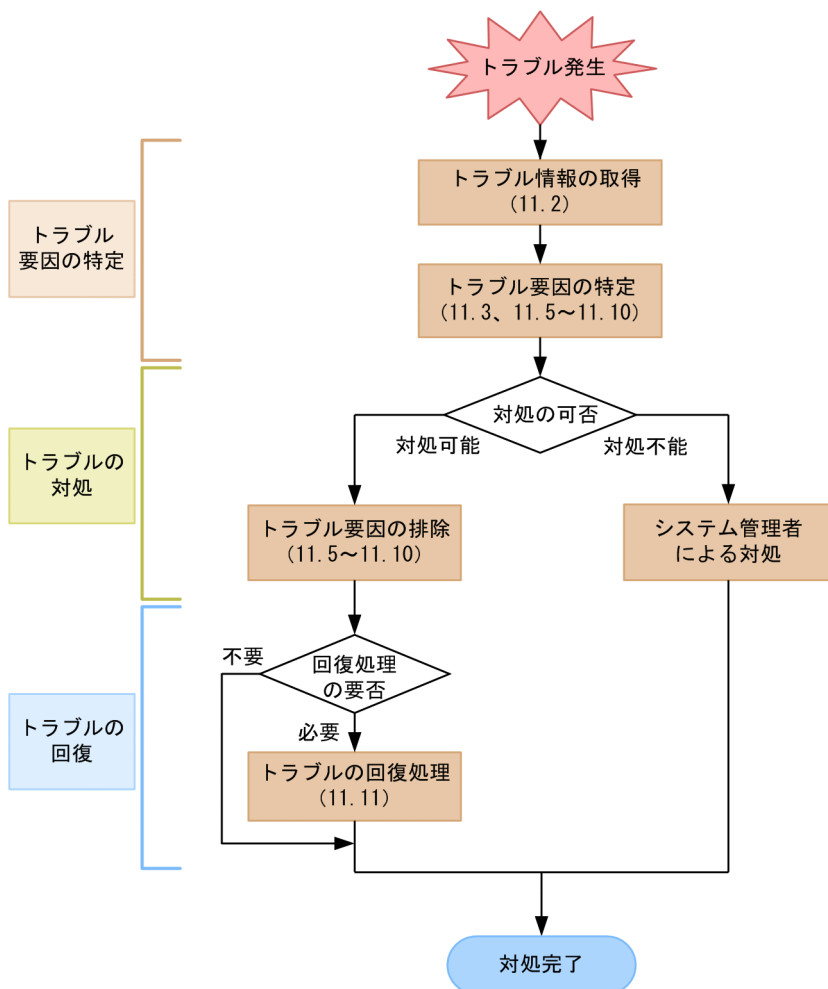
この章では、資産管理システムにトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

11.1 トラブルシューティングの流れ

この節では、資産管理システムにトラブルが発生したときの対処の流れについて説明します。トラブルごとの主要因と対処は、11.5～11.10 で説明します。

資産管理システムでトラブルが発生してから、回復するまでの作業の流れを次の図に示します。

図 11-1 トラブル発生時の対処の流れ



- **トラブル情報の取得**

トラブルが発生したら、まず、トラブル情報を取得してください。トラブル情報を取得する方法については、「[11.2 トラブル情報の取得](#)」を参照してください。

- **トラブル要因の特定**

エラーメッセージおよび発生した現象からトラブル要因を特定します。

- **トラブル要因の排除**

発生したトラブルに対処できる場合は、トラブルの要因を取り除きます。

- **システム管理者による対処**

発生したトラブルに対処できない場合は、システム管理者がトラブルの要因を取り除きます。

- **トラブルの回復処理**

必要に応じて、トラブルの回復処理をします。

トラブルに対処する前に、別の処理が実行中でないことを確認してください。資産管理システムのトランザクション処理については、「[11.4 資産管理システムのトランザクション](#)」を参照してください。

11.2 トラブル情報の取得

トラブルに対処する際には、<Asset Console のインストール先フォルダ>%log フォルダの下のログファイルを参照してください。

Asset Console のエラーに関して弊社にお問い合わせのときは、製品提供のバッチファイルを実行して一括取得したトラブル情報をお知らせください。

バッチファイルを実行してトラブル情報を取得する手順を次に示します。トラブル情報の取得は、資産管理サーバを運用しているマシン上で実行してください。また、64 ビットの OS で Asset Console のコマンドを実行する場合は、32 ビット用のコマンドプロンプトで実行する必要があります。実行手順については、「付録 F.2 64 ビットの OS でコマンドやタスクを実行する場合の注意事項」を参照してください。

1. Administrators 権限を持つユーザで資産管理サーバにログインする。

2. ASTTRBL.BAT を実行する。

ASTTRBL.BAT は次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%exe

出力先として指定したフォルダに、その時点のトラブル情報が出力されます。

トラブル情報取得 (ASTTRBL.BAT) バッチファイルの形式

ASTTRBL.BAT の形式を次に示します。

ASTTRBL. BAT "出力先フォルダ名"

出力先フォルダ名

取得したトラブル情報の出力先となるフォルダ名を、フルパスまたは相対パスで指定します。出力先フォルダ名は、必ず指定してください。

11.3 トラブル要因の特定

この節では、トラブル要因の特定方法について説明します。

トラブルが発生した場合、その対処方法を見つけるためには、メッセージや現象から、そのトラブルの要因を特定する必要があります。ここでは、メッセージの確認方法とメッセージの見方について説明します。また、資産管理システムでトラブルが発生した場合に制限される機能についても説明します。

11.3.1 トラブル要因の特定方法

資産管理サーバおよび Web ブラウザでのトラブルの確認方法について、次に説明します。

(1) 資産管理サーバでのトラブルの確認方法

1. メッセージログファイルからトラブル発生時の出力メッセージの有無を確認します。
2. メッセージが出力されている場合、次の要因のどれかに特定します。
 - 資産管理データベースに対するトラブル
 - Asset Console と連携するプログラムのトラブル
 - Microsoft Internet Information Services のトラブル
3. 資産管理データベースに対するアクセスエラーの場合は、メッセージログを確認します。
4. Asset Console と連携するプログラムのトラブルの場合は、メッセージログファイルの内容を見て、プログラムの連携に異常がないか確認します。
5. Microsoft Internet Information Services のトラブルの場合は、Microsoft Internet Information Services のログの内容を見て、通信シーケンスに異常がないか確認します。
なお、通信シーケンスで異常が確認されなかった場合は、Microsoft Internet Information Services と Web ブラウザの間でのトラブルと考えられます。

(2) Web ブラウザでのトラブル確認方法

ランタイムエラーが発生した場合は、サポートしていないバージョンの Windows Internet Explorer を使用している可能性があります。Windows Internet Explorer のバージョン、および必要なサービスパックがインストールされているか確認してください。Windows Internet Explorer のバージョンについては、「[4.1.1\(2\) 管理者のコンピュータ側の前提プログラム](#)」を参照してください。

11.3.2 メッセージの確認

トラブルが発生した場合、まず、イベントログ、標準出力または資産管理サーバが作成するログファイルにエラーメッセージが出力されているかどうかを確認してください。

エラーメッセージが出力されているときは、エラーメッセージのメッセージ種別からエラーが発生しているプログラム、トラブルの要因が特定できます。エラーメッセージの詳細については、「[11.3.3 メッセージの見方](#)」を参照してください。

資産管理システムの重度のトラブルに関するエラーメッセージは、イベントログファイルに出力されます。イベントログファイルを確認してください。

また、資産管理サーバが出力するエラーメッセージは、ファイルとして出力されます。エラーメッセージが出力されるファイルの格納先を次に示します。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%log

log フォルダは、Asset Console をインストールしたときに、デフォルトで作成されます。log フォルダの下に資産管理サーバが出力するメッセージログファイルを次の表に示します。

表 11-1 log フォルダに作成されるファイル

ファイル名	説明
ASTCIMn.LOG	• データベースアクセス用の API のメッセージログを出力します。
ASTMESn.LOG	• 資産管理サーバの起動・停止などの情報メッセージ、プログラムのトラブル、通信トラブル、データベースのトラブルなどの警告メッセージおよびエラーメッセージを出力します。 • メッセージログは、資産管理システムの運用状況の確認に利用できます。

(凡例)

n は、1～9 のファイル名の通番を示します。

現在のファイルにログを出力していき、出力できるログの上限を超えた場合に、番号を一つ繰り上げたログファイルが作成されます。ただし、番号が 9 まで設定された場合は、1 に戻ります。最新のログファイルは、ファイル属性（日付・時間）で見分けてください。

なお、<Asset Console のインストール先フォルダ>%log%exp.def は変更しないでください。

11.3.3 メッセージの見方

ここでは、標準出力のメッセージログ、およびメッセージログファイルに出力されるメッセージの見方について説明します。

(1) 標準出力のメッセージログの見方

資産管理サーバで出力されるメッセージログは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。

メッセージの形式

KDAM nnnn-m メッセージテキスト

KDAM

メッセージを出力したプログラムが資産管理サーバであることを表します。

nnnn

メッセージを出力したコンポーネントコード（いちばん左の n） + 通番を表します。表示されるコンポーネントコードを次に示します。

- 7: コマンド
- 8: インポートおよびエクスポート

m

メッセージの種別を表します。各種別を説明します。

- E (ERROR)
プログラムを終了させなければならない、致命的なエラーが発生したことを通知するメッセージです。
- W (WARNING)
プログラムを終了させる必要はありませんが、一部機能が使えないなどのトラブルが発生したことを通知するメッセージです。
- Q (QUESTION)
ユーザが応答する必要のあるメッセージです。
- K (WORKING)
処理の継続を通知するメッセージです。
- I (INFORMATION)
情報を通知するメッセージです。

(2) メッセージログファイルの見方

資産管理サーバで出力されるメッセージログファイルは、メッセージ出力時間、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。

メッセージの形式

yyyymmddhhmmss.ttt pid(tid) KDAM nnnn-m メッセージテキスト

yyyymmddhhmmss.ttt

メッセージを出力した日時を表します。

pid

メッセージを出力したプロセス ID を表します。

tid

メッセージを出力したスレッド ID を表します。

KDAM

メッセージを出力したプログラムが資産管理サーバであることを表します。

nnnn

メッセージを出力したコンポーネントコード（いちばん左の n）+通番を表します。表示されるコンポーネントコードを次に示します。

- 0：インストールおよびセットアップ
- 1：資産管理サーバ
- 2、3：エクステンション
- 4、5：データベースアクセス DLL
- 6：Asset Console の LIB ファイルおよび DLL ファイル
- 7：コマンド
- 8：インポートおよびエクスポート
- 9：共通 DLL

m

メッセージの種別を表します。各種別を説明します。

- E (ERROR)
プログラムを終了させなければならない、致命的なエラーが発生したことを通知するメッセージです。
- W (WARNING)
プログラムを終了させる必要はありませんが、一部機能が使えないなどのトラブルが発生したことを通知するメッセージです。
- Q (QUESTION)
ユーザが応答する必要のあるメッセージです。
- K (WORKING)
処理の継続を通知するメッセージです。
- I (INFORMATION)
情報を通知するメッセージです。

11.3.4 トラブル発生後に制限される機能

資産管理システムでトラブルが発生した場合、資産管理サーバからメッセージの種別「E」のメッセージが出力されます。トラブルの発生によって、制限される資産管理システムの機能を次に説明します。

(1) 緊急・重度のシステムトラブルが発生した場合

トラブルの回復が望めない、または稼働し続けることで情報を破壊するおそれがある緊急・重度のシステムトラブルが発生した場合、資産管理システムのすべてのサービスが閉塞されます。

緊急・重度システムトラブルを次に示します。

- 環境定義ファイルの設定誤りまたは読み込みエラー
- メタ定義・制御テーブル破壊の検出
- 一般保護例外などのプログラム例外
- プログラムの内部エラー

(2) 緊急・重度以外のシステムトラブルが発生した場合

トラブルの回復には時間が掛かりますが、稼働を続けても情報が破壊されるおそれはない緊急・重度以外のシステムトラブルが発生した場合、トラブルが検出された実行中の処理が打ち切られます。

緊急・重度以外のシステムトラブルを次に示します。

- Web ブラウザからのメッセージ形式の不正
- メッセージログ出力不可
- DBMS からデータベース接続切断
- 資産管理システムと連携するプログラムで発生したトラブルの通知
- 資産情報の追加、変更および削除時のアクセスエラー通知（ただし、キーとなるプロパティのデータがない場合は除く）
- プログラムの内部エラー

(3) 運用上のトラブルが発生した場合

次に示す資産管理システムの運用上のトラブルが発生した場合、資産管理システムのサービスなどの閉塞はありません。

- ユーザ ID およびパスワードの入力誤りによるログイン時のエラー
- 資産管理システム稼働中のインポートおよび JP1/IT Desktop Management 2 - Manager からの取り込み時のトラブル

(4) 一時的なトラブルが発生した場合

時間を置いてから再度実行することで回復できる可能性のある一時的なトラブルが発生した場合、トラブルが検出された実行中の処理が打ち切られ、セッションが解放されます。

一時的なトラブルの例を次に示します。

- メモリアロケーション不可またはデータベースへの接続エラー
- データベースに対するロックエラー
- 資産管理システム稼働中のインポートおよび JP1/IT Desktop Management 2 - Manager からの情報取り込み時のトラブル

11.4 資産管理システムのトランザクション

資産管理システムのトランザクション処理を、Web ブラウザ実行時およびコマンド実行時別に説明します。

11.4.1 Web ブラウザ実行時のトランザクション

資産管理システムは、Web ブラウザからの要求を一つの処理単位としますが、トランザクションを管理する機能はありません。DBMS のトランザクション管理機能を利用して、資産管理データベースへの出力アクセス時や複数の関連テーブルの追加・更新操作を一つのトランザクションとします。これによって、資産管理データベーステーブル間の不整合を防止するとともに、資産管理サーバでトラブルが発生した場合、実行中のトランザクションを破棄できます。

例えば、Web ブラウザ側にエラーが通知された場合でも、資産管理データベースのトランザクションは破棄されません。Web ブラウザ側でタイムアウトや通信トラブルが発生した場合には、トラブルが発生した直前の処理を再入力してください。

11.4.2 コマンド実行時のトランザクション

jamimport（インポート）コマンドでは、資産管理データベースへ大量のテーブルデータを一括して入力できるようにするため、トランザクションは管理されません。

したがって、コマンド実行中にトラブルが発生した場合、テーブル同士の関係が不整合となっているおそれがあります。この場合は、コマンドを再実行し、すべてのデータを登録して、資産管理データベースのテーブルを回復してください。

11.5 Asset Console のトラブルの主な要因と対処

Asset Console の環境設定時に、トラブルが発生した場合、[サーバセットアップ] ダイアログの設定や DBMS の設定に問題がないかを確認してください。

Asset Console の環境設定時およびログインしたあとの操作中に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を示します。

11.5.1 資産管理サーバ設定時のトラブル

資産管理サーバ設定時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

(1) 「インストールされていません。」といったメッセージが出力され、Asset Console が起動しない

Asset Console が正しくインストールされていないおそれがあります。Asset Console をインストールし直してください。

(2) システム起動時に「0xC0000022 エラー(アプリケーションを正しく初期化できない)」といったエラーが出力される

System Path 変数にネットワークドライブ名（他マシンへのパス）が含まれており、そのマシンに対するアクセス権がない場合、システム起動時に「0xC0000022 エラー(アプリケーションを正しく初期化できない)」のエラーが出力されることがあります。また、Service Control Manager がイベント ID：7009、7000 の警告メッセージを出力することがあります。指定したマシンに対するアクセス権があるか確認してください。

11.5.2 資産管理データベース作成時のトラブル

資産管理データベースの作成時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

(1) 「環境情報に設定した値が正しくありません。」といったメッセージが出力される

[サーバセットアップ] ダイアログでの設定が実行されていない可能性があります。[サーバセットアップ] ダイアログで設定を実行してください。

(2) DB のユーザ認証の失敗によって「資産管理システムの初期データの作成に失敗しました。」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTCIMn.LOG ファイル、または ASTMESn.LOG ファイルが出力されます。

- 「Invalid password for authorization identifier HiRDB」

これは、[サーバセットアップ] ダイアログの「データベース情報」の「ログイン ID」とパスワードが正しく設定されていないおそれがあります。[サーバセットアップ] ダイアログの「データベース情報」の「ログイン ID」とパスワードを正しく設定してください。

(3) 「すでにキーが存在したため追加できません。」といったメッセージが出力される

すでにデータベースが作成されている可能性があります。

資産管理データベースの作成を一度実行したあとで再度実行した場合にこのメッセージが出力されますが、データベースに影響はありません。テーブルを再作成する場合は、テーブルおよびビューをすべて削除してから、資産管理データベースの作成を実行してください。

(4) エラーが発生して終了してしまう

データベース作成時に指定したデータベースの容量が満杯になっているおそれがあります。

Asset Console をアンインストールしてから再度インストールしてください。インストールするディスクには、インストール時に設定したデータベース容量に加えて、データベースが自動的に割り当てる管理領域分の容量が必要です。管理領域の容量はリリースノートを参照してください。

11.5.3 Asset Console へのログイン時のトラブル

Asset Console へのログイン時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

(1) ログイン画面が表示されない

次に示す要因が考えられます。

- Asset Console のインストール後に Microsoft Internet Information Services をインストールしている。
Microsoft Internet Information Services のインストール後、再度 Asset Console をインストールしてください。
- World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing が起動していない。

World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing が起動しているかどうかを確認してください。

- Windows Internet Explorer の設定で、「アクティブスクリプト」が「無効にする」になっている。
インターネットオプションの「セキュリティ」タブで、[レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックすると表示される [セキュリティの設定] ダイアログの「アクティブスクリプト」の設定を確認してください。
- Windows Server 2012、Windows Server 2008 または Windows Server 2003 を資産管理サーバとして使用している場合、Asset Console をインストールすると作成される jplasset という名前の Web サービス拡張を誤って削除している。
jplasset という名前の Web サービス拡張がないときは、再度作成してください。Web サービス拡張の作成方法については、「[11.5.5 Web サービス拡張「jplasset」の再作成](#)」を参照してください。

(2) 「サーバが起動中のためしばらくしてからログインしてください。」といったメッセージが出力され、しばらくしても同じ状態のままである

次に示す要因が考えられます。

- DBMS に接続できない。
DBMS の稼働状態を確認してください。
- Microsoft Internet Information Services の設定に誤りがある。
インターネットインフォメーションサービスマネージャから仮想ディレクトリの設定内容を確認してください。
- ODBC データソースが存在していない。
データベースに接続するための ODBC データソースを作成してください。ODBC データソースの作成については、「[5.5 データソースの作成](#)」を参照してください。
- 資産管理データベースが作成されていない。
資産管理データベースが作成されていることを確認してください。
- 資産管理データベースに接続できない。
接続時に指定したユーザ ID またはパスワードが正しいかを確認してください。

(3) ログイン画面が表示されるが、ログインできない

次に示す要因が考えられます。

- 資産管理サーバが資産管理データベースと接続できていない。
データベースの接続に必要なデータソースの作成については、「[5.5 データソースの作成](#)」を参照してください。
- Windows Internet Explorer の設定で、「セッションごとの Cookie の使用許可」または「暗号化されていないフォームデータの送信」が、「無効にする」になっている。

インターネットオプションで、「セッションごとの Cookie の使用許可」または「暗号化されていないフォームデータの送信」の設定を確認してください。

- 資産管理データベースが作成されていない。

必ず、事前に [サーバセットアップ] ダイアログを起動して、「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を入力して、[OK] ボタンをクリックしてください。ログイン ID やサービス名は、予約語を避けてください。予約語は Asset Console のインストール先フォルダに格納されている RESWORDS.TXT を参照してください。そのあとで、資産管理データベースを作成してください。

- システムの環境設定等の変更で World Wide Web Publishing Service サービスを停止した場合、World Wide Web Publishing Service サービスを開始しても資産管理にログインができない場合があります。このときはシステムを再起動して World Wide Web Publishing Service サービスを再開始してください。

(4) ユーザ認証に失敗する

次に示す要因が考えられます。

- DBMS に接続できない。
DBMS の稼働状態を確認してください。
- ユーザ ID およびパスワードが登録されていない。
ユーザ ID およびパスワードを登録してください。
- ユーザ ID およびパスワードの入力が誤っている。
正しいユーザ ID およびパスワードを入力してください。

(5) 「製品バージョンとデータベースバージョンが異なるため、ログインに失敗しました。」といったメッセージが出力される

資産管理データベースを移行していない可能性があります。資産管理データベースをアップグレードしてください。

(6) 「利用ユーザ数の上限に達しました。」といったメッセージが出力される

Asset Console を同時に利用できるログインユーザ数の上限を超えたため、ログインできません。Asset Console を利用していないユーザをログアウトさせるか、[サーバセットアップ] ダイアログの「セッション情報の設定」の「同時利用ログイン数」で設定した値を変更してください。

11.5.4 Asset Console 操作時のトラブル

Asset Console にログインしたあとの操作中に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

(1) 操作画面から [CSV] ボタン、または [PDF] ボタンをクリックしても、何も出力されない

次に示す要因が考えられます。

- Microsoft Internet Information Services のロックダウンツールを適用した際、中間ファイルを作成するフォルダへのアクセス権が変更されている。
＜資産管理サーバの仮想ディレクトリ＞¥csv のアクセス権の設定を確認して、「Web Anonymous Users」に「書き込み」権限を与える設定にしてください。資産管理サーバの仮想ディレクトリは、デフォルトでは＜Asset Console のインストール先フォルダ＞¥wwwroot です。
- Windows Server 2012、Windows Server 2008 または Windows Server 2003 の場合、ダウンロードするファイルの拡張子が、MIME 登録されていない。
ダウンロードするファイルの拡張子を MIME 登録してください。

(2) 業務メニュー「ログ一覧」からファイル名のアンカーをクリックしても、何も出力されない

Windows Server 2012、Windows Server 2008 または Windows Server 2003 の場合、拡張子「.log」が MIME 登録されていない可能性があります。再度、Microsoft Internet Information Services に、Asset Console の仮想ディレクトリを設定してください。仮想ディレクトリの設定方法については、「[5.6 仮想ディレクトリの設定](#)」を参照してください。

(3) ログ一覧業務で、ファイルのダウンロード内容が空になったり、新規ファイルとして空のファイルが表示されたりする

Internet Explorer のキャッシュをクリアしてから、ファイルをダウンロードしたり、ファイルダウンロード時にファイルを開いたりした場合、ファイルのダウンロード内容が空になったり、新規ファイルとして空のファイルが表示されることがあります。この場合は、いったん Asset Console からログアウトして、別のブラウザを起動し、再度ログインしてから、ファイルをダウンロードしてください。

(4) 画面に何も表示されない

ネットワーク障害などによってサーバからの応答がない状態となっているおそれがあります。Web ブラウザをいったん閉じて再度ログインしてください。

11.5.5 Web サービス拡張「jp1asset」の再作成

Windows Server 2012、Windows Server 2008 または Windows Server 2003 上で資産管理サーバを運用する場合、Asset Console をインストールすると、自動的に jp1asset という名前で Web サービス拡張が登録されます。誤ってこの Web サービス拡張を削除してしまった場合は、Web サービス拡張

「jplasset」を再作成したあと、アプリケーションプールを作成してください。アプリケーションプールの作成手順については、次に示す説明箇所を参照してください。

- Microsoft Internet Information Services 6.0 を使用する場合
[5.8.1(2) アプリケーションプールの作成]
- Microsoft Internet Information Services 7.0、7.5、8.0 または 8.5 を使用する場合
[5.8.2(3) アプリケーションプールの作成]

Windows Server 2003 の場合を例に、Web サービス拡張「jplasset」の作成手順を次に示します。

1. インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。
2. 資産管理サーバの「Web サービス拡張」を選択する。
3. 「拡張」タブが選択されていることを確認して、「新しい Web サービス拡張を追加」を選択する。
[新しい Web サービス拡張] ダイアログが表示されます。
4. 「拡張名」に任意の名称を指定する。
「拡張名」には、例えば「aim」のような名称を指定します。
5. [追加] ボタンをクリックする。
[ファイルの追加] ダイアログが表示されます。
6. [参照] ボタンをクリックすると表示されるダイアログで、ファイルを指定して、[開く] ボタンをクリックする。
資産管理サーバの仮想ディレクトリに格納された次のファイルをすべて追加してください。
 - jamwscript.dll
 - bin¥jamlogin.dll
 - jamenter.dll
 - jamfile.dll
 - jamhtmlfile.dll資産管理サーバの仮想ディレクトリは、デフォルトでは<Asset Console のインストール先フォルダ>¥wwwroot です。
7. 「拡張の状態を許可済みに設定する」のチェックボックスをチェックする。
8. [OK] ボタンをクリックする。
[新しい Web サービス拡張] ダイアログが閉じて、「Web サービス拡張」一覧に、任意に指定した拡張名で Web サービスが追加されます。

Windows Server 2012 および Windows Server 2008 での Web サービス拡張「jplasset」の作成手順については、「5.8.2(5) ISAPI の制限の設定」を参照してください。

11.5.6 仮想ディレクトリの再設定

Microsoft Internet Information Services を再構築した場合、仮想ディレクトリを再設定する必要があります。仮想ディレクトリの設定方法については、「[5.6 仮想ディレクトリの設定](#)」を参照してください。

11.6 Web サーバのトラブルの主な要因と対処

トラブルが発生した場合、システムリソースが不足していないか、Microsoft Internet Information Services に異常を示すイベントログが出力されていないかを確認してください。

同じ Microsoft Internet Information Services 上で、アプリケーション保護設定が「低 (IIS プロセス)」または「中 (プール)」のほかのプログラムを利用している場合には、利用しているプログラム側に問題があるおそれがあります。

また、ネットワークでトラブルが発生していないか、Microsoft Internet Information Services にトラブルが発生していないかも確認してください。「[5.8 Microsoft Internet Information Services を使用する場合の設定](#)」を参照して、Web サーバの設定が正しいかを確認してください。

11.7 DBMS のトラブルの主な要因と対処

トラブルが発生した場合、資産管理システムが使用する DBMS のクライアントライブラリにトラブルはないかを確認してください。

11.7.1 DBMS のトラブル

DBMS の発生トラブル別に、その要因および調査方法を次に示します。

(1) DBMS の環境が誤っているか、または破壊されている

次に示す要因が考えられます。

- DBMS クライアントの DLL の読み込みに失敗した。
資産管理サーバと資産管理データベースサーバを分散している場合、DBMS のクライアント環境が正しくインストールされているか確認してください。
- DBMS ドライバが存在しない。
DBMS のクライアント環境が正しくインストールされているか確認してください。
- DBMS への同時接続数が超過している。
DBMS で利用可能な同時接続数を上回る接続を行う運用になっていないか、設定した内容が正しいか確認してください。
- ネットワークの設定が、DBMS サーバまたはそれを含むネットワークに到達できない設定になっている。
DBMS サーバの存在するネットワークへの通信路設定および、DBMS サーバが認識可能か否かを確認してください。

(2) 資産管理データベースへの接続がエラーになる

次に示す要因が考えられます。

- DBMS サーバが起動されていない、閉塞中、または停止仕掛かり中である。
DBMS が正しく運用されているかを確認してください。
- ネットワークの設定が、DBMS サーバまたはそれを含むネットワークに到達できない設定になっている。
DBMS サーバへの通信路を確認してください。
- 接続時に指定したユーザ ID またはパスワードに誤りがある。
ユーザ ID またはパスワードが正しいかを確認してください。
- DBMS サーバのトラブルによるタイムアウト、リソース不足などが発生している。
DBMS の稼働状態を確認してください。

(3) スクリプトの実行でエラーになる

次に示す要因が考えられます。

- ディスクのアクセスに失敗している。
ディスクが満杯、アクセス権の問題、または I/O エラーなどが発生していないかを確認してください。
- トランザクションログが満杯である。
Asset Console のログにトランザクションログの満杯を示すメッセージが出力されている場合には、DBMS のトランザクションログの設定を確認してください。この場合、トランザクションログの取得を中止するか、または定期的にバックアップを取得する運用にすることをお勧めします。
- 排他制御によるロックエラーまたはデータベース接続のタイムアウトが発生している。
DBMS の稼働状態を確認してください。
- スクリプトのバッファのオーバーフローが発生している。
- スクリプトの構文が誤っている。
- 対象のテーブルが存在しない。

環境をカスタマイズしている場合、カスタマイズの内容に問題がないかを確認してください。

(4) 資産管理データベースの作成時に、エラーが発生して実行が停止する

データベース格納先のディスク容量、またはデータベース作成時に指定したデータベースの容量が満杯になっているおそれがあります。

データベース作成時に表示される、データベースの詳細設定のダイアログの「サイズ」、「管理領域」および「動作領域」の分だけ容量に空きがあるディスクに、資産管理データベースを再作成してください。

(5) ログイン画面は表示されるが、「ページを表示できません」といったメッセージが表示されて、ログインできない

資産管理データベースが作成されていない可能性があります。

必ず、事前に [サーバセットアップ] ダイアログを起動して、「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を入力して、[OK] ボタンをクリックしてください。

ログイン ID やサービス名は、予約語を避けてください。予約語は Asset Console のインストール先フォルダに格納されている RESWORDS.TXT を参照してください。

そのあとで、資産管理データベースを作成してください。

(6) データベース接続の認証に失敗する

次の文字列で始まるエラーメッセージが、ログに出力されます。

- KDAM5001-E[HY000] (状況に応じて出力される文字列) KFPA11561-E

これは、Asset Console の稼働後に、「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」のどちらかを変更した可能性があります。

[サーバセットアップ] ダイアログを起動して、「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を、資産管理データベースを作成したときの状態に戻してください。

運用中に、「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を別の値には変更できません。

(7) データベース通信エラーが発生しているか、またはデータベース内でエラーが発生している

次の文字列で始まるエラーメッセージが、ログに出力されます。

- KDAM5001-E[HY000] (状況に応じて出力される文字列) KFPA11723-E
- KDAM5001-E[HY000] (状況に応じて出力される文字列) KFPA11728-E

これは、DBMS サーバが起動中、閉塞中または停止中の可能性があります。次に示す内容を確認してください。

- サービス「HiRDB/EmbeddedEdition_AM1」が起動しているかを確認してください。停止している場合は、Administrators 権限を持つユーザで jamemb_dbstart.bat を実行し、起動してください。完全に起動してから、World Wide Web Publishing Service を再起動してください。
ログの詳細については、マニュアル「JP1 組み込みデータベース メッセージ」を参照してください。
- ネットワークケーブルが Asset Console のサーバに対して確実に接続されていることを確認してください。ネットワークケーブルがサーバから抜かれた場合、データベースと Asset Console 間の通信ができなくなります。

(8) データベース容量不足が発生している

次の文字列で始まるエラーメッセージが、ログに出力されます。

- KDAM5001-E[HY000] (状況に応じて出力される文字列) KFPA11756-E

これは、データベース領域がページ不足になっているおそれがあります。

資産管理データベースを再編成してください。再編成してもエラーメッセージが出力される場合は、資産管理データベースを再作成して、サイズを変更してください。

資産管理データベースを再編成する手順については、「[12.2.1 \[データベースマネージャ\] ダイアログからの資産管理データベースの再編成](#)」または「[12.2.2 コマンドでの資産管理データベースの再編成](#)」を参照してください。また、資産管理データベースのサイズを変更する手順については、「[付録 E.2 データベースのサイズの変更](#)」を参照してください。

(9) 資産管理データベースを作成したドライブの空き容量が減少している

データベースの作業表用ファイル（SQL 文を実行するときに必要とする一時的な情報を格納するファイル）の容量が自動拡張によって、ドライブの空き容量を圧迫しているおそれがあります。

作業表用ファイルの容量は、大量の検索結果を出力したときに自動拡張されます。資産管理データベースを作成したドライブの空き容量が圧迫された際には、jamemb_workcomp.exe を実行することで、作業表用ファイルで自動拡張された領域を解放できます。

ここでは、データベースの作業表用ファイルで、自動拡張された領域を解放する jamemb_workcomp.exe の機能、形式、戻り値およびコマンド実行時の注意事項について説明します。

jamemb_workcomp.exe は次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%exe

(a) 機能

データベースの作業表用ファイルで、自動拡張された領域を解放します。

(b) 形式

jamemb_workcomp.exe

(c) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
11	オプションの書式に誤りがあります。
101 以上	そのほかのエラーで終了しました。

(d) コマンド実行時の注意事項

Administrators 権限を持つユーザで jamemb_workcomp.exe を実行してください。

(10) 「KFPO00107-E」のメッセージが出力される

データベースマネージャを操作時に「KFPO00107-E」のメッセージが出力された場合は、メモリ不足などで作業ファイルが破壊されている、または完全にプロセスが終了する前に DB のサービスを起動した可能性があります。この場合、データベースマネージャで再度実行してください。それでも回避されない場合は、次の(a)(b)に示すファイルをすべて削除して環境を回復したあとに、再度実行してください。(b)については、存在していない場合は削除する必要はありません。なお、回復手順実行後、エクスプローラな

どの他アプリケーションで<Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%tmp にアクセスしたまま再実行しないでください。

(a)

- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%uxpldir%spool%system%filmng.dat
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%uxpldir%spool%system%flg.dat
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%uxpldir%spool%system%shmmng.dat

(b)

- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%spool%~pdatmode
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%spool%~pdipcid
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%spool%oslmqid
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%spool%oslsmid
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%spool%pdprcsts
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%spool%scdqid1
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%spool%scdqid2
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%spool%pdommenv
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%tmp%pdommenv
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%uxpldir%spool%shm の下の全ファイル
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%uxpldir%spool%system%semmng.dat
- <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%uxpldir%spool%system%msgmng.dat

11.8 Web ブラウザのトラブルの主な要因と対処

トラブルが発生した場合、資産管理システムが使用する Web ブラウザの実行環境にトラブルはないかを確認してください。

Web ブラウザで発生するトラブル別に、主な要因および対処を次に示します。

11.8.1 Web ブラウザが異常終了しているかまたはハングアップしている

次に示す要因が考えられます。

- Web ブラウザの実行環境に誤りがあるか、またはレジストリや前提となる DLL が破壊されている。
正しい環境に戻すか、または Web ブラウザを再インストールしてください。
- Web ブラウザのバージョンに問題がある。
Windows Internet Explorer 7、Windows Internet Explorer 8、Windows Internet Explorer 9、Windows Internet Explorer 10、または Windows Internet Explorer 11 を使用してください。
- プラグインに障害が発生している、またはプラグインに問題がある。
対策版がリリースされていたら、対策版の Web ブラウザをインストールしてください。
- コンテンツに含まれるコントロールに障害が発生している、またはコンテンツに含まれるコントロールに問題がある。
対策版がリリースされていたら、対策版の Web ブラウザをインストールしてください。
- スクリプトに障害が発生している、またはスクリプトに問題がある。
稼働状態を確認してください。また、対策版がリリースされていたら、対策版の Web ブラウザをインストールしてください。
- Web ブラウザに問題がある。
対策版がリリースされていたら、対策版の Web ブラウザをインストールしてください。
- Windows Internet Explorer 9 以降を使用する場合、Windows Internet Explorer が動作するマシンの GPU によって、Windows Internet Explorer の画面がフリーズする、真っ白なページが表示される、または、正しい位置に表示されないといった現象が発生することがあります（技術情報:KB2618117）。この現象が発生する場合は、技術情報を参照し、Windows Internet Explorer の設定を見直してください。

11.8.2 通信上のトラブルが発生している

次に示す要因が考えられます。

- ルーティングテーブル破壊、またはほかのソフトウェアと通信ポートの競合によるネットワーク障害が発生している。

ルーティングテーブルを破壊される前の状態に戻すか、またはほかのソフトウェアと競合しないように通信ポートを再設定してください。

- Microsoft Internet Information Services、またはプロキシサーバが停止しているか、またはエラーが発生している。
正しく運用しているかを確認してください。

11.8.3 GUI が正しく表示されない

次に示す要因が考えられます。

- 資産管理データベースへ不正に直接アクセスすることによる情報書き換え、論理データベース構造の破壊などによって、資産管理データベースが破壊されている。

バックアップデータを取得している場合、取得しているバックアップデータを使用して、元の状態に戻してください。

バックアップデータを取得していない場合、資産管理データベースを初期化して、再作成してください。

- 「アクティブスクリプト」が「無効にする」になっている。

Windows Internet Explorer のインターネットオプションの「セキュリティ」タブで、[レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックすると表示される [セキュリティの設定] ダイアログの「アクティブスクリプト」を有効にしてください。

- 「バイナリビヘイビアとスクリプトビヘイビア」が「無効にする」になっている。

Windows Internet Explorer のインターネットオプションの「セキュリティ」タブで、[レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックすると表示される [セキュリティの設定] ダイアログの「バイナリビヘイビアとスクリプトビヘイビア」を有効にしてください。

- Windows Internet Explorer の接続先サイトがイントラネットまたは信頼済みサイトへ登録されていない。

イントラネットへ登録する場合は、次の手順で登録してください。

1. [ツール] - [インターネットオプション] を開く。
2. [セキュリティ] タブの [イントラネット] アイコンを選択し「サイト」ボタンをクリックする。
3. 「詳細」ボタンをクリックする。
4. Asset Console のサイトを追加する。

信頼済みサイトへ登録する場合は、次の手順で登録してください。

1. [ツール] - [インターネットオプション] を開く。
2. [セキュリティ] タブの [信頼済みサイト] アイコンを選択し「サイト」ボタンをクリックする。
3. Asset Console のサイトを追加する。

- Asset Console に接続する Windows Internet Explorer のセキュリティゾーンには、次のオプション設定が必要です。設定は、Windows Internet Explorer のインターネットオプションの「セキュリティ」タブで行います。
 - 「Web サイトがアドレスバーやステータスバーのないウィンドウを開くのを許可する」を有効にする。
 - 「スクリプト化されたウィンドウを使って情報の入力を求めることを Web サイトに許可する」を有効にする。
 - 「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」を有効にする。

11.8.4 ログイン画面が表示できない

次に示す要因が考えられます。

- World Wide Web Publishing Service が起動していない。
World Wide Web Publishing Service が起動しているかどうか確認してください。
- 「アクティブスクリプト」が「無効にする」になっている。
Windows Internet Explorer のインターネットオプションの「セキュリティ」タブで、[レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックすると表示される [セキュリティの設定] ダイアログの「アクティブスクリプト」を有効にしてください。

11.8.5 ログインできない

次に示す要因が考えられます。

- 「セッションごとの Cookie の使用許可」が「無効にする」になっている。
「セッションごとの Cookie の使用許可」を有効にしてください。
- 「暗号化されていないフォームデータの送信」が「無効にする」になっている。
「暗号化されていないフォームデータの送信」を有効にしてください。
- 「ページの自動読み込み」が「無効にする」になっている。
「ページの自動読み込み」を有効にしてください。
- 資産管理サーバが資産管理データベースと接続できていない。
資産管理サーバが資産管理データベースと接続できているか確認してください。

11.8.6 ファイルをダウンロードできない

次に示す要因が考えられます。

- ダウンロードするファイルの拡張子が、MIME 登録されていない。

ダウンロードするファイルの拡張子を MIME 登録してください。

- Windows Internet Explorer の設定で、「ファイルのダウンロード」が「無効にする」になっている。「ファイルのダウンロード」を有効にしてください。

11.8.7 検索結果が表示できない

Web ブラウザのタイムアウトが発生しているおそれがあります。詳細については、Microsoft 社のホームページを参照してください。

また、検索する場合は、検索時間を短くするために、検索結果が多くならないような検索条件を指定してください。

11.8.8 アンカーやボタンをクリックすると、空のウィンドウが表示される

Windows Internet Explorer11 を使用する場合、アンカーやボタンをクリックすると、空のウィンドウが表示されることがあります（技術情報:KB2909974）。この現象が発生する場合は、技術情報を参照し、Windows Internet Explorer の設定を見直してください。

11.8.9 PDF が出力されない

Windows Internet Explorer の累積修正プログラムやサービスパックを適用すると ActiveX の処理が変更され、PDF が出力されなくなるおそれがあります。その場合は、ActiveX コントロールを有効にしてください。

11.8.10 Windows Internet Explorer がタイムアウトする

カスタマイズ情報のインポート実行中に GUI からの操作を行うと、Windows Internet Explorer がタイムアウトすることがあります。カスタマイズ情報をインポートするときは、Asset Console の運用時間外で実施してください。

11.8.11 プロセス間でセッションが共有される

Windows Internet Explorer8 以降を利用する場合、同一 PC 上で複数の Windows Internet Explorer のプロセスを起動して Asset Console を操作すると、プロセス間でセッションが共有されるおそれがあります。

次のどれかの方法で回避できます。

- Windows Internet Explorer から [ファイル] - [新規セッション] を選択し、別ブラウザを起動する。
- iexplore.exe に -nomerge を指定して起動する。
- HKCU\Software\Microsoft\Internet Explorer\Main のレジストリ FrameMerging と SessionMerging (DWORD 値) を 0 (無効) に設定する。

11.9 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager との連携時のトラブルの主な要因と対処

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager との連携時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次の表に示します。

表 11-2 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager との連携時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処

項番	トラブル	主な要因	対処
1	データベースへのアクセスエラーが発生する（接続先=JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console）。	[サーバセットアップ] ダイアログの「データベース情報」で「ログイン ID」に指定した ID とパスワードが正しく設定されていないおそれがあります。	ID およびパスワードを正しく設定してください。
2		[サーバセットアップ] ダイアログの「データベース情報」で「サービス名」に指定したサービス名が正しく設定されていないおそれがあります。	ODBC データソースアドミニストレータでデータソースを確認し、サービス名を正しく設定してください。 データソースが作成されていない場合は、[データソースの作成] ダイアログの「接続先一覧」で「JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console」を選択して、データソースを作成してください。
3	データベースへのアクセスエラーが発生する（接続先=JP1/IT Desktop Management 2 - Manager）。	[サーバセットアップ] ダイアログの「ITDM2 連携」の「JP1/IT Desktop Management 2 - Manager データベースログイン ID」に指定した ID とパスワードが正しく設定されていないおそれがあります。	ID およびパスワードを正しく設定してください。
4		[サーバセットアップ] ダイアログの「ITDM2 連携」で「JP1/IT Desktop Management 2 - Manager データベース接続サービス名」に指定したサービス名が正しく設定されていないおそれがあります。	ODBC データソースアドミニストレータでデータソースを確認し、サービス名を正しく設定してください。 データソースが作成されていない場合は、[データソースの作成] ダイアログの「接続先一覧」で「JP1/IT Desktop Management 2 - Manager」を選択して、データソースを作成してください。
5		データソースの接続先が正しく設定されていないおそれがあります。	接続先には JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のセットアップでデータベースへのアクセス時への IP アドレスに指定したものを設定してください。
6		JP1/IT Desktop Management 2 - Manager が起動していないおそれがあります。	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の稼働状態を確認してください。

項番	トラブル	主な要因	対処
7	データベースへのアクセスエラーが発生する（接続先=JP1/IT Desktop Management 2 - Manager）。	一時的にネットワークが不安定になっているおそれがあります。	しばらく待ったあと、再度実行してください。
8	登録／更新されない機器がある。	引き当てキーに指定した項目の値が同じために1つの資産情報に引き当たっているおそれがあります。	引き当てキーにユニークになる項目を指定してください。
9		機器情報が取得済みのおそれがあります。	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の機器情報を更新するか-ALL オプションを指定して管理情報の取得を実行してください。
10		JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console で時刻が一致していないおそれがあります。	OS の時刻を確認し、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager と JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console の時刻を合わせてください。 合わせたあとには-ALL オプションを指定して管理情報の取得を実行してください。
11	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の機器情報が削除されない。	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager が起動していないおそれがあります。	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の稼働状況を確認してください。
12		一時的にネットワークが不安定になっているおそれがあります。	しばらく待ったあと、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の機器情報を確認してください。

11.10 JP1/IM 製品との連携時のトラブルの主な要因と対処

JP1/IM 製品との連携時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を、製品ごとに次に示します。

11.10.1 JP1/IM との連携時のトラブル

JP1/IM との連携時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

(1) JP1/IM - Manager 側にイベントが登録されたが、Asset Console へ障害情報が取り込まれない

JP1/IM - Manager 側の自動アクション機能の設定が誤っています。正しく設定してください。設定方法については、「[6.1.1 JP1/IM - Manager での自動アクションの設定](#)」を参照してください。

(2) JP1/IM から取得した障害情報に対して対策完了の操作をしたが、JP1/IM 側の情報が更新されない

次に示す要因が考えられます。

- 対処完了の JP1 イベントが発行されていない。
障害の対処完了を通知する自動アクションの設定で、「イベント ID」に「00005581」が設定されていることを確認してください。
- サーバを別に行っている場合、JP1/Base から JP1/IM へイベントが転送されていない。
イベントを転送するように設定してください。設定方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。
- JP1/IM - Manager での自動アクションの設定が誤っている。
正しく設定してください。設定方法については、「[6.1.1 JP1/IM - Manager での自動アクションの設定](#)」を参照してください。
- JP1/Base が資産管理サーバにインストールされていないか、またはインストールに失敗している。
正しくインストールされているかを確認してください。

11.10.2 JP1/IM - Service Support との連携時のトラブル

JP1/IM - Service Support との連携時に想定されるトラブルと、その主な要因および対処を次に示します。

(1) JP1/IM - Service Support の【メイン】画面または【案件参照】画面から Asset Console の画面が表示されない

次に示す要因が考えられます。

- 接続する Asset Console のホストの設定に誤りがある。
Asset Console のホストを設定する詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Service Support 構築・運用ガイド」を参照してください。
- Asset Console が起動していない（サービス「World Wide Web Publishing Service」が停止している）。
サービス「World Wide Web Publishing Service」を開始して、Asset Console にログインできることを確認してください。

11.11 トラブルの回復

この節では、資産管理システムで発生したトラブルの回復方法について説明します。トラブル情報の取得方法については、「[11.2 トラブル情報の取得](#)」を参照してください。

11.11.1 Asset Console のトラブル発生時の回復方法

取得したトラブル情報のログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあと、資産管理サーバが閉塞状態のときには、Microsoft Internet Information Services を再起動します。

11.11.2 資産管理サーバのトラブル発生時の回復方法

Microsoft Internet Information Services にトラブルが発生した場合の回復方法は次のとおりです。

(1) Web サーバにトラブルが発生した場合

取得したトラブル情報のログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあと、Microsoft Internet Information Services を再起動します。再度トラブルが発生する場合は、データベースが破壊されているおそれがあるため、データベースのバックアップデータをリストアして、Microsoft Internet Information Services を再起動します。

(2) Web サーバが応答しなくなった場合

Microsoft Internet Information Services を停止後、取得したトラブル情報のログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあと、Microsoft Internet Information Services を再起動します。再度、応答しない状態になる場合は、データベースが破壊されているおそれがあるため、データベースのバックアップデータをリストアして、Microsoft Internet Information Services を再起動します。

11.11.3 DBMS のトラブル発生時の回復方法

DBMS にトラブルが発生した場合の回復方法は次のとおりです。

(1) DBMS にトラブルが発生した場合

取得したトラブル情報のログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあと、DBMS を再起動します。

起動された場合は、データベースが破壊されていないかを確認し、必要に応じてバックアップデータをリストアしてデータベースを回復してください。

起動されない場合は、DBMS の環境を構築し直してください。

(2) DBMS が破壊された場合

Microsoft Internet Information Services を停止し、DBMS の環境を構築し直してください。DBMS を再起動し、バックアップデータをリストアしてデータベースを回復したあと、Microsoft Internet Information Services を再起動します。

11.11.4 Web ブラウザのトラブル発生時の回復方法

Web ブラウザにトラブルが発生した場合の回復方法は次のとおりです。

(1) Web ブラウザが異常終了した場合

Web ブラウザを再起動して、再度ログインして直前の業務処理内容を確認し、完了していない場合は再度業務を実行します。

なお、再度、Web ブラウザからの応答がない場合は、Web ブラウザの画面のハードコピーを採取します。同時に直前の操作内容および入力データの説明を添付して、システム管理者に調査依頼します。

(2) Web ブラウザ表示不正の場合

いったん Web ブラウザからログアウトし、再度ログインしてトラブルが発生した業務を実行します。再度同じ現象となる場合は、システム管理者に調査依頼します。

11.11.5 コマンド実行中のトラブル発生時の回復方法

取得したトラブル情報のログの内容に異常はないか確認し、トラブルを取り除きます。

12

資産管理データベースのメンテナンス

この章では、資産管理データベースをメンテナンスする方法について説明します。

なお、64 ビットの OS で Asset Console のコマンドを実行する場合は、32 ビット用のコマンドプロンプトで実行する必要があります。実行手順については、「[付録 F.2 64 ビットの OS でコマンドやタスクを実行する場合の注意事項](#)」を参照してください。

12.1 バックアップおよびリストア

トラブルが発生し、環境を再構築する場合などに備えて、定期的に資産管理データベース、アップロードしたファイル、およびレジストリのバックアップを取得することをお勧めします。

なお、バックアップの取得方法には、次の 2 種類があります。

- CSV 形式で取得する
- DBMS 独自の形式で取得する

12.1.1 CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア

ここでは、資産管理データベースのデータについて、CSV 形式でバックアップを取得したり、CSV 形式のデータをリストアしたりする方法を説明します。

注意事項

- Asset Console のサービス、コマンドおよびタスクをすべて停止したあとで実行してください。
- Asset Console のサービスは次に示す順番で停止してください。
 1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
 2. Asset Console のコマンドおよびタスクまた、資産管理データベースをバックアップおよびリストアしたあとに Asset Console を使用するとき、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。
- データベースマネージャを起動中は、他のプログラムを実行しないようにしてください。

CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する方法には、次の 2 種類があります。

- [データベースマネージャ] ダイアログから取得する
- jamdbexport.bat をコマンドラインから実行して取得する

(1) [データベースマネージャ] ダイアログからの資産管理データベースのバックアップ

[データベースマネージャ] ダイアログから、資産管理データベースのバックアップを取得する手順を次に示します。

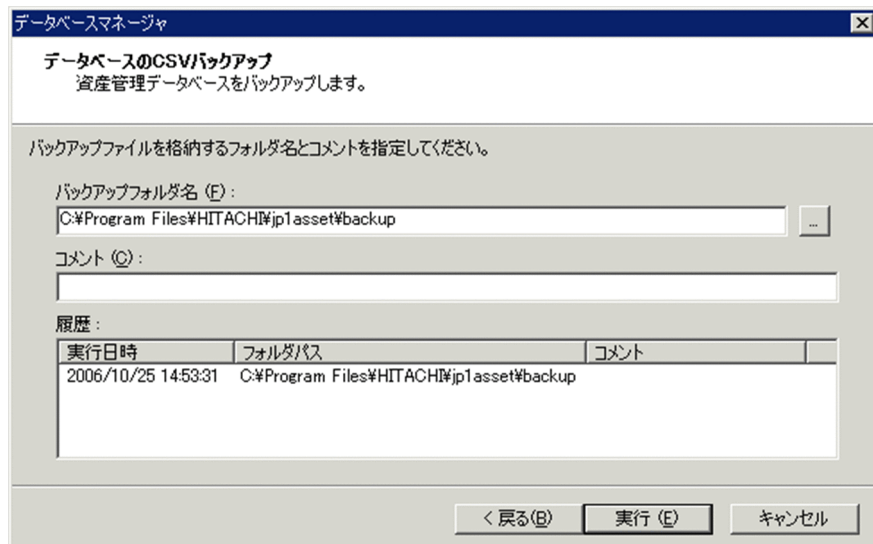
1. [スタート] ボタンをクリックして [プログラム] - [JP1_IT Desktop Management 2 - Asset Console] をポイントし、次に [セットアップ] を選択する。
[セットアップ] ダイアログが表示されます。
2. [データベースマネージャ] アイコンをクリックする。

[データベースマネージャ] ダイアログが表示されます。

3. 「データベースの CSV バックアップ」を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。

次の図に示すデータベースのバックアップを取得するダイアログが表示されます。「履歴」には、バックアップの履歴が 10 件まで表示されます。

図 12-1 データベースのバックアップを取得するダイアログ



4. バックアップフォルダを指定する。

「バックアップフォルダ名」に、バックアップ用フォルダを指定します。バックアップ用フォルダに指定するドライブには、十分な空き容量を確保してください。[...] ボタンをクリックすると、フォルダを参照するダイアログからフォルダを指定できます。1～223 バイトの文字を指定してください。ただし、「|」、「|」、「*」、「<」、「>」、「?」、「&」、「^」および「/」は指定できません。デフォルトでは、<Asset Console のインストール先フォルダ>\backup が指定されています。

「履歴」に表示されているバックアップの履歴をクリックすると、「バックアップフォルダ名」に、クリックしたバックアップ履歴のフォルダパスを指定できます。

5. 必要に応じてコメントを記載する。

バックアップ用フォルダに付加情報がある場合は、「コメント」に記載します。64 バイト以内の文字を指定してください。

6. [実行] ボタンをクリックする。

資産管理データベースのバックアップが取得されます。データのバックアップを実行すると、バックアップ用フォルダに資産管理データベースの内容が格納されます。

注意事項

取得した CSV ファイルのファイル名および内容は変更しないでください。資産管理データベースをリストアできなくなります。

(2) コマンドでの資産管理データベースのバックアップ

[データベースマネージャ] ダイアログからのバックアップと同等のバックアップを、資産管理サーバ上のコマンドラインから実行する jamdbexport.bat の機能、形式、オプションおよびコマンド実行時の注意事項について説明します。

jamdbexport.bat は次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%exe

(a) 機能

資産管理データベースのバックアップを取得します。資産管理データベースのデータをすべて CSV ファイルで出力します。jamdbexport.bat を実行すると、バックアップ用フォルダに資産管理データベースの内容が格納されます。

(b) 形式

```
jamdbexport.bat [バックアップ用フォルダのパス] [-rp]
```

(c) オプション

バックアップ用フォルダのパス

バックアップ用フォルダをフルパスで指定します。バックアップ用フォルダに指定するドライブには、十分な空き容量を確保してください。パスを指定する際は、次のことに注意してください。

- フォルダ名にスペースを含めないでください。
- フォルダ名を「"」（ダブルクォーテーション）で囲まないでください。
- 既存のフォルダ名を指定しないでください。

パスを省略した場合、<Asset Console のインストール先フォルダ>%backup が設定されます。

-rp

このオプションを指定すると、バックアップの実行前にキー応答を待たないで実行を開始します。

このオプションを指定しないとキー応答待ちになります。このとき、実行を中止したい場合は、[Ctrl] + [C] を押してください。

(d) コマンド実行時の注意事項

- オプション「-rp」を指定した場合、処理が終了するとコマンドプロンプトが閉じてしまうため、エラーが発生したかどうかを確認できません。
- jamdbexport.bat を実行して取得した CSV ファイルのファイル名および内容は変更しないでください。資産管理データベースをリストアできなくなります。

(3) 【データベースマネージャ】 ダイアログからの資産管理データベースのリストア

リストアする前に、資産管理データベースが作成されていることを確認してください。資産管理データベースが作成されていない場合は、【データベースマネージャ】 ダイアログで資産管理データベースを新規に作成したあとで、リストアを実行してください。

【データベースマネージャ】 ダイアログから、バックアップ済みの資産管理データベースのデータをリストアする手順を次に示します。

1. [スタート] ボタンをクリックして【プログラム】 - 【JP1_IT Desktop Management 2 - Asset Console】 をポイントし、次に【セットアップ】 を選択する。

【セットアップ】 ダイアログが表示されます。

2. 「データベースマネージャ」 アイコンをクリックする。

【データベースマネージャ】 ダイアログが表示されます。

3. 「データベースの CSV リストア」 を選択して、【次へ】 ボタンをクリックする。

次の図に示すデータベースのリストアを実行するダイアログが表示されます。「履歴」には、バックアップの履歴が 10 件まで表示されます。

図 12-2 データベースのリストアを実行するダイアログ



4. リストアを実行したいバックアップフォルダを指定する。

「バックアップフォルダ名」に、バックアップ用フォルダを指定します。[...] ボタンをクリックすると、フォルダを参照するダイアログからフォルダを指定できます。1～223 バイトの文字を指定してください。ただし、「|」、「*」、「<」、「>」、「?」、「&」、「^」および「/」は指定できません。デフォルトでは、<Asset Console のインストール先フォルダ>\backup が指定されています。

「履歴」に表示されているバックアップの履歴をクリックすると、「バックアップフォルダ名」に、クリックしたバックアップ履歴のフォルダパスを指定できます。

注意事項

バックアップを取得した際のファイル名およびファイルの内容を変更しないでください。

5. [実行] ボタンをクリックする。

資産管理データベースのリストアが実行されます。

12.1.2 資産管理データベースのバックアップとリストア

ここでは、資産管理データベースのデータのバックアップを取得したり、データをリストアしたりする方法について説明します。

注意事項

- Asset Console のサービス、コマンドおよびタスクをすべて停止したあとで実行してください。
- Asset Console のサービスは次に示す順番で停止してください。
 1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
 2. Asset Console のコマンドおよびタスクまた、資産管理データベースをバックアップおよびリストアしたあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。
- さらに、Administrators 権限を持つユーザでログインしてから実行してください。
- リストア後、必要に応じて JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の取得コマンド (jamTakeITDM2Info.exe -ALL) を実行してください。リストア後に、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の取得コマンドを実行しない場合、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager とデータ不整合の状態になるおそれがあります。

資産管理データベースのデータのバックアップを取得する方法には、次の 2 種類があります。

- [データベースマネージャ] ダイアログから取得する
- jamemb_backup.bat をコマンドラインから実行して取得する

[データベースマネージャ] ダイアログで資産管理データベースのバックアップおよびリストアを実行する手順を次に示します。

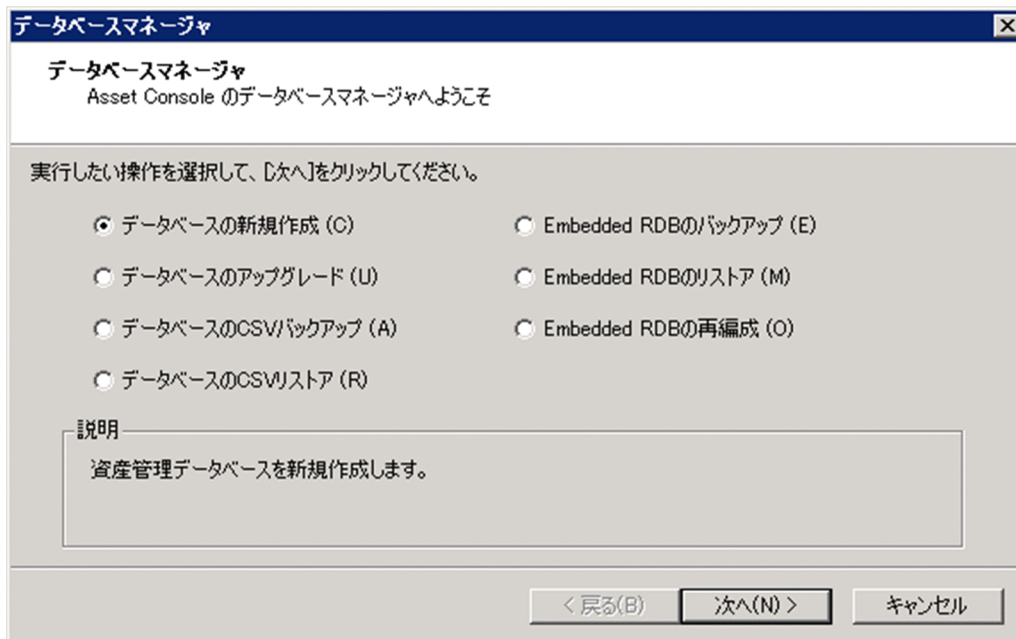
1. [スタート] ボタンをクリックして [プログラム] - [JP1_IT Desktop Management 2 - Asset Console] をポイントし、次に [セットアップ] を選択する。

[セットアップ] ダイアログが表示されます。

2. [データベースマネージャ] アイコンをクリックする。

次の図に示す [データベースマネージャ] ダイアログが表示されます。

図 12-3 「データベースマネージャ」 ダイアログ



3. 実行したい作業を選択して「次へ」 ボタンをクリックする。

資産管理データベースのバックアップおよびリストアの各作業手順については、(1)および(3)でそれぞれ説明します。

コマンドで資産管理データベースのバックアップを実行する方法については、(2)で説明します。

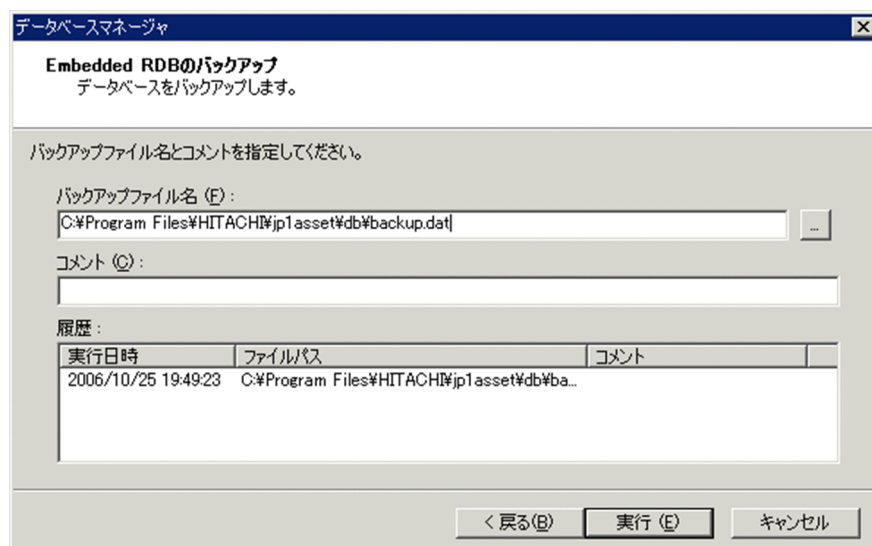
(1) 「データベースマネージャ」 ダイアログからの資産管理データベースのバックアップ

資産管理データベースのバックアップファイルを取得する手順を次に示します。

1. 「データベースマネージャ」 ダイアログで「Embedded RDB のバックアップ」 を選択して、「次へ」 ボタンをクリックする。

次の図に示すデータベースのバックアップを取得するダイアログが表示されます。「履歴」 には、バックアップの履歴が 10 件まで表示されます。

図 12-4 データベースのバックアップを取得するダイアログ



2. バックアップファイル名を指定する。

「バックアップファイル名」に、バックアップ用のファイル名を指定します。[...] ボタンをクリックすると、ファイルを参照するダイアログからファイル名を指定できます。1～255 バイトの文字を指定してください。ただし、「"」、「|」、「*」、「<」、「>」、「?」、「&」、「^」および「/」は指定できません。デフォルトでは、<Asset Console のインストール先フォルダ>db\backup.dat が指定されています。「履歴」に表示されているバックアップの履歴をクリックすると、「バックアップファイル名」に、クリックしたバックアップ履歴のファイルパスを指定できます。

注意事項

データのバックアップを実行すると、バックアップ用ファイルに資産管理データベースの内容が格納されます。そのため、十分な空き容量のあるドライブのフォルダにファイルを指定してください。

3. 必要に応じてコメントを記載する。

バックアップ用ファイルに付加情報がある場合は、「コメント」に記載します。64 バイト以内の文字を指定してください。

4. [実行] ボタンをクリックする。

資産管理データベースのバックアップが取得されます。バックアップが完了すると、バックアップが完了したことを示すメッセージが表示されて、データベースマネージャが終了します。

バックアップに失敗した場合は、バックアップが失敗したことを示すメッセージが表示されます。[保守情報の表示] ボタンをクリックして、実行結果を参照してください。

(2) コマンドでの資産管理データベースのバックアップ

資産管理データベースのバックアップファイルを取得する jamemb_backup.bat の機能、形式、オプション、戻り値、コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

jamemb_backup.bat は次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%exe

(a) 機能

資産管理データベースをバックアップします。

(b) 形式

```
jamemb_backup.bat -b バックアップファイルのパス -o 結果ファイルのパス [-y]
```

(c) オプション

-b バックアップファイルのパス

バックアップを取得するファイルをフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

-o 結果ファイルのパス

実行結果を出力するファイルをフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

-y

このオプションを指定すると、バックアップの実行前にキー応答を待たないで実行を開始します。
このオプションを指定しないとキー応答待ちになります。このとき、実行を中止したい場合は、[Ctrl] + [C] を押してください。

(d) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。結果ファイルを参照してバックアップの詳細を確認できます。
11	オプションの書式に誤りがあります。
101 以上	そのほかのエラーで終了しました。

(e) コマンド実行時の注意事項

Administrators 権限を持つユーザで jamemb_backup.bat を実行してください。

(f) 実行例

```
jamemb_backup.bat -b C:%temp%backup%Backup.dat -o C:%temp%backup%kekka.log -y
```

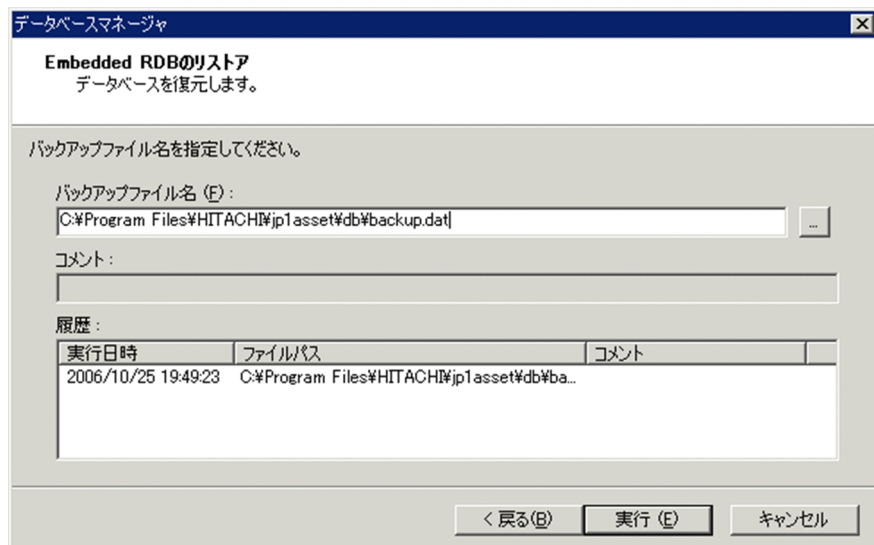
(3) 【データベースマネージャ】 ダイアログからの資産管理データベースのリストア

資産管理データベースのバックアップファイルをリストアする手順を次に示します。

1. [データベースマネージャ] ダイアログで「Embedded RDB のリストア」を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。

次の図に示すデータベースのバックアップファイルをリストアするダイアログが表示されます。「履歴」には、バックアップの履歴が 10 件まで表示されます。

図 12-5 データベースのバックアップファイルをリストアするダイアログ



2. バックアップファイル名を指定する。

「バックアップファイル名」に、リストアするバックアップ用のファイル名を指定します。[...] ボタンをクリックすると、ファイルを参照するダイアログからファイル名を指定できます。1～255 バイトの文字を指定してください。ただし、「|」、「|」、「*」、「<」、「>」、「?」、「&」、「^」および「/」は指定できません。デフォルトでは、バックアップを取得した際に指定した「バックアップファイル名」のファイル名が指定されています。バックアップ後にバックアップファイルの格納先を変更した場合は、[...] ボタンからファイル名を指定し直してください。

「履歴」に表示されているバックアップの履歴をクリックすると、「バックアップファイル名」に、クリックしたバックアップ履歴のファイルパスを指定できます。

3. [実行] ボタンをクリックする。

資産管理データベースのバックアップファイルがリストアされます。リストアが完了すると、リストアが完了したことを示すメッセージが表示されて、データベースマネージャが終了します。

リストアに失敗した場合は、リストアが失敗したことを示すメッセージが表示されます。[保守情報の表示] ボタンをクリックして、実行結果を参照してください。

注意事項

バックアップファイルをリストアするには、バックアップを取得したときと同じパスに Asset Console がインストールされていないとリストアできません。インストール先フォルダがバックアップを取得したときと同じパスになっていることを確認してリストアしてください。

12.1.3 アップロードしたファイルのバックアップおよびリストア

アップロードしたファイルのバックアップおよびリストアの手順を説明します。

(1) アップロードしたファイルのバックアップ

次に示すファイルをコピーしてください。

- ・ <資産管理サーバの仮想ディレクトリ>¥data 以下のファイル
- ・ <資産管理サーバの仮想ディレクトリ>¥csv 以下のファイル

<資産管理サーバの仮想ディレクトリ>は、デフォルトでは<Asset Console のインストール先フォルダ>¥wwwroot です。

(2) アップロードしたファイルのリストア

コピーしたファイルを元のフォルダに戻してください。

注意事項

リストアするバックアップファイルは、同じバージョンの Asset Console から取得したファイルを指定してください。また、バックアップを取得したときと同じインストール先フォルダのパスにリストアしてください。

12.1.4 レジストリのバックアップおよびリストア

レジストリのバックアップおよびリストアの手順について、それぞれ説明します。なお、64 ビットの OS で Asset Console のレジストリのバックアップおよびリストアを実行する場合は、レジストリを選択する手順の「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥JP1/Asset Information Manager」を「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hitachi¥JP1/Asset Information Manager」に読み替えてください。

(1) レジストリのバックアップ

レジストリをバックアップする手順について、次に示します。

1. [スタート] ボタンをクリックして、[ファイル名を指定して実行] を選択する。
[ファイル名を指定して実行] ダイアログが表示されます。
2. 入力領域に「regedit」を入力して、[OK] ボタンをクリックする。
レジストリエディタが起動します。
3. ツリービューから「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥JP1/Asset Information Manager」を選択する。

4. メニューから「レジストリ」－「レジストリ ファイルの書き出し」を選択する。
[レジストリ ファイルの書き出し] ダイアログが表示されます。
5. ファイルの格納先とファイル名を指定して[保存] ボタンをクリックする。
指定した格納先に、バックアップファイルが作成されます。

(2) レジストリのリストア

レジストリをリストアする手順について、次に示します。

1. [スタート] ボタンをクリックして、[ファイル名を指定して実行] を選択する。
[ファイル名を指定して実行] ダイアログが表示されます。
2. 入力領域に「regedit」を入力して、[OK] ボタンをクリックする。
レジストリエディタが起動します。
3. ツリービューから「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥JP1/Asset Information Manager」を選択する。
4. メニューから「レジストリ」－「レジストリ ファイルの取り込み」を選択する。
[レジストリ ファイルの取り込み] ダイアログが表示されます。
5. 取得したバックアップファイルを指定して、[開く] ボタンをクリックする。
指定したバックアップファイルがリストアされます。

注意事項

リストアするバックアップファイルは、バックアップを取得したときの Asset Console のバージョンおよびパスを指定してください。

12.2 資産管理データベースの再編成

資産管理データベースの再編成を定期的に行うことをお勧めします。これは、データベースでは、レコードが削除された領域は再利用されないで残り、データベース領域に再利用されない領域が増えると、データベース領域の使用率を圧迫することがあるためです。

また、データベース領域の使用率が 80%以上になった場合、イベントログに次の ID のメッセージが表示されます。

- KFPA12300-I
- KFPH00211-I

この場合、資産管理データベースを再編成することで、データベース領域の使用率が改善されることがあります。

メッセージの詳細については、マニュアル「JP1 組み込みデータベース メッセージ」を参照してください。

資産管理データベースの再編成を実行する方法には、次の 2 種類があります。

- [データベースマネージャ] ダイアログから実行する
- jamemb_reorganization.bat をコマンドラインから実行する

なお、資産管理データベースを再編成してもデータベースの容量不足を示すメッセージが表示される場合は、資産管理データベースのサイズを拡張する必要があります。資産管理データベースのサイズを変更する手順については、「[付録 E.2 データベースのサイズの変更](#)」を参照してください。

注意事項

- 資産管理データベースの再編成を実行する前に、Asset Console のサービス、コマンドおよびタスクをすべて停止してください。
- Asset Console のサービスは次に示す順番で停止してください。
 1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
 2. Asset Console のコマンドおよびタスク

また、資産管理データベースを再編成したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

12.2.1 [データベースマネージャ] ダイアログからの資産管理データベースの再編成

注意事項

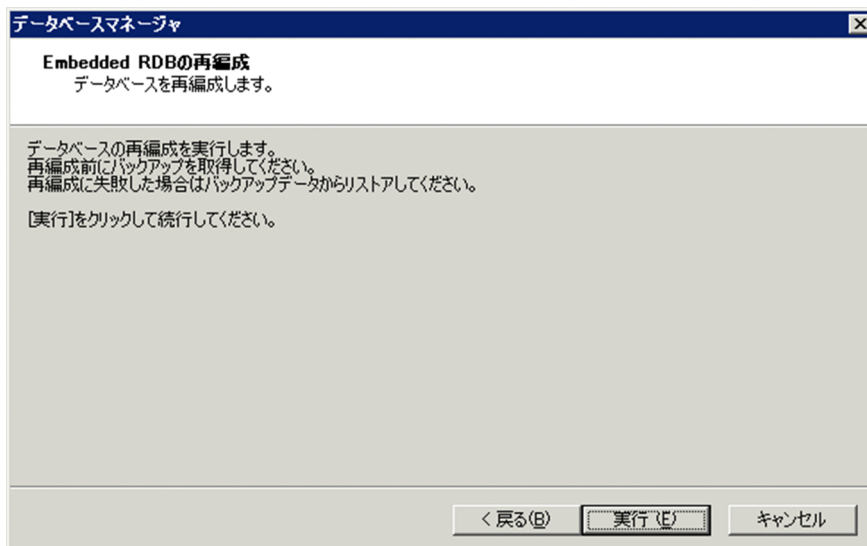
- [データベースマネージャ] ダイアログから資産管理データベースの再編成を実行する前に、Asset Console のサービス、コマンドおよびタスクをすべて停止してください。
- Asset Console のサービスは次に示す順番で停止してください。
 1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
 2. Asset Console のコマンドおよびタスクまた、資産管理データベースを再編成したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。
- データベースマネージャでデータベースの再作成を行う際に、以前に作成したときと [データベース格納先パス] または [接続ユーザ名] が異なる場合、以前に作成したデータベースファイルが残ります。再作成が終了したあとに、残ったデータベースファイルを削除してください。

[データベースマネージャ] ダイアログで資産管理データベースの再編成を実行する手順を次に示します。

1. [データベースマネージャ] ダイアログで「Embedded RDB の再編成」を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。

次の図に示すデータベースの再編成を実行するダイアログが表示されます。

図 12-6 データベースの再編成を実行するダイアログ



2. [実行] ボタンをクリックする。

資産管理データベースが再編成されます。再編成が完了すると、再編成が完了したことを示すメッセージが表示されて、データベースマネージャが終了します。

再編成に失敗した場合は、再編成が失敗したことを示すメッセージが表示されます。[保守情報の表示] ボタンをクリックして、実行結果を参照してください。

12.2.2 コマンドでの資産管理データベースの再編成

リストアした資産管理データベースの再編成を実行する jamemb_reorganization.bat の機能、形式、オプション、戻り値、コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

jamemb_reorganization.bat は次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%exe

再編成に失敗した場合は、資産管理データベースが使用できなくなります。バックアップしたデータをリストアして資産管理データベースを復旧してください。

(1) 機能

資産管理データベースを再編成します。

(2) 形式

```
jamemb_reorganization.bat ポート番号 ユーザID パスワード -o 結果ファイルのパス [-y]
```

(3) オプション

ポート番号

ポート番号には、Asset Console のインストール時に指定したデータベース接続用のポート番号を指定してください。設定したポート番号は、<Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%conf %emb に格納されている HiRDB.ini ファイルの PDNAMEPORT で確認できます。このオプションは必ず指定してください。

ユーザ ID、パスワード

[サーバセットアップ] ダイアログの「データベース情報」の「ログイン ID」で指定した値を指定してください。このオプションは必ず指定してください。

-o 結果ファイルのパス

実行結果を出力するファイルをフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

-y

このオプションを指定すると、再編成の実行前にキー応答を待たないで実行を開始します。

このオプションを指定しないとキー応答待ちになります。このとき、実行を中止したい場合は、[Ctrl] + [C] を押してください。

(4) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。結果ファイルを参照して再編成の詳細を確認できます。
11	オプションの書式に誤りがあります。
101 以上	そのほかのエラーで終了しました。

(5) コマンド実行時の注意事項

- jamemb_reorganization.bat を実行する前に、Asset Console のサービス、コマンドおよびタスクをすべて停止してください。

Asset Console のサービスは次に示す順番で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Console のコマンド、およびタスク

また、jamemb_reorganization.bat を実行したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

- Administrators 権限を持つユーザで jamemb_reorganization.bat を実行してください。

(6) 実行例

```
jamemb_reorganization.bat 31022 admin admin -o C:%temp%backup%kekka.log -y
```

12.2.3 データベース再編成の実行監視時間の設定

データベースの再編成を実行中に、何らかの障害（通信障害またはディスク障害など）が発生すると、再編成処理が無応答になることがあります。Windows のタスク機能や JP1/AJS を使用して再編成を自動で実行しているなどにより、無応答になった処理を手動で強制終了できない場合に、再編成処理の実行監視時間を設定し、無応答となった再編成処理の実行を打ち切るときの手順について説明します。

注意事項

- データベース再編成処理の実行監視時間の設定する前に、資産管理サーバで、Asset Console のサービス、コマンドおよびタスクをすべて停止してください。
- Asset Console のサービスは次に示す順番で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Console のコマンド、およびタスク

また、データベース再編成処理の実行監視時間を変更したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

1. データベースを停止する（停止する方法については、「[付録 E.4\(2\) データベースの停止](#)」を参照してください）。

2. <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%conf に格納されている pdsys ファイルをテキストエディタで開く。
3. 「set pd_utl_exec_time = 再編成処理の実行監視時間」の行を追加する。※
4. データベースを開始する（開始する方法については、「[付録 E.4\(1\) データベースの開始](#)」を参照してください）。

注※

データベースを操作するコマンドの実行時間を監視する場合、その監視時間を 0～35791394 の範囲で指定します。単位は分です。省略または 0 を指定した場合は、コマンドの実行時間を監視しません。ここで指定した監視時間を超えてもコマンドが終了しない場合、実行中のコマンドは異常終了します。このオペランドの指定値にはコマンド実行時間の実績値の最大値に余裕を持たせた値を指定してください。例えば、データベース再編成処理の最大実行時間が 90 分程度の場合、pd_utl_exec_time=120 と余裕を持った値を指定してください。これは、通常 90 分で終了する処理が 120 分過ぎても応答が返ってこないのは無応答障害のおそれがあると判断しています。

<記述例>

```
#
#-----
# set form
#
:
(中略)
:
set pd_utl_exec_time = 120
#
#-----
# putenv form
#
```

12.3 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のデータベースをリストアするときの注意事項

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のデータベースをリストアするときは、事前に次の操作を実施してください。

- World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing サービスを停止する。
- JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の取得コマンド (jamTakeITDM2Info.exe) を実行中のときは、停止する。
- タスク「ITDM2 - Manager 管理情報の取得 (Asset Console)」を Windows のタスクスケジューラに登録しているときは、無効にする。

なお、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のデータベースのリストア完了後に必ず JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の取得コマンド (jamTakeITDM2Info.exe) を実行し、情報取得が完了してから、停止したサービス、コマンド、タスクを再開してください。

13

連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細

この章では、資産管理データベースに取り込んで業務に利用する JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の詳細について示します。

また、JP1/IM と連携するために Asset Console で発行する JP1 イベントの詳細についても示します。

13.1 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得できる管理情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基にして、Asset Console の対応する各クラスに情報が登録・更新されます。

登録・更新される情報と、引き当てられる管理情報との対応を次の表に示します。

表 13-1 登録・更新される情報と、引き当てられる管理情報との対応

Asset Console のクラス	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報					
	機器情報			ソフトウェア情報	共通管理項目	追加管理項目
	機器の状態	システム情報とハードウェア情報	セキュリティ情報	インストールソフトウェア情報		
資産情報	○	○	－	－	○	○
ハードウェア情報	○	○	－	－	○	○
IP アドレス管理情報	－	○	－	－	－	－
ネットワーク情報	○	○	－	－	○	○
インストールソフトウェア情報	－	－	－	○	－	－
インストールソフトウェアリスト	－	－	－	○	－	－
パッチ情報	－	－	○	－	－	－
パッチリスト	－	－	○	－	－	－
ウィルス定義情報	－	－	○	－	－	－
部署情報	－	－	－	－	○	－
設置場所情報	－	－	－	－	○	－

(凡例)

- ：引き当てられる
- －：引き当てられない

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報のうち、引き当て可能な情報を次に記載します。各管理項目の詳細は、マニュアル「JP1 Version 10 JP1/IT Desktop Management 2 導入・設計ガイド」を参照してください。

管理情報名		管理項目名
機器情報	機器の状態	ホスト識別子
		機器種別

管理情報名			管理項目名	
機器情報	機器の状態		管理種別	
			エージェントバージョン	
			接続設定	
			機器状態	
	システム情報 とハードウェア情報	コンピュータ情報		BIOS のメーカー
				BIOS 名
				BIOS のリリース日
				BIOS のシリアルナンバー
				BIOS のバージョン(SMBIOS)
				BIOS のバージョン
				コンピュータのメーカー
				コンピュータのモデル
				コア数
				コンピュータのシリアルナンバー
				コンピュータの UUID
				論理ドライブのドライブレター
				論理ドライブの種類
				論理ドライブのファイルシステム
				論理ドライブの空き容量
				論理ドライブの容量
				コンピュータ名
				コンピュータの説明
				モニタの電源を切る(AC)
				モニタの電源を切る(DC)
				ハードディスクの電源を切る(AC)
				ハードディスクの電源を切る(DC)
				システムスタンバイ(AC)
				システムスタンバイ(DC)
				システムの休止状態(AC)
				システムの休止状態(DC)
				プロセッサ調整(AC)

管理情報名			管理項目名
機器情報	システム情報 とハードウェア情報	コンピュータ情報	プロセッサ調整(DC)
			AMT ファームウェアバージョン
		ユーザー情報	タイムゾーン
			最終ログオンユーザーのアカウント名
			ロケール
			最終ログオンユーザーの説明
			最終ログオンユーザーのユーザー名
		OS 情報	OS
			OS のサービスパック
			OS 所有者の会社名
			OS の言語
			OS の所有者
			OS のシリアルナンバー
			OS 最終起動日時
			Windows ディレクトリ
			Windows Installer バージョン
			Windows Update エージェントバージョン
			IE バージョン
			IE サービスパック
		ネットワーク情報	ドメイン (ワークグループ)
			ドメインロール
			デフォルトゲートウェイ
			DHCP
			DHCP リース期限日時
			DHCP リース取得日時
			DHCP サーバアドレス
			DNS サーバアドレス
			IP アドレス
			サブネットマスク
			MAC アドレス

管理情報名			管理項目名
機器情報	システム情報 とハードウェア情報	ネットワーク情報	プライマリ WINS サーバアドレス
			セカンダリ WINS サーバアドレス
		スマートデバイス情報	スマートデバイスの IMEI
			スマートデバイスの UDID
			スマートデバイスの ICCID
			スマートデバイスの IMSI
			スマートデバイスの契約電話番号
			スマートデバイスのメールアドレス
			スマートデバイスのキャリア
			スマートデバイスのパスコード設定 状態
			スマートデバイスの RAM
			スマートデバイスの RAM 空き容量
			スマートデバイスの内蔵ストレージ 容量
			スマートデバイスの内蔵ストレージ空 き容量
			スマートデバイスの外部ストレージ 容量
			スマートデバイスの外部ストレージ空 き容量
		CPU 情報	プロセッサ
		メモリ情報	メモリ容量
			仮想メモリ容量
		ハードディスク情報	ハードディスクのインタフェース
			ハードディスクのモデル
			ハードディスクの容量
		CD-ROM ドライブ 情報	CD-ROM ドライブのモデル
		プリンタ情報	プリンタの種別
			プリンタドライバ
			プリンタ名
			プリンタサーバのポート

管理情報名			管理項目名
機器情報	システム情報 とハードウェ ア情報	プリンタ情報	プリンタサーバ名
			プリンタ共有名
		ビデオコントローラ 情報	ビデオカードの VRAM 容量
			ビデオドライバ
			ビデオチップ
		サウンドカード情報	サウンドカードのメーカー
			サウンドカード名
		モニタ情報	モニタ
	キーボード情報	キーボード	
	マウス情報	マウス	
	セキュリティ 情報	更新プログラム情報	文書番号（適用日付）
		ウィルス対策製品情報	製品名
			バージョン
			インストール日付
			エンジンバージョン
			ウィルス定義ファイルのバージョン
自動保護（常駐設定）			
ソフトウェア情報	インストールソフトウェア情報	ソフトウェア名	
		バージョン	
		メーカー	
		サポート情報(URL)	
		プロダクト ID	
		登録日時	
		インストール日付	
共通管理項目		部署	
		設置場所	
		利用者名	
		アカウント	
		メールアドレス	
		電話番号	

管理情報名	管理項目名
追加管理項目	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で作成した追加管理項目の情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を資産管理データベースに登録する方法については、「[3.2.1 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得する場合](#)」を参照してください。

登録・更新される各クラスの情報の詳細について次に示します。

13.1.1 資産情報として取得できる情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新される Asset Console の資産情報の詳細を次の表に示します。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の引き当てでの設定の詳細については、マニュアル「運用ガイド」の「[4.14 引き当て項目の設定 \(ITDM2 管理情報取得\)](#)」を参照してください。

表 13-2 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新される資産情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	自動採番されます。	×
資産種別	「ハードウェア」が設定されます。	×
資産番号	次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> 自動採番 ホスト識別子（機器情報） 追加管理項目 コンピュータのシリアルナンバー（システム情報とハードウェア情報） コンピュータ名（システム情報とハードウェア情報） デフォルトは「自動採番」です。	○※
機器状態	コード ID「AssetStatus」のコードの中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 デフォルトは「運用」です。	○※
稼働管理種別	コード ID「AssetWorkKind」のコードの中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 デフォルトは「稼働管理対象」です。	○※
ITDM2 最終更新日付	機器情報の「最終更新日付」、および削除履歴情報の「最終更新日付」のうち、最新の日付が設定されます。	○

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
ITDM2 Agent 導入状態	機器情報の「管理種別」から取得されます。	○
部署 ID	「部署」に設定された部署情報に対応する ID が設定されます。	○
部署	次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • IP アドレスグループ • ユーザの所属部署 • 部署（共通管理項目） デフォルトは「設定しない」です。	○※
部署（英名）	「部署」に設定された部署情報に対応する部署（英名）が設定されます。	○
ホスト識別子	機器情報の「ホスト識別子」から取得されます。	○
設置場所 ID	「設置場所」に設定された設置場所情報に対応する ID が設定されます。	○
設置場所	次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • IP アドレスグループ • 設置場所（共通管理項目） デフォルトは「設定しない」です。	○※
設置場所（英名）	「設置場所」に設定された設置場所情報に対応する設置場所（英名）が設定されます。	○
登録日	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の取得によって、新規に資産情報の作成された日時が設定されます。	×
棚卸日付	次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • 追加管理項目 デフォルトは「設定しない」です。	○※
ユーザ ID	「ユーザ名」に設定されたユーザ情報に対応する ID が設定されます。	○
ユーザ名	次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • 利用者名（共通管理項目） • アカウント（共通管理項目） • メールアドレス（共通管理項目） • 追加管理項目 • OS の所有者（システム情報とハードウェア情報） デフォルトは「利用者名」です。	○※

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
ユーザ名（英名）	「ユーザ名」に設定されたユーザ情報に対応するユーザ名（英名）が設定されます。	○
固有情報	<p>次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • 機器情報 • 共通管理項目 • 追加管理項目 • システム情報とハードウェア情報 • 固定値 <p>デフォルトは「設定しない」です。</p>	○※

（凡例）

○：更新される

×：更新されない

注※ ITDM2 管理情報取得の引き当て項目の設定に従います。

注意事項

ITDM2 管理情報取得画面で、「引き当て方法」に「引き当てキー」を選択して、[引き当て項目] で、資産番号に「自動採番」以外の項目を選択した場合、選択した引き当て項目に該当する JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の値が変更になると、資産番号も変更されます。ただし、次の場合は変更されないので注意してください。

- 変更した値がすでに資産管理データベースに登録されている資産番号と重複する場合
資産番号の引き当て項目に「ホスト名」、「IP アドレス」、「MAC アドレス」、「コンピュータ名」のどれかを選択している場合は、重複する可能性があるので注意してください。

13.1.2 ハードウェア資産情報として取得できる情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新される Asset Console のハードウェア資産情報の詳細を次の表に示します。

表 13-3 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新されるハードウェア資産情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
CPU クロック数	システム情報とハードウェア情報の「プロセッサ」から取得されます。	○

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
CPU 数	システム情報とハードウェア情報の「コア数」から取得されます。	○
CPU	システム情報とハードウェア情報の「プロセッサ」から取得されます。	○
製造者	次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • 追加管理項目 • コンピュータのメーカー（システム情報とハードウェア情報） デフォルトでは、「コンピュータのメーカー」から取得されます。	○※
ホスト名	システム情報とハードウェア情報の「ホスト名」から取得されます。	○
IP アドレス	システム情報とハードウェア情報の「IP アドレス」から取得されます。	○
MAC アドレス	システム情報とハードウェア情報の「MAC アドレス」から取得されます。	○
機器種別	次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 機器種別（機器情報） • 追加管理項目 • 固定値 デフォルトでは、「機器種別」から取得されます。	○※
メモリサイズ	システム情報とハードウェア情報の「メモリ容量」から取得されます。	○
型式	システム情報とハードウェア情報の「コンピュータのモデル」から取得されます。	○
名称	次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • コンピュータのモデル（システム情報とハードウェア情報） • コンピュータ名（システム情報とハードウェア情報） • 固定値 デフォルトでは、「コンピュータのモデル」から取得されます。	○※
OS 情報	システム情報とハードウェア情報の「OS」から取得されます。	○
OS バージョン	システム情報とハードウェア情報の「OS のサービスパック」から取得されます。	○
空ディスク容量	システム情報とハードウェア情報の「論理ドライブの空き容量」の合計値が設定されます。	○
製造番号	システム情報とハードウェア情報の「コンピュータのシリアルナンバー」から取得されます。	○
ディスク容量	システム情報とハードウェア情報の「論理ドライブの容量」の合計値が設定されます。	○

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
固有情報	<p>次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • 機器情報 • 共通管理項目 • 追加管理項目 • システム情報とハードウェア情報 • 固定値 <p>デフォルトは「設定しない」です。</p>	○※

(凡例)

○：更新される

×：更新されない

注※ ITDM2 管理情報取得の引き当て項目の設定に従います。

13.1.3 IP アドレス管理情報として取得できる情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録される Asset Console の IP アドレス管理情報の詳細を次の表に示します。

表 13-4 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録される IP アドレス管理情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
IP アドレス	システム情報とハードウェア情報の「IP アドレス」から取得されます。	×

(凡例)

×：更新されない

13.1.4 ネットワーク情報として取得できる情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新される Asset Console のネットワーク情報の詳細を次の表に示します。

表 13-5 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新されるネットワーク情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
コンピュータ名	システム情報とハードウェア情報の「コンピュータ名」から取得されます。	○
デフォルトゲートウェイ	システム情報とハードウェア情報の「デフォルトゲートウェイ」から取得されます。	○
DHCP サーバ名	システム情報とハードウェア情報の「DHCP サーバアドレス」から取得されます。	○
ITDM2 管理情報取り込み制御	「ITDM2 管理情報に対応する情報がないとき削除する」が設定されます。	○
IP アドレス	システム情報とハードウェア情報の「IP アドレス」から取得されます。	○
IP アドレス種別	システム情報とハードウェア情報の「IP アドレス」の取得値が「xxx.xxx.xxx.xxx (xxx は 0~255)」形式の場合は「IPv4」、それ以外は「IPv6」が設定されます。	○
MAC アドレス	システム情報とハードウェア情報の「MAC アドレス」から取得されます。	○
ネットワーク情報 ID	自動採番されます。	×
ノード名 (ホスト名)	システム情報とハードウェア情報の「ホスト名」から取得されます。	○
サブネットマスク	システム情報とハードウェア情報の「サブネットマスク」から取得されます。	○
固有情報	次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • 機器情報 • 共通管理項目 • 追加管理項目 • システム情報とハードウェア情報 • 固定値 デフォルトは「設定しない」です。	○※

(凡例)

○：更新される

×：更新されない

注※ ITDM2 管理情報取得の引き当て項目の設定に従います。

13.1.5 インストールソフトウェア情報として取得できる情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新される Asset Console のインストールソフトウェア情報の詳細を次の表に示します。

表 13-6 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新されるインストールソフトウェア情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
ITDM2 管理情報取り込み制御	「ITDM2 管理情報に対応する情報がないとき削除する」が設定されます。	○
インストール日	インストールソフトウェア情報の「インストール日付」から取得されます。	○
インストール ID	インストールソフトウェアリストのインストール ID が登録されます。	×
プロダクト ID	インストールソフトウェア情報の「プロダクト ID」から取得されます (Microsoft Office 製品の情報だけを取得)。	○
固有情報	次に示す引き当て項目の中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 <ul style="list-style-type: none">• 設定しない• インストールソフトウェア情報• 固定値 デフォルトは「設定しない」です。	○※

(凡例)

○：更新される

×：更新されない

注※ ITDM2 管理情報取得の引き当て項目の設定に従います。

13.1.6 インストールソフトウェアリストとして取得できる情報

該当するソフトウェア名およびソフトウェアのバージョンをインストールソフトウェアリストから検索し、該当する情報がない場合、インストールソフトウェアリストに追加されます。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新される Asset Console のインストールソフトウェアリストの詳細を次の表に示します。

表 13-7 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新されるインストールソフトウェアリストの詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
インストール ID	自動採番されます。	×
管理レベル	コード ID「InstalledInd」のコードの中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択したが設定されます。 デフォルトは「管理対象」です。	○
種別	コード ID「InstalledKind」のコードの中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 デフォルトは、「一般ソフト」です。	○
インストールソフトウェア名	インストールソフトウェア情報の「ソフトウェア名」から取得されます。	×
許可	コード ID「Permit」のコードの中から、ITDM2 管理情報取得の引き当て項目で選択した項目が設定されます。 デフォルトは「許可する」です。	○
バージョン	インストールソフトウェア情報の「バージョン」から取得されます。	×
ソフトウェアリスト ID	ソフトウェア名の自動割り当てで割り当たったソフトウェアリスト ID が登録されます。	×

(凡例)

○：更新される

×：更新されない

13.1.7 パッチ情報として取得できる情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新される Asset Console のパッチ情報の詳細を次の表に示します。

表 13-8 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新されるパッチ情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
ITDM2 管理情報取り込み制御	「ITDM2 管理情報に対応する情報がないとき削除する」が設定されます。	○
インストール日	セキュリティ情報の「文書番号（適用日付）」から取得されます。	○

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
適用状態	「適用」が設定されます。	○
パッチ ID	パッチリストの「パッチ ID」が登録されます。	×

(凡例)

○：更新される

×

13.1.8 パッチリストとして取得できる情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新される Asset Console のパッチリストの詳細を次の表に示します。

表 13-9 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新されるパッチリストの詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
パッチ ID	自動採番されます。	×
パッチ名	セキュリティ情報の「文書番号（適用日付）」から取得されます。	×
バージョン	セキュリティ情報の「文書番号（適用日付）」から取得されます。	×

(凡例)

×

13.1.9 ウィルス定義情報として取得できる情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新される Asset Console のウィルス定義情報の詳細を次の表に示します。

表 13-10 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録・更新されるウィルス定義情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
エンジンバージョン	セキュリティ情報の「エンジンバージョン」から取得されます。	○

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
ITDM2 管理情報取り込み制御	「ITDM2 管理情報に対応する情報がないとき削除する」が設定されます。	○
インストール日付	セキュリティ情報の「インストール日付」から取得されます。	○
常駐／非常駐	セキュリティ情報の「自動保護（常駐設定）」から取得されます。 「自動保護（常駐設定）」の取得値が「AutoProtectEnabled」の場合は「常駐」、それ以外の場合は「非常駐」が設定されます。	○
ウィルス対策ソフトウェアバージョン	セキュリティ情報の「バージョン」から取得されます。	○
ウィルス対策ソフトウェア名	セキュリティ情報の「製品名」から取得されます。	×
ウィルス定義バージョン	セキュリティ情報の「ウィルス定義ファイルのバージョン」から取得されます。	○

(凡例)

○：更新される

×：更新されない

13.1.10 部署情報として登録できる情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報に該当する部署が登録されていない場合に、部署情報に追加されます。部署情報に追加するかどうかは、ITDM2 管理情報取得画面の引き当て項目で設定します。ITDM2 管理情報取得画面の引き当て項目での設定については、マニュアル「運用ガイド」の「4.14 引き当て項目の設定（ITDM2 管理情報取得）」を参照してください。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録される Asset Console の部署情報の詳細を次の表に示します。

表 13-11 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録される部署情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
部署	部署情報の「グループパス」から登録されます。	×
部署（英名）	「部署名（英名）」から設定されます。	×
部署 ID	自動採番されます。	×
部署名	部署情報の「グループ名称」から登録されます。	×

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
部署名（英名）	「部署 ID」が設定されます。	×
上位部署 ID	上位部署がある場合は、上位部署の「部署 ID」が設定されます。	×

(凡例)

×：更新されない

13.1.11 設置場所情報として登録できる情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報に該当する設置場所が登録されていない場合に、設置場所情報に追加されます。設置場所情報に追加するかどうかは、ITDM2 管理情報取得画面の引き当て項目で設定します。ITDM2 管理情報取得画面の引き当て項目での設定については、マニュアル「運用ガイド」の「4.14 引き当て項目の設定 (ITDM2 管理情報取得)」を参照してください。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録される Asset Console の設置場所情報の詳細を次の表に示します。

表 13-12 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報を基に登録される設置場所情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
設置場所	設置場所情報の「グループパス」から登録されます。	×
設置場所（英名）	「設置場所名（英名）」から設定されます。	×
設置場所 ID	自動採番されます。	×
設置場所名	設置場所情報の「グループ名称」から登録されます。	×
設置場所名（英名）	「設置場所 ID」が設定されます。	×
上位設置場所 ID	上位設置場所がある場合は、上位設置場所の「設置場所 ID」が設定されます。	×

(凡例)

×：更新されない

13.2 Asset Console から発行する JP1 イベントの詳細

Asset Console から発行する JP1 イベントの種類を次の表に示します。

表 13-13 Asset Console から発行する JP1 イベント

イベント ID	イベント名	説明
00005531	フィルター起動開始イベント	資産管理サーバが開始したことを通知します。
00005532	フィルター起動失敗イベント (異常終了)	資産管理サーバの起動に失敗したことを通知します。
00005533	フィルター終了イベント	資産管理サーバのセッション監視を終了したことを通知します。
00005541	案件遷移イベント	案件が次の管理ノードに遷移したことを通知します。このイベントは、アクティビティにタスク「JP1 イベント通知」が定義されている場合だけ、発行されます。
00005542	案件状態変更イベント	案件が却下または引き戻されたことを通知します。このイベントは、いったん「案件遷移イベント」が発行された案件が、引き戻しまたは却下された場合に発行されます。
00005543	案件削除イベント	案件が削除されたことを通知します。このイベントは、いったん「案件遷移イベント」が発行された案件が、削除された場合に発行されます。
00005581	対処完了イベント	JP1/IM から取り込んだ問題点が対処完了したことを JP1/IM に通知します。
00005582	問題点状態変更イベント	問題点が登録または変更されたことを通知します。
00005583	問題点削除イベント	問題点が削除されたことを通知します。

13.2.1 各イベントの属性

Asset Console から発行する各 JP1 イベントの属性種別、項目、属性名および属性の内容を次に示します。

(1) フィルター起動開始イベントの属性

資産管理サーバが開始したことを通知します。

フィルター起動開始イベントの属性を次の表に示します。

表 13-14 フィルター起動開始イベントの属性

属性種別	項目	属性名	内容
発行契機	—	—	フィルター起動時
基本属性	イベント ID	—	「00005531」

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		メッセージ	—	「セッションフィルターを起動しました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Information」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AC」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「SERVICE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「ASSET_SESS」
		事象種別	OCCURRENCE	「START」
		開始時刻	START_TIME	開始した時刻

(凡例)

—：該当しない

(2) フィルター起動失敗イベント（異常終了）の属性

資産管理サーバの起動に失敗したことを通知します。

フィルター起動失敗イベント（異常終了）の属性を次の表に示します。

表 13-15 フィルター起動失敗イベント（異常終了）の属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		—	—	フィルター起動失敗時
基本属性		イベント ID	—	「00005532」
		メッセージ	—	「セッションフィルターを起動できませんでした。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Error」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AC」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「SERVICE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「ASSET_SESS」
		事象種別	OCCURRENCE	「END」
		終了時刻	END_TIME	終了した時刻
		終了コード	RESULT_CODE	終了コード

(凡例)

—：該当しない

(3) フィルター終了イベントの属性

資産管理サーバのセッション監視を終了したことを通知します。

フィルター終了イベントの属性を次の表に示します。

表 13-16 フィルター終了イベントの属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	フィルターの停止時
基本属性		イベント ID	－	「00005533」
		メッセージ	－	「セッションフィルターを停止しました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Information」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AC」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「SERVICE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「ASSET_SESS」
		事象種別	OCCURRENCE	「END」
		終了時刻	END_TIME	終了した時刻
		終了コード	RESULT_CODE	終了コード

(凡例)
－：該当しない

(4) 案件遷移イベントの属性

案件が次の管理ノードに遷移したことを通知します。

イベント情報 0～31 のユーザ拡張エリアには、タスク「JP1 イベント通知」の管理項目の設定で、任意の情報を設定できます。タスク「JP1 イベント通知」については、「10.5.2 実行タスクを選択する」を参照してください。

案件遷移イベントの属性を次の表に示します。

表 13-17 案件遷移イベント

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	案件の遷移時
基本属性		イベント ID	－	「00005541」
		メッセージ	－	「案件が遷移しました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AC」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「INCIDENT」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Incident」

属性種別		項目	属性名	内容
拡張属性	共通情報	オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の案件 ID
		事象種別	OCCURRENCE	「ACTIVITY」
	固有情報	バージョン	A10	Asset Console のバージョン
		案件名	C11	対象の案件名
		案件定義 ID	C12	対象の案件定義 ID
		状態	C13	遷移後の状態
		登録者ユーザ ID	C14	案件登録者のユーザ ID
		最終処理者ユーザ ID	C15	最終処理者のユーザ ID
		処理対象ユーザ ID	C16	案件の遷移先のユーザ ID
		イベント情報 0～31	U00～U31	ユーザ拡張エリア

(凡例)

－：該当しない

(5) 案件状態変更イベントの属性

案件が却下または引き戻されたことを通知します。

案件状態変更イベントの属性を次の表に示します。

表 13-18 案件状態変更イベント

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	案件の却下時または引き戻し時
基本属性		イベント ID	－	「00005542」
		メッセージ	－	「案件の状態が変更されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AC」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「INCIDENT」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Incident」
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の案件 ID
		事象種別	OCCURRENCE	<ul style="list-style-type: none"> 却下：「REJECT」 引き戻し：「PULLBACK」
	固有情報	バージョン	A10	Asset Console のバージョン
		案件名	C11	対象の案件名
		案件定義 ID	C12	対象の案件定義 ID

属性種別		項目	属性名	内容
拡張属性	固有情報	状態	C13	遷移後の状態
		登録者ユーザ ID	C14	案件登録者のユーザ ID
		最終処理者ユーザ ID	C15	最終処理者のユーザ ID
		処理対象ユーザ ID	C16	案件の遷移先のユーザ ID

(凡例)

－：該当しない

(6) 案件削除イベントの属性

案件が削除されたことを通知します。

案件削除イベントの属性を次の表に示します。

表 13-19 案件削除イベント

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	案件の削除時
基本属性		イベント ID	－	「00005543」
		メッセージ	－	「案件が削除されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AC」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「INCIDENT」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Incident」
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の案件 ID
		事象種別	OCCURRENCE	「DELETE」
	固有情報	バージョン	A10	Asset Console のバージョン
		案件名	C11	対象の案件名
		案件定義 ID	C12	対象の案件定義 ID

(凡例)

－：該当しない

(7) 対処完了イベントの属性

JP1/IM から取り込んだ問題点が対処完了したことを JP1/IM に通知します。JP1/IM - Manager の「イベントコンソール」画面からは、このイベントの「問題点詳細」ダイアログを表示して、対処の内容を参照できます。

対処完了イベントの属性を次の表に示します。

表 13-20 対処完了イベントの属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		—	—	[問題点編集] ダイアログで [対処完了] ボタンクリック時
基本属性		イベント ID	—	[00005581]
		メッセージ	—	[問題が対処されました。]
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	[Notice]
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	[/HITACHI/JP1/AC]
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	[ACTION]
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	問題点
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の問題点 ID
		事象種別	OCCURRENCE	[NOTICE]
	固有情報	対処完了資産番号	ASSET_NO	対象の資産番号
		対処完了通し番号	EVENT_SEQNO	対象のイベント通し番号

(凡例)

—：該当しない

(8) 問題点状態変更イベントの属性

問題点が登録または変更されたことを通知します。JP1/IM - Manager の [イベントコンソール] 画面からは、このイベントの [問題点詳細] ダイアログを表示して、変更された内容を参照できます。

また、イベント情報 0~31 のユーザ拡張エリアには、通知したい情報を追加できます。ユーザ拡張エリアに管理項目を設定する方法については、「[13.2.2 問題点状態変更イベントのユーザ拡張エリアの設定](#)」を参照してください。

問題点状態変更イベントの属性を次の表に示します。

表 13-21 問題点状態変更イベント

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		—	—	問題点の登録時
基本属性		イベント ID	—	[00005582]
		メッセージ	—	[問題点の状態が変更されました。]
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	[Notice]
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	[/HITACHI/JP1/AC]

属性種別		項目	属性名	内容
拡張属性	共通情報	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「MAINTENANCE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Maintenance」
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の問題点 ID
		事象種別	OCCURRENCE	<ul style="list-style-type: none"> 新規登録：「ADD」 更新：「MODIFY」
	固有情報	バージョン	A10	Asset Console のバージョン
		管理番号	M11	対象の管理番号
		イベント情報 0～31	U00～U31	ユーザ拡張エリア

(凡例)

－：該当しない

(9) 問題点削除イベントの属性

問題点が削除されたことを通知します。

問題点削除イベントの属性を次の表に示します。

表 13-22 問題点削除イベント

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	問題点の変更時
基本属性		イベント ID	－	「00005583」
		メッセージ	－	「問題点が削除されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AC」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「MAINTENANCE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Maintenance」
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の問題点 ID
		事象種別	OCCURRENCE	「DELETE」
	固有情報	バージョン	A10	Asset Console のバージョン
		管理番号	M11	対象の管理番号

(凡例)

－：該当しない

13.2.2 問題点状態変更イベントのユーザ拡張エリアの設定

問題点状態変更イベントの「ユーザ拡張エリア」に任意の管理項目を設定して、問題点の状態が変更されたときに通知したい内容を追加できます。

「ユーザ拡張エリア」に設定する管理項目は、イベント属性構成ファイル（eventmap.ini）に定義します。

イベント属性構成ファイルの格納先と管理項目の設定方法を次に示します。

- イベント属性構成ファイルの格納先

<Asset Console のインストール先フォルダ>%env

なお、イベント属性構成ファイルの作成時の参考として、上記格納先にイベント属性構成ファイルのデフォルトの内容を記載したサンプルファイル（eventmap.ini.org）を提供しています。サンプルを参考にして、イベント属性構成ファイルを作成してください。

- 管理項目の設定方法

イベント属性構成ファイルのサンプルファイル（eventmap.ini.org）を利用して、管理項目を設定する手順を次に示します。

1. eventmap.ini.org をテキストエディタで開く。

2. U12～U31 に通知したい管理項目をクラス.プロパティの形式で記述する。

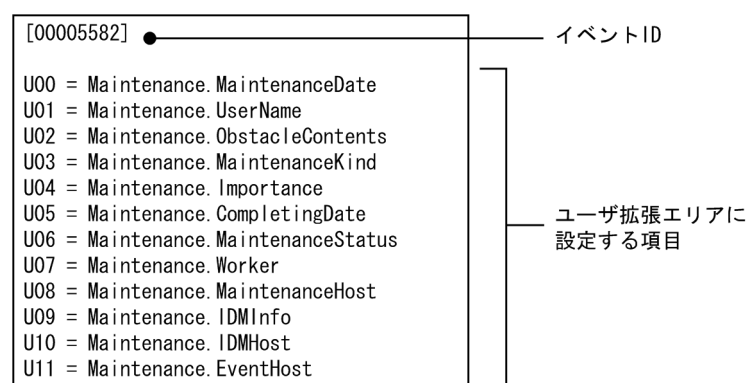
問題点状態変更イベントには、保守履歴（Maintenance）の管理項目以外は定義できません。保守履歴以外の管理項目を定義すると、イベント発行時にエラーが発生して、イベントが発行されません。

3. ファイル名を「eventmap.ini」に変更して、<Asset Console のインストール先フォルダ>%env に保存する。

これで、問題点状態変更イベントで通知する内容を設定できました。

eventmap.ini.org ファイルの内容を次の図に示します。

図 13-1 eventmap.ini.org ファイル



14

管理情報の詳細

この章では、Asset Console で提供するオブジェクトクラスのプロパティと、プロパティの詳細情報、およびアソシエーションクラスが表すクラス間の関連を示します。

また、業務メニュー「インポート」からのインポート、業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート、jamCsvImport.bat でのインポートおよび jamCsvExport.bat でのエクスポートで対象となる項目を示します。

14.1 クラス構成

この節では、Asset Console で提供しているクラスの一覧および関連図を示します。

オブジェクトクラスおよびプロパティの詳細は、アルファベット順で示しています。

14.1.1 オブジェクトクラス

オブジェクトクラスのクラス名と概要を次の表に示します。各オブジェクトクラスがインポート・エクスポートおよびユーザレポート作成時の対象となるかどうか、併せて示します。

表 14-1 オブジェクトクラス一覧

クラス名	概要	インポート、エクスポート		ユーザ レポート
		業務メニュー jamCsvImport jamCsvExport ※1	jamimport jamexport※2	
AddressGroup	IP グループ情報	○	○	○
AssetInfo	資産情報	○	○	○
AssetUpdateRecord	移管履歴	×	○	○
Contract	契約情報	○	○	○
ContractAssetHistory	契約資産履歴	○	△	○
ContractCatalog	契約会社カタログ	×	○	×
ContractHistory	契約履歴	○	△	○
DivisionInfo	分掌情報	○	○	×
GroupInfo	部署情報	○	○	○
HardwareInfo	ハードウェア資産情報	○	○	○
InstalledInfo	インストールソフトウェア情報	○	○	○
InstalledList	インストールソフトウェアリスト	○	○	○
InstalledUpdateRecord	ソフトウェア変更履歴	×	△	○
InstalledVirusDefInfo	ウィルス定義情報	○	○	○
IPAddress	IP アドレス管理情報	○	○	○
JobRoleInfo	職権管理情報	○	○	○
LicenseInfo	ライセンス情報	○	○	○
LocationInfo	設置場所情報	○	○	○

クラス名	概要	インポート、エクスポート		ユーザ レポート
		業務メニュー jamCsvImport jamCsvExport ※1	jamimport jamexport※2	
MachineCatalog	機器カタログ	○	○	×
Maintenance	保守履歴	○	○	○
NetworkInfo	ネットワーク情報	○	○	○
PatchInfo	パッチ情報	○	○	○
PatchList	パッチリスト	○	○	○
RelationAssetInfo	関連資産情報	×	△	×
RoleInfo	権限管理情報	○	○	○
SoftwareInfo	ソフトウェア資産情報	○	○	○
SoftwareKeyInfo	ソフトウェアキー情報	○	○	○
SoftwareList	ソフトウェアリスト	○	○	○
UpdateRecord	変更履歴	×	△	○
UserInfo	ユーザ管理情報	○	○	○
VolumeContract	ボリューム契約情報	○	○	○

(凡例)

○：対象

×

△：jamexport コマンドでのエクスポートだけ対象（jamimport コマンドでのインポートはサポート対象外）

注※1

次の方法でインポートおよびエクスポートすることを示しています。

- ・ 業務メニュー「インポート」および jamCsvImport.bat でのインポート
- ・ 業務メニュー「エクスポート」および jamCsvExport.bat でのエクスポート

注※2

次の方法でインポートおよびエクスポートすることを示しています。

- ・ jamimport コマンドでのインポート
- ・ jamexport コマンドでのエクスポート

14.1.2 アソシエーションクラス

アソシエーションクラスのクラス名と概要を次の表に示します。各アソシエーションクラスがインポート・エクスポートおよびユーザレポート作成時の対象となるかどうかも併せて示します。

表 14-2 アソシエーションクラス一覧

クラス名	概要	インポート、エクスポート		ユーザ レポート
		業務メニュー jamCsvImport jamCsvExport ※1	jamimport jamexport※ 2	
AssetUpdateRecLink	移管履歴情報リスト	×	△	○
AuthorityLink	ユーザ情報と権限情報	○	○	○
ContractAssetHistoryLink	契約履歴と契約資産履歴	×	△	○
ContractHistoryLink	契約情報と契約履歴	×	△	○
ContractLeaseLink	リース契約と資産情報	○	○	○
ContractMaintenanceLink	保守契約と資産情報	○	○	○
ContractRentalLink	レンタル契約と資産情報	○	○	○
DivisionLink	分掌情報と部署情報	○	○	×
DivisionUserLink	分掌情報とユーザ情報	○	○	×
HardwareLink	資産情報とハードウェア資産情報	×	△	○
InstalledLink	資産情報とインストールソフトウェア 情報	×	△	○
InstalledListLink	インストールソフトウェアリストとイン ストールソフトウェア情報	×	△	○
InstalledVirusDefLink	資産情報とウィルス定義情報	×	△	○
IPAddressLink	IP アドレスの状態管理	○	○	○
JobRoleInfo	ユーザ情報と職権情報	○	○	○
LicenseLink	ライセンス情報とソフトウェア資産情報	×	△	○
MachinePermitLink	資産情報とソフトウェアキー情報	○	○	○
MemberLink	ユーザ情報と部署情報	○	○	○
NetworkLink	資産情報とネットワーク情報	×	△	○
PatchLink	資産情報とパッチ情報	×	△	○
PatchListLink	パッチリストとパッチ情報	×	△	○
RelationAssetLink	資産情報と関連資産情報	×	△	×

クラス名	概要	インポート、エクスポート		ユーザ レポート
		業務メニュー jamCsvImport jamCsvExport ※1	jamimport jamexport※ 2	
SoftwareKeyLink	ソフトウェア資産情報とソフトウェアキー情報	×	△	○
SoftwareLicenseLink	ソフトウェアリストとライセンス情報	×	△	○
SoftwareLink	資産情報とソフトウェア資産情報	×	△	○
SoftwareListLink	ソフトウェアリストとソフトウェア資産情報	×	△	○
SoftwareMapLink	ソフトウェアリストとインストールソフトウェアリスト	×	△	○
UserPermitLink	ユーザ情報とソフトウェアキー情報	○	○	○
VolumeContractLink	ボリューム契約と資産情報	○	○	○

(凡例)

○：対象

×

△：jamexport コマンドでのエクスポートだけ対象（jamimport コマンドでのインポートはサポート対象外）

注※1

次の方法でインポートおよびエクスポートすることを示しています。

- ・ 業務メニュー「インポート」および jamCsvImport.bat でのインポート
- ・ 業務メニュー「エクスポート」および jamCsvExport.bat でのエクスポート

注※2

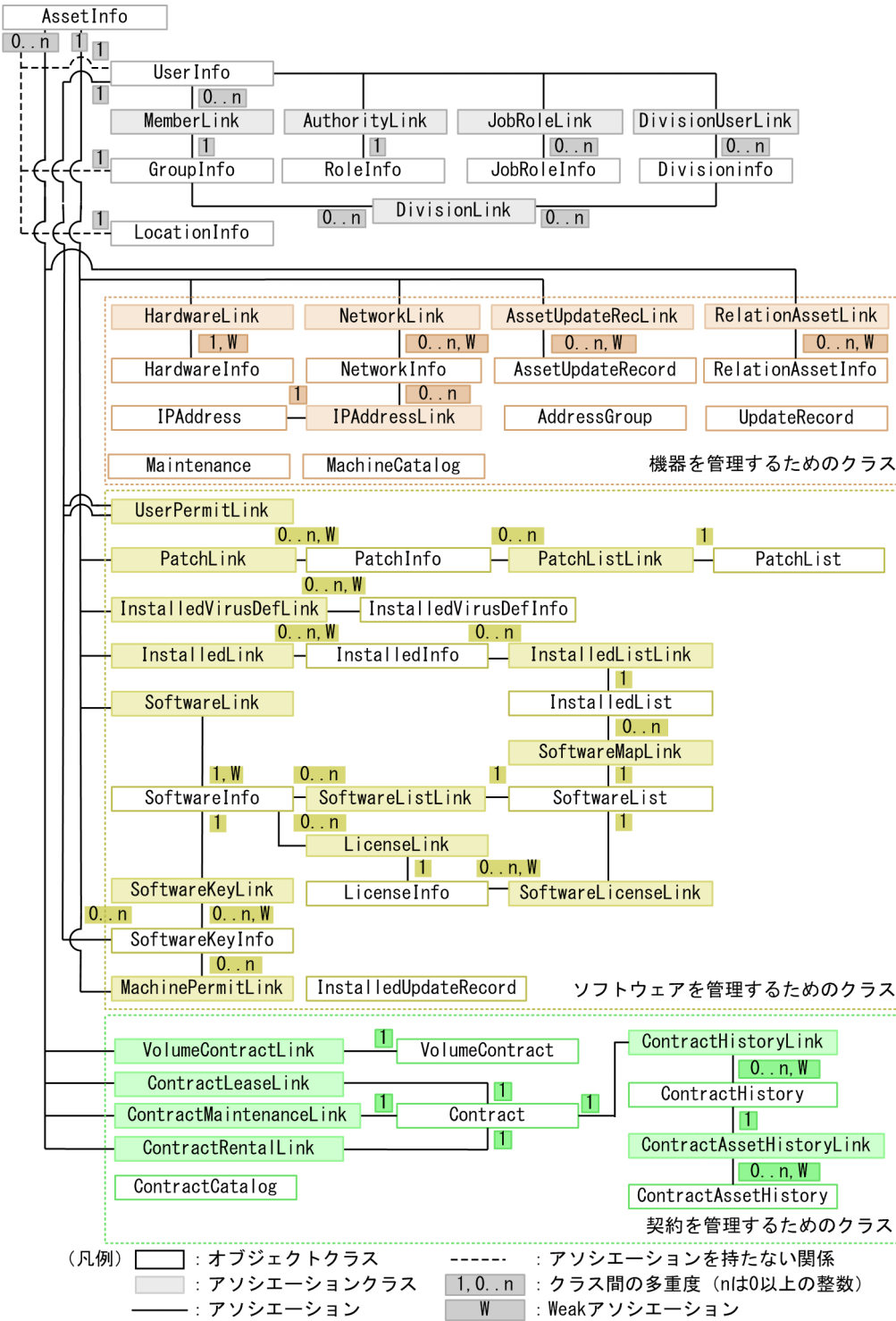
次の方法でインポートおよびエクスポートすることを示しています。

- ・ jamimport コマンドでのインポート
- ・ jamexport コマンドでのエクスポート

14.1.3 クラス関連図

オブジェクトクラスの関連、およびクラス間の関連を表すアソシエーションクラスを次の図に示します。

図 14-1 クラス関連図



14.1.4 プロパティの値を表すデータ型

各クラスにプロパティを追加したり変更したりする場合、プロパティの値は次の表に示すデータ型で表します。この表では、プロパティに指定できる値とデータ型の対応を示しています。

表 14-3 データ型の対応

データ型	指定できる値
uint8	符号なし 8 ビット整数 0～255
uint16	符号なし 16 ビット整数 0～65,535
uint32	符号なし 32 ビット整数 0～4,294,967,295
uint64	符号なし 64 ビット整数 0～18,446,744,073,709,551,615
string[n]	文字列 (n は文字列の最大長)
date	日付 YYYY-MM-DD または YYYY/MM/DD

14.2 オブジェクトクラスのプロパティ一覧

この節では、Asset Console で提供するオブジェクトクラスに属するプロパティについて、プロパティの内容、データ型、最大長、およびプロパティに割り当てられているコードを示します。

また、次の項目についても、併せて示しています。

- 業務メニュー「インポート」、jamCsvImport.bat および jamimport コマンドでインポートするときに、プロパティの値を指定する際の注意事項
- 業務メニュー「インポート」、および jamCsvImport.bat でインポートするときに、自動的に設定される値
- jamimport コマンドでのインポート時に必ず指定する項目

なお、業務メニュー「インポート」および jamCsvImport.bat でのインポート時に必ず指定する項目については、「[14.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目](#)」を参照してください。

14.2.1 AddressGroup (IP グループ情報)

IP アドレスをグループ管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

AddressGroup のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-4 AddressGroup のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「AddressGroup」です。	◎
DHCPServerName	－	DHCP サーバ名	string[255]	DHCP サーバ名です。	△
EndIPAddress	－	終了アドレス	string[70]	IP グループ内の終了アドレスです。	◎
Gateway	－	ゲートウェイ	string[70]	IP グループのゲートウェイです。	△
GroupID	－	部署 ID	string[64]	部署別 IP グループの場合に、対応する部署 ID です。	△
IPGroupID	●	IP グループ ID	uint32	IP グループを識別するユニークな ID です。	◎

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
IPGroupID	●	IP グループ ID	uint32	インポートで新規に登録する場合は、10001～10000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。	◎
IPGroupName	—	IP グループ名	string[255]	IP グループの名称です。	◎
LocationID	—	設置場所 ID	string[64]	設置場所 IP グループの場合に、対応する設置場所 ID です。	△
ManagerialUserID	—	管理者 ID	string[64]	IP グループの管理者の ID です。	△
Purpose	—	用途	string[255]	IP グループの用途です。	△
StartIPAddress	—	開始アドレス	string[70]	IP グループの開始アドレスです。	◎
SubnetMask	—	サブネットマスク	string[70]	IP グループのサブネットマスクです。	◎
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- ：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

14.2.2 AssetInfo (資産情報)

システム装置、ネットワーク装置、拡張装置といった機器やソフトウェアに関する利用者、部署などの情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

AssetInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-5 AssetInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetBranchNo	—	資産番号枝番	uint32	ライセンスの分割時の枝番です。 インポートで新規に登録する場合は、「0」を指定してください。更新時は、10001～10000000000 の範囲で、指定してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、「機器に関する情報」では必ず「0」が設定されます。	◎
AssetID	●	資産 ID	uint32	資産を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、10001～10000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、省略すると自動的に採番されます。	◎
AssetKind	—	資産種別	string[3]	「・資産種別」を参照してください。 「001」の場合は、オブジェクトクラス「HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」を必ずインポートしてください。 「002」の場合は、「SoftwareInfo (ソフトウェア資産情報)」を必ずインポートしてください。	◎
AssetNo	—	資産番号	string[512]	ユーザで管理するユニークな資産番号です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、省略すると自動的に採番されます。	◎
AssetStatus	—	機器状態	string[3]	「・機器状態」を参照してください。 このプロパティは、「AssetKind」が「001」の場合に、登録できます。	○

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetStatus	－	機器状態	string[3]	業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると「在庫」が設定されます。	○
AssetWorkKind	－	稼働管理種別	string[3]	「・稼働管理種別」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、デフォルト値を設定する必要があります。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「AssetInfo」です。	◎
DMLastUpdateTime	－	ITDM2 最終更新日付	date	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得したシステム構成情報、未導入機器情報および削除履歴情報のうち、最新の最終更新日付です。	△
DMStatus	－	ITDM2 Agent 導入状態	string[3]	「・ITDM2 Agent 導入状態」を参照してください。	○
EndDate	－	使用終了日	date	ソフトウェアの体験版などの有効期間の終了日です。	△
GroupID	－	部署 ID	string[64]	部署名に対応する部署 ID です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「GroupInfo」と同じ値を指定してください。	△
GroupName	－	部署	string[1024]	「本社/営業部/営業 1 課」のように、上位からすべての階層関係を示した部署情報です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「GroupInfo」と同じ値を指定してください。	△
GroupName_EN	－	部署（英名）	string[1024]	「Head Office/Sales Dept./Section1」のように、上位からすべての階層関係を示した英語の部署情報です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「GroupInfo」と同じ値を指定してください。	△
InventoryKey	－	ホスト識別子	string[128]	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から資産情報を引き当てるための識別キーです。 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の運用キーに合わせた引き当てキーを指定してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、「資産種別」で「機器	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
InventoryKey	—	ホスト識別子	string[128]	に関する情報」を選択したときだけ対象となります。	△
LocationID	—	設置場所 ID	string[64]	設置場所名に対応する設置場所 ID です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「LocationInfo」と同じ値を指定してください。	△
LocationName	—	設置場所	string[1024]	「東京/A ビル/1F」のように、上位からすべての階層関係を示した設置場所情報です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「LocationInfo」と同じ値を指定してください。	△
LocationName_EN	—	設置場所（英名）	string[1024]	「Tokyo/A building/First floor」のように、上位からすべての階層関係を示した英語の設置場所情報です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「LocationInfo」と同じ値を指定してください。	△
ManagerialGroup	—	管理部署	string[1024]	資産の管理部署です。	△
ManagerialGroup_EN	—	管理部署（英名）	string[1024]	資産の管理部署の英語名です。	△
ManagerialGroupID	—	管理部署 ID	string[64]	管理部署に対応する ID です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「GroupInfo」と同じ値を指定してください。	△
ManagerialUser	—	管理者	string[255]	資産の管理者です。ユーザ管理情報にないユーザ名も指定できます。	△
ManagerialUser_EN	—	管理者（英名）	string[255]	資産の管理者の英語名です。	△
ManagerialUserID	—	管理者 ID	string[64]	管理者に対応する ID です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「UserInfo」と同じ値を指定してください。	△
Note	—	備考	string[255]	資産情報の備考です。	△
PurchasePrice	—	購入金額	string[15]	資産の購入金額です。	△
Purpose	—	用途	string[255]	資産の用途です。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
RegistrationDate	ー	登録日	date	資産情報の登録日です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、インポートを実行した日付が設定されます。	○
SoftwareStatus	ー	ソフトウェア状態	string[3]	「・ソフトウェア状態」を参照してください。 このプロパティは、「AssetKind」が「002」の場合に登録できます。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、「資産種別」で「ソフトウェア情報」を選択したときだけ対象となります。設定を省略すると「運用」が設定されます。	○
StartDate	ー	使用開始日	date	資産の使用開始日です。	△
StocktakingDate	ー	棚卸日付	date	棚卸を実施した日付です。	△
UpdateTime	ー	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UpdateUser	ー	変更者	string[255]	資産情報の変更者に対応するユーザ ID です。Asset Console がデータを更新する際に使用され、[機器詳細] ダイアログで情報を変更した場合に、ユーザ ID が設定されます。ただし、次に示す場合は、更新したユーザのユーザ ID は設定されません。 <ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア資産情報を更新する場合 データのインポートを実行する場合 JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から ITDM2 管理情報を取得する場合 案件を使用して情報を更新する場合 	△
UserID	ー	ユーザ ID	string[64]	ユーザ名に対応するユーザ ID です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「UserInfo」と同じ値を指定してください。	△
UserName	ー	ユーザ名	string[512]	ユーザ名です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「UserInfo」と同じ値を指定してください。	△
UserName_EN	ー	ユーザ名（英名）	string[512]	ユーザの英語名です。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserName_EN	—	ユーザ名 (英名)	string[512]	インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「UserInfo」と同じ値を指定してください。	△
UserPropertyArea_1※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyCode_3※	—	固有情報 Code-3	string[64]		△
UserPropertyCode_4※	—	固有情報 Code-4	string[64]		△
UserPropertyCode_5※	—	固有情報 Code-5	string[64]		△
UserPropertyCode_6※	—	固有情報 Code-6	string[64]		△
UserPropertyDate_1※	—	固有情報 Date-1	date	日付情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyDate_2※	—	固有情報 Date-2	date		△
UserPropertyDate_3※	—	固有情報 Date-3	date		△
UserPropertyDate_4※	—	固有情報 Date-4	date		△
UserPropertyDate_5※	—	固有情報 Date-5	date		△
UserPropertyDate_6※	—	固有情報 Date-6	date		△
UserPropertyField128_1※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField255_1※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△
UserPropertyField32_1※	—	固有情報 Field32-1	string[32]	32 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField32_2※	—	固有情報 Field32-2	string[32]		△
UserPropertyField32_3※	—	固有情報 Field32-3	string[32]		△
UserPropertyField32_4※	—	固有情報 Field32-4	string[32]		△
UserPropertyField32_5※	—	固有情報 Field32-5	string[32]		△
UserPropertyField32_6※	—	固有情報 Field32-6	string[32]		△
UserPropertyField64_1※	—	固有情報 Field64-1	string[64]	64 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField64_2※	—	固有情報 Field64-2	string[64]		△
UserPropertyUint_1※	—	固有情報 Uint-1	uint32	数値情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyUint_2※	—	固有情報 Uint-2	uint32		△
UserPropertyUint_3※	—	固有情報 Uint-3	uint32		△
UserPropertyUint_4※	—	固有情報 Uint-4	uint32		△
UserPropertyUint_5※	—	固有情報 Uint-5	uint32		△
UserPropertyUint_6※	—	固有情報 Uint-6	uint32		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- ：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）

○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）

△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

各プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-6 資産種別

コード	表示文字列
001	ハードウェア
002	ソフトウェア

表 14-7 機器状態

コード	表示文字列
002	運用
301	在庫
501	返却
601	廃棄
701	仮廃棄
999	抹消

表 14-8 稼働管理種別

コード	表示文字列
001	稼働管理対象
002	稼働管理対象外

表 14-9 ITDM2 Agent 導入状態

コード	表示文字列
001	導入
002	未導入

表 14-10 ソフトウェア状態

コード	表示文字列
001	運用
501	返却

コード	表示文字列
601	廃棄
999	抹消

14.2.3 AssetUpdateRecord (移管履歴)

資産の管理部署や設置場所の履歴情報を管理するクラスです。

このクラスは、jamimport コマンドでのインポートおよび jamexport コマンドでのエクスポートができます。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

AssetUpdateRecord のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-11 AssetUpdateRecord のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。 インポート時は、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
BaseCreationClassName	—	BaseCCN	string[32]	更新元のクラス名「AssetInfo」です。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「AssetUpdateRecord」です。	◎
GroupName	—	部署	string[1024]	「本社/営業部/営業 1 課」のように、上位からすべての階層関係を示した部署情報です。	△
GroupName_EN	—	部署（英名）	string[1024]	「Head Office/Sales Dept./Section1」のように、上位からすべての階層関係を示した英語の部署情報です。	△
HistoryUpdateDate	●	更新日時	date	部署情報を更新した日付です。	◎
LocationName	—	設置場所	string[1024]	「東京/A ビル/1F」のように、上位からすべての階層関係を示した設置場所情報です。	△
LocationName_EN	—	設置場所（英名）	string[1024]	「Tokyo/A building/First floor」のように、上位からすべての階層関係を示した英語の設置場所情報です。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserName	－	ユーザ名	string[512]	ユーザ名です。	△
UserName_EN	－	ユーザ名（英名）	string[512]	ユーザの英語名です。	△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
- △：任意に指定するプロパティ

14.2.4 Contract（契約情報）

各機器を保守契約またはリース契約単位に管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

このクラスをインポートして、契約対象の資産と関連づけるには、アソシエーションクラス「ContractLeaseLink（リース契約と資産情報）」、「ContractMaintenanceLink（保守契約と資産情報）」または「ContractRentalLink（レンタル契約と資産情報）」もインポートしてください。

Contract のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-12 Contract のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
Address	－	住所	string[255]	契約会社の住所です。	△
Company	－	契約会社	string[255]	契約会社名です。	○
ContactInfo	－	連絡先	string[255]	契約会社の連絡先です。	△
ContactInfo_2*	－	連絡先 2	string[255]		△
ContactInfo_3*	－	連絡先 3	string[255]		△
ContactName	－	担当者名	string[512]	契約会社の担当者名です。	△
ContactName_2*	－	担当者名 2	string[512]		△
ContactName_3*	－	担当者名 3	string[512]		△
Contents	－	契約内容	string[255]	契約内容です。	△
ContractDate	－	契約日	date	契約日です。	○

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
ContractID	●	契約 ID	uint32	契約を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、10001～1000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。	◎
ContractKind	—	契約種別	string[3]	「・契約種別」を参照してください。	◎
ContractNo	—	契約番号	string[60]	契約番号です。	○
ContractObject	—	契約対象	string[3]	「・契約対象」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「機器」が設定されます。	◎
ContractStatus	—	契約状態	string[3]	「・契約状態」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「契約中」が設定されます。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「Contract」です。	◎
EndDate	—	契約終了日	date	契約の終了日です。	○
Explanation	—	説明	string[255]	契約の説明です。	△
GroupID	—	部署 ID	string[64]	部署名を識別するユニークな ID です。	△
MonthlyPrice	—	契約料（月額）	string[15]	月額の契約料です。	△
RenewalTimes	—	回数	uint32	契約を更改した回数です。	○
StartDate	—	契約開始日	date	契約の開始日です。	○
TotalPrice	—	契約料（総額）	string[15]	契約料の総額です。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField128_2※	－	固有情報 Field128-2	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_1※	－	固有情報 Field255-1	string[255]		△
UserPropertyField255_2※	－	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-13 契約種別

コード	表示文字列
100	保守契約
200	リース契約
300	レンタル契約

表 14-14 契約対象

コード	表示文字列
001	機器
002	ソフトウェア

表 14-15 契約状態

コード	表示文字列
001	契約中
501	満了
999	抹消

14.2.5 ContractAssetHistory (契約資産履歴)

契約履歴の対象資産の情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定できます。

ContractAssetHistory のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-16 ContractAssetHistory のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考
AssetID	●	資産 ID	uint32	契約対象の資産の資産 ID です。
AssetNo	－	資産番号	string[60]	契約対象の資産の資産番号です。
ContractID	●	契約 ID	uint32	対応する契約の契約 ID です。
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「ContractAssetHistory」です。
RenewalDate	－	更改日時	date	契約の更改日時です。
RenewalTimes	●	回数	uint32	対応する契約の契約更改の回数です。

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ

14.2.6 ContractCatalog (契約会社カタログ)

契約会社の情報を管理するクラスです。

このクラスは、jamimport コマンドでのインポートおよび jamexport コマンドでのエクスポートができます。

ContractCatalog のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-17 ContractCatalog のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimport での指定
Address	－	住所	string[255]	契約会社の住所です。	△
Company	－	契約会社	string[255]	契約会社の名称です。	○
ContactInfo	－	連絡先	string[255]	契約会社の連絡先です。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
ContactInfo_2※	－	連絡先 2	string[255]	契約会社の連絡先です。	△
ContactInfo_3※	－	連絡先 3	string[255]		△
ContactName	－	担当者名	string[512]	契約会社の担当者です。	△
ContactName_2※	－	担当者名 2	string[512]		△
ContactName_3※	－	担当者名 3	string[512]		△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「ContractCatalog」です。	◎
HistoryUpdateDate	●	更新日時	date	契約内容の更新日です。	◎
UpdateTime	－	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	－	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	－	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	－	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	－	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	－	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	－	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	－	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	－	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

14.2.7 ContractHistory (契約履歴)

契約情報の更改履歴を管理するクラスです。対応する契約情報の更改内容を履歴として管理します。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定できます。

ContractHistory のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-18 ContractHistory のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考
Address	—	住所	string[255]	対応する契約情報の更改後の住所です。
Company	—	契約会社	string[255]	対応する契約情報の更改後の契約会社です。
ContactInfo	—	連絡先	string[255]	対応する契約情報の更改後の連絡先です。
ContactInfo_2	—	連絡先 2	string[255]	対応する契約情報の更改後の連絡先 2 です。
ContactInfo_3	—	連絡先 3	string[255]	対応する契約情報の更改後の連絡先 3 です。
ContactName	—	担当者名	string[512]	対応する契約情報の更改後の担当者名です。
ContactName_2	—	担当者名 2	string[512]	対応する契約情報の更改後の担当者名 2 です。
ContactName_3	—	担当者名 3	string[512]	対応する契約情報の更改後の担当者名 3 です。
Contents	—	契約内容	string[255]	対応する契約情報の更改後の契約内容です。
ContractDate	—	契約日	date	対応する契約情報の更改後の契約日です。
ContractID	●	契約 ID	uint32	対応する契約情報の更改後の契約 ID です。
ContractKind	—	契約種別	string[255]	対応する契約情報の更改後の契約種別です。
ContractNo	—	契約番号	string[60]	対応する契約情報の更改後の契約番号です。
ContractObject	—	契約対象	string[255]	対応する契約情報の更改後の契約対象です。
ContractStatus	—	契約状態	string[255]	対応する契約情報の更改後の契約状態です。
CreationClassName	●	CCN	string[32]	対応する契約情報の更改後の CCN です。
EndDate	—	契約終了日	date	対応する契約情報の更改後の契約終了日です。
Explanation	—	説明	string[255]	対応する契約情報の更改後の説明です。
GroupName	—	部署	string[1024]	対応する契約情報の更改後の部署です。
MonthlyPrice	—	契約料（月額）	string[15]	対応する契約情報の更改後の契約料（月額）です。
RenewalDate	—	更改日時	date	対応する契約情報の更改後の更改日時です。
RenewalTimes	●	回数	uint32	対応する契約情報の更改後の回数です。

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考
StartDate	－	契約開始日	date	対応する契約情報の更改後の契約開始日です。
TotalPrice	－	契約料（総額）	string[15]	対応する契約情報の更改後の契約料（総額）です。
UserID	－	更新者 ID	string[64]	契約情報を更新したユーザの「ユーザ ID」です。
UserPropertyArea_1	－	固有情報 Area-1	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Area-1 です。
UserPropertyArea_2	－	固有情報 Area-2	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Area-2 です。
UserPropertyCode_1	－	固有情報 Code-1	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Code-1 です。
UserPropertyCode_2	－	固有情報 Code-2	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Code-2 です。
UserPropertyField128_1	－	固有情報 Field128-1	string[128]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Field128-1 です。
UserPropertyField128_2	－	固有情報 Field128-2	string[128]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Field128-2 です。
UserPropertyField255_1	－	固有情報 Field255-1	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Field255-1 です。
UserPropertyField255_2	－	固有情報 Field255-2	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Field255-2 です。

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ

14.2.8 DivisionInfo (分掌情報)

部署に登録されている分掌情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

DivisionInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-19 DivisionInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「DivisionInfo」です。	◎

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
DivisionID	●	分掌 ID	string[64]	分掌を識別するユニークな ID です。	△
DivisionName	－	分掌名	string[128]	分掌名です。	◎
GroupID	－	所属部署 ID	string[64]	分掌が所属する部署 ID です。	◎

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- △：任意に指定するプロパティ

14.2.9 GroupInfo (部署情報)

組織に関する情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

GroupInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-20 GroupInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AdGuid	－	ADGUID	string[32]	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager のディレクトリ情報の識別子です。	△
CostPriceCode	－	原価コード	string[10]	原価コードです。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「GroupInfo」です。	◎
Explanation	－	説明	string[255]	部署の説明です。	△
FullPathName	－	部署	string[1024]	「本社/営業部/営業 1 課」のように、上位からすべての階層関係を示した部署情報です。	◎
FullPathName_EN	－	部署（英名）	string[1024]	「Head Office/Sales Dept./Section1」のように、上位からすべての階層関係を示した英語の部署情報です。	△
GroupCode	－	部署コード	string[10]	部署のコードです。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
GroupID	●	部署 ID	string[64]	部署を識別するユニークな ID です。	◎
GroupName	—	部署名	string[256]	部署名です。	◎
GroupName_EN	—	部署名（英名）	string[256]	部署の英語名です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「部署 ID」の値が設定されます。	○
ManagedLabel	—	管理ラベル	string[20]	管理ラベルです。	△
UpdateInd	—	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。 更新しないでください。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UpperLinkID	—	上位部署 ID	string[64]	上位の部署の ID です。	△
UserPropertyArea_1※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- ：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

14.2.10 HardwareInfo (ハードウェア資産情報)

システム装置、ネットワーク装置、拡張装置など、資産管理システムで扱うすべてのハードウェアに関する情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

HardwareInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-21 HardwareInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。 インポート時は、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CircuitSpeed	—	回線速度	uint32	単位は「kbps」です。	△
ComputerID	—	コンピュータ ID	string[200]	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報です。 インポート時は、新規に登録する際に指定しないでください。	△
CPUClock	—	CPU クロック数	uint32	単位は「MHz」です。	△
CPUNumber	—	CPU 数	uint16	CPU 数です。	△
CPUType	—	CPU	string[5]	「・CPU 種別」を参照してください。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「HardwareInfo」です。	◎
Developer	—	製造者	string[512]	機器の製造者です。	△
HostName	—	ホスト名	string[512]	機器のホスト名です。 小文字に変換されます。	△
IPAddress	—	IP アドレス	string[15]	機器の IP アドレスです。 IP アドレス管理情報を利用した IP アドレス管理の対象になりません。	△
MACAddress	—	MAC アドレス	string[17]	機器の MAC アドレスです。 小文字に変換および正規化されます。	△
MachineKind	—	機器種別	string[5]	「・機器種別」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「PC」が設定されます。	○

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
MBSAVersion	—	MBSA バージョン	string[200]	機器にインストールされている MBSA のバージョンです。	△
MemorySize	—	メモリサイズ	uint64	単位は「メガバイト」です。	△
Model	—	型式	string[512]	機器の型式です。	△
ModelKind	—	構成種別	string[3]	「・構成種別」を参照してください。	△
MonitorKind	—	モニタ種別	string[3]	「・モニタ種別」を参照してください。	△
MonitorResolution	—	モニタ解像度	string[3]	「・モニタ解像度」を参照してください。	△
MonitorSize	—	モニタサイズ	uint16	モニタのサイズです。	△
Name	—	名称	string[512]	機器の名称です。	△
NumberOfPort	—	ポート数	uint32	機器のポート数です。	△
OSInfo	—	OS 情報	string[512]	機器の OS 情報です。	△
OSVersion	—	OS バージョン	string[200]	機器の OS バージョンです。	△
RemainHDSIZE	—	空ディスク容量	uint64	単位は「メガバイト」です。	△
SerialNo	—	製造番号	string[1024]	機器の製造番号です。	△
Specification	—	仕様	string[255]	機器の仕様です。	△
TotalHDSIZE	—	ディスク容量	uint64	単位は「メガバイト」です。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyArea_3※	—	固有情報 Area-3	string[255]		△
UserPropertyArea_4※	—	固有情報 Area-4	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyCode_3※	—	固有情報 Code-3	string[64]		△

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
UserPropertyCode_4※	—	固有情報 Code-4	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_5※	—	固有情報 Code-5	string[64]		△
UserPropertyCode_6※	—	固有情報 Code-6	string[64]		△
UserPropertyCode_7※	—	固有情報 Code-7	string[64]		△
UserPropertyCode_8※	—	固有情報 Code-8	string[64]		△
UserPropertyCode_9※	—	固有情報 Code-9	string[64]		△
UserPropertyCode_10※	—	固有情報 Code-10	string[64]		△
UserPropertyCode_11※	—	固有情報 Code-11	string[64]		△
UserPropertyCode_12※	—	固有情報 Code-12	string[64]		△
UserPropertyDate_1※	—	固有情報 Date-1	date	日付情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyDate_2※	—	固有情報 Date-2	date		△
UserPropertyDate_3※	—	固有情報 Date-3	date		△
UserPropertyDate_4※	—	固有情報 Date-4	date		△
UserPropertyDate_5※	—	固有情報 Date-5	date		△
UserPropertyDate_6※	—	固有情報 Date-6	date		△
UserPropertyField128_1※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField128_3※	—	固有情報 Field128-3	string[128]		△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField128_4*	—	固有情報 Field128-4	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_5*	—	固有情報 Field128-5	string[128]		△
UserPropertyField128_6*	—	固有情報 Field128-6	string[128]		△
UserPropertyField128_7*	—	固有情報 Field128-7	string[128]		△
UserPropertyField128_8*	—	固有情報 Field128-8	string[128]		△
UserPropertyField255_1*	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2*	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△
UserPropertyField255_3*	—	固有情報 Field255-3	string[255]		△
UserPropertyField255_4*	—	固有情報 Field255-4	string[255]		△
UserPropertyField255_5*	—	固有情報 Field255-5	string[255]		△
UserPropertyField255_6*	—	固有情報 Field255-6	string[255]		△
UserPropertyField255_7*	—	固有情報 Field255-7	string[255]		△
UserPropertyField255_8*	—	固有情報 Field255-8	string[255]		△
UserPropertyField32_1*	—	固有情報 Field32-1	string[32]	32 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField32_2*	—	固有情報 Field32-2	string[32]		△
UserPropertyField32_3*	—	固有情報 Field32-3	string[32]		△
UserPropertyField32_4*	—	固有情報 Field32-4	string[32]		△
UserPropertyField32_5*	—	固有情報 Field32-5	string[32]		△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField32_6※	—	固有情報 Field32-6	string[32]	32 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField32_7※	—	固有情報 Field32-7	string[32]		△
UserPropertyField32_8※	—	固有情報 Field32-8	string[32]		△
UserPropertyField64_1※	—	固有情報 Field64-1	string[64]	64 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField64_2※	—	固有情報 Field64-2	string[64]		△
UserPropertyField64_3※	—	固有情報 Field64-3	string[64]		△
UserPropertyField64_4※	—	固有情報 Field64-4	string[64]		△
UserPropertyField64_5※	—	固有情報 Field64-5	string[64]		△
UserPropertyField64_6※	—	固有情報 Field64-6	string[64]		△
UserPropertyField64_7※	—	固有情報 Field64-7	string[64]		△
UserPropertyField64_8※	—	固有情報 Field64-8	string[64]		△
UserPropertyUint_1※	—	固有情報 Uint-1	uint32	数値情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyUint_2※	—	固有情報 Uint-2	uint32		△
UserPropertyUint_3※	—	固有情報 Uint-3	uint32		△
UserPropertyUint_4※	—	固有情報 Uint-4	uint32		△
UserPropertyUint_5※	—	固有情報 Uint-5	uint32		△
UserPropertyUint_6※	—	固有情報 Uint-6	uint32		△

(凡例)

●：キーとなるプロパティ

- ー：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-22 CPU 種別

コード	表示文字列
00646	intel 80286
00902	intel 80386
01158	intel 80486
01414	Intel Pentium 互換 CPU
04097	Alpha
08193	MIPS
12289	PowerPC
20481	PA-RISC
24577	SPARC
28672	Intel Pentium シリーズ
28673	Intel Pentium
28674	Intel Pentium MMX
28675	Intel Pentium Pro
28676	Intel Pentium II
28677	Intel Pentium II Xeon
28678	Intel Pentium III
28679	Intel Pentium III Xeon
28680	Intel Celeron
28681	Intel Pentium 4
28682	Intel Pentium III-S
28683	Mobile Intel Celeron
28684	Mobile Intel Pentium 4
28685	Intel Xeon

コード	表示文字列
28686	Intel Xeon MP
28687	Mobile Intel Pentium III-M
28688	Intel Genuine
28689	Mobile Genuine Intel
28690	Intel Celeron M
28691	Intel Pentium M
28692	Intel Pentium D
28693	Intel Celeron D
28694	Intel Core2
28695	Intel Core
28696	Intel Core i7
28697	Intel Atom
28698	Intel Pentium Dual
28699	Intel Core i3
28700	Intel Core i5
32768	Intel Pentium 互換 CPU
33025	AMD K6
33026	AMD K6-2
33027	AMD K6-2 3D Now!
33028	AMD K6-III
33029	AMD Athlon
33030	AMD Duron
33031	AMD Athlon MP
33032	AMD Athlon XP
33033	Mobile AMD Athlon 4
33034	Mobile AMD Duron
33035	AMD Duron MP
33036	Mobile AMD Athlon XP-M
33037	AMD Sempron
33038	Mobile AMD Sempron
33039	AMD Turion

コード	表示文字列
33281	Cyrix MediaGX
33282	Cyrix MII
33283	Cyrix MediaGXm
33537	IDT WinChip
33793	RISE mP6
34049	Crusoe TM5600
36864	Windows CE 用 CPU
37120	Windows CE 用 CPU (HITACHI)
37121	Hitachi SH-3
37122	Hitachi SH-4
37376	Windows CE 用 CPU (MIPS 系)
37377	MIPS R3000 系
37378	MIPS R4000 系
37632	Windows CE 用 CPU (ARM 系)
37633	ARM720
40960	Intel IA-64 CPU
40961	Intel Itanium
40962	Intel Itanium 2
45056	AMD64 互換 CPU
45057	AMD Opteron
45058	AMD Athlon 64
45059	AMD Athlon 64 FX
45060	Mobile AMD Athlon 64
45061	AMD Athlon 64 X2
45062	AMD Turion 64
45063	AMD Athlon II
45064	AMD Turion II
45065	AMD Phenom
45066	AMD Phenom II
45067	AMD V Series
45068	AMD FX

コード	表示文字列
45069	AMD A Series
45070	AMD C Series
45071	AMD E Series
45311	AMD
99999	その他

表 14-23 機器種別

コード	表示文字列
システム装置	
100	PC
101	PC サーバ
102	UNIX
103	UNIX サーバ
150	スマートデバイス
199	その他システム装置
拡張装置	
200	ディスプレイ
201	HD
202	CD-R
203	CD-R/W
204	DVD
205	DAT
206	MO
207	プリンタ
208	周辺装置
209	USB デバイス
210	ストレージ
ネットワーク装置	
300	HUB
301	ルータ
302	ネットワークプリンタ

コード	表示文字列
399	ネットワーク装置

表 14-24 構成種別

コード	表示文字列
002	デスクトップ
003	ノート

表 14-25 モニタ種別

コード	表示文字列
002	ブラウン管
003	液晶

表 14-26 モニタ解像度

コード	表示文字列
002	640×480
003	800×600
004	1024×768
005	1280×1024
006	1600×1200
007	1920×1440

14.2.11 InstalledInfo (インストールソフトウェア情報)

各機器にインストールされているソフトウェアを管理するクラスです。JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で収集したインストールソフトウェア情報を取り込みます。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

InstalledInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-27 InstalledInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。 インポート時は、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「InstalledInfo」です。	◎
InfoInd	－	ITDM2 管理情報 取り込み制御	string[3]	Asset Console の管理情報です。 業務メニュー「インポート」からのインポートの場合、必ず「1」が設定されます。	○
InstalledDate	－	インストール日	date	ソフトウェアのインストール日です。	△
InstalledID	●	インストール ID	uint32	対応するオブジェクトクラス「InstalledList」のインストール ID です。 インポート時は、対応する「InstalledList」と同じ値を指定してください。	◎
ProductID	－	プロダクト ID	string[255]	ソフトウェアのプロダクト ID です。	△
RecordInd	－	履歴識別	uint32	履歴を識別する情報です。[・履歴識別]を参照してください。	△
UpdateTime	－	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	－	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyArea_2※	－	固有情報 Area-2	string[255]	操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyCode_1※	－	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	－	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	－	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	－	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	－	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
UserPropertyField255_2※	－	固有情報Field255-2	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

ただし、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報から取得したインストールソフトウェア情報に管理項目を追加すると、管理情報に含まれなくなっても、インストールされているソフトウェアとしての情報は削除されないため、注意してください。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-28 履歴識別

コード	意味
1	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報の取り込みによって更新された情報
2	Asset Console の操作画面で更新された情報
(なし)	資産管理データベースの移行またはインポートによって更新された情報

14.2.12 InstalledList（インストールソフトウェアリスト）

購入したソフトウェア名と JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で収集したインストールソフトウェアの名称を対応づけた情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

InstalledList のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-29 InstalledList のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「InstalledList」です。	◎
FileDate	—	ファイル日付	string[19]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルの日付です。	△
FileName	—	ファイル名	string[255]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルのファイル名です。	△
FileSize	—	ファイルサイズ	string[10]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルのファイルサイズです。単位はバイトです。	△
InstalledID	●	インストール ID	uint32	インストールされているソフトウェアを識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、10001～1000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。	◎
InstalledInd	—	管理レベル	string[3]	「・管理レベル」を参照してください。 ライセンス数の管理対象とするかどうかを示します。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「管理対象」が設定されます。	◎
InstalledKind	—	種別	string[3]	「・種別」を参照してください。 業務メニューから「インポート」インポートする場合、設定を省略すると、「一般ソフト」が設定されます。	◎
InstalledName	—	インストールソフトウェア名	string[1024]	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager が管理するソフトウェア名です。	△
InstalledPermit	—	許可	string[3]	「・許可」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「許可する」が設定されます。	◎
InstalledVersion	—	バージョン	string[256]	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager が管理するソフトウェアバージョンです。	△
SoftwareListID	—	ソフトウェアリスト ID	uint32	ソフトウェア名を割り当てる際に対応するソフトウェアのソフトウェアリスト ID です。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
UserPropertyArea_1※	ー	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	ー	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	ー	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	ー	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	ー	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	ー	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	ー	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	ー	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- ー：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-30 管理レベル

コード	表示文字列
1	管理対象
2	集計対象外
3	管理対象外

インポート時に「2」を指定すると、ライセンス集計での利用数にカウントされません。インストールされているソフトウェアとして、情報は参照できます。

「3」を指定すると、ITDM2 管理情報を更新しても、該当するソフトウェア情報は上書きされません。

表 14-31 種別

コード	表示文字列
1	一般ソフト
2	Office
3	ウィルス定義
4	OS 情報

表 14-32 許可

コード	表示文字列
1	許可する
2	許可しない

14.2.13 InstalledUpdateRecord (ソフトウェア変更履歴)

機器にインストールされたソフトウェアの変更を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできません。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定できます。

InstalledUpdateRecord のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-33 InstalledUpdateRecord のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「InstalledUpdateRecord」です。
Executor	—	実行者	string[512]	インストールされているソフトウェアの情報を操作画面から編集したユーザです。
FileDate	—	ファイル日付	string[19]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルの日付です。
FileName	—	ファイル名	string[255]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルのファイル名です。
FileSize	—	ファイルサイズ	string[10]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルのファイルサイズです。単位はバイトです。
HistoryUpdateDate	●	変更日付	date	変更された日付です。
InstalledID	●	インストール ID	uint32	インストールされているソフトウェアを識別するユニークな ID です。

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考
InstalledName	－	インストールソフトウェア名	string[1024]	インストールされているソフトウェアの名称です。
InstalledVersion	－	インストールソフトウェアバージョン	string[255]	インストールされているソフトウェアのバージョンです。
LinkKey	●	リンクキー	string[32]	変更されたオブジェクトクラスとのキーとなる値です。
UpdateKind	－	変更種別	uint8	「・変更種別」を参照してください。

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-34 変更種別

コード	表示文字列
1	追加
2	削除

14.2.14 InstalledVirusDefInfo (ウィルス定義情報)

ウィルス定義の情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

InstalledVirusDefInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-35 InstalledVirusDefInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。 インポート時は、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「InstalledVirusDefInfo」です。	◎

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
EngineVersion	－	エンジンバージョン	string[1024]	機器にインストールしたウィルス対策ソフトウェアのスキャンエンジンのバージョンです。	○
InfoInd	－	ITDM2 管理情報取り込み制御	string[3]	業務メニュー「インポート」からインポートする場合は、必ず「1」が設定されます。	○
InstalledDate	－	インストール日付	date	ソフトウェアをインストールした日付です。	△
ResidentKind	－	常駐／非常駐	string[3]	「・常駐／非常駐」を参照してください。	△
SoftwareVersion	－	ウィルス対策ソフトウェアバージョン	string[1024]	機器にインストールしたウィルス対策ソフトウェアのバージョンです。	○
UpdateInd	－	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△
VirusDefName	●	ウィルス対策ソフトウェア名	string[1024]	機器にインストールされたウィルス対策ソフトウェア名です。	◎
VirusDefVersion	－	ウィルス定義バージョン	string[1024]	機器にインストールされたウィルス定義情報のバージョンです。	○

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-36 常駐／非常駐

コード	表示文字列
1	常駐
0	非常駐

14.2.15 IPAddress (IP アドレス管理情報)

利用できる IP アドレスを管理するクラスです。IP アドレスを取得する場合に、このクラスに登録されている IP アドレスと関連づけることで、未使用 IP アドレスを管理します。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

IPAddress のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-37 IPAddress のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「IPAddress」です。	◎
IPAddress	●	IP アドレス	string[70]	IP アドレスです。	◎
Purpose	—	用途	string[255]	IP アドレスの用途です。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

(凡例)

●：キーとなるプロパティ

—：キー以外のプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ

△：任意に指定するプロパティ

14.2.16 JobRoleInfo (職権管理情報)

職権情報を管理するクラスです。

このクラスは、jamimport コマンドでのインポートおよび jamexport コマンドでのエクスポートができます。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

JobRoleInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-38 JobRoleInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「JobRoleInfo」です。	◎
Description	—	説明	string[255]	職権の説明です。	△
JobRoleID	●	職権 ID	string[64]	職権を識別するユニークな ID です。	◎
JobRoleName	—	職権名	string[128]	職権名です。	◎
JobRoleName_EN	—	職権名 (英名)	string[128]	職権の英語名です。	◎
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
- △：任意に指定するプロパティ

14.2.17 LicenseInfo (ライセンス情報)

ソフトウェアのライセンスに関する詳細情報を管理するクラスです。ライセンス情報に基づいて、機器またはユーザにライセンスを割り当てます。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

LicenseInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-39 LicenseInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「LicenseInfo」です。	◎
Description	－	説明	string[255]	ライセンスの説明です。	△
DownGrade	－	ダウングレード可否	string[3]	「・ ダウングレード可否 」を参照してください。 ダウングレードソフトウェアにライセンスを適用できるかどうかを示します。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「可」が設定されます。	○
LicenseCategory	－	ライセンス区分	string[3]	「・ ライセンス区分 」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「マシン許諾」が設定されます。	○
LicenseID	●	ライセンス ID	uint32	ライセンス情報を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、10001～1000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。	◎
LicenseName	－	ライセンス名	string[255]	ライセンス情報の名称です。	◎

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
LicenseType	—	ライセンス形態	string[3]	「・ ライセンス形態 」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「マシン許諾ライセンス」が設定されます。	○
Note	—	備考	string[255]	ライセンス情報の備考です。	△
PurchaseType	—	ライセンス取得方法	string[3]	「・ ライセンス取得方法 」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「パッケージ」が設定されます。	○
SoftwareListID	—	ソフトウェアリスト ID	uint32	対応するソフトウェア名称の ID です。 インポート時に指定する場合は、対応するオブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ値を指定してください。	◎
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UpGrade	—	アップグレード保証	string[3]	「・ アップグレード保証 」を参照してください。 契約期間中、常に最新バージョンにアップグレードできるかどうかを示します。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「あり」が設定されます。	○
UserPropertyArea_1※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField255_2※	－	固有情報 Field255-2	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-40 ダウングレード可否

コード	表示文字列
001	可
002	不可

表 14-41 ライセンス区分

コード	表示文字列
100	マシン許諾
200	ユーザ許諾
300	その他

表 14-42 ライセンス形態

コード	表示文字列
001	マシン許諾ライセンス
002	ユーザ許諾ライセンス
003	サーバライセンス
004	クライアントアクセスライセンス
005	管理ノードライセンス
006	CPU ライセンス
007	セカンドライセンス
008	同時実行ライセンス

表 14-43 ライセンス取得方法

コード	表示文字列
001	パッケージ
002	プレインストール
003	ボリュームライセンス

表 14-44 アップグレード保証

コード	表示文字列
001	あり
002	なし

14.2.18 LocationInfo（設置場所情報）

資産の設置場所を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

LocationInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-45 LocationInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
Address	—	住所	string[255]	設置場所の住所です。	△
AreaSize	—	面積	string[255]	単位は「平方メートル」です。	△
Attribute	—	場所属性	string[3]	「・場所属性」を参照してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「LocationInfo」です。	◎
Explanation	—	説明	string[255]	設置場所の説明です。	△
FullPathName	—	設置場所	string[1024]	「東京/A ビル/1F」のように、上位からすべての階層関係を示した設置場所情報です。	◎
FullPathName_EN	—	設置場所（英名）	string[1024]	「Tokyo/A building/First floor」のように、上位からすべての階層関係を示した英語の設置場所情報です。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
FullPathName_EN	－	設置場所（英名）	string[1024]	業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「設置場所 ID」の値が設定されます。	△
LocationID	●	設置場所 ID	string[64]	設置場所名を識別するユニークな ID です。	◎
LocationName	－	設置場所名	string[512]	設置場所名です。	◎
LocationName_EN	－	設置場所名（英名）	string[512]	設置場所の英語名です。	○
UpdateInd	－	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△
UpdateTime	－	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UpperLinkID	－	上位設置場所 ID	string[64]	上位の設置場所名の ID です。	△
UserPropertyArea_1※	－	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	－	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	－	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	－	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	－	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	－	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	－	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	－	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-46 場所属性

コード	表示文字列
001	地域
002	建屋
003	フロア
004	エリア
199	その他

14.2.19 MachineCatalog (機器カタログ)

資産情報の名称や型式、機器種別などのハードウェア資産情報をカタログとして管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

MachineCatalog のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-47 MachineCatalog のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CatalogID	●	カタログ ID	uint32	機器カタログを識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、10001～10000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。	◎
CircuitSpeed	—	回線速度	uint32	単位は「kbps」です。	△
CPUClock	—	CPU クロック数	uint32	単位は「MHz」です。	△
CPUNumber	—	CPU 数	uint16	CPU 数です。	△
CPUType	—	CPU	string[5]	「14.2.10 HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」の「・CPU 種別」を参照してください。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「MachineCatalog」です。	◎
Developer	—	製造者	string[512]	機器の製造者です。	△
MachineKind	—	機器種別	string[5]	「14.2.10 HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」の「・機器種別」を参照してください。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
MachineKind	ー	機器種別	string[5]	業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「PC」が設定されます。	△
MemorySize	ー	メモリサイズ	uint64	単位は「メガバイト」です。	△
Model	ー	型式	string[512]	機器の型式です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「デスクトップ」が設定されます。	◎
ModelKind	ー	構成種別	string[3]	「14.2.10 HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」の「・構成種別」を参照してください。	△
MonitorKind	ー	モニタ種別	string[3]	「14.2.10 HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」の「・モニタ種別」を参照してください。	△
MonitorResolution	ー	モニタ解像度	string[3]	「14.2.10 HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」の「・モニタ解像度」を参照してください。	△
MonitorSize	ー	モニタサイズ	uint16	モニタサイズです。	△
Name	ー	名称	string[512]	機器の名称です。	◎
NumberOfPort	ー	ポート数	uint32	機器のポート数です。	△
PurchasePrice	ー	購入金額	string[15]	機器の購入金額です。	△
Specification	ー	仕様	string[255]	機器の仕様です。	△
TotalHDDSize	ー	ディスク容量	uint64	単位は「メガバイト」です。	△
UpdateTime	ー	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	ー	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	ー	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyArea_3※	ー	固有情報 Area-3	string[255]		△
UserPropertyArea_4※	ー	固有情報 Area-4	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	ー	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	ー	固有情報 Code-2	string[64]		△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyCode_3※	—	固有情報 Code-3	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_4※	—	固有情報 Code-4	string[64]		△
UserPropertyCode_5※	—	固有情報 Code-5	string[64]		△
UserPropertyCode_6※	—	固有情報 Code-6	string[64]		△
UserPropertyCode_7※	—	固有情報 Code-7	string[64]		△
UserPropertyCode_8※	—	固有情報 Code-8	string[64]		△
UserPropertyCode_9※	—	固有情報 Code-9	string[64]		△
UserPropertyCode_10※	—	固有情報 Code-10	string[64]		△
UserPropertyCode_11※	—	固有情報 Code-11	string[64]		△
UserPropertyCode_12※	—	固有情報 Code-12	string[64]		△
UserPropertyDate_1※	—	固有情報 Date-1	date	日付情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyDate_2※	—	固有情報 Date-2	date		△
UserPropertyDate_3※	—	固有情報 Date-3	date		△
UserPropertyDate_4※	—	固有情報 Date-4	date		△
UserPropertyDate_5※	—	固有情報 Date-5	date		△
UserPropertyDate_6※	—	固有情報 Date-6	date		△
UserPropertyField128_1※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField128_3*	—	固有情報 Field128-3	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_4*	—	固有情報 Field128-4	string[128]		△
UserPropertyField128_5*	—	固有情報 Field128-5	string[128]		△
UserPropertyField128_6*	—	固有情報 Field128-6	string[128]		△
UserPropertyField128_7*	—	固有情報 Field128-7	string[128]		△
UserPropertyField128_8*	—	固有情報 Field128-8	string[128]		△
UserPropertyField255_1*	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2*	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△
UserPropertyField255_3*	—	固有情報 Field255-3	string[255]		△
UserPropertyField255_4*	—	固有情報 Field255-4	string[255]		△
UserPropertyField255_5*	—	固有情報 Field255-5	string[255]		△
UserPropertyField255_6*	—	固有情報 Field255-6	string[255]		△
UserPropertyField255_7*	—	固有情報 Field255-7	string[255]		△
UserPropertyField255_8*	—	固有情報 Field255-8	string[255]		△
UserPropertyField32_1*	—	固有情報 Field32-1	string[32]	32 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField32_2*	—	固有情報 Field32-2	string[32]		△
UserPropertyField32_3*	—	固有情報 Field32-3	string[32]		△
UserPropertyField32_4*	—	固有情報 Field32-4	string[32]		△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField32_5※	—	固有情報 Field32-5	string[32]	32 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField32_6※	—	固有情報 Field32-6	string[32]		△
UserPropertyField32_7※	—	固有情報 Field32-7	string[32]		△
UserPropertyField32_8※	—	固有情報 Field32-8	string[32]		△
UserPropertyField64_1※	—	固有情報 Field64-1	string[64]	64 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField64_2※	—	固有情報 Field64-2	string[64]		△
UserPropertyField64_3※	—	固有情報 Field64-3	string[64]		△
UserPropertyField64_4※	—	固有情報 Field64-4	string[64]		△
UserPropertyField64_5※	—	固有情報 Field64-5	string[64]		△
UserPropertyField64_6※	—	固有情報 Field64-6	string[64]		△
UserPropertyField64_7※	—	固有情報 Field64-7	string[64]		△
UserPropertyField64_8※	—	固有情報 Field64-8	string[64]		△
UserPropertyUint_1※	—	固有情報 Uint-1	uint32	数値情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyUint_2※	—	固有情報 Uint-2	uint32		△
UserPropertyUint_3※	—	固有情報 Uint-3	uint32		△
UserPropertyUint_4※	—	固有情報 Uint-4	uint32		△
UserPropertyUint_5※	—	固有情報 Uint-5	uint32		△
UserPropertyUint_6※	—	固有情報 Uint-6	uint32		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

14.2.20 Maintenance（保守履歴）

資産の保守履歴を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

Maintenance のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-48 Maintenance のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	－	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。 インポート時は、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	△
AssetNo	－	資産番号	string[60]	対応する資産の資産番号です。	△
CompletingDate	－	対策完了日	date	資産の保守が完了した日です。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「Maintenance」です。	◎
EventHost	－	イベント発行ホスト名	string[255]	イベント発行元のホスト名です。	△
EventNo	－	JP1/Base イベント通し番号	string[255]	JP1 イベントに対して JP1/Base が付与する、イベントデータベース内での通し番号です。	△
ExecutionHost	－	JP1/IM 実行元ホスト	string[255]	JP1/IM の実行元ホストの名称です。	△
Expense	－	費用	string[15]	資産の保守費用です。	△
Importance	－	重大度	string[3]	「・ 重大度 」を参照してください。	○

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
Importance	—	重大度	string[3]	業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「緊急」が設定されます。	○
MaintenanceDate	—	登録日	date	保守履歴の登録日です。	○
MaintenanceHost	—	障害発生ホスト	string[255]	障害が発生したホストの IP アドレスまたはホスト名です。	△
MaintenanceID	●	保守履歴 ID	uint32	保守履歴を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、10001～1000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。	◎
MaintenanceKind	—	障害種別	string[3]	「・障害種別」を参照してください。	○
MaintenanceStatus	—	保守状態	string[3]	「・保守状態」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「障害中」が設定されます。	◎
ManagedNo	—	管理番号	string[60]	資産の保守履歴の管理番号です。	◎
MeasureContents	—	対策内容	string[1024]	資産の保守の対策内容です。	△
Note	—	備考	string[255]	保守履歴の備考です。	△
ObstacleContents	—	障害内容	string[1024]	資産の障害内容です。	○
ReferenceData	—	参考資料(URL)	string[1024]	資産の保守に関する参考資料です。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserName	—	登録者名	string[512]	障害情報の登録者名です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、ログインユーザ名 (jamCsvImport.bat 実行時は資産管理名) が設定されます。	○
UserPropertyArea_1※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField128_1※	－	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	－	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	－	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	－	固有情報 Field255-2	string[255]		△
Worker	－	作業者	string[512]	保守の作業者です。	△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-49 重大度

コード	表示文字列
001	緊急
002	警戒
003	致命的
004	エラー
005	警告
006	通知
007	情報
008	デバッグ

表 14-50 障害種別

コード	表示文字列
001	JP1 イベント

コード	表示文字列
002	SNMP トラップ
100	ユーザ登録

表 14-51 保守状態

コード	表示文字列
001	障害中
002	連絡済
003	修理中
901	対策済

14.2.21 NetworkInfo (ネットワーク情報)

各機器のネットワーク上の位置を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

NetworkInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-52 NetworkInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。 インポート時は、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
ComputerName	－	コンピュータ名	string[512]	コンピュータの名称です。 大文字に変換されます。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「NetworkInfo」です。	◎
DefaultGateway	－	デフォルトゲートウェイ	string[70]	デフォルトのゲートウェイです。	△
DHCPServerName	－	DHCP サーバ名	string[255]	DHCP サーバ名です。	△
GlobalIPAddress	－	グローバル IP アドレス	string[70]	グローバル IP アドレスです。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
InfoInd	－	ITDM2 管理情報 取り込み制御	string[3]	業務メニュー「インポート」からインポートする場合は、必ず「1」が設定されます。	○
IPAddress	－	IP アドレス	string[70]	IP アドレスです。 インポート時に更新する場合は、アソシエーションクラス「IPAddressLink」から更新前の IP アドレスを削除し、更新後の IP アドレスを登録して、関連づけも更新してください。	△
IPAddressKind	－	IP アドレス種別	string[3]	「・IP アドレス種別」を参照してください。 [IPv4] で登録する場合は、アソシエーションクラス「IPAddressLink (IP アドレスの状態管理)」をインポートする必要があります。	△
MACAddress	－	MAC アドレス	string[17]	MAC アドレスです。	△
NetworkID	●	ネットワーク情報 ID	uint32	ネットワーク情報を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、10001～1000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。	◎
NodeName	－	ノード名（ホスト名）	string[512]	ノード名（ホスト名）です。 小文字に変換されます。	△
PortInfo	－	ポート情報	string[255]	ポート情報です。	△
SubnetMask	－	サブネットマスク	string[70]	IP アドレスのサブネットマスクです。	△
UpdateInd	－	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。 更新しないでください。	△
UpdateTime	－	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	－	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyArea_2※	－	固有情報 Area-2	string[255]	操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyCode_1※	－	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	－	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	－	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
UserPropertyField128_2※	－	固有情報Field128-2	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_1※	－	固有情報Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	－	固有情報Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-53 IP アドレス種別

コード	表示文字列
001	IPv4
002	IPv6

14.2.22 PatchInfo（パッチ情報）

パッチの情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

PatchInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-54 PatchInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。	◎

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	インポート時は、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「PatchInfo」です。	◎
InfoInd	－	ITDM2 管理情報 取り込み制御	string[3]	業務メニュー「インポート」からインポートする場合は、必ず「1」が設定されます。	○
InstalledDate	－	インストール日	date	パッチをインストールした日付です。	△
InstalledStatus	－	適用状態	string[3]	「・適用状態」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「適用」が設定されます。	○
PatchID	●	パッチ ID	uint32	検索条件を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、10001～1000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。	◎
UpdateInd	－	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。 更新しないでください。	△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-55 適用状態

コード	表示文字列
101	適用
102	未適用

14.2.23 PatchList (パッチリスト)

パッチの名称を対応づけた情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

PatchList のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-56 PatchList のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「PatchList」です。	◎
PatchID	●	パッチ ID	uint32	パッチ ID です。	◎
PatchName	ー	パッチ名	string[512]	パッチの名称です。	○
PatchVersion	ー	バージョン	string[60]	パッチのバージョンです。	○
UpdateTime	ー	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- ー：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

14.2.24 RelationAssetInfo（関連資産情報）

機器同士を関連づけて管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

RelationAssetInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-57 RelationAssetInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
ChildAssetID	●	子資産 ID	uint32	子資産の資産 ID です。インポート時は、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「RelationAssetInfo」です。	◎
ParentAssetID	●	親資産 ID	uint32	親資産の資産 ID です。インポート時は、対応するオブジェクトクラス	◎

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
ParentAssetID	●	親資産 ID	uint32	「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎

(凡例)

●：キーとなるプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）

14.2.25 RoleInfo（権限管理情報）

資産管理システムでのユーザの役割を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

RoleInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-58 RoleInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「RoleInfo」です。	◎
Link	－	画面リンク	string[255]	ログイン後に表示される画面の URL です。	◎
ManagedLabel	－	管理ラベル	string[20]	組織階層単位でアクセス制限を行う場合に、部署とユーザ権限にペアで設定する任意の文字列です。	△
RoleID	●	権限 ID	string[64]	権限を識別するユニークな ID です。	◎
RoleName	－	権限名	string[128]	権限名です。	◎
RoleName_EN	－	権限名（英名）	string[128]	権限の英語名です。	△
SystemInd	－	システム識別	uint8	「・システム識別」を参照してください。	◎
UpdateTime	－	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

(凡例)

●：キーとなるプロパティ

－：キー以外のプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ

△：任意に指定するプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-59 システム識別

コード	表示文字列
0	ユーザ情報（削除可）
1	システム情報（削除不可）

インポートで新規に登録する場合は、「0」を指定してください。

また、インポート時に「1」の情報を削除しないでください。

14.2.26 SoftwareInfo（ソフトウェア資産情報）

商用ソフトウェア、シェアウェア、フリーウェアなど、資産管理システムで扱うすべてのソフトウェアに関する情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

SoftwareInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-60 SoftwareInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。 インポート時は、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「SoftwareInfo」です。	◎
LicenseID	－	ライセンス ID	uint32	対応するオブジェクトクラス「LicenseInfo」のライセンス ID です。 インポート時は、対応する「LicenseInfo」と同じ値を指定してください。	△
NumberOfLicenses	－	数量	uint32	ソフトウェアのライセンス数です。 無制限ライセンスの場合、インポート時は NULL を指定してください。	○
NumberOfPoint	－	購入ポイント数	uint32	ボリュームライセンスで購入した場合の、各ソフトウェアで決められたポイントです。	△
SoftwareListID	－	ソフトウェアリスト ID	uint32	対応するソフトウェアのソフトウェアリスト ID です。	◎

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
SoftwareListID	ー	ソフトウェアリスト ID	uint32	インポート時は、対応するオブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ値を指定してください。	◎
UpdateTime	ー	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	ー	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	ー	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	ー	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	ー	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	ー	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	ー	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	ー	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	ー	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- ー：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

14.2.27 SoftwareKeyInfo（ソフトウェアキー情報）

ソフトウェアのライセンスを機器またはユーザに割り当てる際の、キーとなる情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

SoftwareKeyInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-61 SoftwareKeyInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「SoftwareKeyInfo」です。	◎
KeyID	●	キー ID	uint32	ソフトウェアキー情報を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、10001～10000000000 の範囲で、ユニークになるように指定してください。	◎
LicenseKey	—	ライセンスキー	string[255]	ライセンスキーです。	○
Note	—	備考	string[255]	ソフトウェアキー情報の備考です。	○
ProductID	—	プロダクト ID	string[255]	プロダクト ID です。	△
SerialNo	—	シリアル No.	string[255]	シリアル No.です。	○
SoftAssetID	—	資産 ID	uint32	対応するソフトウェアの資産 ID です。 インポート時は、対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

●：キーとなるプロパティ

- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

14.2.28 SoftwareList（ソフトウェアリスト）

購入したソフトウェア名をリスト管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

SoftwareList のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-62 SoftwareList のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「SoftwareList」です。	◎
Developer	－	製造者	string[60]	ソフトウェアの製造者です。	△
DownSoftwareListID1	－	ダウングレードソフトウェア ID1	uint32	ダウングレードソフトウェアとして登録したソフトウェアの ID です。 インポート時は、対応するオブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ値を指定してください。	△
DownSoftwareListID2	－	ダウングレードソフトウェア ID2	uint32		△
DownSoftwareListID3	－	ダウングレードソフトウェア ID3	uint32		△
DownSoftwareListID4	－	ダウングレードソフトウェア ID4	uint32		△
DownSoftwareListID5	－	ダウングレードソフトウェア ID5	uint32		△
DownSoftwareListID6	－	ダウングレードソフトウェア ID6	uint32		△
DownSoftwareListID7	－	ダウングレードソフトウェア ID7	uint32		△
DownSoftwareListID8	－	ダウングレードソフトウェア ID8	uint32		△

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
DownSoftwareListID9	－	ダウングレードソフトウェア ID9	uint32	ダウングレードソフトウェアとして登録したソフトウェアの ID です。 インポート時は、対応するオブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ値を指定してください。	△
DownSoftwareListID10	－	ダウングレードソフトウェア ID10	uint32		△
DownSoftwareListID11	－	ダウングレードソフトウェア ID11	uint32		△
DownSoftwareListID12	－	ダウングレードソフトウェア ID12	uint32		△
DownSoftwareListID13	－	ダウングレードソフトウェア ID13	uint32		△
DownSoftwareListID14	－	ダウングレードソフトウェア ID14	uint32		△
DownSoftwareListID15	－	ダウングレードソフトウェア ID15	uint32		△
DownSoftwareListID16	－	ダウングレードソフトウェア ID16	uint32		△
DownSoftwareListID17	－	ダウングレードソフトウェア ID17	uint32		△
DownSoftwareListID18	－	ダウングレードソフトウェア ID18	uint32		△
DownSoftwareListID19	－	ダウングレードソフトウェア ID19	uint32		△
DownSoftwareListID20	－	ダウングレードソフトウェア ID20	uint32		△
SoftwareKind	－	ソフトウェア種別	string[3]	「・ソフトウェア種別」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「商用」が設定されます。	◎
SoftwareListID	●	ソフトウェアリスト ID	uint32	ソフトウェア名を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、10001～1000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。	◎
SoftwareName	－	ソフトウェア名	string[1024]	ソフトウェアの名称です。	◎
Threshold	－	しきい値	uint8	タスク「ライセンス超過通知」で、ライセンスの保有数を越えたことが通知されるしきい値です。 %（パーセント）で指定します。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- ：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-63 ソフトウェア種別

コード	表示文字列
100	商用
101	シェアウェア
200	フリーウェア

14.2.29 UpdateRecord (変更履歴)

機器のメモリサイズやディスク容量の変更を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできません。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定できます。

UpdateRecord のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-64 UpdateRecord のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AfterValue	－	変更後	string[512]	変更後の値です。	△
BeforeValue	－	変更前	string[512]	変更前の値です。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「UpdateRecord」 です。	◎
HistoryUpdateDate	●	変更日付	date	変更された日付です。	◎
IndicationItemKey	●	表示項目キー	string[255]	変更された項目のキー となる値です。	◎
LinkClass	－	リンククラス	string[32]	変更された項目のオブ ジェクトクラスです。	◎
LinkKey	●	リンクキー	string[32]	変更されたオブジェク トクラスとのキーとな る値です。	◎
SubLinkKey	●	サブリンクキー	string[32]	変更されたオブジェク トクラスが二つのキー で構成されている場合 に、2 番目のキーとな る値です。	◎
UpdateRecordInd	－	レコード識別	uint8	「・レコード識別」を 参照してください。 更新の種類を表し ます。	◎

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外のプロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
- △：任意に指定するプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-65 レコード識別

コード	表示文字列
1	追加
2	更新
3	削除

14.2.30 UserInfo (ユーザ管理情報)

資産管理システムを利用するユーザを管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

このクラスをインポートして、ユーザに対して権限を登録するには、アソシエーションクラス「AuthorityLink (ユーザ情報と権限情報)」もインポートしてください。登録したユーザに権限を与えることで、Asset Console にログインできるようになります。

また、ユーザが所属する部署を登録するには、アソシエーションクラス「MemberLink (ユーザ情報と部署情報)」をインポートしてください。

UserInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-66 UserInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「UserInfo」です。	◎
ExecutiveName	－	役職名	string[255]	ユーザの役職名です。	△
Explanation	－	説明	string[255]	ユーザの説明です。	△
Mail	－	メールアドレス	string[255]	ユーザのメールアドレスです。	△
Password	－	パスワード	string[64]	ユーザのパスワードです。	◎
Telephonenumber	－	電話番号	string[255]	ユーザの電話番号です。	△
UpdateInd	－	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△
UpdateTime	－	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserID	●	ユーザ ID	string[64]	ユーザを識別するユニークな ID です。	◎

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
UserName	－	ユーザ名	string[512]	ユーザ名です	◎
UserName_EN	－	ユーザ名（英名）	string[512]	ユーザの英語名です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「ユーザ ID」の値が設定されます。	△
UserPropertyArea_1※	－	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2※	－	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1※	－	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	－	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	－	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	－	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	－	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	－	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外プロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

14.2.31 VolumeContract（ボリューム契約情報）

ソフトウェアのボリュームライセンスの情報を管理するクラスです。

このクラスは、インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は、業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また、このクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定することもできます。

VolumeContract のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 14-67 VolumeContract のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型[最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
Address	—	住所	string[255]	契約先の住所です。	△
Company	—	契約会社	string[255]	契約会社名です。	△
ContactInfo	—	連絡先	string[255]	契約会社の連絡先です。	△
ContactName	—	担当者名	string[512]	契約会社の担当者名です。	△
Contents	—	契約内容	string[255]	契約内容です。	△
ContractDate	—	契約日	date	契約日です。	△
ContractID	●	契約 ID	uint32	契約を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は、 10001～1000000000 の範囲で、ユニークになるように採番してください。	◎
ContractKind	—	契約種別	string[3]	「・契約種別」を参照してください。	△
ContractNo	—	契約番号	string[30]	契約番号です。	○
ContractObject	—	対象製品	string[3]	「・対象製品」を参照してください。	△
ContractStatus	—	契約状態	string[3]	「・契約状態」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合、設定を省略すると、「契約中」が設定されます。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「VolumeContract」です。	◎
EndDate	—	契約終了日	date	契約の終了日です。	△
Explanation	—	説明	string[255]	契約の説明です。	△
GroupID	—	部署 ID	string[64]	部署名を識別するユニークな ID です。	△
MonthlyPrice	—	契約料（月額）	string[15]	月額の契約料です。	△
StartDate	—	契約開始日	date	契約の開始日です。	△
TargetPoint	—	目標ポイント数	uint32	ボリュームライセンス契約時に決めた目標ポイント数です。	△
TotalPrice	—	契約料（総額）	string[15]	契約料の総額です。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△

プロパティ	キー	内容	型[最大長(バイト)]	備考	jamimportでの指定
UserPropertyArea_2※	－	固有情報 Area-2	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では、複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyCode_1※	－	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2※	－	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1※	－	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2※	－	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1※	－	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2※	－	固有情報 Field255-2	string[255]		△

(凡例)

- ：キーとなるプロパティ
- －：キー以外プロパティ
- ◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
- ：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
- △：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で、このプロパティの表示名を編集し、表示させる設定にすることで、管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

表 14-68 契約種別

コード	表示文字列
001	Select
002	OpenVolume

表 14-69 対象製品

コード	表示文字列
001	アプリケーション製品
002	サーバ製品

コード	表示文字列
003	システム製品

表 14-70 契約状態

コード	表示文字列
001	契約中
501	満了
999	抹消

14.3 アソシエーションクラスのプロパティ一覧

この節では、インポートおよびエクスポートできるアソシエーションクラスについて説明します。Asset Console 固有のアソシエーションクラスが表すクラス間の関連を示します。

- 多重度の「1」は、必ず一つの関連を持つことを表します。また、「0..n (n は 0 以上の整数)」は、関連がないか、一つ以上の関連を持つことを表します。
- 各アソシエーションクラスは、jamimport コマンドでのインポートおよび jamexport コマンドでのエクスポートができます。インポートの方法については、「7.1 CSV データの登録 (インポート)」を、エクスポートの方法については、「7.2 CSV データの出力 (エクスポート)」を参照してください。
- 各アソシエーションクラスは、ユーザレポートを作成する際、検索条件に指定できます。ユーザレポート作成方法については、「9.5 定型業務に合わせた操作画面の追加 (ユーザレポート作成)」を参照してください。

14.3.1 AuthorityLink (ユーザ情報と権限情報)

ユーザと所属を関連づけるクラスです。

表 14-71 AuthorityLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
UserInfo	UserID	0..n
RoleInfo	RoleID	1

14.3.2 ContractLeaseLink (リース契約と資産情報)

機器とリース契約情報を関連づけるクラスです。

表 14-72 ContractLeaseLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
Contract	ContractID	1
AssetInfo	AssetID	0..n

14.3.3 ContractMaintenanceLink (保守契約と資産情報)

機器と保守契約を関連づけるクラスです。

表 14-73 ContractMaintenanceLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
Contract	ContractID	1
AssetInfo	AssetID	0..n

14.3.4 ContractRentalLink（レンタル契約と資産情報）

機器とレンタル契約を関連づけるクラスです。

表 14-74 ContractRentalLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
Contract	ContractID	1
AssetInfo	AssetID	0..n

14.3.5 DivisionLink（分掌情報と部署情報）

分掌と部署を関連づけるクラスです。

表 14-75 DivisionLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
DivisionInfo	DivisionID	0..n
GroupInfo	GroupID	0..n

14.3.6 DivisionUserLink（分掌情報とユーザ情報）

分掌とユーザを関連づけるクラスです。

表 14-76 DivisionUserLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
DivisionInfo	DivisionID	0..n
UserInfo	UserID	0..n

14.3.7 IPAddressLink (IP アドレスの状態管理)

ネットワーク情報と IP アドレスを関連づけるクラスです。

表 14-77 IPAddressLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
IPAddress	IPAddress	1
NetworkInfo	AssetID	0..n
NetworkInfo	NetworkID	0..n

14.3.8 JobRoleLink (ユーザ情報と職権情報)

ユーザと職権を関連づけるクラスです。

表 14-78 JobRoleLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
JobRoleInfo	JobRoleID	0..n
UserInfo	UserID	0..n

14.3.9 MachinePermitLink (資産情報とソフトウェアキー情報)

ライセンスとライセンスを割り当てた機器を関連づけるクラスです。

表 14-79 MachinePermitLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
AssetInfo	AssetID	1
SoftwareKeyInfo	KeyID	0..n
SoftwareKeyInfo	SoftAssetID	0..n

14.3.10 MemberLink (ユーザ情報と部署情報)

ユーザと所属する組織を関連づけるクラスです。このアソシエーションクラスは、業務メニュー「インポート」からのインポートと、業務メニュー「エクスポート」からのエクスポートができます。インポートまたはエクスポートする際は、「GroupID」と「UserID」の両方が、条件を作成する際に任意の指定項目となります。

表 14-80 MemberLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
GroupInfo	GroupID	1
UserInfo	UserID	0..n

14.3.11 RelationAssetLink（資産情報と関連資産情報）

機器同士を関連づけるクラスです。

表 14-81 RelationAssetLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
RelationAssetInfo	ParentAssetID	0..n
AssetInfo	AssetID	0..n

14.3.12 UserPermitLink（ユーザ情報とソフトウェアキー情報）

ライセンスとライセンスを割り当てたユーザを関連づけるクラスです。

表 14-82 UserPermitLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
SoftwareKeyInfo	KeyID	0..n
SoftwareKeyInfo	SoftAssetID	0..n
UserInfo	UserID	1

14.3.13 VolumeContractLink（ボリューム契約と資産情報）

ボリューム契約とソフトウェアを関連づけるクラスです。

表 14-83 VolumeContractLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
AssetInfo	AssetID	0..n
VolumeContract	ContractID	1

14.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目

業務メニュー「インポート」および「エクスポート」では、「資産種別」から目的の情報を選択します。そのため、選択した「資産種別」によって対象となる項目が異なります。対象となる項目は、jamCsvImport.bat でのインポートおよび jamCsvExport.bat でのエクスポートでも同じです。

「資産種別」として選択できる情報の種類と、それぞれの対象となるクラスを次の表に示します。

表 14-84 「資産種別」の種類と対象となるクラス

資産種別	資産情報	クラス
機器に関する情報	資産情報	AssetInfo
	ハードウェア資産情報	HardwareInfo
	ネットワーク情報	NetworkInfo
	IP アドレス管理情報	IPAddress
	IP アドレスの状態管理	IPAddressLink
インストールソフトウェア情報	資産情報	AssetInfo
	インストールソフトウェア情報	InstalledInfo
	インストールソフトウェアリスト	InstalledList
インストールソフトウェアリスト	インストールソフトウェアリスト	InstalledList
ソフトウェア情報	資産情報	AssetInfo
	ソフトウェア資産情報	SoftwareInfo
	ソフトウェアキー情報	SoftwareKeyInfo
	ソフトウェアリスト	SoftwareList
	ライセンス情報	LicenseInfo
ソフトウェアリスト	ソフトウェアリスト	SoftwareList
組織管理情報	部署情報	GroupInfo
ユーザ管理情報	ユーザ管理情報	UserInfo
	権限管理情報	RoleInfo
	ユーザ情報と部署情報	MemberLink
	ユーザ情報と権限情報	AuthorityLink
	ユーザ情報と職権情報	JobRoleLink
設置場所情報	設置場所情報	LocationInfo
契約情報	契約情報	Contract

資産種別	資産情報	クラス
契約情報	資産情報	AssetInfo
	保守契約と資産情報	ContractMaintenanceLink
レンタル契約情報	契約情報	Contract
	資産情報	AssetInfo
	レンタル契約と資産情報	ContractRentalLink
リース契約情報	契約情報	Contract
	資産情報	AssetInfo
	リース契約と資産情報	ContractLeaseLink
ボリューム契約	ボリューム契約情報	VolumeContract
	資産情報	AssetInfo
	ボリューム契約と資産情報	VolumeContractLink
IP グループ情報	IP グループ情報	AddressGroup
機器カタログ	機器カタログ	MachineCatalog
問題点管理	保守履歴	Maintenance
ライセンス割り当て	資産情報	AssetInfo
	ユーザ管理情報	UserInfo
	ソフトウェア資産情報	SoftwareInfo
	ソフトウェアキー情報	SoftwareKeyInfo
	ソフトウェアリスト	SoftwareList
	資産情報とソフトウェアキー情報	MachinePermitLink
	ユーザ情報とソフトウェアキー情報	UserPermitLink
パッチ情報	資産情報	AssetInfo
	パッチ情報	PatchInfo
	パッチリスト	PatchList
ウィルス定義情報	資産情報	AssetInfo
	ウィルス定義情報	InstalledVirusDefInfo
関連資産情報	関連資産情報	RelationAssetInfo
分掌情報	分掌情報	DivisionInfo
	分掌情報と部署情報	DivisionLink
分掌割り当て	分掌情報	DivisionInfo
	分掌情報とユーザ情報	DivisionUserLink

資産種別	資産情報	クラス
カスタマイズ（ユーザレポート）※	－	－
カスタマイズ（書式）※	－	－
カスタマイズ（ITDM2 管理情報取得）※	－	－
カスタマイズ（インポート/エクスポート定義）※	－	－
カスタマイズ（案件定義）※	－	－
カスタマイズ（契約履歴）※	－	－

（凡例）

－：該当しない

注※

設定情報が一括してインポートまたはエクスポートされます。内容の編集はできません。

アソシエーションクラスの情報は、インポートする情報に条件がそろっていた場合は、引き当て項目を設定していなくても作成されます。

インポートする項目は、インポートの条件を作成するときに「資産種別」単位で詳細な項目を指定します。インポートの対象となる項目を、「資産種別」ごとに表に示します。なお、業務メニュー「管理項目編集」で非表示に設定されている管理項目は、業務メニュー「インポート」の「管理項目」、および業務メニュー「エクスポート」の「出力可能項目」に表示されません。

14.4.1 資産種別「機器に関する情報」で対象となる項目

資産種別「機器に関する情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-85 資産種別「機器に関する情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号(資産情報)		AssetNo	△
部署 ID(資産情報)		GroupID	△
部署(資産情報)		GroupName	△
部署（英名）(資産情報)		GroupName_EN	△
ユーザ ID(資産情報)		UserID	△
ユーザ名(資産情報)		UserName	△
ユーザ名（英名）(資産情報)		UserName_EN	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
設置場所 ID(資産情報)	AssetInfo	LocationID	△
設置場所(資産情報)		LocationName	△
設置場所（英名）(資産情報)		LocationName_EN	△
稼働管理種別(資産情報)		AssetWorkKind	◎
機器状態(資産情報)		AssetStatus	◎
購入金額(資産情報)		PurchasePrice	△
登録日(資産情報)		RegistrationDate	◎
用途(資産情報)		Purpose	△
備考(資産情報)		Note	△
ITDM2 Agent 導入状態(資産情報)		DMStatus	△
変更者(資産情報)		UpdateUser	△
棚卸日付(資産情報)		StocktakingDate	△
使用開始日(資産情報)		StartDate	△
使用終了日(資産情報)		EndDate	△
ホスト識別子(資産情報)		InventoryKey	△
ITDM2 最終更新日付(資産情報)		DMLastUpdateTime	△
管理部署 ID(資産情報)		ManagerialGroupID	△
管理部署(資産情報)		ManagerialGroup	△
管理部署（英名）(資産情報)		ManagerialGroup_EN	△
管理者 ID(資産情報)		ManagerialUserID	△
管理者(資産情報)		ManagerialUser	△
管理者（英名）(資産情報)		ManagerialUser_EN	△
固有情報 Field32-1(資産情報)		UserPropertyField32_1	△
固有情報 Field32-2(資産情報)		UserPropertyField32_2	△
固有情報 Field32-3(資産情報)		UserPropertyField32_3	△
固有情報 Field32-4(資産情報)		UserPropertyField32_4	△
固有情報 Field32-5(資産情報)		UserPropertyField32_5	△
固有情報 Field32-6(資産情報)		UserPropertyField32_6	△
固有情報 Field64-1(資産情報)		UserPropertyField64_1	△
固有情報 Field64-2(資産情報)		UserPropertyField64_2	△
固有情報 Field128-1(資産情報)		UserPropertyField128_1	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Field128-2(資産情報)	AssetInfo	UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(資産情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(資産情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(資産情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(資産情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(資産情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(資産情報)		UserPropertyCode_2	△
固有情報 Code-3(資産情報)		UserPropertyCode_3	△
固有情報 Code-4(資産情報)		UserPropertyCode_4	△
固有情報 Code-5(資産情報)		UserPropertyCode_5	△
固有情報 Code-6(資産情報)		UserPropertyCode_6	△
固有情報 Date-1(資産情報)		UserPropertyDate_1	△
固有情報 Date-2(資産情報)		UserPropertyDate_2	△
固有情報 Date-3(資産情報)		UserPropertyDate_3	△
固有情報 Date-4(資産情報)		UserPropertyDate_4	△
固有情報 Date-5(資産情報)		UserPropertyDate_5	△
固有情報 Date-6(資産情報)		UserPropertyDate_6	△
固有情報 Uint-1(資産情報)		UserPropertyUint_1	△
固有情報 Uint-2(資産情報)		UserPropertyUint_2	△
固有情報 Uint-3(資産情報)		UserPropertyUint_3	△
固有情報 Uint-4(資産情報)		UserPropertyUint_4	△
固有情報 Uint-5(資産情報)		UserPropertyUint_5	△
固有情報 Uint-6(資産情報)		UserPropertyUint_6	△
機器種別(ハードウェア資産情報)	HardwareInfo	MachineKind	△
製造者(ハードウェア資産情報)		Developer	△
型式(ハードウェア資産情報)		Model	△
製造番号(ハードウェア資産情報)		SerialNo	△
名称(ハードウェア資産情報)		Name	△
CPU(ハードウェア資産情報)		CPUType	△
CPU クロック数(ハードウェア資産情報)		CPUClock	△
CPU 数(ハードウェア資産情報)		CPUNumber	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
メモリサイズ(ハードウェア資産情報)	HardwareInfo	MemorySize	△
ディスク容量(ハードウェア資産情報)		TotalHDSize	△
空ディスク容量(ハードウェア資産情報)		RemainHDSize	△
構成種別(ハードウェア資産情報)		ModelKind	△
仕様(ハードウェア資産情報)		Specification	△
モニタ種別(ハードウェア資産情報)		MonitorKind	△
モニタ解像度(ハードウェア資産情報)		MonitorResolution	△
モニタサイズ(ハードウェア資産情報)		MonitorSize	△
ポート数(ハードウェア資産情報)		NumberOfPort	△
回線速度(ハードウェア資産情報)		CircuitSpeed	△
IP アドレス(ハードウェア資産情報)		IPAddress	△
MAC アドレス(ハードウェア資産情報)		MACAddress	△
ホスト名(ハードウェア資産情報)		HostName	△
MBSA バージョン(ハードウェア資産情報)		MBSAVersion	△
OS 情報(ハードウェア資産情報)		OSInfo	△
OS バージョン(ハードウェア資産情報)		OSVersion	△
コンピュータ ID(ハードウェア資産情報)		ComputerID	△
固有情報 Field32-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_1	△
固有情報 Field32-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_2	△
固有情報 Field32-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_3	△
固有情報 Field32-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_4	△
固有情報 Field32-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_5	△
固有情報 Field32-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_6	△
固有情報 Field32-7(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_7	△
固有情報 Field32-8(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_8	△
固有情報 Field64-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_1	△
固有情報 Field64-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_2	△
固有情報 Field64-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_3	△
固有情報 Field64-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_4	△
固有情報 Field64-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_5	△
固有情報 Field64-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_6	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Field64-7(ハードウェア資産情報)	HardwareInfo	UserPropertyField64_7	△
固有情報 Field64-8(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_8	△
固有情報 Field128-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field128-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField128_3	△
固有情報 Field128-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField128_4	△
固有情報 Field128-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField128_5	△
固有情報 Field128-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField128_6	△
固有情報 Field128-7(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField128_7	△
固有情報 Field128-8(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField128_8	△
固有情報 Field255-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Field255-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField255_3	△
固有情報 Field255-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField255_4	△
固有情報 Field255-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField255_5	△
固有情報 Field255-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField255_6	△
固有情報 Field255-7(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField255_7	△
固有情報 Field255-8(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField255_8	△
固有情報 Area-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Area-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyArea_3	△
固有情報 Area-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyArea_4	△
固有情報 Code-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_2	△
固有情報 Code-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_3	△
固有情報 Code-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_4	△
固有情報 Code-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_5	△
固有情報 Code-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_6	△
固有情報 Code-7(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_7	△
固有情報 Code-8(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_8	△
固有情報 Code-9(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_9	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Code-10(ハードウェア資産情報)	HardwareInfo	UserPropertyCode_10	△
固有情報 Code-11(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_11	△
固有情報 Code-12(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_12	△
固有情報 Date-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_1	△
固有情報 Date-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_2	△
固有情報 Date-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_3	△
固有情報 Date-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_4	△
固有情報 Date-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_5	△
固有情報 Date-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_6	△
固有情報 Uint-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_1	△
固有情報 Uint-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_2	△
固有情報 Uint-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_3	△
固有情報 Uint-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_4	△
固有情報 Uint-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_5	△
固有情報 Uint-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_6	△
ネットワーク情報 ID(ネットワーク情報)	NetworkInfo	NetworkID	△
MAC アドレス(ネットワーク情報)		MACAddress	△
ノード名 (ホスト名) (ネットワーク情報)		NodeName	△
コンピュータ名(ネットワーク情報)		ComputerName	△
DHCP サーバ名(ネットワーク情報)		DHCPServerName	△
IP アドレス(ネットワーク情報)		IPAddress	△
グローバル IP アドレス(ネットワーク情報)		GlobalIPAddress	△
デフォルトゲートウェイ(ネットワーク情報)		DefaultGateway	△
サブネットマスク(ネットワーク情報)		SubnetMask	△
ポート情報(ネットワーク情報)		PortInfo	△
IP アドレス種別(ネットワーク情報)		IPAddressKind	△
ITDM2 管理情報取り込み制御(ネットワーク情報)		InfoInd	△
固有情報 Field128-1(ネットワーク情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ネットワーク情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ネットワーク情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ネットワーク情報)		UserPropertyField255_2	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Area-1(ネットワーク情報)	NetworkInfo	UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ネットワーク情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ネットワーク情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ネットワーク情報)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.2 資産種別「インストールソフトウェア情報」で対象となる項目

資産種別「インストールソフトウェア情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-86 資産種別「インストールソフトウェア情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号(資産情報)		AssetNo	△
インストール ID(インストールソフトウェアリスト)	InstalledList	InstalledID	△
インストールソフトウェア名(インストールソフトウェアリスト)		InstalledName	△
バージョン(インストールソフトウェアリスト)		InstalledVersion	△
ファイル名(インストールソフトウェアリスト)		FileName	△
ファイルサイズ(インストールソフトウェアリスト)		FileSize	△
ファイル日付(インストールソフトウェアリスト)		FileDate	△
プロダクト ID(インストールソフトウェア情報)	InstalledInfo	ProductID	△
インストール日(インストールソフトウェア情報)		InstalledDate	△
ITDM2 管理情報取り込み制御(インストールソフトウェア情報)		InfoInd	△
固有情報 Field128-1(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyArea_2	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Code-1(インストールソフトウェア情報)	InstalledInfo	UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)

△：任意に指定する項目

14.4.3 資産種別「インストールソフトウェアリスト」で対象となる項目

資産種別「インストールソフトウェアリスト」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-87 資産種別「インストールソフトウェアリスト」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
インストール ID(インストールソフトウェアリスト)	InstalledList	InstalledID	△
インストールソフトウェア名(インストールソフトウェアリスト)		InstalledName	△
バージョン(インストールソフトウェアリスト)		InstalledVersion	△
許可(インストールソフトウェアリスト)		InstalledPermit	◎
種別(インストールソフトウェアリスト)		InstalledKind	◎
管理レベル(インストールソフトウェアリスト)		InstalledInd	◎
ファイル名(インストールソフトウェアリスト)		FileName	△
ファイルサイズ(インストールソフトウェアリスト)		FileSize	△
ファイル日付(インストールソフトウェアリスト)		FileDate	△
固有情報 Field128-1(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyCode_2	△
ソフトウェアリスト ID(ソフトウェアリスト)	SoftwareList	SoftwareListID	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
ソフトウェア名(ソフトウェアリスト)	SoftwareList	SoftwareName	△
ソフトウェア種別(ソフトウェアリスト)		SoftwareKind	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.4 資産種別「ソフトウェア情報」で対象となる項目

資産種別「ソフトウェア情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-88 資産種別「ソフトウェア情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号(資産情報)		AssetNo	△
部署 ID(資産情報)		GroupID	△
部署(資産情報)		GroupName	△
部署（英名）(資産情報)		GroupName_EN	△
ユーザ ID(資産情報)		UserID	△
ユーザ名(資産情報)		UserName	△
ユーザ名（英名）(資産情報)		UserName_EN	△
稼働管理種別(資産情報)		AssetWorkKind	◎
ソフトウェア状態(資産情報)		SoftwareStatus	◎
購入金額(資産情報)		PurchasePrice	△
登録日(資産情報)		RegistrationDate	◎
用途(資産情報)		Purpose	△
備考(資産情報)		Note	△
資産種別(資産情報)		AssetKind	△
変更者(資産情報)		UpdateUser	△
棚卸日付(資産情報)		StocktakingDate	△
使用開始日(資産情報)		StartDate	△
使用終了日(資産情報)		EndDate	△
管理部署 ID(資産情報)		ManagerialGroupID	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
管理部署(資産情報)	AssetInfo	ManagerialGroup	△
管理部署（英名）(資産情報)		ManagerialGroup_EN	△
管理者 ID(資産情報)		ManagerialUserID	△
管理者(資産情報)		ManagerialUser	△
管理者（英名）(資産情報)		ManagerialUser_EN	△
固有情報 Field32-1(資産情報)		UserPropertyField32_1	△
固有情報 Field32-2(資産情報)		UserPropertyField32_2	△
固有情報 Field32-3(資産情報)		UserPropertyField32_3	△
固有情報 Field32-4(資産情報)		UserPropertyField32_4	△
固有情報 Field32-5(資産情報)		UserPropertyField32_5	△
固有情報 Field32-6(資産情報)		UserPropertyField32_6	△
固有情報 Field64-1(資産情報)		UserPropertyField64_1	△
固有情報 Field64-2(資産情報)		UserPropertyField64_2	△
固有情報 Field128-1(資産情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(資産情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(資産情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(資産情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(資産情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(資産情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(資産情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(資産情報)		UserPropertyCode_2	△
固有情報 Code-3(資産情報)		UserPropertyCode_3	△
固有情報 Code-4(資産情報)		UserPropertyCode_4	△
固有情報 Code-5(資産情報)		UserPropertyCode_5	△
固有情報 Code-6(資産情報)		UserPropertyCode_6	△
固有情報 Date-1(資産情報)		UserPropertyDate_1	△
固有情報 Date-2(資産情報)		UserPropertyDate_2	△
固有情報 Date-3(資産情報)		UserPropertyDate_3	△
固有情報 Date-4(資産情報)		UserPropertyDate_4	△
固有情報 Date-5(資産情報)		UserPropertyDate_5	△
固有情報 Date-6(資産情報)		UserPropertyDate_6	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Uint-1(資産情報)	AssetInfo	UserPropertyUint_1	△
固有情報 Uint-2(資産情報)		UserPropertyUint_2	△
固有情報 Uint-3(資産情報)		UserPropertyUint_3	△
固有情報 Uint-4(資産情報)		UserPropertyUint_4	△
固有情報 Uint-5(資産情報)		UserPropertyUint_5	△
固有情報 Uint-6(資産情報)		UserPropertyUint_6	△
数量(ソフトウェア資産情報)	SoftwareInfo	NumberOfLicense	△
購入ポイント数(ソフトウェア資産情報)		NumberOfPoint	△
固有情報 Field128-1(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyCode_2	△
キー ID(ソフトウェアキー情報)	SoftwareKeyInfo	KeyID	△
プロダクト ID(ソフトウェアキー情報)		ProductID	△
ライセンスキー(ソフトウェアキー情報)		LicenseKey	△
シリアル No.(ソフトウェアキー情報)		SirialNo	△
備考(ソフトウェアキー情報)		Note	△
固有情報 Field128-1(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyCode_2	△
ソフトウェアリスト ID(ソフトウェアリスト)	SoftwareList	SoftwareListID	△
ソフトウェア名(ソフトウェアリスト)		SoftwareName	◎

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
ソフトウェア種別(ソフトウェアリスト)	SoftwareList	SoftwareKind	△
ライセンス ID(ライセンス情報)	LicenseInfo	LicenseID	△
ライセンス名(ライセンス情報)		LicenseName	△
ライセンス形態(ライセンス情報)		LicenseType	△
アップグレード保証(ライセンス情報)		UpGrade	△
ダウングレード可否(ライセンス情報)		DownGrade	△
ライセンス取得方法(ライセンス情報)		PurchaseType	△
ライセンス区分(ライセンス情報)		LicenseCategory	△
説明(ライセンス情報)		Description	△
備考(ライセンス情報)		Note	△
固有情報 Field128-1(ライセンス情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ライセンス情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ライセンス情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ライセンス情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ライセンス情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ライセンス情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ライセンス情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ライセンス情報)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.5 資産種別「ソフトウェアリスト」で対象となる項目

資産種別「ソフトウェアリスト」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-89 資産種別「ソフトウェアリスト」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
ソフトウェアリスト ID(ソフトウェアリスト)	SoftwareList	SoftwareListID	△
ソフトウェア名(ソフトウェアリスト)		SoftwareName	◎
製造者(ソフトウェアリスト)		Developer	△
ソフトウェア種別(ソフトウェアリスト)		SoftwareKind	◎

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
しきい値(ソフトウェアリスト)	SoftwareList	Threshold	△
固有情報 Field128-1(ソフトウェアリスト)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ソフトウェアリスト)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ソフトウェアリスト)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ソフトウェアリスト)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ソフトウェアリスト)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ソフトウェアリスト)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ソフトウェアリスト)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ソフトウェアリスト)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.6 資産種別「組織管理情報」で対象となる項目

資産種別「組織管理情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-90 資産種別「組織管理情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
部署 ID(部署情報)	GroupInfo	GroupID	◎
上位部署 ID(部署情報)		UpperLinkID	△
部署名(部署情報)		GroupName	◎
部署名（英名）(部署情報)		GroupName_EN	△
部署コード(部署情報)		GroupCode	△
原価コード(部署情報)		CostPriceCode	△
管理ラベル(部署情報)		ManagedLabel	△
説明(部署情報)		Explanation	△
ADGUID(部署情報)		AdGuid	△
固有情報 Field128-1(部署情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(部署情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(部署情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(部署情報)		UserPropertyField255_2	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Area-1(部署情報)	GroupInfo	UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(部署情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(部署情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(部署情報)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.7 資産種別「ユーザ管理情報」で対象となる項目

資産種別「ユーザ管理情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-91 資産種別「ユーザ管理情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
ユーザ ID(ユーザ管理情報)	UserInfo	UserID	◎
ユーザ名(ユーザ管理情報)		UserName	◎
ユーザ名 (英名) (ユーザ管理情報)		UserName_EN	△
電話番号(ユーザ管理情報)		Telephonenumber	△
メールアドレス(ユーザ管理情報)		Mail	△
役職名(ユーザ管理情報)		ExecutiveName	△
説明(ユーザ管理情報)		Explanation	△
固有情報 Field128-1(ユーザ管理情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ユーザ管理情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ユーザ管理情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ユーザ管理情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ユーザ管理情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ユーザ管理情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ユーザ管理情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ユーザ管理情報)		UserPropertyCode_2	△
部署 ID(部署情報)	GroupInfo	GroupID	△
部署(部署情報)		FullPathName	△
権限 ID(権限管理情報)	RoleInfo	RoleID	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
権限名(権限管理情報)	RoleInfo	RoleName	△
権限名（英名）(権限管理情報)		RoleName_EN	△
管理ラベル(権限管理情報)		ManagedLabel	△
職権 ID(職権管理情報)	JobRoleInfo	JobRoleID	△
職権名(職権管理情報)		JobRoleName	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.8 資産種別「設置場所情報」で対象となる項目

資産種別「設置場所情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-92 資産種別「設置場所情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
設置場所 ID(設置場所情報)	LocationInfo	LocationID	△
上位設置場所 ID(設置場所情報)		UpperLinkID	△
設置場所名(設置場所情報)		LocationName	◎
設置場所名（英名）(設置場所情報)		LocationName_EN	△
住所(設置場所情報)		Address	△
面積(設置場所情報)		AreaSize	△
場所属性(設置場所情報)		Attribute	◎
説明(設置場所情報)		Explanation	△
固有情報 Field128-1(設置場所情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(設置場所情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(設置場所情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(設置場所情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(設置場所情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(設置場所情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(設置場所情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(設置場所情報)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.9 資産種別「保守契約情報」で対象となる項目

資産種別「保守契約情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-93 資産種別「保守契約情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号(資産情報)		AssetNo	△
契約 ID(契約情報)	Contract	ContractID	△
契約番号(契約情報)		ContractNo	◎
回数(契約情報)		RenewalTimes	△
契約種別(契約情報)		ContractKind	△
契約対象(契約情報)		ContractObject	◎
契約日(契約情報)		ContractDate	◎
契約開始日(契約情報)		StartDate	◎
契約終了日(契約情報)		EndDate	◎
契約会社(契約情報)		Company	◎
住所(契約情報)		Address	△
連絡先(契約情報)		ContactInfo	△
担当者名(契約情報)		ContactName	△
契約内容(契約情報)		Contents	△
契約料（総額）(契約情報)		TotalPrice	△
契約料（月額）(契約情報)		MonthlyPrice	△
説明(契約情報)		Explanation	△
契約状態(契約情報)		ContractStatus	◎
担当者名 2(契約情報)		ContactName_2	△
連絡先 2(契約情報)		ContactInfo_2	△
担当者名 3(契約情報)		ContactName_3	△
連絡先 3(契約情報)		ContactInfo_3	△
固有情報 Field128-1(契約情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(契約情報)		UserPropertyField128_2	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Field255-1(契約情報)	Contract	UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(契約情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(契約情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(契約情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(契約情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(契約情報)		UserPropertyCode_2	△
部署(部署情報)	GroupInfo	FullPathName	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.10 資産種別「レンタル契約情報」で対象となる項目

資産種別「レンタル契約情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-94 資産種別「レンタル契約情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号(資産情報)		AssetNo	△
契約 ID(契約情報)	Contract	ContractID	△
契約番号(契約情報)		ContractNo	◎
回数(契約情報)		RenewalTimes	△
契約種別(契約情報)		ContractKind	△
契約対象(契約情報)		ContractObject	◎
契約日(契約情報)		ContractDate	◎
契約開始日(契約情報)		StartDate	◎
契約終了日(契約情報)		EndDate	◎
契約会社(契約情報)		Company	◎
住所(契約情報)		Address	△
連絡先(契約情報)		ContactInfo	△
担当者名(契約情報)		ContactName	△
契約内容(契約情報)		Contents	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
契約料（総額）(契約情報)	Contract	TotalPrice	△
契約料（月額）(契約情報)		MonthlyPrice	△
説明(契約情報)		Explanation	△
契約状態(契約情報)		ContractStatus	◎
担当者名 2 (契約情報)		ContactName_2	△
連絡先 2 (契約情報)		ContactInfo_2	△
担当者名 3 (契約情報)		ContactName_3	△
連絡先 3 (契約情報)		ContactInfo_3	△
固有情報 Field128-1(契約情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(契約情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(契約情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(契約情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1 (契約情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(契約情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(契約情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(契約情報)		UserPropertyCode_2	△
部署(部署情報)	GroupInfo	FullPathName	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.11 資産種別「リース契約情報」で対象となる項目

資産種別「リース契約情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-95 資産種別「リース契約情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号(資産情報)		AssetNo	△
契約 ID(契約情報)	Contract	ContractID	△
契約番号(契約情報)		ContractNo	◎
回数(契約情報)		RenewalTimes	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
契約種別(契約情報)	Contract	ContractKind	△
契約対象(契約情報)		ContractObject	◎
契約日(契約情報)		ContractDate	◎
契約開始日(契約情報)		StartDate	◎
契約終了日(契約情報)		EndDate	◎
契約会社(契約情報)		Company	◎
住所(契約情報)		Address	△
連絡先(契約情報)		ContactInfo	△
担当者名(契約情報)		ContactName	△
契約内容(契約情報)		Contents	△
契約料（総額）(契約情報)		TotalPrice	△
契約料（月額）(契約情報)		MonthlyPrice	△
説明(契約情報)		Explanation	△
契約状態(契約情報)		ContractStatus	◎
担当者名 2 (契約情報)		ContactName_2	△
連絡先 2 (契約情報)		ContactInfo_2	△
担当者名 3 (契約情報)		ContactName_3	△
連絡先 3 (契約情報)		ContactInfo_3	△
固有情報 Field128-1(契約情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(契約情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(契約情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(契約情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(契約情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(契約情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(契約情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(契約情報)		UserPropertyCode_2	△
部署(部署情報)	GroupInfo	FullPathName	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.12 資産種別「ボリューム契約」で対象となる項目

資産種別「ボリューム契約」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-96 資産種別「ボリューム契約」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号(資産情報)		AssetNo	△
契約 ID(ボリューム契約情報)	VolumeContract	ContractID	△
契約番号(ボリューム契約情報)		ContractNo	◎
契約種別(ボリューム契約情報)		ContractKind	△
対象製品(ボリューム契約情報)		ContractObject	△
目標ポイント数(ボリューム契約情報)		TargetPoint	△
契約日(ボリューム契約情報)		ContractDate	△
契約開始日(ボリューム契約情報)		StartDate	△
契約終了日(ボリューム契約情報)		EndDate	△
契約会社(ボリューム契約情報)		Company	△
住所(ボリューム契約情報)		Address	△
連絡先(ボリューム契約情報)		ContactInfo	△
担当者名(ボリューム契約情報)		ContactName	△
契約内容(ボリューム契約情報)		Contents	△
契約料（総額）(ボリューム契約情報)		TotalPrice	△
契約料（月額）(ボリューム契約情報)		MonthlyPrice	△
説明(ボリューム契約情報)		Explanation	△
契約状態(ボリューム契約情報)		ContractStatus	◎
固有情報 Field128-1(ボリューム契約情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ボリューム契約情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ボリューム契約情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ボリューム契約情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ボリューム契約情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ボリューム契約情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ボリューム契約情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ボリューム契約情報)		UserPropertyCode_2	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
部署(部署情報)	GroupInfo	FullPathName	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.13 資産種別「IP グループ情報」で対象となる項目

資産種別「IP グループ情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-97 資産種別「IP グループ情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
IP グループ ID(IP グループ情報)	AddressGroup	IPGroupID	△
IP グループ名(IP グループ情報)		IPGroupName	◎
開始アドレス(IP グループ情報)		StartIPAddress	◎
終了アドレス(IP グループ情報)		EndIPAddress	◎
ゲートウェイ(IP グループ情報)		Gateway	△
サブネットマスク(IP グループ情報)		SubnetMask	◎
DHCP サーバ名(IP グループ情報)		DHCPServerName	△
用途(IP グループ情報)		Purpose	△
管理者 ID(IP グループ情報)		ManagerialUserID	△
部署 ID(IP グループ情報)		GroupID	△
設置場所 ID(IP グループ情報)		LocationID	△
固有情報 Field128-1(IP グループ情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(IP グループ情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(IP グループ情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(IP グループ情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(IP グループ情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(IP グループ情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(IP グループ情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(IP グループ情報)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.14 資産種別「機器カタログ」で対象となる項目

資産種別「機器カタログ」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-98 資産種別「機器カタログ」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
カタログ ID(機器カタログ)	MachineCatalog	CatalogID	△
機器種別(機器カタログ)		MachineKind	△
名称(機器カタログ)		Name	◎
型式(機器カタログ)		Model	◎
製造者(機器カタログ)		Developer	△
購入金額(機器カタログ)		PurchasePrice	△
CPU(機器カタログ)		CPUType	△
CPU クロック数(機器カタログ)		CPUClock	△
CPU 数(機器カタログ)		CPUNumber	△
モニタ種別(機器カタログ)		MonitorKind	△
モニタ解像度(機器カタログ)		MonitorResolution	△
モニタサイズ(機器カタログ)		MonitorSize	△
メモリサイズ(機器カタログ)		MemorySize	△
ディスク容量(機器カタログ)		TotalHDDSize	△
構成種別(機器カタログ)		ModelKind	△
仕様(機器カタログ)		Specification	△
ポート数(機器カタログ)		NumberOfPort	△
回線速度(機器カタログ)		CircuitSpeed	△
固有情報 Field32-1(機器カタログ)		UserPropertyField32_1	△
固有情報 Field32-2(機器カタログ)		UserPropertyField32_2	△
固有情報 Field32-3(機器カタログ)		UserPropertyField32_3	△
固有情報 Field32-4(機器カタログ)		UserPropertyField32_4	△
固有情報 Field32-5(機器カタログ)		UserPropertyField32_5	△
固有情報 Field32-6(機器カタログ)		UserPropertyField32_6	△
固有情報 Field32-7(機器カタログ)		UserPropertyField32_7	△
固有情報 Field32-8(機器カタログ)		UserPropertyField32_8	△
固有情報 Field64-1(機器カタログ)		UserPropertyField64_1	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Field64-2(機器カタログ)	MachineCatalog	UserPropertyField64_2	△
固有情報 Field64-3(機器カタログ)		UserPropertyField64_3	△
固有情報 Field64-4(機器カタログ)		UserPropertyField64_4	△
固有情報 Field64-5(機器カタログ)		UserPropertyField64_5	△
固有情報 Field64-6(機器カタログ)		UserPropertyField64_6	△
固有情報 Field64-7(機器カタログ)		UserPropertyField64_7	△
固有情報 Field64-8(機器カタログ)		UserPropertyField64_8	△
固有情報 Field128-1(機器カタログ)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(機器カタログ)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field128-3(機器カタログ)		UserPropertyField128_3	△
固有情報 Field128-4(機器カタログ)		UserPropertyField128_4	△
固有情報 Field128-5(機器カタログ)		UserPropertyField128_5	△
固有情報 Field128-6(機器カタログ)		UserPropertyField128_6	△
固有情報 Field128-7(機器カタログ)		UserPropertyField128_7	△
固有情報 Field128-8(機器カタログ)		UserPropertyField128_8	△
固有情報 Field255-1(機器カタログ)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(機器カタログ)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Field255-3(機器カタログ)		UserPropertyField255_3	△
固有情報 Field255-4(機器カタログ)		UserPropertyField255_4	△
固有情報 Field255-5(機器カタログ)		UserPropertyField255_5	△
固有情報 Field255-6(機器カタログ)		UserPropertyField255_6	△
固有情報 Field255-7(機器カタログ)		UserPropertyField255_7	△
固有情報 Field255-8(機器カタログ)		UserPropertyField255_8	△
固有情報 Area-1(機器カタログ)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(機器カタログ)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Area-3(機器カタログ)		UserPropertyArea_3	△
固有情報 Area-4(機器カタログ)		UserPropertyArea_4	△
固有情報 Code-1(機器カタログ)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(機器カタログ)		UserPropertyCode_2	△
固有情報 Code-3(機器カタログ)		UserPropertyCode_3	△
固有情報 Code-4(機器カタログ)		UserPropertyCode_4	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Code-5(機器カタログ)	MachineCatalog	UserPropertyCode_5	△
固有情報 Code-6(機器カタログ)		UserPropertyCode_6	△
固有情報 Code-7(機器カタログ)		UserPropertyCode_7	△
固有情報 Code-8(機器カタログ)		UserPropertyCode_8	△
固有情報 Code-9(機器カタログ)		UserPropertyCode_9	△
固有情報 Code-10(機器カタログ)		UserPropertyCode_10	△
固有情報 Code-11(機器カタログ)		UserPropertyCode_11	△
固有情報 Code-12(機器カタログ)		UserPropertyCode_12	△
固有情報 Date-1(機器カタログ)		UserPropertyDate_1	△
固有情報 Date-2(機器カタログ)		UserPropertyDate_2	△
固有情報 Date-3(機器カタログ)		UserPropertyDate_3	△
固有情報 Date-4(機器カタログ)		UserPropertyDate_4	△
固有情報 Date-5(機器カタログ)		UserPropertyDate_5	△
固有情報 Date-6(機器カタログ)		UserPropertyDate_6	△
固有情報 Uint-1(機器カタログ)		UserPropertyUint_1	△
固有情報 Uint-2(機器カタログ)		UserPropertyUint_2	△
固有情報 Uint-3(機器カタログ)		UserPropertyUint_3	△
固有情報 Uint-4(機器カタログ)		UserPropertyUint_4	△
固有情報 Uint-5(機器カタログ)		UserPropertyUint_5	△
固有情報 Uint-6(機器カタログ)		UserPropertyUint_6	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.15 資産種別「問題点管理」で対象となる項目

資産種別「問題点管理」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-99 資産種別「問題点管理」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
保守履歴 ID(保守履歴)	Maintenance	MaintenanceID	△
管理番号(保守履歴)		ManagedNo	◎

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産番号(保守履歴)	Maintenance	AssetNo	△
保守状態(保守履歴)		MaintenanceStatus	◎
登録日(保守履歴)		MaintenanceDate	◎
障害内容(保守履歴)		ObstacleContents	◎
対策完了日(保守履歴)		CompletingDate	△
対策内容(保守履歴)		MeasureContents	△
費用(保守履歴)		Expense	△
参考資料(URL)(保守履歴)		ReferenceData	△
作業者名(保守履歴)		Worker	△
登録者名(保守履歴)		UserName	◎
イベント発行ホスト(保守履歴)		EventHost	△
障害発生ホスト(保守履歴)		MaintenanceHost	△
重大度(保守履歴)		Importance	△
JP1/Base イベント通し番号(保守履歴)		EventNo	△
JP1/IM 実行元ホスト(保守履歴)		ExecutionHost	△
備考(保守履歴)		Note	△
障害種別(保守履歴)		MaintenanceKind	◎
固有情報 Field128-1(保守履歴)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(保守履歴)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(保守履歴)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(保守履歴)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(保守履歴)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(保守履歴)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(保守履歴)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(保守履歴)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.16 資産種別「ライセンス割り当て」で対象となる項目

資産種別「ライセンス割り当て」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-100 資産種別「ライセンス割り当て」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産番号(資産情報)	AssetInfo	AssetNo	△
部署(資産情報)		GroupName	◎
資産 ID(ハードウェア資産情報)	HardwareInfo	AssetID	△
資産 ID(ソフトウェア資産情報)	SoftwareInfo	AssetID	◎
ユーザ ID(ユーザ管理情報)	UserInfo	UserID	△
ユーザ名(ユーザ管理情報)		UserName	△
キー ID(ソフトウェアキー情報)	SoftwareKeyInfo	KeyID	△
プロダクト ID(ソフトウェアキー情報)		ProductID	◎
ライセンスキー(ソフトウェアキー情報)		LicenseKey	◎
シリアル No.(ソフトウェアキー情報)		SirialNo	◎

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.17 資産種別「パッチ情報」で対象となる項目

資産種別「パッチ情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-101 資産種別「パッチ情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号(資産情報)		AssetNo	△
パッチ ID(パッチリスト)	PatchList	PatchID	△
パッチ名(パッチリスト)		PatchName	△
バージョン(パッチリスト)		PatchVersion	△
適用状態(パッチ情報)	PatchInfo	InstalledStatus	◎
インストール日(パッチ情報)		InstalledDate	△
ITDM2 管理情報取り込み制御(パッチ情報)		InfoInd	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.18 資産種別「ウィルス定義情報」で対象となる項目

資産種別「ウィルス定義情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-102 資産種別「ウィルス定義情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号(資産情報)		AssetNo	△
ウィルス対策ソフトウェア名(ウィルス定義情報)	InstalledVirusDefInfo	VirusDefName	◎
ウィルス対策ソフトウェアバージョン(ウィルス定義情報)		SoftwareVersion	△
エンジンバージョン(ウィルス定義情報)		EngineVersion	△
常駐／非常駐(ウィルス定義情報)		ResidentKind	△
インストール日付(ウィルス定義情報)		InstalledDate	△
ウィルス定義バージョン(ウィルス定義情報)		VirusDefVersion	△
ITDM2 管理情報取り込み制御(ウィルス定義情報)		InfoInd	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.19 資産種別「関連資産情報」で対象となる項目

資産種別「関連資産情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-103 資産種別「関連資産情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
親資産 ID（関連資産情報）	RelationAssetInfo	ParentAssetID	△
子資産 ID（関連資産情報）		ChildAssetID	△
親資産番号（関連資産情報）		ParentAssetNo	△
子資産番号（関連資産情報）		ChildAssetNo	△

(凡例)

△：任意に指定する項目

14.4.20 資産種別「分掌情報」で対象となる項目

資産種別「分掌情報」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-104 資産種別「分掌情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
分掌 ID (分掌情報)	DivisionInfo	DivisionID	△
所属部署 ID (分掌情報)		GroupID	○
所属部署 (分掌情報)		FullPathName	
分掌名 (分掌情報)		DivisionName	◎
部署 ID (部署情報)	GroupInfo	GroupID	△
部署 (部署情報)		FullPathName	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

○：新規登録時にどちらか一方を必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

14.4.21 資産種別「分掌割り当て」で対象となる項目

資産種別「分掌割り当て」で対象となる項目の一覧を次の表に示します。

表 14-105 資産種別「分掌割り当て」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
分掌 ID (分掌情報)	DivisionInfo	DivisionID	△
所属部署 ID (分掌情報)		GroupID	○
所属部署 (分掌情報)		FullPathName	
分掌名 (分掌情報)		DivisionName	◎
ユーザ ID (ユーザ管理情報)	UserInfo	UserID	△
ユーザ名 (ユーザ管理情報)		UserName	△

(凡例)

◎：新規登録時に必ず指定する項目

○：新規登録時にどちらか一方を必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

付録

付録 A フォルダ構成

ここでは、Asset Console および資産管理サーバの仮想ディレクトリのフォルダ構成をそれぞれ示します。

付録 A.1 Asset Console のフォルダ構成

Asset Console をインストールしたあとのフォルダ構成を次の表に示します。

表 A-1 Asset Console のフォルダ構成

フォルダ名称			説明
<Asset Console のインストール先フォルダ> (jplasset)	¥aimdb	—	データベース格納フォルダ
	¥bin	—	DLL ファイル格納フォルダ
	¥conf	—	連携用の設定ファイル格納フォルダ
		¥event	イベント発行設定ファイル格納フォルダ
		¥imcc	イベント拡張定義ファイル格納フォルダ
		¥infoView	自動認証設定ファイル格納フォルダ
	¥db	—	データベースのデータファイル、ログファイルなどの格納フォルダ
	¥env	—	環境設定情報格納フォルダ
	¥eur	—	帳票定義ファイル、ユーザ定義ファイルおよびオプション記述ファイル格納フォルダ
	¥exe	—	実行ファイル格納フォルダ
	¥help	—	HTML ヘルプファイルおよび操作画面を構成するファイルの格納フォルダ
	¥log	—	ログファイル格納フォルダ
	¥map	—	テーブル定義情報格納フォルダ
	¥patch	—	Asset Console の修正パッチをインストールした場合の修正パッチの実行ファイル格納フォルダ
	¥plug-in	—	プラグイン格納フォルダ
	¥sample	—	サンプルファイル格納フォルダ
		¥AD	Active Directory のユーザ組織情報を基に、資産管理データベースを更新するためのサンプルスクリプト、およびサンプルスクリプトの説明や使用法をまとめたドキュメントの格納フォルダ
	¥scriptbatch	—	タスクによる資産情報のバッチ処理用の定義ファイル格納フォルダ

フォルダ名称			説明
<Asset Console のインストール先フォルダ> (jplasset)	¥scriptwork	—	コマンド実行時の一時ファイルおよびテンプレートファイル格納フォルダ
	¥template	—	検索テンプレートファイル格納フォルダ
	¥work	—	作業用フォルダ

(凡例)

—：該当しない

付録 A.2 資産管理サーバの仮想ディレクトリのフォルダ構成

資産管理サーバをインストールしたあとのフォルダ構成を次の表に示します。

資産管理サーバの仮想ディレクトリはデフォルトでは、<Asset Console のインストール先フォルダ> ¥wwwroot です。

表 A-2 資産管理サーバの仮想ディレクトリのフォルダ構成

フォルダ名称		説明
<資産管理サーバの仮想ディレクトリ>	¥bin	資産管理サーバ実行ファイル格納フォルダ
	¥csv	資産管理サーバ作業用フォルダ
	¥data	アップロードファイル格納フォルダ
	¥gif	イメージデータファイル格納フォルダ
	¥log	ログファイル格納フォルダ
	¥script	定義ファイル格納フォルダ
	¥template	操作画面で使用するテンプレートファイル格納フォルダ

付録 B プロセス一覧

ここでは、Asset Console の各プロセスのプロセス名とその機能を次の表に示します。プロセスは、プロセス名のアルファベット順で並んでいます。プロセス名の () に同時に実行できるプロセス数を示します。n は正の整数を示します。

表 B-1 各プロセスのプロセス名とその機能

プロセス名	機能
jamdbsetup.exe(1)	メタ定義・制御テーブルの情報のインポート先となるテーブル領域を作成するプロセス（セットアップ時に起動します）
jamdeur.exe(n)	PDF ファイルの出力時に使用されるプロセス
jamclasstbl.exe(1)	資産管理サーバに必要なテーブル領域をデータベース上に生成するプロセス（セットアップ時に起動します）
jamconvdats.exe(1)	データベースコンバート時に使用するプロセス
jamexport.exe(n)	エクスポートコマンドのプロセス
jamimport.exe(n)	インポートコマンドのプロセス
jamscript.exe(n)	検索、更新など資産管理データベースを操作するためのプロセス（タスクや集計の実行中にも使用します）
jamsetup.exe(n)	資産管理サーバの動作に必要な環境情報を設定するプロセス
jamTakeITDM2Info.exe(1)	JP1/IT Desktop Management 2 - Manager からのデータを取得するプロセス
jamztrbl.exe(1)	ログ収集のために使用するプロセス（障害発生時のログ収集時にユーザが起動します）

注

Asset Console は Microsoft Internet Information Services 上で稼働しているため、Microsoft Internet Information Services のプロセス inetinfo.exe が常駐しています。

付録 C 性能と見積もり

ここでは、資産管理サーバのメモリ所要量、ディスク占有量、および CPU 性能について示します。

付録 C.1 メモリ所要量

資産管理サーバの動作に必要なメモリ所要量を次に示します。

- 管理対象のコンピュータが 5,000 台まで
1.0 ギガバイト以上のメモリを確保してください。
- 管理対象のコンピュータが 5,001 台以上、30,000 台まで
8.0 ギガバイト以上のメモリを確保してください。

付録 C.2 ディスク占有量

資産管理システムの運用に必要なディスク占有量は、資産管理データベースおよび資産管理サーバで使用するディスク容量の合計から算出してください。

ここでは、ディスク容量の概算を求める計算式について説明します。

(1) 資産管理データベースで使用するディスク容量

データベースの容量

$$= (\sum (\text{使用する情報のサイズ} \times \text{登録数}) + (\text{ライセンス集計データ量}) + (\text{案件データ量}) + (\text{定義データ量})) \times 1.4 \times 1.5$$

●使用する情報のサイズ

「使用する情報のサイズ」に指定する場合に目安となる値を次の表に示します。

表 C-1 1 件当たりの各情報のサイズ

使用する情報	1 件当たりのサイズ (キロバイト)
ハードウェア資産情報※1	51.4
ソフトウェア資産情報※2	28.2
機器カタログ	0.5
保守契約情報	1.3
リース契約情報	1.3
レンタル契約情報	1.3

使用する情報	1 件当たりのサイズ (キロバイト)
契約会社カタログ	0.9
ソフトウェアリスト	0.4
インストールソフトウェアリスト	0.4
パッチリスト	0.2
IP グループ情報	0.8
IP アドレス管理情報※3	0.3
設置場所情報	1.2
ユーザ管理情報	0.8
部署情報	1.0
権限管理情報	0.4
職権管理情報	0.3
変更履歴	0.8
ソフトウェア変更履歴	0.4
ボリューム契約情報	0.8
保守履歴	2.6

注※1

次の情報を含むことを想定した概算値です。

- 1 件の資産情報 (1 件当たり 2.7 キロバイト)
- 1 件のハードウェア資産情報 (1 件当たり 1.4 キロバイト)
- 3 件のネットワーク情報 (1 件当たり 0.6 キロバイト)
- 20 件の移管履歴 (1 件当たり 1.2 キロバイト)
- 60 件のインストールソフトウェア情報 (1 件当たり 0.3 キロバイト)
- 10 件のパッチ情報 (1 件当たり 0.1 キロバイト)
- 1 件のウィルス定義情報 (1 件当たり 0.5 キロバイト)
- 1 件の ITDM2 管理情報 (1 件当たり 2.0 キロバイト)

注※2

次の情報を含むことを想定した概算値です。

- 1 件の資産情報 (1 件当たり 2.7 キロバイト)
- 1 件のソフトウェア資産情報 (1 件当たり 0.1 キロバイト)
- 50 件のソフトウェアキー情報 (1 件当たり 0.5 キロバイト)

- 1 件のライセンス情報（1 件当たり 0.4 キロバイト）

注※3

IP アドレス管理情報は、IP グループ情報で登録したアドレスの範囲内で使用できる IP アドレスの総数だけ必要になります。

注意事項

使用する情報の 1 件当たりのサイズは、次に示す条件に基づいて算出しています。

- GUI からの操作または ITDM2 管理情報の取り込み時に設定できる項目（固有情報を含む）だけにデータを設定する。設定する値の平均長は 30 バイトと仮定する。データのサイズが 30 バイト未満の項目は、管理領域のサイズと仮定する。
- GUI からの操作または ITDM2 管理情報の取り込みで設定できない項目は、管理領域のサイズだけとする。
- 資産情報および保守契約情報は、一つ以上の機器情報を関連づけている。

●ライセンス集計データ量

$$= (\alpha + \beta) \times \text{ライセンス集計回数 (キロバイト)}$$

$\alpha=1$ 部署が保有するソフトウェアの平均数 \times 部署数 $\times 0.5$

$\beta=1$ 機器にインストールされているソフトウェアの平均数 \times 機器資産数 $\times 0.5$

ここでは、1 ソフトウェアが必要とする容量は、0.5 キロバイトとしています。

●案件データ量

$$= (\text{定義案件のサイズ} \times \text{定義案件の登録数}) + (\text{案件管理に必要なデータ量} \times \text{案件の申請数})$$

定義案件のサイズ 150.0 キロバイト

案件管理に必要なデータ量 4.0 キロバイト

ここで示した定義案件のサイズは、提供されている案件の四つのテンプレートを平均した値です。実際の定義案件のサイズは、定義するアクティビティ数や項目数によって変化します。

●定義データ量

$$= 30.0 \text{ メガバイト}$$

インデックス領域には、テーブルサイズの約 40% 分の領域が必要です。インデックス領域の算出方法については、DBMS のマニュアルを参照してください。

また、資産管理データベースに効率的にアクセスできるようにするため、テーブルサイズの約 50% 分の空き領域が必要です。

(2) 資産管理サーバで使用するディスク容量

サーバの容量

$$= \text{検索時に検索結果として取得できるデータサイズ} \times 1 \text{ 回のログイン時の平均検索回数} \times \text{平均同時ログイン数}$$

操作画面から、添付ファイルとしてファイルをアップロードする場合は、添付ファイルの容量もディスク容量として考慮してください。

付録 C.3 CPU 性能

Asset Console を動作させるために必要な CPU 性能の最小値および推奨値を次に示します。

- 最小値

- 1 ギガヘルツ以上の 32 ビットプロセッサ

- 1.4 ギガヘルツ以上の 64 ビットプロセッサ

- 推奨値

- 管理対象のコンピュータが 5,000 台までの場合：1.5 ギガヘルツ以上のプロセッサ

- 管理対象のコンピュータが 5,001 台以上、30,000 台までの場合：3 ギガヘルツ以上の 4 コアプロセッサ

付録 D 環境設定情報に対応するセクション名およびキー名

アクセス定義ファイルで使用する組み込み関数「\$ENVIRONMENT（サーバ環境情報の取得関数）」で指定する、環境設定情報に対応するセクション名およびキー名を次の表に示します。

表 D-1 環境設定情報に対応するセクション名およびキー名

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
データベース 情報	DATABASE	ログイン ID	USER
		サービス名	SERVICE_NAME
		同時接続コネクション数	COUNT
		検索用接続コネクション数	LONGTIME_COUNT
		LIKE 検索時の大文字小文字の区別 • YES : 区別する • NO : 区別しない	SEARCH_CASE_SENSITIVE
セッション 情報	SERVER	無通信監視時間	SESTION_TIME
		同時利用ログイン数	COUNT
基本情報	BASE	PDF ボタンの表示 • YES : 表示する • NO : 表示しない	EUR
		PDF ファイル作成時のタイムアウト時間	EUR_TIMEOUT
		検索結果の一覧表示件数	REFERENCE_NUM
		表示件数欄の表示 • YES : 表示する • NO : 表示しない	REFERENCE_FIELD
		検索結果の一覧表示上限行数	REFERENCE_LIMITNUM

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
基本情報	BASE	1 ページに表示する 検索結果の件数	REFERENCE_NUMONPAGE
		部署削除用の「ゴミ 箱」部署 ID	UNDEF_GROUP
		設置場所削除用の 「ゴミ箱」設置場所 ID	UNDEF_LOCATION
		ライセンス超過のし きい値	LICENSE_LIMIT
		自動ログインの設定 <ul style="list-style-type: none"> • YES : 表示する • NO : 表示しない 	COMPO_AUTOLOGIN
		Cookie 有効期限 日数	COMPO_EXPIRES
		部署別 IP グループ を使用した部署の 設定 <ul style="list-style-type: none"> • NO : 設定しない • OVERWRITE : 設定する • YES : 部署が未設定の ときのみ設定 する 	GROUP_AUTO
		設置場所別 IP グ ループを使用した設 置場所の設定 <ul style="list-style-type: none"> • NO : 設定しない • OVERWRITE : 設定する • YES : 設置場所が未設 定のときのみ設 定する 	LOCATION_AUTO
		DHCP アドレスの 変更履歴の取得	DHCP_HISTORY

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
基本情報	BASE	<ul style="list-style-type: none"> • YES : 取得する • NO : 取得しない 	DHCP_HISTORY
		部署ツリー表示の ソートキー <ul style="list-style-type: none"> • GroupInfo.GroupID : 部署 ID • GroupInfo.GroupName : 部署名 • GroupInfo.GroupName_EN : 部署名 (英名) • GroupInfo.FullPathName : 部署 • GroupInfo.UserPropertyField128_1 : 固有情報 Field128-1 • GroupInfo.UserPropertyField128_2 : 固有情報 Field128-2 • GroupInfo.UserPropertyField255_1 : 固有情報 Field255-1 • GroupInfo.UserPropertyField255_2 : 固有情報 Field255-2 	GROUP_ORDERKEY
		契約履歴の取得 <ul style="list-style-type: none"> • YES : 取得する • NO : 取得しない 	CONTRACT_HISTORY

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
基本情報	BASE	代行案件のデフォルト表示 <ul style="list-style-type: none"> • YES : 表示する • NO : 表示しない 	SURROGATE
		案件送信トレイからの新規作成 <ul style="list-style-type: none"> • ENABLE : 作成する • DISABLE : 作成しない 	INCIDENT_COPY
		保有機器検索画面の機器状態 <ul style="list-style-type: none"> • USE : 運用コード範囲の表示 • ALL : すべてのコード範囲を表示 	ASSET_STATUS
		変更履歴情報管理 <ul style="list-style-type: none"> • YES : 管理する • NO : 管理しない 	UPDATE_RECORD
		監査ログ出力 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 監査ログを出力しない • 1 : 監査ログを出力する 	AUDITLOG_LEVEL
		監査ログ出力先フォルダ名	AUDITLOG_PATH
メール通知情報	MAIL	メールによる通知 <ul style="list-style-type: none"> • YES : 通知する • NO : 通知しない 	EXPIRATION_NOTICE
		案件代行者へのメール通知	SURROGATE_MAIL_NOTICE

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
メール通知 情報	MAIL	<ul style="list-style-type: none"> • YES : 通知する • NO : 通知しない 	SURROGATE_MAIL_NOTICE
		メールの送信先アドレス	NOTICE_MAILTO
		メールの送信元アドレス	NOTICE_MAILFROM
ディレクトリ サーバ連携	BASE	ディレクトリサーバの使用 <ul style="list-style-type: none"> • YES : 使用する • CTF : 認証に使用する • NO : 使用しない 	DIRECTORY
	LDAP	コードセット <ul style="list-style-type: none"> • SHIFT-JIS シフト JIS コード • UTF-8 UTF-8 	CHAR_CODESET
		サーバ名	HOST_NAME
		ポート番号	PORT_NO
		アクセスユーザ	ACCESS_UID
		応答監視時間	TIMELIMIT
		ユーザ情報 DN	PEOPLE_DN
		ユーザ ID 属性名	USER_ATTR
		ユーザ名属性名	USER_NAME_ATTR
JP1/IT Desktop Managemen t 2 - Manager 連携	ITDM2	JP1/ITDM2- Manager データ ベースログイン ID	USER
		JP1/ITDM2- Manager データ ベース接続サービ ス名	SERVICE_NAME
		取り込み多重度	MULTIOLICITY

付録 E 資産管理サーバのリプレイスと設定変更

ここでは、資産管理サーバのリプレイス手順と設定変更の手順について説明します。また、データベースのサイズおよびホスト名を変更する手順についても説明します。

注意事項

資産管理サーバ上の日時を変更する場合には、次の手順を実施してください。

1. CSV バックアップを取得する。
2. データベースを停止する (jamemb_dbstop.bat を実行する)。
3. 日時を変更する。
4. データベースを再構築する。
5. CSV リカバリを実施する。

付録 E.1 資産管理サーバをリプレイスする

資産管理サーバのマシンをリプレイスする場合の作業の流れを次に示します。リプレイスするタイミングで DBMS を移行するときも、この手順でリプレイスできます。

1. 移行前のマシンで、CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する。

CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する方法については、「[12.1.1 CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア](#)」を参照してください。

2. 移行後のマシンに Asset Console をインストールする。

Asset Console をインストールする手順については、「[5.2.2 Asset Console のインストール](#)」を参照してください。

3. [サーバセットアップ] ダイアログで、「データベース情報」の「ログイン ID」および「サービス名」を設定する。

4. [データベースマネージャ] ダイアログから資産管理データベースを作成する。

資産管理データベースを作成する手順については、「[5.4 資産管理データベースの作成](#)」を参照してください。

5. アップロードしたファイルを移行後のマシンにコピーする。

アップロードしたファイルの格納先については、「[12.1.3\(1\) アップロードしたファイルのバックアップ](#)」を参照してください。

6. [データベースマネージャ] ダイアログから資産管理データベースのリストアを実行する。

資産管理データベースのリストアを実行する方法については、「[12.1.1\(3\) \[データベースマネージャ\] ダイアログからの資産管理データベースのリストア](#)」を参照してください。

付録 E.2 データベースのサイズの変更

データベースのサイズは、資産管理データベースを再作成することで変更できます。ここでは、再作成する前の資産管理データベースのデータを再作成後に引き継ぐ場合の手順を説明します。再作成する前のデータを引き継がない場合は、手順 2.だけを実行してください。

1. CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する。

CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する方法については、「[12.1.1 CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア](#)」を参照してください。

2. 資産管理データベースを作成する。

変更したいサイズを指定して、資産管理データベースを作成します。資産管理データベースを作成する方法については、「[5.4.1 資産管理データベースの作成手順](#)」を参照してください。

3. 資産管理データベースのリストアを実行する。

手順 1.で取得した CSV 形式のバックアップファイルをリストアします。「バックアップフォルダ名」には、バックアップファイルのパスを指定します。資産管理データベースをリストアする方法については、「[12.1.1\(3\) \[データベースマネージャ\] ダイアログからの資産管理データベースのリストア](#)」を参照してください。

付録 E.3 データベースのホスト名の変更

データベースのホスト名を変更する手順を次に示します。クラスタ環境で論理ホスト名を変更する場合も、この手順で変更できます。

注意事項

データベースのホスト名を変更する前に、資産管理サーバで Asset Console のサービス、コマンドおよびタスクをすべて停止してください。停止する順番を次に示します。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Console のコマンド、およびタスク

また、データベースのホスト名を変更したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

1. データベースを停止する。

データベースを停止する方法については、「[付録 E.4\(2\) データベースの停止](#)」を参照してください。

2. <Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%conf に格納されている pdsys ファイルをテキストエディタで開く。

3. pdsys ファイルの「pdunit -x ホスト名 -u unt1 -d "<Asset Console のインストール先フォルダ>%aimdb%"」の「ホスト名」を変更する。

変更する際は、最終行以外の行の最後に「¥」を付けて、1 行が 80 バイトを超えないように記述してください。記述例を次に示します。

```
pdunit -x ホスト名 -u unt1¥  
-d "<Asset Consoleのインストール先フォルダ>¥aimdb"
```

4. <Asset Console のインストール先フォルダ>¥aimdb¥emb に格納されている次のファイルをテキストエディタで開く。

- HiRDB.ini
- reorganization_al.bat
- reorganization_tb.bat

5. 各ファイルの「PDHOST=ホスト名」の「ホスト名」を変更する。

6. OS のホスト名を変更する。

7. OS を再起動する。

付録 E.4 データベースの開始および停止

データベースを開始および停止する手順をそれぞれ次に示します。なお、64 ビットの OS で Asset Console のコマンドを実行する場合は、32 ビット用のコマンドプロンプトで実行する必要があります。実行手順については、「[付録 F.2 64 ビットの OS でコマンドやタスクを実行する場合の注意事項](#)」を参照してください。

(1) データベースの開始

Administrators 権限を持つユーザで jamemb_dbstart.bat を実行すると、データベースを開始できます。

ここでは、jamemb_dbstart.bat の機能、形式および戻り値について説明します。

jamemb_dbstart.bat は次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>¥exe

(a) 機能

データベースを開始します。

(b) 形式

```
jamemb_dbstart.bat
```


(c) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
101	処理中にエラーが発生しました。

(d) コマンド実行時の注意事項

データベースが開始処理中に、インポートコマンドやエクスポートコマンドを実行すると、開始処理が失敗します。しばらく時間をおいてから、インポートコマンドやエクスポートコマンドを実行してください。

(2) データベースの停止

Administrators 権限を持つユーザで jamemb_dbstop.bat を実行すると、データベースを停止できます。

ここでは、jamemb_dbstop.bat の機能、形式、戻り値およびコマンド実行時の注意事項について説明します。

jamemb_dbstop.bat は次のフォルダに格納されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%exe

(a) 機能

データベースを停止します。

(b) 形式

```
jamemb_dbstop.bat
```

(c) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
101	処理中にエラーが発生しました。

(d) コマンド実行時の注意事項

データベースを停止する前に、資産管理サーバで Asset Console のサービス、コマンドおよびタスクをすべて停止してください。停止する順番を次に示します。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing

2. Asset Console のコマンド、およびタスク

また、jamemb_dbstop.bat を実行してデータベースを停止したあとに Asset Console を使用するときは、停止時と逆の順番でサービスを起動してください。

付録 F.1 64 ビットの OS に Asset Console をインストールする際の注意事項

64 ビットの OS に Asset Console をインストールする場合、次の設定が必要です。Microsoft Internet Information Services の設定が必要です。

(1) Microsoft Internet Information Services の設定

(a) Microsoft Internet Information Services 6.0 を使用する場合

Windows Server 2003(x64)に Asset Console をインストールする場合は、32 ビットのアプリケーションを動作させるための設定が必要です。

コマンドプロンプトで、カレントディレクトリを%windir%\Inetpub\AdminScripts に移動したあと、次のコマンドを実行してください。

```
cscript.exe adsutil.vbs set W3SVC/AppPools/Enable32BitAppOnWin64 "true"
```

(b) Microsoft Internet Information Services 7.0、7.5、8.0 または 8.5 を使用する 場合

64 ビット版の Windows Server 2008 または Windows Server 2012 に Asset Console をインストールする場合は、Asset Console の仮想ディレクトリを登録した Web サイトが使用するアプリケーションプールの設定で、「32 ビットアプリケーションの有効化」を「True」にしてください。アプリケーションプールの設定方法については、「[5.8.2\(3\) アプリケーションプールの作成](#)」を参照してください。

(2) アプリケーションプールの設定

64bit の OS 上で Asset Console をインストールする場合、アプリケーションプールを次のサイトのすべてに設定するか、次のサイトに設定されているアプリケーションプールの設定を、jplasset サイト用に作成したアプリケーションプールの設定内容と同様にしてください。

- jplasset サイト
- jplasset サイトの上位の Web サイト

さらに上位の Web サイトがある場合は最上位の Web サイトまで設定してください。

ただし、この設定は、jplasset サイトの上位の Web サイト以下すべての Web サイトに影響するため、問題がある場合は jplasset サイトを別の Web サイトに作成してください。

付録 F.2 64 ビットの OS でコマンドやタスクを実行する場合の注意事項

64 ビットの OS で Asset Console のコマンドやタスクを実行する場合は、次に示す手順で実行してください。

(1) バッチや VBScript を実行する場合

1. 次に示すコマンドを実行する。

```
%windir%\syswow64\cmd.exe
```

32 ビットモードのコマンドプロンプトが起動します。

2. 32 ビットモードのコマンドプロンプト上で、Asset Console のバッチや VBScript を実行する。

(2) タスクを登録する場合

1. 次に示す形式でタスクを登録する。

```
%windir%\syswow64\cmd.exe /c "実行したいプログラム"
```

指定例を次に示します。

```
%windir%\syswow64\cmd.exe /c "cscript.exe "C:\Program Files (x86)\HITACHI\jp1asset\exe  
jamSoftwareAddUp.vbs" GENERATION=1"
```

付録 G 監査ログの出力

Asset Console は、管理情報への登録、更新または削除操作を、監査ログファイルにデータベースの証跡記録として記録できます。なお、監査ログファイルには、トランザクション管理機構がないため、監査ログとデータベースの内容は一致しません。管理情報への操作を最大限に記録するため、データベースへのアクセスの直前に監査ログを出力します。これによって、完了した管理情報に対する操作だけでなく、試行した操作も検出できます。

Asset Console の監査ログの出力情報について説明します。

付録 G.1 監査ログに出力される事象の種別

監査ログを出力する対象となる事象の種別、および Asset Console が監査ログを出力する契機を次の表に示します。事象の種別とは、監査ログに出力される事象を分類するための識別子です。

表 G-1 監査ログに出力される事象の種別

事象の種別	説明	Asset Console が出力する契機
ConfigurationAccess	構成情報の更新を示す事象。	次に示す操作およびカテゴリの業務での追加、更新および削除した記録を出力する。 <ul style="list-style-type: none">サーバセットアップ実行システム管理<ul style="list-style-type: none">ユーザ組織管理ユーザ検索設置場所管理IP グループ管理ソフトウェア名称管理インストールソフトウェア管理システム管理<ul style="list-style-type: none">権限管理管理項目編集業務フィルター利用可能業務割り当て
Authentication	認証に、成功または失敗したことを示す事象。	Asset Console へのログインまたはログアウト記録を出力する。
ContentAccess	Asset Console が管理している資産情報へアクセスしたことを示す事象。	次に示すカテゴリの業務での追加、更新および削除した記録を出力する。 <ul style="list-style-type: none">機器管理<ul style="list-style-type: none">保有機器集計保有機器一覧不稼働機器一覧新規機器登録

事象の種別	説明	Asset Console が出力する契機
ContentAccess	Asset Console が管理している資産情報へアクセスしたことを示す事象。	一括変更 棚卸未実施機器集計 変更履歴 <ul style="list-style-type: none"> ライセンス管理 保有ライセンス一覧 超過ライセンス一覧 不正利用ライセンス一覧 未登録ソフトウェア利用一覧 新規ソフトウェア登録 保有ソフトウェア一覧 ライセンス移管 ボリューム契約登録 ボリューム契約一覧 変更履歴

付録 G.2 監査ログの保存形式

監査ログの保存形式について説明します。

監査ログは、ASTAUDIT0n.LOG に出力されます。このログファイルの容量が 1 メガバイトに達すると、ファイル名の末尾の数値に 1 を足したファイルに出力されます。つまり、ASTAUDIT01.LOG が一定の容量に達して切り替わる際、ASTAUDIT02.LOG にログを書き込みます。ASTAUDIT02.LOG が一定の容量に達すると、ASTAUDIT03.LOG にログを書き込みます。

なお、ログファイルは 9 世代です。ASTAUDIT09.LOG が一定の容量に達すると、初期化した ASTAUDIT01.LOG にログを書き込みます。ASTAUDIT01.LOG が一定の容量に達すると、初期化した ASTAUDIT02.LOG にログを書き込みます。

付録 G.3 監査ログの出力形式

監査ログの出力形式、出力先、出力項目、および出力例について説明します。

(1) 監査ログの出力形式

監査ログの出力形式は、監査ログのフォーマットであることを示す「CALFHM」、監査ログのリビジョン番号、該当する出力項目の順で出力されます。

監査ログの出力形式を次の図に示します。

図 G-1 監査ログの出力形式

CALFHM X.X, 出力項目1=値1, 出力項目2=値2, . . . , 出力項目n=値n

(2) 監査ログの出力先

監査ログは、[サーバセットアップ] ダイアログの「監査ログ出力先フォルダ名」で設定したフォルダに出力されます。デフォルトでは、次に示すフォルダが設定されています。

<Asset Console のインストール先フォルダ>%auditlog

[サーバセットアップ] ダイアログで監査ログの出力先を設定する方法については、「[5.3.4 基本情報の設定](#)」の監査ログ出力先フォルダ名の説明を参照してください。

(3) 出力項目

出力項目は、共通出力項目と固有出力項目の 2 種類があります。それぞれについて説明します。

- 共通出力項目
監査ログを出力する JP1 製品で共通して出力される項目です。
- 固有出力項目
監査ログを出力する JP1 製品ごとに、出力される項目です。

(a) 共通出力項目

共通出力項目に出力される値および内容を、次の表に示します。

表 G-2 監査ログの共通出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	共通仕様識別子	—	「CALFHM」	監査ログのフォーマットであることを示す識別子
2	共通仕様リビジョン番号	—	X.X	監査ログを管理するためのリビジョン番号
3	通番	seqnum	通番	監査ログの通し番号
4	メッセージ ID	msgid	KDAMxxxx-x	製品ごとのメッセージ ID
5	日付・時刻	date	YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD※	監査ログの取得日時およびタイムゾーン
6	発生プログラム名	progid	「JP1ITDM2」	事象が発生したプログラム名

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
7	発生コンポーネント名	compid	<ul style="list-style-type: none"> ac-stu サーバセットアップコンポーネント ac-w3c ブラウザおよび他製品連携プログラムによって IIS 上で実行される Asset Console の業務コンポーネント 	事象が発生したコンポーネント名
8	発生プロセス ID	pid	プロセスの ID	事象が発生したプロセス ID
9	発生場所	ocp:host	ホスト名	事象が発生したホスト名 なお、ホスト名を取得できない場合は、値が表示されません。
10	事象の種別	ctgry	<ul style="list-style-type: none"> ConfigurationAccess Authentication ContentAccess 	監査ログに出力される事象を分類するための識別子
11	事象の結果	result	<ul style="list-style-type: none"> Success 成功 Failure 失敗 Occurrence 成功または失敗の分類がない事象の発生 	発生した事象の結果
12	サブジェクト識別情報	subj:euclid	Windows のアカウント	事象を発生させたユーザの情報
		subj:uid	Asset Console のユーザ ID	

(凡例)

－：属性名は出力されません。

注※

YYYY は年、MM は月、DD は日、hh は時間、mm は分、ss は秒、sss はミリ秒です。

T は日付と時刻の区切りです。

TZD はタイムゾーン識別子です。次のどれかが出力されます。

+hh:mm：世界共通の標準時刻から hh:mm だけ進んでいることを示す。

-hh:mm：世界共通の標準時刻から hh:mm だけ遅れていることを示す。

Z：世界共通の標準時刻と同じであることを示す。

(b) 固有出力項目

固有出力項目に出力される値および内容を、次の表に示します。

表 G-3 監査ログの固有出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	オブジェクト情報	obj	<ul style="list-style-type: none"> acJOB セットアップ (バッチ系) acAuth 認証 (ログイン) acClass Asset Console の業務処理 	事象が発生させたファイルや DB の情報
2	動作情報	op※	<ul style="list-style-type: none"> Login ログイン Logout ログアウト Add 追加 Update 更新 Delete 削除 	事象が発生させたユーザの操作の情報
3	テーブル名	obj:table※	<ul style="list-style-type: none"> 機器 ソフトウェア 部署 ユーザ 設置場所 ソフトウェア名 ライセンス名 インストールソフトウェア名 権限 管理項目 業務フィルター 利用可能業務 	管理情報名
4	自由記述	msg※	任意のメッセージ	事象の内容を示すメッセージ

注※

メッセージとメッセージに対応して設定される関連項目については、「[付録 G.4 監査ログメッセージと関連出力項目](#)」を参照してください。

(4) 監査ログの出力例

Asset Console にログインして、サーバセットアップを実行した場合の出力例を示します。

この場合に実行した操作を次に示します。

1. サーバセットアップを実行した。
2. Asset Console にログインした。
3. 機器情報を登録した。
4. Asset Console からログアウトした。

出力される監査ログの例を、次に示します。

図 G-2 出力される監査ログの例

操作1	CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KDAMA001-I, date=2011-07-27T10:59:06.947+09:00, progid=JP1ITDM2, compid=ac-stu, pid=592, ocp:host=asset8a, ctgry=ConfigurationAccess, result=Occurrence, subj:uid=admin, obj=acJOB, op=Update, msg="Setupを実行しました。"
操作2	CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KDAMA001-I, date=2011-07-27T10:59:24.807+09:00, progid=JP1ITDM2, compid=ac-w3c, pid=2424, ocp:host=asset8a, ctgry=Authentication, result=Success, subj:uid=admin, obj=acAuth, op=Login, msg="ログインしました。"
操作3	CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KDAMA001-I, date=2011-07-27T11:00:17.026+09:00, progid=JP1ITDM2, compid=ac-w3c, pid=2424, ocp:host=asset8a, ctgry=ContentAccess, result=Success, subj:uid=admin, obj=acClass, op=Add, obj:table=機器, msg="登録しました。(1000000079)"
操作4	CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KDAMA001-I, date=2011-07-27T11:00:24.541+09:00, progid=JP1ITDM2, compid=ac-w3c, pid=2424, ocp:host=asset8a, ctgry=Authentication, result=Success, subj:uid=admin, obj=acAuth, op=Logout, msg="ログアウトしました。"

付録 G.4 監査ログメッセージと関連出力項目

監査ログに出力されるメッセージと、メッセージに対応して設定される関連項目を、次の表に示します。

表 G-4 監査ログメッセージと関連出力項目

メッセージ	関連出力項目				備考
	ctgry	result	op	obj:table	
Setup を実行しました。	ConfigurationAccess	Occurrence	Update	—	[セットアップ] ダイアログ
ログインしました。	Authentication	Success	Login	—	ログイン
ログインに失敗しました。	Authentication	Failure	Login	—	ログイン
ログアウトしました。	Authentication	Success	Logout	—	ログアウト
登録しました。 (AssetInfo.AssetNo)	ContentAccess	Success	Add	機器	新規機器登録
更新しました。 (AssetInfo.AssetNo)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ → 「機器」 タブ
ネットワークを追加しました。 (AssetInfo.AssetNo;NetworkInfo.NetworkID;NetworkInfo.IPA	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ → 「ネットワーク」 タブ

メッセージ	関連出力項目				備考
	ctgry	result	op	obj;table	
ddress;NetworkInfo.NodeName)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「ネットワーク」タブ
インストールソフトウェアを追加しました。 (AssetInfo.AssetNo;InstalledList.InstalledID;InstalledList.InstalledName)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「ソフトウェア」タブ
パッチを追加しました。 (AssetInfo.AssetNo;PatchInfo.PatchID;PatchList.PatchName;PatchInfo.InstalledStatus)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「パッチ情報」タブ
ウィルス対策ソフトを追加しました。 (AssetInfo.AssetNo;InstalledVirusDefInfo.VirusDefName)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「ウィルス対策」タブ
関連機器を追加しました。 (AssetInfo.AssetNo)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「関連機器」タブ
契約対象を登録しました。 (AssetInfo.AssetNo;Contract.ContractNo)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「契約」タブ
保守履歴を登録しました。 (AssetInfo.AssetNo;Maintenance.ManagedNo)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「保守履歴」タブ
ネットワークを削除しました。 (AssetInfo.AssetNo;NetworkInfo.NetworkID;NetworkInfo.IPAddress;NetworkInfo.NodeName)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「ネットワーク」タブ
	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「ネットワーク」タブ → [ネットワーク情報詳細] ダイアログ
ネットワークを更新しました。 (AssetInfo.AssetNo;NetworkInfo.NetworkID;NetworkInfo.IPAddress;NetworkInfo.NodeName)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「ネットワーク」タブ → [ネットワーク情報詳細] ダイアログ
インストールソフトウェアを削除しました。 (AssetInfo.AssetNo;InstalledList.InstalledID;InstalledList.InstalledName)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「ソフトウェア」タブ
インストールソフトウェアを更新しました。	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ →「ソフトウェア」タブ

メッセージ	関連出力項目				備考
	ctgry	result	op	obj:table	
(AssetInfo.AssetNo;InstalledList.InstalledID;InstalledList.InstalledName)	ContentAccess	Success	Update	機器	→ [インストールソフトウェア] ダイアログ
パッチを削除しました。 (AssetInfo.AssetNo;PatchInfo.PatchID;PatchList.PatchName;PatchInfo.InstalledStatus)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ → 「パッチ情報」 タブ
ウィルス対策ソフトを削除しました。 (AssetInfo.AssetNo;InstalledVirusDefInfo.VirusDefName)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ → 「ウィルス対策」 タブ
関連機器を解除しました。 (AssetInfo.AssetNo)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ → 「関連機器」 タブ
契約対象を解除しました。 (AssetInfo.AssetNo;Contract.ContractNo)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ → 「契約」 タブ
保守履歴を更新しました。 (AssetInfo.AssetNo;Maintenance.ManagedNo)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ → [保守履歴情報詳細] ダイアログ→ [保守履歴 情報編集] ダイアログ
保守履歴を削除しました。 (AssetInfo.AssetNo;Maintenance.ManagedNo)	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ → 「保守履歴」 タブ
	ContentAccess	Success	Update	機器	[機器詳細] ダイアログ → 「保守履歴」 タブ→ [保守履歴情報詳細] ダイアログ
一括変更で更新しました。 (AssetInfo.AssetNo)	ContentAccess	Success	Update	機器	一括変更→ [変更情報設定] ダイアログ
削除しました。 (AssetInfo.AssetNo)	ContentAccess	Success	Delete	機器	[機器詳細] ダイアログ → 「機器」 タブ
登録しました。 (AssetInfo.AssetNo;SoftwareList.SoftwareName)	ContentAccess	Success	Add	ソフトウェア	新規ソフトウェア登録
ライセンスを割り当てました。 (AssetInfo.AssetNo;SoftwareList.SoftwareName)	ContentAccess	Success	Update	ソフトウェア	[機器詳細] ダイアログ → 「ライセンス」 タブ→ [ライセンス割り当て] ダイアログ

メッセージ	関連出力項目				備考
	ctgry	result	op	obj:table	
更新しました。 (AssetInfo.AssetNo;SoftwareList.SoftwareName)	ContentAccess	Success	Update	ソフトウェア	[ソフトウェア資産詳細] ダイアログ→「資産」タブ
					[ソフトウェア資産詳細] ダイアログ→「キー情報」タブ→[キー情報登録] ダイアログ
					[ソフトウェア資産詳細] ダイアログ→「キー情報」タブ→[キー情報詳細] ダイアログ
					[ソフトウェア資産詳細] ダイアログ→「キー情報」タブ
ライセンスを移管しました。 (AssetInfo.AssetNo;SoftwareList.SoftwareName)	ContentAccess	Success	Update	ソフトウェア	ライセンス移管→[移管先決定] ダイアログ→「移管先」タブ
					ライセンス移管→[移管先決定] ダイアログ→「移管キー情報」タブ
ボリューム契約を登録しました。 (VolumeContract.ContractNo)	ContentAccess	Success	Update	ソフトウェア	ボリューム契約登録
ボリューム契約を削除しました。 (VolumeContract.ContractNo)	ContentAccess	Success	Update	ソフトウェア	ボリューム契約一覧
					[ボリューム契約詳細] ダイアログ→「契約」タブ
ボリューム契約を更新しました。 (VolumeContract.ContractNo)	ContentAccess	Success	Update	ソフトウェア	[ボリューム契約詳細] ダイアログ→「契約」タブ
					[ボリューム契約詳細] ダイアログ→「対象ソフトウェア」タブ
ライセンスを解除しました。 (AssetInfo.AssetNo;SoftwareList.SoftwareName)	ContentAccess	Success	Update	ソフトウェア	[機器詳細] ダイアログ→「ライセンス」タブ
削除しました。 (AssetInfo.AssetNo;SoftwareList.SoftwareName)	ContentAccess	Success	Delete	ソフトウェア	保有ソフトウェア一覧

メッセージ	関連出力項目				備考
	ctgry	result	op	obj:table	
登録しました。 (GroupInfo.GroupID;GroupInfo.FullPathName)	ConfigurationAccess	Success	Add	部署	ユーザ組織管理→[新規部署登録] ダイアログ
更新しました。 (GroupInfo.GroupID;GroupInfo.FullPathName)	ConfigurationAccess	Success	Update	部署	ユーザ組織管理→[部署参照] ダイアログ
					ユーザ組織管理→[部署詳細] ダイアログ
					ユーザ組織管理→[部署詳細] ダイアログ→[分掌] タブ→[分掌登録] ダイアログ
					ユーザ組織管理→[部署詳細] ダイアログ→[分掌] タブ→[分掌更新] ダイアログ
					ユーザ組織管理→[部署詳細] ダイアログ→[分掌] タブ
					ユーザ組織管理→[部署詳細] ダイアログ→[分掌] タブ→[分掌割り当て] ダイアログ
削除しました。 (GroupInfo.GroupID;GroupInfo.FullPathName)	ConfigurationAccess	Success	Delete	部署	ユーザ組織管理
					ユーザ組織管理→[部署詳細] ダイアログ
登録しました。 (UserInfo.UserID;UserInfo.UserName)	ConfigurationAccess	Success	Add	ユーザ	ユーザ組織管理
更新しました。 (UserInfo.UserID;UserInfo.UserName)	ConfigurationAccess	Success	Update	ユーザ	ユーザ組織管理→[部署参照] ダイアログ
					ユーザ組織管理→[ユーザ詳細] ダイアログ
削除しました。 (UserInfo.UserID;UserInfo.UserName)	ConfigurationAccess	Success	Delete	ユーザ	ユーザ組織管理
					ユーザ組織管理→[ユーザ詳細] ダイアログ
登録しました。 (LocationInfo.LocationID;LocationInfo.FullPathName)	ConfigurationAccess	Success	Add	設置場所	設置場所管理→[新規設置場所登録] ダイアログ

メッセージ	関連出力項目				備考
	ctgry	result	op	obj:table	
更新しました。 (LocationInfo.LocationID;LocationInfo.FullPathName)	ConfigurationAccess	Success	Update	設置場所	設置場所管理→ [設置場所参照] ダイアログ
					設置場所管理→ [設置場所詳細] ダイアログ
削除しました。 (LocationInfo.LocationID;LocationInfo.FullPathName)	ConfigurationAccess	Success	Delete	設置場所	設置場所管理
					設置場所管理→ [設置場所詳細] ダイアログ
登録しました。 (SoftwareList.SoftwareListID;SoftwareList.SoftwareName)	ConfigurationAccess	Success	Add	ソフトウェア名	新規ソフトウェア登録→ [ソフトウェア参照] ダイアログ→ [ソフトウェア登録] ダイアログ
					ソフトウェア名称管理→ [ソフトウェア名登録] ダイアログ
更新しました。 (SoftwareList.SoftwareListID;SoftwareList.SoftwareName)	ConfigurationAccess	Success	Update	ソフトウェア名	ソフトウェア名称管理→ [ソフトウェア統合] ダイアログ
					ソフトウェア名称管理→ [ソフトウェア名称詳細] ダイアログ
					ソフトウェア名称管理→ [ソフトウェア名称詳細] ダイアログ→ 「割り当て」 タブ→ [インストールソフトウェア追加] ダイアログ
					ソフトウェア名称管理→ [ソフトウェア名称詳細] ダイアログ→ 「割り当て」 タブ
					ソフトウェア名称管理→ [ソフトウェア名称詳細] ダイアログ→ 「ライセンス」 タブ→ [ライセンス情報登録] ダイアログ
					ソフトウェア名称管理→ [ソフトウェア名称詳細] ダイアログ→ 「ライセンス」 タブ

メッセージ	関連出力項目				備考
	ctgry	result	op	obj:table	
更新しました。 (SoftwareList.SoftwareListID;SoftwareList.SoftwareName)	ConfigurationAccess	Success	Update	ソフトウェア名	ソフトウェア名称管理→ [ソフトウェア名称詳細] ダイアログ→「ダウンロード」タブ→[ソフトウェア参照] ダイアログ
					ソフトウェア名称管理→ [ソフトウェア名称詳細] ダイアログ→「ダウンロード」タブ
					新規ソフトウェア登録→ [ライセンス情報参照] ダイアログ→[ライセンス情報登録] ダイアログ
					[ライセンス情報詳細] ダイアログ
削除しました。 (SoftwareList.SoftwareListID;SoftwareList.SoftwareName)	ConfigurationAccess	Success	Delete	ソフトウェア名	ソフトウェア名称管理
登録しました。 (SoftwareList.SoftwareListID;SoftwareList.SoftwareName;LicenseInfo.LicenseID;LicenseInfo.LicenseName)	ConfigurationAccess	Success	Add	ライセンス名	新規ソフトウェア登録→ [ライセンス情報参照] ダイアログ→[ライセンス情報登録] ダイアログ
					[ソフトウェア名称詳細] ダイアログ→「ライセンス」タブ→[ライセンス情報登録] ダイアログ
更新しました。 (SoftwareList.SoftwareListID;SoftwareList.SoftwareName;LicenseInfo.LicenseID;LicenseInfo.LicenseName)	ConfigurationAccess	Success	Update	ライセンス名	[ライセンス情報詳細] ダイアログ
削除しました。 (SoftwareList.SoftwareListID;SoftwareList.SoftwareName;LicenseInfo.LicenseID;LicenseInfo.LicenseName)	ConfigurationAccess	Success	Delete	ライセンス名	[ライセンス情報詳細] ダイアログ
					[ソフトウェア名称詳細] ダイアログ→「ライセンス」タブ
更新しました。 (InstalledList.InstalledID;InstalledList.InstalledName)	ConfigurationAccess	Success	Update	インストールソフトウェア名	インストールソフトウェア管理→[インストールソフトウェア一括更新] ダイアログ

メッセージ	関連出力項目				備考
	ctgry	result	op	obj:table	
更新しました。 (InstalledList.InstalledID;InstalledList.InstalledName)	ConfigurationAccess	Success	Update	インストールソフトウェア名	インストールソフトウェア管理→ [インストールソフトウェア詳細] ダイアログ
削除しました。 (InstalledList.InstalledID;InstalledList.InstalledName)	ConfigurationAccess	Success	Delete	インストールソフトウェア名	インストールソフトウェア管理
登録しました。 (RoleInfo.RoleID;RoleInfo.RoleName)	ConfigurationAccess	Success	Add	権限	権限管理→ [新規権限] ダイアログ
更新しました。 (RoleInfo.RoleID;RoleInfo.RoleName)	ConfigurationAccess	Success	Update	権限	権限管理→ [権限詳細] ダイアログ
削除しました。 (RoleInfo.RoleID;RoleInfo.RoleName)	ConfigurationAccess	Success	Delete	権限	権限管理→ [権限詳細] ダイアログ
更新しました。(クラス名)	ConfigurationAccess	Success	Update	管理項目	管理項目編集
初期化しました。	ConfigurationAccess	Success	Update	業務フィルター	業務フィルター
更新しました。(画面名)	ConfigurationAccess	Success	Update	業務フィルター	業務フィルター→ [画面名の編集] ダイアログ
更新しました。	ConfigurationAccess	Success	Update	利用可能業務	利用業務割り当て

(凡例)

－：該当しません。

注※

括弧内は、値が出力されます。

注意事項

登録や更新などの操作をし、資産管理サーバへの登録や更新などが失敗した場合でも、操作が行われたという事象として「Success」の監査ログが出力されます。

付録 G.5 監査ログを出力するための設定

監査ログを出力するための設定は、[サーバセットアップ] ダイアログで行います。詳細については、「[5.3.4 基本情報の設定](#)」の「監査ログ出力」および「監査ログ出力先フォルダ」の説明を参照してください。

付録 H.1 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- JP1 Version 10 JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console 導入ガイド (3021-3-281)
- JP1 Version 10 JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console 運用ガイド (3021-3-283)

なお、これらのマニュアルを参照する場合は、マニュアル名称の共通部分（「JP1 Version 10 JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console」の部分）を省略した形式で参照先を示しています。省略されている部分を補ってお読みください。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager からの情報取得について知りたい場合

- JP1 Version 10 JP1/IT Desktop Management 2 導入・設計ガイド (3021-3-274)
- JP1 Version 10 JP1/IT Desktop Management 2 構築ガイド (3021-3-275)

JP1 イベントの情報を基に、資産管理システムの問題点を管理するために、必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 10 JP1/Base 運用ガイド (3021-3-001)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド (3021-3-007)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス (3021-3-010)

案件に該当する機器の資産情報の表示に必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Service Support 構築・運用ガイド (3021-3-018)

情報を PDF ファイル形式の帳票として表示・印刷する場合

- uCosminexus EUR システム設計ガイド (3020-7-702)
- uCosminexus EUR 帳票出力 機能解説 EUR Server 編 (3020-7-708)
- uCosminexus EUR メッセージ (3020-7-714)
- uCosminexus EUR サーバ帳票出力 (3020-7-536)

データベースから出力されるメッセージについて知りたい場合

- HiRDB Version 8 メッセージ (3020-6-358)

付録 H.2 このマニュアルでの表記

Windows 8 または Windows Server 2012 の場合は [スタート] メニューが表示されないため、画面左下から表示できる [スタート] 画面からメニューを選択してください。

このマニュアルでは、製品名称を次のように表記しています。

表記	正式名称
ActiveX	ActiveX(R)
Asset Console または AC	JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console
EUR	uCosminexus EUR：イーユーアール Server Enterprise 09-00 以降
JP1/Base	JP1/Base 10-00 以降
JP1/IM	JP1/Integrated Management - Manager
	JP1/Integrated Management - Rule Operation
	JP1/Integrated Management - View
	JP1/Integrated Manager - Central Console
	JP1/Integrated Manager - Central Scope
	JP1/Integrated Manager - View
JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
	JP1/Integrated Manager - Central Console
JP1/IM - Service Support	JP1/Integrated Management - Service Support 10-00 以降
Linux	Linux(R)
Pentium	Pentium(R)

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		正式名称
MBSA		Microsoft(R) Baseline Security Analyzer
Microsoft Internet Information Services または IIS		Microsoft(R) Internet Information Services 6.0
		Microsoft(R) Internet Information Services 7.0
		Microsoft(R) Internet Information Services 7.5
		Microsoft(R) Internet Information Services 8.0
		Microsoft(R) Internet Information Services 8.5
Microsoft Windows Script Host		Microsoft(R) Windows(R) Script Host
Windows 7 ^{*1}	Windows 7 Enterprise	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise

表記		正式名称
Windows 7※1	Windows 7 Home Premium	Microsoft(R) Windows(R) 7 Home Premium
	Windows 7 Professional	Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
	Windows 7 Starter	Microsoft(R) Windows(R) 7 Starter
	Windows 7 Ultimate	Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate
Windows 8※1	Windows 8	Windows(R) 8
	Windows 8 Enterprise	Windows(R) 8 Enterprise
	Windows 8 Pro	Windows(R) 8 Pro
Windows 8.1※1	Windows 8.1	Windows(R) 8.1
	Windows 8.1 Enterprise	Windows(R) 8.1 Enterprise
	Windows 8.1 Pro	Windows(R) 8.1 Pro
Windows Internet Explorer		Windows(R) Internet Explorer(R) 7
		Windows(R) Internet Explorer(R) 8
		Windows(R) Internet Explorer(R) 9
		Windows(R) Internet Explorer(R) 10
		Windows(R) Internet Explorer(R) 11
Windows Server 2003※1	Windows Server 2003 (x86)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
	Windows Server 2003 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
Windows Server 2008※1※2	Windows Server 2008 Datacenter	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
	Windows Server 2008 Enterprise	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(R)
	Windows Server 2008 Standard	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard

表記			正式名称
Windows Server 2008※1※2	Windows Server 2008 Standard		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(R)
Windows Server 2012※1※3	Windows Server 2012※3	Windows Server 2012 Datacenter	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
		Windows Server 2012 Standard	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
	Windows Server 2012 R2		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
	Windows Vista※1		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise			
Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Basic			
Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Premium			
Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate			
Windows XP※1			Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition Operating System
			Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System

注※1

OS による機能差がない場合、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows Server 2012、Windows Vista、および Windows XP を総称して Windows と表記します。

注※2

Server Core インストールは対象外です。

注※3

Windows Server 2012 R2 を併記している場合は、Windows Server 2012 に Windows Server 2012 R2 は含みません。

付録 H.3 このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用している主な英略語を次に示します。

英略語	正式名称
AMD	Advanced Micro Devices
API	Application Programming Interface
ASP	Active Server Pages
BIOS	Basic Input/Output System

英略語	正式名称
CD	Compact Disc
CD-R	Compact Disc Recordable
CD-R/W	Compact Disc Read/Write
CN	Common Name
CPU	Central Processing Unit
CSV	Comma Separated Value
DAT	Digital Audio Tape
DBMS	Data Base Management System
DC	Domain Component
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol
DLL	Dynamic Linking Library
DN	Distinguished Name
DVD	Digital Versatile Disk
FAQ	Frequently Asked Question
FD	Floppy Disk
GUI	Graphical User Interface
HD	Hard Disk
HTML	Hyper Text Markup Language
HTTP	Hyper Text Transfer Protocol
ID	IDentification
IP	Internet Protocol
ISAPI	Internet Server Application Programming Interface
IT	Information Technology
ITU	International Telecommunication Union
JIS	Japanese Industrial Standards
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
MAC	Media Access Control
MIB	Management Information Base
MIME	Multipurpose Internet Mail Extensions
MO	Magneto-Optical disk
ODBC	Open Data Base Connectivity

英略語	正式名称
OS	Operating System
OU	Organization Unit
PC	Personal Computer
PDF	Portable Document Format
RDB	Relational Database
SID	System ID
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SNMP	Simple Network Management Protocol
SP	Service Pack
SSL	Secure Socket Layer
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
URL	Uniform Resource Locator
USB	Universal Serial Bus
UTF	UCS Transformation Format
WS	Work Station
WWW	World Wide Web
XML	eXtensible Markup Language

付録 H.4 このマニュアルで使用している書式について

説明文で使用する書式

このマニュアルで画面の構成要素を説明するときに使用している記号を、次のように定義します。

記号	意味と例
[]	ウィンドウ名、ダイアログ名、ボタン名およびキーボードのキーを示しています。 (例) [コンソール] ウィンドウ [登録] ダイアログ [OK] ボタン [Ctrl]
[A] + [B]	+の前に示した [A] キーを押しながら、+の後ろに示した [B] キーを押すことを示しています。 (例) [Ctrl] + [C]
「 」	画面中に表示されている項目を示しています。

記号	意味と例
「 」	(例) 「資産番号」テキストボックス
「 」－「 」	画面のメニューから項目を選択することを示しています。 (例) 「オブジェクト」－「インポート」

コマンドの文法に使用している記号

このマニュアルで文法を説明するときには使用している文法記述記号を次に示します。

記号	意味と例
[] (角括弧)	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。複数の項目が横に並べて記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択します。 (例) [A] は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。
 (ストローク)	複数の項目がある場合に項目間の区切りを示し、「または」の意味を示します。 (例) A B C は、「A、B または C」を示します。
{ } (波括弧)	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず一組の項目を選択します。項目の区切りは で示します。 (例) {A B C}は「A、B または C のどれかを指定する」ことを示します。

このマニュアルで使用している構文要素

このマニュアルで使用している構文要素（ユーザの指定値の範囲）とその意味を次に示します。

構文要素	意味
英字	A～Z a～z
英小文字	a～z
英大文字	A～Z
数字	0～9
英数字	英字または数字
記号	! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > @ [¥] ^ ` _ { } ~ ? スペース

付録 H.5 オンラインヘルプについて

JP1/IT Desktop Management 2 では、次に示すオンラインヘルプを提供しています。

製品の操作方法のヘルプ

製品の運用例、各機能の操作方法、トラブルシュートなどを説明するヘルプです。JP1/IT Desktop Management 2 の操作画面の [ヘルプ] – [JP1/IT Desktop Management 2 のヘルプ] から起動できます。

画面説明のヘルプ

表示中の操作画面について説明するヘルプです。操作画面に表示される [ヘルプ] ボタンから起動できます。

JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console アクセス定義ファイル作成ガイド (assetscr.chm)

JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console のスクリプトを使用して独自の処理を追加する方法について説明するヘルプです。次のフォルダに格納されています。

JP1/IT Desktop Management 2 - Asset Console のインストール先フォルダ¥help

付録 H.6 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ $1,024$ バイト、 $1,024^2$ バイト、 $1,024^3$ バイト、 $1,024^4$ バイトです。

(英字)

Active Directory サービス

ネットワーク環境を構成するオブジェクトの情報、およびオブジェクト間の関係を管理する Windows の基幹コンポーネントです。また、次に示すサービスの総称です。

- Active Directory Rights Management サービス (AD RMS)
- Active Directory ドメインサービス (AD DS)
- Active Directory ライトウェイトディレクトリサービス (AD LDS)
- Active Directory 証明書サービス (AD CS)
- Active Directory フェデレーションサービス (AD FS)

Asset Console

ネットワーク装置を含めたハードウェア情報、ソフトウェア情報、契約情報などをデータベースに一元管理することで、資産の導入、ソフトウェアのライセンス管理、機器の保守などに伴う IT 資産管理業務の合理化および管理コストの低減を支援する製品です。また、JP1/IM といった JP1 製品と連携することで、IT 資産を統合的に管理できます。

CN (Common Name)

Active Directory のエントリ名称属性です。例えば、Person (ユーザ) エントリの氏名に当たります。

DC (Domain Component)

Active Directory のドメイン名を構成する要素です。

DN (Distinguished Name)

Active Directory のディレクトリツリー中で、各エントリを一意に識別するための識別名です。エントリの属性を「,」(コンマ)で連結した文字列です。

EUR (イーユーアール)

表形式のデータを入力して帳票を印刷するプログラムです。難しいプログラム作成や入力元のデータ形式を気にすることなく、さまざまな帳票を設計する機能を提供しています。

IP グループ情報

IP アドレスをグルーピングして管理するための情報です。グループごとに任意の名前を付けて、部門ごとにわかりやすい名称で IP アドレスを管理できます。

ITIL

IT システムの構築および運用業務を体系化したガイドラインです。このガイドラインに基づき IT システムを構築することで、IT サービスの最適化を目指します。また、日々のプロセスを継続的に改善することを目的としています。

IT サービス

ビジネスやサービスの遂行を支援する仕組みとして IT システムを活用した、顧客の要望を満たすサービスです。

IT 資産

企業内に多数保有している PC、プリンタなどの IT 機器、ソフトウェアおよびそれらを使用するネットワーク環境です。

JP1/Base

JP1/IM などの基盤となる機能を提供している製品です。JP1 イベントの送受信や、ユーザの管理、起動の制御などをします。また、JP1/IM システムのエージェントとしての役割も持ちます。

JP1/Base は、JP1/IM の前提プログラムです。

JP1/IM

企業情報システム全体を統合管理する製品です。システムをさまざまな角度で運用管理する JP1 シリーズと連携し、システムで発生した事象を JP1 イベントによって一元管理します。また、問題が発生すると迅速に管理者へ通知するとともに、問題個所を把握し調査を行うための運用操作の基盤を提供します。

JP1/IM - Service Support

問い合わせやシステム障害など、解決が必要な案件が発生した場合に、速やかに案件の内容を調査して対処するための機能を提供している製品です。

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報とは、管理対象機器でのハードウェアの使用状況やインストールされているソフトウェアの種類などの情報のことです。この管理情報は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得します。

資産管理システムでは、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager で取得した管理情報を資産情報として登録できます。

JP1/IT Desktop Management 2 の操作画面

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の操作画面のことです。Asset Console の操作画面に対してこう呼びます。

JP1 イベント

JP1 が管理するシステムで発生した事象（ジョブの実行結果やサービスのエラーなど）を検知、通知するために生成される JP1 専用の管理情報です。

Asset Console は、これらの JP1 イベントを、JP1/IM を経由して取得できます。

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)

ITU 勧告 X.500 モデルをサポートするディレクトリにアクセスするため利用される Directory Access Protocol のサブセットです。Active Directory は LDAP に対応しています。

OU (Organization Unit)

Active Directory の組織エントリの名称属性です。部署名に当たります。

SNMP トラップ

Asset Console は、SNMP トラップを JP1/IM から JP1 イベントとして取得できます。

(ア行)

アクセス制限

資産管理システムで管理する資産情報のうち、税務申告や保守契約料金のように、利用するユーザが限定される情報に対して設ける制限です。

資産管理システムで設定できるアクセス制限は次のものです。

- ユーザ ID およびパスワードによるユーザ確認
- 権限によるシステム利用の可否
- 権限による操作画面から実行できる機能の制限
- 権限によるメニューの制限

アクティビティ

案件を定義する際の構成要素で、案件が次の作業者に送付される際に、実行される処理です。例えば、「申請」や「承認」という処理が、アクティビティに当たります。

アクティビティは Flow Designer で定義し、Activity Designer で内容を設定します。

アソシエーションクラス

オブジェクトクラス同士の関係を定義するクラスです。

アソシエーションは、複数のクラス間の関係を表します。具体的には、二つのクラス間の多重度や、二つのクラスがデータの追加や削除時にどのように処理されるかを定義します。

案件

ルートを定義した業務です。

例えば、「機器導入依頼票」や「障害連絡票」などを指します。

案件カテゴリ

業務内容で分けた案件の分類です。

新規案件を選択する画面（新規案件画面）では、案件は案件カテゴリごとのタブに分かれて表示されます。

案件監査者

実行案件を監査するための職権です。

この職権を持つユーザは、実行案件管理画面で、最新の案件の状態や添付されているファイルを参照できます。

イベント管理者

JP1/IM から Asset Console の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておく、[イベントコンソール] 画面から資産情報を参照する際、自動的に、Asset Console にログインできます。

インシデント

IT サービスの品質を低下させたり、システムの正常な運用を妨げたりする障害事象の単位です。

インストールソフトウェア情報

各機器にインストールされているソフトウェアを管理するための情報です。

インストールソフトウェア情報は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager などから資産管理データベースに取り込んで利用するための情報です。

そのため、ソフトウェアの名称およびバージョンは、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager など、情報の取り込み先で管理されている内容となります。

インストールソフトウェアリスト

各機器にインストールされているソフトウェアの名称を管理するための情報です。また、インストールソフトウェアに対する各種設定を管理するためにも使用します。

インポート

CSV ファイルの情報を一括して資産管理データベースへ取り込むことです。

インポートには、次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「インポート」からのインポート

インポートの条件を作成し、CSV ファイルの資産情報を一括で更新します。

この方法では、Asset Console にログインできる環境であれば、どこからでもインポートできます。また、CSV ファイルのフォーマットや、クラスおよびクラス間の関係を意識することなく資産管理データベースの情報を更新できます。

- jamCsvImport.bat でのインポート

業務メニュー「インポート」からのインポートと同様の処理を、資産管理サーバ上のコマンドラインから実行します。CSV ファイルのフォーマットや、クラスおよびクラス間の関係などを意識することなく資産情報を更新できるので、運用を自動化するのに便利です。ただし、jamimport コマンドに比べると、処理に時間が掛かります。

- jamimport コマンドでのインポート

CSV ファイルの情報を取捨選択することなく、一括して資産管理データベースへ取り込むことです。CSV ファイルには、資産管理データベースのデータを追加、変更または削除する情報を記述します。インポートは、Asset Console が提供するコマンドで実行します。

ウィルス定義情報

機器にインストールされているウィルス対策ソフトウェアおよびウィルス定義ファイルの情報です。ウィルス定義情報は、「ウィルス対策ソフトウェア名」、「ウィルス対策ソフトウェアバージョン」、「ウィルス定義バージョン」などを表します。

エクスポート

資産管理データベースの情報を、一括して CSV ファイルに出力することです。

エクスポートには、次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート

出力したい資産情報を選択してエクスポートの条件を作成し、一括で CSV ファイルに出力します。この方法では、Asset Console にログインできる環境であれば、どこからでもエクスポートできます。

- jamCsvExport.bat でのエクスポート

エクスポート画面からのエクスポートと同様の処理を、資産管理サーバ上のコマンドラインから実行します。

- jamexport コマンドでのエクスポート

資産管理データベースの情報を取捨選択することなく、一括して CSV ファイルに出力することです。CSV ファイルは、クラスごとに出力されます。エクスポートは、Asset Console が提供するコマンドで実行します。

オブジェクト

案件画面に配置するテキストフィールドやボタンなどの総称です。オブジェクトは Form Designer で設定します。

オブジェクトクラス

資産情報を管理する単位となるクラスです。オブジェクトクラスは、資産管理システムで管理する各項目を、クラスとプロパティを対応づけるテーブルや資産管理データベースに入出力する形態で表す情報です。

(カ行)

拡張装置

ハードウェア種別の一つで、「ディスプレイ」、「HD」、「CD-R」、「CD-R/W」、「DVD」、「DAT」、「MO」、「プリンタ」、「周辺装置」、「USB デバイス」、「ストレージ」です。資産管理システムでは、ハードウェアをシステム装置、拡張装置、ネットワーク装置の3種類に分けて管理します。

仮想ディレクトリ

Asset Console は IIS 上で WEB コンテンツを公開するため、仮想ディレクトリを設定する必要があります。

監査ログ

内部統制の証跡記録として出力されるログのことです。「いつ」「だれが」「どこで」「何を」を示します。

管理項目

Asset Console で管理する情報の各項目です。資産管理データベースで管理するクラスのプロパティに対応します。

管理項目名

案件を定義する際に、Form Designer で定義したテキストフィールド、テキストエリアおよびプルダウンへの指定値を識別するための名称です。クラスのプロパティを意識することなく、任意の文字列を指定できます。

この名称を基に、Activity Designer で資産管理データベースの更新方法を設定します。

管理者

企業の IT 資産管理全般を行う部署（情報システム管理部門）の機器管理担当者やネットワーク管理者です。管理者は、資産情報全般の情報を扱うことができます。

管理ノード

案件を定義する際の構成要素で、案件がたどるルート of 各作業者（または部署）です。例えば、「申請者」や「承認者」が、管理ノードに当たります。

管理ノードは Flow Designer で定義します。

管理ラベル

組織階層単位でアクセス制限を行う場合に設定します。部署とユーザ権限に同一の管理ラベル（任意の文字列）を設定することで、管理ラベルを設定したユーザ権限を持つユーザは、同じ管理ラベルが設定された部署以下の情報しか扱えなくなります。

管理レベル

ライセンスを管理するレベルです。インストールされているソフトウェアに対して設定します。管理レベルの設定は、インストールソフトウェア管理画面で行うか、または JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得する情報の引き当て設定で行います。

管理レベルには次の 3 段階があります。

- 「管理対象」
ライセンスの利用数としてカウントする場合に選択します。
- 「集計対象外」
ライセンスの利用数としてはカウントしない場合に選択します。インストールされているソフトウェアとして、情報は登録されます。
- 「管理対象外」
ライセンス管理の対象外とし、インストールされているソフトウェアとしての情報も登録しない場合に選択します。

機器カタログ

機器の情報には、CPU やメモリサイズなど、製品ごとに決まっている項目を登録したものです。

新規に機器を登録するときに、あらかじめ登録されているカタログの中から、登録したい製品を選択することで、製品によって決まっている項目を入力する手間を省けます。

共通管理項目

ユーザが任意に設定できる、ユーザ名や資産番号などの情報です。共通管理項目情報は、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得します。

資産管理システムでは、JP1/IT Desktop Management 2 - Manager が取得した共通管理項目情報を資産情報として登録できます。

業務フィルター

ユーザ権限に応じて、操作画面から実行できる処理を制限する機能です。

各操作画面の構成要素（ボタン、検索条件、編集項目など）を、ユーザ権限に応じて変更します。

クラス

資産情報のカテゴリごとに分けた管理情報の集まりです。資産管理システムで扱うクラスには、オブジェクトクラスおよびアソシエーションクラスがあります。

契約情報

各機器およびソフトウェアを保守、リースまたはレンタルの契約ごとに管理するための情報です。

同一の契約を行った複数の機器やソフトウェアを一つにまとめ、契約番号を付けることによって、契約単位に各機器またはソフトウェアを管理できます。

権限管理情報

権限管理情報は、資産管理システムでのユーザの役割を管理するための情報です。デフォルトでは、「管理者」と「利用者」の権限が設定されています。

コード ID

資産管理データベース上でコードに対応づけて管理されている項目に対して、ユニークに付けられている ID です。コードを編集する場合は、このコード ID を基にコードを追加、削除します。

(サ行)

作業者

案件を実行するユーザです。案件は、定義されたルートに従って、作業者（個人）に送付されます。

資産

ユーザが資産として管理する単位です。

資産には、機器に関する資産、ソフトウェアに関する資産およびユーザ固有の資産があります。機器に関する資産は一つ以上の機器で、ソフトウェアに関する資産は一つ以上のソフトウェアで構成されます。ユーザ固有の資産は、ユーザ固有の情報で構成されます。

資産管理サーバ

資産情報を管理し、資産情報に関するサービスを提供するサーバです。

資産管理システム

資産情報を管理するシステムです。資産管理システムは次のプログラムで構成されます。

- 資産管理サーバ
- Web ブラウザ

資産管理データベース

資産情報を格納するデータベースです。

資産情報

企業内にあるハードウェアおよびソフトウェアを管理するための情報です。資産情報では、ハードウェアやソフトウェアそのものの情報ではなく、「資産番号」、「部署」、「ユーザ名」、「設置場所」などを表します。

「資産番号」は、各資産を特定するための番号で、ユーザが任意に付けることができます。資産管理システムでは、この資産番号が各資産を管理するための最も基本的な単位になります。

システム装置

ハードウェアの種別の一つで、「PC」、「PC サーバ」、「UNIX」、「UNIX サーバ」、「スマートデバイス」および「その他システム装置」です。資産管理システムでは、ハードウェアをシステム装置、拡張装置、ネットワーク装置の3種類に分けて管理します。

書式

業務フィルターで、各操作画面をカスタマイズした設定（ボタンや検索条件の表示・非表示の設定など）内容です。

書式は操作画面ごとに設定し、一つの操作画面に複数設定することもできます。

職権

案件の中で、承認などの処理を実行できる作業者を、限定するための権限です。

職権が定義された作業を実行するには、Asset Console にログインする権限とは別に、職権を持っている必要があります。

設置場所情報

資産の設置場所を管理する情報です。設置場所情報は「設置場所名」、「住所」、「面積」、「場所属性」などを表します。

操作画面

Asset Console の操作画面のことです。JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の操作画面に対してこう呼びます。

組織

ユーザ情報を扱う単位の一つです。ユーザ情報をそのユーザが所属している「組織」という観点で扱うことで、組織階層単位に情報のアクセスを制限できます。

ソフトウェアキー情報

ライセンスを利用先の機器やユーザに割り当てるためのキーとなる情報です。ソフトウェアキー情報は、「プロダクト ID」、「ライセンスキー」、「シリアル No.」などを表します。

ソフトウェア資産情報

商用ソフトウェア、シェアウェア、フリーウェアなど、資産管理システムに資産として登録したソフトウェアに関する情報です。ソフトウェア資産情報は、「資産 ID」、「ソフトウェア名」、「数量」を表します。

(タ行)

タスク

アクティビティ（案件が次の作業者に送付される際に実行される処理）を定義するときには組み合わせる処理内容です。

例えば、導入した機器の情報を登録するアクティビティは、「機器情報登録」と「ネットワーク情報登録」のタスクを組み合わせで定義します。

各アクティビティのタスクは、Activity Designer で設定します。

データファイル

インポートおよびエクスポートに必要な CSV 形式のファイルです。データファイルは、「項目タイトル行」と「データ行」から構成されます。

インポートの場合は、アソシエーションクラス単位で、資産情報（資産データ）を記述します。

エクスポートの場合は、アソシエーションクラス単位で、資産情報の出力先として作成されます。

データファイル名定義ファイル

複数のデータファイルを一括してインポートまたはエクスポートする場合に必要なテキストファイルです。

データファイル名定義ファイルには、インポートまたはエクスポートする、すべてのデータファイル名と、そのデータファイルに対応するアソシエーションクラス表示名を定義します。

(ナ行)

ネットワーク情報

各機器のネットワーク上の位置を管理するための情報です。ネットワーク情報は、「IP アドレス」、「MAC アドレス」、「ノード名」、「コンピュータ名」などを表します。

ネットワーク装置

ハードウェア種別の一つで「HUB」、「ルータ」、「ネットワークプリンタ」および「ネットワーク装置」です。資産管理システムでは、ハードウェアをシステム装置、拡張装置、ネットワーク装置の 3 種類に分けて管理します。

ハードウェア資産情報

ハードウェア資産を管理するための情報です。ハードウェア資産情報は、Asset Console を使用した資産管理システムで扱うすべてのハードウェアに関する情報です。ハードウェア資産情報は、機器そのものの情報で、「装置種別」、「機器種別」、「名称」などを表します。

パッチ情報

各機器のパッチの適用状態を管理する情報です。パッチ情報は、「インストール日」、「適用状態」などを表します。

パッチリスト

パッチの名称を管理する情報です。パッチリストは、「パッチ名」、「パッチバージョン」などを表します。

部署情報

資産管理システムを利用する部門など、組織を管理するための情報です。部署情報は、「部署名」、「部署コード」、「原価コード」などを表します。

プロパティ

クラスの個々の属性です。

分掌

部署の業務として、ほかの部署を管理するための情報です。分掌は部署ごとに複数設定できます。分掌をユーザに割り当てることで、そのユーザは分掌に設定された部署（分掌部署）の情報も管理できます。

分掌部署

分掌に設定されている部署の情報です。

変更履歴

機器のメモリサイズやディスク容量の変更を管理するための情報です。CPU、メモリ、ディスクが物理的に不当に変更されていないかどうかを確認できます。

変更履歴は、「変更日付」、「ディスク容量」、「メモリサイズ」、「CPU」などを表します。

保守履歴

機器の障害内容やその対策内容を管理するための情報です。JP1/IM と連携する場合、保守履歴として JP1 イベントを取得できます。

保守履歴は、「登録日」、「障害内容」、「重大度」、「発生ホスト名」、「対策完了日」、「対策内容」、「費用」、「参考資料（URL）」などを表します。

ボリューム契約情報

ソフトウェアのボリュームライセンスの契約内容を管理するための情報です。

ボリューム契約情報は、「対象製品」、「目標ポイント数」、「契約日」、「契約開始日」、「契約終了日」、「契約会社」、「契約内容」、「契約状態」などを表します。

(マ行)

メタ定義・制御テーブル

クラスと資産管理データベース内のテーブルを対応づけるために必要なテーブルです。メタ定義・制御テーブルを Asset Console のセットアップ時に資産管理データベースにインポートすることで、データベースのデータ構造が定義されます。

(ヤ行)

ユーザ管理情報

資産管理システムを利用するユーザを管理するための情報です。ユーザ管理情報には、「ユーザ名」、「電話番号」、「メールアドレス」、「役職名」などを表します。

ユーザライブラリ

案件で使用する画像を資産管理サーバにアップロードして、共通して使用するのためのものです。Form Designer で案件画面に挿入したい画像は、ユーザライブラリに登録する必要があります。

ユーザレポート

ユーザが追加する業務と、その業務を実行するための操作画面です。Asset Console では、あらかじめ提供されている業務メニューの業務のほかに、独自の業務（ユーザレポート）を追加できます。

(ラ行)

ライセンス区分

購入したライセンスの区分が、「マシン許諾」または「ユーザ許諾」のどちらかを表します。ライセンスの集計は、「ライセンス区分」の情報ごとに実行されます。

ライセンス形態

購入したライセンスの形態が、次のうちのどれかを表します。

- マシン許諾ライセンス
- ユーザ許諾ライセンス
- サーバライセンス

- クライアントアクセスライセンス
- 管理ノードライセンス
- CPU ライセンス
- セカンドライセンス
- 同時実行ライセンス

なお、「ライセンス形態」は、ライセンス形態を詳細に管理するための情報で、ライセンスの集計結果には影響しません。

ライセンス情報

ソフトウェアのライセンス内容を詳細に管理するための情報です。

ライセンス情報は、「ライセンス名」、「アップグレード保証」、「ダウングレード可否」、「ライセンス形態」、「ライセンス取得方法」、「ライセンス区分」などを表します。

ルート

案件がたどる作業者の順番です。

案件は定義されたルートに従って、順次処理されます。案件のルートは Flow Designer で定義します。

索引

数字

- 1 ページに表示する検索結果の件数 81
- 64 ビットの OS で Asset Console を使用する場合の注意事項 530
- 64 ビットの OS でコマンドやタスクを実行する場合の注意事項 531
- 64 ビットの OS に Asset Console をインストールする場合の注意事項 530

A

- ACCESS_UID 524
- Active Directory サービス〔用語解説〕 553
- Active Directory と連携したシステム構成 65
- Active Directory 連携 53
- Activity Designer 297, 298
- Activity Designer の各部の名称と使い方 297
- AddressGroup 410
- AfterValue 472
- AreaSize 450
- ASSET_STATUS 523
- AssetBranchNo 412
- Asset Console から発行する JP1 イベントの詳細 395
- Asset Console 操作時のトラブル 339
- Asset Console のインストールとアンインストール 71
- Asset Console のフォルダ構成 513
- Asset Console へのログイン時のトラブル 337
- Asset Console へのログインの可否 33
- Asset Console〔用語解説〕 553
- Asset Console を使用するための基礎知識 195
- AssetInfo 412
- AssetKind 412
- AssetNo 412, 423, 457
- assetscr.chm 115
- AssetStatus 412
- AssetUpdateRecord 419
- AssetWorkKind 413

- ASTTRBL.BAT 328
- Attribute 450
- AUDITLOG_LEVEL 523
- AUDITLOG_PATH 523
- AuthorityLink 478

B

- BASE 520, 524
- BaseCCN 419
- BaseCreationClassName 419
- BeforeValue 472

C

- CatalogID 452
- CHAR_CODESET 524
- ChildAssetID 464
- CircuitSpeed 429, 452
- CN (Common Name)〔用語解説〕 553
- Company 420, 423, 425, 475
- CompletingDate 457
- COMPO_AUTOLOGIN 521
- COMPO_EXPIRES 521
- ComputerID 429
- ComputerName 460
- ContactInfo 420, 423, 425, 475
- ContactInfo_2 420, 424, 425
- ContactInfo_3 420, 424, 425
- ContactName 420, 424, 425, 475
- ContactName_2 420, 424, 425
- ContactName_3 420, 424, 425
- Contents 420, 425, 475
- Contract 420
- CONTRACT_HISTORY 522
- ContractAssetHistory 423
- ContractCatalog 423
- ContractDate 420, 425, 475
- ContractHistory 425

ContractID 421, 423, 425, 475
ContractKind 421, 425, 475
ContractLeaseLink 478
ContractMaintenanceLink 478
ContractNo 421, 425, 475
ContractObject 421, 425, 475
ContractRentalLink 479
ContractStatus 421, 425, 475
Cookie 有効期限日数 83
CostPriceCode 427
COUNT 520
CPU 429, 452
CPUClock 429, 452
CPUNumber 429, 452
CPUType 429, 452
CPU クロック数 429, 452
CPU 数 429, 452
CPU 性能 519
CreationClassName の指定 162
CSV 形式での資産管理データベースのバックアップ
とリストア 361
CSV データの出力 184
CSV データの出力方法の選択 184
CSV データの登録 157
CSV データの登録と出力 156
CSV ファイルから取得する場合 38
CSV ファイルの編集方法 162

D

DATABASE 520
DBMS のトラブルの主な要因と対処 344
DBMS のトラブル発生時の回復方法 358
DC (Domain Component) [用語解説] 553
DefaultGateway 460
Description 446, 447
Developer 429, 452, 469
DHCP_HISTORY 521
DHCPServerName 410, 460
DHCP アドレスの変更履歴の取得 85

DHCP サーバ名 410, 460
DIRECTORY 524
DivisionID 427
DivisionInfo 426
DivisionLink 479
DivisionName 427
DivisionUserLink 479
DMLastUpdateTime 413
DMStatus 413
DN (Distinguished Name) [用語解説] 553
DownGrade 447
DownSoftwareListID 469

E

EndDate 413, 421, 425, 475
EndIPAddress 410
EngineVersion 445
EUR 520
EUR_TIMEOUT 520
EUR と連携したシステム構成 64
EUR と連携して検索結果を PDF 形式で出力する 31
EUR と連携するための設定 153
EUR [用語解説] 553
EventHost 457
eventmap.ini 402
EventNo 457
ExecutionHost 457
ExecutiveName 473
Executor 443
Expense 457
EXPIRATION_NOTICE 523

F

FAQ (案件の定義) 321
FileDate 441, 443
FileName 441, 443
FileSize 441, 443
Flow Designer 266, 267, 316
Flow Designer の各部の名称と使い方 266

Form Designer 271, 272
Form Designer の各部の名称と使い方 271
FullPathName 427, 450
FullPathName_EN 427, 450

G

Gateway 410
GlobalIPAddress 460
GROUP_AUTO 521
GROUP_ORDERKEY 522
GroupCode 427
GroupID 427
GroupInfo 427
GroupName 413, 419, 425, 428
GroupName_EN 413, 419, 428

H

HardwareInfo 429
HistoryUpdateDate 419, 424, 443, 472
HOST_NAME 524
HostName 429

I

ID を伴うクラスのインポート 160
Importance 457
INCIDENT_COPY 523
IndicationItemKey 472
INNER 243
InstalledDate 439, 445, 463
InstalledID 439, 441, 443
InstalledInd 441
InstalledInfo 438
InstalledKind 441
InstalledList 440
InstalledName 441, 444
InstalledPermit 441
InstalledStatus 463
InstalledUpdateRecord 443
InstalledVersion 441, 444

InstalledVirusDefInfo 444
InventoryKey 413
IPAddress 429, 445, 446, 461
IPAddressKind 461
IPAddressLink 480
IPGroupID 410
IPGroupName 411
IP アドレス 429, 446, 461
IP アドレス管理情報 445
IP アドレス管理情報として取得できる情報 388
IP アドレス種別 461
IP アドレスの状態管理 480
IP グループ ID 410
IP グループ情報 410
IP グループ情報のインポート 169
IP グループ情報〔用語解説〕 553
IP グループ名 411
ISAPI の制限の設定 112
ISAPI フィルタの設定 113
ITDM2 524
ITDM2 Agent 導入状態 413
ITDM2 管理情報取り込み制御 439, 445, 461, 463
ITDM2 最終更新日付 413
ITIL〔用語解説〕 554
IT サービス〔用語解説〕 554
IT 資産〔用語解説〕 554

J

jamCsvExport.bat の実行 186
jamCsvImport.bat の実行 162
jamdbexport.bat 363
jamemb_backup.bat 367
jamemb_dbstart.bat 527
jamemb_dbstop.bat 528
jamemb_reorganization.bat 374
jamemb_workcomp.exe 347
jamexport (エクスポート) コマンドの実行 191
jamimport (インポート) コマンドの実行 180

jamimport コマンドでインポートする情報とクラスとの対応 [164](#)

jamimport コマンドでインポートするファイルの形式 [173](#)

jamimport コマンドでのインポートの流れ [158](#)

JobRoleID [446](#)

JobRoleInfo [446](#)

JobRoleLink [480](#)

JobRoleName [446](#)

JobRoleName_EN [446](#)

JP1/Base [60](#)

JP1/Base イベント通し番号 [457](#)

JP1/Base [用語解説] [554](#)

JP1/IM からの資産情報の表示 [149](#)

JP1/IM 実行元ホスト [457](#)

JP1/IM 製品との連携時のトラブルの主な要因と対処 [356](#)

JP1/IM との連携時のトラブル [356](#)

JP1/IM と連携するための設定 [144](#)

JP1/IM [用語解説] [554](#)

JP1/IM - Manager [60](#)

JP1/IM - Manager での自動アクションの設定 [145](#)

JP1/IM - Manager と連携したシステム構成 [62](#)

JP1/IM - Service Support [60](#)

JP1/IM - Service Support からの資産情報の表示 [151](#)

JP1/IM - Service Support との連携時のトラブル [356](#)

JP1/IM - Service Support と連携したシステム構成 [63](#)

JP1/IM - Service Support と連携するための設定 [151](#)

JP1/IM - Service Support [用語解説] [554](#)

JP1/IT Desktop Management 2 の操作画面からの資産情報の操作を抑止する [142](#)

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager の管理情報 [用語解説] [554](#)

JP1/IT Desktop Management 2 の操作画面 [用語解説] [554](#)

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得する場合 [37](#)

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager から取得できる管理情報 [379](#)

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報取得の設定 [93](#)

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 管理情報を取得するために必要な作業の流れ [70](#)

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager との連携時のトラブルの主な要因と対処 [354](#)

JP1/IT Desktop Management 2 - Manager 連携 [524](#)

JP1/ITDM2-Manager データベース接続サービス名 [93](#)

JP1/ITDM2-Manager データベースログイン ID [93](#)

JP1 イベント [60](#)

JP1 イベントの種類 [395](#)

JP1 イベント [用語解説] [555](#)

JP1 イベントを転送するための設定 [148](#)

K

KB (キロバイト) などの単位表記について [552](#)

KeyID [468](#)

L

LDAP [524](#)

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) [用語解説] [555](#)

LICENSE_LIMIT [521](#)

LicenseCategory [447](#)

LicenseID [447, 466](#)

LicenseInfo [447](#)

LicenseKey [468](#)

LicenseName [447](#)

LicenseType [448](#)

LIKE 検索時の大文字小文字の区別 [79](#)

Link [465](#)

LinkClass [472](#)

LinkKey [444, 472](#)

LOCATION_AUTO [521](#)

LocationID [411, 414, 451](#)

LocationInfo [450](#)

LocationName [414, 419, 451](#)

LocationName_EN [414, 419, 451](#)

log フォルダに作成されるファイル 330

LONGTIME_COUNT 520

M

MACAddress 429, 461

MachineCatalog 452

MachineKind 429, 452

MachinePermitLink 480

MAC アドレス 429, 461

Mail 473

MAIL 523

Maintenance 457

MaintenanceDate 458

MaintenanceHost 458

MaintenanceID 458

MaintenanceKind 458

MaintenanceStatus 458

ManagedLabel 428, 465

ManagedNo 458

ManagerialGroup 414

ManagerialGroup_EN 414

ManagerialGroupID 414

ManagerialUser 414

ManagerialUser_EN 414

ManagerialUserID 411, 414

MBSAVersion 430

MBSA バージョン 430

MeasureContents 458

MemberLink 480

MemorySize 430, 453

Model 430, 453

ModelKind 430, 453

MonitorKind 430, 453

MonitorResolution 430, 453

MonitorSize 430, 453

MonthlyPrice 421, 425, 475

MULTIOLICITY 524

N

Name 430, 453

NetworkID 461

NetworkInfo 460

NodeName 461

Note 414, 448, 458, 468

NOTICE_MAILFROM 524

NOTICE_MAILTO 524

NumberOfLicense 466

NumberOfPoint 466

NumberOfPort 430, 453

O

ObstacleContents 458

OSInfo 430

OSVersion 430

OS 情報 430

OS バージョン 430

OU (Organization Unit) (用語解説) 555

OUTER 243

P

ParentAssetID 464

Password 473

PatchID 463, 464

PatchInfo 462

PatchList 463

PatchName 464

PatchVersion 464

PDF ファイル作成時のタイムアウト時間 80

PDF ファイルの表示および印刷 153

PDF ボタンの表示 80

PEOPLE_DN 524

PORT_NO 524

PortInfo 461

ProductID 439, 468

PurchasePrice 414, 453

PurchaseType 448

Purpose 411, 414, 446

R

RecordInd 439
REFERENCE_FIELD 520
REFERENCE_LIMITNUM 520
REFERENCE_NUM 520
REFERENCE_NUMONPAGE 521
ReferenceData 458
RegistrationDate 415
RelationAssetInfo (関連資産情報) 464
RelationAssetLink 481
RemainHDSize 430
RenewalDate 423, 425
RenewalTimes 421, 423, 425
ResidentKind 445
RoleID 465
RoleInfo 465
RoleName 465
RoleName_EN 465

S

ScreenItemList.pdf 207
ScreenWithPage.pdf 81
SEARCH_CASE_SENSITIVE 520
SerialNo 430
SERVER 520
SERVICE_NAME 520, 524
SESSTION_TIME 520
SirialNo 468
SMTP 仮想サーバの実行 133
SNMP トラップ [用語解説] 555
SoftAssetID 468
SoftwareInfo 466
SoftwareKeyInfo 467
SoftwareKind 470
SoftwareList 469
SoftwareListID 441, 448, 466, 470
SoftwareName 470
SoftwareStatus 415
SoftwareVersion 445

Specification 430, 453
StartDate 415, 421, 426, 475
StartIPAddress 411
StocktakingDate 415
SubLinkKey 472
SubnetMask 411, 461
SURROGATE 523
SURROGATE_MAIL_NOTICE 523
SystemInd 465

T

TargetPoint 475
taskopt.ini 124
Telephonenumber 473
Threshold 470
TIMELIMIT 524
TotalHDSize 430, 453
TotalPrice 421, 426, 475

U

UNDEF_GROUP 521
UNDEF_LOCATION 521
UPDATE_RECORD 523
UpdateKind 444
UpdateRecord 472
UpdateRecordInd 472
UpdateTime 161
UpdateUser 415
UpGrade 448
UpperLinkID 428, 451
URL 289
USER 520, 524
USER_ATTR 524
USER_NAME_ATTR 524
UserID 415, 426, 473
UserInfo 473
UserName 415, 420, 458, 474
UserName_EN 415, 420, 474
UserPermitLink 481

V

VirusDefName 445
VirusDefVersion 445
VolumeContract 474
VolumeContractLink 481

W

Weak アソシエーション 198
Web サーバが応答しなくなった場合 358
Web サーバにトラブルが発生した場合 358
Web サーバのトラブルの主な要因と対処 343
Web ブラウザ 59
Web ブラウザが異常終了した場合 359
Web ブラウザ実行時のトランザクション 335
Web ブラウザでのトラブル確認方法 329
Web ブラウザのトラブルの主な要因と対処 349
Web ブラウザのトラブル発生時の回復方法 359
Web ブラウザ表示不正の場合 359
Worker 459

あ

空ディスク容量 430
アクセス制限 33
アクセス制限の種類 33
アクセス制限〔用語解説〕 555
アクセス定義ファイル 115
アクセスユーザ 91
アクティビティ追加 267
アクティビティ〔用語解説〕 555
アクティブ・スタンバイ構成 51
アソシエーションクラス 196, 406
アソシエーションクラス概念 197
アソシエーションクラスのプロパティ一覧 478
アソシエーションクラス〔用語解説〕 555
アソシエーションの種類 198
新しく職権を追加する 262
新しくユーザ権限を追加する 204
アップグレード保証 448

アップロードしたファイルのバックアップおよびリストア 370

アップロードするファイルの拡張子の登録 107, 110
アプリケーション（仮想ディレクトリ）の設定 111
アプリケーションプールの作成 107, 110

アンインストール 75

案件カテゴリ 268

案件カテゴリ〔用語解説〕 556

案件画面の定義例 296

案件画面を定義する 271

案件監査者〔用語解説〕 556

案件削除イベント 399

案件状態変更イベント 398

案件処理オプションを設定する 316

案件遷移イベント 397

案件送信トレイからの新規作成 87

案件代行者へのメール通知 89

案件定義の概要 257

案件定義の流れ 258

案件の定義 256

案件の定義内容を変更する 320

案件の到着通知 49

案件名を変更する 319

案件〔用語解説〕 556

案件を公開または公開停止にする 319

案件を削除する 320

案件を使用した業務を設計する 260

案件を処理する権限を定義する 262

案件を投入したユーザに戻して案件を完了させる 270

い

移管履歴 419

移管履歴のインポート 171

一時的なトラブルが発生した場合 333

イベント管理者〔用語解説〕 556

イベント属性構成ファイル 402

イベント発行ホスト名 457

インシデント〔用語解説〕 556

インストール 71

インストール ID 439, 441, 443
インストールソフトウェア情報 438
インストールソフトウェア情報として取得できる情報 390
インストールソフトウェア情報〔用語解説〕 556
インストールソフトウェアバージョン 444
インストールソフトウェア名 43, 441, 444
インストールソフトウェアリスト 440
インストールソフトウェアリストとして取得できる情報 390
インストールソフトウェアリスト〔用語解説〕 556
インストール手順 73
インストールとセットアップ 68
インストール日 439, 463
インストール日付 445
インストール前の作業 72
インポート 157
インポートおよびエクスポートの対象となる項目 482
インポート時の注意事項 160
インポートの流れ 157
インポート〔用語解説〕 556

う

ウィルス対策ソフトウェアバージョン 445
ウィルス対策ソフトウェア名 445
ウィルス定義情報 444
ウィルス定義情報として取得できる情報 392
ウィルス定義情報のインポート 171
ウィルス定義情報〔用語解説〕 557
ウィルス定義バージョン 445
ウィンドウを定義する 273
運用上のトラブルが発生した場合 333
運用方法の検討 22, 32

え

エクスポート 184
エクスポートの流れ 185
エクスポート〔用語解説〕 557
エンジンバージョン 445

お

応答監視時間 91
オブジェクト 272
オブジェクトクラス 196, 404
オブジェクトクラスの概念 197
オブジェクトクラスのプロパティ一覧 410
オブジェクトクラス〔用語解説〕 558
オブジェクト属性 273
オブジェクト属性を設定する 282
オブジェクトの種類とオブジェクト属性の対応 282
オブジェクトのスタイルや位置をそろえる 290
オブジェクトのスタイルを設定する 280
オブジェクト〔用語解説〕 557
オブジェクトを挿入する 275
オペレーションコード 176
オンラインヘルプについて 551

か

開始アドレス 411
回数 421, 423, 425
回線速度 429, 452
外部結合 243
各イベントの属性 395
各管理ノードの作業を定義する 297
拡張装置〔用語解説〕 558
画像 274, 276
仮想ディレクトリの再設定 342
仮想ディレクトリの設定 104
仮想ディレクトリ〔用語解説〕 558
カタログ ID 452
稼働管理種別 413
画面リンク 465
環境設定情報に対応するセクション名およびキー名 520
監査ログ出力 88
監査ログ出力先フォルダ名 88
監査ログに出力される事象の種別 532
監査ログの出力形式 533
監査ログの保存形式 533

監査ログメッセージと関連出力項目 537
監査ログ〔用語解説〕 558
監査ログを出力するための設定 544
管理項目に引き当てる情報を設定する 306
管理項目の変更 207
管理項目の名称を変更する 208
管理項目編集 207
管理項目名 283
管理項目名〔用語解説〕 558
管理項目〔用語解説〕 558
管理項目を追加する 209
管理者 33, 414
管理者（英名） 414
管理者 ID 411, 414
管理者〔用語解説〕 558
管理情報の詳細 403
管理情報の引き当て方法の設定 39
管理する情報 28
管理対象の検討 22, 25
管理対象の項目を変更する 208
管理ノード追加 267
管理ノードに職権を設定する 269
管理ノード〔用語解説〕 558
管理番号 458
管理部署 414
管理部署（英名） 414
管理部署 ID 414
完了アクティビティ追加 267
管理ラベル 204
管理ラベル〔用語解説〕 559
管理レベル 441
管理レベル〔用語解説〕 559
関連資産情報のインポート 173
関連プログラム 60
関連マニュアル 545

き

キー ID 468
機器および機器に関する情報のインポート 165

機器カタログ 452
機器カタログ〔用語解説〕 559
機器種別 429, 452
機器状態 412
機器に関連づける情報 27
機器の種別 26
機器の情報の変更通知 131
機器を管理する 25
期限切れ契約情報通知 45
基本情報 520
基本情報の設定 80
基本的なシステム構成 61
決められた二つのクラスを結合して検索 235
共通管理項目〔用語解説〕 559
業務カテゴリを追加する 232
業務の検討 24
業務フィルター 216
業務フィルター〔用語解説〕 559
業務メニューの名称を変更する 231
許可 441
許可外インストール通知 48
緊急・重度以外のシステムトラブルが発生した場合 333
緊急・重度のシステムトラブルが発生した場合 333

<

クラス関連図 407
クラス構成 404
クラスタシステムでのシステム構成 66
クラスタシステムの環境構築手順 136
クラスタシステムの構成例 66
クラスタシステムの導入 51
クラスタシステムを使用する場合の注意事項 140
クラスの結合方法の指定 242
クラス〔用語解説〕 559
繰り返し処理の内容を設定する 309
グループ・リソース作成 136
グローバル IP アドレス 460

け

型式 430, 453
契約 ID 421, 423, 425, 475
契約開始日 421, 426, 475
契約会社 420, 423, 425, 475
契約会社カタログ 423
契約資産履歴 423
契約資産履歴のインポート 172
契約終了日 421, 425, 475
契約種別 421, 425, 475
契約状態 421, 425, 475
契約情報 420
契約情報のインポート 168
契約情報〔用語解説〕 560
契約対象 421, 425
契約内容 420, 425, 475
契約番号 421, 425, 475
契約日 420, 425, 475
契約料（月額） 421, 425, 475
契約料（総額） 421, 426, 475
契約履歴 425
契約履歴のインポート 172
契約履歴の取得 86
ゲートウェイ 410
結合タイプ 243
原価コード 427
権限 ID 465
権限管理 204
権限管理情報 465
権限管理情報のインポート 170
権限管理情報〔用語解説〕 560
権限名 465
権限名（英名） 465
検索結果の一覧から詳細情報を表示する設定 239
検索結果の一覧表示行数 81
検索結果リストに表示する項目を設定する 226
検索結果リストの項目の幅を設定する 227
検索結果リストの並び順を設定する 227
検索結果リストの表示・非表示を設定する 226

検索条件に表示する項目を設定する 225
検索条件の並び順を設定する 226
検索条件の表示・非表示を設定する 225
検索条件を定義する 236
検索対象のクラスを指定する 236
検索方法を選択する 234
検索用接続コネクション数 79
検索、集計画面の書式設定手順 218
検討項目の一覧 22

こ

更改日時 423, 425
更新者 ID 426
更新制御情報 161
更新日時 419, 424
構成種別 430, 453
購入金額 414, 453
購入ポイント数 466
コード 288
コード ID〔用語解説〕 560
コードセット 90
コードで定義されているプロパティの表示方法 239
このマニュアルで使用している書式について 550
このマニュアルで使用する英略語 548
このマニュアルでの表記 546
このマニュアルの参考情報 545
コマンド実行時のトランザクション 335
コマンド実行中のトラブル発生時の回復方法 359
コマンドラインからの検索の実行 243
固有情報 Area 210
固有情報 Code 210
固有情報 Date 210
固有情報 Field 209
固有情報 Uint 210
コンピュータ ID 429
コンピュータ名 460

さ

〔サーバセットアップ〕 ダイアログでの設定 76

サーバ名 91
サービス名 78
最小値 287
サイズ 273
最大値 287
サイトの追加 108, 114
作業者 459
作業者や処理を配置する 268
作業者〔用語解説〕 560
作成したユーザレポートを登録する 240
サブネットマスク 411, 461
サブリンクキー 472
参考資料(URL) 458
参照範囲 287

し

しきい値 470
資産管理サーバ設定時のトラブル 336
資産管理サーバで使用するサービスの設定 106
資産管理サーバでのトラブルの確認方法 329
資産管理サーバの仮想ディレクトリのフォルダ構成 514
資産管理サーバの設定 76
資産管理サーバの設定変更 525
資産管理サーバのトラブル発生時の回復方法 358
資産管理サーバのリプレイス 525
資産管理サーバ〔用語解説〕 560
資産管理サーバをリプレイスする 525
資産管理システムで実施する業務の検討 24
資産管理システムのトランザクション 335
資産管理システム〔用語解説〕 560
資産管理者へのメール通知 45
資産管理データベース 196
資産管理データベース運用上の注意 135
資産管理データベース作成時のトラブル 336
資産管理データベースで管理するクラス 196
資産管理データベースで管理するプロパティ 197
資産管理データベースに入力できる文字 135
資産管理データベースの作成 95
資産管理データベースの作成手順 96
資産管理データベースのバックアップとリストア 365
資産管理データベースのメンテナンス 360
資産管理データベース〔用語解説〕 560
資産種別 412
資産種別のコード 163
資産情報 412
資産情報として取得できる情報 384
資産情報とソフトウェアキー情報 480
資産情報の取得 37
資産情報〔用語解説〕 561
資産番号 412, 423, 457
資産番号枝番 412
資産〔用語解説〕 560
システム構成の検討 23, 56
システム構成例 61
システム識別 465
システム装置〔用語解説〕 561
実行案件 290
実行者 443
実行タスクの順番を設定する 305
実行タスクを選択する 299
実行できる業務の変更 230
実行できる業務を変更する 230
自動ログインの設定 82
集計結果から表示する内訳画面の書式設定手順 220
重大度 457
終了アドレス 410
主従関係 200
主題項目 290
出力項目の並び順と表示幅を設定する 239
出力項目を設定する 238
種別 441
仕様 430, 453
上位設置場所 ID 451
上位部署 ID 428
使用開始日 415
障害種別 458
障害内容 458

障害発生ホスト 458
使用終了日 413
使用するボタンを設定する 223
状態管理 201
常駐／非常駐 445
初期値 287
書式 216
書式の名称を変更する 228
書式〔用語解説〕 561
書式をコピーする 228
書式を削除する 229
書式を設定する 216
書式を追加する 227
所属部署 ID 427
職権 262
職権 ID 446
職権管理 262
職権管理情報 446
職権管理情報のインポート 172
職権の設定を解除する 270
職権の内容を変更する 263
職権名 446
職権名（英名） 446
職権〔用語解説〕 561
職権を削除する 265
処理期限設定 268
処理期限を設定する 316
シリアル No. 468

す

数量 466
スタイル属性 273
スタイル属性のコピー 281

せ

製造者 429, 452, 469
製造番号 430
性能と見積もり 516
設計の概要 20

設計の流れ 21
セッション情報 520
セッション情報の設定 79
設置場所 414, 419, 450
設置場所（英名） 414, 419, 450
設置場所 ID 411, 414, 451
設置場所削除用の「ゴミ箱」設置場所 ID 82
設置場所情報 450
設置場所情報として登録できる情報 394
設置場所情報〔用語解説〕 561
設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定 84
設置場所名 451
設置場所名（英名） 451
セットアップの流れ 69
前提プログラム 58
前提プログラムのインストール 71

そ

操作画面およびユーザ権限の変更 203
操作画面〔用語解説〕 561
挿入できるオブジェクトの種類 276
組織階層単位でのアクセス制限 33
組織階層単位でのアクセス制限の設定 34
組織〔用語解説〕 561
ソフトウェアキー情報 467
ソフトウェアキー情報〔用語解説〕 561
ソフトウェア資産情報 466
ソフトウェア資産情報〔用語解説〕 562
ソフトウェア種別 470
ソフトウェア状態 415
ソフトウェアの種別 28
ソフトウェア変更履歴 443
ソフトウェア名 43, 470
ソフトウェア名の割り当て方法の設定 43
ソフトウェアリスト 469
ソフトウェアリスト ID 441, 448, 466, 470
ソフトウェアを管理する 27

た

代行案件のデフォルト表示 87
対策完了日 457
対策内容 458
対象権限を設定する 222
対象製品 475
対処完了イベントの属性 400
ダウングレード可否 447
ダウングレードソフトウェア ID 469
多重度 94
タスク 297
タスクスケジューラに登録されるタスクの設定 115
タスクの削除 121
タスクの実行結果 121
タスクの種類 115
タスクのスケジュールの変更 120
タスクの設定手順 119
タスク〔用語解説〕 562
タスクを有効にする 119
他製品と連携した資産管理システムの検討 30
他製品と連携した資産管理の実現 143
棚卸日付 415
単一クラス検索 235
担当者名 420, 424, 425, 475
担当者名 2 420, 424, 425
担当者名 3 420, 424, 425

ち

重複データを含むかどうかを選択する 240

つ

通知メール追加 267

て

定義済みオブジェクト 280
定義する項目と流れ 257
定型業務に合わせた操作画面の追加 233
ディスク占有量 516
ディスク容量 430, 453

ディレクトリサーバの使用 90
ディレクトリサーバ連携 524
ディレクトリサーバ連携の設定 90
ディレクトリの参照の設定 113
データ型 283
データ型の種類とオブジェクトの種類の対応 283
データ最大長 287
データソースの作成 101, 102
データファイル 159
データファイルの作成 175
データファイルの出力形式 188
データファイル名定義ファイル 159
データファイル名定義ファイルの作成 178, 189
データファイル名定義ファイル〔用語解説〕 562
データファイル〔用語解説〕 562
データベース情報 520
データベース情報の設定 78
データベースの開始 527
データベースの開始および停止 527
データベースのサイズの変更 526
データベースの停止 528
データベースのホスト名の変更 526
データベースのメンテナンスに関する注意 135
データベース容量の概算 99
テーブル 278
テーブルを定義する (Table Designer) 291
テキストエリア 277
テキストフィールド 277
テキストボックス 276
適用状態 463
デフォルトゲートウェイ 460
電話番号 473

と

同時接続コネクション数 79
同時利用ログイン数 80
登録された案件を変更する 319
登録者名 458
登録日 415, 458

登録、編集画面の書式設定手順 217
トラブルシューティング 325
トラブルシューティングの流れ 326
トラブル情報取得 328
トラブル情報の取得 328
トラブルの回復 358
トラブル発生後に制限される機能 332
トラブル要因の特定 329
トラブル要因の特定方法 329

な

内部結合 243

ね

ネットワーク情報 460
ネットワーク情報 ID 461
ネットワーク情報として取得できる情報 388
ネットワーク情報〔用語解説〕 562
ネットワーク装置〔用語解説〕 562

の

ノード名 (ホスト名) 461

は

バージョン 441, 464
ハードウェア資産情報 429
ハードウェア資産情報として取得できる情報 386
ハードウェア資産情報〔用語解説〕 563
ハードウェア変更通知 49
背景色 274
ハイパーリンク 277
場所属性 450
パスワード 473
バックアップおよびリストア 361
発行する JP1 イベントの詳細 378
発行する JP1 イベントの変更 148
パッチ ID 463, 464
パッチ情報 462
パッチ情報として取得できる情報 391

パッチ情報のインポート 171
パッチ情報〔用語解説〕 563
パッチ名 464
パッチリスト 463
パッチリストとして取得できる情報 392
パッチリスト〔用語解説〕 563
ハンドラマッピングの設定 113

ひ

引き当て除外 MAC リストの定義方法 42
備考 414, 448, 458, 468
必須項目 289
非表示 290
非表示がデフォルトのボタンを表示する 214
費用 457
表示件数欄の表示 81
表示項目キー 472
表示順序の設定 281
標準出力のメッセージログの見方 330

ふ

ファイルサイズ 441, 443
ファイル日付 441, 443
ファイル名 441, 443
フィルター起動開始イベント 395
フィルター起動失敗イベント (異常終了) 396
フィルター終了イベント 397
フォルダ構成 513
複数のクラスを結合して検索 235
部署 413, 419, 425, 427
部署 (英名) 413, 419, 427
部署コード 427
部署削除用の「ゴミ箱」部署 ID 82
部署情報 427
部署情報として登録できる情報 393
部署情報のインポート 169
部署情報〔用語解説〕 563
部署ツリー表示のソートキー 86
部署別 IP グループを使用した部署の設定 83

部署名 428
部署名 (英名) 428
プルダウン 278
プログラム構成 57
プロセス一覧 515
プロダクト ID 439, 468
プロパティ 197
プロパティ [用語解説] 563
分掌 ID 427
分掌情報 426
分掌情報と部署情報 479
分掌情報とユーザ情報 479
分掌情報のインポート 173
分掌部署 [用語解説] 563
分掌名 427
分掌 [用語解説] 563

へ

変更後 472
変更者 415
変更種別 444
変更日付 443, 472
変更前 472
変更履歴 472
変更履歴取得項目 254
変更履歴情報管理 88
変更履歴として取得する項目の選択 254
変更履歴 [用語解説] 563
編集項目に表示する項目を設定する 223
編集項目の並び順を設定する 224
編集項目の表示・非表示を設定する 224
編集項目を読み取り専用を設定する 225
編集不可のプロパティ 160
編集領域 272

ほ

ポート情報 461
ポート数 430, 453
ポート番号 91

保守契約と資産情報 478
保守状態 458
保守履歴 457
保守履歴 ID 458
保守履歴のインポート 171
保守履歴 [用語解説] 563
ホスト識別子 413
ホスト名 429
ボタン 278
ボタンやタブなどの名称、表示を変更する 213
保有機器検索画面の機器状態 87
ボリューム契約情報 474
ボリューム契約情報 [用語解説] 564
ボリューム契約と資産情報 481

む

無通信監視時間 80

め

名称 430, 453
メールアドレス 473
メール送信を選択する 316
メール通知情報 523
メール通知情報の設定 88
メールによる通知 89
メールの送信先アドレス 89
メールの送信元アドレス 90
メール編集 268
メタ定義・制御テーブル [用語解説] 564
メッセージの確認 329
メッセージの見方 330
メッセージログファイルの見方 331
メモリサイズ 430, 453
メモリ所要量 516
面積 450

も

目標ポイント数 475
モニタ解像度 430, 453

モニタサイズ 430, 453
モニタ種別 430, 453
問題点削除イベント 401
問題点状態変更イベント 400
問題点状態変更イベントのユーザ拡張エリアの設定 402
問題点を自動登録 30

や

役職名 473
役割サービスのインストール 109

ゆ

ユーザ ID 415, 473
ユーザ ID 属性名 92
ユーザ管理情報 473
ユーザ管理情報のインポート 170
ユーザ管理情報〔用語解説〕 564
ユーザ権限に応じた操作画面の変更 216
ユーザ権限の種類 33
ユーザ権限の内容を変更する 205
ユーザ権限の変更 204
ユーザ権限を削除する 205
ユーザ情報 DN 92
ユーザ情報と権限情報 478
ユーザ情報と職権情報 480
ユーザ情報とソフトウェアキー情報 481
ユーザ情報と部署情報 480
ユーザ組織情報の取得 55
ユーザ名 415, 420, 474
ユーザ名 (英名) 415, 420, 474
ユーザ名属性名 92
ユーザライブラリ〔用語解説〕 564
ユーザレポート作成 233
ユーザレポートの削除 243
ユーザレポートの作成例 246
ユーザレポートの実行例 252
ユーザレポート〔用語解説〕 564

よ

用語解説 553
用途 411, 414, 446
読み取り専用 289

ら

ライセンス ID 447, 466
ライセンスキー 468
ライセンス区分 447
ライセンス区分〔用語解説〕 564
ライセンス形態 448
ライセンス形態〔用語解説〕 564
ライセンス取得方法 448
ライセンス情報 447
ライセンス情報〔用語解説〕 565
ライセンス超過通知 47
ライセンス超過のしきい値 82
ライセンス名 447

り

リース契約と資産情報 478
リモートドメインの追加 134
利用可能業務割り当て 230
利用者 33
利用できるメニューの制限 34
リンクキー 444, 472
リンククラス 472

る

ルート〔用語解説〕 565
ルートを定義する 266

れ

レコード識別 472
レジストリのバックアップおよびリストア 370
連携製品から取得できる情報 378
レンタル契約と資産情報 479
連絡先 420, 423, 425, 475
連絡先 2 420, 424, 425

連絡先 3 420, 424, 425

ろ

ログイン ID 78

ログイン認証 53